

茨城県教育財団文化財調査報告第379集

然山西遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成25年3月

国土交通省常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第379集 然山西遺跡 公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第379集

しがれ やま にし
然 山 西 遺 跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成25年3月

国土交通省常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団



平成23年度調査区全景（南西から）



第14号住居跡竈遺物出土状況

序

茨城県では、県土の均衡ある発展を念頭におきながら地域の特性を生かした振興を図るために、高規格幹線道路などの根幹的な県土基盤の整備とともに、広域的な交通ネットワークの整備を推進しています。

その一環として国土交通省が整備を推進している首都圏中央連絡自動車道は、都市部と中核都市を結ぶ3環状9放射の道路ネットワークです。この道路網の整備により、首都圏の交通混雑が緩和されるほか、環境改善、経済効率の向上など、様々な効果が期待されます。しかしながら、その事業予定地内には埋蔵文化財包蔵地である然山西遺跡が所在し、記録保存の措置を講ずる必要があるため、当財団が国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から埋蔵文化財発掘調査の委託を受け、平成22年4月から8月までの5か月間、平成23年10月から平成24年3月までの6か月間にわたりこれを実施しました。

本書は、然山西遺跡の調査成果を収録したもので、学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者であります国土交通省関東地方整備局常総国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、坂東市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成25年 3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 鈴木 欣一

例 言

1 本書は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により、財団法人茨城県教育財団（現 公益財団法人茨城県教育財団）が平成 22・23 年度に発掘調査を実施した、茨城県坂東市大字内野山字然り山下 68 番地の 1 ほかに所在する^{しがれやまし}然山西遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査 平成 22 年 4 月 1 日～8 月 31 日

平成 23 年 10 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

整理 平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

3 発掘調査は、平成 22 年度が調査課長池田晃一、平成 23 年度が調査課長檜村宣行のもと、以下の者が担当した。

平成 22 年度

首席調査員兼班長 皆川 修

首席調査員 小林和彦

調査員 江原美奈子

平成 23 年度

首席調査員兼班長 皆川 修

首席調査員 綿引英樹 平成 23 年 12 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

主任調査員 本橋弘巳

調査員 近江屋成陽 平成 23 年 10 月 1 日～11 月 30 日

調査員 佐藤一也

4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長原信田正夫のもと、以下の者が担当した。

次席調査員 小川貴行 平成 24 年 8 月 1 日～8 月 31 日

調査員 田村雅樹 平成 25 年 2 月 1 日～3 月 31 日

調査員 佐藤一也 平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。

小川貴行 第 3 章 3 節 5 (4)

田村雅樹 第 3 章 3 節 5 (3)

佐藤一也 第 1 章～第 3 章 3 節 1～4, 5(1)～(2), (5)～(8), 第 4 節

6 本書の作成にあたり、第 14 号住居跡から出土した平瓦・軒平瓦の同定については、市川市立市川考古博物館学芸員山路直充氏に御指導いただいた。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = + 8,840 \text{ m}$ 、 $Y = + 7,400 \text{ m}$ の交点を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C …, 西から東へ 1, 2, 3 … とし、「A 1 区」「B 2 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c … j, 西から東へ 1, 2, 3, … 0 とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」「B 2 b2 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。





遺構 FP - 炉跡 HG - 遺物包含層 PG - ピット群 SD - 溝跡 SE - 井戸跡 SF - 道路跡
SI - 竪穴住居跡 SK - 土坑 SM - 地点貝塚 TP - 陥し穴
遺物 DP - 土製品 M - 金属製品 P - 土器 Q - 石器・石製品 T - 瓦 TP - 拓本記録土器
土層 K - 攪乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は 60 分の 1 の縮尺で掲載することを基本とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・赤彩・ガラス質・遺物包含層範囲		炉・火床面・繊維土器・溶損物								
	竈部材・粘土範囲・黒色処理・滓附着		煤・柱あたり								
●	土器	○	土製品	□	石器・石製品	△	金属製品	▲	瓦	---	硬化面

ただし、第 3 章第 3 節 1(6)についてはこの限りではなく、個々に凡例を示した。

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については各々総量を記述した。

5 一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

(1) 現存値は（ ）を、推定値は [] を付して示した。計測値の単位は m, cm, kg, g で示した。

(2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率や写真図版番号、その他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

6 竪穴住居跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）

7 今回の報告分で、調査段階での遺構名を変更したもの及び欠番にした遺構名は以下のとおりである。

変更 SI 1・SI 6 → SI 6 SI 2 → 第 1 号鍛冶工房跡 SI 3・5 → 第 1・2 号竪穴遺構
SI 4 → SI 4 A・4 B SK11 → 第 1 号陥し穴 埋甕 1・2 → 第 1・2 号土器埋設遺構 SK55 → PG
6 P 7 HG 2 → SI51
欠番 SI 1 ~ 3・5・FP 2・SK11・14・45 ~ 49・55・72・80・84・91・103・107・124・135・156・
159・163・168・198・203 ~ 205・SD 8・15・32・PG 3・5・HG 2

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
然山西遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	4
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 調査の成果	10
第1節 調査の概要	10
第2節 基本層序	10
第3節 遺構と遺物	12
1 縄文時代の遺構と遺物	12
(1) 竪穴住居跡	12
(2) 地点貝塚	107
(3) 陥し穴	110
(4) 土器埋設遺構	111
(5) 土坑	114
(6) 遺物包含層	128
2 古墳時代の遺構と遺物	147
(1) 竪穴住居跡	147
(2) 鍛冶工房跡	156
3 平安時代の遺構と遺物	163
(1) 竪穴住居跡	163
(2) 竪穴遺構	187
4 室町時代の遺構と遺物	191
ピット群	191
5 その他の遺構と遺物	193

(1) 炉跡	193
(2) 地点貝塚	195
(3) 井戸跡	195
(4) 土坑	196
(5) 道路跡	222
(6) 溝跡	224
(7) ピット群	231
(8) 遺構外出土遺物	234
第4節 まとめ	240
写真図版	PL 1 ~PL47
抄 録	
付 図	

しがれ やま にし 然山西遺跡の概要

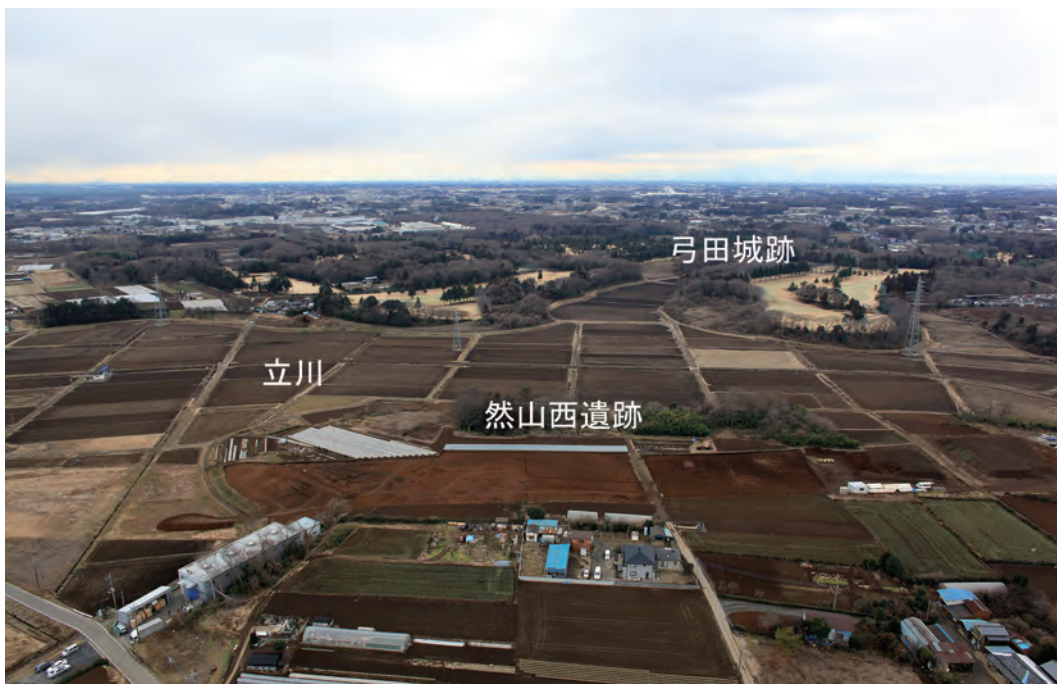
遺跡の位置と調査の目的

然山西遺跡は、坂東市の北東部に位置し、飯沼川と立川に挟まれた標高9～16mの台地上に立地しています。一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業にともない、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が平成22・23年度に約23,136㎡について発掘調査を行いました。



調査の内容

今回の調査区域は、台地の南西端部にあたり、立川に向かって緩斜する斜面部になります。調査の結果、縄文時代、古墳時代、平安時代、室町時代にかけて、断続的に集落が営まれていたことがわかりました。竪穴住居跡48軒のほか、鍛冶工房跡、竪穴遺構、地点貝塚、土器埋設遺構、土坑、遺物包含層、ピット群などが確認できました。主な出土遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、土製品、石器、鉄製品、瓦、自然遺物（貝）などです。



平成23年度調査区全景（北東上空から）



縄文時代の地点貝塚の掘り込み作業



正位で埋設された縄文土器



鍛冶工房跡から見つかった炭化材や土器片



下総国分寺の瓦で補強している竈

調査の結果

縄文時代の竪穴住居跡からは、40万点を超える貝が出土しました。そのうちのほとんどが、海水と淡水の混じる汽水域で採れるヤマトシジミであることがわかりました。当時は霞ヶ浦と太平洋がつながり、内陸部まで内海が広がっていましたが、地点貝塚を確認したことにより当遺跡周辺にまで内海が広がっていたことがわかりました。古墳時代では、5世紀代の鍛冶工房跡と考えられる竪穴建物跡から、炭化材や焼土とともに、鍛冶関連遺物である鍛造剥片や粒状滓、椀形鍛冶滓が出土しています。この時期の鍛冶工房跡は県内では数が少ないため、製鉄史における新たな研究資料となりました。また、平安時代の竪穴住居跡の竈の袖部からは、「豊田」とヘラ書きされた下総国分寺の軒平瓦が見つっています。当遺跡周辺の瓦葺きの建物へ供給されていた瓦が、建物の廃絶後に、当集落まで運ばれて竈の補強材としたものと考えられます。

今回の調査区域は遺跡の一部でありましたが、縄文時代から平安時代に至るまで、当地域の様々な歴史の一端を知ることができました。

第1章 調 査 経 緯

第1節 調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所は、坂東市において一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業を進めている。

平成18年8月21日、国土交通省関東地区整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成19年1月16・17日に現地踏査を、平成21年10月20～22日、平成22年9月24日に試掘調査を実施し、然山西遺跡の所在を確認した。平成21年11月27日、平成22年10月15日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所あてに、事業地内に然山西遺跡が所在すること及びその取り扱いについて、別途協議が必要である旨を回答した。

平成22年2月22日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長にあてに、文化財保護法第94条の規定に基づく土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成22年2月24日、茨城県教育委員会教育長は、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、然山西遺跡について工事着工前に発掘調査をするよう通知した。

平成22年2月22日・平成23年2月21日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長にあてに、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査についての協議書を提出した。平成22年2月24日・平成23年2月24日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、然山西遺跡について発掘調査の範囲及び面積について回答し、併せて調査機関として、財団法人茨城県教育財団（平成24年4月から公益財団法人茨城県教育財団）を紹介した。

財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成22年4月1日から8月31日までと、平成23年10月1日から平成24年3月31日までの2次にわたって発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

然山西遺跡の調査は、平成22年4月1日から8月31日までの5か月間と、平成23年10月1日から平成24年3月31日までの6か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

平成22年度調査

工程 \ 期間	4月	5月	6月	7月	8月
調査準備 表土除 遺構確認	■				
遺構調査		■			
遺物洗浄 写真整理		■			
補足調査 撤収					■

平成23年度調査

工程 \ 期間	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除 遺構確認	■					
遺構調査	■					
遺物洗浄 写真整理	■					
補足調査 撤収						■

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

然山西遺跡は、茨城県坂東市大字内野山字然り山下 68 番地の 1 ほかにも所在している。

坂東市は、茨城県西部を南北に延びる猿島台地の中央部に位置している。猿島台地は標高 15～20 m で、西部を利根川、東部を西仁連川・飯沼川に挟まれ、それらの支流により開析された谷津が樹枝状に入り込む複雑な地形を呈している。

猿島台地の基部を構成する地層は、貝化石を含む海成層の成田層で、さらにその上に黄褐色砂や黄褐色粗砂を含む竜ヶ崎砂礫層、その上に灰白色の粘土層である常総粘土層、そして、表土の下を厚く覆う褐色の関東ローム層が堆積している。

当遺跡は、飯沼川と立川に挟まれた台地の南西端部に位置している。この台地と飯沼川の間では、西仁連川が飯沼川に沿うように南へ流れている。西仁連川は台地の南方で立川と合流し、さらに飯沼川と合流している。台地の南端部では、立川から分岐する桃ノ木谷津が、台地を東西に分断するように入り込んでいる。今回の調査区は、南西の方向に緩やかに傾斜する台地の南西端部にあたり、その端部の北西部から南東部にかけてである。調査前の現況は畑地・山林である。

第2節 歴史的環境

然山西遺跡が所在する猿島台地中央部は、『茨城県遺跡地図』¹⁾によれば、数多くの遺跡が分布している。ここでは、遺跡分布調査における表面採集資料も加味しながら、立川と飯沼川に挟まれた台地の遺跡について、時代を追って概観することにする。

旧石器時代の遺跡は、当遺跡のある飯沼川右岸においては確認されていないが、猿島台地西部の菅生沼右岸で、当財団が調査した北前遺跡²⁾と隣接する高崎貝塚³⁾で頁岩製のスクレイパー及び剥片が出土している。

縄文時代の遺跡は、猿島台地に多く分布している。台地東部を流れる飯沼川や西仁連川周辺には、貝塚が数多く見られ、海進・海退による汀線の変動と貝塚の形成の研究には重要な地域である。早期の遺跡は、坂東市内において南原遺跡、台島北遺跡で条痕文系土器が採集されているほか、当遺跡の北に位置する塚越南遺跡〈9〉で撚糸文系土器が採集されている。前期の遺跡は、猿島台地上で急激に増加し、当遺跡のある台地においても数多く確認されている。立川左岸には、然山遺跡〈2〉、塚越南遺跡、塚越西遺跡〈11〉、塚越東遺跡〈16〉があり、また、立川の上流で分岐する小城北遺跡〈13〉がある。台地南端部に入り込む桃ノ木谷津の周辺においても桃ノ木遺跡〈3〉、釜前遺跡〈4〉、鳥ノ小島遺跡〈5〉、内野山小学校遺跡〈19〉、内野山柿沢遺跡〈20〉でそれぞれ前期の遺物が採集されている。中期の遺跡は、立川左岸で釜前遺跡と鳥ノ小島遺跡で遺物があり、当遺跡の南方に位置する駒寄遺跡〈7〉でも中期の遺物が採集されている。後期の遺跡は小城北遺跡や隣接する小城南遺跡〈12〉、立川上流より北部にある神明谷津の東岸で向原中遺跡〈34〉、内野山柿沢遺跡、桃ノ木遺跡、釜前遺跡、刈浜遺跡〈18〉がある。晩期の遺跡は、立川左岸では確認されない。

弥生時代の遺跡は、立川左岸で確認されていないが、当遺跡の南方に位置する姥ヶ谷津遺跡〈44〉で1軒の

住居跡が確認されている。また、小城北遺跡や立川右岸に位置する向原南遺跡^{むこうぼらみなみ}〈33〉、向原中遺跡で弥生時代の遺物が採集されている。

古墳時代の遺跡は、前時代より増加し、当遺跡の位置する立川左岸の台地でも多くの遺跡が確認されている。前期の遺跡は、桃ノ木遺跡、釜前遺跡、内野山小学校遺跡、内野山柿沢遺跡、後期の遺跡は鳥ノ小島遺跡、内野山柿沢遺跡がある。内野山小学校遺跡では古墳時代前期の住居跡が1軒確認されている。古墳は、大杉古墳^{おおすぎ}〈10〉、駒寄塚古墳^{こまよせづか}〈6〉、高山古墳^{たかやま}〈25〉が存在している。立川左岸にある大杉古墳は、現在は前方部が削平されているものの、全長約30mの前方後円墳と推定されている。駒寄塚古墳では、埋葬品は確認されていないが、筑波山麓産雲母片岩の板石を用いた箱式石棺であることがわかっている。高山古墳は、筑波山麓産雲母片岩を用いた横穴石室で、石室内からは人骨とともに直刀、勾玉、管玉などが出土している。また、塚越塚遺跡^{つかこしづか}〈17〉でわずかに墳丘の高まりは確認されるが、大部分は削平されている。

奈良・平安時代の遺跡は、立川左岸で小城南遺跡、内野山小学校遺跡が確認されている程度で、立川と飯沼川に挟まれた台地では遺跡数は減少している。一方、当遺跡西方の江川周辺では、西遺跡^{にし}〈27〉、新屋敷遺跡^{しんやしき}〈28〉、正光院脇遺跡^{しょうこういんわき}〈29〉、便無東遺跡^{びんなしひがし}〈42〉、姥ヶ谷津遺跡^{かこぼ}、籠場遺跡^{むかいじ}〈45〉、迎地遺跡^{むかうち}〈47〉、宮内遺跡^{みやうち}〈49〉が確認されており、古墳時代に引き続き集落が展開している。平成22年に当財団が発掘調査を行った宮内遺跡では、古墳時代から平安時代までの住居跡が64軒確認され、多量の鉄滓が出土していることから、製鉄工人たちの集落であったと指摘されている⁴⁾。なお、律令期における当遺跡周辺は猿島郡葦津郷に属し⁵⁾、飯沼川を挟んだ東岸は豊田郡岡田郷^{とよだ おかだ}⁶⁾に比定されている。

鎌倉時代の立川左岸の周辺は、将門を討伐した秀郷流藤原一族によって開墾された荘園である下河辺氏の下河辺荘に属した。その後の北条の時代には幸嶋氏が台頭し、領地としている。

戦国時代には、猿島台地上に大塚城、菅生城などの城館が設けられ、当遺跡の南西には立川を挟んで弓田城^{じょう}跡〈8〉が存在している。弓田城の城主は不明であるが、『下總國舊事考』には「同郡湯田(弓田)村ノ故城址ハ北条氏政伊勢備中守ヲシテ守ラシム」とあり⁷⁾、小田原北条氏との関連を推測させる。弓田城跡には現在も堀と土塁が良好な状態で残されている。

江戸時代では、享保年間に飯沼川周辺は周辺の村落からの要望により、新田開発が大規模に行われた。新田の維持や改良は明治時代以降も続けられ、現在も豊かな水田地帯が広がっている。

※文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1の当該番号と同じである。なお、本章は『財団報告書』第359集を基にし、若干加筆したものである。

註

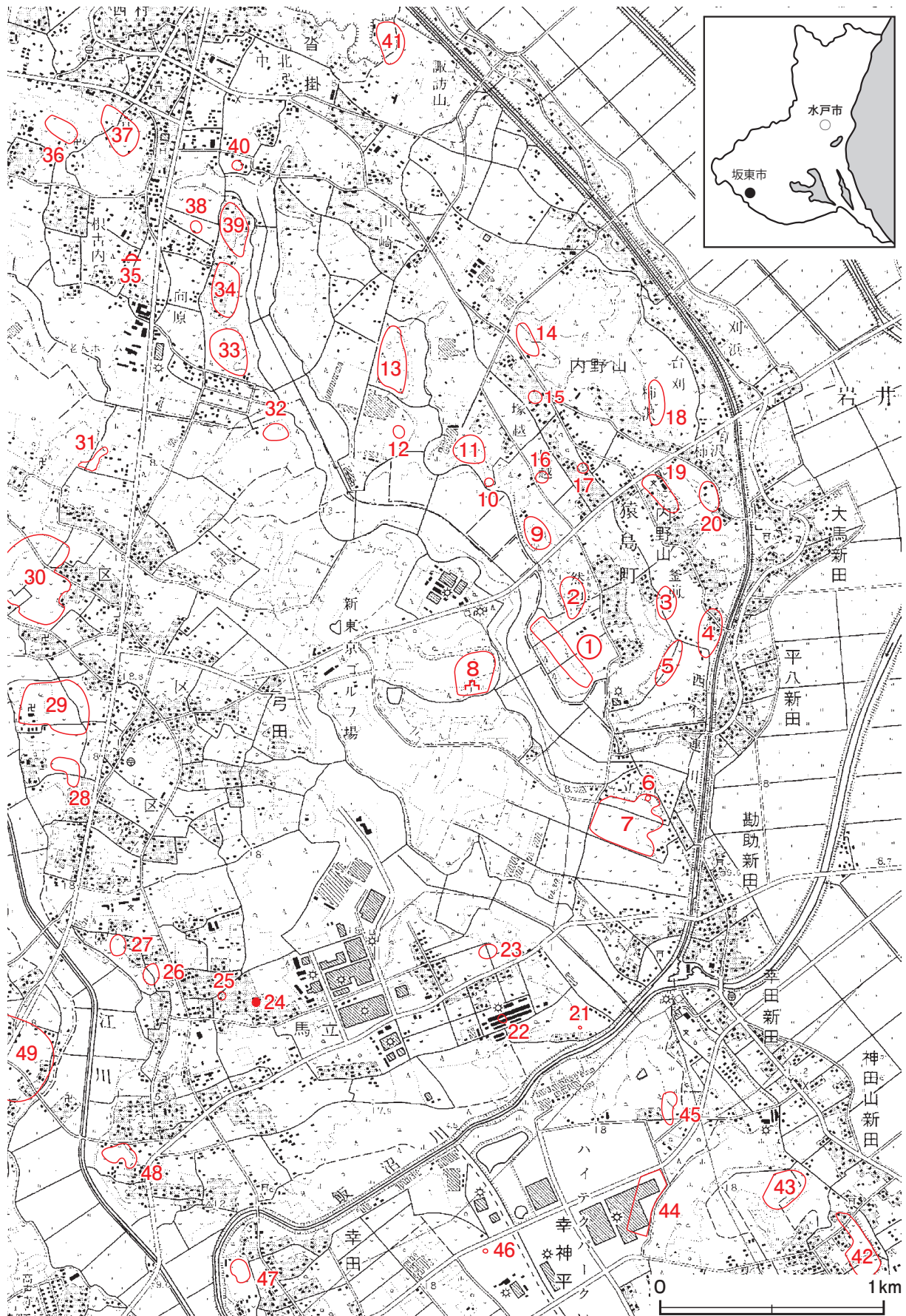
- 1) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月
- 2) 大森雅之「茨城県自然博物館(仮称)建設用地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 原口遺跡・北前遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第83集 1993年3月
- 3) 鶴見貞夫「茨城県自然博物館(仮称)建設用地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 高崎貝塚」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第88集 1994年3月
- 4) 小林和彦 宮崎剛「宮内遺跡 国道354号岩井バイパス事業用地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第359集 2012年3月
- 5) 角川日本地名大辞典編纂委員会『角川日本地名大辞典 8 茨城県』角川書店 1983年12月
- 6) 石下町史編さん委員会『石下町史』石下町 1988年3月
- 7) 岩井市史編さん委員会『岩井市史 考古編』岩井市 1999年3月

参考文献

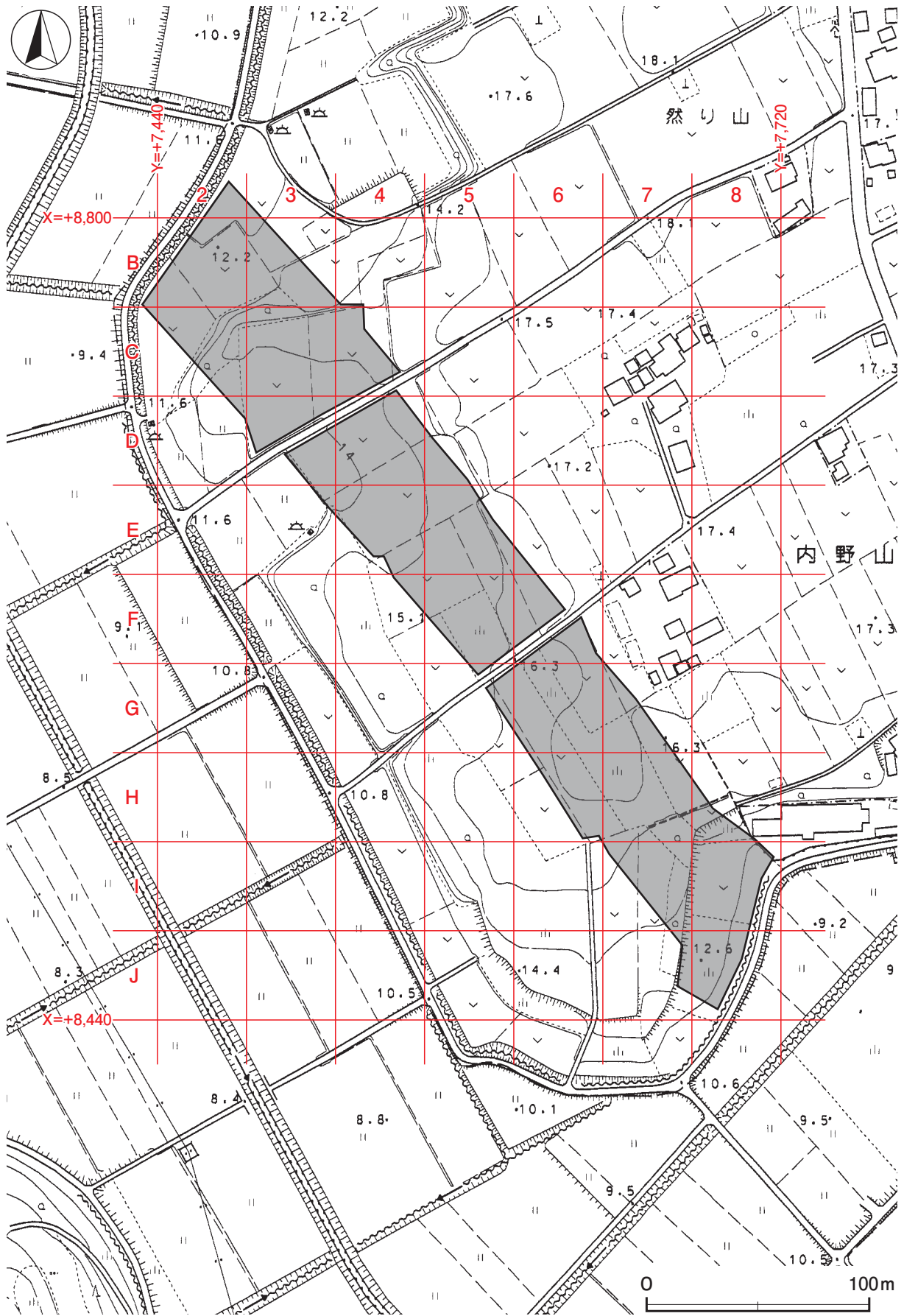
- ・ 猿島町史編さん委員会『猿島町史 通史編』猿島町 1998年3月
- ・ 猿島町史編さん委員会『猿島町史 資料編 原始・古代・中世』猿島町 1993年3月
- ・ 岩井市史編さん委員会『岩井市史 通史編』岩井市 2001年3月

表1 然山西遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
①	然山西遺跡		○		○	○	○		26	松葉遺跡		○		○			
2	然山遺跡		○						27	西遺跡				○			
3	桃ノ木遺跡		○		○				28	新屋敷遺跡				○	○		
4	釜前遺跡		○		○		○		29	正光院脇遺跡				○	○		
5	鳥ノ小島遺跡		○		○				30	長丁遺跡		○					
6	駒寄塚古墳				○				31	駒寄溜遺跡		○			○		
7	駒寄遺跡		○		○				32	猪ノ子遺跡		○		○			
8	弓田城跡		○			○	○		33	向原南遺跡		○	○	○			
9	塚越南遺跡		○				○		34	向原中遺跡		○	○	○			
10	大杉古墳				○				35	根古内塚							○
11	塚越西遺跡		○						36	杳掛西浦遺跡		○		○			
12	小城南遺跡		○		○	○			37	神明遺跡		○		○		○	○
13	小城北遺跡		○	○	○				38	大日塚遺跡		○		○			○
14	塚越浦遺跡		○		○				39	向原北遺跡		○					
15	塚越遺跡				○				40	見通遺跡		○		○			
16	塚越東遺跡		○		○		○	○	41	三井遺跡		○		○	○		
17	塚越塚遺跡				○				42	便無東遺跡		○		○	○		
18	刈浜遺跡		○						43	道休遺跡		○		○			
19	内野山小学校遺跡		○		○	○			44	姥ヶ谷津遺跡	○	○	○	○	○		
20	内野山柿沢遺跡		○		○				45	籠場遺跡		○			○		
21	浅間塚古墳				○				46	南開遺跡							○
22	馬立中の台古墳群				○				47	迎地遺跡					○		
23	馬立中の台遺跡				○				48	遠西遺跡				○			
24	馬立原遺跡		○				○	○	49	宮内遺跡		○		○	○		
25	高山古墳				○												



第1図 然山西遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の1 「石下」「水海道」）



第2図 然山西遺跡調査区設定図（坂東市都市計画図2,500分の1）

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

然山西遺跡は、立川と西仁連川に挟まれた標高9～16 m程の台地南西端部に立地している。今回の調査区は台地南西端部の斜面部に位置しており、調査面積は23,136㎡である。調査区の北東側には台地が広がっており、集落が展開していると考えられる。今回の調査によって、竪穴住居跡48軒（縄文時代37・古墳時代2・平安時代9）、鍛冶工房跡1基（古墳時代）、竪穴遺構2基（平安時代）、炉跡4基（時期不明）、地点貝塚3か所（縄文時代2、時期不明1）、陥し穴1基（縄文時代）、土器埋設遺構2基（縄文時代）、井戸跡1基（時期不明）、土坑184基（縄文時代15、時期不明169）、道路跡3条（時期不明）、溝跡30条（時期不明）、ピット群5か所（室町時代1・時期不明4）、遺物包含層3か所（縄文時代）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に145箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢・浅鉢・ミニチュア土器）、土師器（坏・碗・高台付碗・埴・高坏・甕・甑・手捏土器）、須恵器（坏・高台付坏・瓶・甕・甑）、土師質土器（小皿・内耳鍋・焙烙・土管）、瓦質土器（焙烙・火消壺）、陶器（碗・皿・播鉢・鉢・甕）、土製品（土玉・支脚・羽口・泥面子）、磁器片（碗・瓶）、石器（搔器・石錐・鍬・磨製石斧・石皿・磨石・敲石・凹石・砥石・剥片・鍬未製品）、石製品（管玉カ・双孔円板）、鉄製品（鍬・鎌・火箸カ）、銅製品（煙管・銭貨）、瓦（軒平瓦・平瓦）、自然遺物（貝）、鍛冶関連遺物（炉壁カ・碗形鍛冶滓・粒状滓・鍛造剥片）などである。

第2節 基本層序

今回の調査区は、台地縁辺部に位置し、比高が5 mほどある。そこで、標高の最高地点に（F 7j1）テストピット1を、傾斜部に（D 2a9）テストピット2を設定し、基本土層（第3図）の観察を行った。

土層は、色調・構成粒子・含有物・粘性などから、12層に細分でき、第2層上面で遺構を確認した。観察結果は以下のとおりである。

第1層は、黒褐色を呈する耕作土層である。ロームブロックを少量含み、粘性・締まりともに弱く、層厚は10～30cmである。

第2層は、明褐色を呈するソフトローム層である。炭化粒子を微量含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は15～30cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに普通で、層厚は10～20cmである。

第4層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は15～40cmである。

第5層は、暗褐色を呈するハードローム層である。白色粒子を微量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は15～40cmである。第Ⅱ黒色帯と考えられる。

第6層は、にぶい褐色を呈するハードローム層である。砂粒を微量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は15～20cmである。

第7層は、褐色を呈するハードローム層である。砂粒・白色粒子を微量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は15～25cmである。

第8層は、褐色を呈するハードローム層である。砂粒・鉄分を微量含み、粘性・締まりともに強く、層厚は

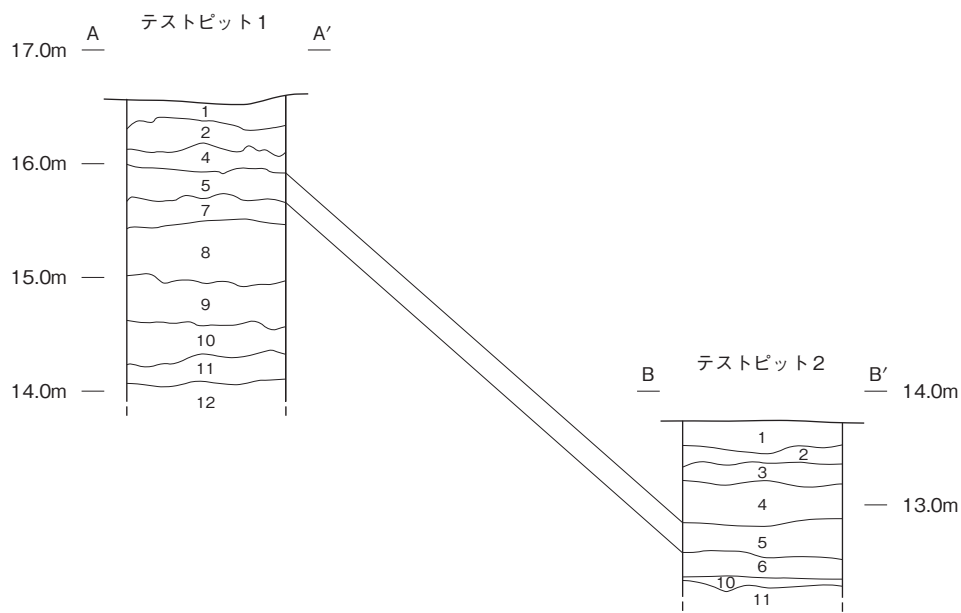
40～60cmである。

第9層は、褐色を呈するハードローム層から常総粘土層への漸移層である。砂粒・鉄分を少量含み、粘性・縮まりともに強く、層厚は30～40cmである。

第10層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層から常総粘土層への漸移層である。砂粒・鉄分を少量含み、粘性・縮まりともに強く、層厚は10～40cmである。

第11層は、明黄褐色を呈する常総粘土層である。砂粒・鉄分を中量含み、粘性・縮まりともに強く、層厚は15～25cmである。

第12層は、黄橙色を呈する常総粘土層である。黒色粒子・鉄分を少量・砂粒を微量含み、粘性・縮まりともに強い。下部は未掘のため、層厚は不明である。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡 37 軒、地点貝塚 2 か所、陥し穴 1 基、土器埋設遺構 2 基、土坑 15 基、遺物包含層 3 か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第7号住居跡（第4・5図）

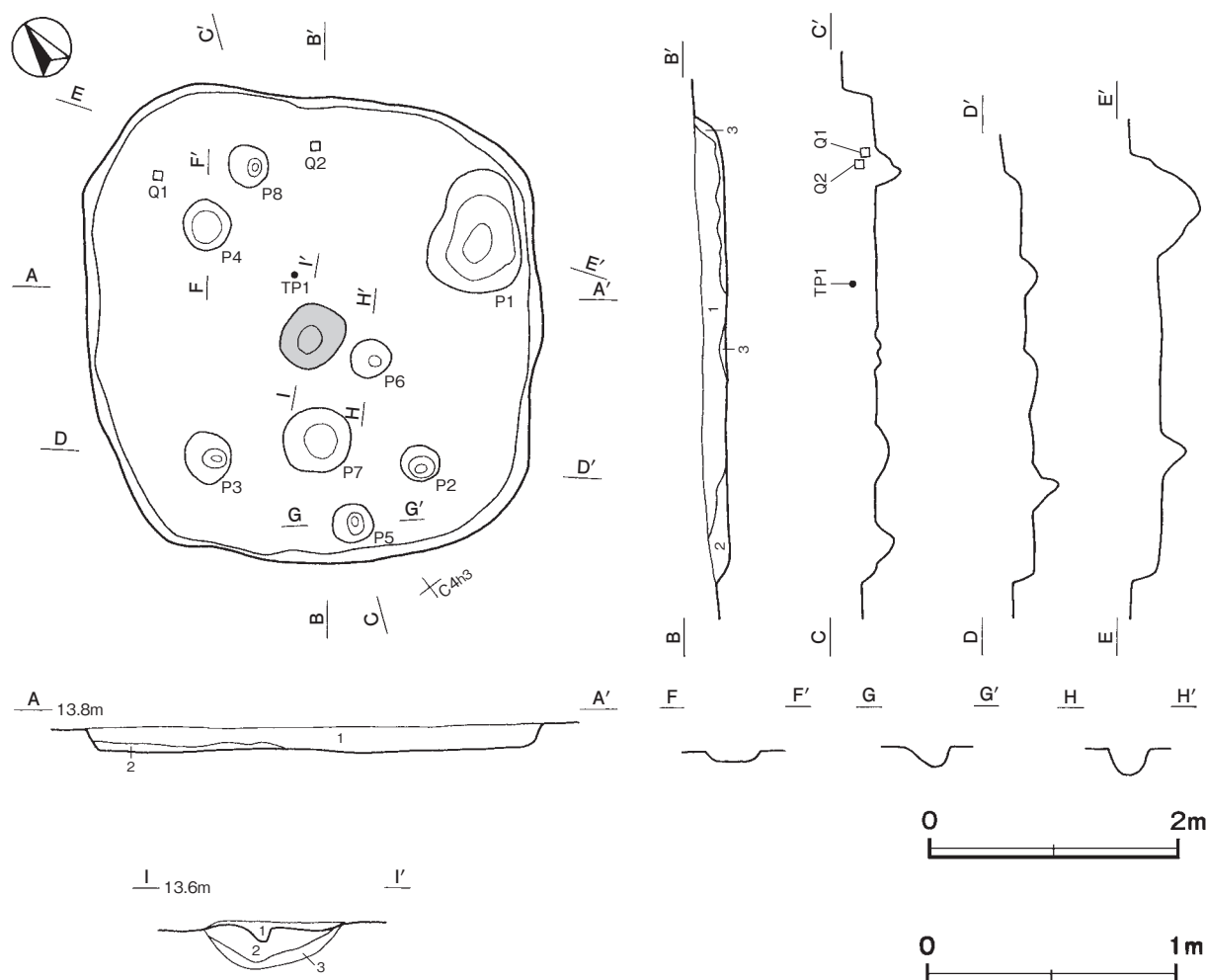
位置 調査区北西部のC 4 g3区、標高 14 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層の掘削後に確認した。

規模と形状 長軸 3.75 m、短軸 3.68 mの隅丸方形で、長軸方向はN - 40° - Eである。壁高は 10 ~ 24cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、硬化した範囲は認められない。

炉 中央部に付設されている。長径 52cm、短径 46cmの楕円形で、深さ 17cmの鍋底状に掘りくぼめ、第2・3層を埋め戻して炉床を構築している。



第4図 第7号住居跡実測図

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子・灰微量 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 2 赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量

ピット 8か所。P 1～P 4は深さ8～35cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 5は深さ16cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 8は深さ10～21cmで、性格不明である。

覆土 3層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

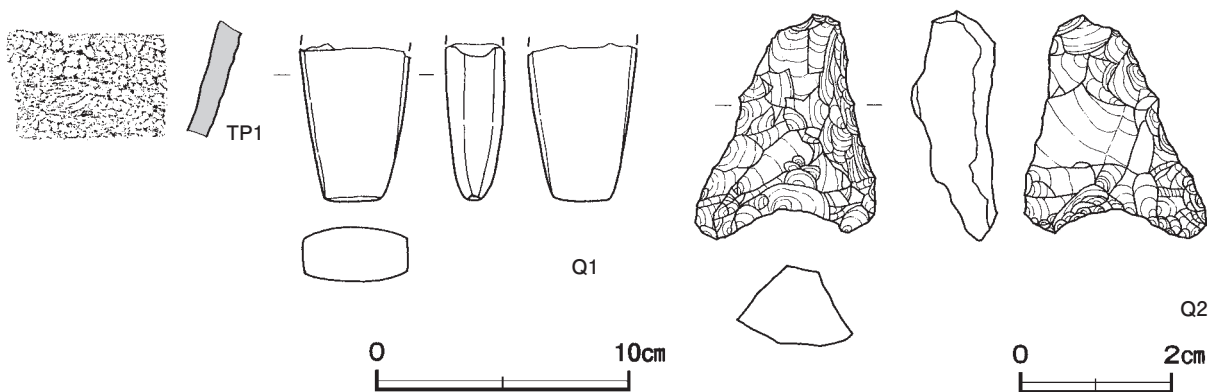
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗赤褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 37点 (深鉢), 石器 2点 (磨製石斧, 鎌未製品), 剥片 1点, 礫 2点が出土している。

Q 1は北コーナー部, Q 2は北東部の覆土中層から, TP 1は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期前半と考えられる。



第5図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表 (第5図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特征ほか	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	磨製石斧	(6.2)	(4.3)	2.3	(1085)	緑色凝灰岩	両面研磨 刃部欠損	覆土中層	PL44
Q 2	鎌未製品	3.0	2.4	1.1	5.6	黒曜石	凹基無茎鎌 両面押圧剥離	覆土中層	PL43

第8号住居跡 (第6・7図)

位置 調査区北西部のC 4 i4区, 標高14mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層の掘削後に確認した。

規模と形状 長軸3.90m, 短軸3.63mの隅丸方形で, 長軸方向はN-7°-Wである。壁高は12～18cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 西側に傾斜し, 壁下には壁溝が巡っている。硬化した範囲は認められない。

炉 南寄りに付設されている。径58cmほどの円形を呈する地床炉である。炉床は床面から深さ10cmで, 火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 8か所。P1～P7は深さ5～24cmで、炉を中心に円形に巡っていることから主柱穴と考えられる。P8は深さ27cmで、性格不明である。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

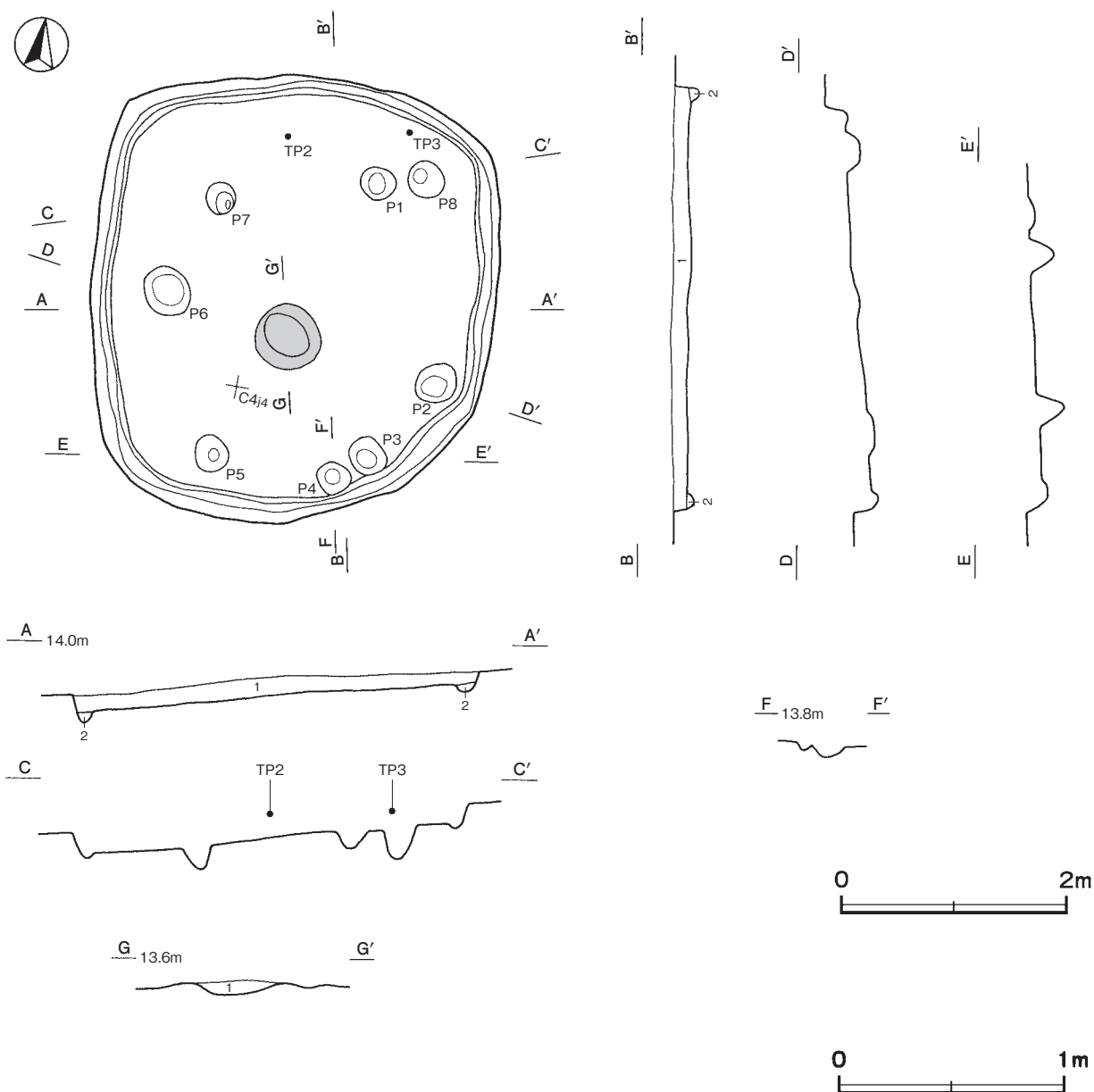
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

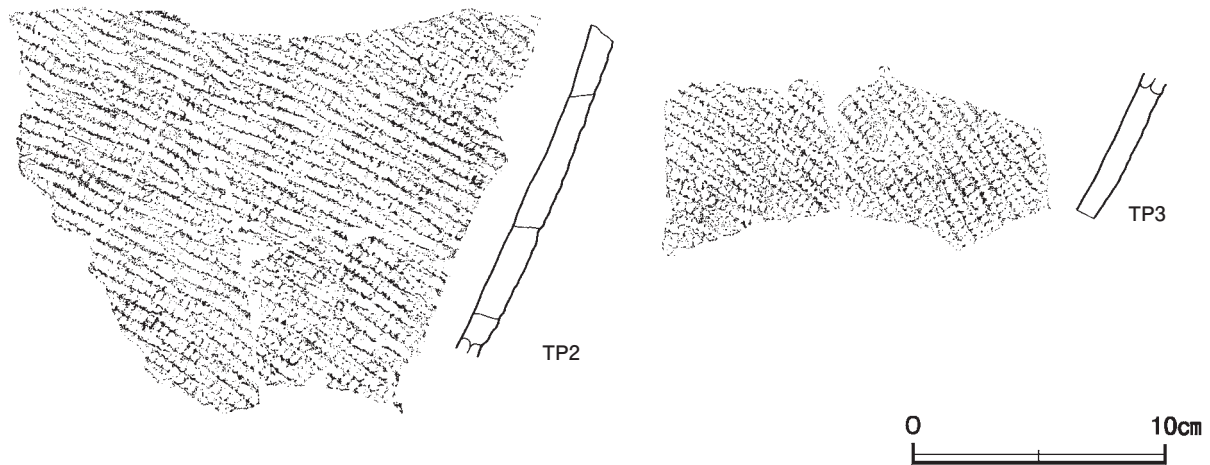
2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片34点(深鉢)が出土している。TP2は北部, TP3は北東コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半の加曾利E式期と考えられる。



第6図 第8号住居跡実測図



第7図 第8号住居跡出土遺物実測図

第8号住居跡出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP 2	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	LRの単節縄文	覆土上層	PL39
TP 3	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	LRの単節縄文	覆土上層	

第9号住居跡（第8・9図）

位置 調査区北西部のD 3 c4区，標高14 mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層の掘削後に確認した。

規模と形状 長軸4.12 m，短軸2.93 mの長方形で，長軸方向はN - 87° - Eである。壁高は9～16cmで，外傾して立ち上がっている。

床 凹凸があり，硬化した範囲は認められない。

炉 北東寄りに付設されている。長径64cm，短径46cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から深さ4 cmで，火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量

ピット 12か所。P 1～P 6は深さ9～27cmで，配置から壁柱穴と考えられる。P 7は深さ24cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 8～P 12は深さ10～33cmで，性格不明である。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

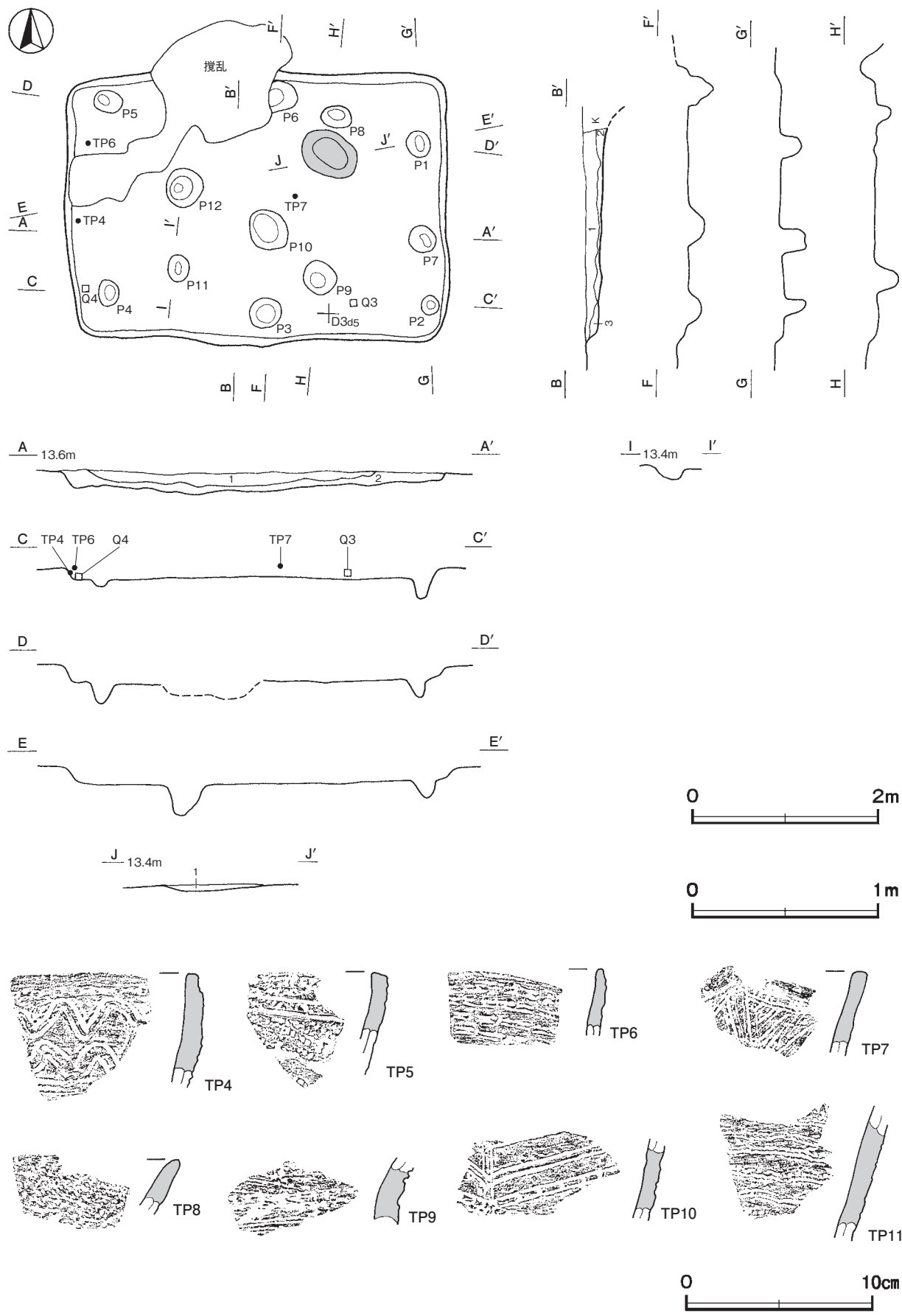
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック多量，焼土粒子微量

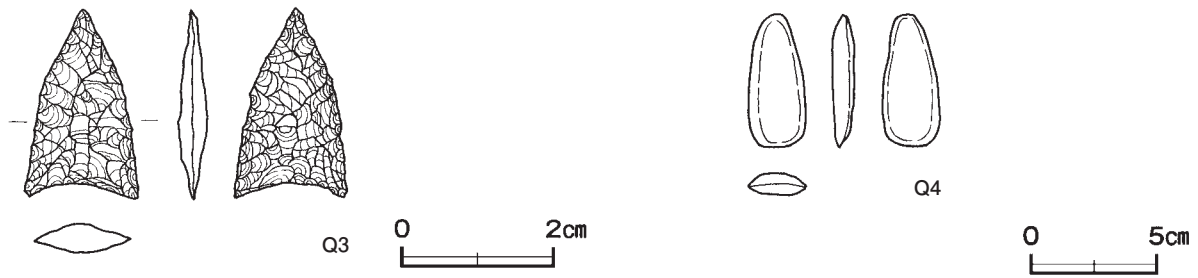
2 暗褐色 ロームブロック中量，焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片100点（深鉢），石器2点（鏃，磨製石斧）が出土している。Q 4は南西コーナ部の覆土下層から，TP 4は西壁際，TP 6は北西コーナ部，TP 7は中央部，Q 3は南東コーナ部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から前期前半の黒浜式期と考えられる。



第8图 第9号住居跡・出土遺物実測図



第9図 第9号住居跡出土遺物実測図

第9号住居跡出土遺物観察表（第8・9図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP4	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	円形竹管文 半截竹管による鋸歯状文	覆土中層	PL35
TP5	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	RLの単節縄文 半截竹管による沈線	覆土中	
TP6	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	半截竹管による横位の刺突文	覆土中層	
TP7	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	斜位の半截竹管による沈線 縦位の半截竹管による沈線	覆土中層	
TP8	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	LRの単節縄文	覆土中	
TP9	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	半截竹管による沈線 刺突文	覆土中	
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	肋骨文	覆土中	
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	コンパス文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	鏃	2.5	1.5	0.4	1.3	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	覆土中層	PL42
Q4	磨製石斧	5.3	2.3	0.9	17.6	緑色凝灰岩	両面研磨	覆土下層	PL41

第10号住居跡（第10図）

位置 調査区北西部のD3f9区、標高13mほどの台地緩斜面部に位置している。

確認状況 床面まで削平されているため、炉とピットしか確認できなかった。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込み、第17号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 ピットの配置から、長軸5.20m、短軸4.50mの隅丸長方形で、長軸方向はN-42°-Wと推定できる。

炉 中央部に付設されている。長径70cm、短径62cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から深さ12cmで、火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

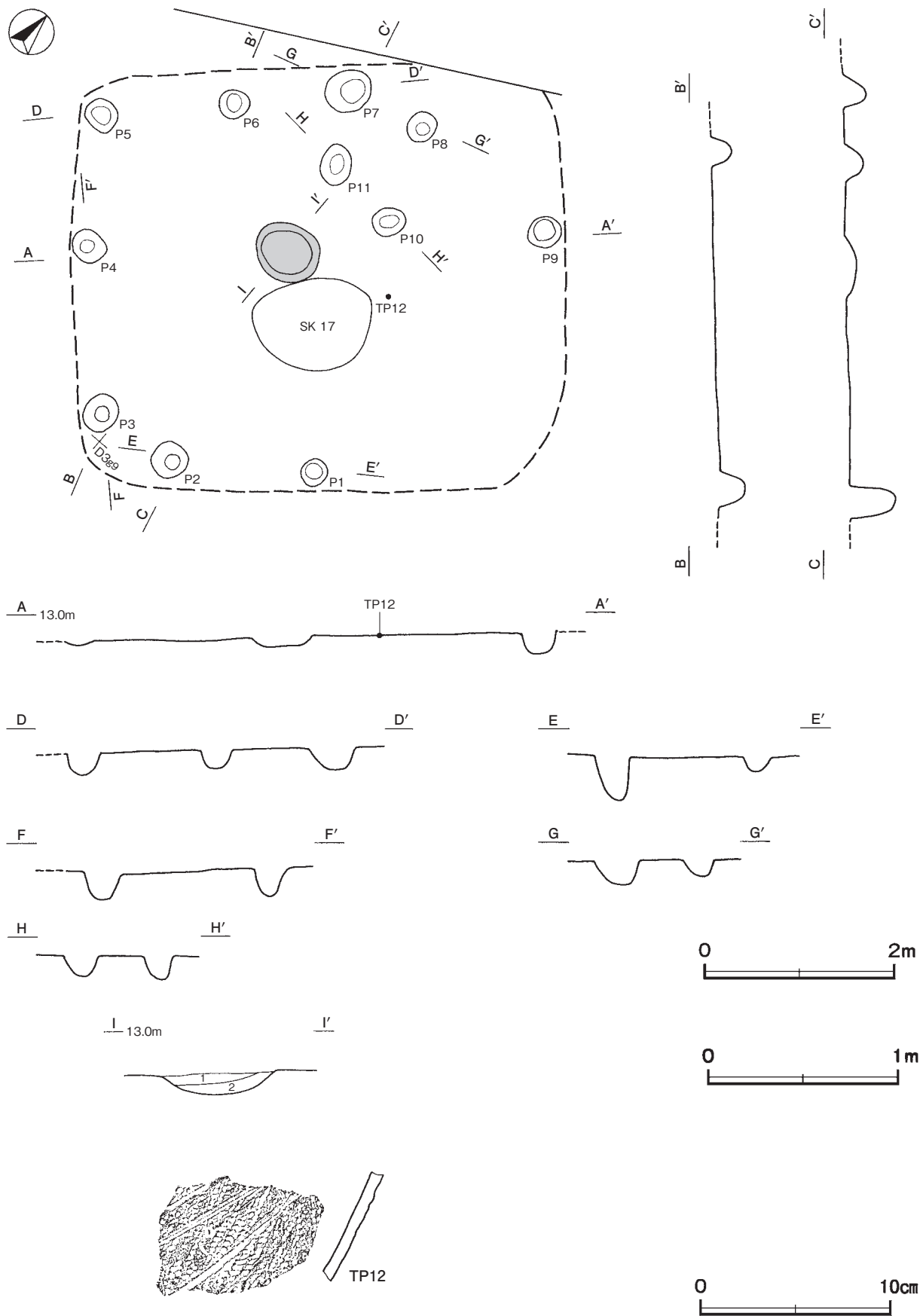
ピット 11か所。P1～P9は深さ16～51cmで、配置から壁柱穴と考えられる。P10・P11は深さ26cm・22cmで、性格不明である。

遺物出土状況 縄文土器片110点（深鉢）が出土している。TP12は中央部から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期中葉の加曽利B式期と考えられる。

第10号住居跡出土遺物観察表（第10図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	RLの単節縄文 条線	確認面	



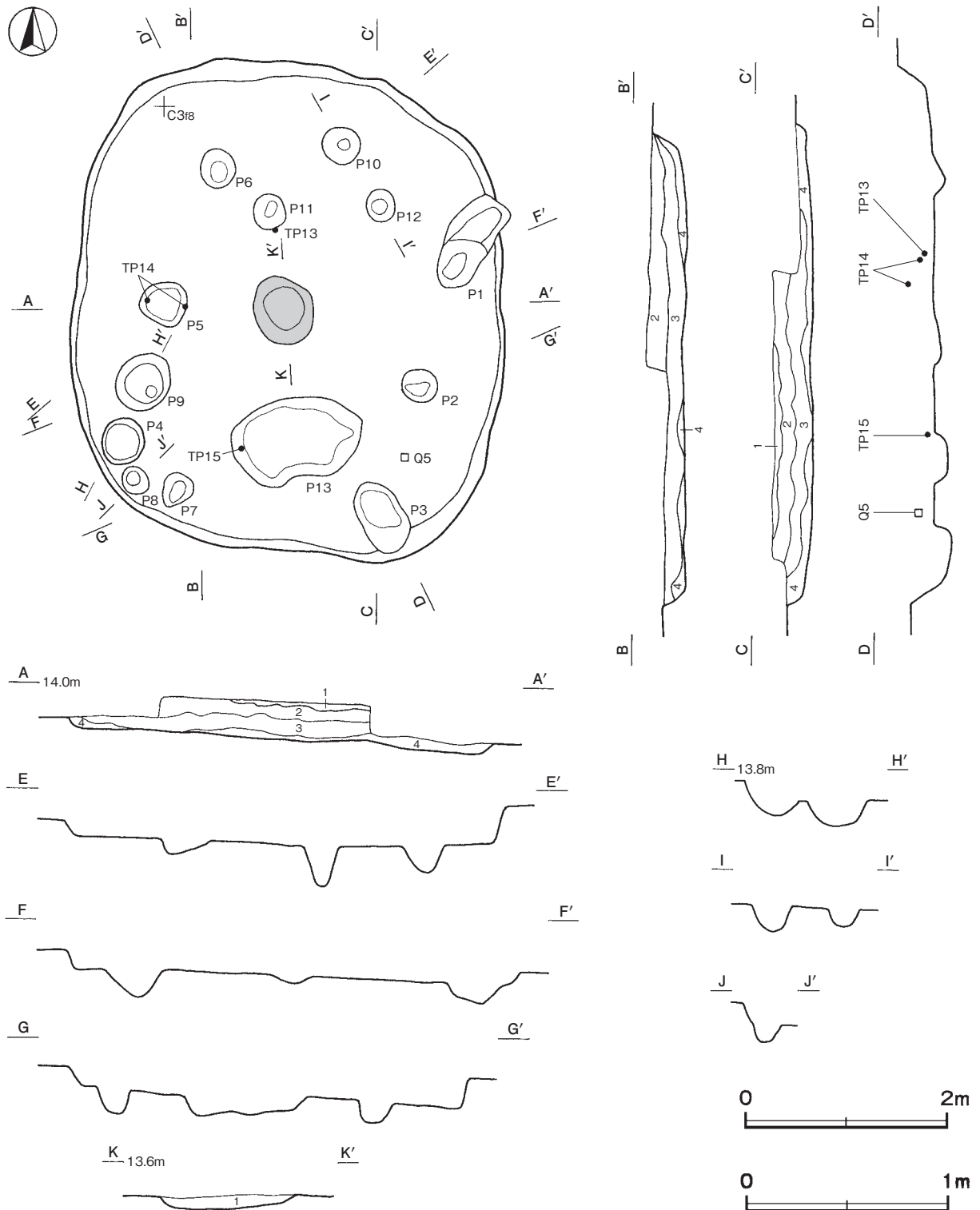
第 10 図 第 10 号住居跡・出土遺物実測図

第 11 号住居跡 (第 11・12 図)

位置 調査区北西部の C 3 f8 区, 標高 14 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層の掘削後に確認した。

規模と形状 長軸 4.87 m, 短軸 4.28 m の隅丸方形で, 長軸方向は N - 20° - E である。壁高は 15 ~ 35 cm で, 外傾して立ち上がっている。



第 11 図 第 11 号住居跡実測図

床 東側に傾斜し、硬化した範囲は認められない。

炉 中央部に付設されている。長径 70cm、短径 62cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から深さ 7cmで、火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット 13か所。P 1～P 6は深さ 13～32cmで、配置から主柱穴と考えられる。P 7～P 13は深さ 12～42cmで、性格不明である。

覆土 4層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量

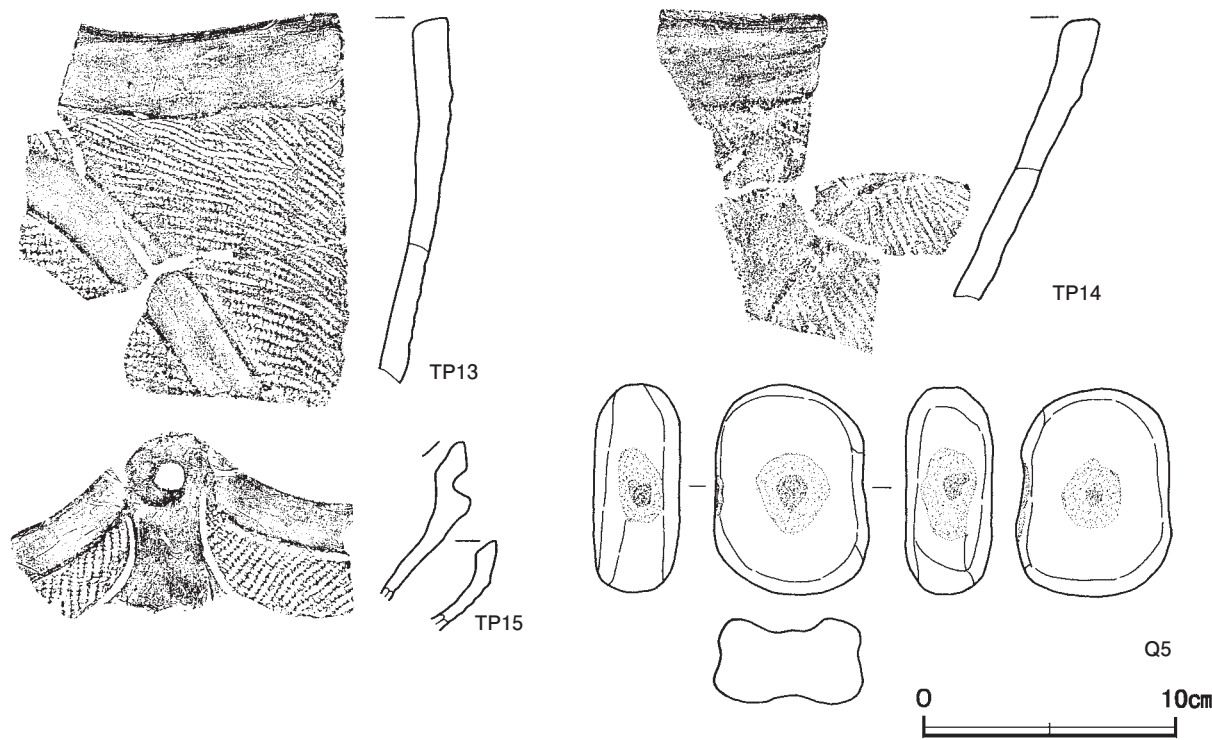
3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 76点(深鉢)、石器1点(凹石)、剥片4点、礫1点が出土している。TP13は北寄り、TP15は南部の覆土中層からそれぞれ出土している。TP14は西部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。Q 5は南東コーナー部の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半の加曾利E IV式期と考えられる。



第 12 図 第 11 号住居跡出土遺物実測図

第 11 号住居跡出土遺物観察表 (第 12 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	微隆帯 RLの単節縄文 ナデ	覆土中層	
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	微隆帯 RLの単節縄文 ナデ	覆土中層	
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	RLの単節縄文 沈線 ナデ	覆土中層	PL39

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 5	凹石	8.2	6.1	3.4	220.0	玄武岩	凹部 4 か所 2面に磨り痕	覆土中層	PL44

第 12 号住居跡 (第 13・14 図)

位置 調査区北西部の C 3 h8 区, 標高 14 m ほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 床面まで削平されているため, 炉とピットしか確認できなかった。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 ピットの配置から, 長径 6.90m, 短径 4.90m の楕円形で, 長径方向は N - 83° - W と推定できる。

炉 西寄りに付設されている。長径 78cm, 短径 60cm の楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から深さ 9 cm で, わずかに赤変硬化が認められる。

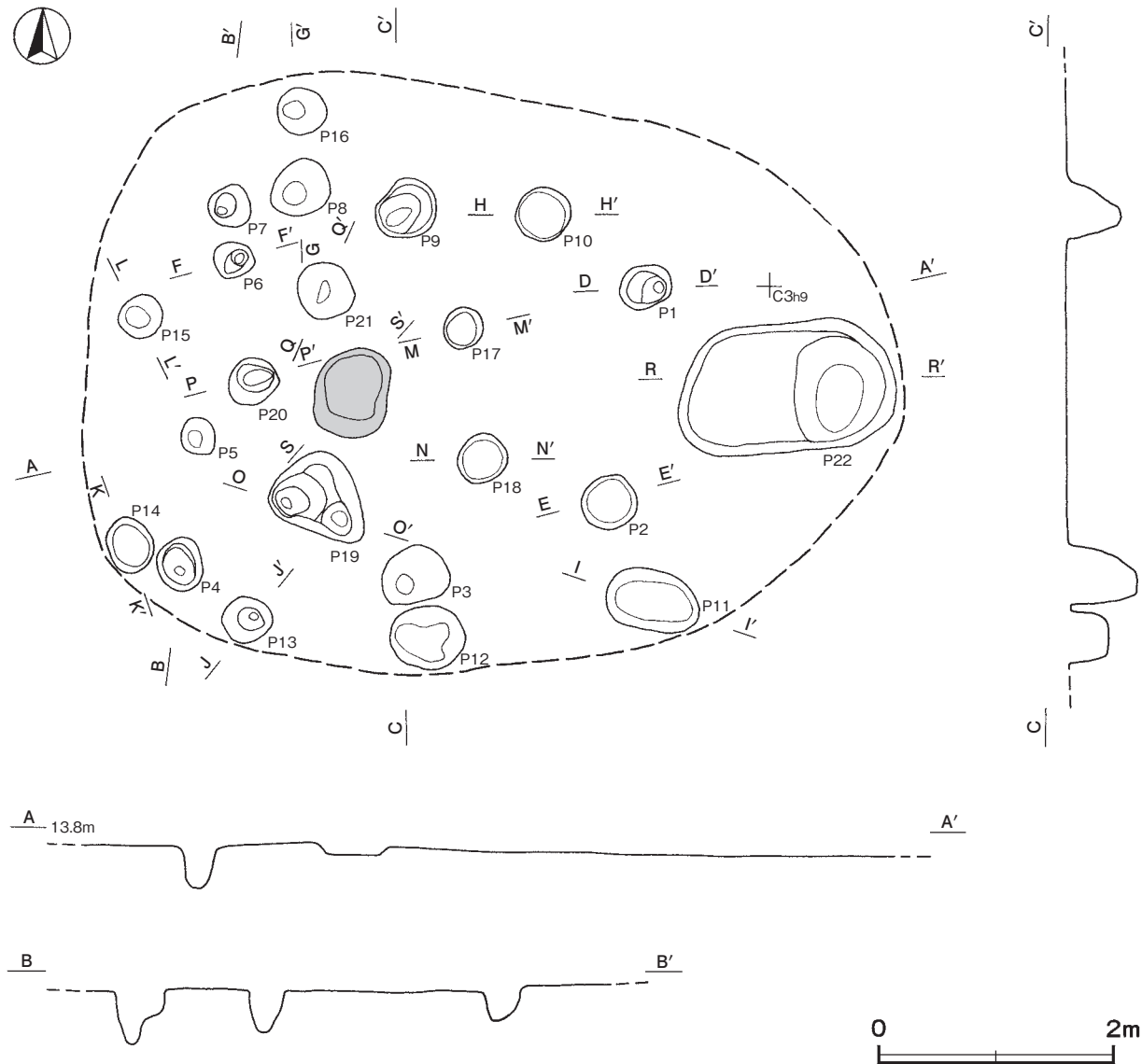
炉土層解説

1 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量

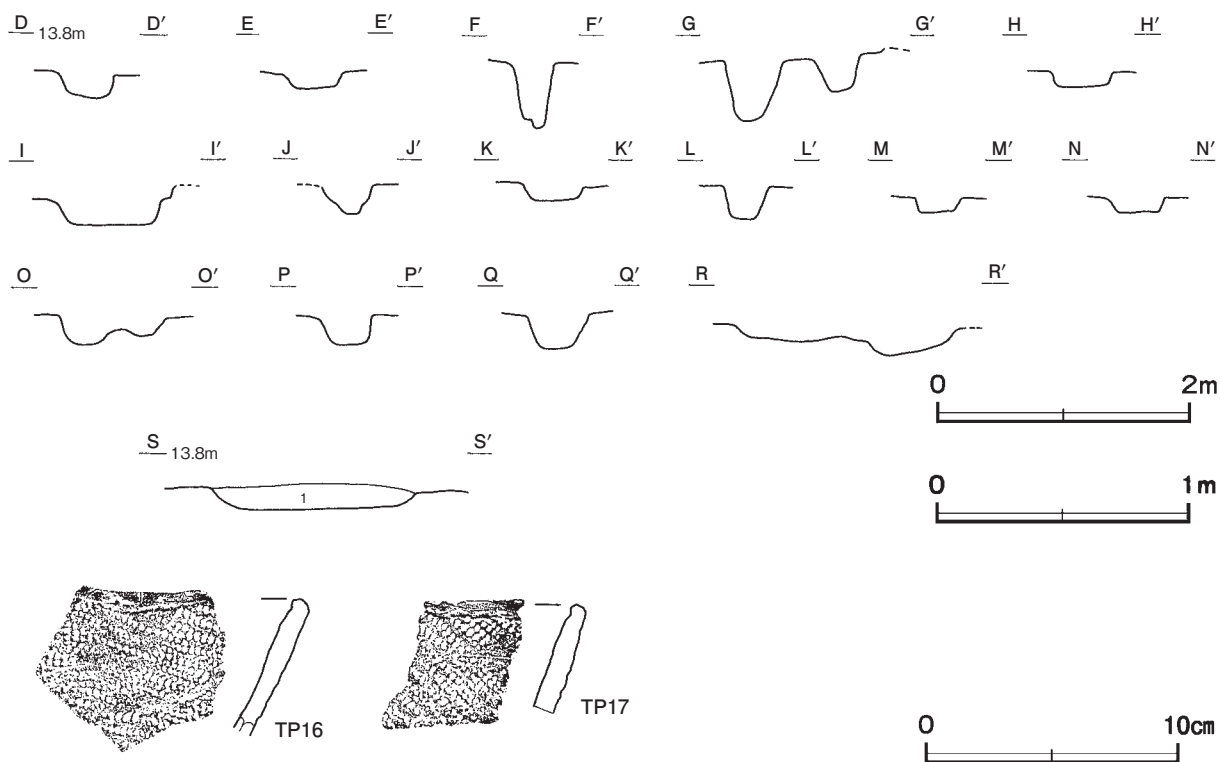
ピット 22 か所。P 1 ~ P 10 は深さ 10 ~ 57cm で, 配置から主柱穴と考えられる。P 11 ~ P 16 は深さ 14 ~ 34cm で, 配置から壁柱穴と考えられる。P 17 ~ P 22 は深さ 11 ~ 27cm で, 性格不明である。

遺物出土状況 縄文土器片 22 点 (深鉢) が出土している。TP16・TP17 はいずれも確認面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から後期中葉の加曾利 B 式期と考えられる。



第 13 図 第 12 号住居跡実測図



第 14 図 第 12 号住居跡・出土遺物実測図

第 12 号住居跡出土遺物観察表（第 14 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英	黄橙	RLの単節縄文	確認面	
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英	黄橙	RLの単節縄文	確認面	

第 13 号住居跡（第 15・16 図）

位置 調査区中央部の D 4 i9 区，標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 21 号土坑に掘り込まれ，第 1 号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 5.08 m，短径 3.90 m の楕円形で，長径方向は N - 39° - W である。壁高は 34 ~ 60 cm で，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，炉の周囲を除いた中央部が踏み固められている。

炉 南西寄りに付設されている。長径 34 cm，短径 24 cm の楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面と同じ高さで，火を受けて赤変硬化している。

ピット 11 か所。P 1・P 2 は深さ 7 cm・12 cm で，対になる配置から支柱穴と考えられる。P 3 ~ P 11 は深さ 9 ~ 59 cm で，性格不明である。

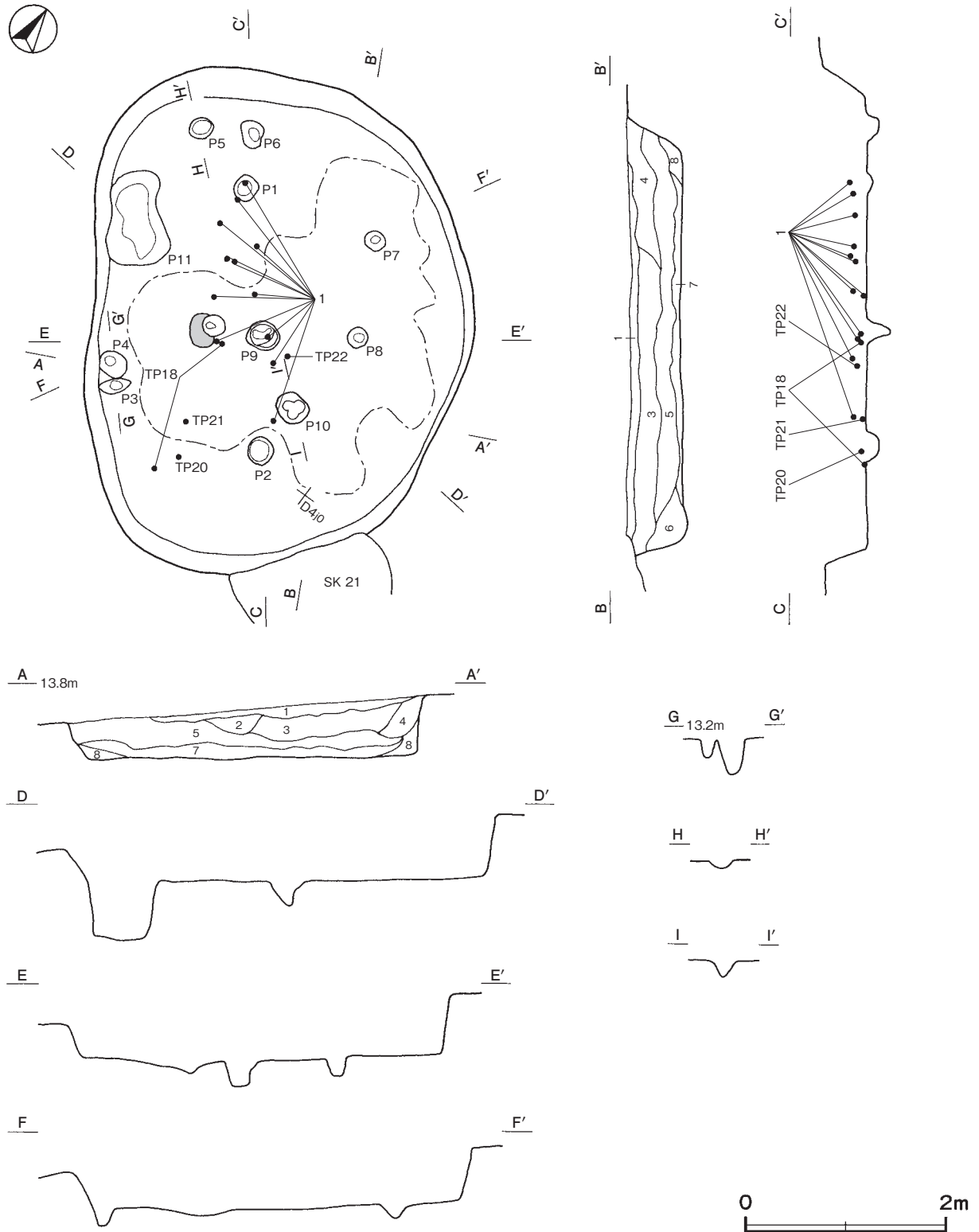
覆土 8 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

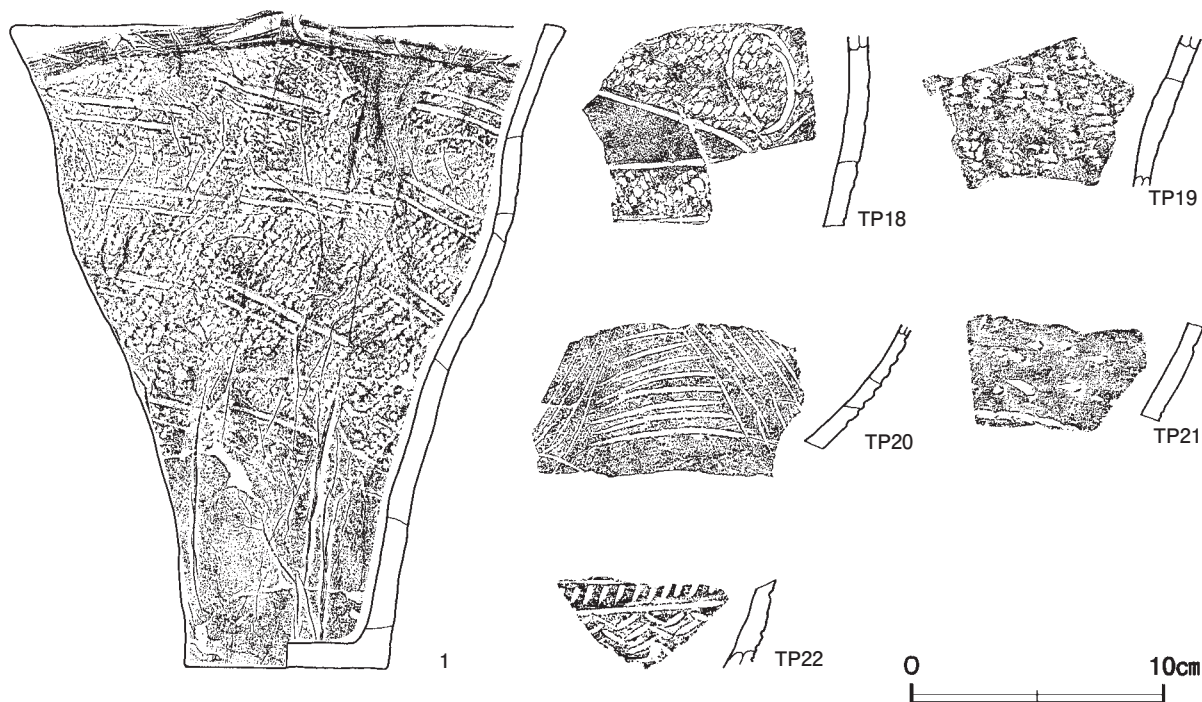
1 極暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	8 褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 118 点（深鉢）が出土している。1 は北西寄りの覆土下層から散在した状態で出土している。TP18 は中央部と南部の覆土下層から出土した破片が接合したものである。TP20 は南部， TP21 は南寄り， TP22 は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から後期中葉の加曾利 B 式期と考えられる。



第 15 図 第 13 号住居跡実測図



第 16 図 第 13 号住居跡出土遺物実測図

第 13 号住居跡出土遺物観察表 (第 16 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	21.3	25.8	8.0	長石・石英	橙	普通	LRの単節縄文 半截竹管による沈線	覆土下層	90% PL28
番号	種別	器種	胎土		色調	文様の特徴ほか		出土位置	備考		
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英		浅黄橙	沈線 LRの単節縄文 無文部磨き		覆土下層			
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英		橙	工具による押し文		覆土中			
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英		橙	条線		覆土下層			
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英		黄橙	工具による刺突		覆土下層			
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英		淡黄	横位の沈線 斜位の沈線 鋸歯状沈線		覆土下層			

第 17 号住居跡 (第 17・18 図)

位置 調査区南東部の I 7 c4 区, 標高 15 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 5.30 m, 短軸 4.50 m の南壁が突出した五角形で, 長軸方向は N - 25° - W である。壁高は 12 ~ 30cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 硬化した範囲は認められない。

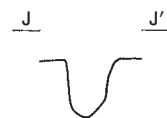
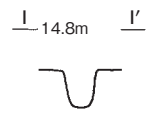
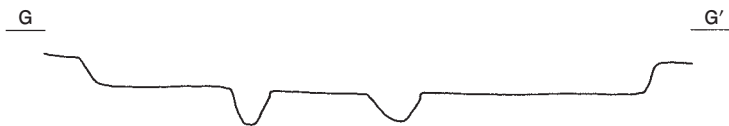
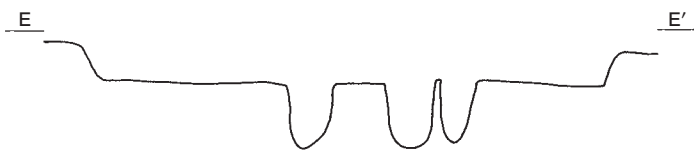
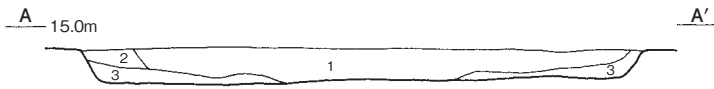
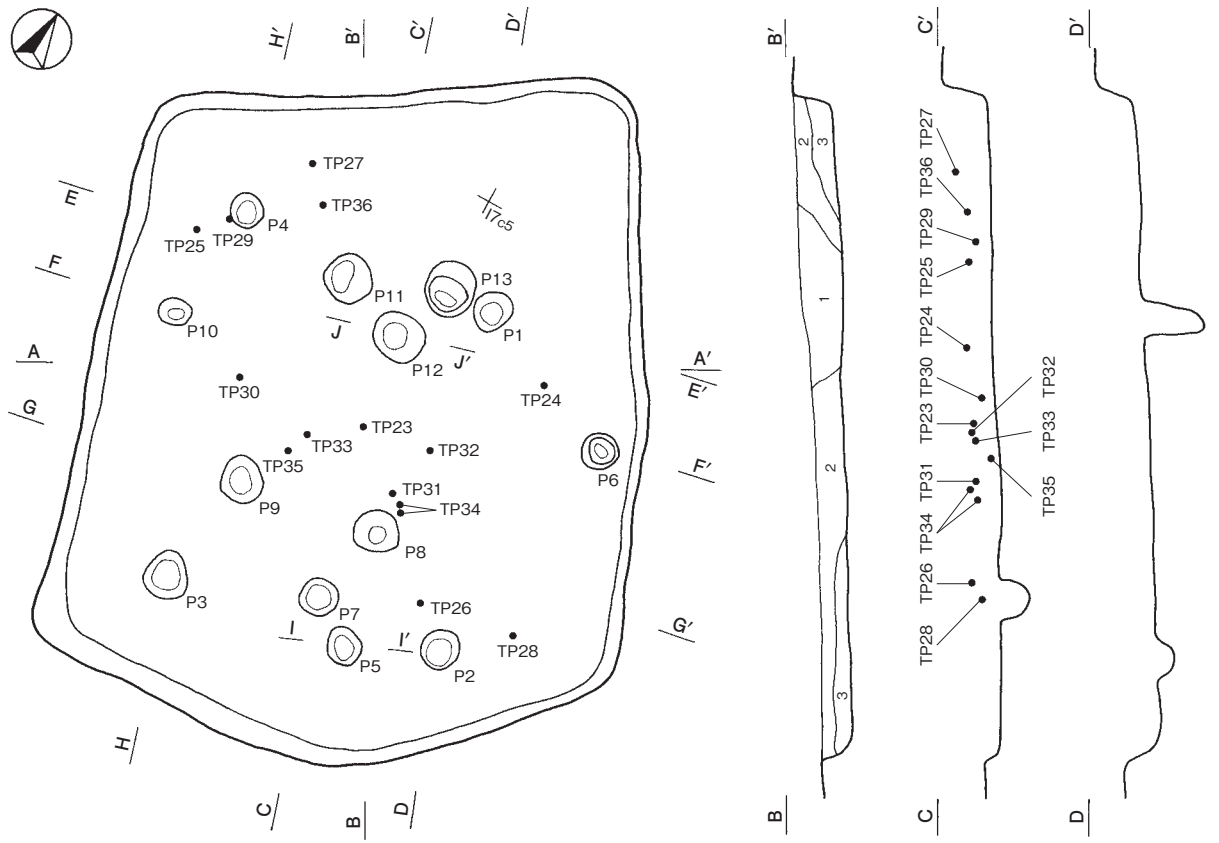
ピット 13 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 15 ~ 50cm で, 配置から支柱穴と考えられる。P 5 は深さ 30cm で, 配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6 ~ P 13 は深さ 13 ~ 55cm で, 性格不明である。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子少量 3 明 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
 2 明 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

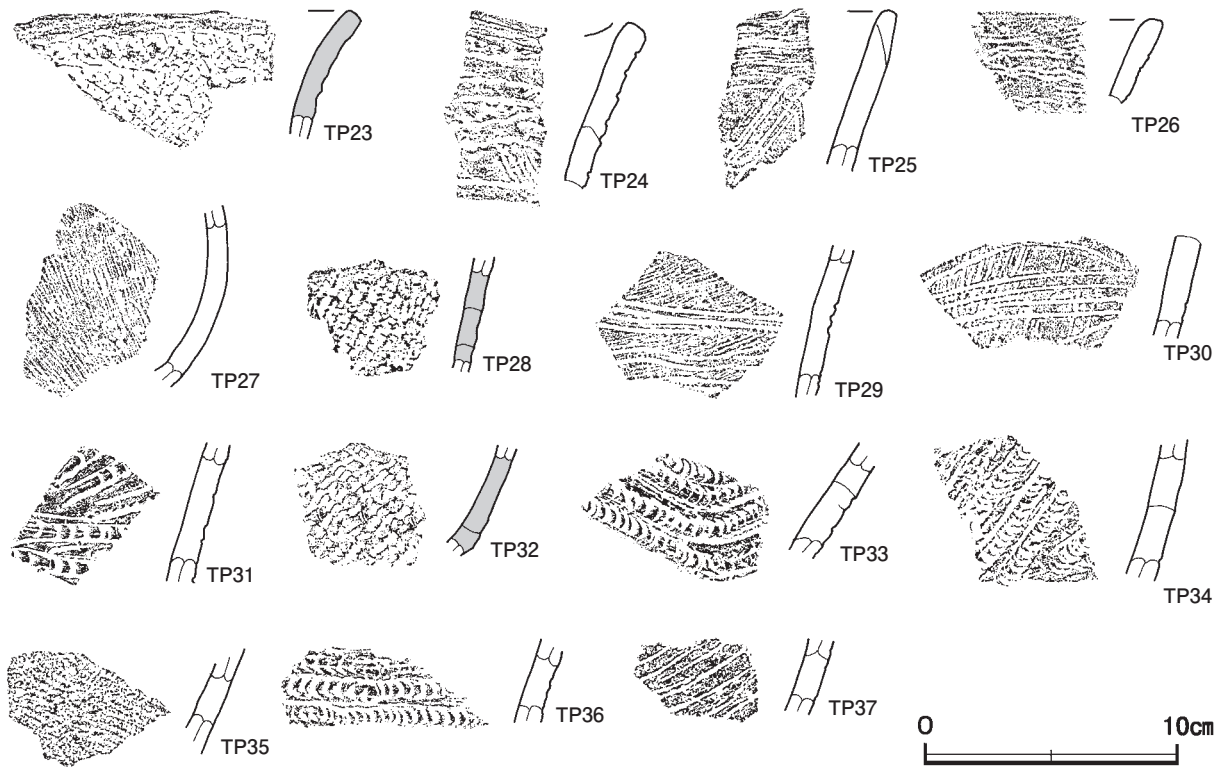
遺物出土状況 縄文土器片 209 点 (深鉢), 剥片 10 点, 粘土塊 2 点が全体の覆土上層から中層にかけて出土



第 17 图 第 17 号住居跡実測図

している。TP29は北西コーナー部、TP30は西寄り、TP35は南西寄りの覆土中層から出土している。TP24は東部、TP26・TP28は南東コーナー部、TP23・TP31～TP34は中央部、TP25・TP27・TP36は北西コーナー部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半の浮島式期と考えられる。



第 18 図 第 17 号住居跡出土遺物実測図

第 17 号住居跡出土遺物観察表 (第 18 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文によるループ文	覆土上層	
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	爪形文 半截竹管による沈線	覆土上層	
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	半截竹管による流水文 半截竹管による鋸歯状文	覆土上層	
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	半截竹管による沈線 コンパス文	覆土上層	
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	撚糸文	覆土上層	
TP28	縄文土器	深鉢	長石・繊維	橙	RLの単節縄文	覆土上層	
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	撚糸文 半截竹管による沈線	覆土中層	
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	縦位の沈線 横位の平行沈線	覆土中層	
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	横位の爪形文 斜位の爪形文	覆土上層	
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	RLの単節縄文	覆土上層	
TP33	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	爪形文 沈線による区画	覆土上層	
TP34	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	爪形文 沈線による区画	覆土上層	
TP35	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	RLの単節縄文	覆土中層	
TP36	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	爪形文	覆土上層	
TP37	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	撚糸文	覆土中	

第 18 号住居跡 (第 19・20 図)

位置 調査区南東部の H 7 i5 区, 標高 16 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 5.40 m, 短軸 4.64 m の隅丸長方形で, 長軸方向は N - 70° - E である。壁高は 8 ~ 14 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 南東側に傾斜し, 中央部が踏み固められている。

ピット 12 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 22 ~ 45 cm で, 配置から支柱穴と考えられる。P 5 は深さ 26 cm で, 配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6 ~ P 12 は深さ 24 ~ 41 cm で, 性格不明である。

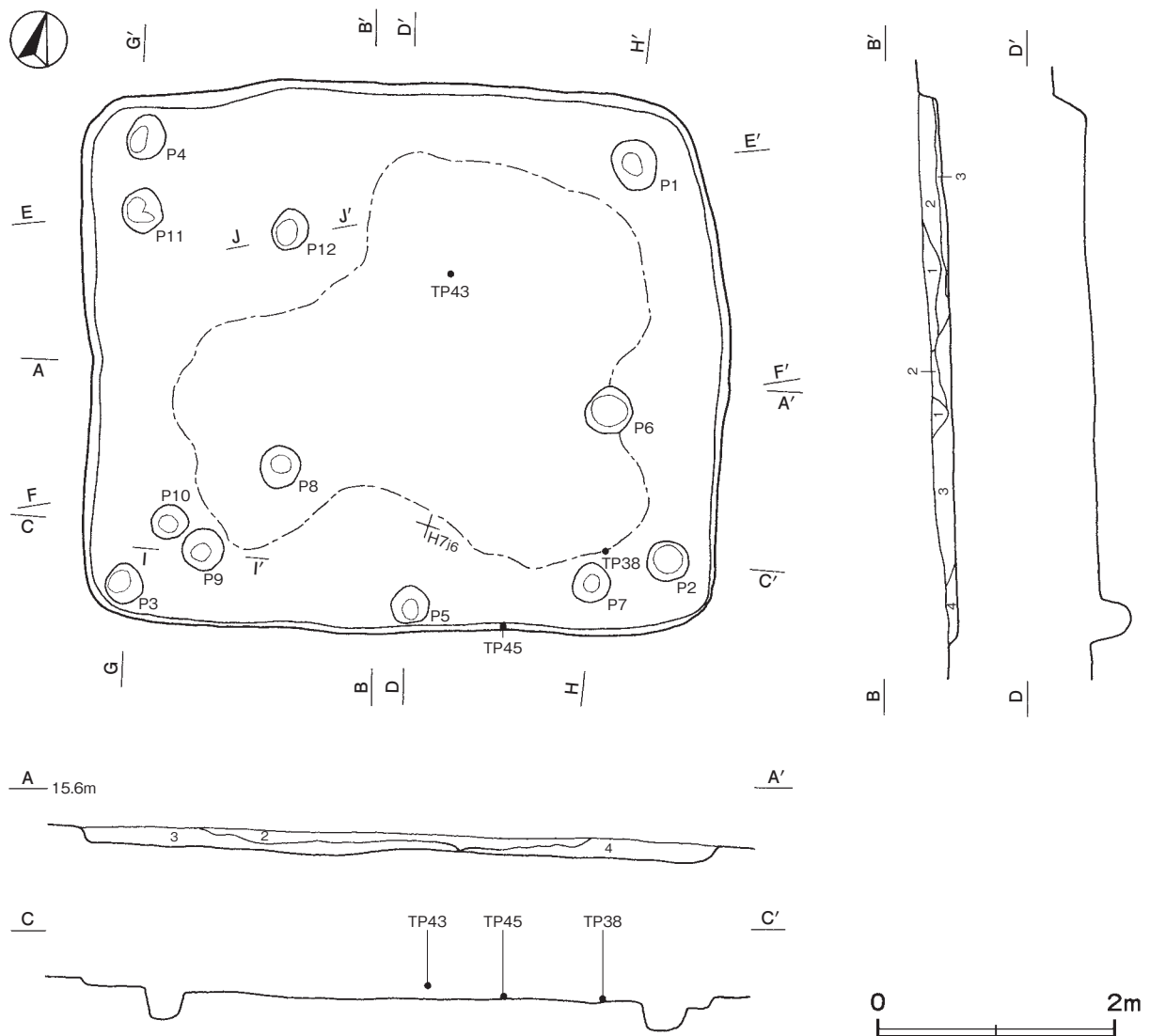
覆土 4 層に分層できる。ブロック状の堆積状況から埋め戻されている。

土層解説

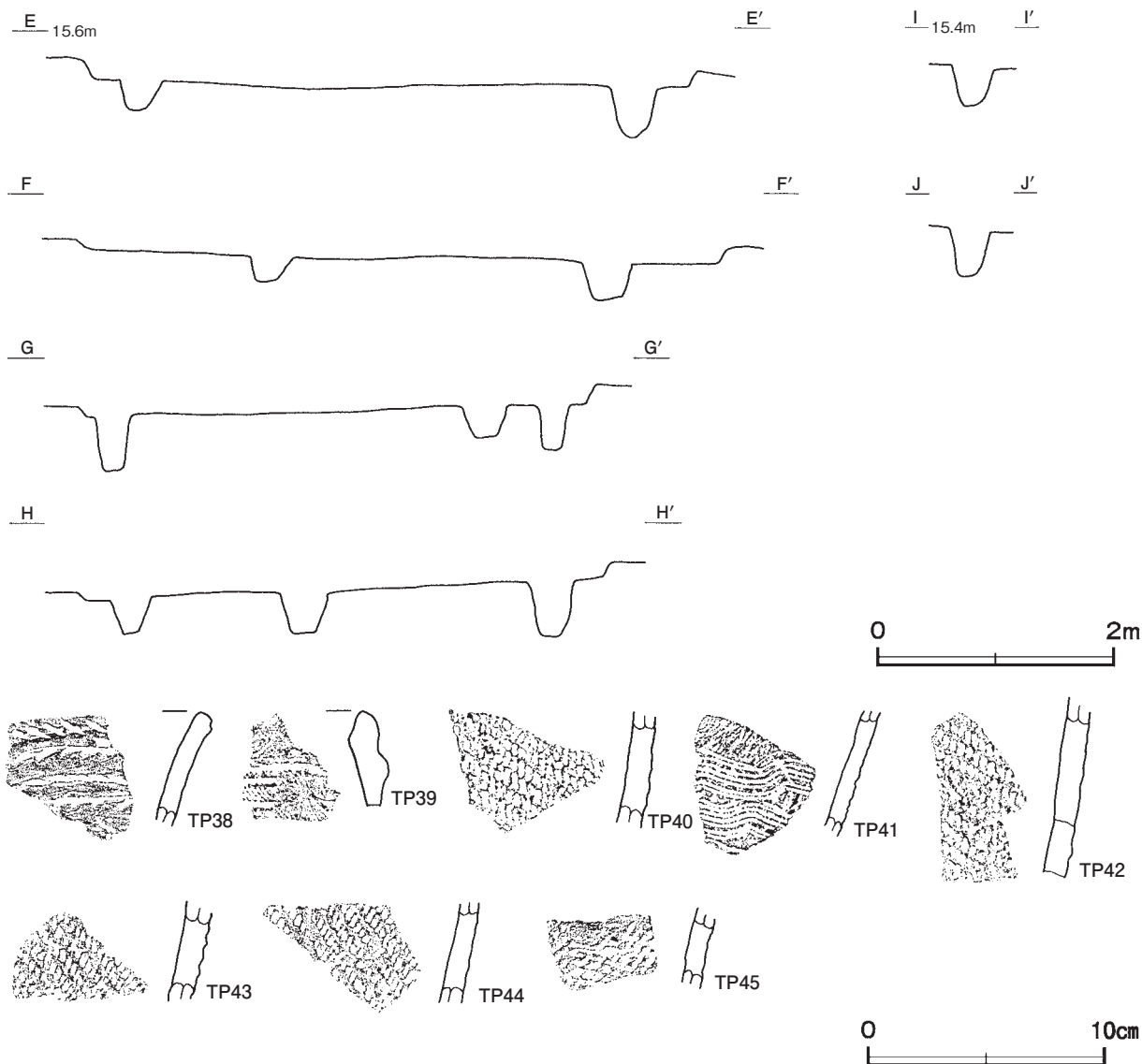
- | | | | |
|-------|---------------------|------|-----------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 3 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 100 点 (深鉢), 剥片 2 点が出土している。TP45 は南壁際, TP38 は南東コーナー部の床面, TP43 は中央部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期中葉の黒浜式期~浮島式期と考えられる。



第 19 図 第 18 号住居跡実測図



第20図 第18号住居跡・出土遺物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表（第20図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP38	縄文土器	深鉢	長石・石英	赤褐	口唇部に斜位の条線帯 爪形文	床面	
TP39	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰黄褐	口縁部に連続による刺突文	覆土中	
TP40	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	RLの単節縄文	覆土中	
TP41	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	7本1単位の櫛歯状工具による波状文	覆土中	
TP42	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	RLの単節縄文	覆土中	
TP43	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	RLの単節縄文	覆土上層	
TP44	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	RLの単節縄文	覆土中	
TP45	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	Lの無節縄文	床面	

第 19 号住居跡 (第 21・22 図)

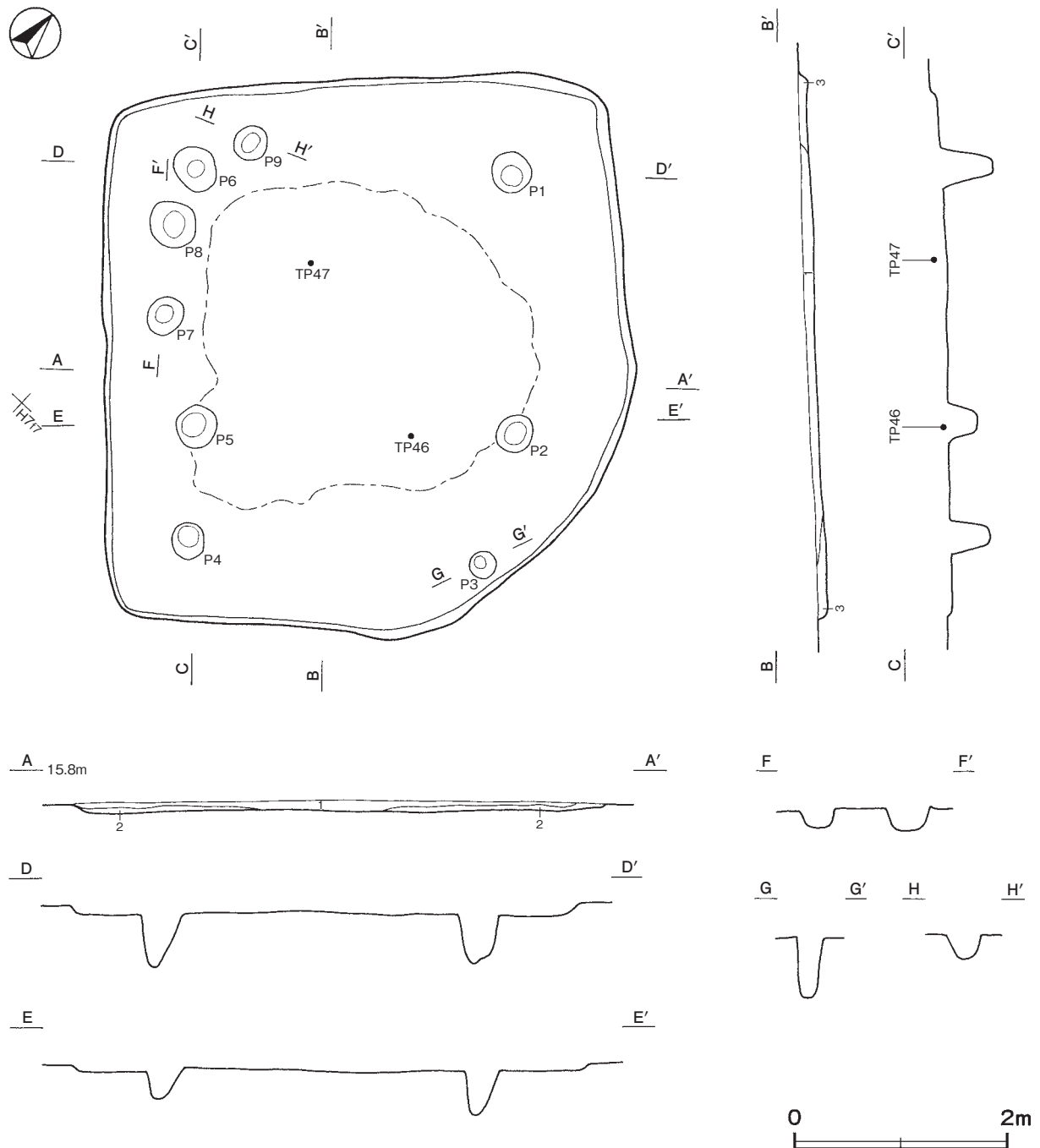
位置 調査区南東部の H 7 e7 区, 標高 16 m ほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 5.26 m, 短軸 4.92 m の不整形で, 長軸方向は $N - 41^\circ - W$ である。壁高は 6 ~ 10 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 南東側に傾斜し, 中央部が踏み固められている。

ピット 9 か所。P 1 ~ P 6 は深さ 29 ~ 57 cm で, 配置から支柱穴と考えられる。P 7 ~ P 9 は深さ 18 ~ 25 cm で, 性格不明である。

覆土 3 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。



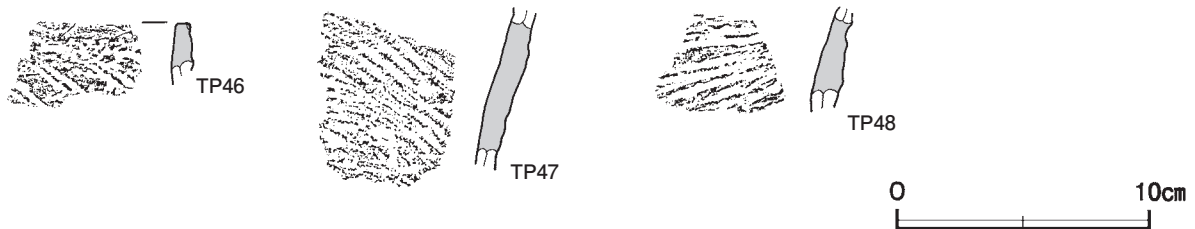
第 21 図 第 19 号住居跡実測図

土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 3 褐 色 ローム粒子少量
 2 暗 褐 色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 84 点 (深鉢), 粘土塊 1 点が出土している。TP46 は南東寄りの覆土中層, TP47 は西寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期前半と考えられる。



第 22 図 第 19 号住居跡出土遺物実測図

第 19 号住居跡出土遺物観察表 (第 22 図)

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
TP46	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	附加条一種 (附加 2 条) 縄文	覆土中層	
TP47	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	RL の多条文	覆土上層	
TP48	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	半截竹管による沈線	覆土中	

第 21 号住居跡 (第 23・24 図)

位置 調査区南東部の H 8 e1 区, 標高 15 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸 7.00 m, 短軸 5.78 m の不整長方形で, 長軸方向は N - 60° - E である。壁高は 8 ~ 28cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 南東側に傾斜し, 硬化した範囲は認められない。

炉 2 か所。炉 1・炉 2 はいずれも南東コーナー部に付設されている。炉 1 は長径 49cm, 短径 39cm, 炉 2 は長径 52cm, 短径 48cm で, それぞれ楕円形を呈する地床炉である。炉 1・炉 2 の炉床は床面と同じ高さで, 火を受けて赤変硬化している。

ピット 18 か所。P 1 ~ P 5 は深さ 28 ~ 40cm で, 配置から支柱穴と考えられる。P 6 ~ P 8 は深さ 33 ~ 43cm で, 配置と新旧関係から P 3 より新しい支柱穴で, P 3 から P 6 ~ P 8 への柱の立て替えが行われたと考えられる。P 9 は深さ 62cm で, 配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P 10 ~ P 18 は深さ 21 ~ 59cm で, 性格不明である。

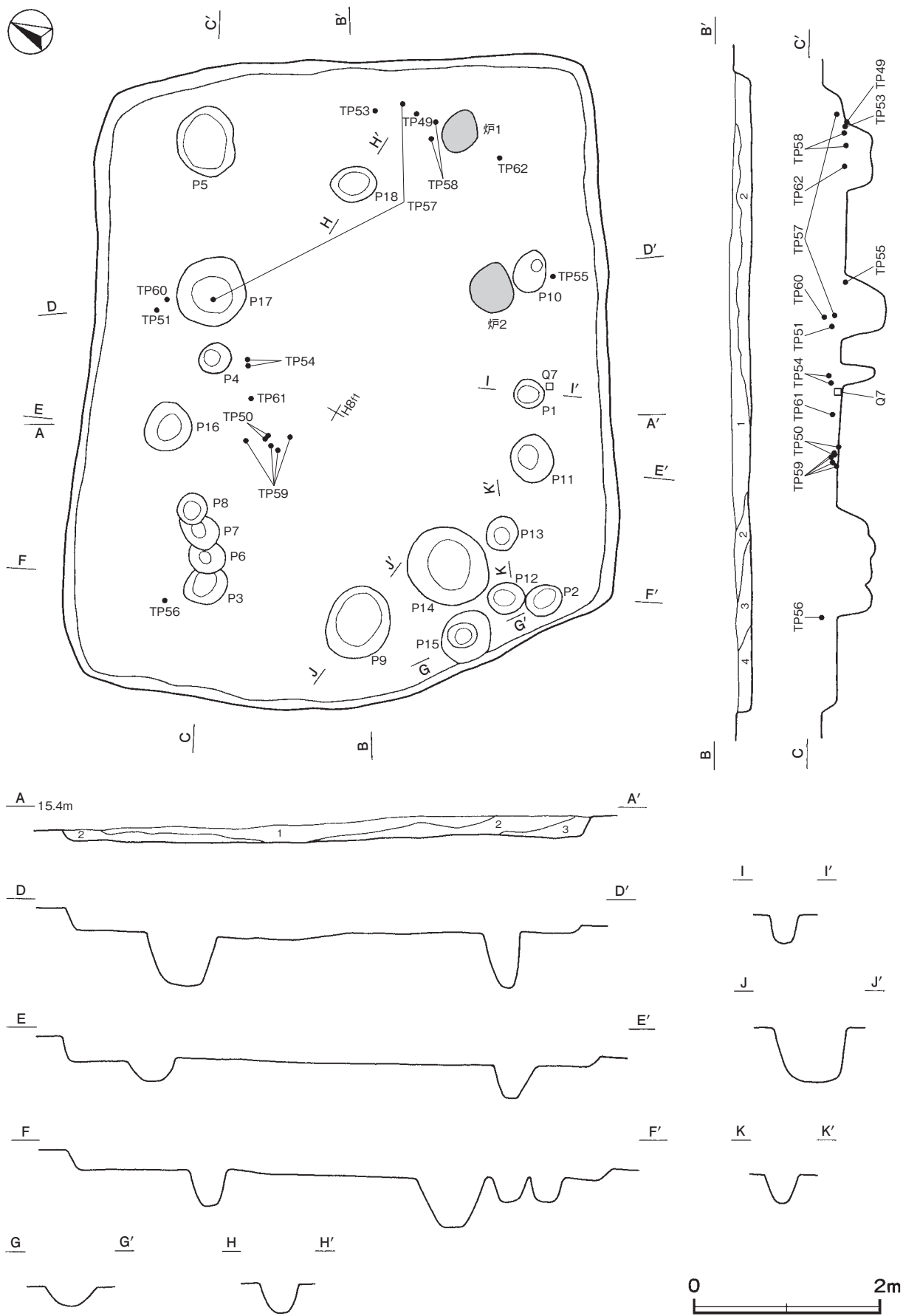
覆土 4 層に分層できる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

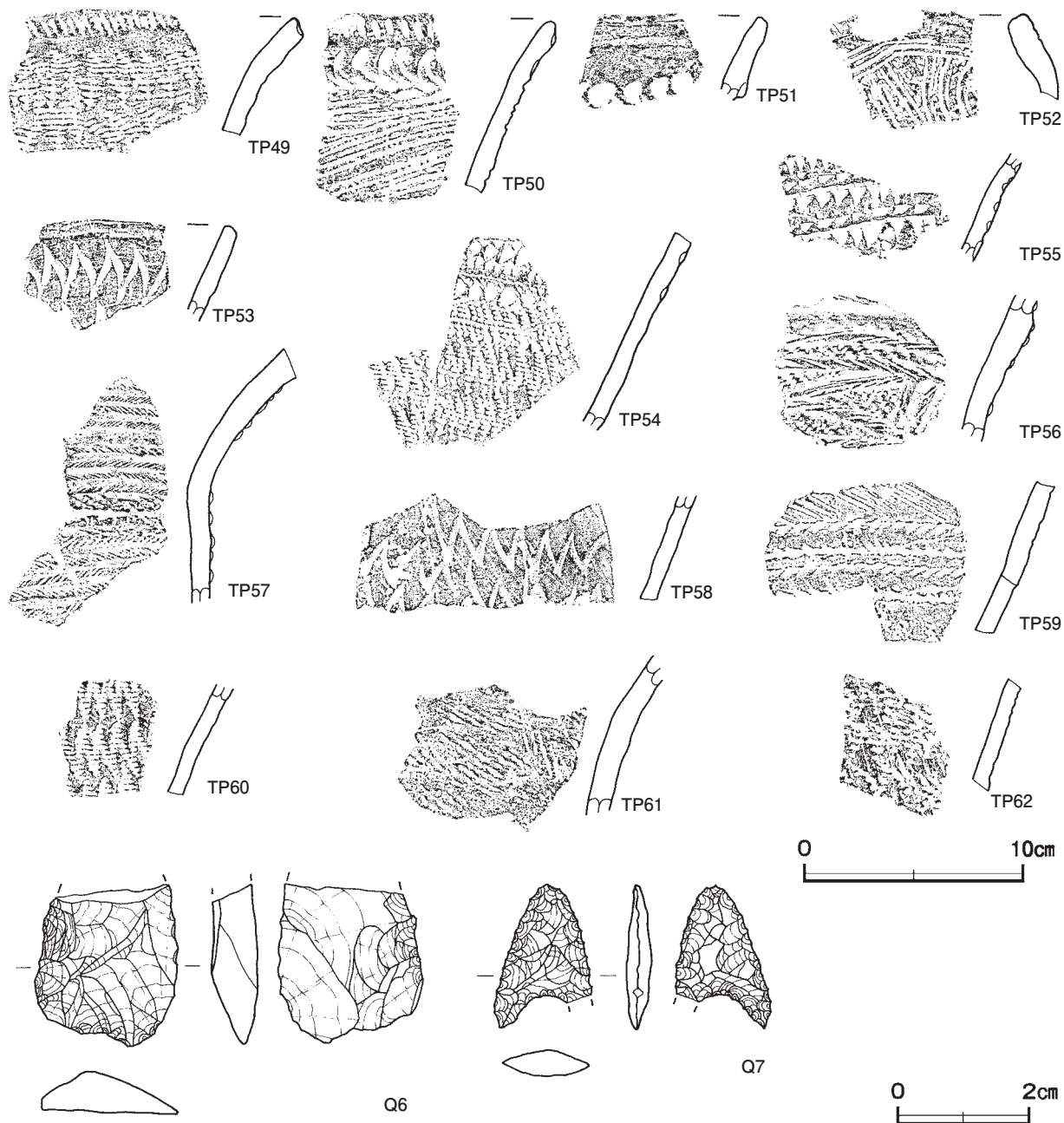
- 1 暗 褐 色 ローム粒子少量 3 暗 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
 2 褐 色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 4 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 125 点 (深鉢), 石器 2 点 (搔器, 鏃), 剥片 12 点, 礫 2 点が, 全体の覆土上層から床面にかけて出土している。TP49・TP53・TP58・TP62 は東コーナー部, TP55 は南東部, TP50 は西寄りの床面から, TP59 は西寄り, Q 7 は南部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期後半の浮島 II ~ III 式期と考えられる。



第 23 图 第 21 号住居跡実測図



第 24 図 第 21 号住居跡出土遺物実測図

第 21 号住居跡出土遺物観察表 (第 24 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP49	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に斜条線帯 アナダラ属による貝殻波状文	床面	PL36
TP50	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に斜条の条線帯 変形爪形文 櫛歯文	床面	
TP51	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	凹凸文	覆土中層	
TP52	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	撚糸文 半截竹管による沈線	覆土中	
TP53	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	貝殻波状文	床面	
TP54	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文 アナダラ属による貝殻波状文	覆土中層	
TP55	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文	床面	
TP56	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	RLの単節縄文 浮線文	覆土上層	
TP57	縄文土器	深鉢	長石・石英	浅黄	浮線文 円形竹管文	覆土中層	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徵ほか	出土位置	備考
TP58	縄文土器	深鉢	長石・石英	明黄褐	貝殻波状文	床面	
TP59	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	半截竹管による沈線 変形爪形文 アナグラ属による貝殻波状文	覆土下層	
TP60	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	アナグラ属による貝殻波状文	覆土上層	
TP61	縄文土器	深鉢	長石・石英	明黄褐	Rの無節縄文	覆土中層	
TP62	縄文土器	深鉢	長石・石英	浅黄	アナグラ属による貝殻波状文	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q6	掻器	(2.5)	2.3	0.7	(3.7)	頁岩	片側縁部調整	覆土中	
Q7	鎌	2.2	(1.5)	0.4	(0.8)	頁岩	両面押圧剥離	覆土下層	PL42

第22号住居跡（第25図）

位置 調査区南東部のJ7b0区，標高14mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第3号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 西部が調査区域外に延び，南東部が削平されているため，南北軸5.70cm，東西軸5.10cmしか確認できなかった。壁高は14～28cmで，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット 6か所。P1は深さ37cmで，配置から主柱穴と考えられる。P2～P6は深さ19～64cmで，性格不明である。

覆土 3層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

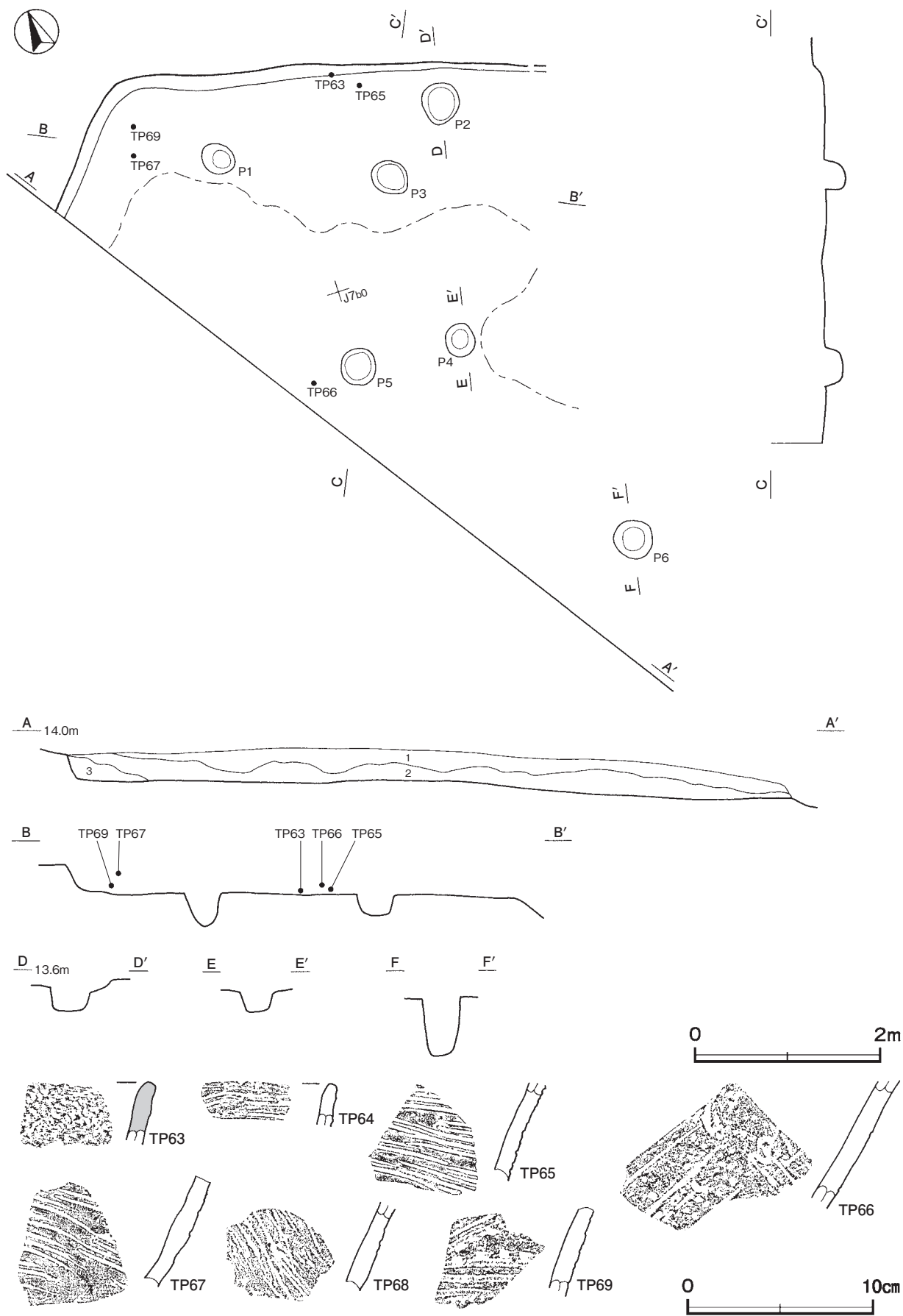
- | | | | |
|-------|------------------|------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 3 褐色 | ロームブロック多量，炭化粒子少量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量，炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片39点（深鉢），礫1点が出土している。TP63・TP65は北東部壁際，TP66は中央部，TP69は北コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。TP67は北コーナー部の覆土上層から出土している。

所見 時期は，出土土器から後期と考えられる。

第22号住居跡出土遺物観察表（第25図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徵ほか	出土位置	備考
TP63	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成	覆土中層	
TP64	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐	ヘラ状工具による沈線	覆土中	
TP65	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐	ヘラ状工具による沈線	覆土中層	
TP66	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	沈線 半截竹管による刺突	覆土中層	
TP67	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐	ヘラ状工具による沈線	覆土上層	
TP68	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	撚糸文	覆土中	
TP69	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	半截竹管による沈線 半截竹管による連続刺突	覆土中層	



第 25 図 第 22 号住居跡・出土遺物実測図

第 23 号住居跡 (第 26・27 図)

位置 調査区南東部の I 7 b0 区, 標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

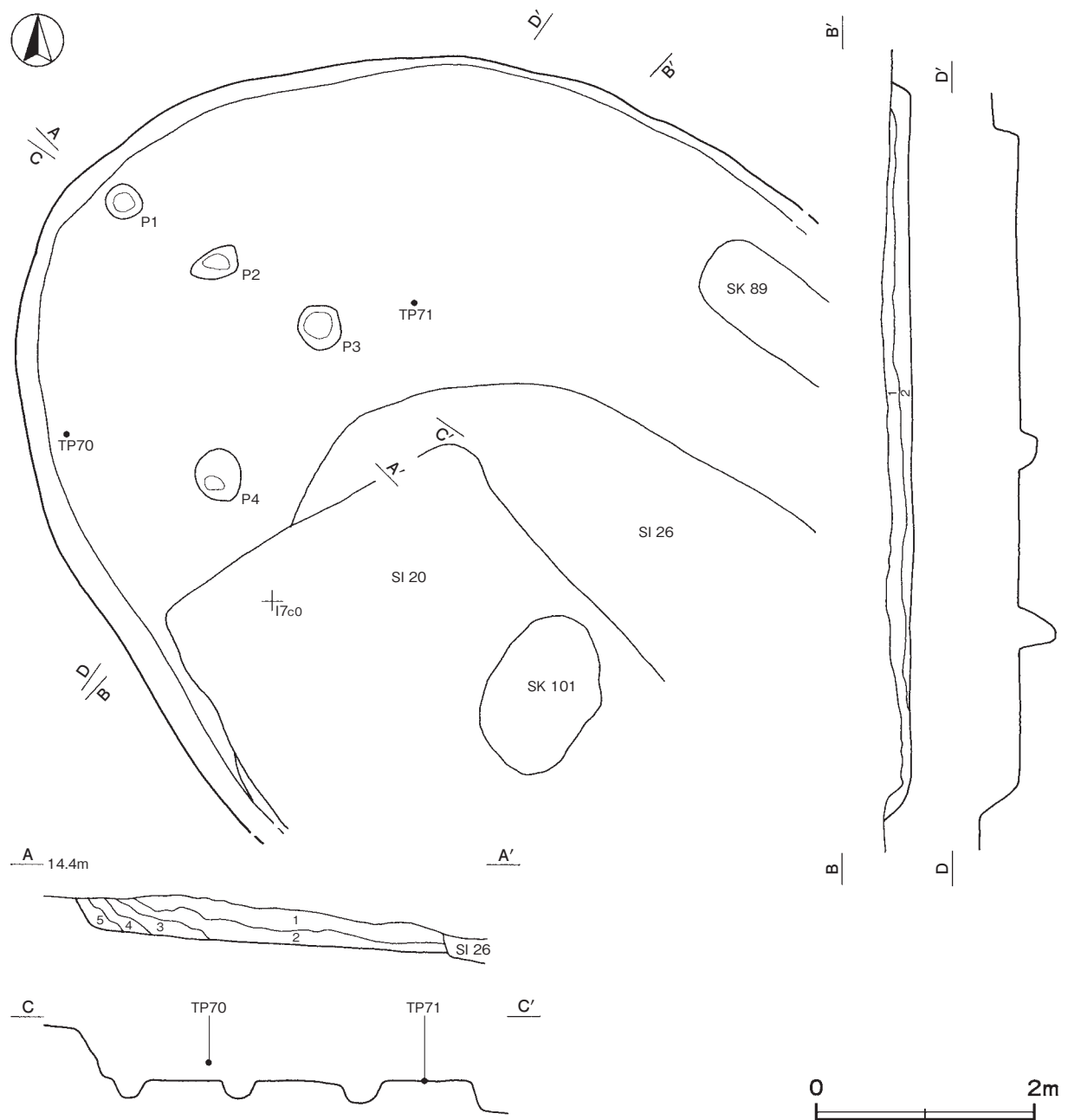
重複関係 第 3 号遺物包含層の掘削後に確認した。第 20・26 号住居, 第 83・88・89・101 号土坑, 第 6 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 南東半部が削平されているため, 北東・南西軸は 7.59 m で, 北西・南東軸は 5.24 m しか確認できなかった。北西部の壁高は 24 ~ 44 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 硬化した範囲は認められない。

ピット 4 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 14 ~ 33 cm で, 性格不明である。

覆土 5 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。



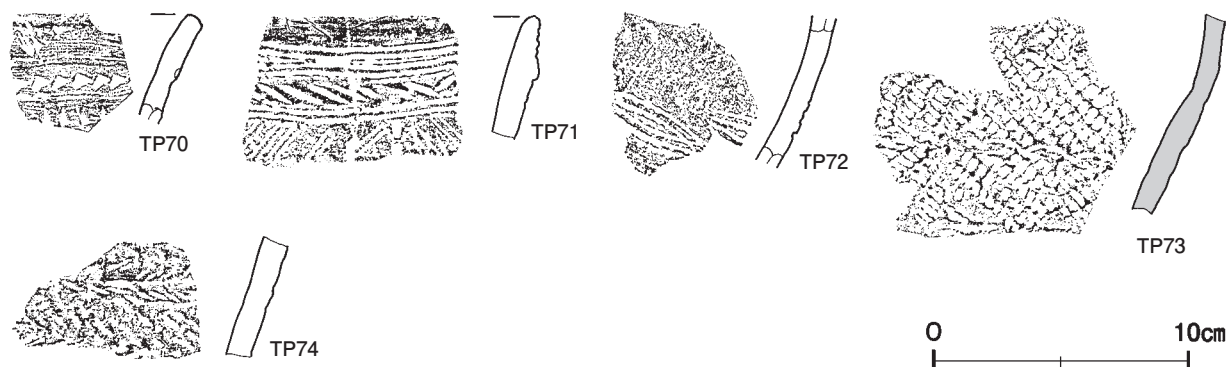
第 26 図 第 23 号住居跡実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 5 明褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 147 点 (深鉢), 剥片 5 点, 礫 4 点が出土している。TP71 中央部の床面, TP70 は西壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期後半の浮島式期と考えられる。



第 27 図 第 23 号住居跡出土遺物実測図

第 23 号住居跡出土遺物観察表 (第 27 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP70	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	半截竹管による刺突 変形爪形文	覆土中層	
TP71	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	半截竹管による沈線 斜位のキザミ	床面	
TP72	縄文土器	深鉢	長石・石英	浅黄橙	木葉文	覆土中	
TP73	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文とLRの単節縄文の結束による菱状構成	覆土中	
TP74	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	RLの単節縄文 浮線文	覆土中	

第 25 号住居跡 (第 28 ~ 30 図)

位置 調査区南東部の H 7 g3 区, 標高 16 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 104・108 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.50 m, 短軸 5.10 m の隅丸方形で, 長軸方向は N - 52° - E である。壁高は 12 ~ 24cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で, 硬化した範囲は認められない。貼床は, 凸凹に掘りくぼめた部分にロームブロックを主体とした第 9 層を埋土として構築されている。

炉 西寄りに付設されている。東半部は壊されており, 長径 22cm, 短径 19cm しか確認できなかった。深さ 10 cm の鍋底状に掘りくぼめ, 第 1・2 層を埋め戻して炉床を構築しており, 火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | |
|-------|----------|--------|-----------------|
| 1 赤褐色 | 焼土ブロック多量 | 2 暗赤褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
|-------|----------|--------|-----------------|

ピット 5 か所。P 1 ~ P 3 は深さ 29 ~ 32cm で, 配置から支柱穴と考えられる。P 4 は深さ 37cm で, 配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 5 は深さ 14cm で, 炉に隣接し, 覆土内に焼土ブロックが含ま

れている。性格不明である。

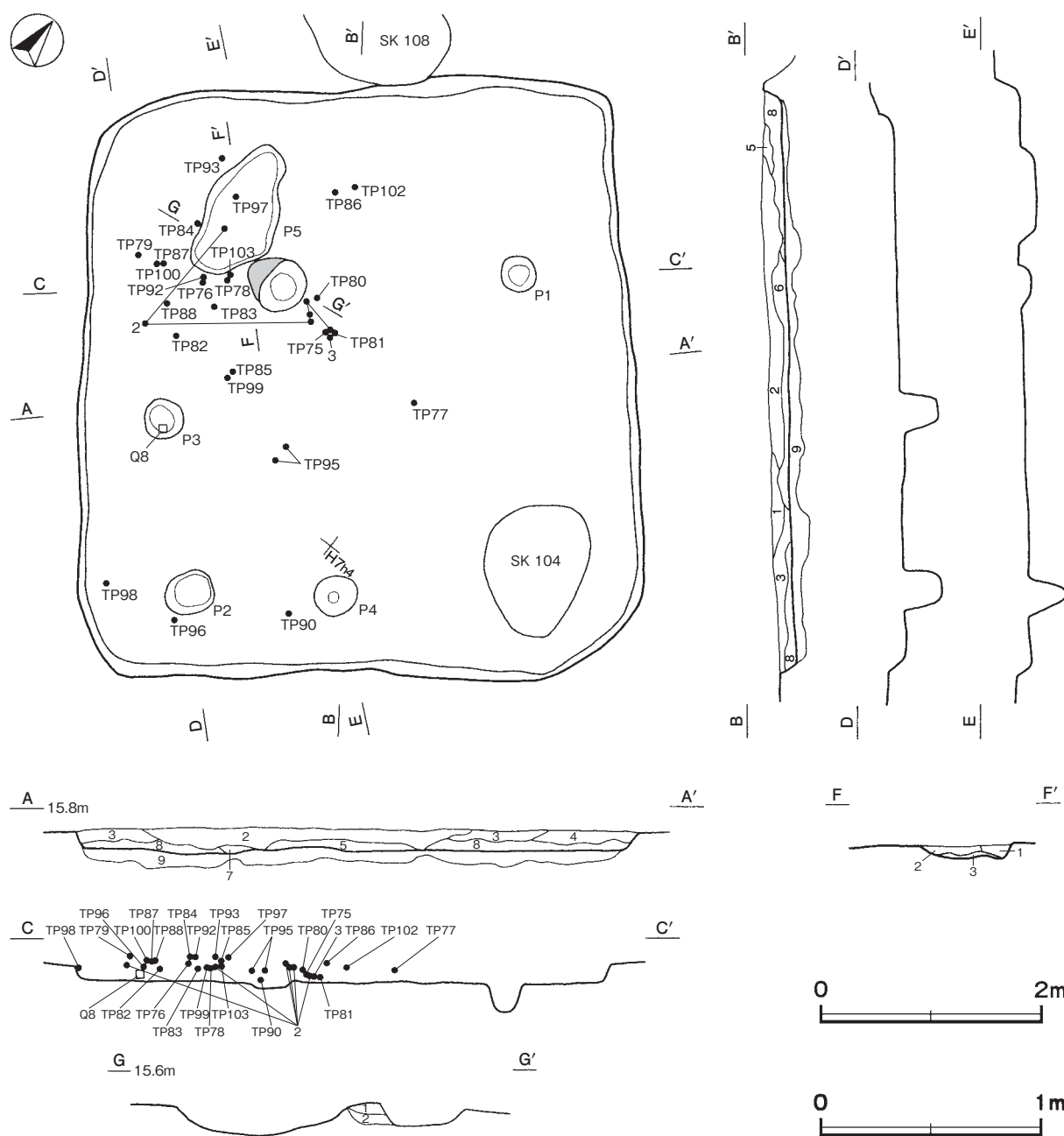
P5土層解説

- | | | | |
|--------|--------------------------|-------|----------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子微量 | | |

覆土 8層に分層できる。ブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。第9層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------|------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 8 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量 | 9 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | | |



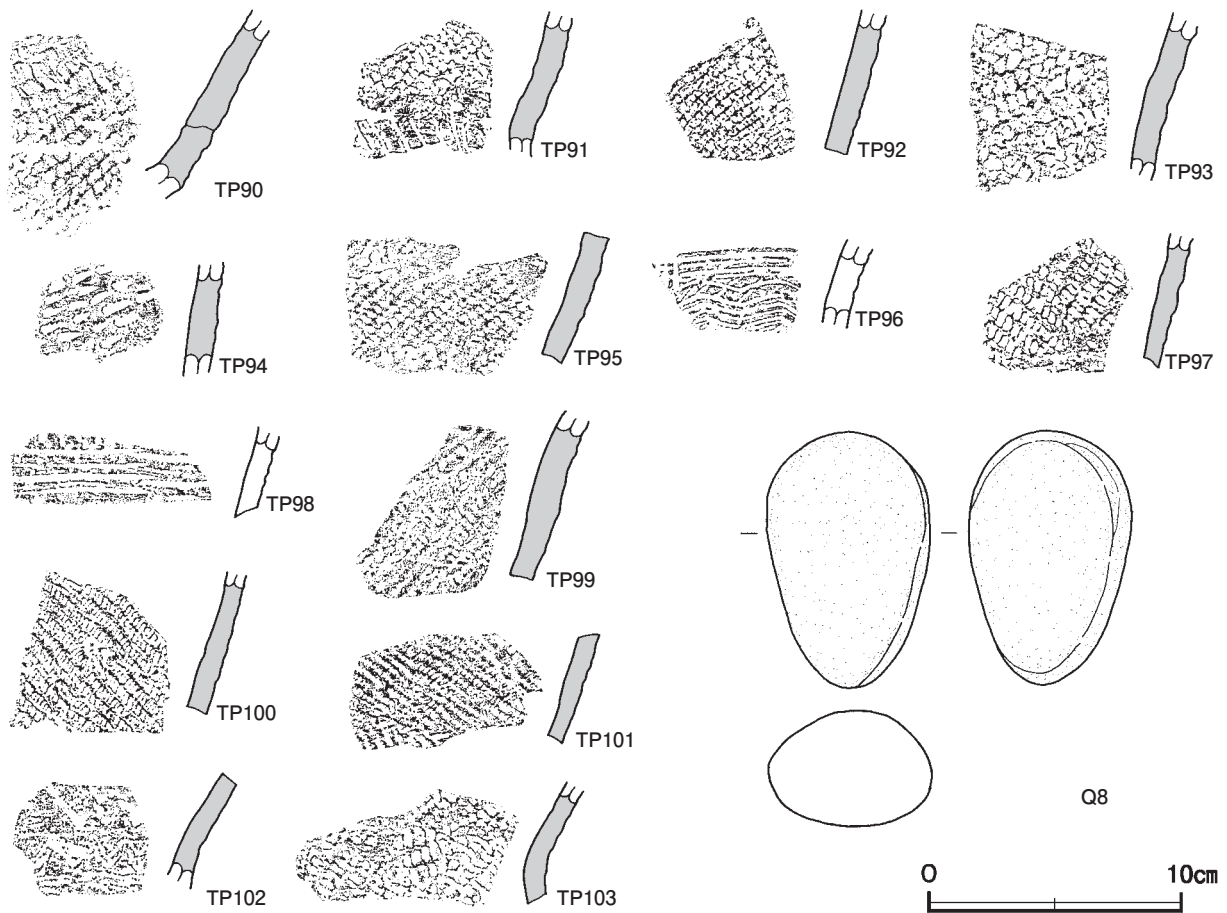
第28図 第25号住居跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片 396 点 (深鉢), 石器 1 点 (磨石), 剥片 1 点, 礫 1 点が出土している。遺物の多くは, 北西部の覆土上層から中層にかけて散在した状態で出土していることから, 廃絶後に北西部を中心に投棄されたものと考えられる。TP75・TP81 は中央部, TP90 は南東部の覆土下層からそれぞれ出土している。3 は中央部, Q 8 は南西部の覆土中層からそれぞれ出土している。2 は中央部から西部にかけての覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は, 出土土器から前期前半と考えられる。



第 29 図 第 25 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第30図 第25号住居跡出土遺物実測図(2)

第25号住居跡出土遺物観察表(第29・30図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
2	縄文土器	深鉢	[20.8]	(24.0)	-	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	普通	LRの単節縄文	覆土中層	40% PL28
3	縄文土器	深鉢	-	(6.2)	8.0	長石・石英・繊維	橙	普通	外面及び底面にLRの単節縄文	覆土中層	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP75	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	爪形文 Rの無節縄文	覆土下層	
TP76	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	RLの単節縄文	覆土上層	
TP77	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	Rの無節縄文 粘土紐貼付	覆土中層	
TP78	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文	覆土中層	
TP79	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	半截竹管による鋸歯状文	覆土上層	
TP80	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	ヘラ状工具による平行沈線 半截竹管による鋸歯状文	覆土中層	
TP81	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	爪形文 Rの無節縄文	覆土下層	
TP82	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	半截竹管による沈線	覆土中層	
TP83	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文	覆土中層	
TP84	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	RLの単節縄文 RRの直前段反撚	覆土上層	
TP85	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	RLの多条縄文	覆土中層	
TP86	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	RLの単節縄文とLRの単節縄文による菱状構成	覆土上層	
TP87	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	RLの単節縄文	覆土上層	
TP88	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明褐	RLの多条縄文	覆土上層	
TP89	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい黄橙	LRの多条縄文	覆土中	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP90	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	LRの単節縄文	覆土下層	
TP91	縄文土器	深鉢	長石・繊維	にぶい黄橙	単節縄文 LR 平行沈線	覆土中	
TP92	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	LRの多条縄文	覆土上層	
TP93	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明褐	LRの単節縄文	覆土上層	
TP94	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	ヘラ状工具による連続の刺突	覆土中	
TP95	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	LRの単節縄文	覆土中層	
TP96	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	櫛歯状工具による波状文	覆土上層	
TP97	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明褐	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成	覆土上層	
TP98	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	半截竹管による沈線	覆土上層	
TP99	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	LRの単節縄文	覆土上層	
TP100	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	RLの多条縄文	覆土上層	
TP101	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	LRの多条縄文	覆土中	
TP102	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	半截竹管による鋸歯状文	覆土上層	
TP103	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	LRの単節縄文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 8	磨石	10.1	6.5	4.6	384.9	安山岩	2面に局所的な磨り痕	覆土中層	

第 26 号住居跡 (第 31・32 区)

位置 調査区南東部の I 7 c0 区, 標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 3 号遺物包含層の掘削後に確認した。第 23 号住居跡を掘り込み, 第 20 号住居, 第 87・101 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 5.34 m, 短軸 5.09 m の隅丸方形で, 長軸方向は N - 66° - W である。壁高は 6 ~ 18 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 硬化した範囲は認められない。

炉 北東寄りに付設されている。長径 44 cm, 短径 39 cm の楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面と同じ高さで, 火を受けて赤変硬化している。

ピット 6 か所。P 1 ~ P 4 は, 深さ 54 ~ 85 cm と深く, 四隅に配置されていることから支柱穴と考えられる。P 5・P 6 は深さ 10 cm・17 cm で, 性格不明である。

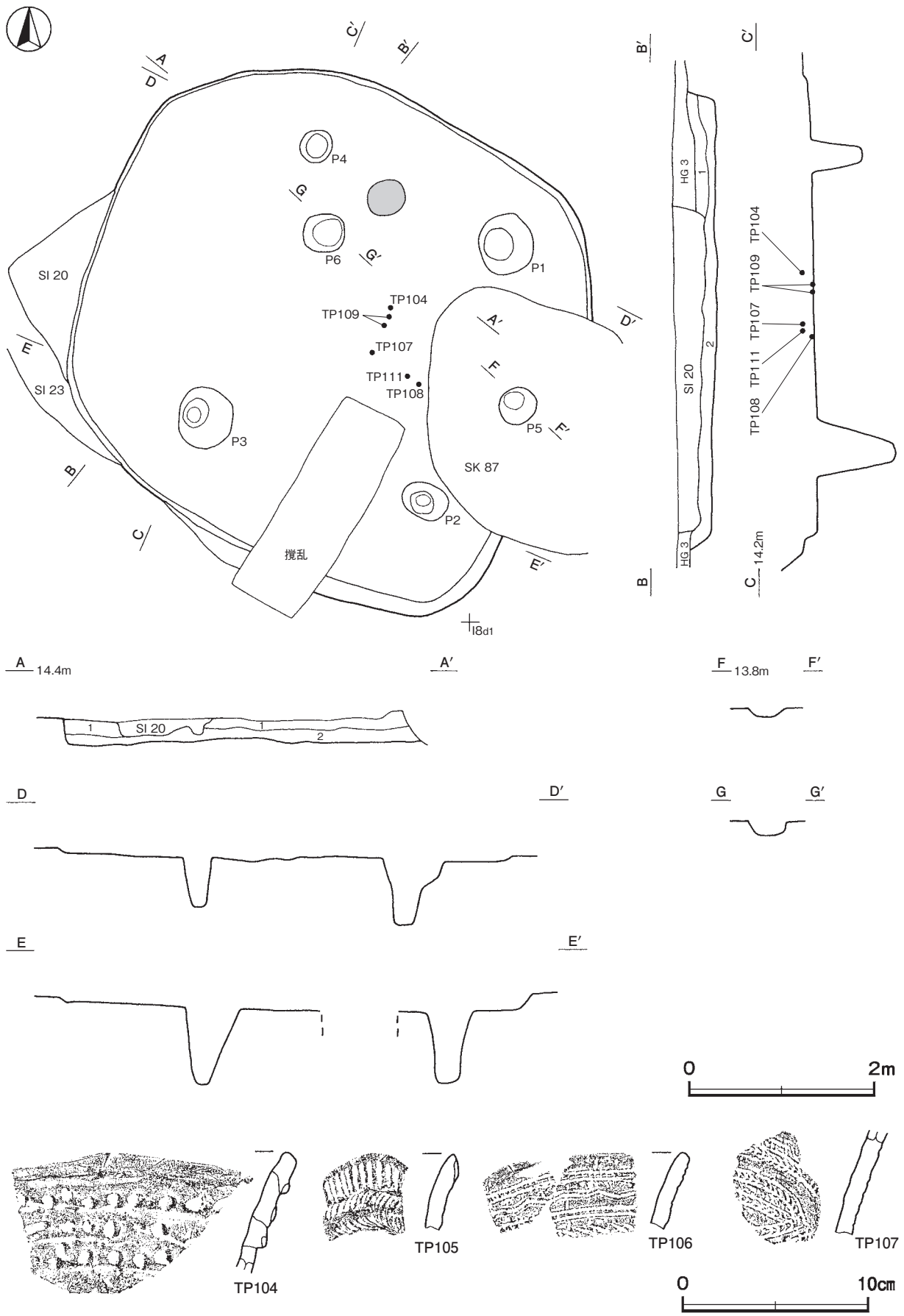
覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

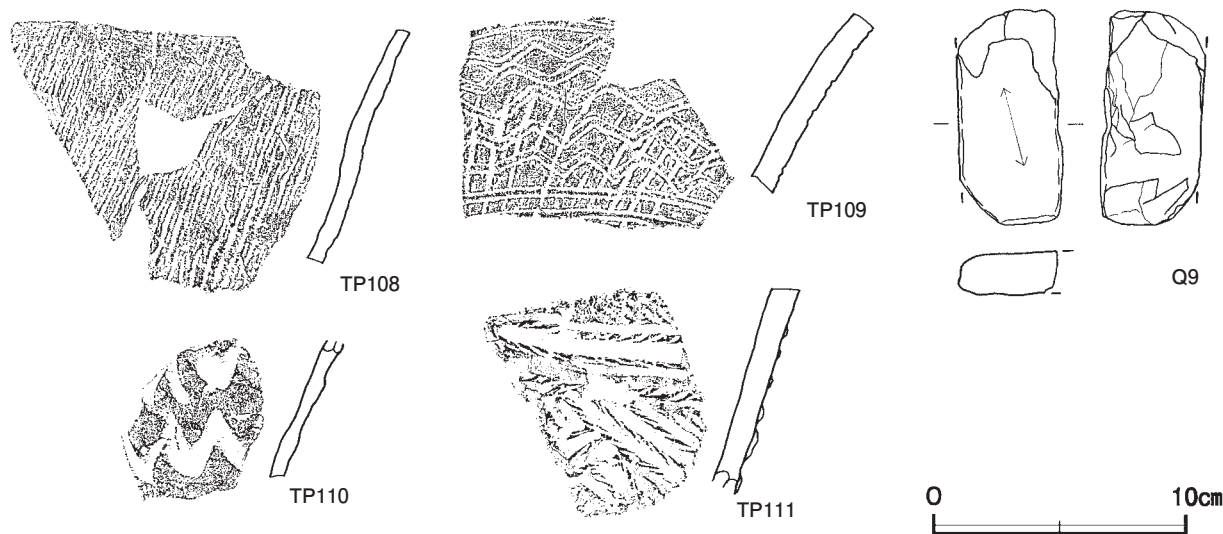
1 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量 2 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 169 点 (深鉢), 石器 1 点 (砥石), 剥片 1 点, 礫 4 点が出土している。TP108 は南東寄り, TP109 は東寄りの床面から出土している。TP104・TP107 は東寄り, TP111 は南東寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期後半の浮島 Ia 式期と考えられる。



第 31 图 第 26 号住居跡・出土遺物実測図



第 32 図 第 26 号住居跡出土遺物実測図

第 26 号住居跡出土遺物観察表 (第 31・32 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP104	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	工具による横位の刺突	覆土中層	
TP105	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に斜位～縦位の条線帯 変形爪形文	覆土中	
TP106	縄文土器	深鉢	長石・石英	黄橙	爪形文 櫛歯状工具による鋸歯状文 斜位のキザミ	覆土中	
TP107	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	RLの単節縄文	覆土中層	
TP108	縄文土器	深鉢	長石・石英	明黄褐	爪形文 撚糸文	床面	
TP109	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	平行沈線文 半截竹管による鋸歯状文	床面	
TP110	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	RLの単節縄文 浮線文	覆土中	
TP111	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	貝殻波状文	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 9	砥石	(8.6)	(4.2)	1.8	(120.0)	緑色凝灰岩	砥面 1 面	覆土中	PL45

第 27 号住居跡 (第 33 図)

位置 調査区南東部の H 7 h2 区, 標高 16 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.06 m, 短軸 2.10 m の隅丸長方形で, 長軸方向は N - 41° - W である。壁高は 24 ~ 32cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 硬化した範囲は認められない。

ピット 2 か所。P 1 は深さ 28cm で, 中央部に位置し, 支柱穴と考えられる。P 2 は深さ 14cm で, 性格不明である。

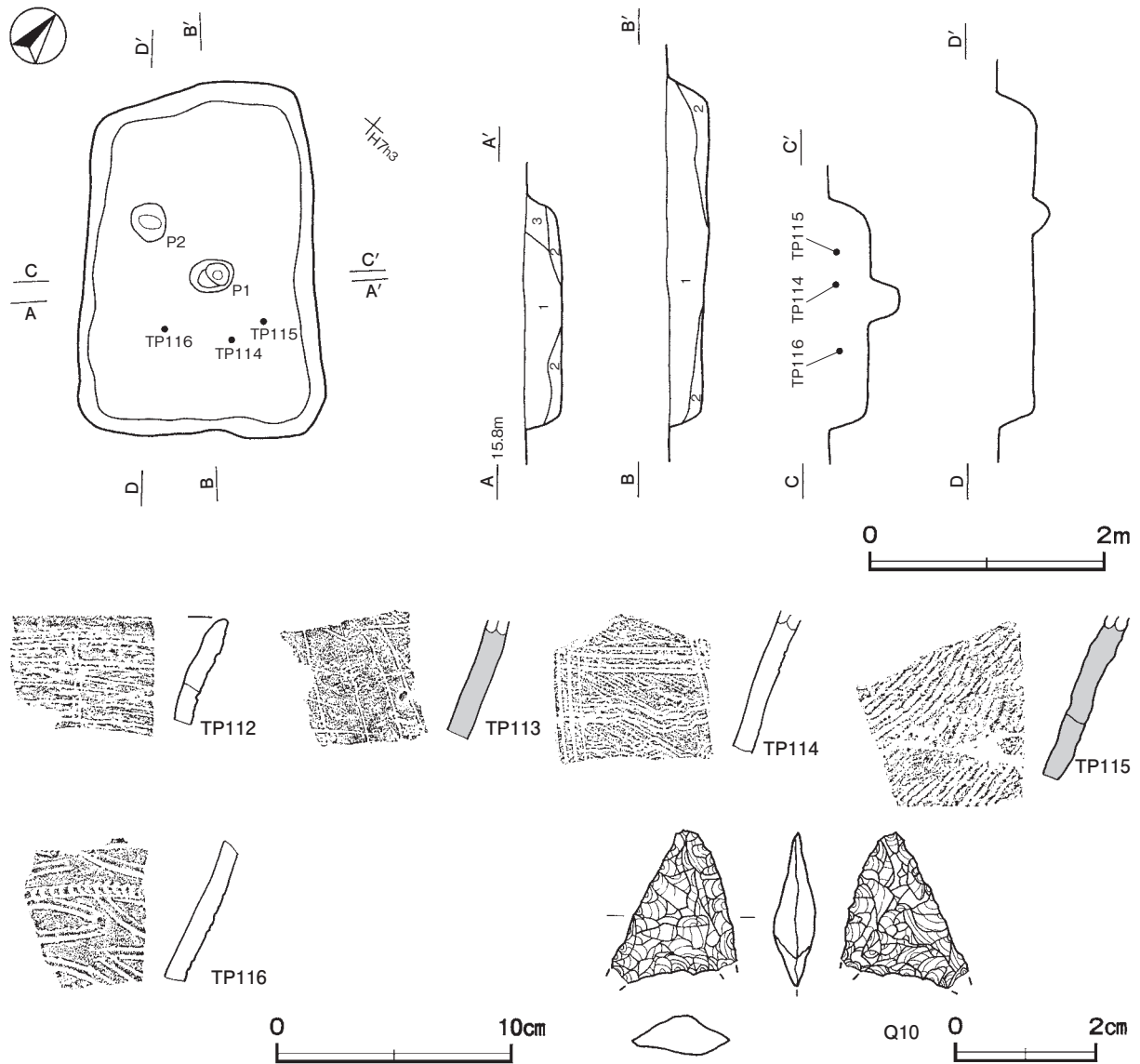
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 41 点 (深鉢), 石器 1 点 (鏃), 剥片 3 点, 礫 2 点が出土している。TP114・TP115 は東寄り, TP116 は南寄りの覆土上層から出土している。

所見 本跡は住居跡としたが、同時期のものと比べ、規模が小さく、炉が無いので、倉庫として使用されていた可能性が考えられる。時期は、出土土器から前期後半の浮島式期と考えられる。



第33図 第27号住居跡・出土遺物実測図

第27号住居跡出土遺物観察表（第33図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP112	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	半截竹管による沈線	覆土中	
TP113	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明黄褐	格子目文	覆土中	
TP114	縄文土器	深鉢	長石・石英	浅黄橙	撚糸文 半截竹管による波状文 半截竹管による沈線	覆土上層	
TP115	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明黄褐	LLの反捺	覆土上層	
TP116	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	木葉文 爪形文	覆土上層	

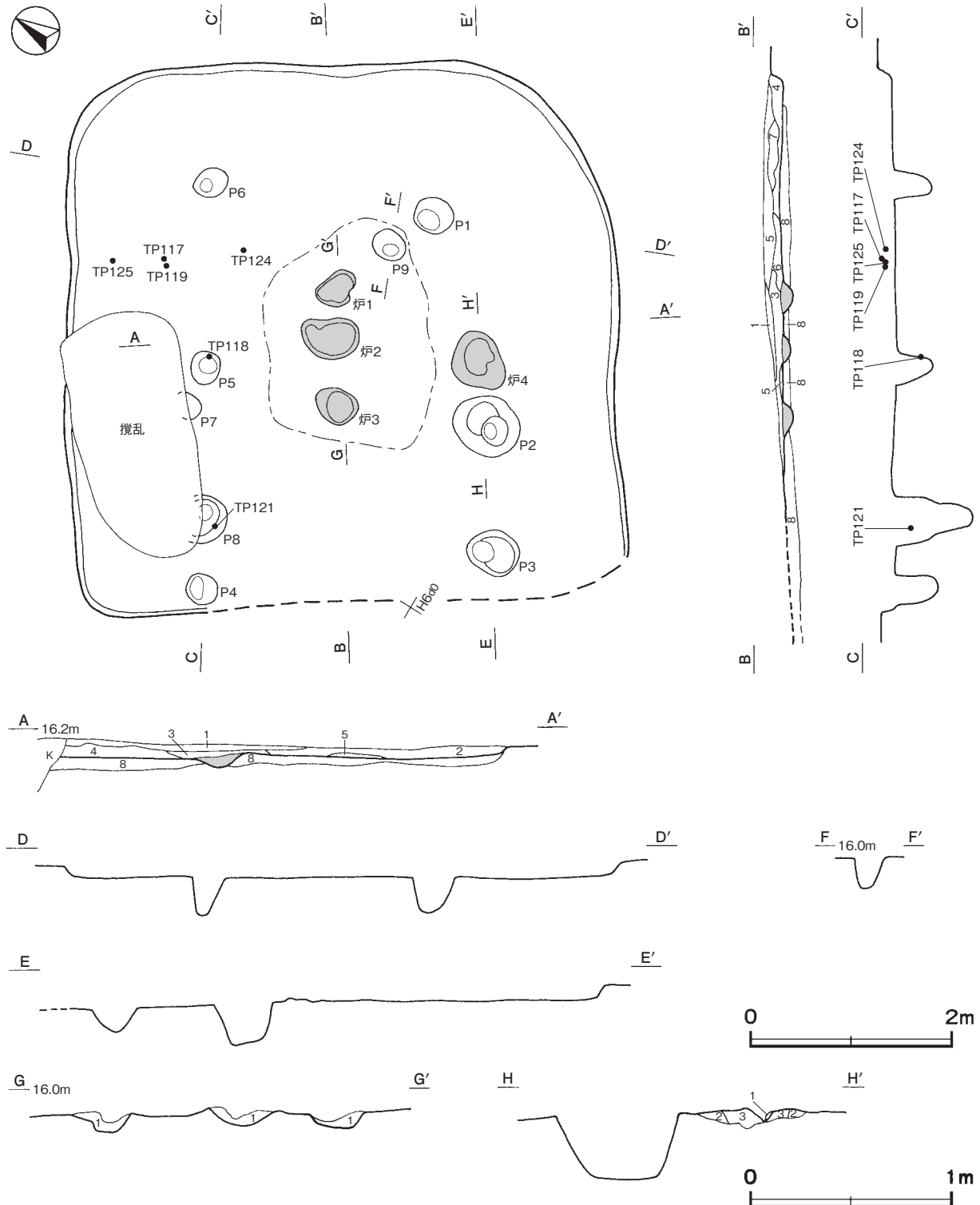
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q10	鏃	(2.3)	(1.8)	0.6	(1.5)	チャート	両面押圧剥離	覆土中	

第 29 号住居跡 (第 34・35 図)

位置 調査区南東部の H 6 c0 区, 標高 16 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 5.55 m, 短軸 5.42 m の隅丸不整形で, 長軸方向は $N - 58^\circ - E$ である。壁高は 10 ~ 16 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で, 中央部が踏み固められている。貼床は, 凹凸に掘りくぼめた部分にロームブロックを



第 34 図 第 29 号住居跡実測図

む第8層を埋土として構築されている。

炉 4か所。炉1～炉3は中央部，炉4は東南寄りにそれぞれ付設されている。炉1は長径40cm，短径22cm，炉2は長径54cm，短径40cm，炉3は長径43cm，短径32cm，炉4は長径61cm，短径48cmで，それぞれ楕円形を呈する地床炉である。炉1～炉3は赤変硬化した層が確認できなかった。炉4の炉床は深さ6cmの皿状に掘りくぼめ，第2・3層を埋め戻して炉床を構築しており，炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉1～炉4土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|------------------|
| 1 褐 色 | ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | 3 赤 褐 色 | 焼土ブロック中量，ローム粒子少量 |
| 2 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量 | | |

ピット 9か所。P1～P6は深さ22～42cmで，配置から主柱穴と考えられる。P7は攪乱を受けているため，深さは不明で，性格不明である。P8・P9は深さ78・31cmで，性格不明である。

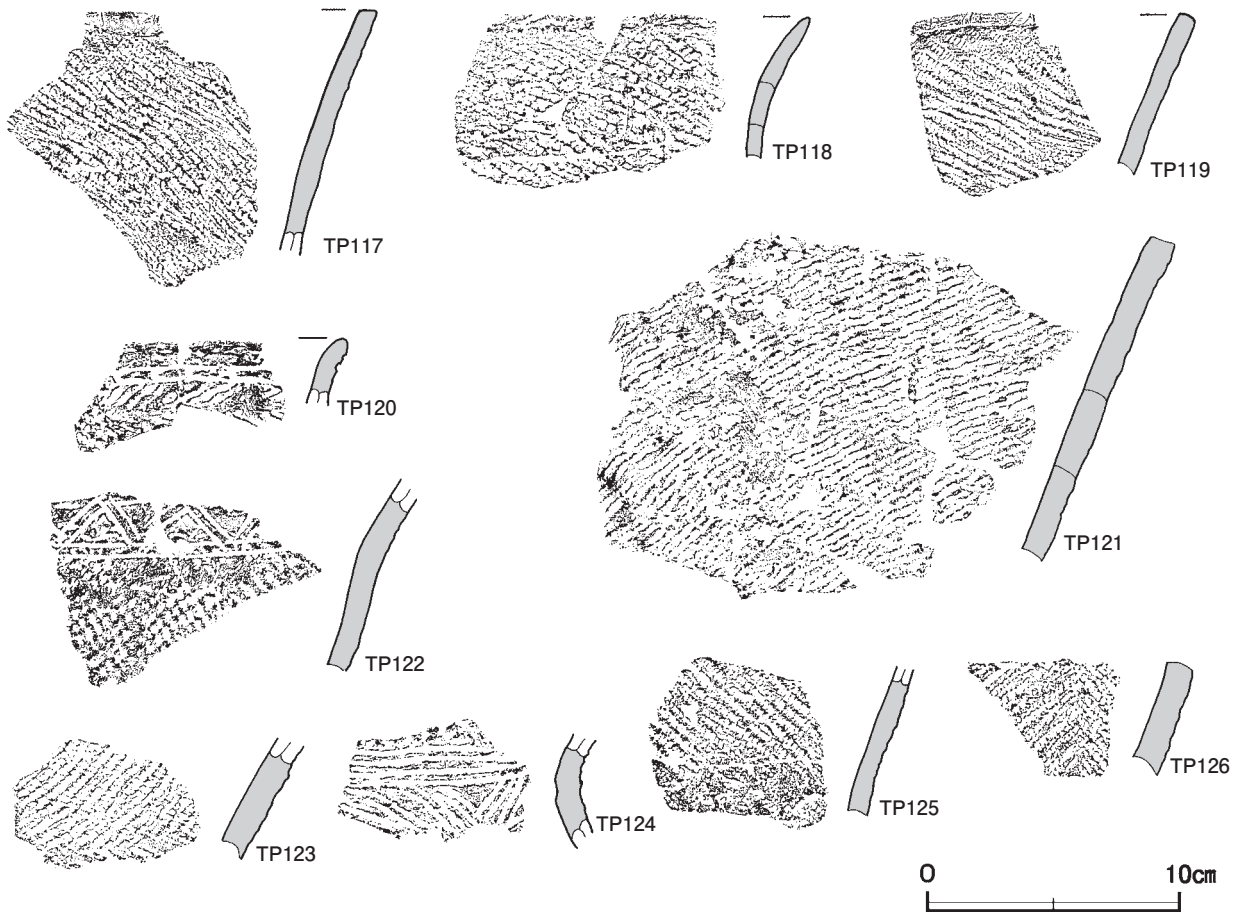
覆土 7層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，ブロック状に堆積していることから，埋め戻されている。第8層は貼床の構築土である。

土層解説

- | | | | |
|---------|---------------------|---------|-----------------------|
| 1 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 赤 褐 色 | ローム粒子少量，焼土ブロック微量 |
| 2 暗 褐 色 | ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 6 褐 色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐 色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | 7 暗 褐 色 | ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗 褐 色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | 8 暗 褐 色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片100点（深鉢）が出土している。TP118はP5の覆土中層から，TP121はP8の覆土上層から，TP117・TP119・TP125は北西部，TP124は北寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は，出土土器から前期前半の黒浜式期と考えられる。



第35図 第29号住居跡出土遺物実測図

第 29 号住居跡出土遺物観察表 (第 35 図)

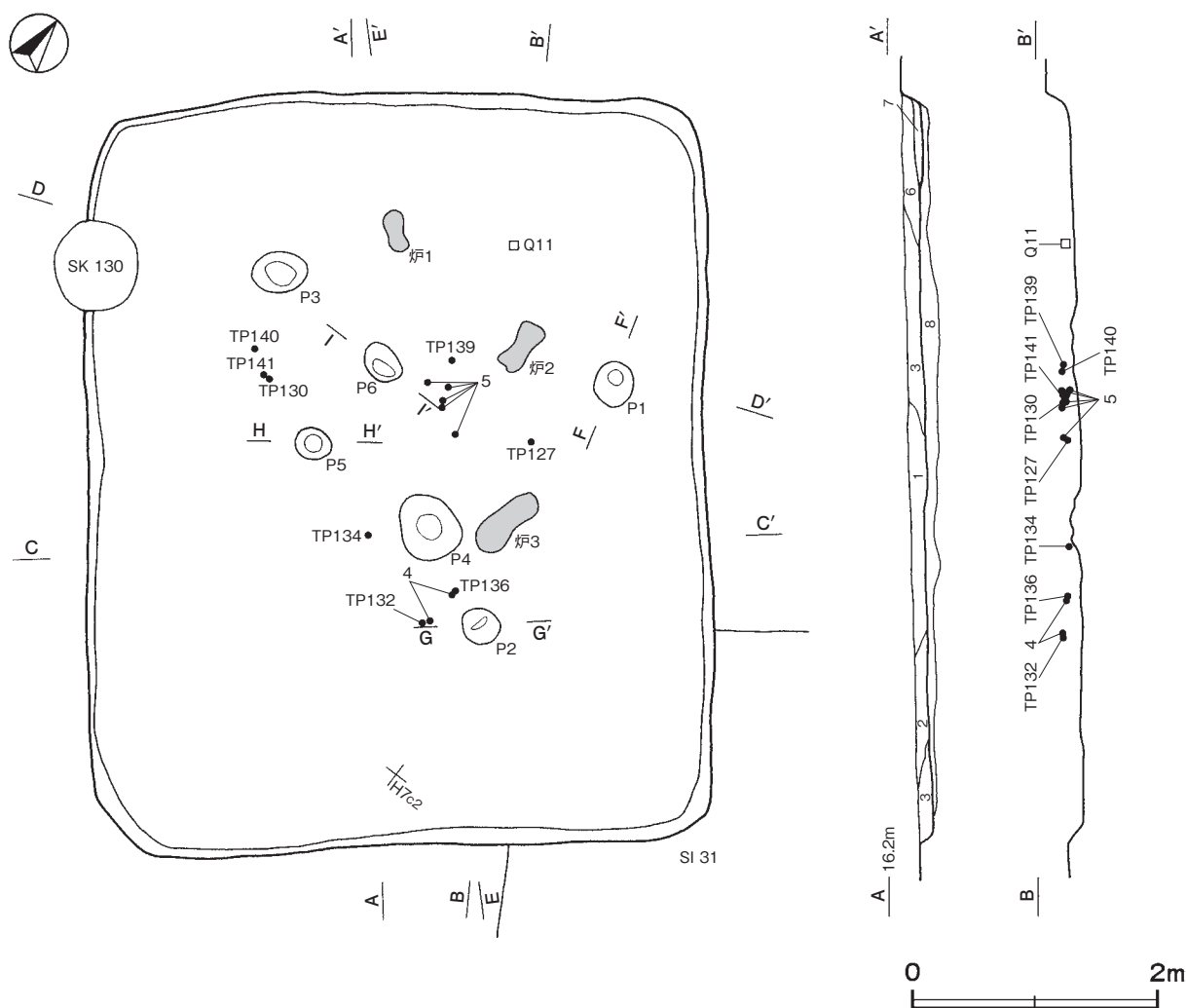
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP117	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	RLの単節縄文	覆土中層	PL35
TP118	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	RLの単節縄文	P5 覆土中層	PL35
TP119	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	RLの0段多条による単節縄文	覆土中層	
TP120	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	爪形文 Lの無節縄文 RLの単節縄文	覆土中	
TP121	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	Lの無節縄文	P8 覆土上層	
TP122	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	LRの単節縄文 半截竹管による鋸歯状文	覆土中	
TP123	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	LRの単節縄文	覆土中	
TP124	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	鋸歯状文	覆土中層	
TP125	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	RLの0段多条による単節縄文	覆土中層	
TP126	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	0段多条による羽状構成	覆土中	

第 30 号住居跡 (第 36 ~ 39 図)

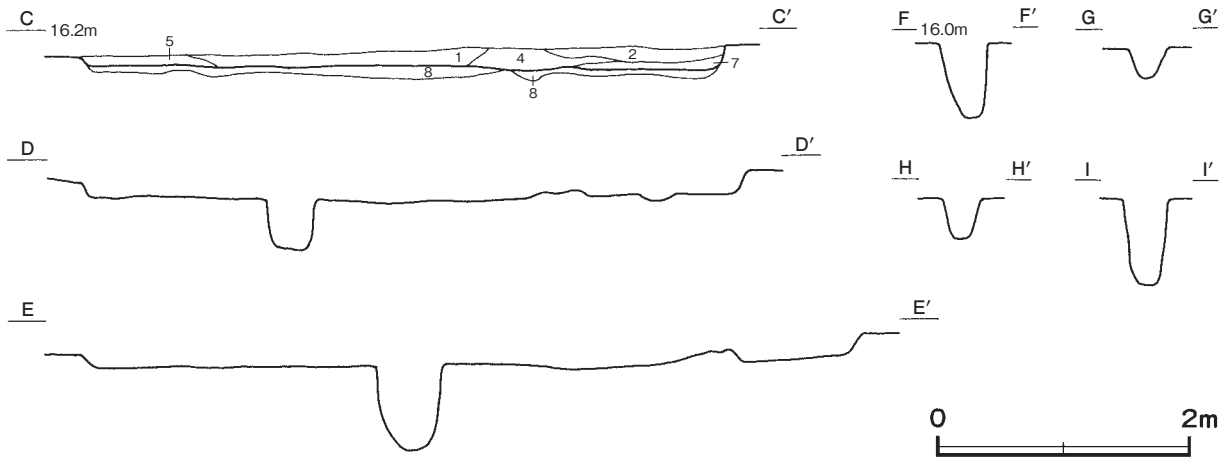
位置 調査区南東部の H 7b1 区, 標高 16 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 31 号住居跡を掘り込み, 第 130 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 6.08 m, 短軸 5.10 m の隅丸長方形で, 長軸方向は N - 36° - W である。壁高は 10 ~ 20 cm で,



第 36 図 第 30 号住居跡実測図 (1)



第 37 図 第 30 号住居跡実測図 (2)

外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、硬化した範囲は認められない。貼床は、凹凸に掘りくぼめた部分にロームブロックを主体とした第 8 層を埋土として構築されている。

炉 3 か所。炉 1 は北西寄り、炉 2・炉 3 は東寄りにそれぞれ付設されている。炉 1 は長径 34cm、短径 12cm、炉 2 は長径 42cm、短径 17cm、炉 3 は長径 61cm、短径 20cm で、それぞれ瓢箪形を呈する地床炉である。炉 1～炉 3 の炉床は床面と同じ高さで、火を受けて赤変硬化している。

ピット 6 か所。P 1～P 3 は深さ 25～60cm で、配置から支柱穴と考えられる。P 4～P 6 は深さ 33～70cm で、性格不明である。

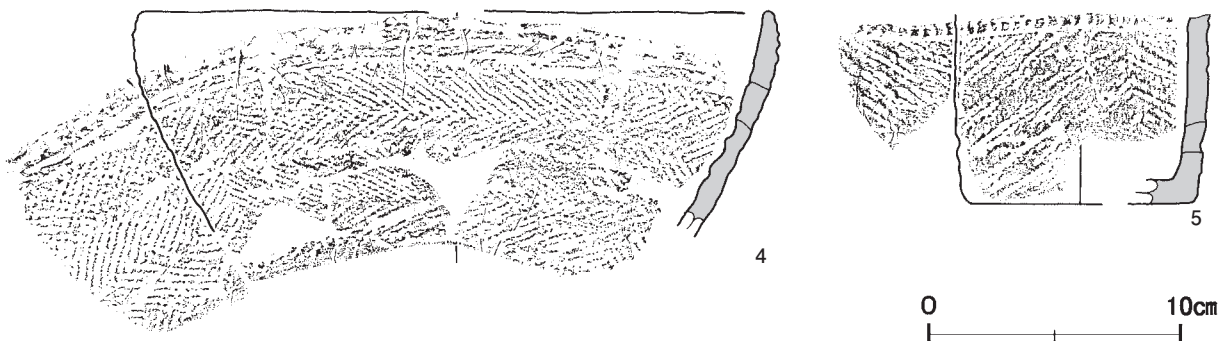
覆土 7 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、ブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。第 8 層は貼床の構築土である。

土層解説

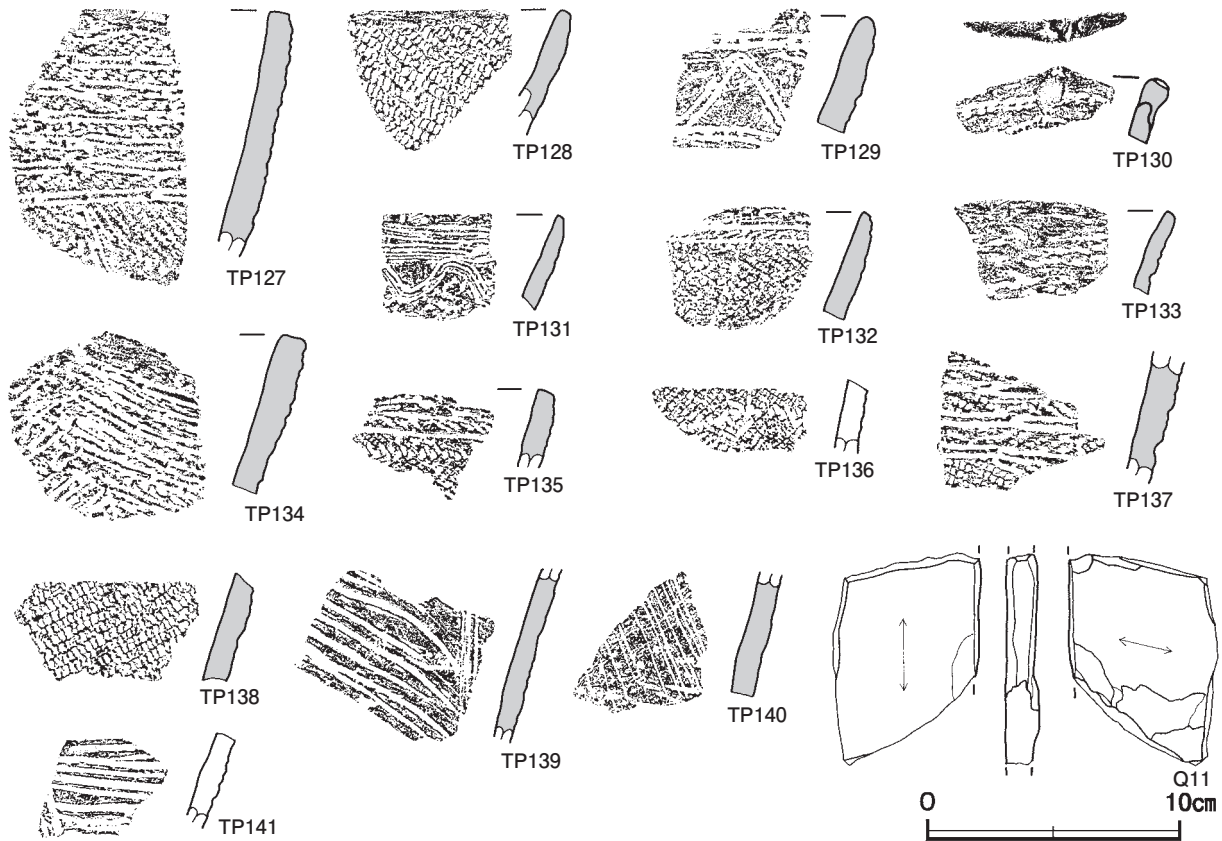
1 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	5 褐色	ロームブロック・炭化物微量
2 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	7 褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
4 褐色	焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 147 点 (深鉢), 石器 1 点 (砥石), 剥片 5 点が出土している。遺物の大半は覆土中層から出土していることから、廃絶時に投棄されたものと考えられる。TP134 は南寄り、5 は北東寄りの覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から前期前半の黒浜式期と考えられる。



第 38 図 第 30 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 39 図 第 30 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 30 号住居跡出土遺物観察表 (第 38・39 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
4	縄文土器	深鉢	[25.0]	(8.9)	-	長石・石英・繊維	橙	普通	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成	覆土中層	30% PL29
5	縄文土器	深鉢	-	(7.5)	[8.8]	長石・石英・繊維	橙	普通	爪形文 付加条1種縄文による羽状構成	覆土下層	10% PL31

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP127	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄褐	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成 半截竹管による沈線	覆土中層	
TP128	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	RLの単節縄文	覆土中	
TP129	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	爪形文 半截竹管による鋸歯状文	覆土中	
TP130	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	口唇部に工具による刺突 爪形文 指頭圧痕	覆土中層	
TP131	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	LRの単節縄文 櫛歯文 櫛歯状工具による波状文	覆土中	
TP132	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明褐	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成 半截竹管による平行沈線文	覆土中層	
TP133	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	半截竹管による連続の刺突	覆土中	
TP134	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	半截竹管による肋骨文	覆土下層	
TP135	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文とLRの単節縄文の結束による羽状構成 半截竹管による沈線	覆土中	
TP136	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	RLの多条文とLRの多条文の結束による菱状構成	覆土中層	
TP137	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文 平行沈線文	覆土中	
TP138	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明黄褐	LRの単節縄文	覆土中	
TP139	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	半截竹管による肋骨文	覆土中層	
TP140	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	半截竹管による沈線	覆土中層	
TP141	縄文土器	深鉢	長石・石英	明黄褐	半截竹管による肋骨文	覆土中層	

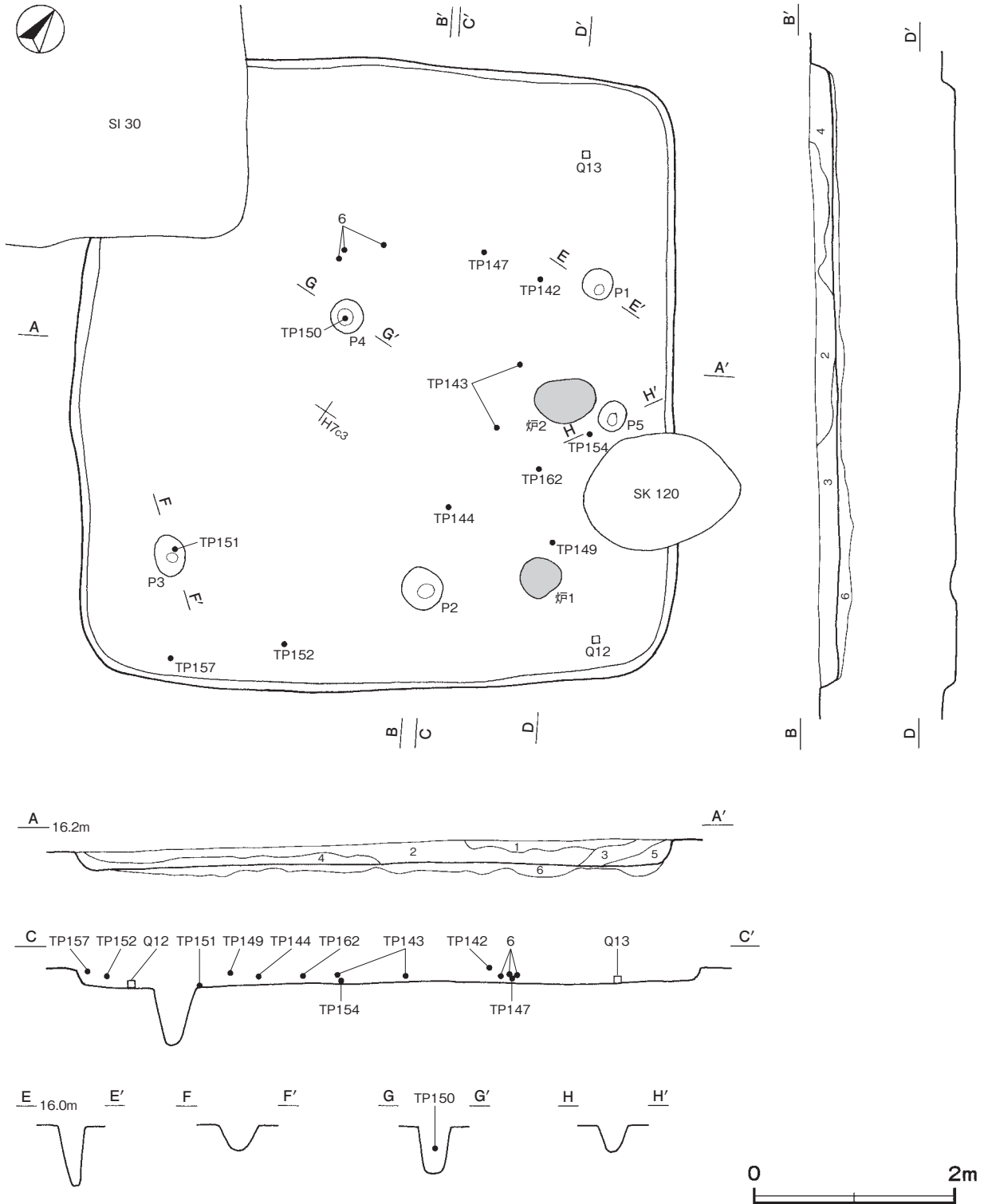
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 11	砥石	(8.3)	(5.9)	(1.5)	(111.7)	安山岩	両面研磨	覆土下層	PL45

第 31 号住居跡 (第 40 ~ 42 図)

位置 調査区南東部の H 7b2 区, 標高 16 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 30 号住居, 第 120 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 6.26 m, 短軸 6.04 m の隅丸長方形で, 長軸方向は N - 31° - W である。壁高は 10 ~ 16cm で,



第 40 図 第 31 号住居跡実測図

外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、硬化した範囲は認められない。貼床は、凹凸に掘りくぼめた部分にロームブロック・炭化粒子を含む第6層を埋土として構築されている。

炉 2か所。炉1は東コーナー部、炉2は東部にそれぞれ付設されている。炉1は長径40cm、短径38cm、炉2は長径58cm、短径43cmで、それぞれ楕円形を呈する地床炉である。炉1・炉2の炉床は床面と同じ高さで、火を受けて赤変硬化している。

ピット 5か所。P1～P4は深さ24～58cmで、配置と形状から支柱穴と考えられる。P5は深さ27cmで、性格不明である。

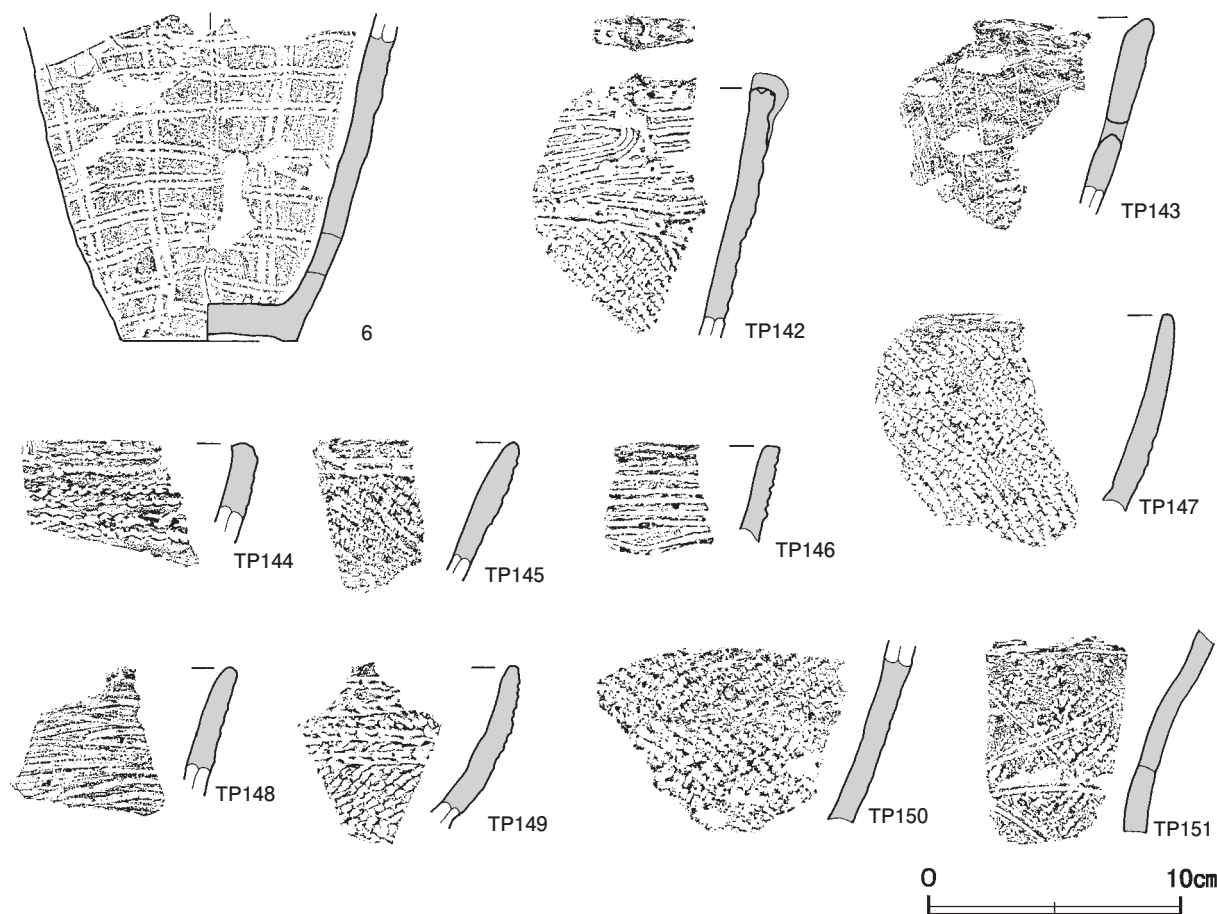
覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、ブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。第6層は貼床の構築土である。

土層解説

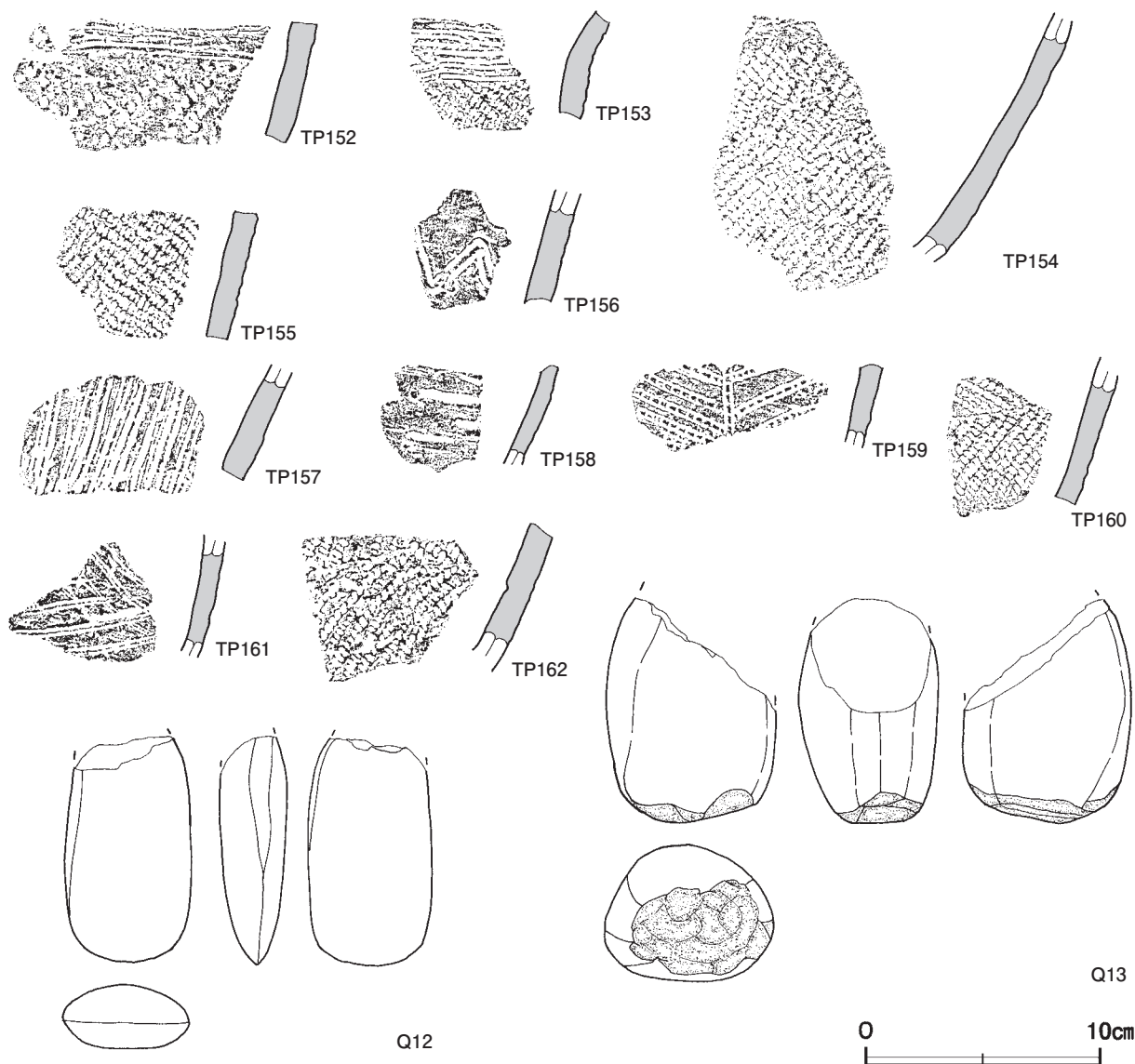
- | | | | |
|-------|-------------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片264点（深鉢）、石器2点（磨製石斧、敲石）、剥片6点が出土している。TP150はP4の覆土中層から、TP154は東部、Q12は東コーナー部、Q13は北コーナー部、TP151は南コーナー部の床面から出土している。6は北西寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から前期前半の黒浜式期と考えられる。



第41図 第31号住居跡出土遺物実測図（1）



第 42 図 第 31 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 31 号住居跡出土遺物観察表 (第 41・42 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
6	縄文土器	深鉢	-	[13.1]	[7.0]	長石・石英・繊維	橙	普通	半截竹管の沈線による格子目文	覆土中層	30% PL28
番号	種別	器種	胎土		色調		文様の特徴ほか			出土位置	備考
TP142	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維		橙		RLの単節縄文 5本1単位の櫛歯状工具による流水文 円形竹管文 口唇部に爪形文			覆土上層	PL35
TP143	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維		にぶい褐		格子目文 穿孔			覆土中層	
TP144	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維		にぶい黄橙		コンパス文			覆土中層	
TP145	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維		にぶい橙		RLの多条縄文 半截竹管による沈線			覆土中	
TP146	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維		にぶい橙		半截竹管による沈線			覆土中	
TP147	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維		にぶい黄橙		RLの単節縄文			覆土中層	
TP148	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維		にぶい黄橙		半截竹管による沈線			覆土中	
TP149	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維		にぶい橙		Lの無節縄文 爪形文			覆土上層	
TP150	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維		にぶい橙		RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成			P4 覆土中層	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP151	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	LRの単節縄文 半截竹管による沈線	床面	
TP152	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	LRの単節縄文 半截竹管による沈線	覆土中層	
TP153	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文 半截竹管による沈線	覆土中	
TP154	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	LRの単節縄文	床面	
TP155	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	RLの単節縄文	覆土中	
TP156	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	半截竹管による鋸歯状文	覆土中	
TP157	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	櫛歯状工具による平行沈線文	覆土上層	
TP158	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	ヘラ状工具による沈線	覆土中	
TP159	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	爪形文による肋骨文	覆土中	
TP160	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文とLRの単節縄文の羽状構成	覆土中	
TP161	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	撚糸側面圧痕による菱形文	覆土中	
TP162	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 12	磨製石斧	(9.7)	5.4	2.8	(240.0)	緑色凝灰岩	両面研磨	床面	PL44
Q 13	敲石	(9.6)	7.2	5.9	(495.1)	花崗斑岩	敲打痕	床面	PL45

第 32 号住居跡（第 43～46 図）

位置 調査区南東部の G 7 i3 区，標高 16 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 5.82 m，短軸 5.29 m の隅丸長方形で，長軸方向は N - 30° - E である。壁高は 28～34 cm で，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

炉 4 か所。炉 1～炉 4 はいずれも中央部に付設されている。炉 1 は長径 80 cm，短径 72 cm，炉 2 は長径 62 cm，短径 45 cm，炉 3 は長径 55 cm，短径 47 cm，炉 4 は長径 50 cm，短径 45 cm で，それぞれ楕円形を呈する地床炉である。炉 1・炉 2・炉 3・炉 4 はそれぞれ深さ 10 cm，12 cm，3 cm，5 cm の皿状に掘りくぼめ，第 1～3 層を埋め戻して炉床を構築している。

炉 1～炉 4 土層解説

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 赤褐色 焼土ブロック中量，ロームブロック微量 | 3 赤褐色 焼土ブロック少量，ロームブロック微量 |
| 2 赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量 | |

ピット 6 か所。P 1～P 3 は深さ 38～52 cm で，配置から支柱穴と考えられる。P 4～P 6 は深さ 23～42 cm で，性格不明である。

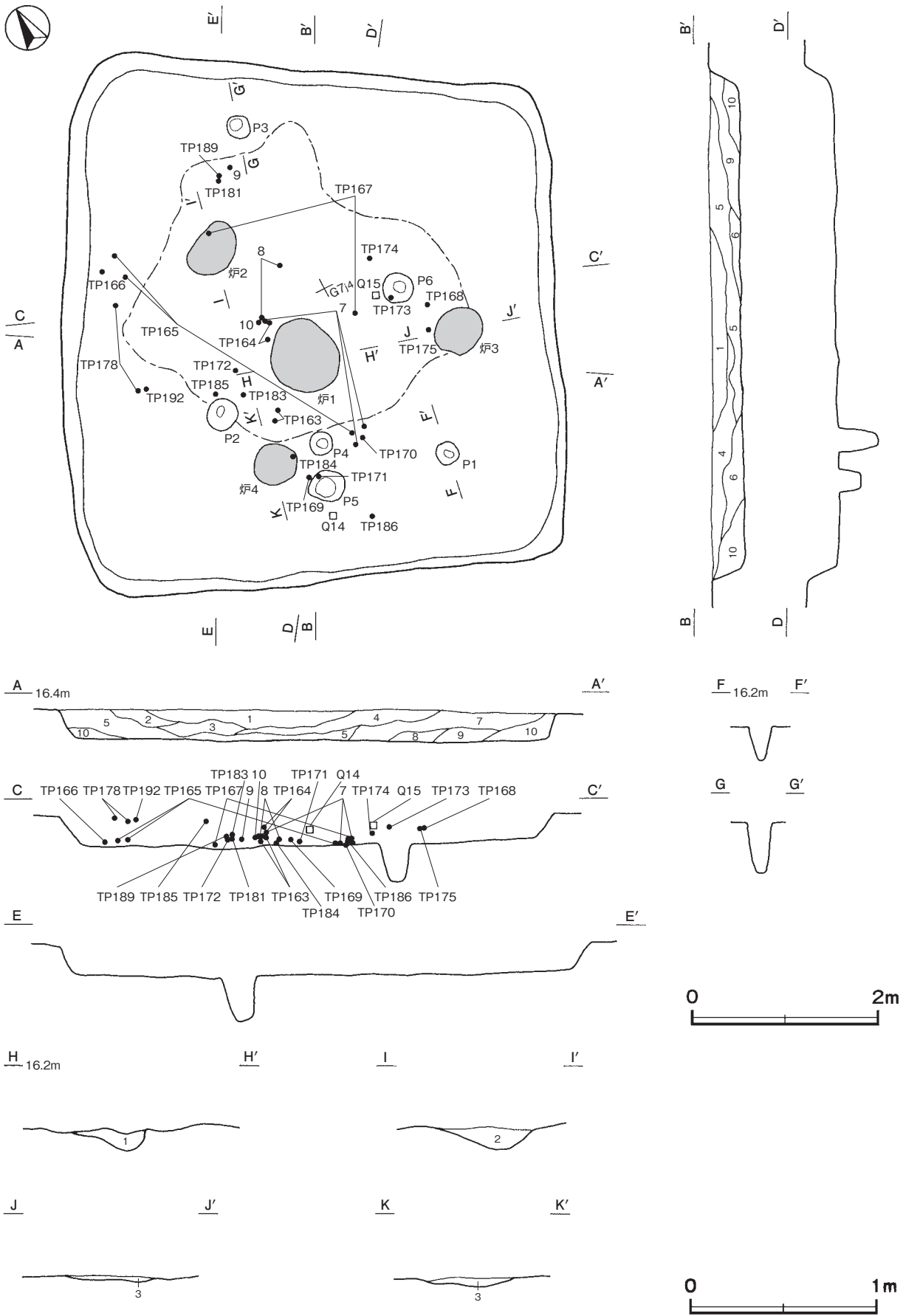
覆土 10 層に分層できる。ブロック状に堆積していることから，埋め戻されている。

土層解説

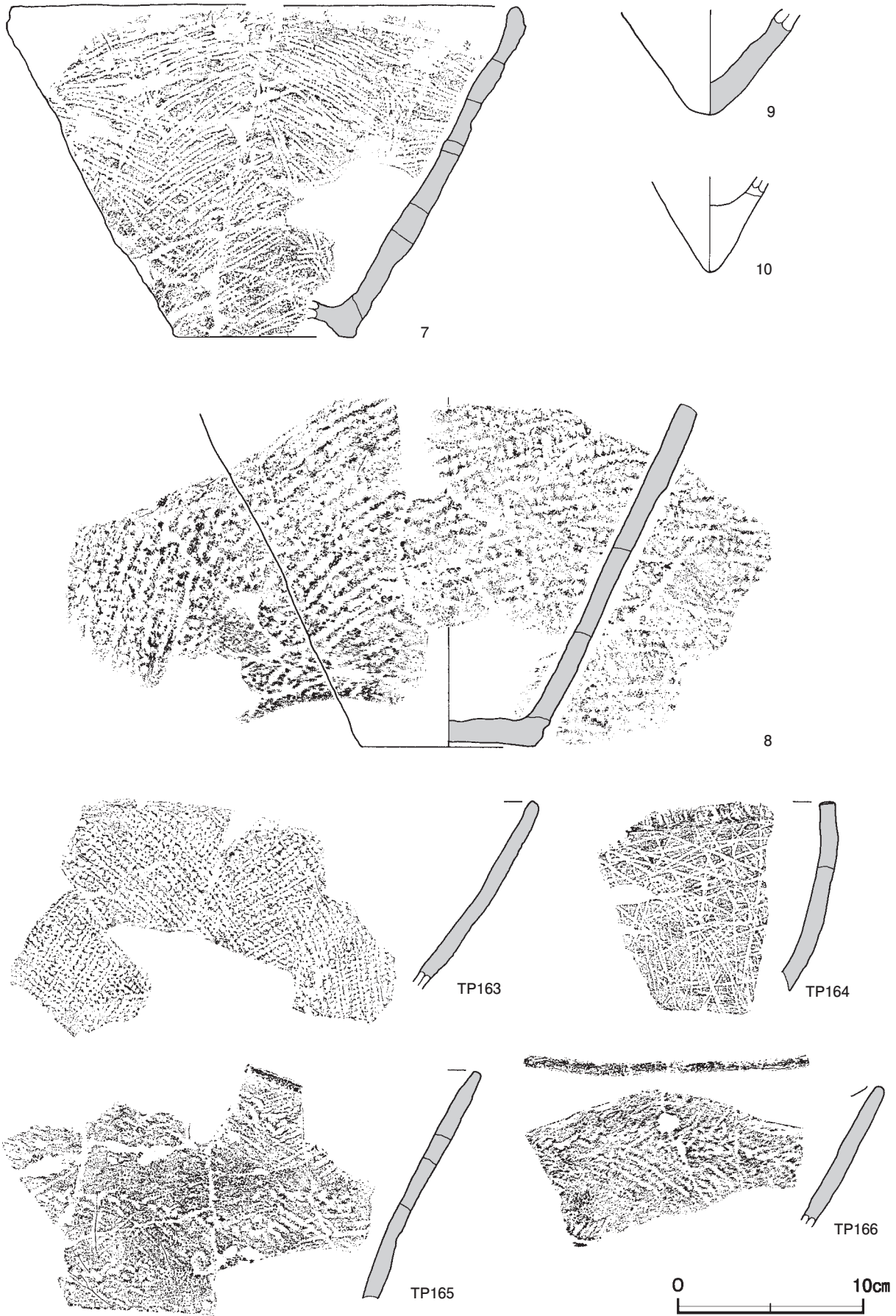
- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 1 極暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量，炭化物・焼土粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 暗褐色 ロームブロック少量，焼土粒子微量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 10 褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 527 点（深鉢），石器 2 点（石皿，敲石），剥片 6 点が，中央部から南部の覆土上層から床面にかけて散在した状態で出土している。TP184 は炉 4 の直上，TP170・TP186 は南部の床面からそれぞれ出土している。TP165 は南寄りの床面と北西部の覆土下層，7・8・TP163・TP167 は中央部の覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。TP171 は南西部の覆土下層から出土している。

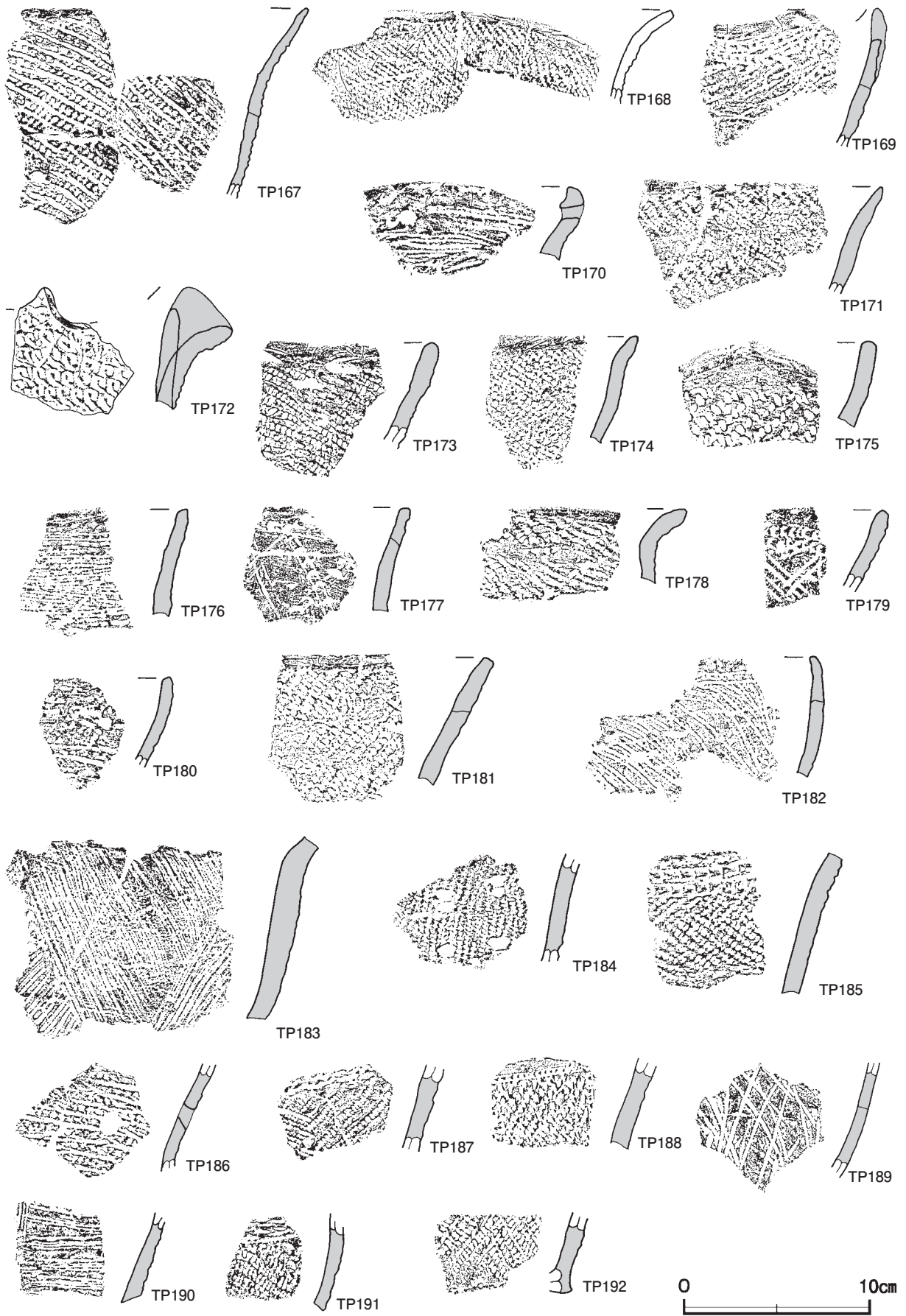
所見 時期は，出土土器から前期前半の黒浜式期と考えられる。



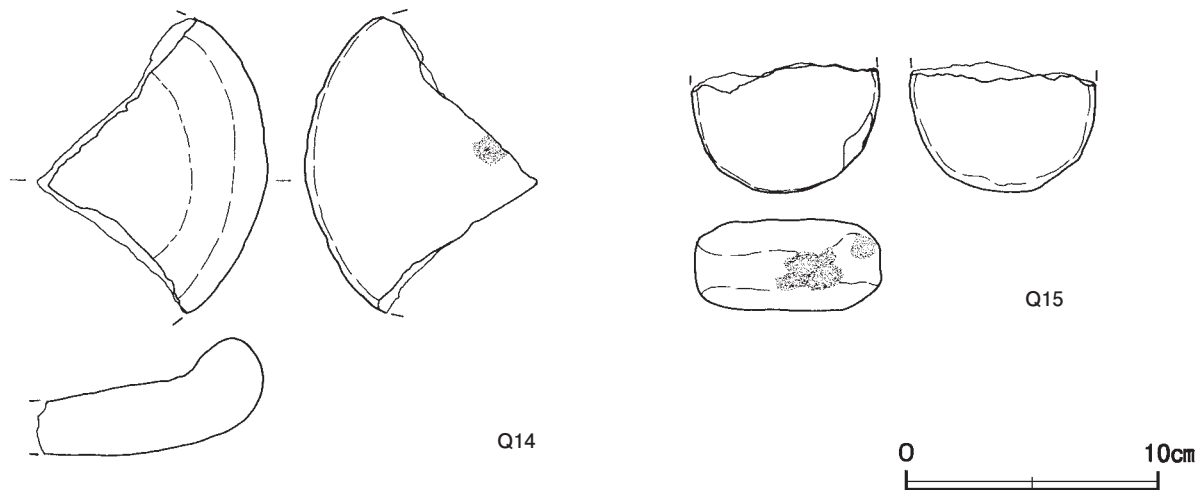
第 43 图 第 32 号住居跡実测图



第44図 第32号住居跡出土遺物実測図(1)



第 45 图 第 32 号住居跡出土遺物実測図 (2)



第46図 第32号住居跡出土遺物実測図(3)

第32号住居跡出土遺物観察表(第44~46図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
7	縄文土器	深鉢	[27.0]	17.9	[9.6]	長石・石英・ 繊維	黄橙	普通	半截竹管の沈線による肋骨文 爪形文	覆土下層	40% PL29
8	縄文土器	深鉢	-	(18.5)	9.4	長石・石英・ 繊維	にぶい橙	普通	LRの単節縄文	覆土下層	40% PL28
9	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英・ 繊維	橙	普通	尖底	覆土中層	5%
10	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英	橙	普通	尖底	覆土中層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP163	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	附加条一種(附加1条)縄文による羽状構成	覆土下層	
TP164	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	口唇部にキザミ ヘラ状工具による格子目文	覆土中層	PL35
TP165	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明褐	Rの無節縄文とLの無節縄文の結束による羽状構成	覆土床面~ 下層	
TP166	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	Rの無節縄文とLの無節縄文の結束による羽状構成	覆土下層	
TP167	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	RRの合捺	覆土下層	
TP168	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	RLの単節縄文	覆土上層	
TP169	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	爪形文 RLの単節縄文	覆土中層	
TP170	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	爪形文 平行沈線文 穿孔	床面	
TP171	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文	覆土下層	
TP172	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	ループ文	覆土中層	PL35
TP173	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文	覆土上層	
TP174	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	RLの単節縄文	覆土中層	
TP175	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	LRの前々段反捺	覆土上層	
TP176	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	半截竹管による沈線	覆土中	
TP177	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	爪形文 半截竹管の沈線による格子目文	覆土中	
TP178	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文	覆土上層	
TP179	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	爪形文 半截竹管の沈線による格子目文	覆土中	
TP180	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	LRの単節縄文 沈線 穿孔	覆土中	
TP181	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	LRの単節縄文	覆土中層	
TP182	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	斜位の沈線 横位の沈線	覆土中	
TP183	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	櫛歯文	覆土中層	PL35
TP184	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	LRの単節縄文 工具による沈線	炉4直上	
TP185	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成	覆土上層	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP186	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	附加条一種（附加1条）縄文 穿孔	床面	
TP187	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	附加条二種（附加1条）縄文による羽状構成	覆土中	
TP188	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	LRの複節縄文	覆土中	
TP189	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	格子目文	覆土中層	
TP190	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	櫛歯文	覆土中	
TP191	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文 ヘラ状工具による刺突	覆土中	
TP192	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	附加条一種（附加1条）縄文による羽状構成	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 14	石皿	(11.7)	(9.2)	4.1	(330.0)	安山岩	表面磨り痕 凹部1か所	覆土上層	PL45
Q 15	敲石	(5.2)	(7.5)	3.6	(180.4)	石英斑岩	敲打痕	覆土上層	

第33号住居跡（第47図）

位置 調査区南東部のH7b6区、標高16mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 中央部に第2号地点貝塚が形成されている。

規模と形状 長軸4.40m、短軸4.08mの隅丸方形で、長軸方向はN-87°-Wである。壁高は6～14cmで、外傾して立ち上がっている。

床 やや凹凸があり、中央部から北東部にかけて踏み固められている。

炉 2か所。炉1・炉2はいずれも北西部に付設されている。炉1は南部が攪乱を受けているため、長径は30cmで、短径は10cmしか確認できなかった。楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面と同じ高さで、火を受けて赤変硬化している。炉2は北西部が攪乱を受けているため、長径は40cmで、短径は12cmしか確認できなかった。楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面と同じ高さで、火を受けて赤変硬化している。

ピット 11か所。P1～P8は深さ14～47cmで、配置から支柱穴と考えられる。P9・P10は深さ17cm・22cmで、補助的な役割を有する柱穴と考えられる。P11は深さ13cmで、性格不明である。

覆土 単一層である。ロームブロックや炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。その後、貝層が形成されている。

土層解説

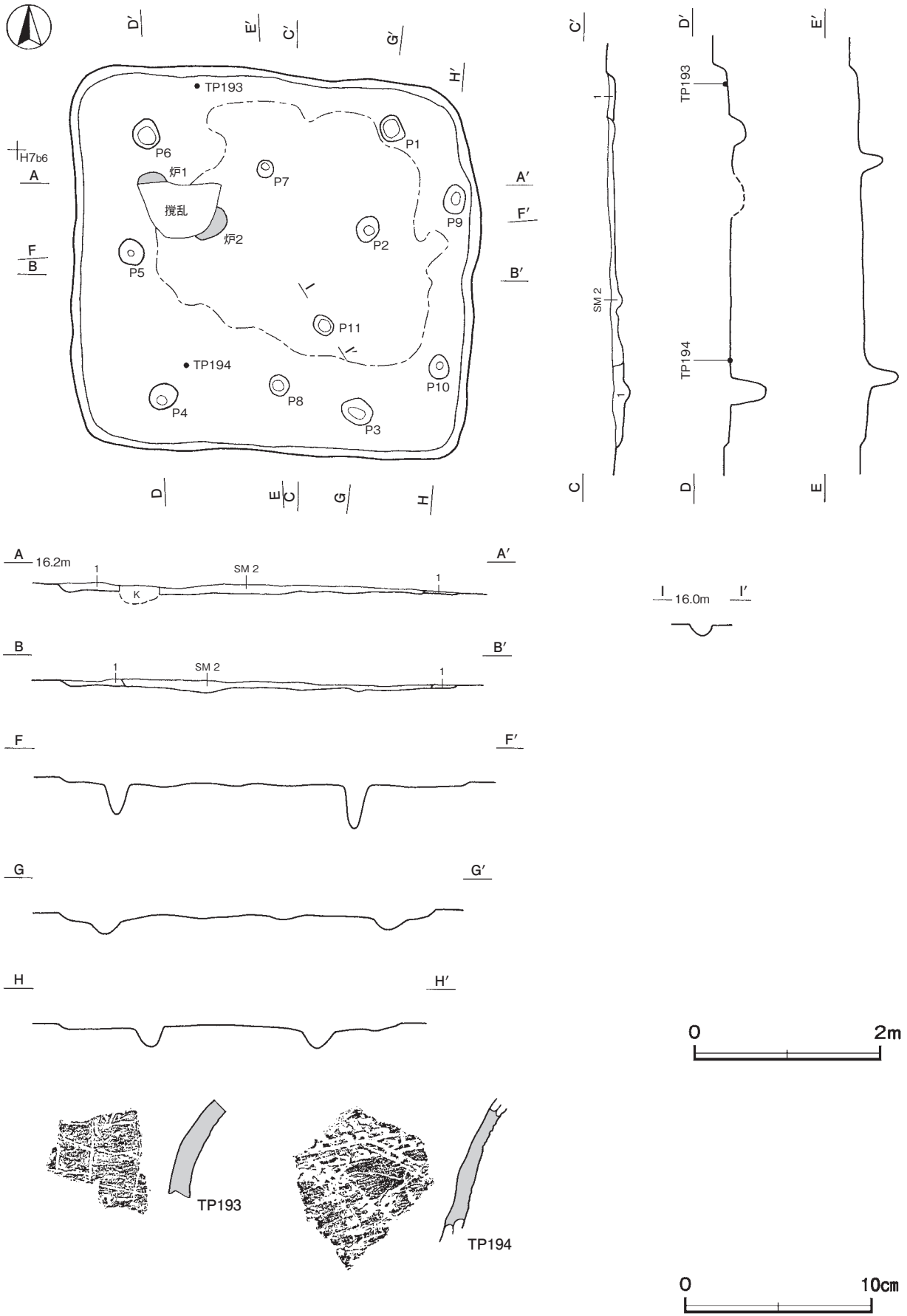
1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子・破砕貝微量

遺物出土状況 縄文土器片18点（深鉢）、礫1点が出土している。TP193は北壁際、TP194は南西部の床面からそれぞれ出土している。

所見 覆土と貝層の堆積状況から、貝は本跡の廃絶後間もなく廃棄されている。時期は、出土土器から前期前半の黒浜式期と考えられる。

第33号住居跡出土遺物観察表（第47図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP193	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明黄褐	格子目文	床面	
TP194	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	爪形文	床面	



第 47 図 第 33 号住居跡・出土遺物実測図

第 34 号住居跡 (第 48・49 図)

位置 調査区南東部の G7h6 区, 標高 16 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 4.05 m, 短軸 3.55 m の隅丸長方形で, 長軸方向は N - 21° - E である。壁高は 20 ~ 26cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 硬化した範囲は認められない。

炉 北寄りに付設されている。長径 46cm, 短径 34cm の楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面と同じ高さで, 火を受けて赤変硬化している。

ピット 2 か所。P1・P2 は深さ 36cm・42cm で, 対になる配置から支柱穴と考えられる。

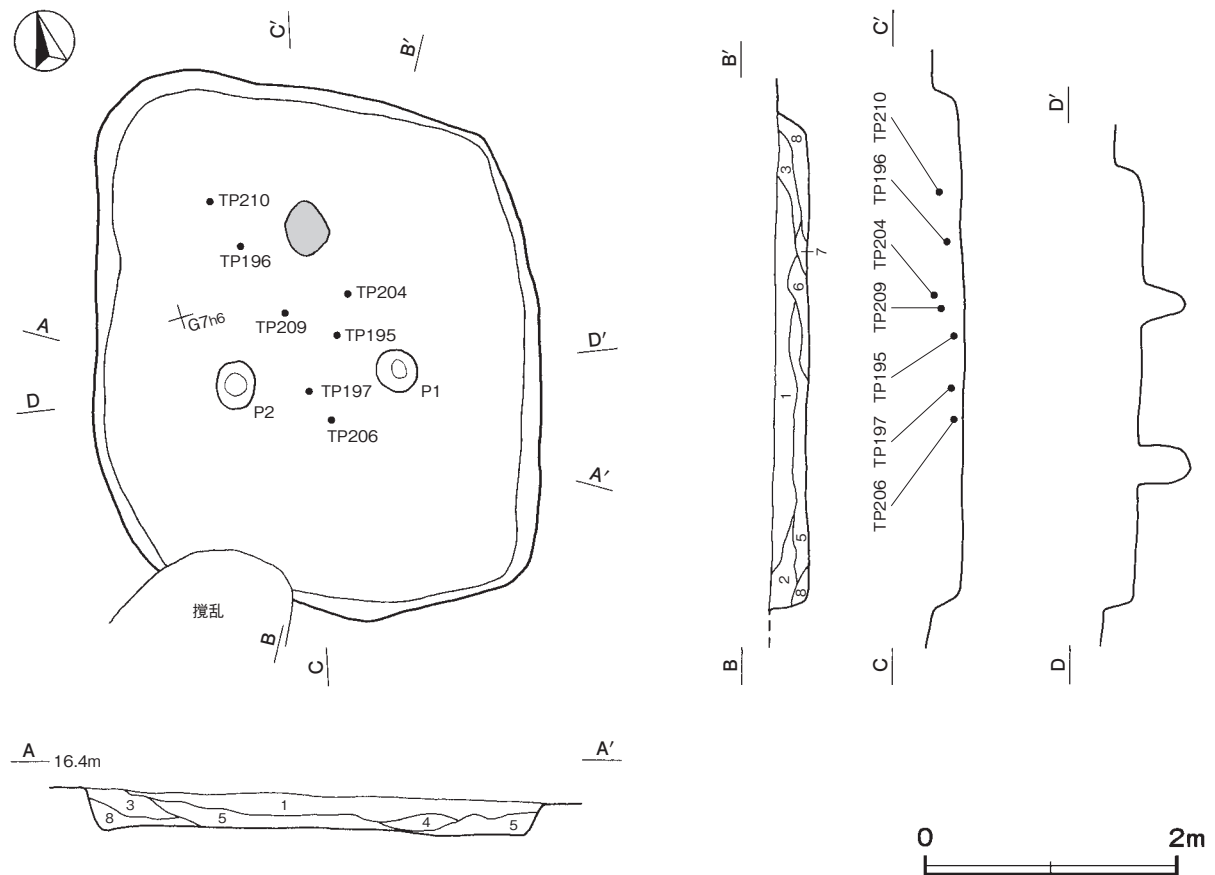
覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれ, ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

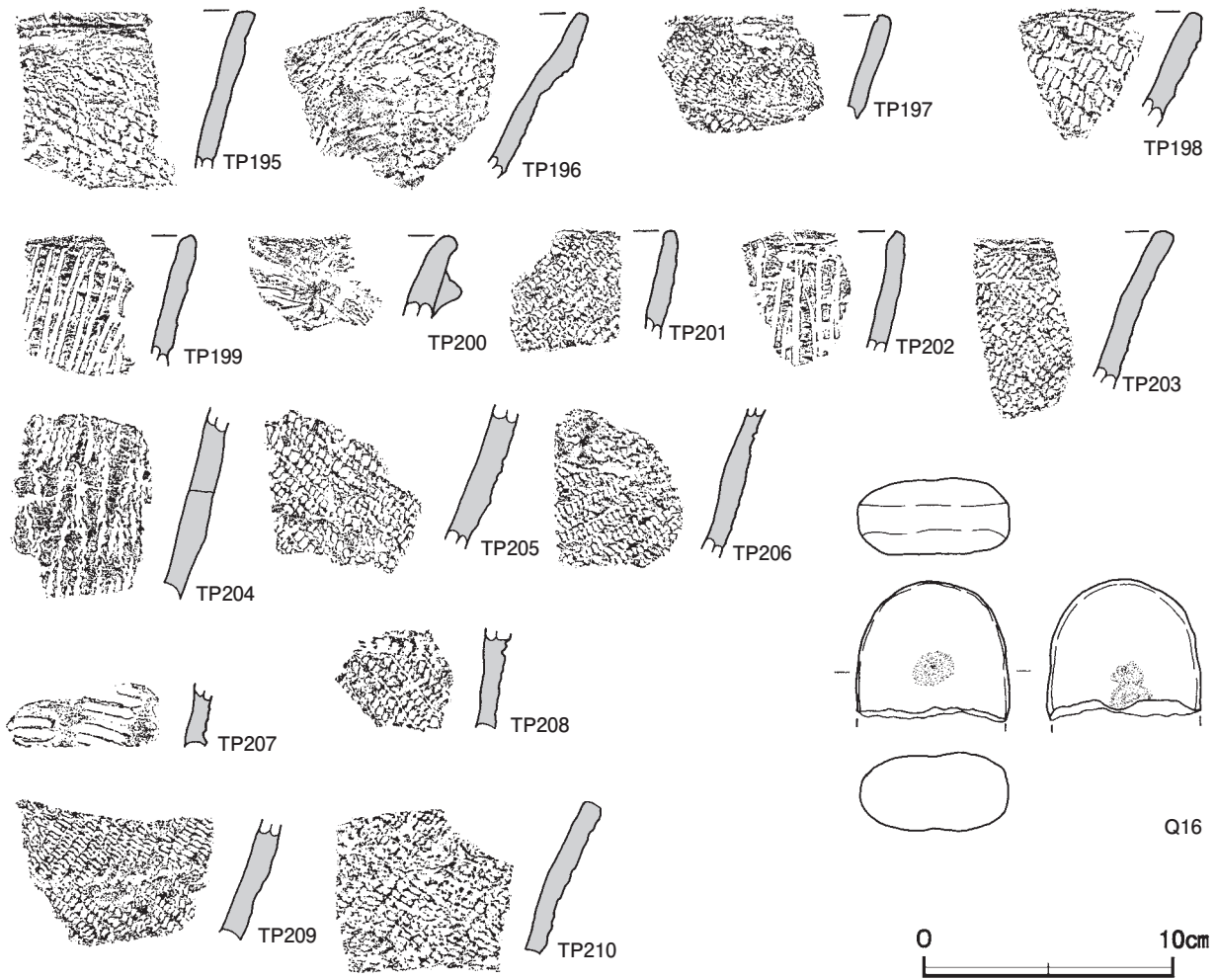
- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|-------------------|
| 1 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 5 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 極暗褐色 | ロームブロック少量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 326 点 (深鉢), 石器 1 点 (凹石) が, 覆土上層から下層にかけて散在した状態で出土している。TP195・TP197・TP206 は中央部の覆土下層から, TP196 は北西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期前半の黒浜式期と考えられる。



第 48 図 第 34 号住居跡実測図



第 49 図 第 34 号住居跡出土遺物実測図

第 34 号住居跡出土遺物観察表 (第 49 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP195	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	多条縄文	覆土下層	
TP196	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文	覆土中層	PL35
TP197	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明褐	LRの単節縄文	覆土下層	
TP198	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文	覆土中	
TP199	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	半截竹管による沈線	覆土中	PL35
TP200	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	瘤貼付	覆土中	PL35
TP201	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黄褐	LRの単節縄文	覆土中	
TP202	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	半截竹管による沈線	覆土中	
TP203	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明黄褐	LRの単節縄文 沈線	覆土中	
TP204	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	貝殻腹縁文	覆土上層	PL35
TP205	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	RLの単節縄文	覆土中	
TP206	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明黄褐	LRの単節縄文	覆土下層	
TP207	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明褐	半截竹管による押引文	覆土中	
TP208	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明黄褐	附加条1種附加1条縄文 爪形文	覆土中	
TP209	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成	覆土上層	
TP210	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 16	凹石	(5.7)	6.1	3.1	(156.3)	石英斑岩	凹部3か所 二面に局所的な磨り痕	覆土中	PL44

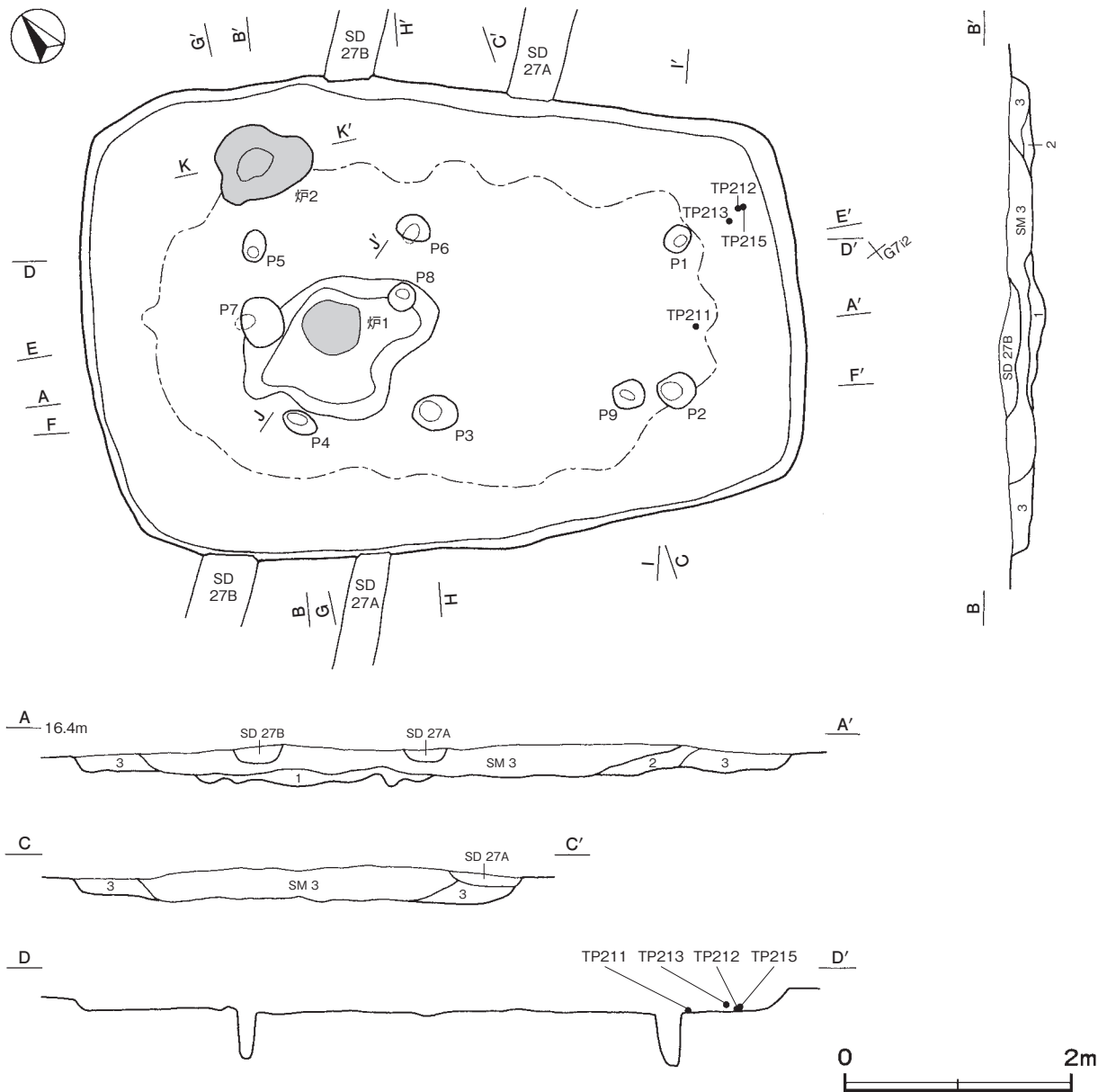
第36号住居跡 (第50～52図)

位置 調査区南東部のG7h1区, 標高16mほどの台地平坦部に位置している。

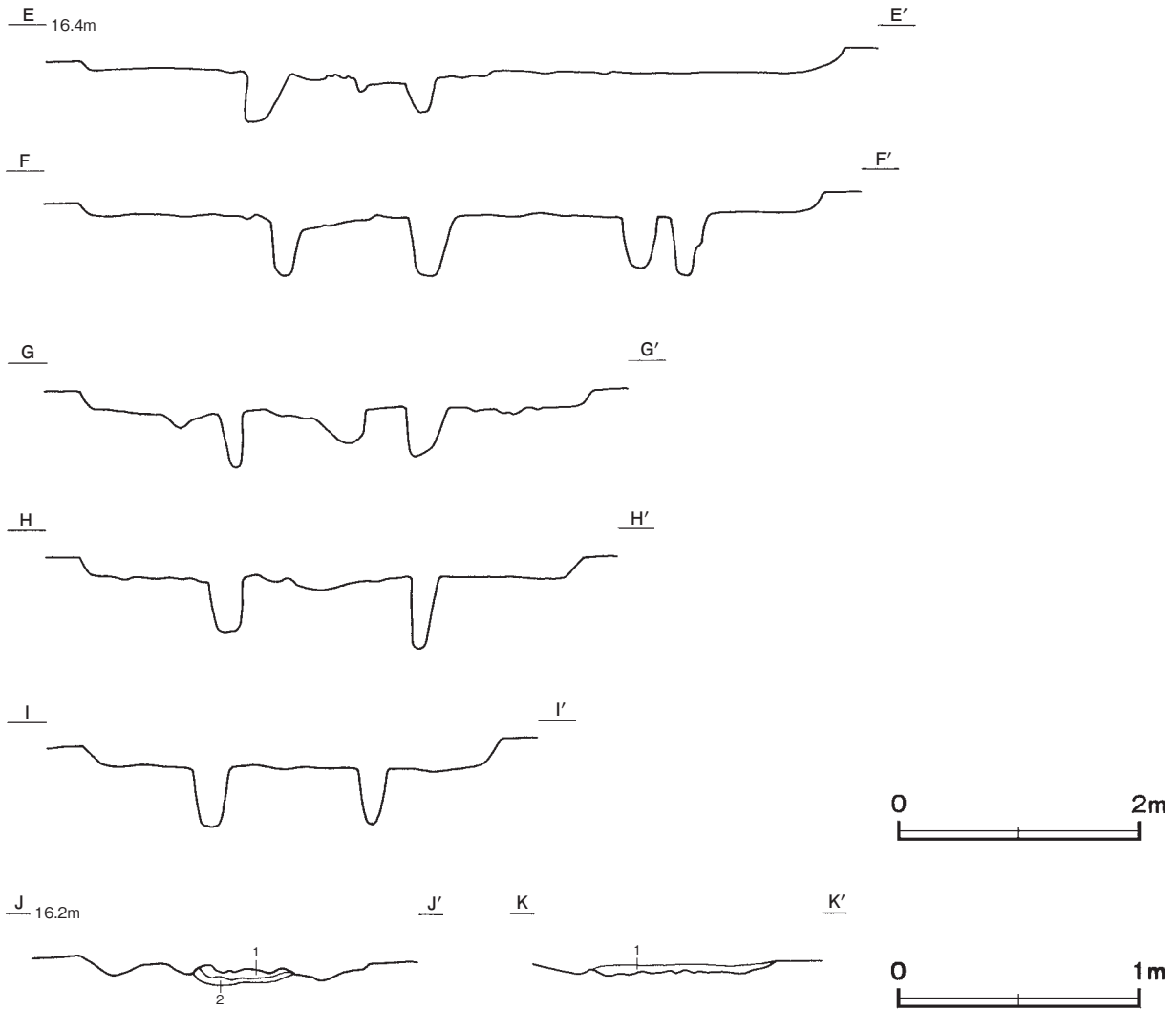
重複関係 中央部に第3号地点貝塚が形成され, 第27A・B号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸6.34m, 短軸4.14mの隅丸長方形で, 長軸方向はN-56°-Wである。壁高は12~27cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 凹凸があり, 中央部が踏み固められている。



第50図 第36号住居跡実測図(1)



第51図 第36号住居跡実測図(2)

炉 2か所。炉1は北西寄り、炉2は北コーナー部にそれぞれ付設されている。炉1は径50cmほどの円形を呈し、周辺を最長1.94mの範囲で床面から14cmほど掘りくぼめられている。炉床は、火を受けて赤変硬化している。炉2は長径83cm、短径65cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から深さ5cmで、火を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

- 1 明赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量

炉2土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量

ピット 9か所。P1～P6は深さ39～60cmで、配置から支柱穴と考えられる。P7～P9は深さ23～38cmで、性格不明である。

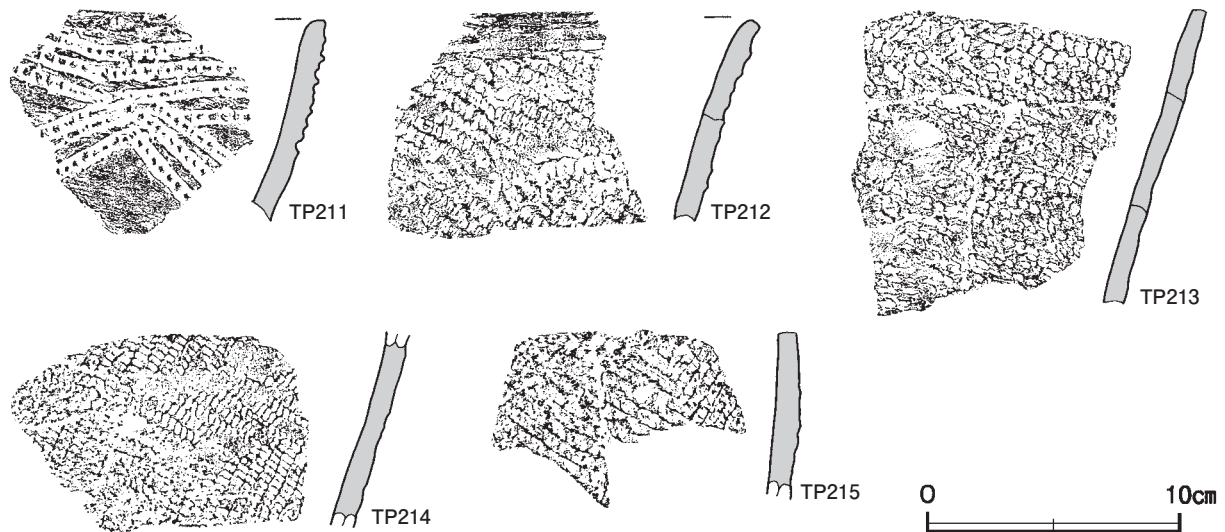
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。その後、貝層が形成されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片26点(深鉢)、礫4点が出土している。TP212・TP215は南東コーナー部、TP211は南東部の床面から、TP213は南東コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 覆土と貝層の堆積状況から、貝は本跡の廃絶後間もなく廃棄されている。時期は、出土土器から前期前半の関山式期～黒浜式期と考えられる。



第 52 図 第 36 号住居跡出土遺物実測図

第 36 号住居跡出土遺物観察表（第 52 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP211	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	口唇部に指頭圧痕 瓜形文	床面	PL35
TP212	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	多条縄文 ループ文	床面	
TP213	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	RLの複節縄文	覆土下層	
TP214	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成	覆土中	
TP215	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明黄褐	Rの無節縄文とLの無節縄文による羽状構成	床面	

第 37 号住居跡（第 53・54 図）

位置 調査区南東部の G 7 fl 区、標高 16 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 28 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.08 m、短軸 3.55 m の長方形で、長軸方向は N - 47° - W である。壁高は 18 ~ 22 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、硬化した範囲は認められない。

炉 南東部に付設されている。長径 51 cm、短径 40 cm の楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から深さ 11 cm で、火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量

ピット 2 か所。P 1・P 2 は深さ 20 cm・27 cm で、対になる配置から支柱穴と考えられる。

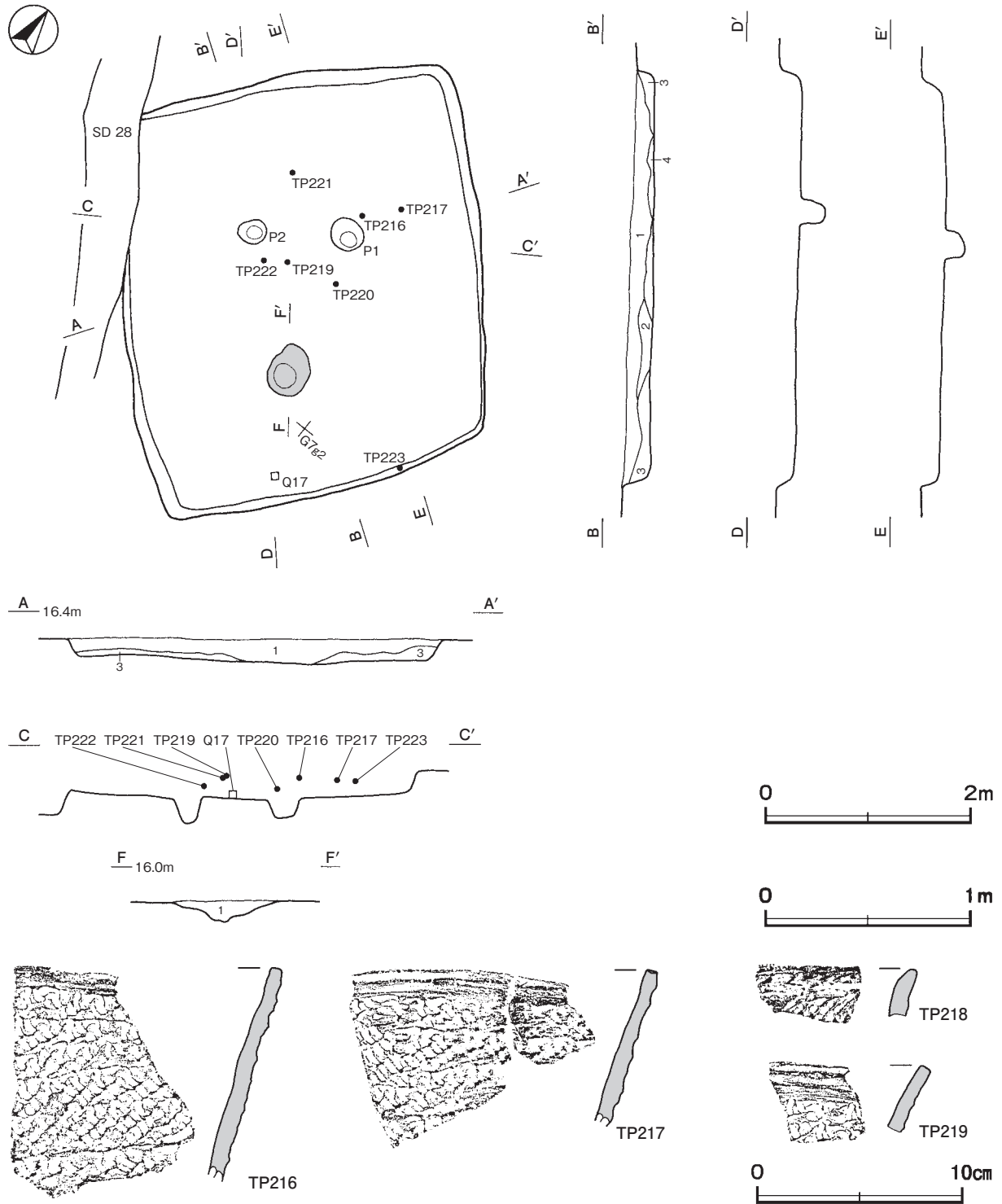
覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれ、ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

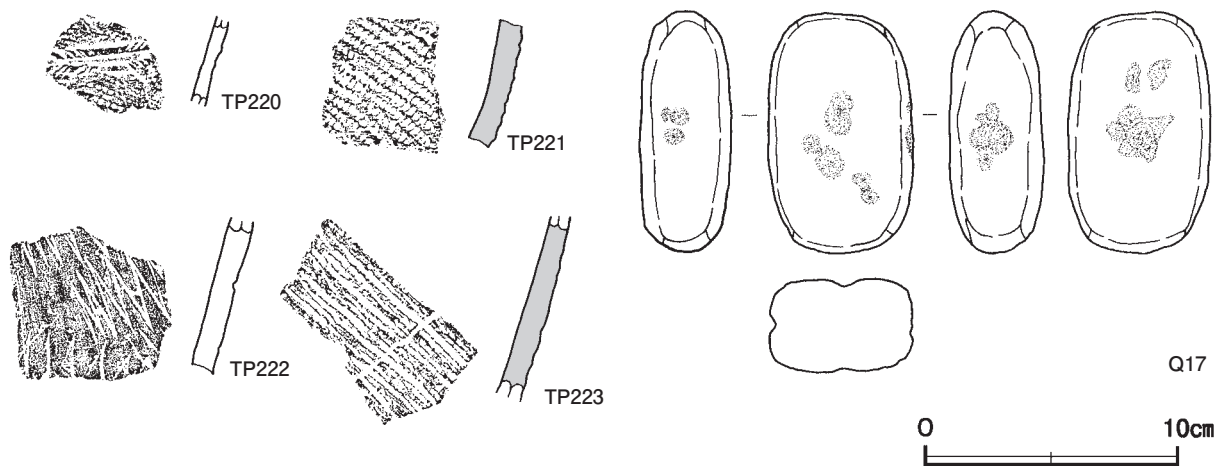
- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 40 点 (深鉢), 石器 1 点 (凹石), 剥片 5 点が出土している。Q17 は南東部の覆土下層から, TP220・TP222 は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期後半の浮島式期と考えられる。



第 53 図 第 37 号住居跡・出土遺物実測図



第 54 図 第 37 号住居跡出土遺物実測図

第 37 号住居跡出土遺物観察表 (第 53・54 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP216	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	明黄褐色	LRの単節縄文によるループ文	覆土上層	PL35
TP217	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	黄橙	LRの単節縄文によるループ文	覆土上層	
TP218	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄橙	Lの無節縄文 半截竹管による沈線	覆土中	
TP219	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	黄橙	LRの単節縄文によるループ文	覆土上層	
TP220	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明黄褐	RLの単節縄文 浮線文	覆土中層	
TP221	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明黄褐	RLの単節縄文	覆土上層	
TP222	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	貝殻波状文	覆土中層	
TP223	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	Rの無節縄文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 17	凹石	9.5	3.6	5.7	294.9	安山岩	凹部 20 か所 4面に磨り痕	覆土下層	PL44

第 38 号住居跡 (第 55・56 図)

位置 調査区南東部の G 5 e9 区、標高 15 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているため、北西・南東軸は 4.25m、北東・南西軸は 3.82m しか確認できなかった。主軸方向は N - 44° - E と推定できる。壁高は 12 ~ 14cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、硬化した範囲は認められない。

炉 東寄りに付設されている。長径 55cm、短径 46cm の楕円形の地床炉である。炉床は第 2 層上面で、床面を 15cm ほど鍋底状に掘りくぼめ、ロームや焼土のブロックを含んだ第 2・3 層を埋め戻して構築されている。火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 赤褐色 焼土ブロック中量、ロームブロック微量
- 3 褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量

ピット 4 か所。P 1・P 2 は深さ 77cm・48cm で、対になる配置から主柱穴と考えられる。P 3・P 4 は深さ 33cm・53cm で、性格不明である。

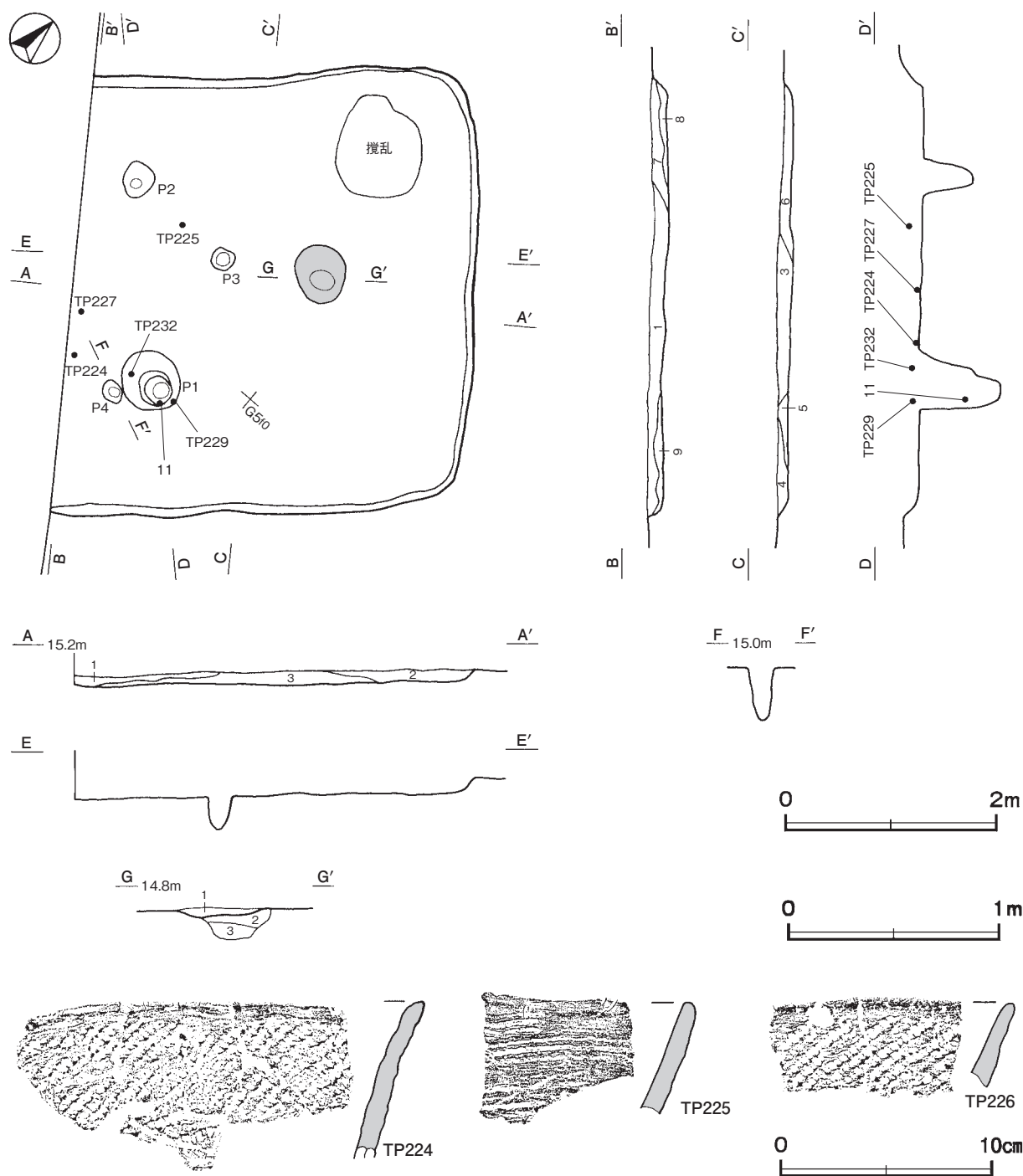
覆土 9 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれ、ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

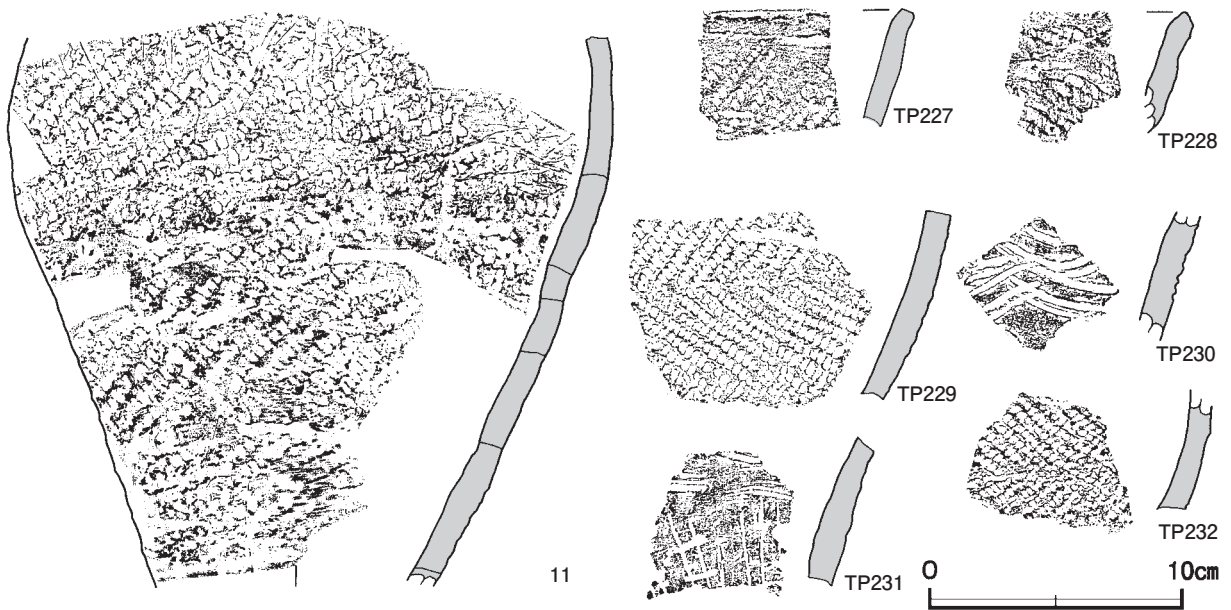
- | | | | |
|-------|------------------------|--------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 | 7 極暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子微量 | 9 褐色 | ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 120 点 (深鉢), 磔 6 点が出土している。11 は P 1 の覆土中層から, TP224・TP227 は南寄りの床面から, TP229・TP232 は南東寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期前半の黒浜式期と考えられる。



第 55 図 第 38 号住居跡・出土遺物実測図



第 56 図 第 38 号住居跡出土遺物実測図

第 38 号住居跡出土遺物観察表（第 55・56 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
11	縄文土器	深鉢	-	(21.8)	-	長石・石英・繊維	にぶい橙	普通	LRの単節縄文	P1 覆土中層	40% PL28
TP224	縄文土器	深鉢				長石・石英・繊維	にぶい黄橙		LRの単節縄文	床面	
TP225	縄文土器	深鉢				長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい黄		半截竹管による沈線	覆土中層	
TP226	縄文土器	深鉢				長石・石英・繊維	にぶい黄橙		LRの単節縄文	覆土中	
TP227	縄文土器	深鉢				長石・石英・繊維	橙		LRの単節縄文	床面	
TP228	縄文土器	深鉢				長石・石英・赤色粒子・繊維	橙		Rの無節縄文	覆土中	
TP229	縄文土器	深鉢				長石・石英・繊維	明褐		RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成	覆土下層	
TP230	縄文土器	深鉢				長石・石英・繊維	にぶい黄橙		半截竹管による沈線	覆土中	
TP231	縄文土器	深鉢				長石・石英・繊維	橙		半截竹管による押し文 半截竹管による沈線	覆土中	
TP232	縄文土器	深鉢				長石・石英・繊維	橙		RLの単節縄文LRの単節縄文による羽状構成	覆土下層	

第 39 号住居跡（第 57 図）

位置 調査区南東部の F 6 h5 区、標高 16 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 北西部が調査区域外に延びているため、東西軸は 6.22 m、南北軸は 1.64 m しか確認できなかった。長軸方向は N - 47° - E と推定できる。壁高は 7 ~ 12cm で、外傾して立ち上がっている。

床 南西側に傾斜し、硬化した範囲は認められない。

ピット 2 か所。P 1・P 2 は深さ 28cm・26cm で、南東部しか調査できなかったことから性格不明である。

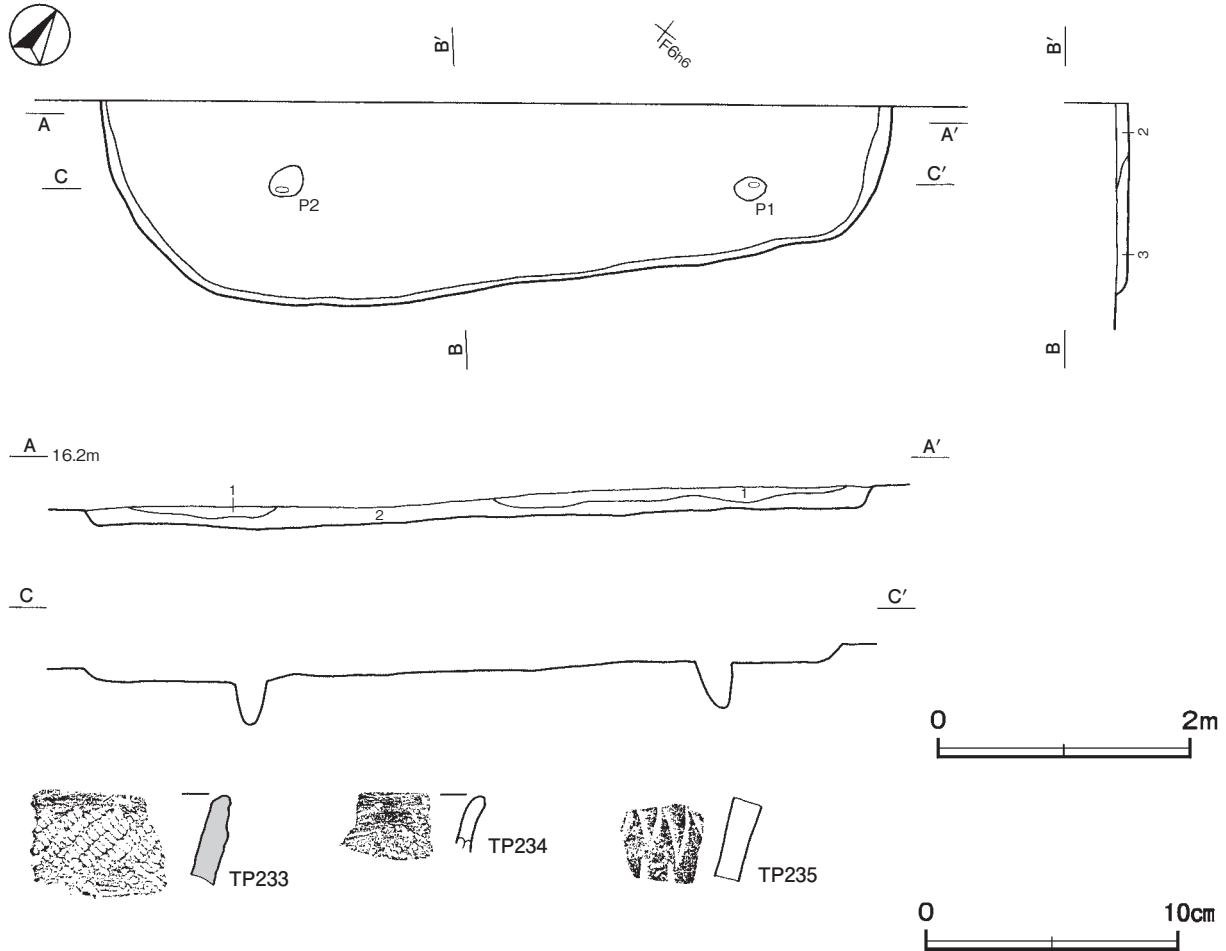
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれ、ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 17 点（深鉢）が出土している。TP233～TP235 は、いずれも覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期の黒浜式期～浮島式期と考えられる。



第 57 図 第 39 号住居跡・出土遺物実測図

第 39 号住居跡出土遺物観察表（第 57 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP233	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	RL の単節縄文と LR の単節縄文による羽状構成	覆土中	
TP234	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	RL の単節縄文	覆土中	
TP235	縄文土器	深鉢	長石・石英	明黄褐	貝殻波状文	覆土中	

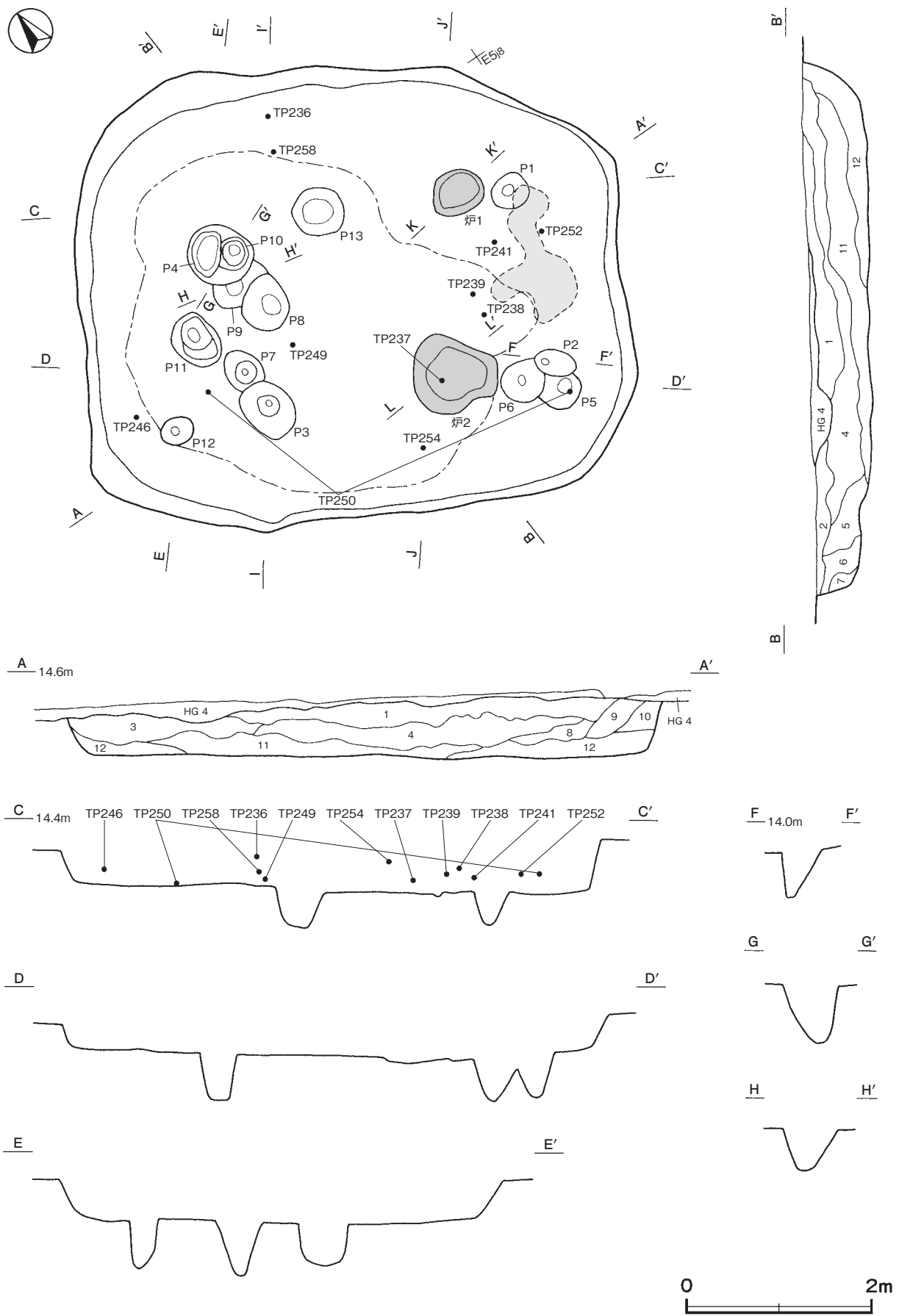
第 40 号住居跡（第 58～61 図）

位置 調査区中央部の E 5j7 区、標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

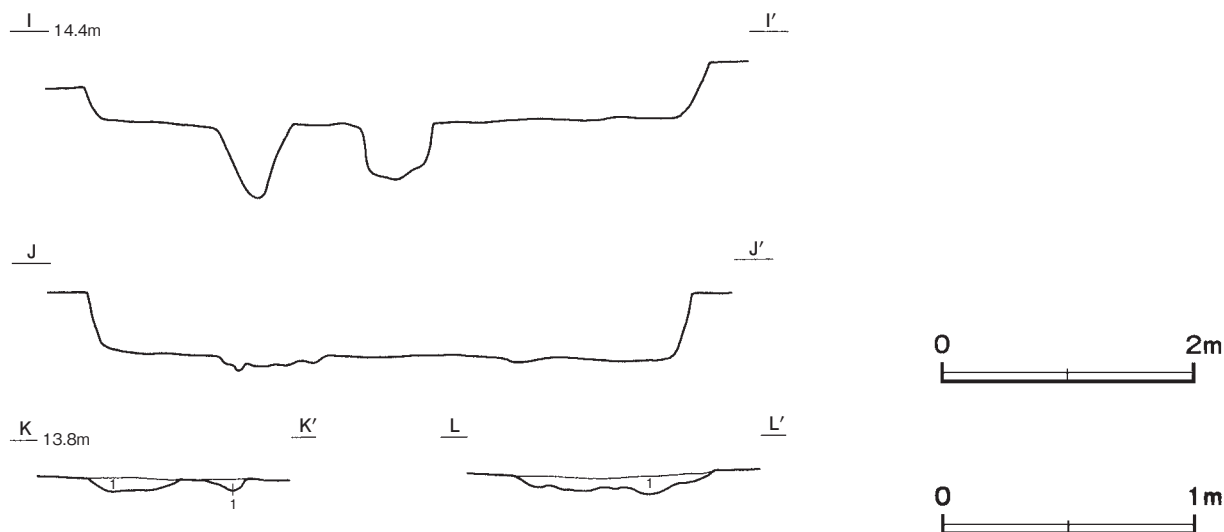
確認状況 第 4 号遺物包含層の掘削後に確認した。

規模と形状 長軸 5.94 m、短軸 4.92 m の隅丸長方形で、長軸方向は N - 55° - W である。壁高は 26～56cm で、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、東・南コーナー部を除いた中央部が踏み固められている。



第 58 图 第 40 号住居跡実測図 (1)



第 59 図 第 40 号住居跡実測図 (2)

炉 2 か所。炉 1 は東コーナー部，炉 2 は南コーナー部にそれぞれ付設されている。炉 1 は長径 60cm，短径 49cm の楕円形，炉 2 は長径 92cm，短径 52cm の不整楕円形を呈する地床炉である。炉 1 の炉床は床面から深さ 6cm，炉 2 の炉床は床面から深さ 7cm で，それぞれ火を受けて赤変硬化している。

炉 1・炉 2 土層解説

1 暗褐色 炭化粒子中量，焼土ブロック少量，ローム粒子微量

ピット 13か所。P 1～P 4は深さ 34～55cmで，配置から主柱穴と考えられる。P 5～P10は深さ 43～61cmで，配置と新旧関係から P 1～P 4より古い主柱穴と考えられる。P 5から P 6へ，P 6から P 2へ，P 7から P 3へ，P 9から P 4・P 8・P 10へ柱の立て替えが行われたと考えられる。P 4と P 8・P 10の新旧関係は不明である。P 11は深さ 60cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 12・P 13は深さ 52cm・41cmで，主柱穴と同じく深い，対になる柱穴が無いことから性格不明である。

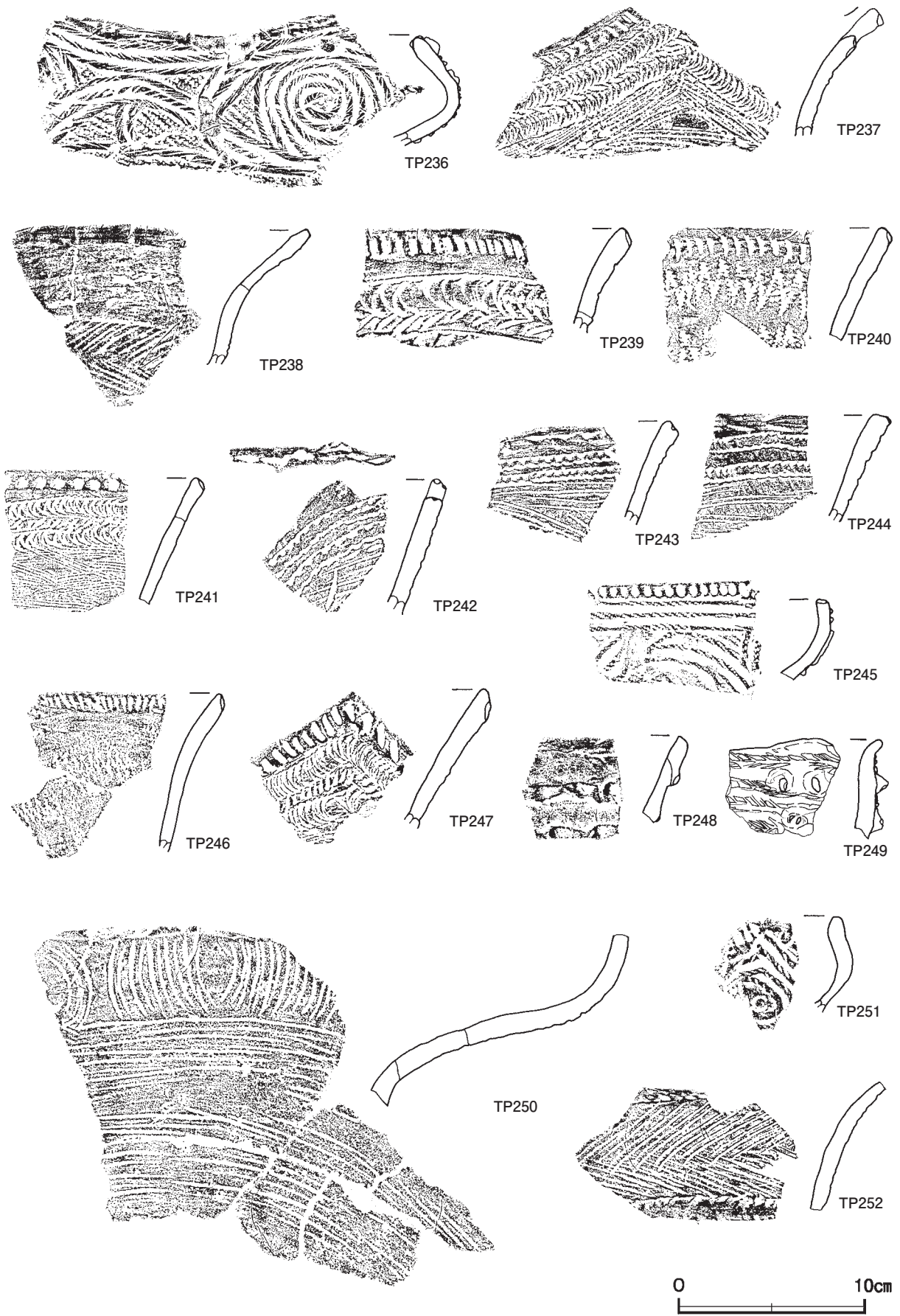
覆土 12層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

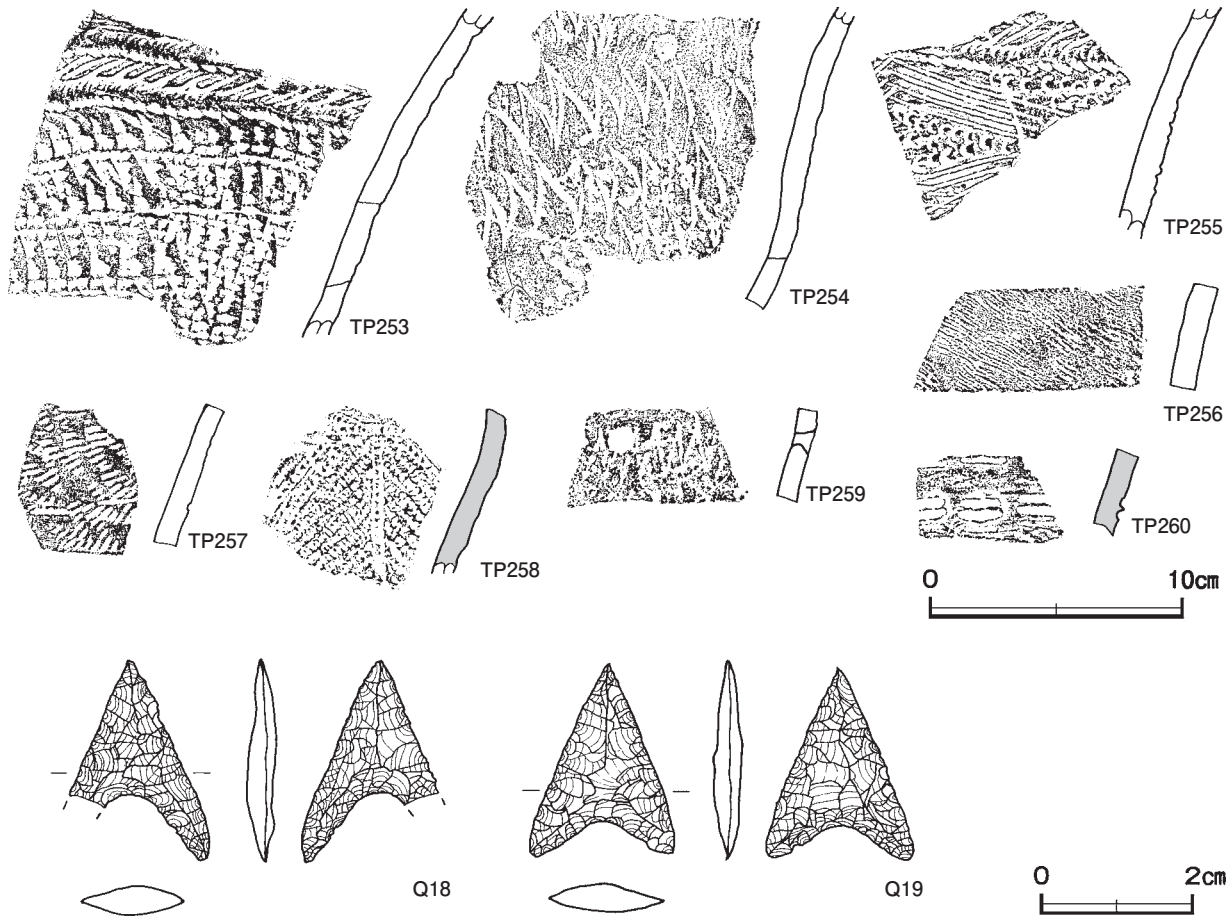
1 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	6 暗褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・砂粒微量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，砂粒微量	7 褐色	ローム粒子中量，炭化粒子・砂粒微量
3 暗褐色	ロームブロック中量，炭化粒子少量，焼土粒子・砂粒微量	8 にぶい赤褐色	焼土粒子中量，ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量
4 暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量	9 褐色	ロームブロック・炭化粒子・砂粒微量
5 暗褐色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量	10 褐色	ロームブロック少量，炭化粒子・砂粒微量
		11 褐色	ロームブロック・炭化粒子少量，砂粒微量
		12 暗褐色	ロームブロック少量，炭化粒子・砂粒微量

遺物出土状況 縄文土器片 990 点 (深鉢)，石器 2 点 (鏃)，剥片 41 点 (チャート 39，頁岩 2)，礫 4 点，覆土上層から下層にかけて散在した状態で出土し，特に南東部での出土量が多い。TP250 は西部の床面と南東部の覆土中層から出土した破片が接合したものである。TP237 は南寄り，TP241 は東寄り，TP249 は西寄りの覆土下層から，TP258 は北部，TP252 は東部，TP238・TP239 は南東寄り，TP246 は西コーナー部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 覆土中からチャートの剥片 39 点が出土しているが，廃絶時に廃棄されたものと考えられる。本跡または周辺で石器製作を行っていた可能性が考えられる。時期は，出土土器から前期後半の浮島Ⅱ～Ⅲ式期と考えられる。



第 60 图 第 40 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第61図 第40号住居跡出土遺物実測図(2)

第40号住居跡出土遺物観察表(第60・61図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP236	縄文土器	深鉢	長石・石英	明黄褐	RLの単節縄文 浮線文 瘤貼付	覆土上層	
TP237	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	口唇部に斜位の条線帯 変形爪形文へら状工具による沈線 へら状工具による連続の刺突 半截竹管による菱形文 工具による連続の刺突	覆土下層	
TP238	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	変形爪形文 矢羽根状文	覆土中層	
TP239	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に斜位の条線帯 変形爪形文 へら状工具による斜位の刺突	覆土中層	PL36
TP240	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に斜位の条線帯 アナガラ属による貝殻波状文	覆土中	PL36
TP241	縄文土器	深鉢	長石・石英	明黄褐	口唇部に工具による刺突 変形爪形文 へら状工具による斜位の刺突 半截竹管による菱形文	覆土下層	PL36
TP242	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に工具による刺突 有節平行線文 半截竹管による沈線 工具による押引文	覆土中	PL36
TP243	縄文土器	深鉢	長石・石英	明黄褐	口唇部にへら状工具による刺突 有節平行線文 半截竹管による菱形文	覆土中	
TP244	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	口唇部に工具による斜位の刺突 有節平行線文および変形爪形文 半截竹管による沈線	覆土中	
TP245	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に工具による刺突 粘土紐を貼付 紐上面にRLの単節縄文を施文	覆土中	PL36
TP246	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	口唇部に斜位の条線帯 アナガラ属による貝殻波状文	覆土中層	
TP247	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	口唇部に斜位の条線帯 変形爪形文 へら状工具による斜位の刺突	覆土中	PL36
TP248	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	凹凸文	覆土中	
TP249	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	獣面把手 瘤を貼付後に工具で刺突し、目と鼻を表現 符線文	覆土下層	PL36
TP250	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	半截竹管による対弧文 半截竹管による沈線	床面～覆土中層	
TP251	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に粘土紐を貼付 浮線文 半截竹管による円形の刺突	覆土中	
TP252	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文 矢羽根状文 菱形文	覆土中層	
TP253	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	半截竹管による沈線 変形爪形文 へら状工具による斜位の刺突 変形爪形文	覆土中	PL36
TP254	縄文土器	深鉢	長石・石英	明黄褐	貝殻波状文	覆土上層	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP255	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 半載竹管による菱 形文 連続の刺突	覆土中	
TP256	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	撚糸文	覆土中	
TP257	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	貝殻腹縁押引文	覆土中	
TP258	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明褐	爪形文による米字文 RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽 状構成	覆土中層	
TP259	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	穿孔 貝殻波状文	覆土中	
TP260	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黄褐	半載竹管による押引文 RLの単節縄文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 18	鍬	2.7	1.9	0.4	(1.0)	チャート	凹基無茎鍬 両面押圧剥離	覆土中	PL43
Q 19	鍬	2.6	2.0	0.4	1.3	チャート	凹基無茎鍬 両面押圧剥離	覆土中	PL43

第 42 号住居跡 (第 62 ~ 66 図)

位置 調査区中央部の E 5jl 区, 標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 4 号遺物包含層の掘削後に確認した。第 43 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 6.70 m, 短径 5.76 m の楕円形で, 長径方向は N - 1° - E である。壁高は 8 ~ 38 cm で, 緩やかに外傾して立ち上がっている。

床 中央部は平坦で, 踏み固められている。

炉 3 か所。炉 1 は南西寄り, 炉 2 は東南寄り, 炉 3 は北寄りにそれぞれ付設されている。炉 1 は長径 32 cm, 短径 24 cm の楕円形, 炉 2 は長径 50 cm, 短径 39 cm の楕円形, 炉 3 は径 20 cm の円形を呈する地床炉である。炉 1 の炉床は第 1 層上面で, 床面から 13 cm ほど皿状に掘りくぼめ, 焼土ブロックを主体とした第 1 ~ 3 層を埋め戻して構築されている。火を受けて赤変硬化している。炉 2 の炉床は床面から深さ 13 cm で, 火を受けて赤変硬化している。炉 3 の炉床は床面と同じ高さで, 火を受けて赤変硬化している。

炉 1・炉 2 土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子微量
- 2 赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 粘土粒子微量
- 3 黒褐色 焼土ブロック少量・ロームブロック微量

ピット 16 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 35 ~ 79 cm で, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P 5 ~ P 8 は深さ 26 ~ 44 cm で, 配置と新旧関係から P 1・P 2・P 4 より古い支柱穴と考えられる。P 5 から P 1 へ, P 6 から P 2 へ, P 7 または P 8 から P 4 へ柱の立て替えが行われたと考えられる。P 9 ~ P 11 は深さ 30 ~ 37 cm で, 配置から P 3 より古い支柱穴の可能性が考えられるが, それぞれの新旧関係は不明である。P 12 ~ P 16 は深さ 15 ~ 50 cm で, 性格不明である。

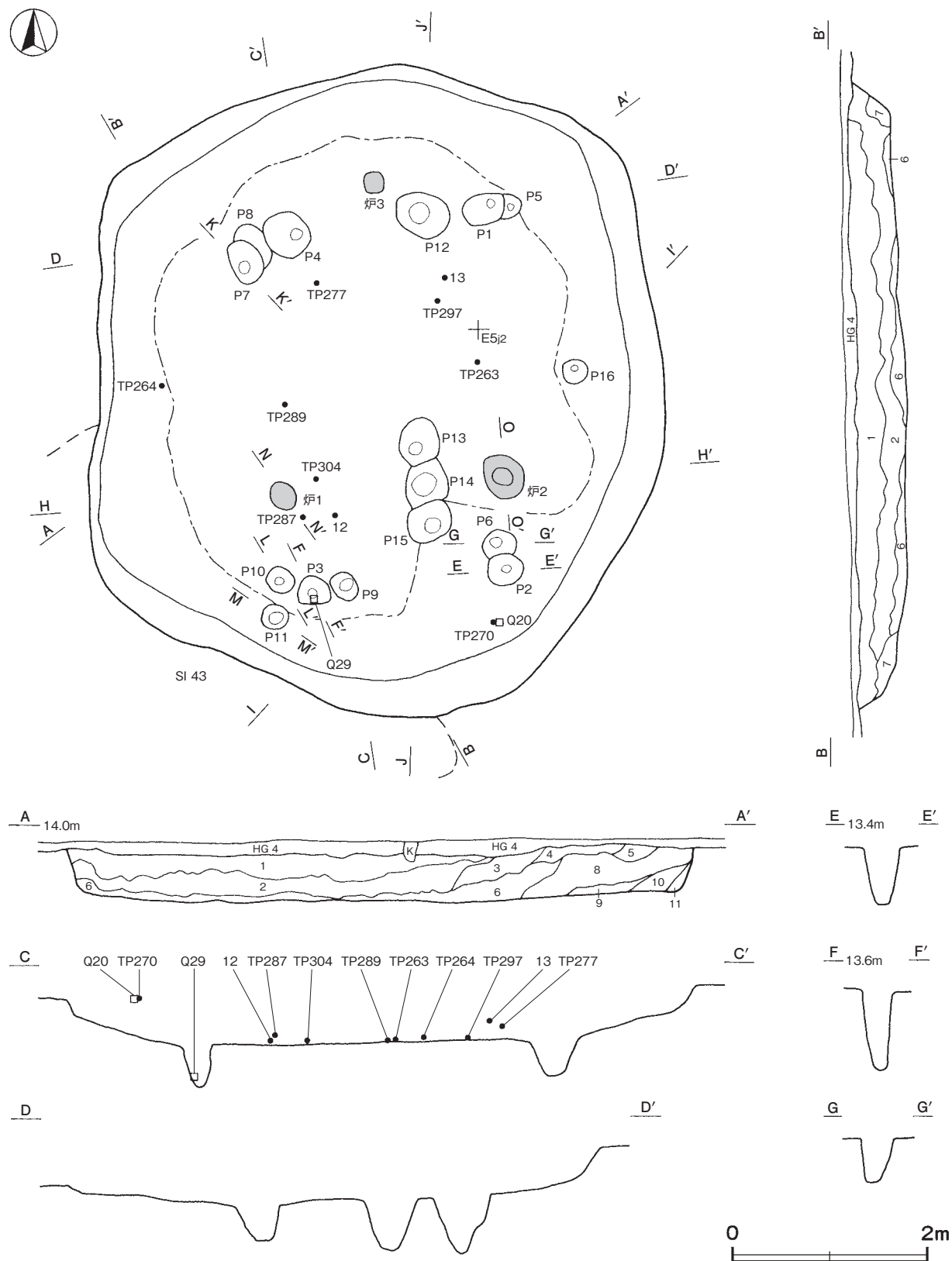
覆土 11 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

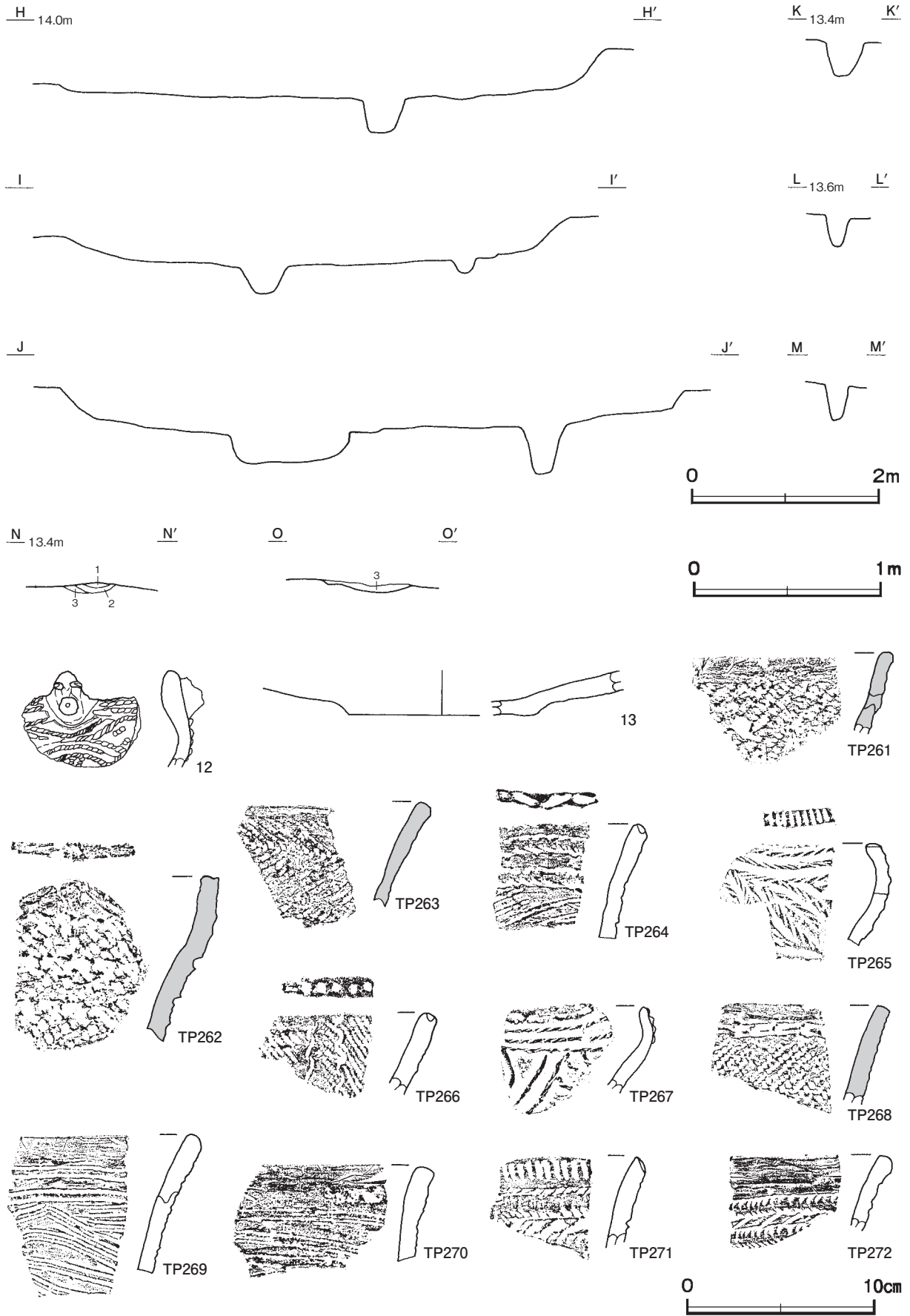
- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・砂粒微量
- 4 黒褐色 ロームブロック・砂粒微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・砂粒微量
- 6 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量
- 7 暗褐色 ロームブロック少量, 砂粒微量
- 8 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・砂粒微量
- 9 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
- 10 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・砂粒微量
- 11 暗褐色 ローム粒子中量, 砂粒微量

遺物出土状況 縄文土器片 836 点 (深鉢 835, 浅鉢 1), 石器 10 点 (鍬 4, 磨石 2, 凹石 3, 砥石 1), 剥片 48 点 (チャート 41, 頁岩 6, 黒曜石 1) が, 中央部から南部の覆土中層から下層にかけて散在した状態で出土している。Q 29 は P 3 の覆土中層から, TP297 は北東寄り, TP263 は東寄り, TP289 は西寄りの床面から, 12・TP287・TP304 は南西寄り, TP264 は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

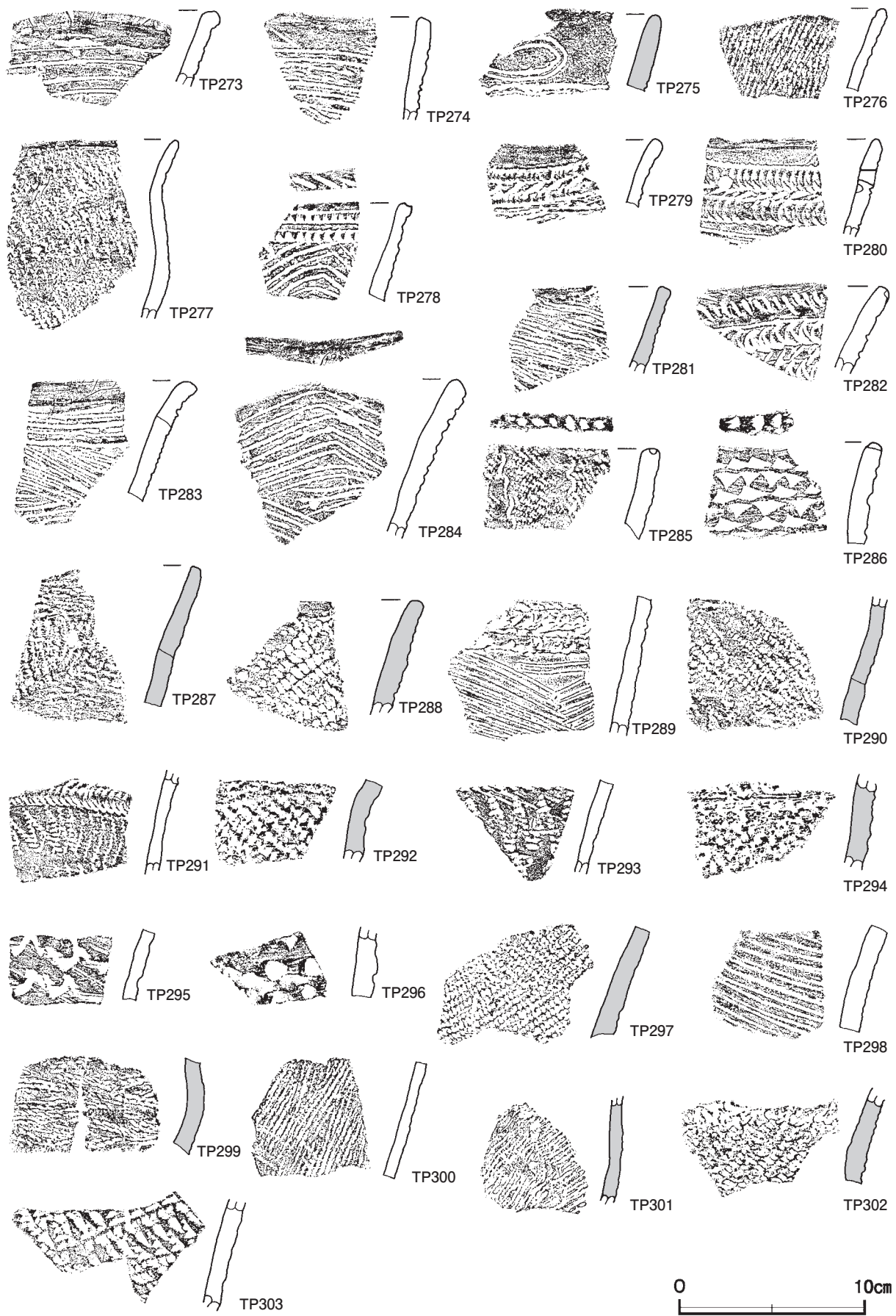
所見 覆土中からチャートの剥片 41 点が出土しているが、廃絶時に廃棄されたものと考えられる。本跡または周辺で石器製作を行っていた可能性が考えられる。時期は、出土土器から前期後半の浮島Ⅱ～Ⅲ式期と考えられる。



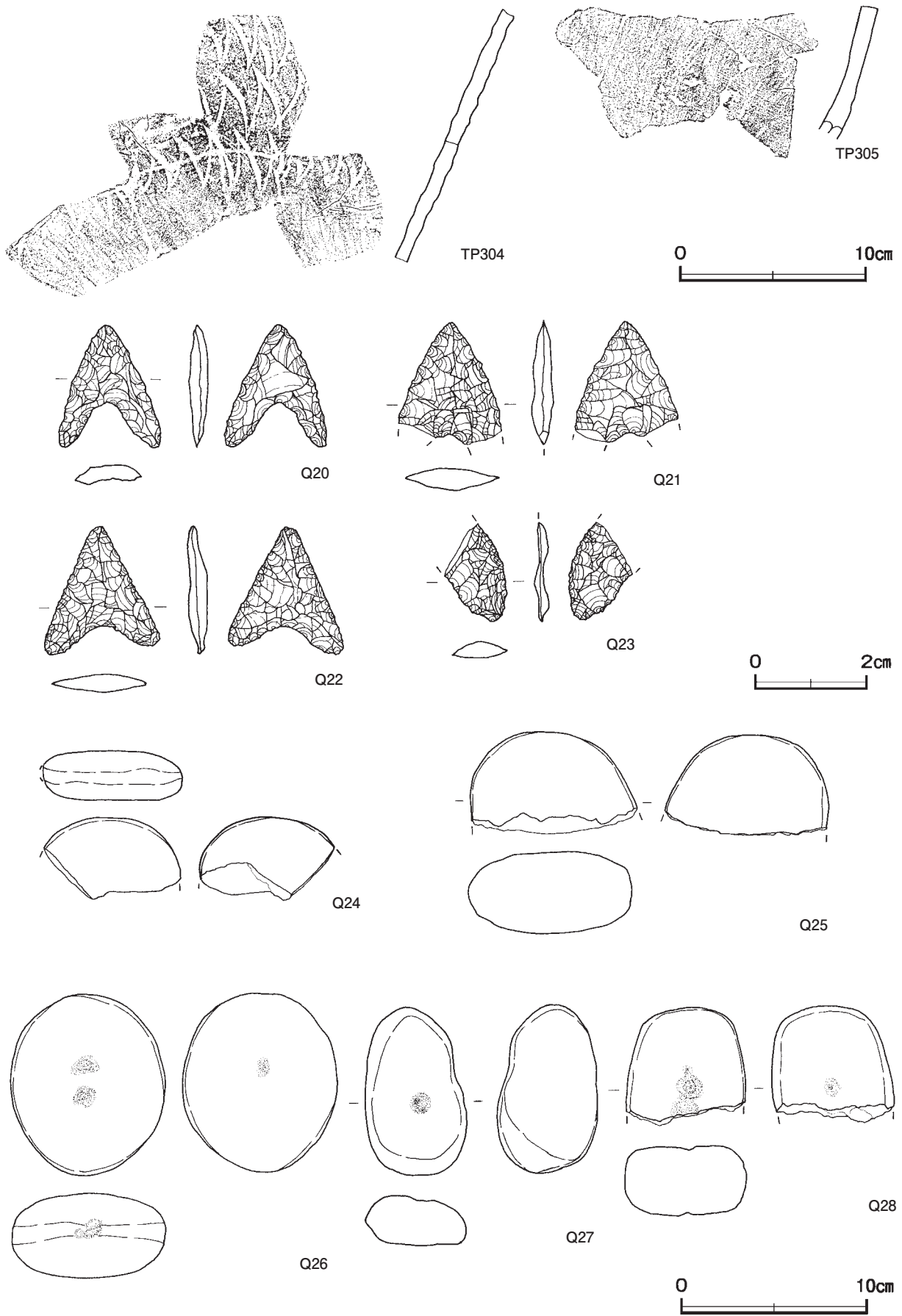
第 62 図 第 42 号住居跡実測図



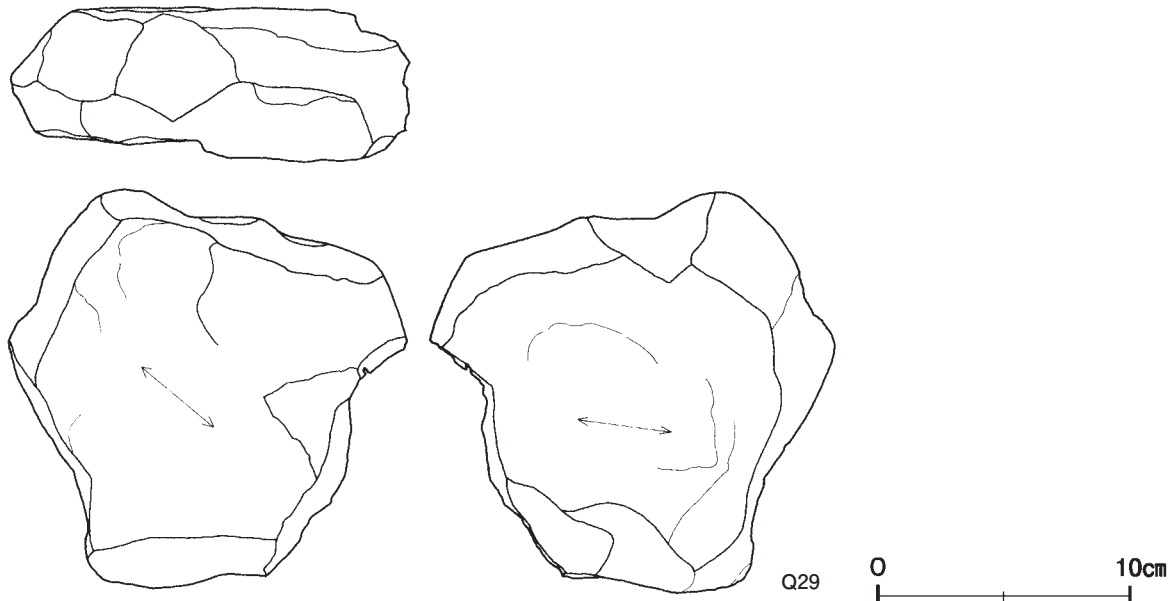
第 63 图 第 42 号住居跡・出土遺物実測図



第 64 図 第 42 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 65 图 第 42 号住居跡出土遺物実測図 (2)



第 66 図 第 42 号住居跡出土遺物実測図 (3)

第 42 号住居跡出土遺物観察表 (第 63 ~ 66 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
12	縄文土器	深鉢	-	(5.1)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	獸面把手 瘤を貼付後に工具で刺突し、目と鼻を表現 LRの単節縄文 浮線文	覆土下層	5%
13	縄文土器	浅鉢	-	(2.4)	[10.0]	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	ナデによる調整	覆土中層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP261	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	穿孔 LRの単節縄文	覆土中	
TP262	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明黄褐	結節による LRの単節縄文	覆土中	
TP263	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	RLの単節縄文と LRの単節縄文の結束による羽状構成	床面	
TP264	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	口唇部に工具による押引文 変形爪形文 半截竹管による沈線	覆土下層	
TP265	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	口唇部に工具による連続の刺突 浮線文	覆土中	
TP266	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	口唇部に工具による連続の刺突 結節による LRの単節縄文	覆土中	
TP267	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	口唇部に粘土紐を貼付 浮線文	覆土中	
TP268	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	半截竹管による押引文 LRの単節縄文	覆土中	
TP269	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	半截竹管による沈線	覆土中	PL37
TP270	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	半截竹管による沈線	覆土上層	
TP271	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に縦位の条線帯 変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突	覆土中	
TP272	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突	覆土中	
TP273	縄文土器	深鉢	長石・石英	赤褐	半截竹管による沈線	覆土中	
TP274	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	半截竹管による沈線 有節平行線文	覆土中	
TP275	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	コンパス文 平行沈線文	覆土中	
TP276	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	LRの単節縄文	覆土中	
TP277	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	アナグラ属による貝殻波状文	覆土中層	PL37
TP278	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に斜位の条線帯 変形爪形文 半截竹管による沈線	覆土中	
TP279	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 半截竹管による沈文	覆土中	
TP280	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	穿孔 沈線 変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 半截竹管による沈線	覆土中	PL37
TP281	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明褐	撫糸文	覆土中	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP282	縄文土器	深鉢	長石・石英	赤褐	口唇部に斜位の条線帯 変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突	覆土中	
TP283	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明褐	半截竹管による沈線 菱形文	覆土中	
TP284	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	菱形文	覆土中	
TP285	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に工具による刺突 結節によるLRの単節縄文	覆土中	
TP286	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に工具による刺突 変形爪形文	覆土中	
TP287	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明褐	RLの単節縄文	覆土下層	
TP288	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	LRの単節縄文	覆土中	
TP289	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 半截竹管による沈線	床面	
TP290	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	RLの単節縄文	覆土中	
TP291	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 アナガラ属による貝殻波状文	覆土中	
TP292	縄文土器	深鉢	長石・繊維	橙	RLの単節縄文	覆土中	
TP293	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	アナガラ属による貝殻波状文	覆土中	
TP294	縄文土器	深鉢	長石・繊維	橙	爪形文 LRの単節縄文	覆土中	
TP295	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	変形爪形文	覆土中	
TP296	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	凹凸文	覆土中	
TP297	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明褐	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成	床面	
TP298	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	半截竹管による沈線	覆土中	
TP299	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	明褐	撚糸文	覆土中	
TP300	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	褐	Lの無節縄文	覆土中	
TP301	縄文土器	深鉢	長石・繊維	橙	貝殻縁押引文	覆土中	
TP302	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	灰黄褐	結節によるLRの単節縄文	覆土中	
TP303	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 半截竹管による押引文	覆土中	
TP304	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	貝殻波状文	覆土下層	PL37
TP305	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	櫛歯状工具による沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 20	鉢	2.2	1.8	0.4	0.7	黒色緻密安山岩	凹基無茎鉢 両面押圧剥離	覆土上層	PL42
Q 21	鉢	(2.3)	(2.0)	0.4	(1.3)	チャート	凹基無茎鉢 両面押圧剥離	覆土中	
Q 22	鉢	2.3	2.1	0.3	1.1	チャート	凹基無茎鉢 両面押圧剥離	覆土中	PL42
Q 23	鉢	(1.8)	(1.1)	(0.3)	(0.6)	チャート	凹基無茎鉢 両面押圧剥離	覆土中	
Q 24	磨石	(4.5)	(7.4)	(2.6)	(106.2)	砂岩	二面に局所的な磨り痕	覆土中	
Q 25	磨石	(5.5)	(8.8)	4.4	(282.3)	安山岩	二面に局所的な磨り痕	覆土中	
Q 26	凹石	9.8	8.3	4.5	516.0	砂岩	凹部3か所 敲打痕	覆土中	PL44
Q 27	凹石	9.2	5.5	2.8	212.2	安山岩	凹部1か所 二面に局所的な磨り痕	覆土中	
Q 28	凹石	(6.4)	6.5	3.8	(262.7)	安山岩	凹部4か所	覆土中	PL44
Q 29	砥石	16.0	15.9	6.1	2053.9	砂岩	砥面2面	P3 覆土中層	PL43

第43号住居跡（第67～69図）

位置 調査区中央部のE4j0区、標高14mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第4号遺物包含層の掘削後に確認した。第42号住居・第145号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 東部を第42号住居に掘り込まれているため、南北軸は4.50mで、東西軸は4.72mしか確認できなかった。長軸方向はN-70°-Eと推定できる。壁高は32～44cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、硬化した範囲は認められない。

炉 西コーナー部寄りに付設されている。長径38cm、短径32cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面

から深さ9cmで、火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

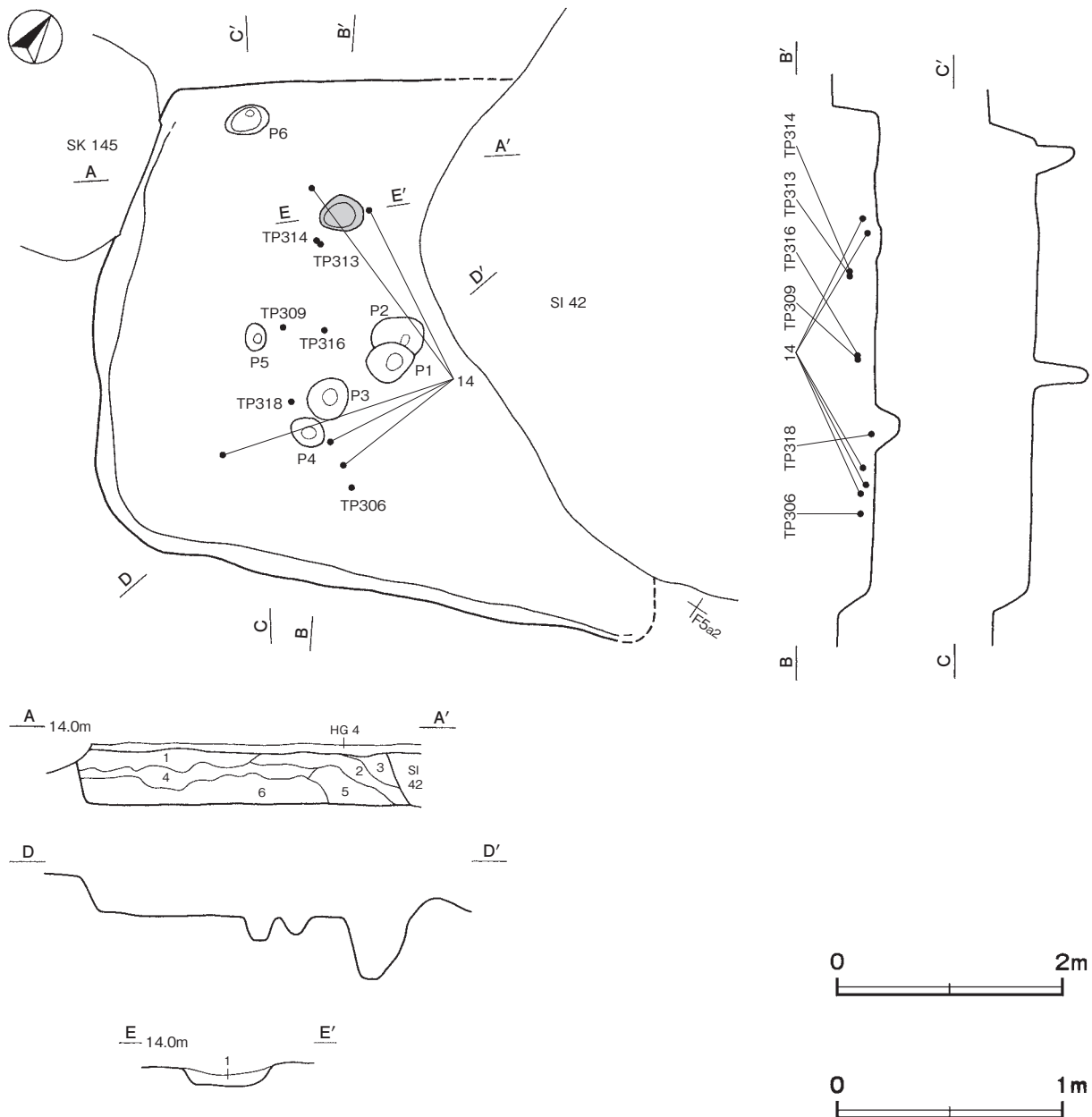
- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土ブロック微量

ピット 6か所。P 1は深さ59cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P 2は深さ42cmで、配置と新旧関係からP 1より古い主柱穴で、P 1へ柱の立て替えが行われたと考えられる。P 3～P 6は深さ23～48cmで、性格不明である。

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

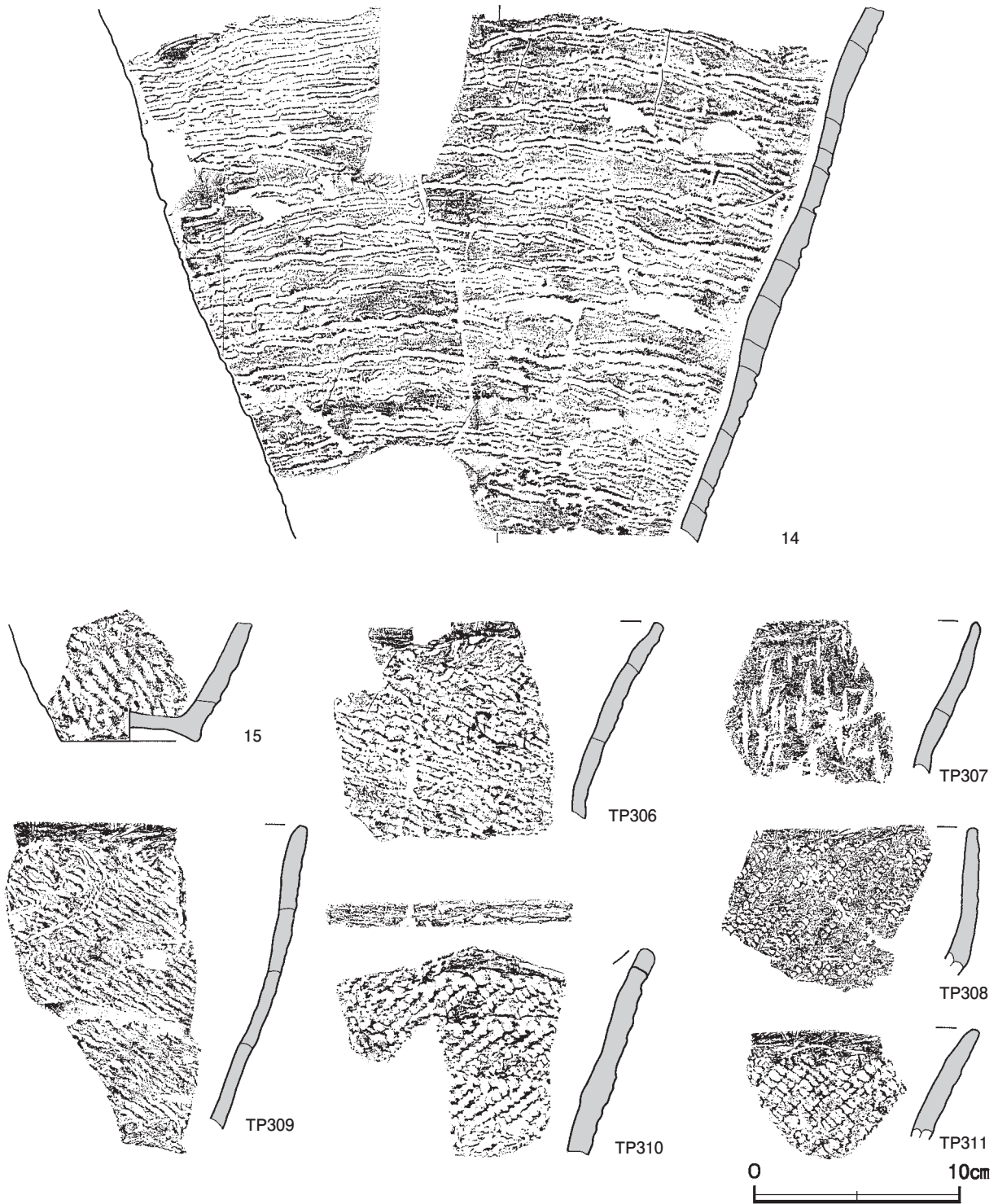
- | | | | |
|--------|-----------------------------|-------|---------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量, 砂粒微量 | | |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・砂粒微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・砂粒微量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量 | | |



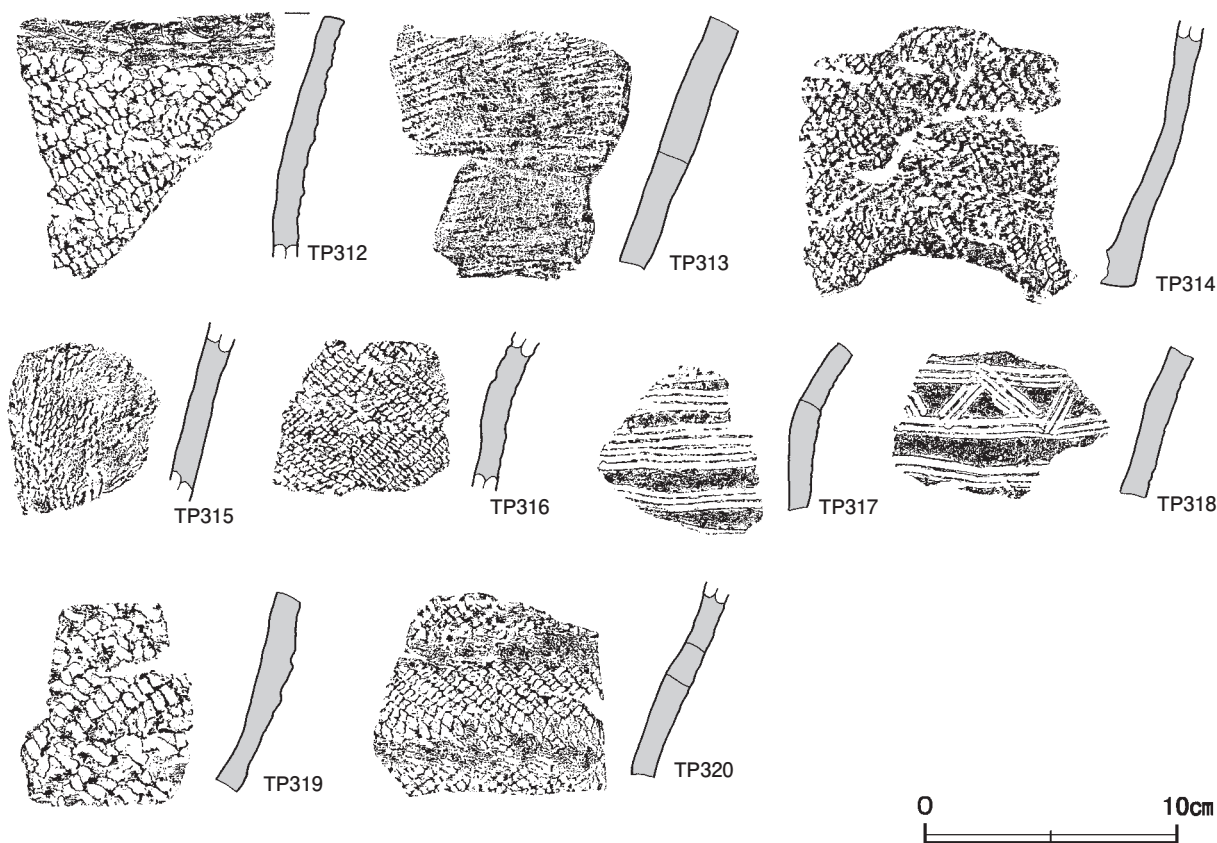
第67図 第43号住居跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片 404 点（深鉢）が、中央部から南東部の覆土上層から下層にかけて散在した状態で出土している。TP318 は南寄りの床面から出土している。14 は北寄りから南寄りにかけての覆土下層から出土した破片が接合したものである。TP306 は南東部の覆土下層から、TP309 は南西寄り、TP316 は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半の関山式期～植房式期と考えられる。土器の主体は、関山式である。



第 68 図 第 43 号住居跡出土遺物実測図（1）



第 69 図 第 43 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 43 号住居跡出土遺物観察表 (第 68・69 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
14	縄文土器	深鉢	-	(26.2)	-	長石・石英・繊維	橙	普通	波状文	覆土下層	40% PL28
15	縄文土器	深鉢	-	(6.3)	6.5	長石・石英・繊維	橙	普通	Rの無節縄文	覆土中	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP306	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明黄褐	RRの反撚	覆土下層	PL35
TP307	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	褐	半截竹管の刺突または貝殻腹縁文	覆土中	
TP308	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	黄褐	LLの直前段反撚	覆土中	PL36
TP309	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	RRの反撚 沈線による蕨手状文、粘土紐貼付	覆土中層	PL36
TP310	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	LRの単節によるループ文	覆土中	PL36
TP311	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	LRの単節縄文	覆土中	
TP312	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	LRの単節によるループ文	覆土中	PL36
TP313	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	LLの反撚	覆土上層	
TP314	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	RLの単節縄文とLR単節縄文による羽状構成	覆土上層	
TP315	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	撚糸文	覆土中	
TP316	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明褐	多条の結束による羽状構成で、菱形に施文	覆土中層	PL36
TP317	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい赤褐	3本1単位と6本1単位の櫛歯文	覆土中	
TP318	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	褐	櫛歯状工具による横位の櫛歯文 櫛歯状工具による鋸歯状文	床面	
TP319	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	淡黄	RLの単節縄文とLRの単節縄文を結束	覆土中	
TP320	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成	覆土中	

第 44 号住居跡 (第 70・71 図)

位置 調査区中央部の F 5 g6 区, 標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

確認状況 第 4 号遺物包含層の掘削後に確認した。

規模と形状 北部と東部が攪乱を受けているため, 東西軸は 5.73m で, 南北軸は 2.90m しか確認できなかった。長軸方向は N - 61° - E と推定できる。壁高は 10 ~ 24cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 深さ 39cm で, 配置から支柱穴と考えられる。

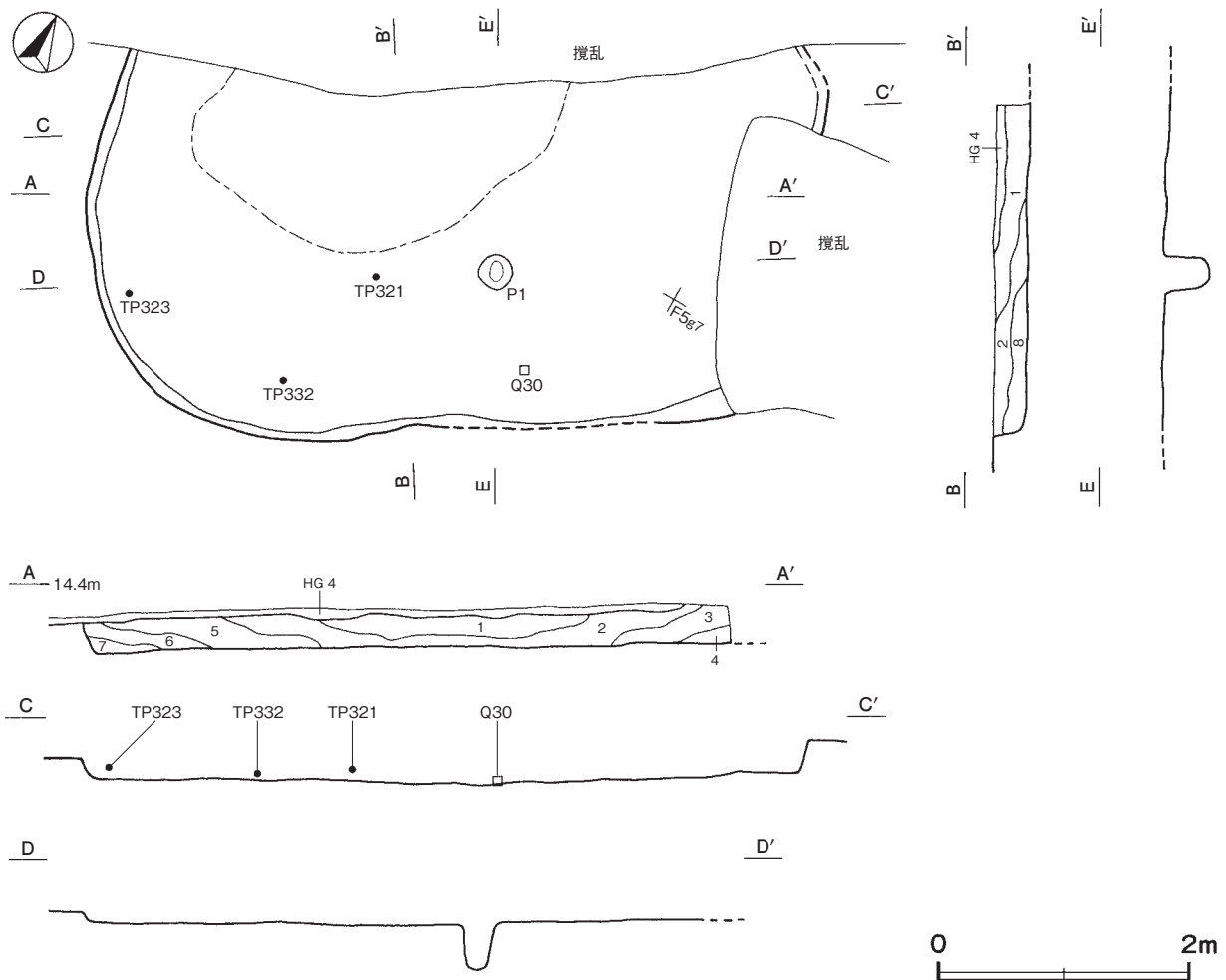
覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

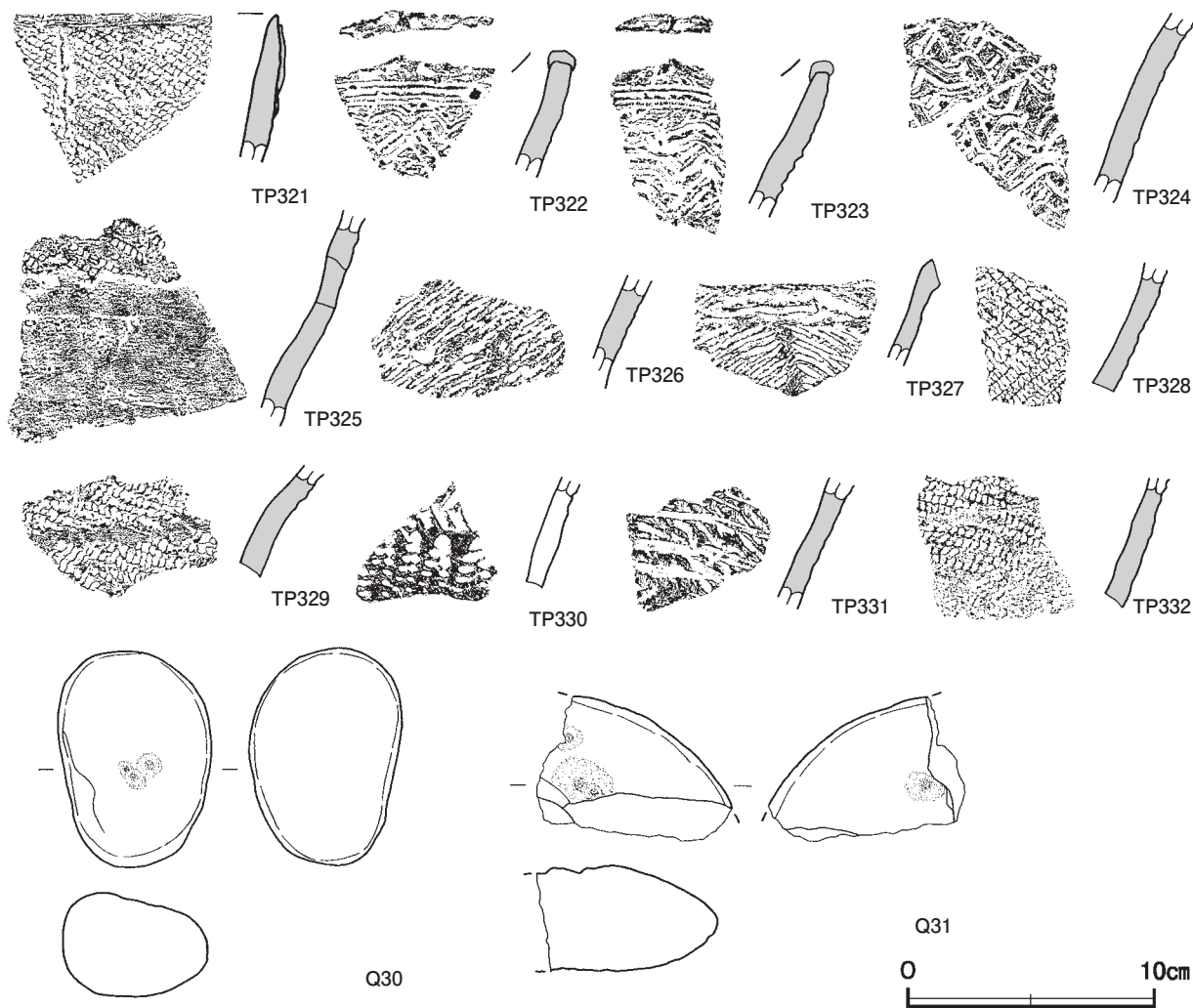
- | | | | |
|----------|-----------|----------|---------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック微量 | 5 におい黄褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 2 におい黄褐色 | ロームブロック少量 | 6 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | 7 黄褐色 | ロームブロック少量 |
| 4 灰黄褐色 | ロームブロック微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 161 点 (深鉢), 石器 2 点 (磨石, 凹石), 礫 5 点が出土している。Q 30 は南東壁際の床面から, TP321 は中央部南東寄り, TP332 は南コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期前半と考えられる。



第 70 図 第 44 号住居跡実測図



第71図 第44号住居跡出土遺物実測図

第44号住居跡出土遺物観察表 (第71図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP321	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文 粘土紐の貼付	覆土下層	
TP322	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	半截竹管による沈線 波状文 鋸歯状文	覆土中	
TP323	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	半截竹管による沈線 波状文 鋸歯状文	覆土中層	
TP324	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	鋸歯状文	覆土中	
TP325	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	RLの単節縄文	覆土中	
TP326	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	Lの無節縄文	覆土中	
TP327	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明黄褐	Lの無節縄文とRの無節縄文による羽状構成	覆土中	
TP328	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成	覆土中	
TP329	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	RLの単節縄文	覆土中	
TP330	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文・へら状工具による斜位の刺突 工具による連続の刺突	覆土中	
TP331	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	RRの反撚 沈線	覆土中	
TP332	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	RLの単節縄文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q30	磨石	8.9	6.3	4.2	290.0	石英斑岩	全面研磨 凹部3か所	床面	
Q31	凹石	(5.9)	(8.0)	4.3	(200.0)	安山岩	凹部3か所	覆土中	

第 45 号住居跡 (第 72 ~ 75 図)

位置 調査区中央部の E 5j4 区, 標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 4 号遺物包含層の掘削後に確認した。第 188・192・201 号土坑を掘り込み, 第 187・189 号土坑に掘り込まれている。第 177 号土坑との新旧関係は不明である。

規模と形状 長径 7.24 m, 短径 7.16 m の楕円形で, 長径方向は N - 9° - W である。壁高は 28 ~ 48 cm で, 緩やかに外傾して立ち上がっている。

床 中央部は平坦で, 踏み固められている。

炉 2 か所。炉 1 は南西コーナー寄りに, 炉 2 は中央部東寄りにそれぞれ付設されている。炉 1 は径 43 cm の円形, 炉 2 は長径 46 cm, 短径 22 cm の楕円形を呈する地床炉である。炉 1 の炉床は床面から深さ 8 cm, 炉 2 の炉床は床面から深さ 9 cm で, それぞれ火を受けて赤変硬化している。

炉 1 土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・砂粒微量
- 2 黒褐色 焼土ブロック・ローム粒子・砂粒微量

炉 2 土層解説

- 1 極暗褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 砂粒微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・砂粒微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量

ピット 25 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 52 ~ 54 cm で, 主軸と一致する配置から, 廃絶時前の主柱穴と考えられる。P 5 ~ P 8 は深さ 42 ~ 49 cm で, 主軸からずれるため, P 1 ~ P 4 より古い主柱穴と考えられる。P 9 ~ P 22 は深さ 28 ~ 56 cm で, 配置から P 1 ~ P 4 より古い主柱穴で, P 1 ~ P 4 または P 5 ~ P 8 へ柱の立て替えの可能性が考えられるが, 詳細は不明である。P 23 ~ P 25 は深さ 37 ~ 56 cm で, 性格不明である。

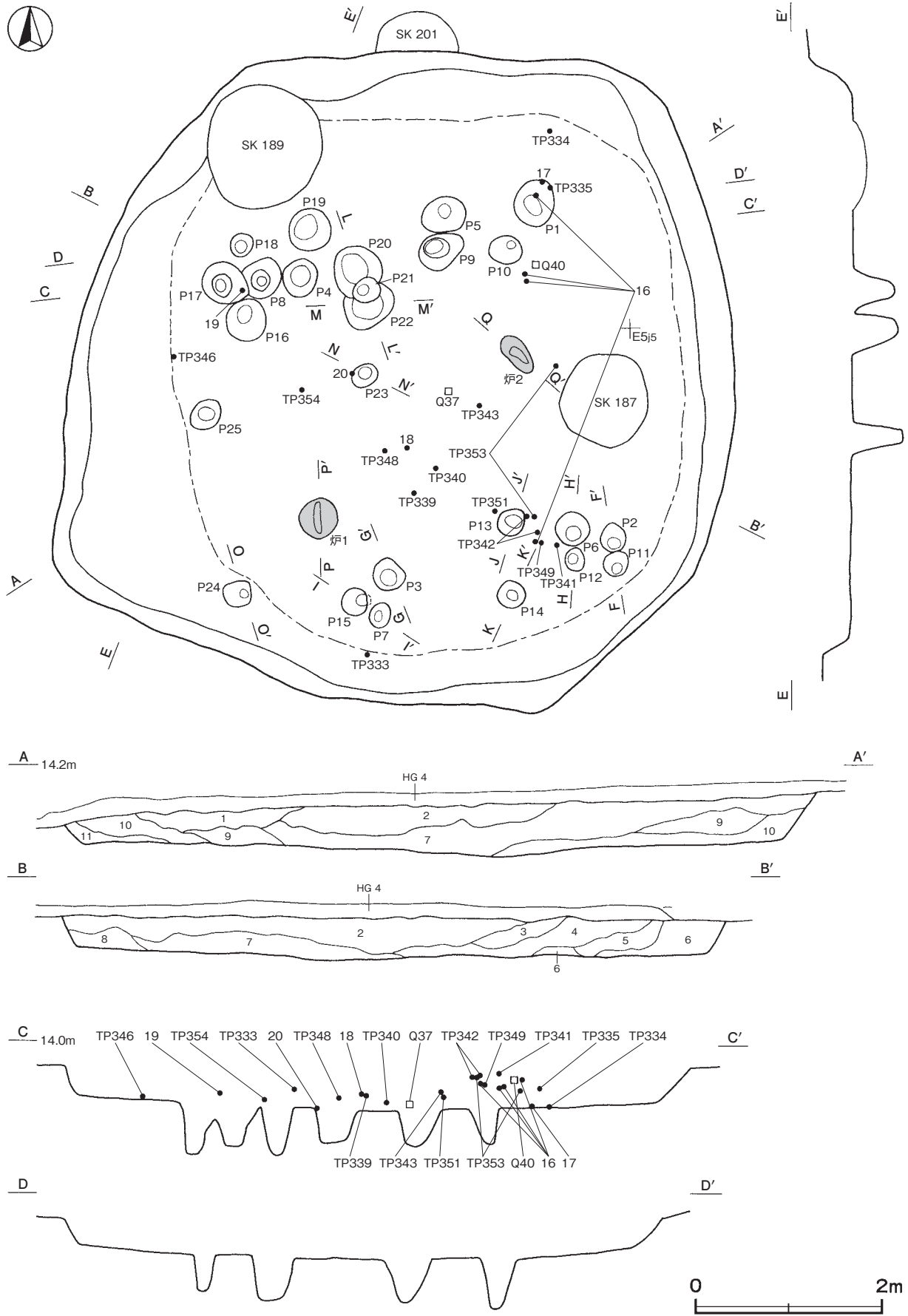
覆土 11 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ, ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

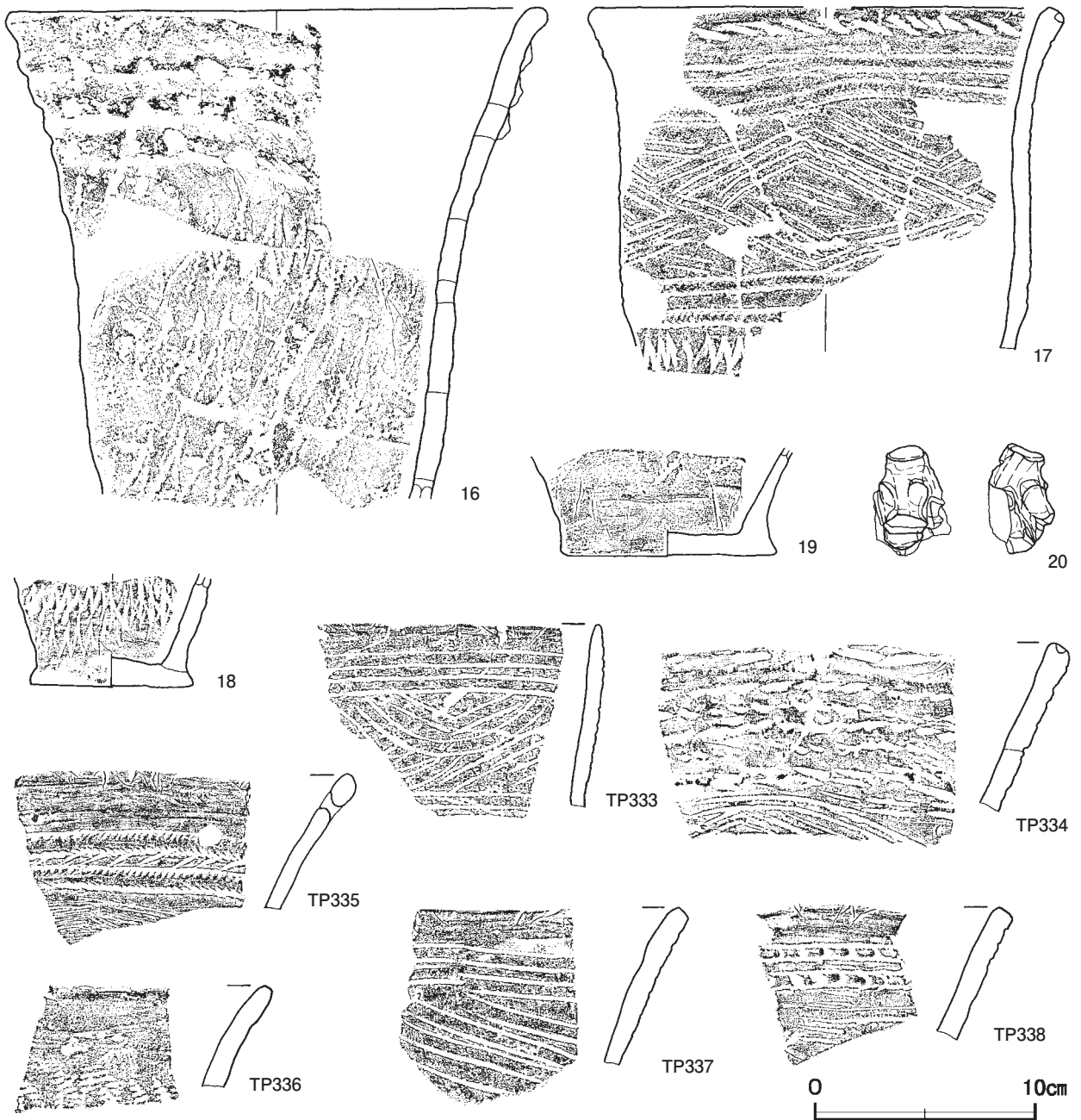
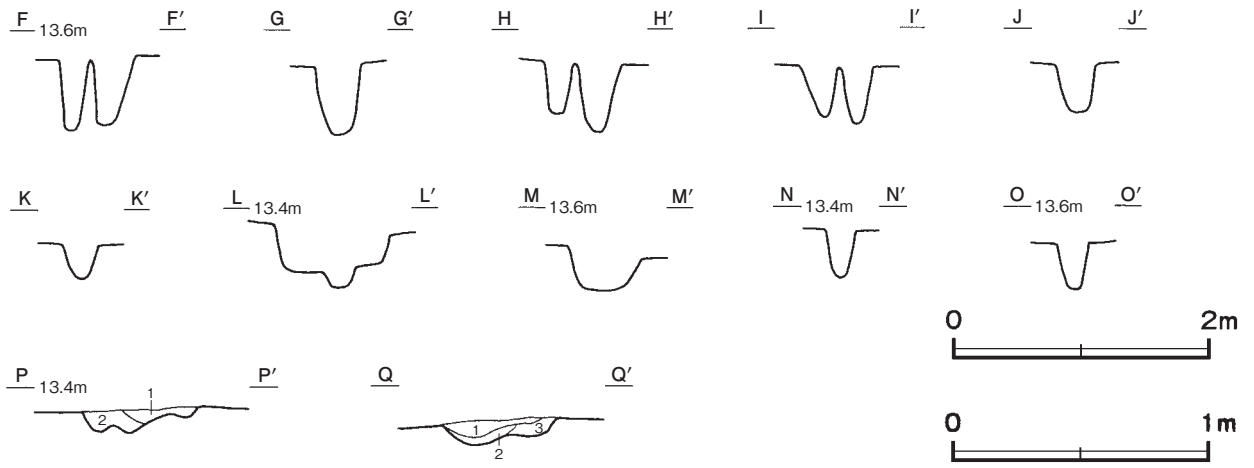
- | | | | |
|--------|---------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 8 暗褐色 | ロームブロック・砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量 | 9 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量 |
| 4 黒褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量 |
| 5 暗褐色 | ロームブロック少量, 砂粒微量 | | |
| 6 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・砂粒微量 | | |
| 7 極暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 1,550 点 (深鉢 1547, 浅鉢 3), 石器 23 点 (搔器 1, 石錐 1, 鏃 13, 石皿 1, 磨石 2, 敲石 3, 凹石 2), 石製品 1 点 (管玉カ) 剥片 128 点 (チャート 121, 頁岩 7), 礫 15 点が, 中央部から南部の覆土上層から下層にかけて散在した状態で出土している。TP334 は北東コーナー部, 17 は北東部, 20 は中央部の床面からそれぞれ出土している。Q 37 は中央部, TP340 は南寄り, TP354 は西寄り, TP346 は西部の覆土下層からそれぞれ出土している。

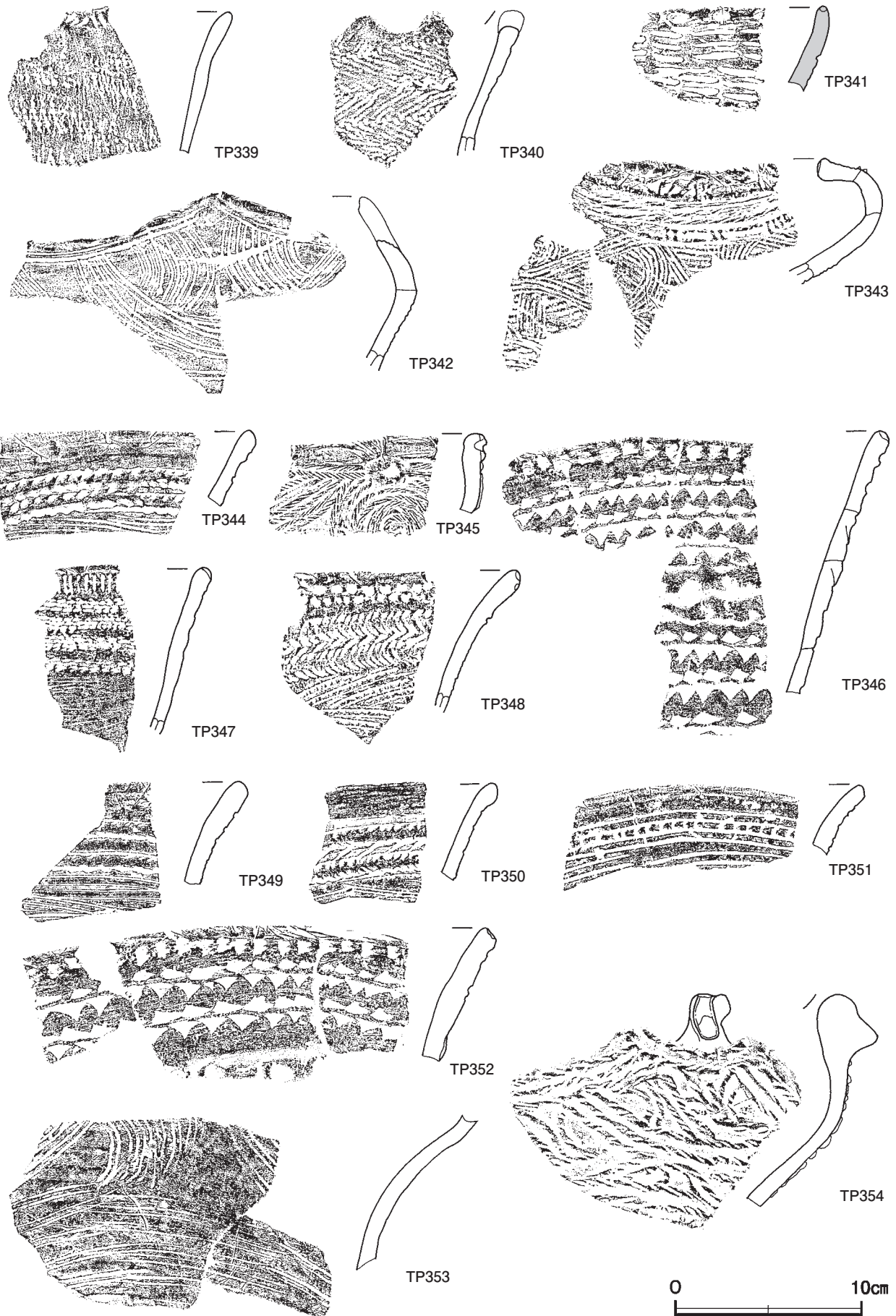
所見 覆土中からチャートの剥片 121 点が出土しているが, 廃絶時に廃棄されたものと考えられる。本跡または周辺で石器製作を行っていた可能性が考えられる。時期は, 出土土器から前期後半の浮島 II ~ III 式期と考えられる。



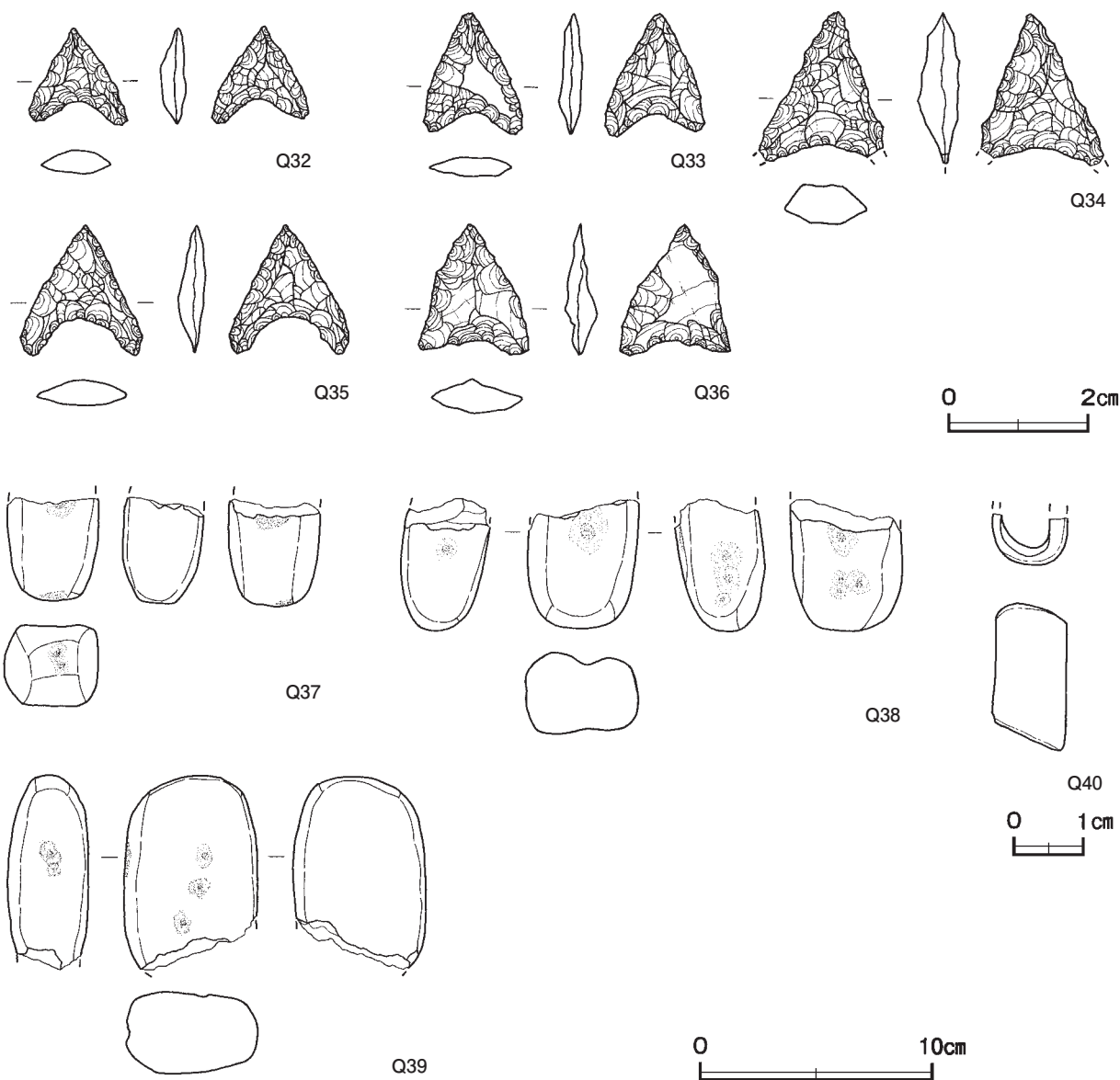
第72图 第45号住居跡実測図



第 73 图 第 45 号住居跡・出土遺物実測図



第74图 第45号住居跡出土遺物実測図(1)



第75図 第45号住居跡出土遺物実測図(2)

第45号住居跡出土遺物観察表(第73~75図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
16	縄文土器	深鉢	23.5	(22.2)	-	長石・石英	明赤褐	普通	凹凸文 アナダラ属による貝殻波状文	覆土中層	40% PL30
17	縄文土器	深鉢	[20.8]	(15.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐	普通	口唇部に斜位の条線帯 半截竹管による沈線 菱形文 変形爪形文 貝殻波状文	床面	10% PL29
18	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	7.4	長石・石英	黄橙	普通	貝殻波状文	覆土中層	10%
19	縄文土器	深鉢	-	(4.9)	9.9	長石・石英	橙	普通	アナダラ属による貝殻波状文	覆土中層	10%
20	縄文土器	深鉢	-	(5.0)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	獣面把手 瘤を貼付後に工具で刺突し、目と鼻を表現	床面	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP333	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	半截竹管による沈線	覆土中層	PL37
TP334	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に工具による押引文 変形爪形文 半截竹管による押引文 半截竹管による沈線	床面	PL37
TP335	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	穿孔 変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 半截竹管による沈線	覆土中層	PL37
TP336	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	アナダラ属による貝殻波状文	覆土中	
TP337	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	半截竹管による沈線	覆土中	

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP338	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	爪形文 半截竹管による沈線	覆土中	
TP339	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	口唇部に斜位の条線帯 アナガラ属による貝殻波状文	覆土中層	
TP340	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	RLの単節縄文とLRの単節縄文の結束による羽状構成	覆土下層	PL37
TP341	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	口唇部に指頭圧痕 半截竹管による押引文	覆土上層	
TP342	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	半截竹管による沈線 対弧文	覆土上層	PL37
TP343	縄文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい褐	口唇部に粘土紐を貼付 LRの単節縄文 浮線文 粘土紐貼付 半截竹管による沈線	覆土中層	
TP344	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文 半截竹管による沈線	覆土中	
TP345	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	口縁部に円形に粘土紐を貼付 浮線文	覆土中	
TP346	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	口唇部に工具による連続の刺突 変形爪形文	覆土下層	PL37
TP347	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に斜位の条線帯 工具による連続の刺突 半截竹管による沈線	覆土中	
TP348	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐	口唇部に工具による連続の刺突 変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 矢羽根状文	覆土中層	PL37
TP349	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文 半截竹管による沈線	覆土中層	
TP350	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 半截竹管による沈線	覆土中	
TP351	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	半截竹管による沈線 爪形文	覆土中層	
TP352	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	口唇部に工具による連続の刺突 変形爪形文 凹凸文	覆土中	
TP353	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	対弧文 半截竹管による沈線	覆土中層	
TP354	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黄橙	獣面把手 LRの単節縄文 浮線文	覆土下層	PL37

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 32	鉢	1.4	1.4	0.4	0.5	チャート	凹基無茎鉢 両面押圧剥離	覆土中	PL42
Q 33	鉢	1.8	1.5	0.3	0.7	チャート	凹基無茎鉢 両面押圧剥離	覆土中	PL42
Q 34	鉢	(2.2)	(1.8)	0.6	(1.6)	チャート	凹基無茎鉢 両面押圧剥離	覆土中	PL42
Q 35	鉢	1.9	1.8	0.4	0.7	チャート	凹基無茎鉢 両面押圧剥離	覆土中	PL42
Q 36	鉢	1.9	1.6	0.5	0.9	頁岩	凹基無茎鉢 両面押圧剥離	覆土中	PL42
Q 37	敲石	(4.6)	4.0	3.5	(722)	安山岩	敲打痕 凹部2か所	覆土下層	
Q 38	凹石	(5.7)	4.8	3.9	(131.1)	角閃石デイスait	凹部9か所	覆土中	PL44
Q 39	凹石	(8.4)	6.7	3.5	(210.0)	安山岩	凹部5か所	覆土中	PL44
Q 40	管玉カ	2.1	1.1	(0.7)	(1.6)	チャート	全面研磨調整 断面楕円形カ	覆土上層	PL43

第46号住居跡（第76～79図）

位置 調査区中央部のE 5h4区、標高14mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第4号遺物包含層の掘削後に確認した。第191号土坑を掘り込み、第143・144・190号土坑、第30号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.32m、短軸5.31mの隅丸方形で、主軸方向はN-29°-Wである。壁高は22～42cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、北壁・西壁の際を除いて踏み固められている。

炉 2か所。炉1は南東寄りに、炉2は南西寄りにそれぞれ付設されている。炉1は長径58cm、短径43cmの楕円形を呈する地床炉である。炉床は床面から深さ14cmで、火を受けて赤変硬化している。炉2は、南西部が壊されているため、長径44cm、短径14cmしか確認できなかった。炉床は床面と同じ高さで、火を受けて赤変硬化している。

炉1・炉2土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量、砂粒微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック・砂粒微量
- 3 極赤褐色 ローム粒子・焼土ブロック少量、砂粒微量

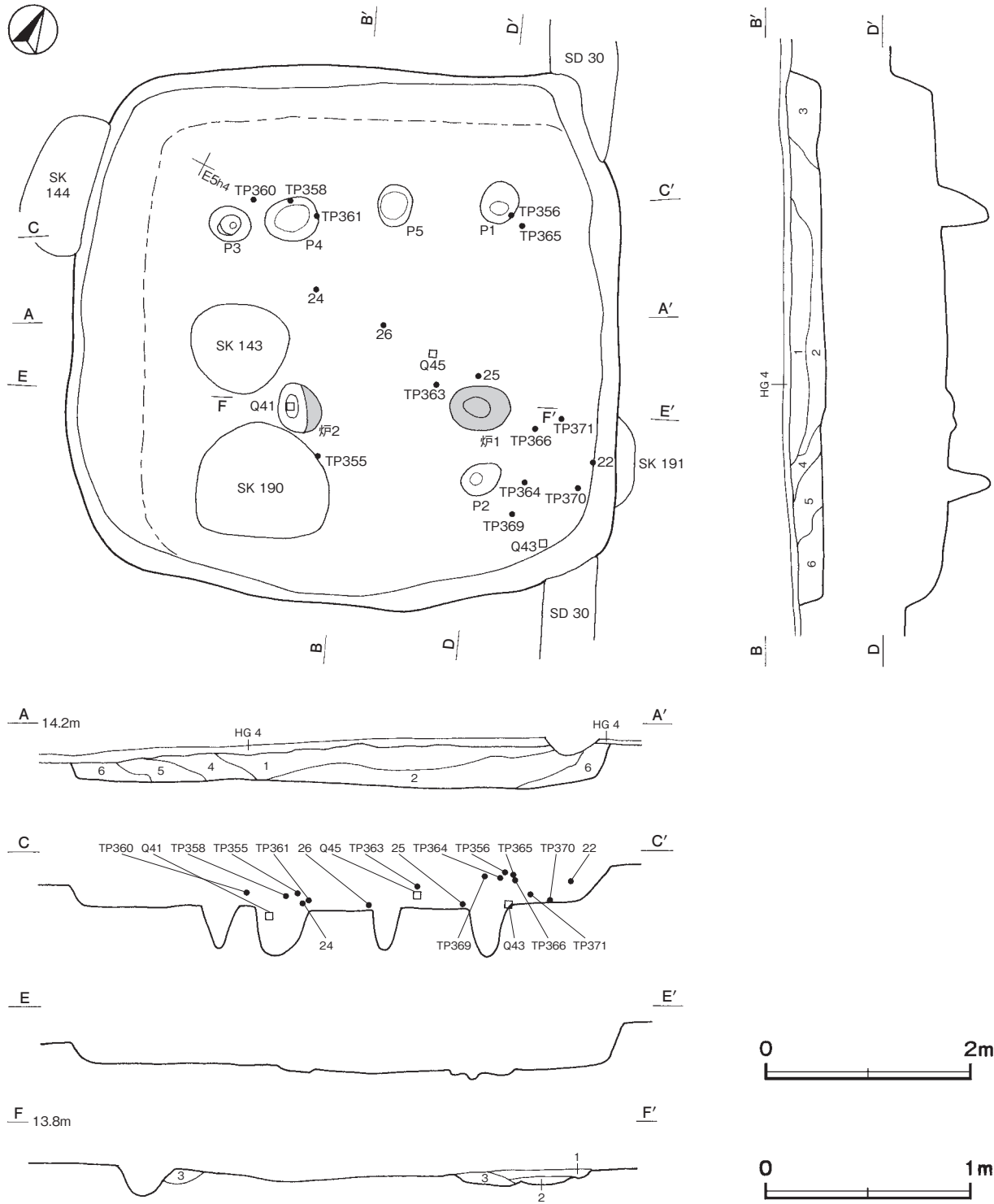
ピット 5か所。P1～P3は深さ41～48cmで配置から主柱穴と考えられる。P4・P5は深さ47cm・39cm

で、補助的な役割を有する柱穴と考えられる。

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|---------------------------------------|--|
| 1 黒褐色 砂粒少量, ロームブロック・炭化粒子・焼土粒子
微量 | 4 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子・砂粒微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・
砂粒微量 | 5 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子・
砂粒微量 |
| 3 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒
微量 | 6 暗褐色 ロームブロック少量, 砂粒微量 |



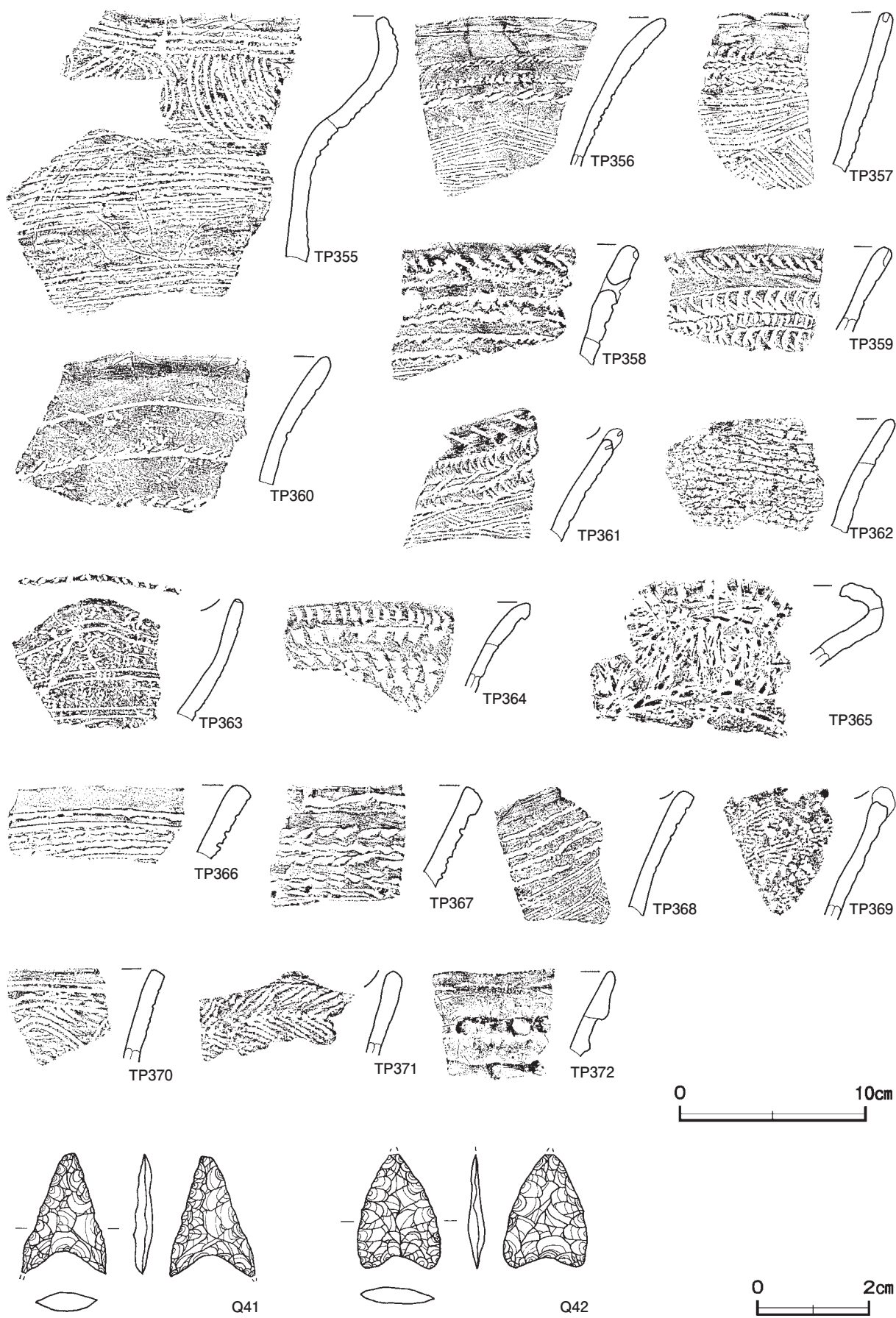
第 76 図 第 46 号住居跡実測図

遺物出土状況 縄文土器片 859 点（深鉢 857, 浅鉢 2）, 石器 11 点（搔器 1, 鎌 5, 石皿 1, 敲石 1, 凹石 2, 鎌未製品 1）, 剥片 85 点（チャート 83, 頁岩 2）, 礫 21 点が, 全体の覆土上層から下層にかけて散在した状態で出土している。TP370・Q 43 は南東コーナー部の床面から, TP361 は北西寄り, 24・26 は中央部, Q 41 は南寄り, 25 は東部, TP371 は東部の覆土下層からそれぞれ出土している。

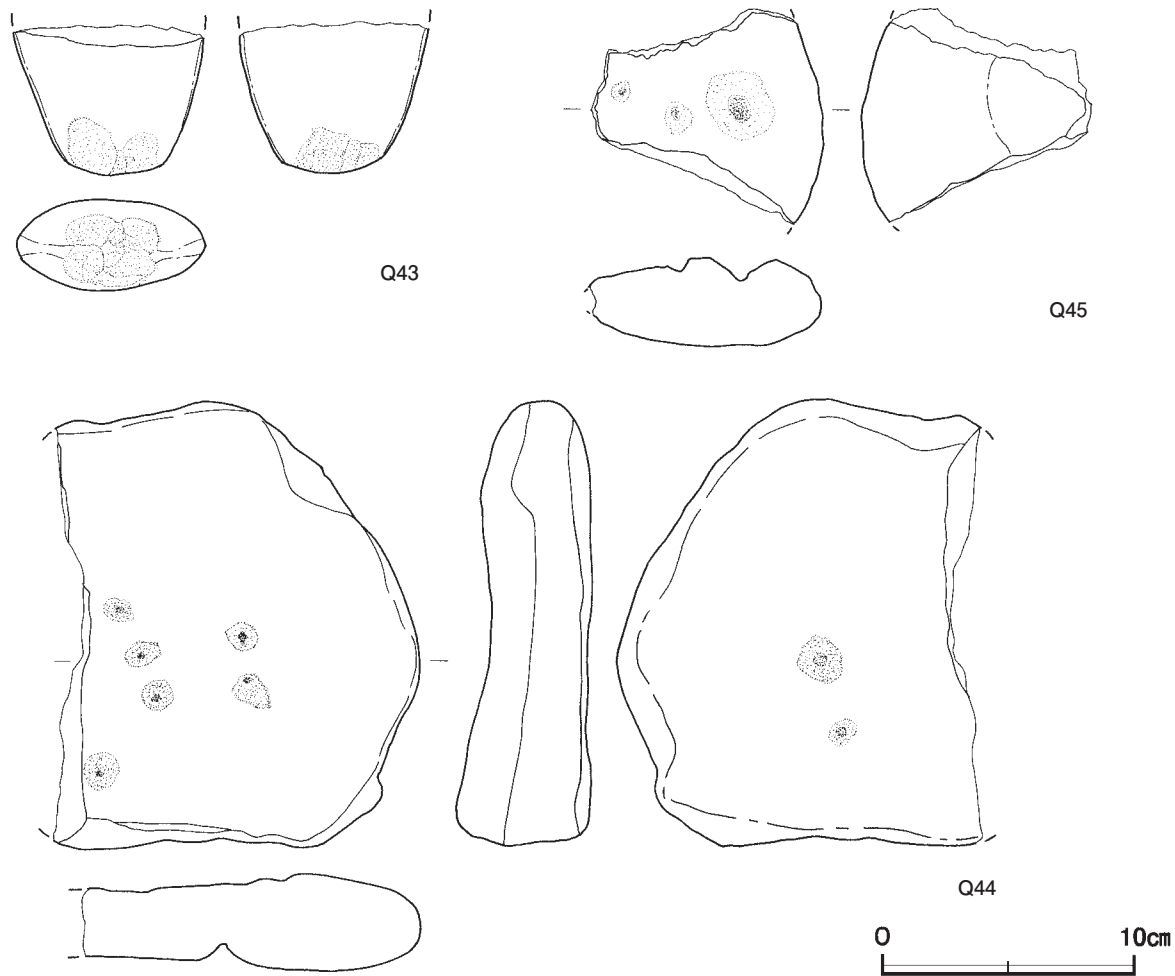
所見 覆土中からチャートの剥片 83 点が出土しているが, 廃絶時に廃棄されたものと考えられる。本跡または周辺で石器製作を行っていた可能性が考えられる。時期は, 出土土器から前期後半の浮島Ⅱ～Ⅲ式期と考えられる。



第 77 図 第 46 号住居跡出土遺物実測図（1）



第 78 图 第 46 号住居跡出土遺物実測図 (2)



第 79 図 第 46 号住居跡出土遺物実測図 (3)

第 46 号住居跡出土遺物観察表 (第 77 ~ 79 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
21	縄文土器	深鉢	[22.6]	(7.5)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	半截竹管による沈線	覆土中層	10%
22	縄文土器	深鉢	-	(5.7)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	LRの単節縄文 半截竹管による沈線 工具による凹形の刺突	覆土中	10% PL31
23	縄文土器	深鉢	-	(28.5)	-	長石・石英	橙	普通	半截竹管による沈線 半截竹管による刺突 変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 アナダラ属による貝殻波状文	覆土中	20% PL30
24	縄文土器	深鉢	-	(5.2)	14.5	長石・石英・雲母	橙	普通	RLの単節縄文 浮線文	覆土下層	10%
25	縄文土器	深鉢	-	(8.6)	[11.8]	長石・石英・繊維	橙	普通	Lの無節縄文	覆土下層	10%
26	縄文土器	深鉢	-	(8.3)	9.1	長石・石英	黄橙	普通	腹縁に挟りのある貝による貝殻波状文	覆土下層	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP355	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	半截竹管による沈線 対弧文	覆土中層	PL38
TP356	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 菱形文	覆土上層	PL38
TP357	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に工具による押引文 変形爪形文 半截竹管による沈線	覆土中	
TP358	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	穿孔 口唇部に斜位の条線帯 変形爪形文 半截竹管による沈線	覆土中層	PL38
TP359	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	口唇部に斜位の条線帯 変形爪形文 爪形文	覆土中	
TP360	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突	覆土中層	PL38
TP361	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に斜位の条線帯 変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 半截竹管による沈線	覆土下層	PL38
TP362	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	RLの単節縄文	覆土中	PL38

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP363	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	口唇部に工具による圧痕 LRの単節縄文 半截竹管による沈線	覆土中層	PL38
TP364	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	口唇部に斜位の条線帯 変形爪形文	覆土上層	PL38
TP365	縄文土器	浅鉢	長石・石英	明赤褐	沈線 浮線文	覆土上層	
TP366	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	半截竹管による沈線 有節平行線文	覆土上層	
TP367	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	口唇部に工具による押引文	覆土中	PL38
TP368	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文 半截竹管による沈線	覆土中	
TP369	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	貝殻腹縁押引文	覆土上層	
TP370	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	RLの単節縄文 半截竹管による沈線 ヘラ状工具による斜位の刺突	床面	
TP371	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	RLの単節縄文とLRの単節縄文の結束による羽状構成	覆土下層	PL38
TP372	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	凹凸文	覆土中	PL38

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 41	鏃	2.2	1.5	0.4	(0.9)	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	覆土下層	PL42
Q 42	鏃	(2.1)	1.5	0.3	(1.0)	粘板岩カ	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	覆土中	PL42
Q 43	敲石	(5.9)	(7.5)	3.5	(200.0)	閃緑岩	敲打痕	床面	PL45
Q 44	凹石	17.8	(14.6)	5.4	(1360.0)	安山岩	凹部8か所 2面に磨り痕	覆土中	PL44
Q 45	凹石	(8.6)	(9.2)	4.0	(190.0)	安山岩	凹部3か所 1面に局所的な磨り痕	覆土中層	PL45

第47号住居跡（第80・81図）

位置 調査区中央部のF5d1区、標高14mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第4号遺物包含層の掘削後に確認した。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているため、南北軸は6.96mで、東西軸は6.08mしか確認できなかった。長軸方向はN-12°-Wと推定できる。壁高は22～28cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、壁際と南東部を除いて踏み固められている。

炉 3か所。炉1～炉3はいずれも中央部北東寄りに付設されている。炉1は長径34cm、短径24cm、炉2は長径63cm、短径37cm、炉3は長径52cm、短径27cmで、いずれも楕円形を呈する地床炉である。炉1の炉床は深さ3cm、炉2の炉床は深さ5cm、炉3の炉床は深さ8cmで、それぞれ火を受けて赤変硬化している。

炉1～炉3土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量、炭化物微量

ピット 6か所。P1～P3は深さ30～42cmで、配置から主柱穴と考えられる。P4は深さ41cmで、配置と新旧関係からP1より古い主柱穴で、P2へ柱の立て替えが行われたと考えられる。P5・P6は深さ41cm・33cmで、性格不明である。

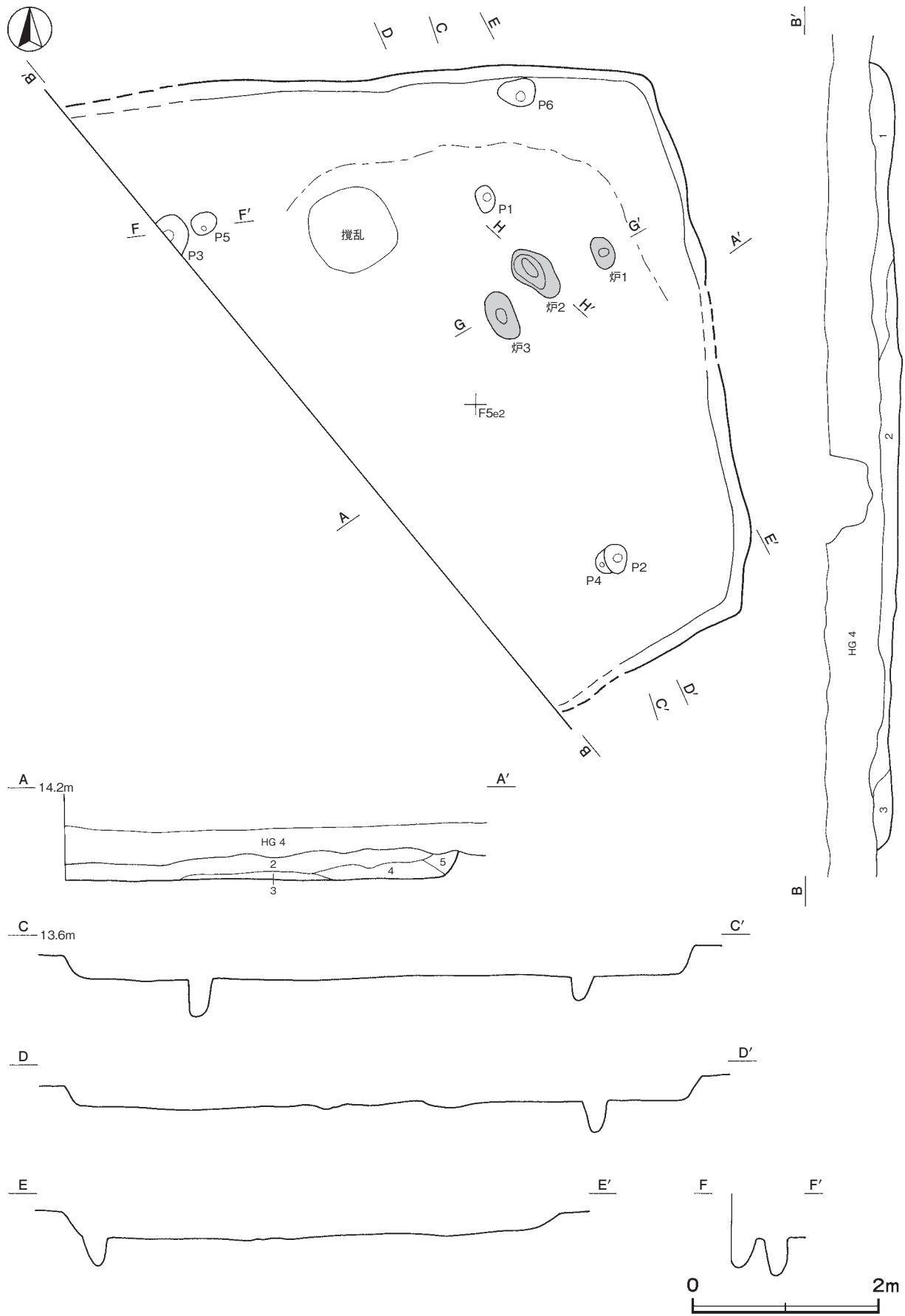
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれ、ブロック状に堆積していることから埋め戻されている。

土層解説

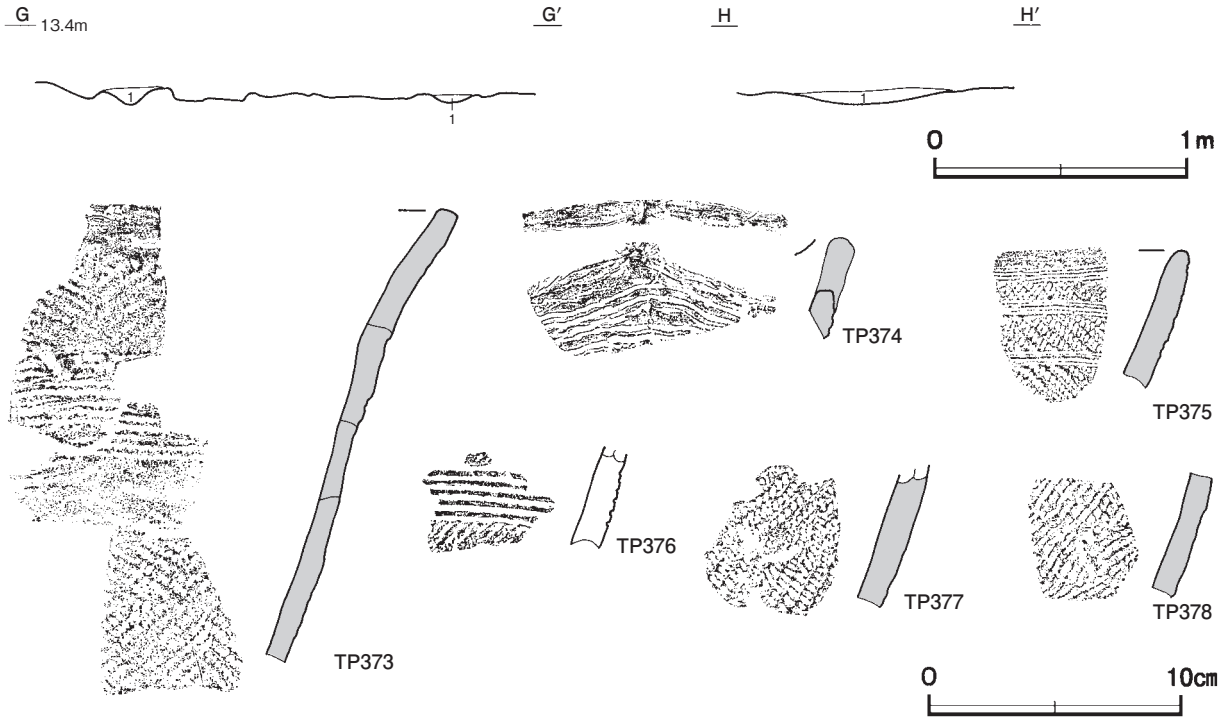
- 1 黒色 ローム粒子・焼土ブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量
- 5 極暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片60点（深鉢）が出土している。遺物はいずれも覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半と考えられる。



第 80 图 第 47 号住居跡実測図



第 81 図 第 47 号住居跡・出土遺物実測図

第 47 号住居跡出土遺物観察表（第 81 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP373	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文とLRの単節縄文による菱状構成	覆土中	
TP374	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	半截竹管による波状文	覆土中	
TP375	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文 櫛歯文	覆土中	
TP376	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	LRの単節縄文 櫛歯文	覆土中	
TP377	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	LRの単節縄文	覆土中	
TP378	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明褐	LRの単節縄文	覆土中	

第 48 号住居跡（第 82 ～ 84 図）

位置 調査区中央部の F 5 e6 区，標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

確認状況 第 4 号遺物包含層の掘削後に確認した。

規模と形状 南部と西部が攪乱を受けているため，北西・南東軸は 5.62m，北東・南西軸は 4.84m しか確認できなかった。長軸方向は N - 31° - W と推定できる。壁高は 14 ～ 20cm で，外傾して立ち上がっている。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

炉 4 か所。炉 1 ・炉 2 は北西部に，炉 3 ・炉 4 は南東部にそれぞれ付設されている。炉 1 は長径 71cm，短径 60cm，炉 2 は長径 46cm，短径 36cm，炉 3 は長径 40cm，短径 31cm，炉 4 は長径 32cm，短径 21cm で，いずれも楕円形を呈する地床炉である。炉 1 の炉床は深さ 7cm，炉 2 の炉床は深さ 8cm，炉 3 ・炉 4 の炉床は床面と同じ高さで，それぞれ火を受けて赤変硬化している。

炉 1 土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化物微量

炉 2 土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

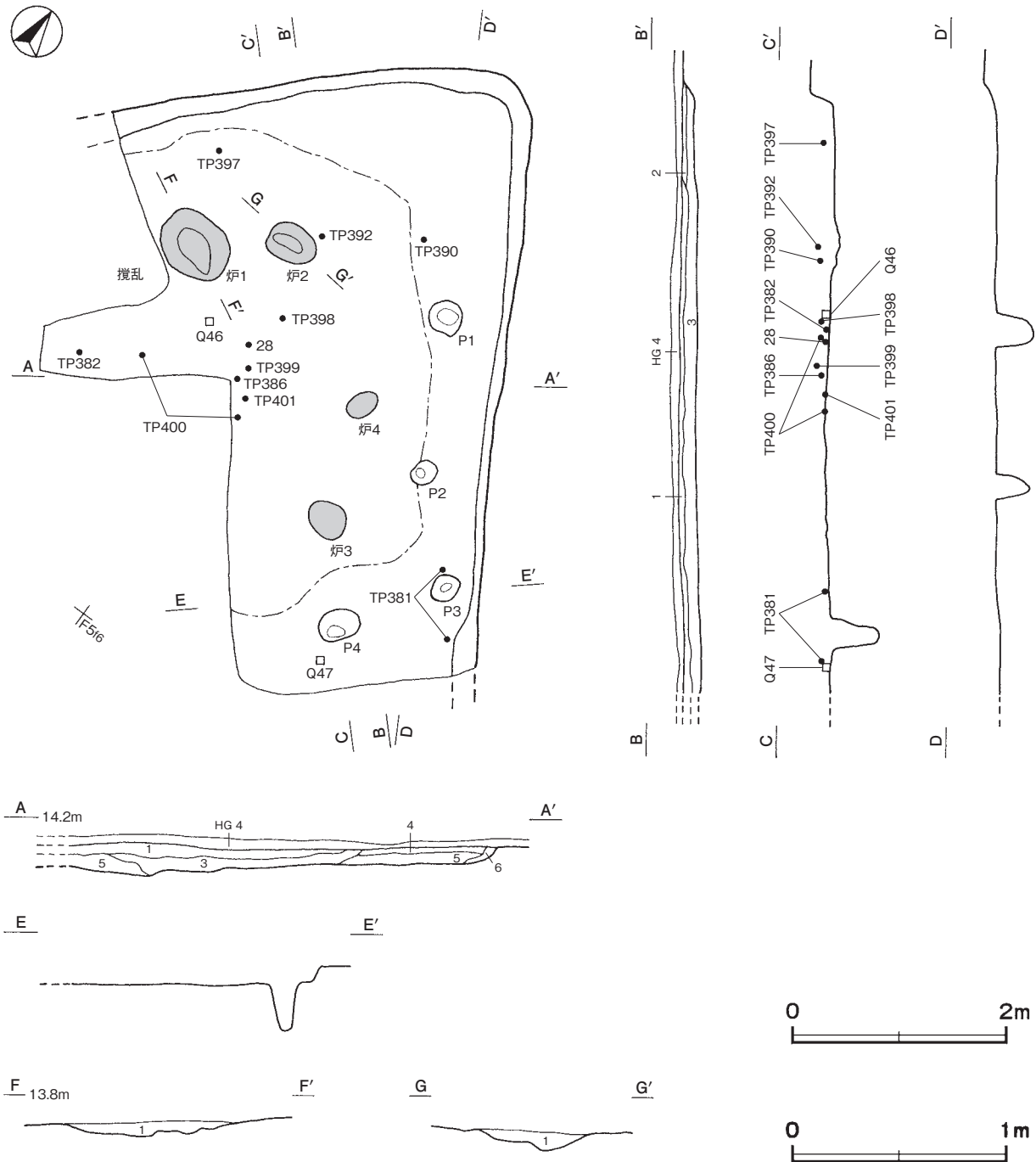
ピット 4か所。P 1～P 3は深さ 33～43cmで、配置から壁柱穴と考えられる。P 4は深さ 44cmで、性格不明である。

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|--------------------------|------|------------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子・焼土ブロック微量 | 4 褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 5 褐色 | ロームブロック中量, 炭化物微量 |
| 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |

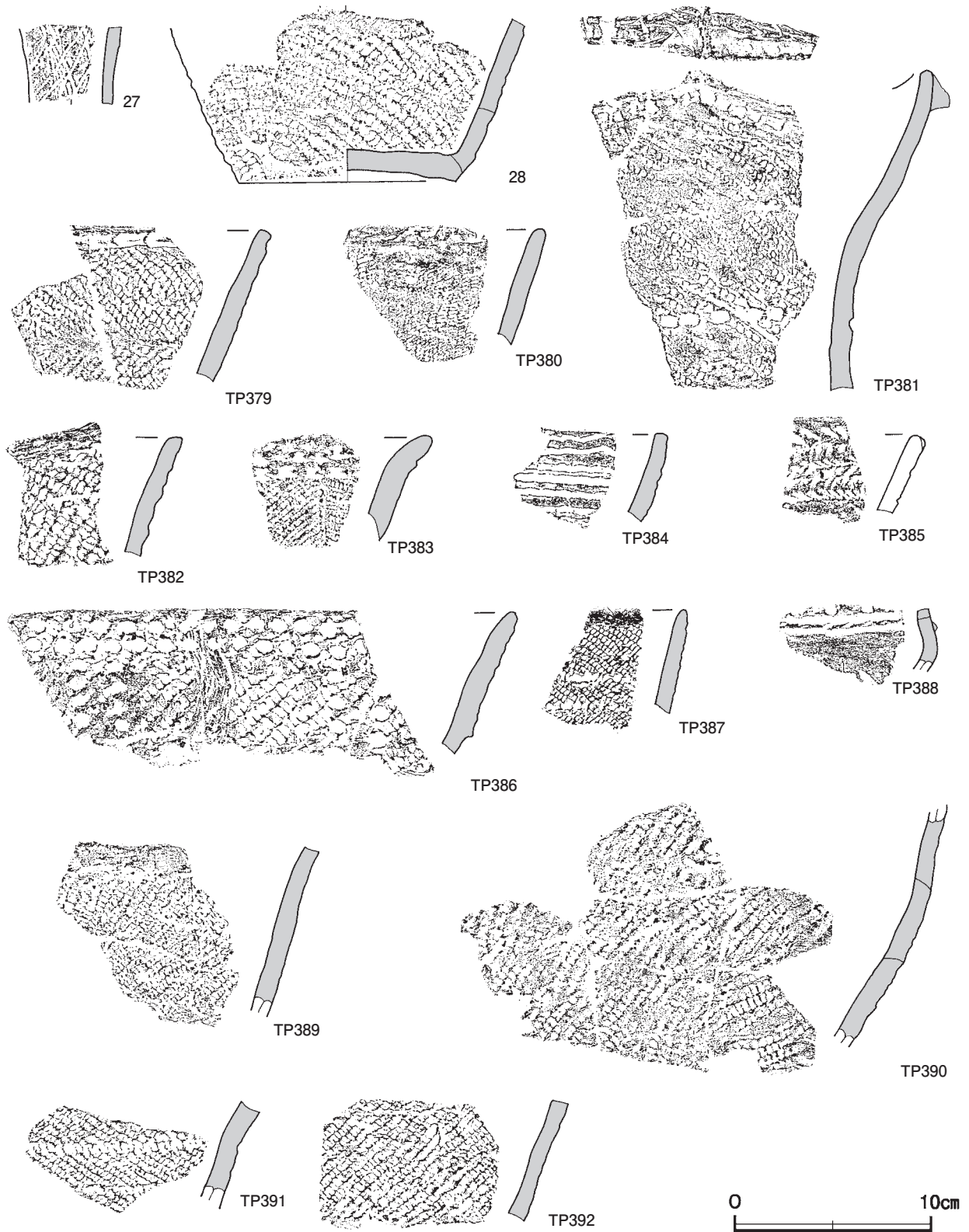
遺物出土状況 縄文土器片 305点 (深鉢), 石器2点 (凹石), 剥片3点, 礫8点が, 中央部から北部の覆土中層から床面にかけて散在した状態で出土している。TP401は中央部, Q 47は南東部の床面から, TP382は



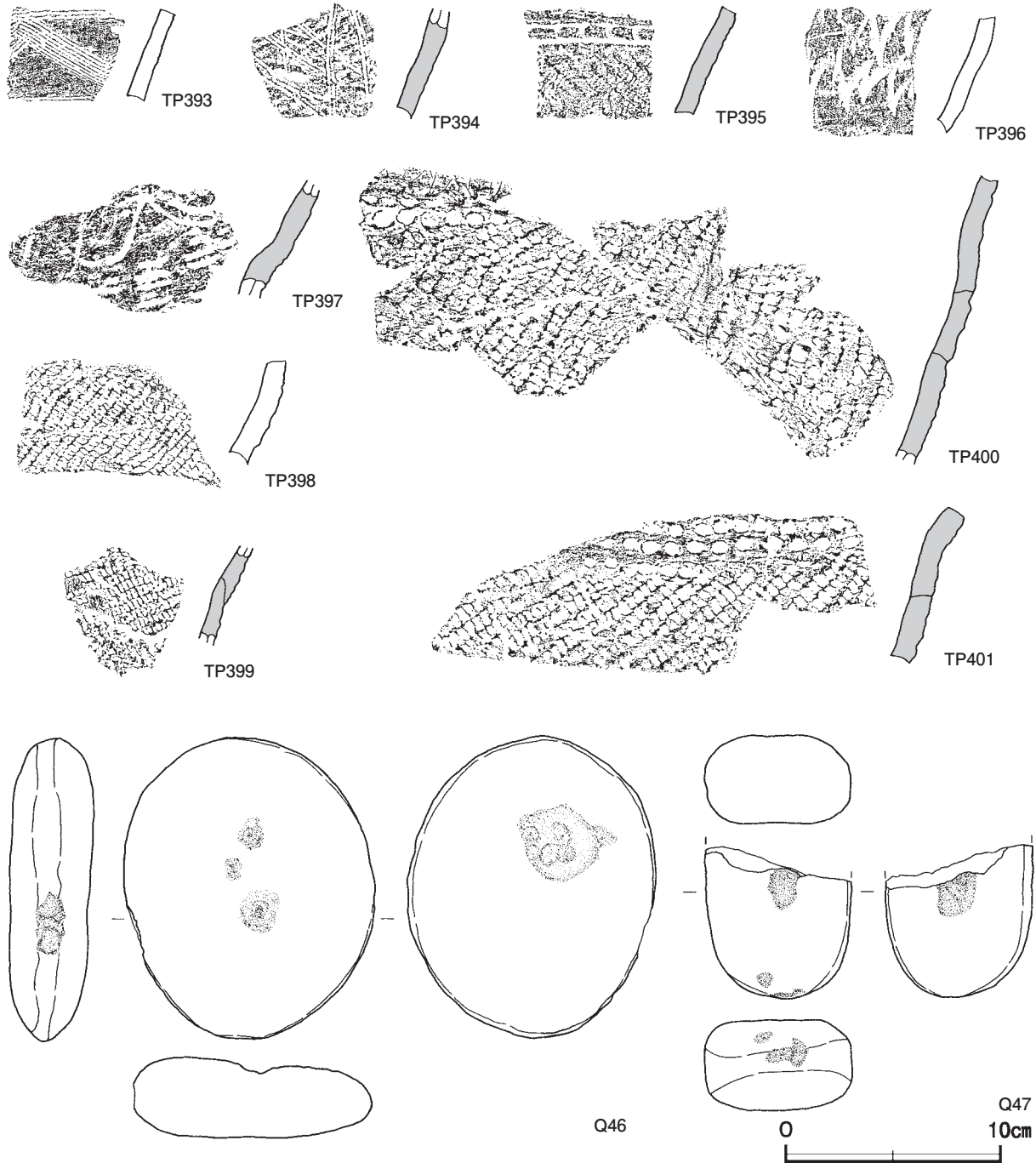
第 82 図 第 48 号住居跡実測図

南西寄り、28・TP386は中央部の覆土下層からそれぞれ出土している。TP381は東壁際の覆土下層から出土した破片が、TP400は中央部の床面と覆土下層から出土した破片がそれぞれ接合したものである。

所見 時期は、出土土器から前期前半と考えられる。



第83図 第48号住居跡出土遺物実測図(1)



第 84 図 第 48 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 48 号住居跡出土遺物観察表 (第 82 ~ 84 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
27	縄文土器	深鉢	-	(3.9)	-	長石・石英・ 繊維	にぶい褐	普通	格子目文	覆土中	5%
28	縄文土器	深鉢	-	(8.3)	11.0	長石・石英・ 繊維	橙	普通	RLの単節縄文	覆土下層	15%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP379	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文 爪形文	覆土中	
TP380	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	RLの単節縄文	覆土中	
TP381	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	口唇部に半截竹管による連続の刺突 RLの単節縄文 工具による連続の刺突	覆土下層	PL35

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP382	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成	覆土下層	
TP383	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成 粘土紐の貼付 半截竹管による連続の刺突	覆土中	
TP384	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	コンパス文カ	覆土中	
TP385	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	口唇部に斜位の条線帯 変形爪形文 工具による斜位の刺突	覆土中	
TP386	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	LRの単節縄文 工具による円形の連続する刺突	覆土下層	PL35
TP387	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	結節するRLの単節縄文	覆土中	
TP388	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	口唇部に工具による刺突 粘土紐を貼付し、斜位のキザミ	覆土中	
TP389	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	LRの単節縄文	覆土中	
TP390	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	LRの単節縄文	覆土中層	
TP391	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	結節するRLの単節縄文	覆土中	
TP392	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	LRの単節縄文	覆土中層	
TP393	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	半截竹管による連続の刺突 櫛歯状工具による鋸歯文	覆土中	
TP394	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	半截竹管の沈線による格子目文	覆土中	
TP395	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	RLの単節縄文	覆土中	
TP396	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	貝殻波状文	覆土中	
TP397	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	半截竹管による押引文	覆土中層	
TP398	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	LRの単節縄文	覆土中層	
TP399	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成	覆土中層	
TP400	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	LRの単節縄文 工具による円形の連続する刺突	床面・覆土下層	
TP401	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	LRの単節縄文 工具による円形の連続する刺突	床面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 46	凹石	14.2	11.7	3.8	790.0	安山岩	凹部14か所	覆土下層	
Q 47	凹石	(7.2)	6.9	4.2	(270.0)	安山岩	凹部2か所 敲打痕	床面	

第49号住居跡（第85図）

位置 調査区南東部のG6c8区、標高16mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 炉床面まで削平されているため、炉とピットしか確認できなかった。

規模と形状 ピットの配置から、長軸5.80m、短軸4.90mの台形で、長軸方向はN-54°-Eと推定できる。

炉 2か所。炉1は南東寄り、炉2は西寄りにそれぞれ付設されている。炉1は長径40cm、短径22cm、炉2は長径54cm、短径46cmで、両者とも楕円形を呈する地床炉である。炉1の炉床は、火を受けて赤変硬化しているが、掘り込みの有無は、炉床面まで削平されているため不明である。炉2の炉床は深さ12cmで、火を受けて赤変硬化している。

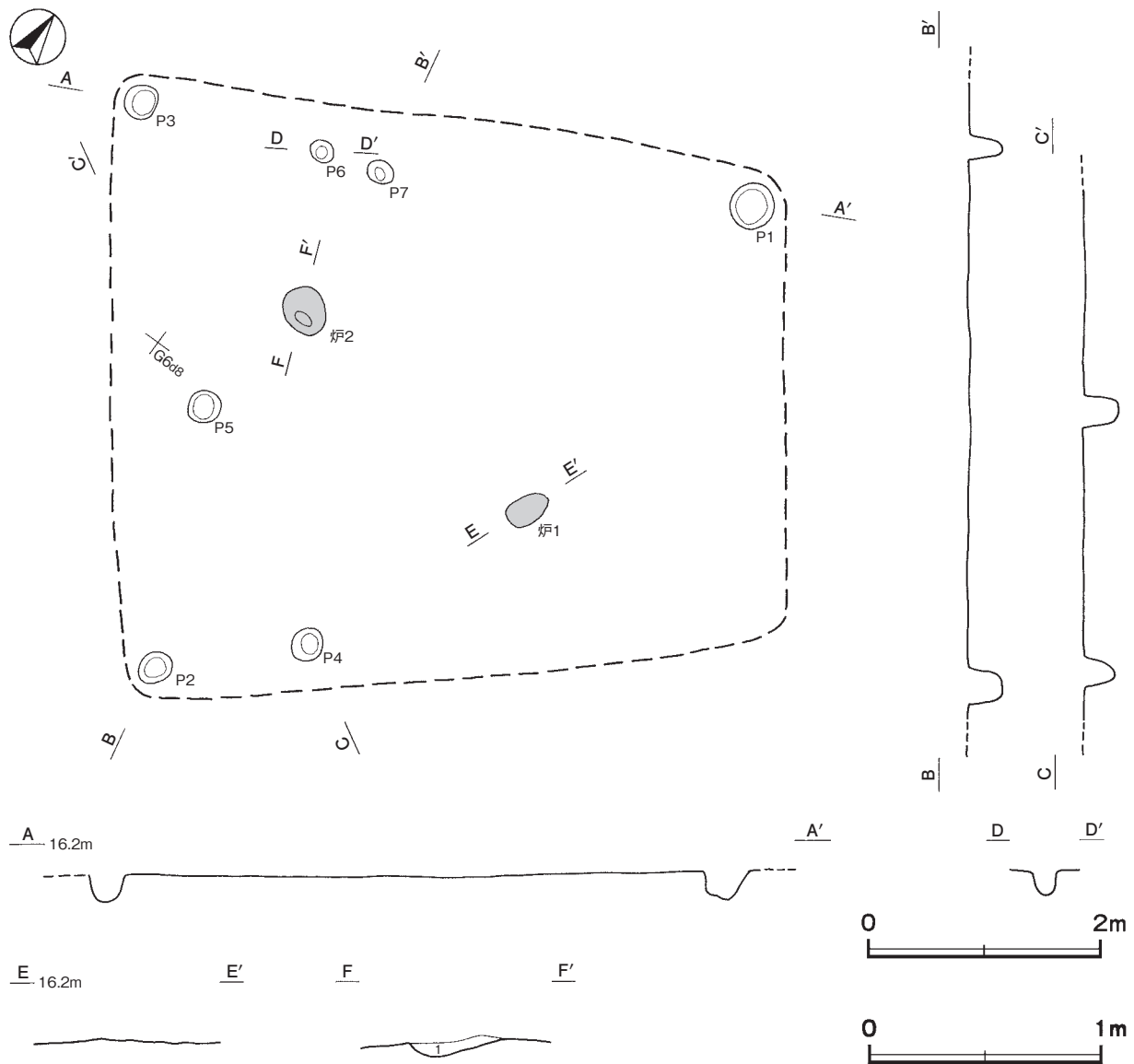
炉2土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ロームブロック微量

ピット 7か所。P1～P3は深さ23～28cmで、配置から主柱穴と考えられる。P4～P7は深さ19～32cmで、性格不明である。

遺物出土状況 縄文土器片2点（深鉢）が出土している。細片のため、図化できなかった。

所見 時期は、出土土器から前期前半と考えられる。



第 85 図 第 49 号住居跡実測図

第 50 号住居跡 (第 86 図)

位置 調査区南東部の G 6 a7 区, 標高 16 m ほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 炉床面まで削平されているため, 炉とピットしか確認できなかった。

規模と形状 ピットの配置から, 長径 6.3 m, 短径 4.9 m の楕円形で, 長径方向は $N - 63^\circ - E$ と推定できる。

炉 3 か所。炉 1 ~ 炉 3 はいずれも南西寄りに付設されている。炉 1 は長径 82cm, 短径 41cm, 炉 2 は長径 57cm, 短径 50cm, 炉 3 は長径 46cm, 短径 29cm で, いずれも楕円形を呈する地床炉である。炉 1 の炉床は深さ 8cm, 炉 2 の炉床は深さ 7cm, 炉 3 の炉床は深さ 5cm で, それぞれ火を受けて赤変硬化している。

炉 1 土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量
- 2 暗褐色 焼土ブロック微量
- 3 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量

炉 2 土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック微量

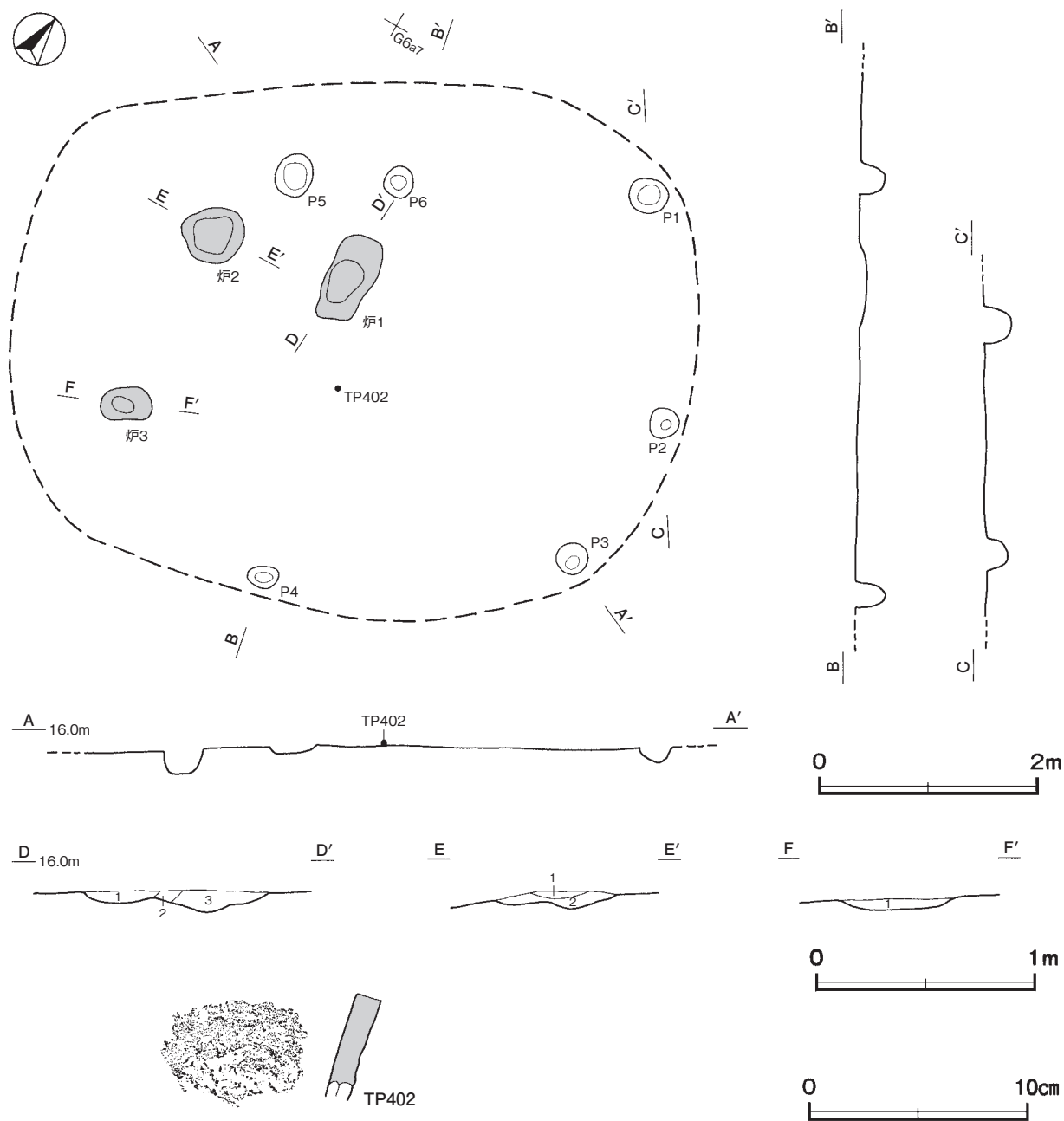
炉 3 土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量

ピット 6か所。P1～P4は深さ13～29cmで、配置から壁柱穴と考えられる。P5・P6は深さ20cm・22cmで、性格不明である。

遺物出土状況 縄文土器片2点（深鉢）が出土している。

所見 時期は、出土土器から前期前半と考えられる。



第 86 図 第 50 号住居跡・出土遺物実測図

第 50 号住居跡出土遺物観察表（第 86 図）

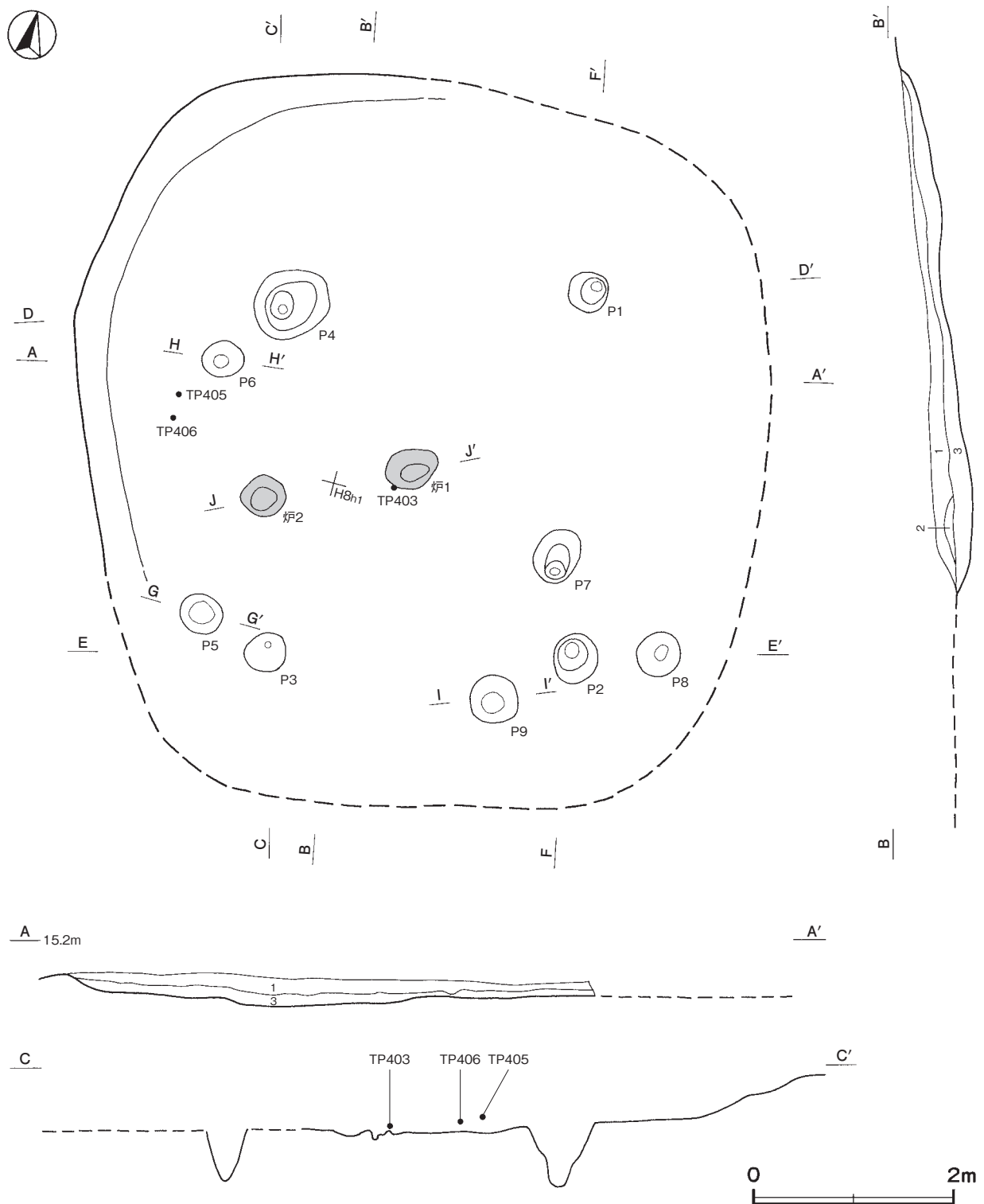
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP402	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文	確認面	

第51号住居跡 (第87～89図)

位置 調査区南東部のH 8 g1区, 標高 15 mほどの台地緩斜面部に位置している。

確認状況 南東半部及び北東部は, 削平されているため, ピットしか確認できなかった。

規模と形状 ピットの配置から, 南北軸 4.70 m, 東西軸 6.70 mの隅丸長方形で, 長軸方向はN - 15° - Wと推定できる。北西部の壁高は9～42cmで, 緩やかに外傾して立ち上がっている。



第87図 第51号住居跡実測図 (1)

床 やや凹凸があり，硬化した範囲は認められない。

炉 2か所。炉1は中央部に付設され，長径54cm，短径42cmの楕円形，炉2は西部に付設され，径42cmの円形を呈する地床炉である。炉1の炉床は深さ9cm，炉2の炉床は深さ7cmで，それぞれ火を受けて赤変硬化している。

炉1土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック少量，ロームブロック微量

炉2土層解説

1 赤褐色 ロームブロック少量，焼土ブロック微量

ピット 9か所。P1～P4は深さ36～67cmで，配置から支柱穴と考えられる。P5・P6は深さ32cm・29cmで，補助的な役割を有する柱穴と考えられる。P7～P9は深さ30～40cmで，性格不明である。

覆土 3層に分層できる。レンズ状の堆積状況から，自然堆積である。

土層解説

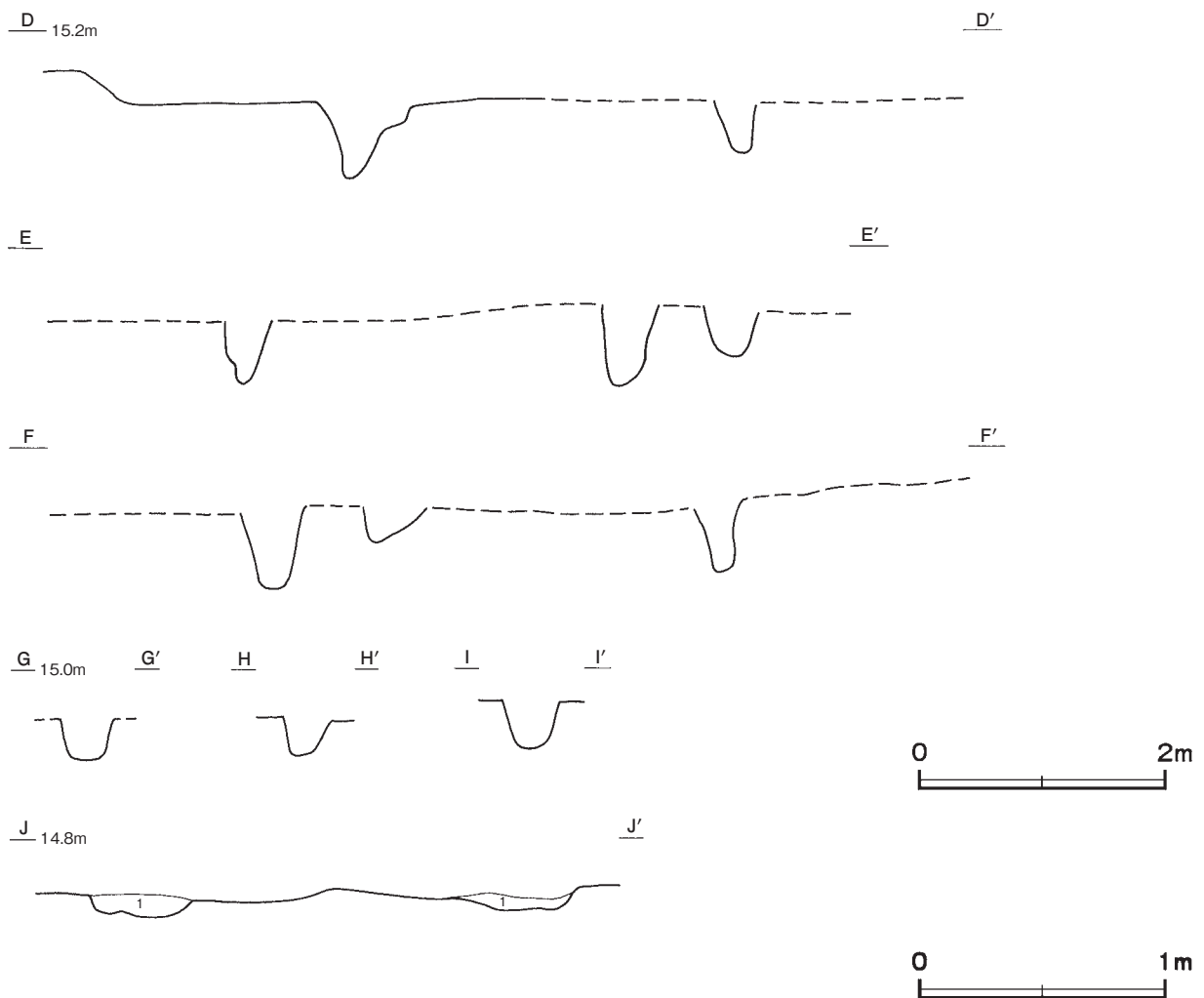
1 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

3 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量

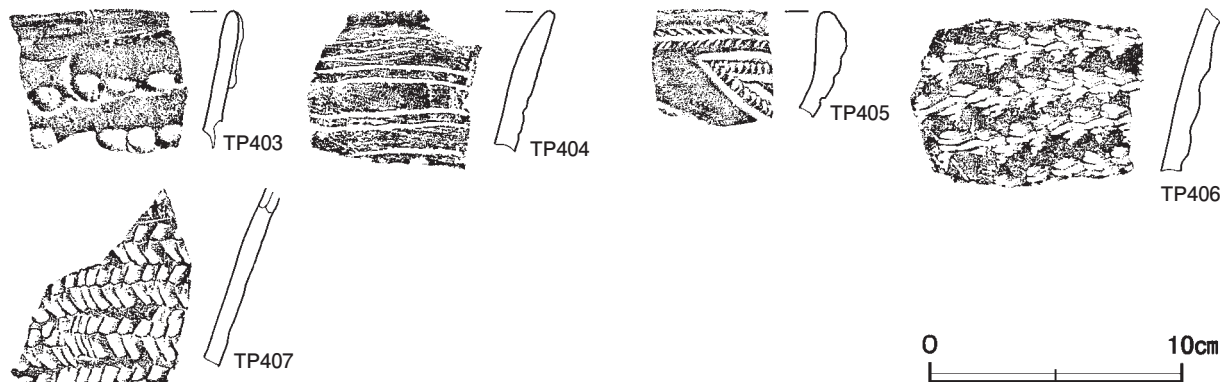
2 褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片216点（深鉢），石器1点（磨石），剥片4点，被熱した礫2点が出土している。TP403は中央部の覆土下層から，TP405・TP406は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は，出土土器から前期後半の浮島式期と考えられる。



第88図 第51号住居跡実測図（2）



第 89 図 第 51 号住居跡出土遺物実測図

第 51 号住居跡出土遺物観察表 (第 89 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP403	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	凹凸文	覆土下層	
TP404	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	半截竹管による沈線	覆土中	
TP405	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	平行沈線間に連続のキザミ	覆土中層	
TP406	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	欠損したアナガラ属による貝殻腹縁押し文カ	覆土中層	
TP407	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文	覆土中	

表 2 縄文時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)					主柱穴	壁柱穴	出入口	ピット	炉				
7	C 4 g3	隅丸方形	N - 40° - E	3.75 × 3.68	10 ~ 24	平坦	-	4	-	1	3	1	人為	縄文土器, 鐵未製品, 磨製石斧, 剥片, 礫	前期前半	本跡→HG 1	
8	C 4 i4	隅丸方形	N - 7° - W	3.90 × 3.63	12 ~ 18	傾斜	全周	7	-	-	1	1	人為	縄文土器	加曾利 E 式期	本跡→HG 1	
9	D 3 c4	長方形	N - 87° - E	4.12 × 2.93	9 ~ 16	凹凸	-	-	6	1	5	1	人為	縄文土器, 鐵, 磨製石斧	黒浜式期	本跡→HG 1	
10	D 3 f9	[隅丸長方形]	[N - 42° - W]	[5.20] × [4.50]	-	-	-	-	9	-	2	1	-	縄文土器	加曾利 B 式期	HG 1→本跡→SK17	
11	C 3 f8	隅丸方形	N - 20° - E	4.87 × 4.28	15 ~ 35	傾斜	-	6	-	-	7	1	人為	縄文土器, 剥片, 礫	加曾利 E IV 式期	本跡→HG 1	
12	C 3 h8	[楕円形]	[N - 83° - W]	[6.90] × [4.90]	-	-	-	10	6	-	6	1	-	縄文土器	加曾利 B 式期	HG 1→本跡	
13	D 4 i9	楕円形	N - 39° - W	5.08 × 3.90	34 ~ 60	平坦	-	2	-	-	9	1	人為	縄文土器	加曾利 B 式期	HG 1→本跡→SK21	
17	I 7 c4	五角形	N - 25° - W	5.30 × 4.50	12 ~ 30	平坦	-	4	-	1	8	-	人為	縄文土器, 剥片, 粘土塊	浮島式期		
18	H 7 i5	隅丸長方形	N - 70° - E	5.40 × 4.64	8 ~ 14	平坦	-	4	-	1	7	-	人為	縄文土器, 剥片	黒浜式期 ~ 浮島式期	本跡→SK104	
19	H 7 e7	不整形	N - 41° - W	5.26 × 4.92	9 ~ 10	傾斜	-	6	-	-	3	-	自然	縄文土器, 粘土塊	前期前半		
21	H 8 e1	不整形	N - 60° - E	7.00 × 5.78	8 ~ 28	傾斜	-	8	-	1	9	2	自然	縄文土器, 搔器, 鐵, 剥片, 礫	浮島 II ~ III 式期		
22	J 7 b0	-	-	[5.70] × [5.10]	14 ~ 28	平坦	-	1	-	-	5	-	人為	縄文土器, 礫	後期	HG 3→本跡	
23	I 7 b9	-	-	(7.59) × (5.24)	24 ~ 44	平坦	-	-	-	-	4	-	人為	縄文土器, 剥片, 礫	浮島式期	本跡→SI20・26・SK83・88・89・101・PG6P1・HG 3	
25	H 7 g3	隅丸方形	N - 52° - E	5.50 × 5.10	12 ~ 24	平坦	-	3	-	1	1	1	人為	縄文土器, 磨石, 剥片, 礫	前期前半	本跡→SK104・108	
26	I 7 c0	隅丸方形	N - 66° - W	5.34 × 5.09	6 ~ 18	平坦	-	4	-	-	2	1	人為	縄文土器, 剥片, 礫	浮島式期	SI23→本跡→SI20・SK87・101・HG 3	
27	H 7 h2	隅丸長方形	N - 41° - W	3.06 × 2.10	24 ~ 32	平坦	-	1	-	-	1	-	人為	縄文土器, 鐵, 剥片, 礫	浮島式期		
29	H 6 c0	隅丸不整形	N - 58° - E	5.55 × 5.42	10 ~ 16	平坦貼床	-	5	-	-	4	4	人為	縄文土器	黒浜式期		
30	H 7 b1	隅丸長方形	N - 36° - W	6.08 × 5.10	10 ~ 20	平坦貼床	-	3	-	-	3	3	人為	縄文土器, 砥石・剥片	黒浜式期	SI31→本跡→SK130	
31	H 7 b2	隅丸長方形	N - 31° - W	6.26 × 6.04	10 ~ 16	平坦貼床	-	4	-	-	1	2	人為	縄文土器, 磨製石斧・砥石, 剥片	黒浜式期	本跡→SI30・SK120	
32	G 7 i3	隅丸長方形	N - 30° - E	5.82 × 5.29	28 ~ 34	平坦	-	3	-	-	3	4	人為	縄文土器, 石皿, 砥石, 剥片	黒浜式期		

番号	位置	平面形	主軸方向	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)				主柱穴	壁柱穴	出入口	ピット	炉				
33	H 7 b6	隅丸方形	N - 87° - W	4.40 × 4.08	6 ~ 14	凹凸	-	8	-	-	3	2	人為	縄文土器, 礫	黒浜式期	本跡→SM 2
34	G 7 h6	隅丸長方形	N - 21° - E	4.05 × 3.55	20 ~ 26	平坦	-	2	-	-	-	1	人為	縄文土器, 凹石	黒浜式期	
36	G 7 h1	隅丸長方形	N - 56° - W	6.34 × 4.14	12 ~ 27	凹凸	-	6	-	-	3	2	人為	縄文土器, 礫	関山式期~ 黒浜式期	本跡→SM 3→ SD27A・B
37	G 7 f1	長方形	N - 47° - W	4.08 × 3.55	18 ~ 22	平坦	-	2	-	-	-	1	人為	縄文土器, 凹石, 剥片	浮島式期	本跡→SD28
38	G 5 e9	-	[N - 44° - E]	(4.25) × (3.82)	12 ~ 14	平坦	-	2	-	-	2	1	人為	縄文土器, 礫	黒浜式期	
39	F 6 h5	-	[N - 47° - E]	(6.22) × (1.64)	7 ~ 12	傾斜	-	-	-	-	2	-	人為	縄文土器	黒浜式期~ 浮島式期	
40	E 5 j7	隅丸長方形	N - 55° - W	5.94 × 4.92	26 ~ 56	平坦	-	10	-	1	2	2	人為	縄文土器, 鏃, 剥片, 礫	浮島II~ III式期	本跡→HG 4
42	E 5 j1	楕円形	N - 1° - E	6.70 × 5.76	8 ~ 38	平坦	-	11	-	-	5	3	人為	縄文土器, 鏃, 磨石, 凹石, 砥石, 剥片	浮島II~ III式期	SI43→本跡→HG 4
43	E 4 j0	-	[N - 70° - E]	(4.72) × (4.50)	32 ~ 44	平坦	-	2	-	-	4	1	人為	縄文土器	関山式~ 植房式期	本跡→SI42・ SK145→HG 4
44	F 5 g6	-	[N - 61° - E]	(5.73) × (2.90)	10 ~ 24	平坦	-	1	-	-	-	-	人為	縄文土器, 磨石, 凹石, 礫	前期前半	本跡→HG 4
45	E 5 j4	楕円形	N - 9° - W	7.24 × 7.16	28 ~ 48	平坦	-	22	-	-	3	2	人為	縄文土器, 石錐, 鏃, 石皿, 磨石, 敲石, 管玉カ, 剥片, 礫	浮島II~ III式期	SK188・192・201→ 本跡→187・189・ HG 4 SK177との新旧不明
46	E 5 h4	隅丸方形	N - 29° - W	5.32 × 5.31	22 ~ 42	平坦	-	3	-	-	2	2	人為	縄文土器, 鏃, 石皿, 敲石, 凹石, 剥片, 礫	浮島II~ III式期	SK191→本跡→ SK143・144・190・ SD30・HG 4
47	F 5 d1	-	[N - 12° - W]	(6.96) × (6.08)	22 ~ 28	平坦	-	4	-	-	2	3	人為	縄文土器	前期前半	本跡→HG 4
48	F 5 e6	-	[N - 31° - W]	(5.62) × (4.84)	14 ~ 20	平坦	-	-	3	-	1	4	人為	縄文土器, 凹石, 剥片, 礫	前期前半	本跡→HG 4
49	G 6 c8	[台形]	[N - 54° - E]	[5.80] × [4.90]	-	-	-	3	-	-	4	2	-	縄文土器	前期前半	
50	G 6 a7	[楕円形]	[N - 63° - E]	[6.30] × [4.90]	-	-	-	-	4	-	2	3	-	縄文土器	前期前半	
51	H 8 g1	[隅丸 長方形]	[N - 15° - W]	[6.70] × [4.70]	9 ~ 42	凹凸	-	4	-	-	5	2	自然	縄文土器, 磨石, 剥片, 被熱した礫	浮島式期	

(2) 地点貝塚

第2号地点貝塚 (第90図)

位置 調査区南東部のH 7 b6区, 標高16 mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 第33号住居跡の中央部で, 確認面から床面にかけて貝層範囲を確認した。

貝層範囲 最長で東西3.41 m, 南北2.75 mの不整長方形で, 厚さは2 ~ 12cmである。

貝層 3層に分層できる。第1層は混土貝層, 第2・3層は混貝土層である。

貝層解説

- 1 黒褐色 貝中量, ローム粒子少量, 破砕貝微量 3 黒褐色 ローム粒子・破砕貝少量, 貝微量
2 黒褐色 ローム粒子・貝・破砕貝少量

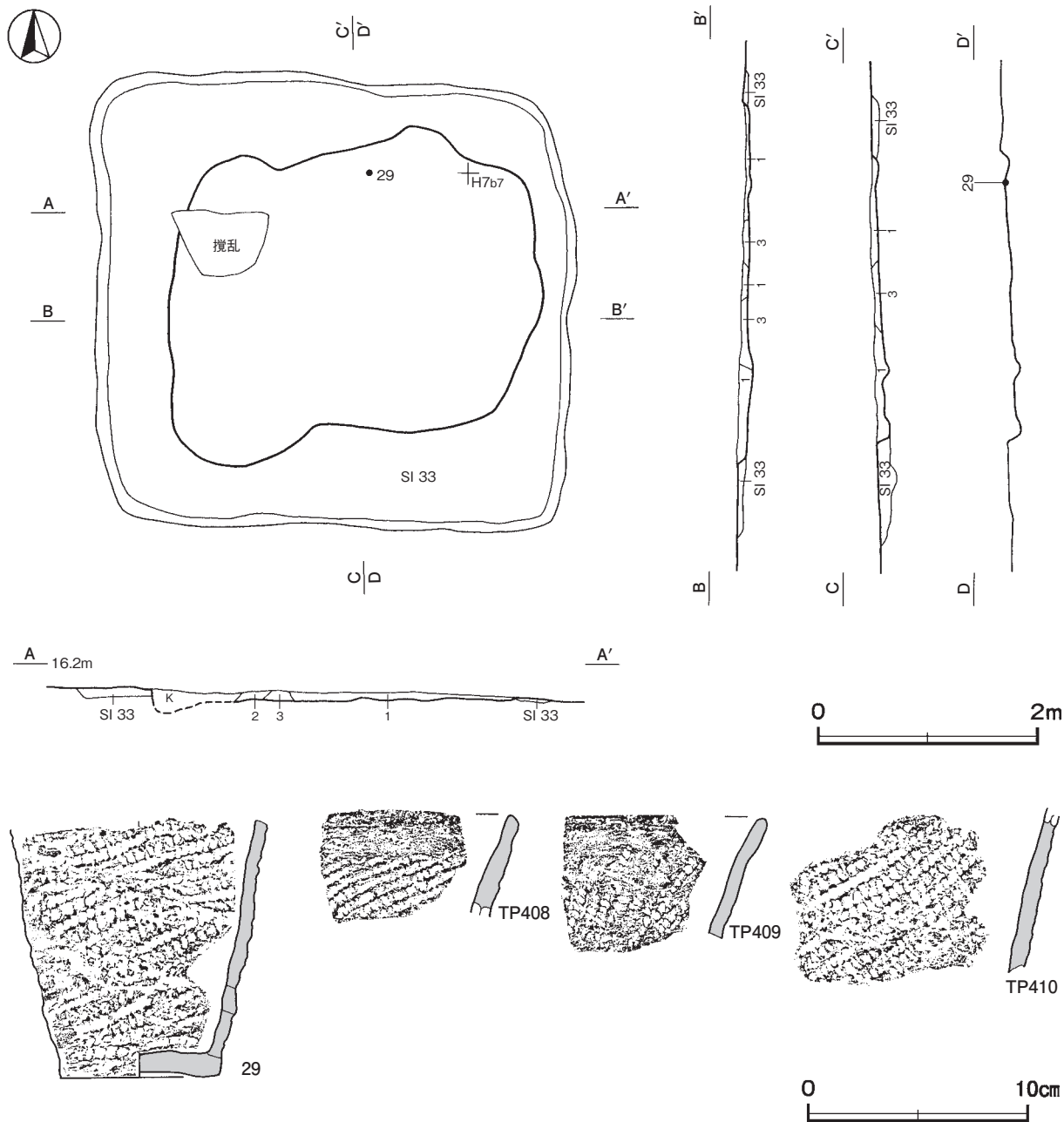
貝種 出土した貝は, ヤマトシジミが全体の99%を占めている。その他はハマグリ, オキシジミ, アサリ, サルボウ, マガキである。

遺物出土状況 縄文土器81点(深鉢), 貝149,868点が出土している。29は北部の貝層下層から出土している。

所見 貝は, 貝層と第33号住居跡の覆土の堆積状況から, 住居の廃絶後, 間もなく投棄されている。貝層は, 混土貝層や混貝土層であることから, 長期間にわたって投棄されたものと考えられる。時期は, 出土土器から前期前半の黒浜式期と考えられる。

表3 第2号地点貝塚出土貝種一覧表

	ヤマトシジミ	ハマグリ	オキシジミ	アサリ	サルボウ	マガキ
個数	149735	104	14	12	2	1



第90図 第2号地点貝塚・出土遺物実測図

第2号地点貝塚出土遺物観察表（第90図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
29	縄文土器	深鉢	-	(11.7)	7.3	長石・石英・繊維	橙	普通	LRの単節縄文	貝層下層	30% PL29
TP408	縄文土器	深鉢				長石・石英・繊維	橙		LRの単節縄文	貝層中	
TP409	縄文土器	深鉢				長石・石英・繊維	にぶい橙		LRの単節縄文	貝層中	
TP410	縄文土器	深鉢				長石・石英・繊維	にぶい赤褐		LRの単節縄文	貝層中	

第3号地点貝塚（第91・92図）

位置 調査区南東部のG7h1区，標高16mほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 第36号住居跡の中央部で，確認面から床面にかけて貝層範囲を確認した。

重複関係 第27A・B号溝に掘り込まれている。

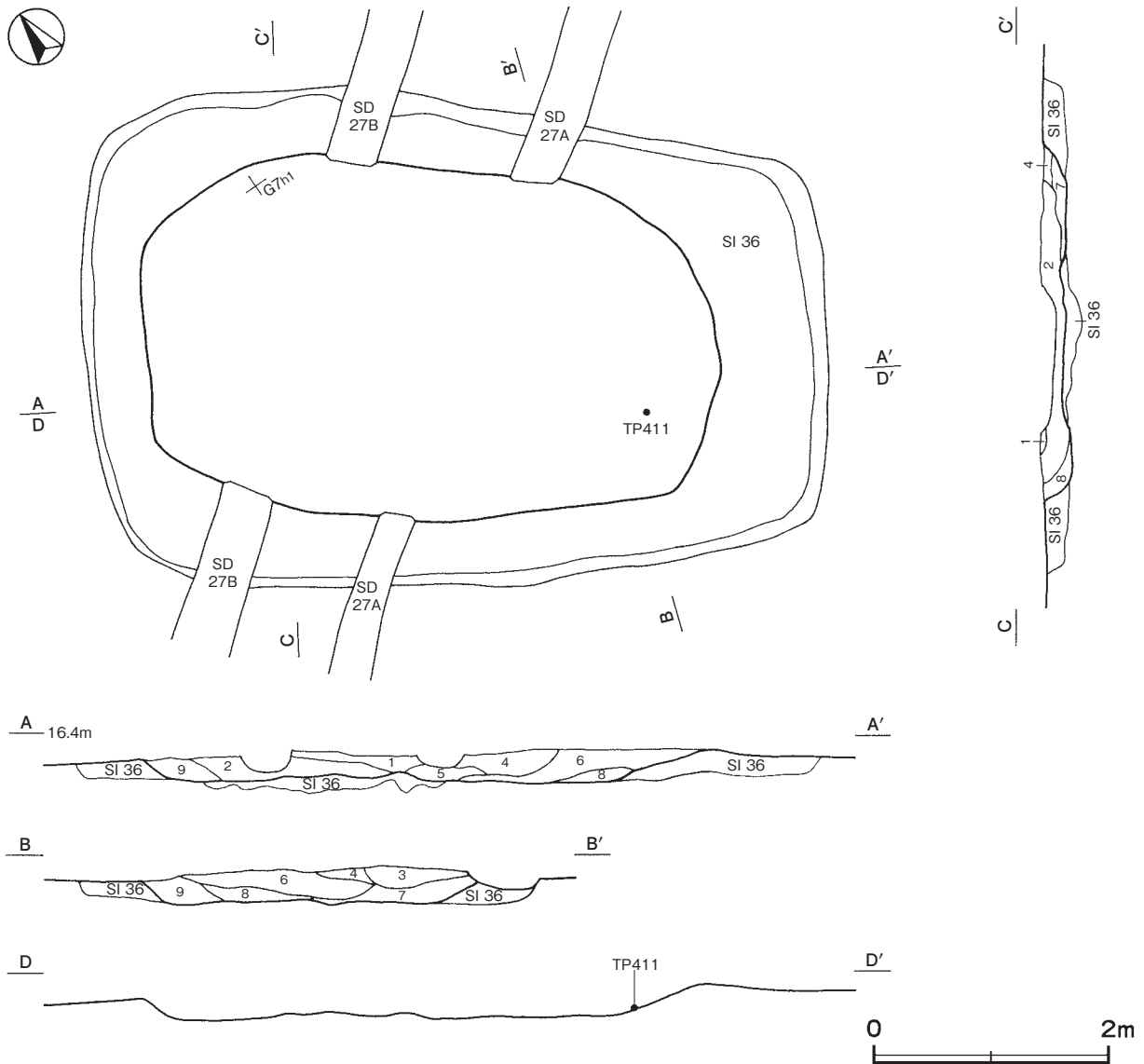
貝層範囲 最長で東西4.76m，南北3.02mの不整楕円形で，厚さは14～28cmである。

貝層 9層に分層できる。第1・4・5・7・8層は混貝土層，第2・3・6・9層は混土貝層である。

貝層解説

- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 貝少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 6 極暗褐色 貝多量，破碎貝中量，ローム粒子少量，焼土粒子微量 |
| 2 黒褐色 貝中量，破碎貝少量，ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 黒褐色 ロームブロック・焼土ブロック・破碎貝微量 |
| 3 黒褐色 貝中量，破碎貝少量，ローム粒子微量 | 8 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・破碎貝微量 |
| 4 黒褐色 ローム粒子少量，破碎貝微量 | 9 黒褐色 貝中量，破碎貝少量，ロームブロック微量 |
| 5 黒褐色 貝少量，ローム粒子・焼土粒子・破碎貝微量 | |

貝種 出土した貝は，ヤマトシジミが全体の99%を占めている。その他はハマグリ，アサリ，ウミニナ，オキシジミ，サルボウ，マガキ，アカニシである。



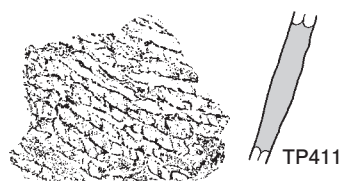
第91図 第3号地点貝塚実測図

遺物出土状況 縄文土器 10 点（深鉢），貝 321,727 点が出土している。TP411 は南東部の貝層下層から出土している。

所見 貝は，貝層と第 36 号住居跡の覆土の堆積状況から，住居の廃絶後，間もなく投棄されている。貝層は，混貝土層や混土貝層であることから，長期間にわたって投棄されたものと考えられる。時期は，出土土器から前期前半と考えられる。

表 4 第 3 号地点貝塚出土貝種一覧表

	ヤマトシジミ	ハマグリ	アサリ	ウミニナ	オキシジミ	サルボウ	マガキ	アカニシ
個数	321, 322	353	20	12	9	9	1	1



第 92 図 第 3 号地点貝塚出土遺物実測図

第 3 号地点貝塚出土遺物観察表（第 92 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP411	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	RRの反摺	貝層下層	

表 5 縄文時代地点貝塚一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	貝層	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	厚さ (cm)					
2	H 7 b6	-	不整長方形	3.41 × 2.75	12	-	-	人為	縄文土器, ヤマトシジミ, ハマグリ, オキシジミ, アサリ, サルボウ, マガキ	SI33 →本跡
3	G 7 h1	-	不整楕円形	4.76 × 3.02	28	-	-	人為	縄文土器, ヤマトシジミ, ハマグリ, アサリ, ウミニナ, オキシジミ, サルボウ, マガキ, アカニシ	SI36 →本跡→SD27A・B

(3) 陥し穴

第 1 号陥し穴（第 93 図）

位置 調査区北西部の C 4 c3 区，標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

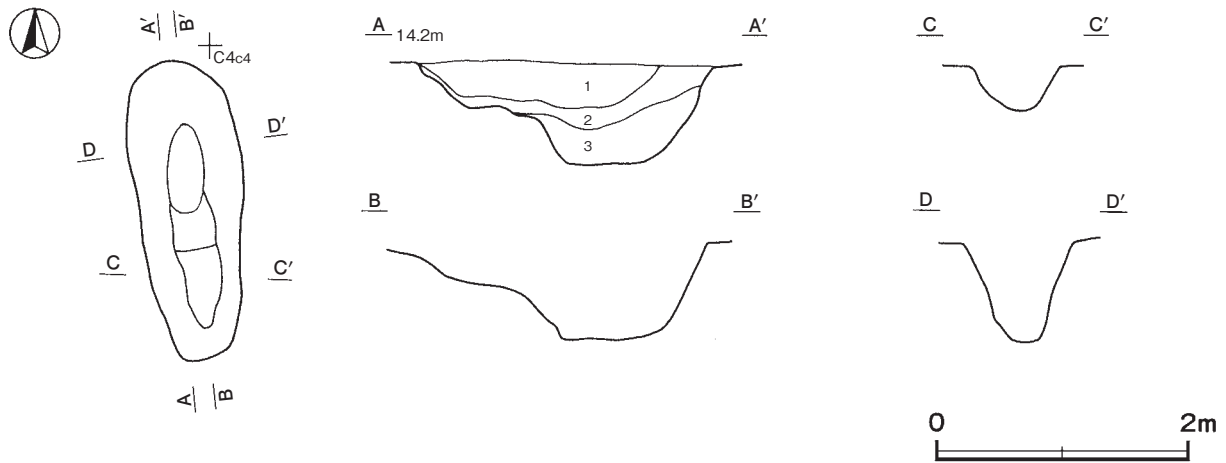
規模と形状 長径 2.37 m，短径 0.43 m の楕円形で，長径方向は N - 9° - W である。深さは 77cm で，短径方向の断面形は，V 字形である。北壁は外傾し，南壁は中程に段を有して，ゆるやかに外傾して立ち上がっている。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックと炭化粒子が含まれていることから，埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

所見 規模と形状から，縄文時代の陥し穴と判断した。



第 93 図 第 1 号陥し穴実測図

(4) 土器埋設遺構

縄文土器（深鉢）が正位で、良好な残存状況で出土していることから墓坑の可能性が考えられるが、骨粉や副葬品が出土していないことから、土器埋設遺構とした。

第 1 号土器埋設遺構（第 94・95 図）

位置 調査区中央部の D 4 j4 区、標高 12 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 北半部が攪乱を受けているため、長径 0.49 m、短径 0.23 m しか確認できなかった。平面形は楕円形で、長径方向は N - 20° - E と推定できる。確認面から底面までの深さは 37cm で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。第 2 層は掘方への埋土である。

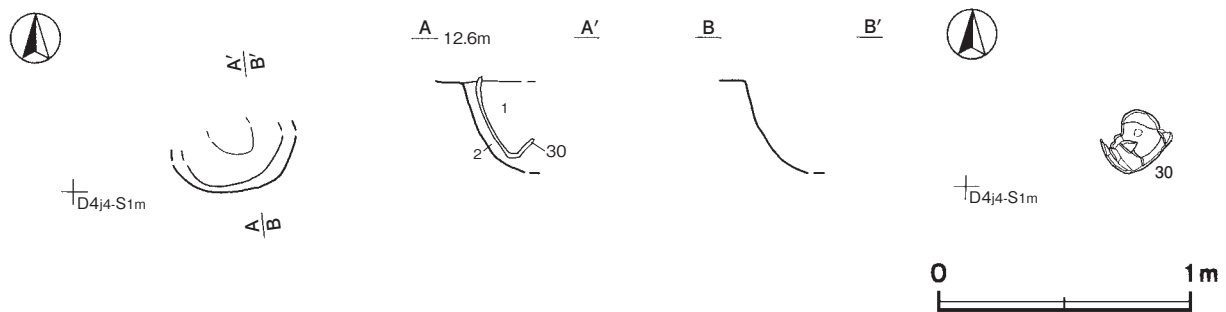
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

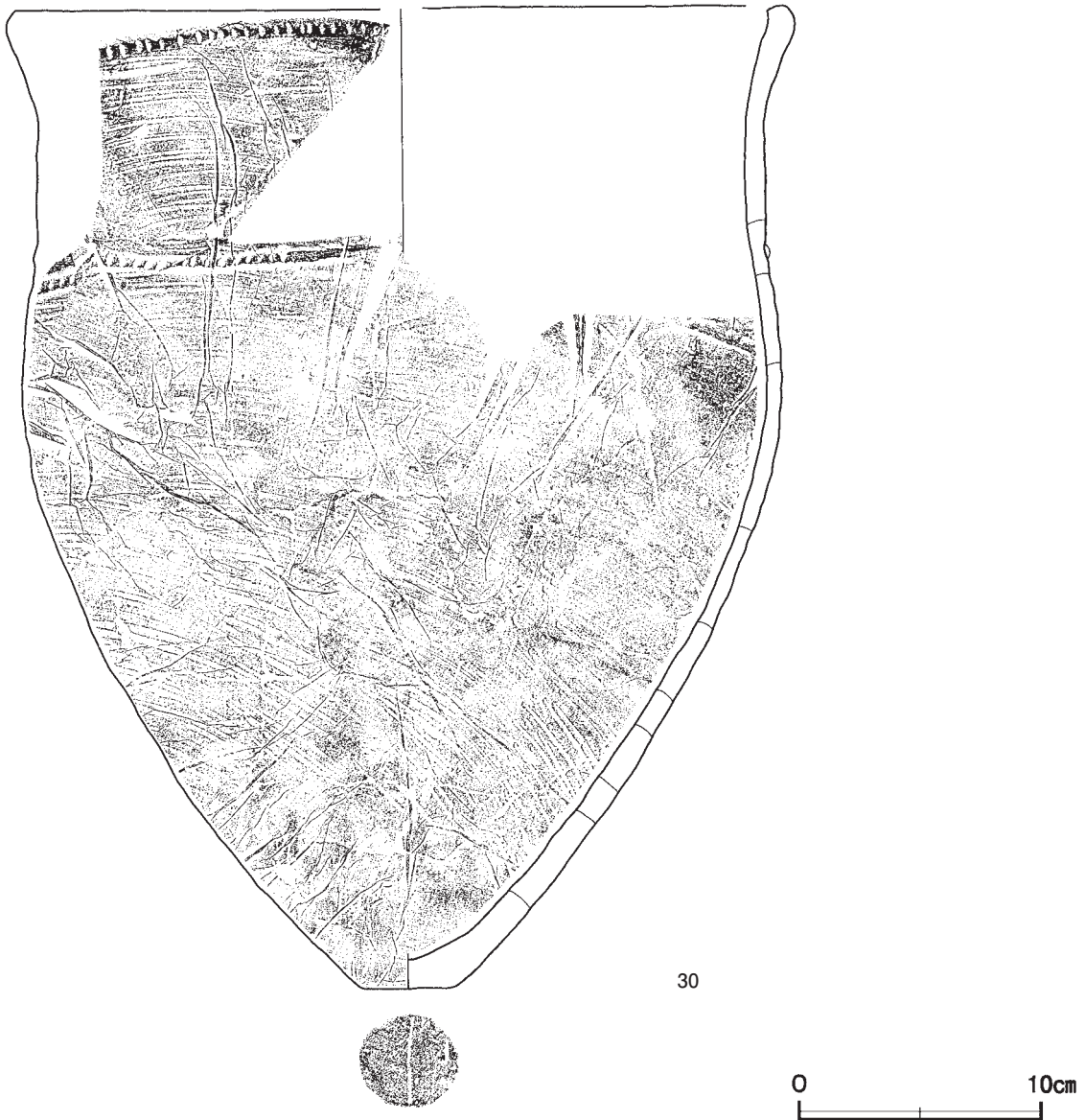
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器 1 点（深鉢）が出土している。30 は中央部から正位で出土しており、良好に遺存している。

所見 時期は、出土土器から後期後半の曾谷式期と考えられる。第 2 号土器埋設遺構とは、北東方向に 8.5 m ほど離れている。



第 94 図 第 1 号土器埋設遺構実測図



第95図 第1号土器埋設遺構出土遺物実測図

第1号土器埋設遺構出土遺物観察表 (第95図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
30	縄文土器	深鉢	[31.8]	40.7	4.0	長石・石英	橙	普通	口唇部に連続の刺突 平行沈線文	掘方中	60% PL29

第2号土器埋設遺構 (第96図)

位置 調査区中央部のD 4h4区, 標高13mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.31m, 短径0.28mの円形である。確認面から底面までの深さは17cmで, 底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。第3層は掘方への埋土である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量
2 極暗褐色 ローム粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 縄文土器 1 点（深鉢）が出土している。31 は中央部から正位で出土しており，良好に遺存している。

所見 時期は，出土土器から後期後半の曽谷式期と考えられる。第 1 号土器埋設遺構とは，南西方向に 8.5 m ほど離れている。



第 96 図 第 2 号土器埋設遺構・出土遺物実測図

第 2 号土器埋設遺構出土遺物観察表（第 96 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
31	縄文土器	深鉢	-	(30.8)	4.7	長石・石英	橙	普通	弧線間に RL の単節縄文を充填	掘方中	70% PL29

表 6 縄文時代土器埋設遺構一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	掘方	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	D 4j4	[N-20°-E]	楕円形	(0.49) × (0.23)	37	-	外傾	人為	縄文土器	HG 1→本跡
2	D 4h4	-	円形	0.31 × 0.28	17	皿状	外傾	人為	縄文土器	HG 1→本跡

(5) 土坑

第 24 号土坑 (第 97 図)

位置 調査区中央部の D 4 f2 区, 標高 13 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.53 m, 短径 1.30 m の楕円形で, 長径方向は N - 57° - E である。深さは 80cm で, 底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

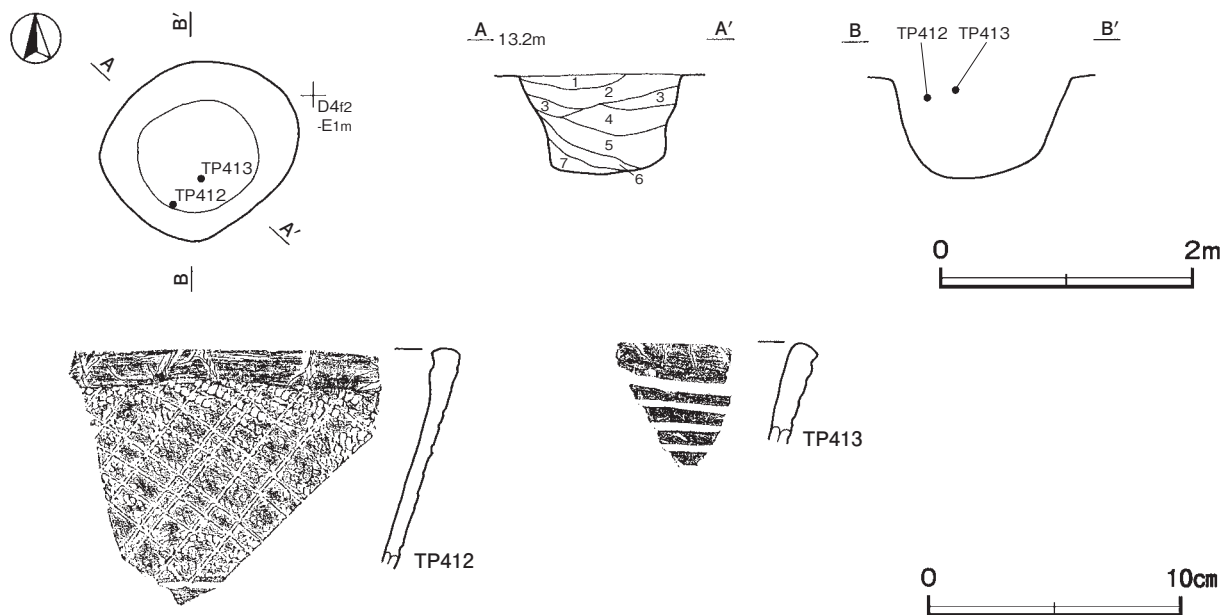
覆土 7 層に分層できる。各層にロームブロックや焼土粒子, 炭化粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量, 粘土ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗赤色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 粘土ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 4 暗褐色 | ロームブロック中量, 炭化物・焼土粒子微量 | | |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 24 点 (深鉢) が出土している。TP413 は中央部, TP412 は南西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から後期中葉の加曽利 B 式期と考えられる。



第 97 図 第 24 号土坑・出土遺物実測図

第 24 号土坑出土遺物観察表 (第 97 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP412	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	RLの単節縄文 格子目文	覆土上層	PL39
TP413	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	平行沈線文	覆土上層	

第 26 号土坑 (第 98 図)

位置 調査区中央部の D 4 e3 区, 標高 13 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.04 m, 短径 0.95 m の円形である。深さは 35cm で, 底面はほぼ平坦である。北東部の壁際

が10cmほど凹んでいる。壁は外傾して立ち上がっている。

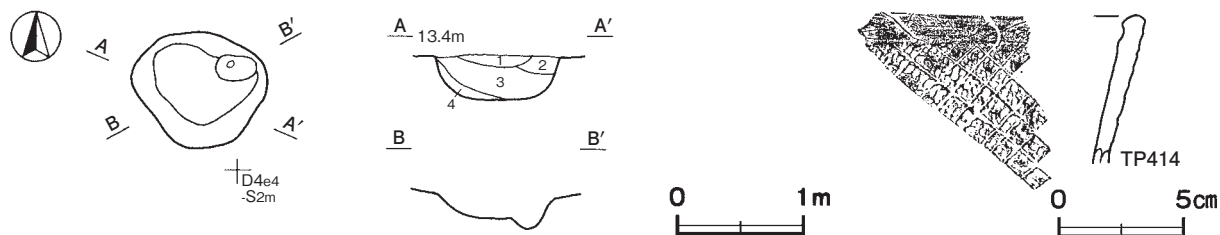
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックや焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 10 点 (深鉢) が出土している。TP414 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期中葉の加曽利 B 式期と考えられる。



第 98 図 第 26 号土坑・出土遺物実測図

第 26 号土坑出土遺物観察表 (第 98 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP414	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい褐	RLの単節縄文 格子目文	覆土中	

第 101 号土坑 (第 99・100 図)

位置 調査区南東部の I 7c0 区, 標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 3 号遺物包含層の掘削後に確認した。第 23・26 号住居跡を掘り込み, 第 20 号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.48 m, 短径 1.02 m の楕円形で, 長径方向は N - 17° - E である。深さは 34cm で, 底面はほぼ平坦である。南壁は直立し, ほかは外傾して立ち上がっている。

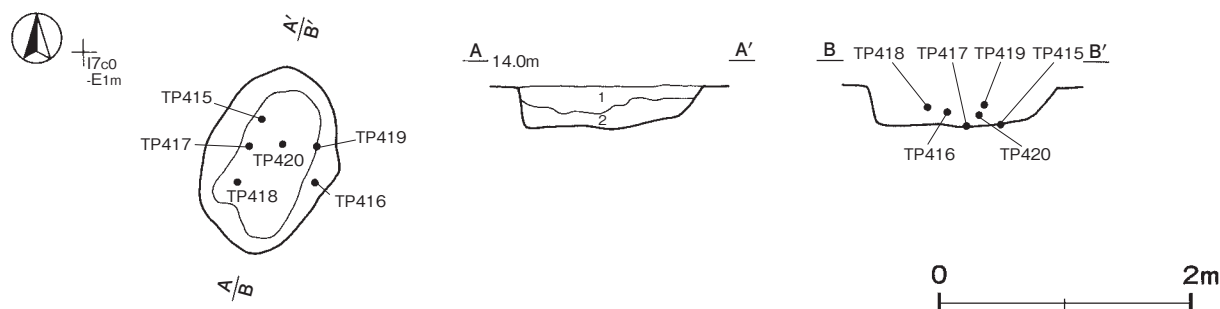
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

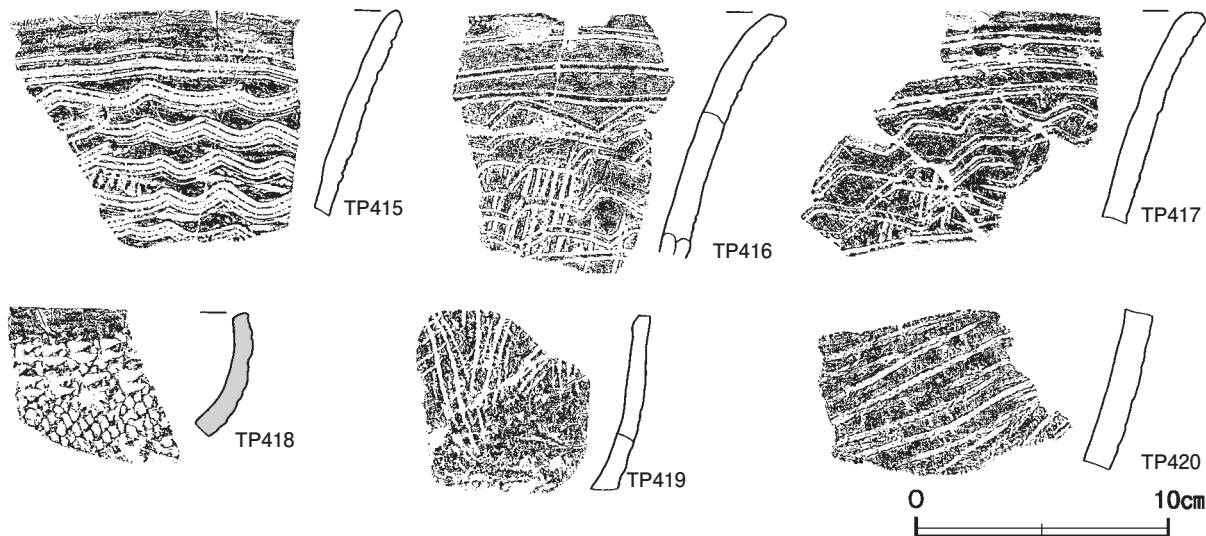
- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片 53 点 (深鉢), 剥片 2 点が出土している。TP415・TP417 は北西部の底面から, TP420 は中央部, TP416・TP419 は東部, TP418 は南西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半の浮島 I b 式期と考えられる。



第 99 図 第 101 号土坑実測図



第 100 図 第 101 号土坑出土遺物実測図

第 101 号土坑出土遺物観察表 (第 100 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP415	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	半截竹管による沈線 波状文	底面	PL39
TP416	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	半截竹管による沈線 波状文	覆土中層	
TP417	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	撚糸文 半截竹管による沈線 波状文	底面	
TP418	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	LRの単節縄文 半截竹管による連続の刺突	覆土中層	
TP419	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	撚糸文	覆土中層	
TP420	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	撚糸文	覆土中層	

第 102 号土坑 (第 101・102 図)

位置 調査区南東部の I 7e0 区, 標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 3 号遺物包含層を掘り込み, 第 15 号住居に掘り込まれている。

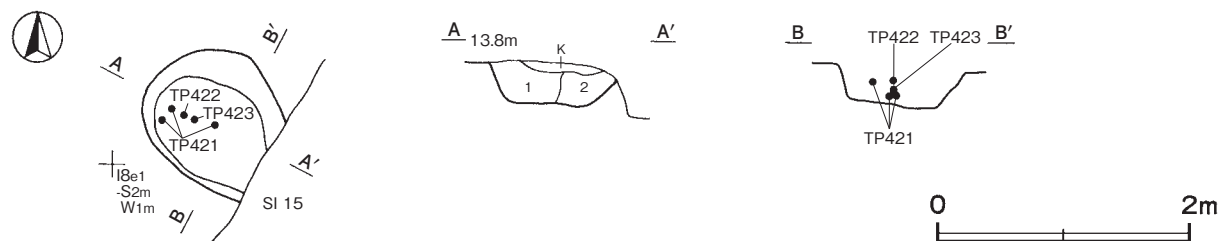
規模と形状 南東部が第 15 号住居に掘り込まれているため, 短径は 1.02 m で, 長径は 1.05 m しか確認できなかった。平面形は楕円形で, 長径方向は N - 39° - W と推定できる。深さは 34cm で, 底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれ, ブロック状に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量

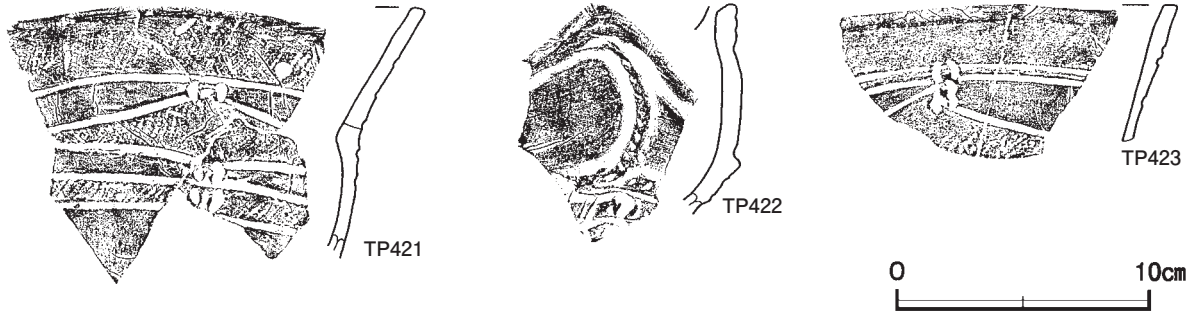
2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量



第 101 図 第 102 号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片 56 点（深鉢）が出土している。TP421 は、西部から中央部にかけての覆土中層から出土した破片が接合したものである。TP423 は西寄りの覆土中層から、TP422 は西寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期中葉の加曽利 B 式期と考えられる。



第 102 図 第 102 号土坑出土遺物実測図

第 102 号土坑出土遺物観察表（第 102 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP421	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	沈線 区切り文 無文部磨き LRの単節縄文	覆土中層	PL39
TP422	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	隆帯 工具による刺突 工具による沈線 無文部磨き	覆土上層	
TP423	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	沈線 区切り文 無文部磨き LRの単節縄文	覆土中層	

第 119 号土坑（第 103・104 図）

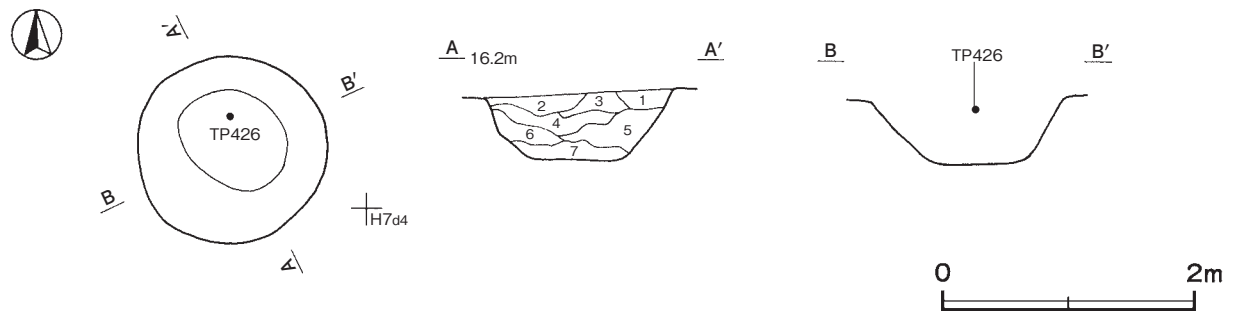
位置 調査区南東部の H 7 c3 区、標高 16 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 1.50 m ほどの円形である。深さは 53cm で、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ、ブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。

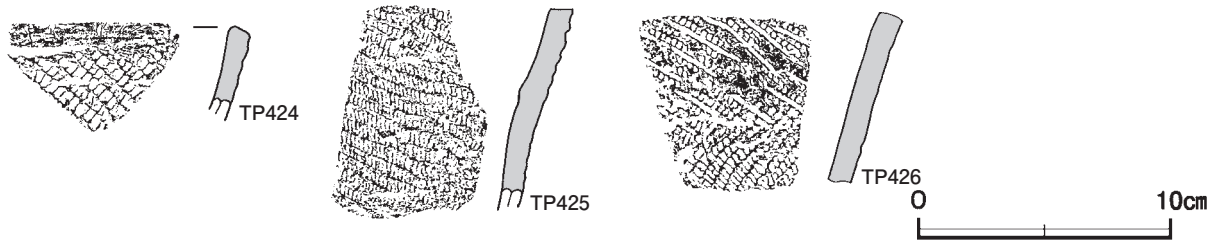
土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 6 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量 | 7 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |



第 103 図 第 119 号土坑実測図

遺物出土状況 縄文土器片 18 点（深鉢）が出土している。TP426 は北寄りの覆土上層から出土している。
所見 時期は、出土土器から前期前半と考えられる。



第 104 図 第 119 号土坑出土遺物実測図

第 119 号土坑出土遺物観察表（第 104 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP424	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文	覆土中	
TP425	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	多条縄文	覆土中	
TP426	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	附加条一種（附加1条）縄文とLRの単節縄文による羽状構成	覆土上層	

第 130 号土坑（第 105・106 図）

位置 調査区南東部の H 6 b0 区，標高 16 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 30 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 0.71 m，短径 0.67 m の円形である。深さは 18cm で，底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

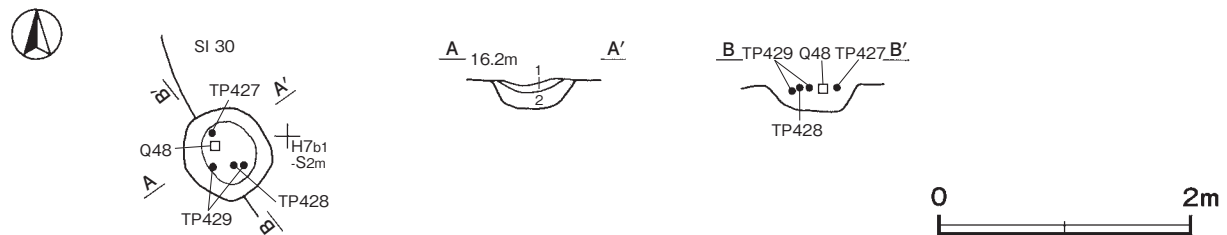
覆土 2 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積である。

土層解説

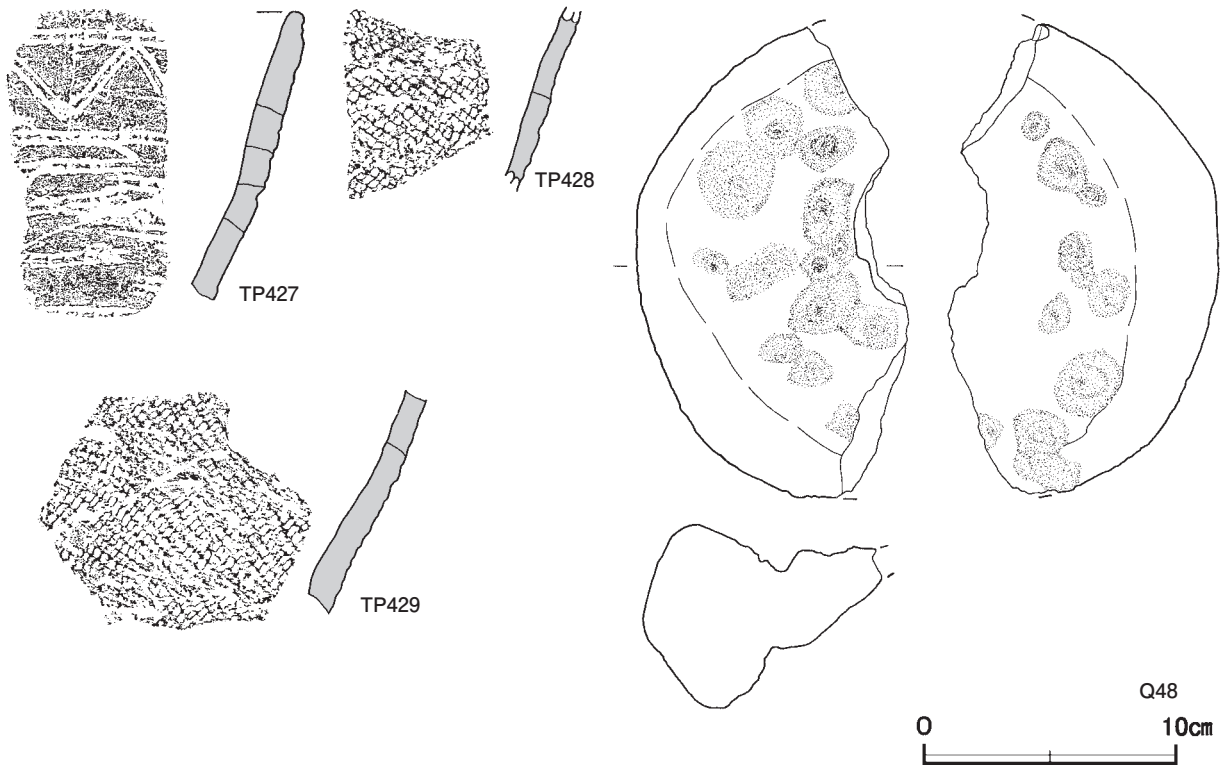
- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 11 点（深鉢），石器 1 点（凹石）が出土している。TP427・Q48 は北西部，TP428 は南部の覆土上層からそれぞれ出土している。TP429 は，南西部と南東部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は，出土土器から前期前半と考えられる。



第 105 図 第 130 号土坑実測図



第 106 図 第 130 号土坑出土遺物実測図

第 130 号土坑出土遺物観察表 (第 106 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP427	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	半截竹管による連続の刺突 半截竹管による鋸歯状文 半截竹管による押引文	覆土上層	
TP428	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	RLの単節縄文	覆土上層	
TP429	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文	覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 48	凹石	(18.7)	(10.7)	7.5	(755.0)	安山岩	凹部 27 か所 二面に磨り痕	覆土上層	PL44

第 145 号土坑 (第 107 図)

位置 調査区中央部の E 4 j0 区, 標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 4 号遺物包含層の掘削後に確認した。第 43 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径 2.10 m ほどの円形である。深さは 51cm で、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれ、ブロック状に堆積していることから、埋め戻されている。

土層解説

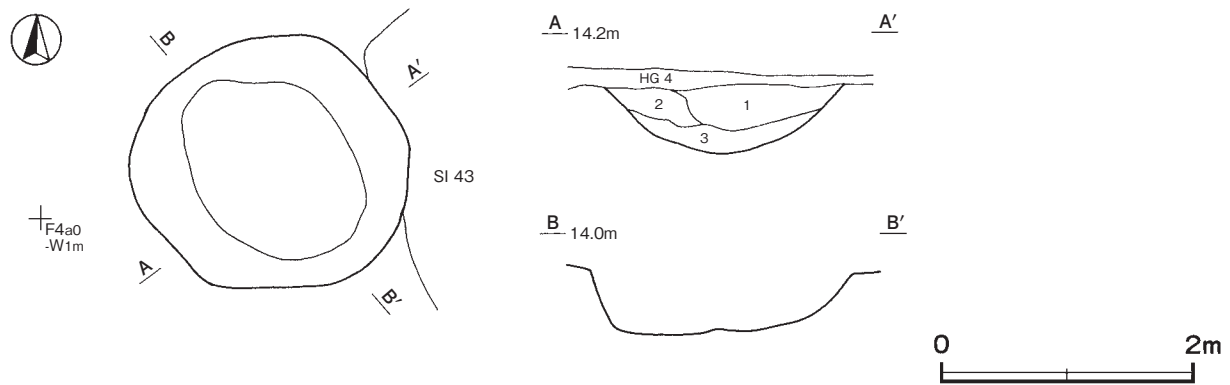
1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片 14 点 (深鉢), 剥片 5 点が出土している。細片のため, 図化できなかった。

所見 時期は, 出土した土器のほとんどに, 繊維が含まれていることから前期前半と考えられる。



第 107 図 第 145 号土坑実測図

第 172 号土坑 (第 108 図)

位置 調査区中央部の E 5j3 区, 標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 4 号遺物包含層の掘削後に確認した。

規模と形状 長径 1.34 m, 短径 1.08 m の楕円形で, 長径方向は N - 40° - W である。深さは 31cm で, 底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

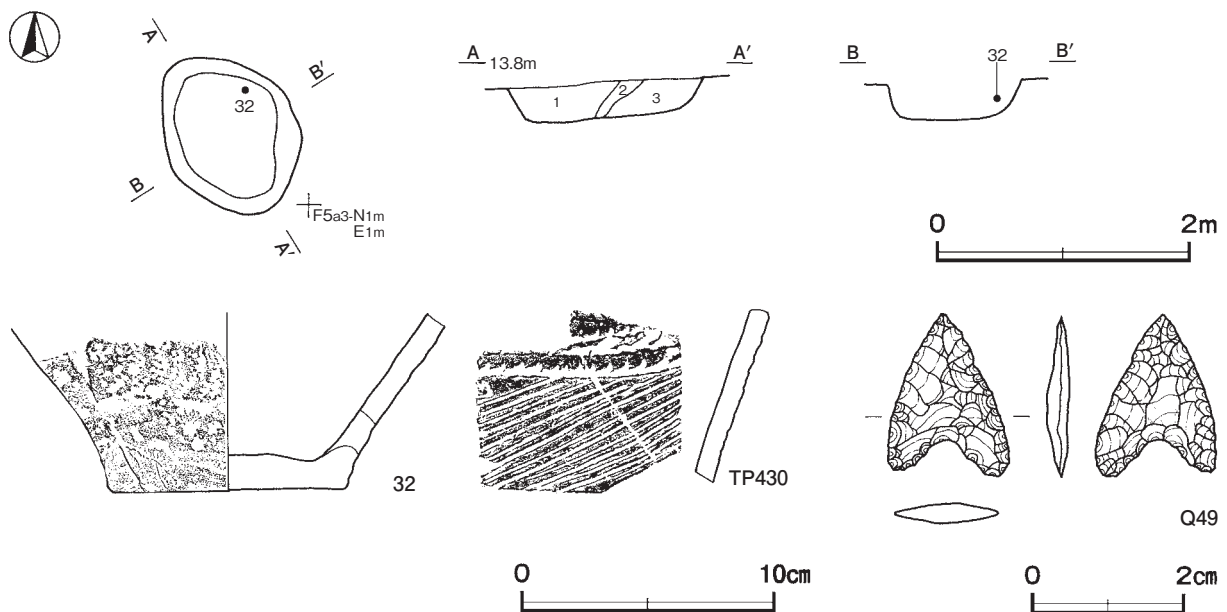
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量, ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 22 点 (深鉢), 石器 1 点 (鏃), 剥片 1 点, 礫 2 点が出土している。32 は北東部の覆土中層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期後半の浮島式期と考えられる。



第 108 図 第 172 号土坑・出土遺物実測図

第 172 号土坑出土遺物観察表 (第 108 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
32	縄文土器	深鉢	-	(7.0)	9.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	アナダラ属による貝殻波状文	覆土中層	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP430	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 半截竹管による沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 49	鍬	2.1	1.6	0.3	0.8	チャート	凹基無茎鍬 両面押圧剥離	覆土中	PL42

第 178 号土坑 (第 109 図)

位置 調査区中央部の E 5 j2 区, 標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 4 号遺物包含層の掘削後に確認した。

規模と形状 長径 1.08 m, 短径 1.07 m の円形である。深さは 43cm で, 底面はほぼ平坦である。北西部の一部が 22cm ほど凹んでいる。壁は外傾して立ち上がっている。

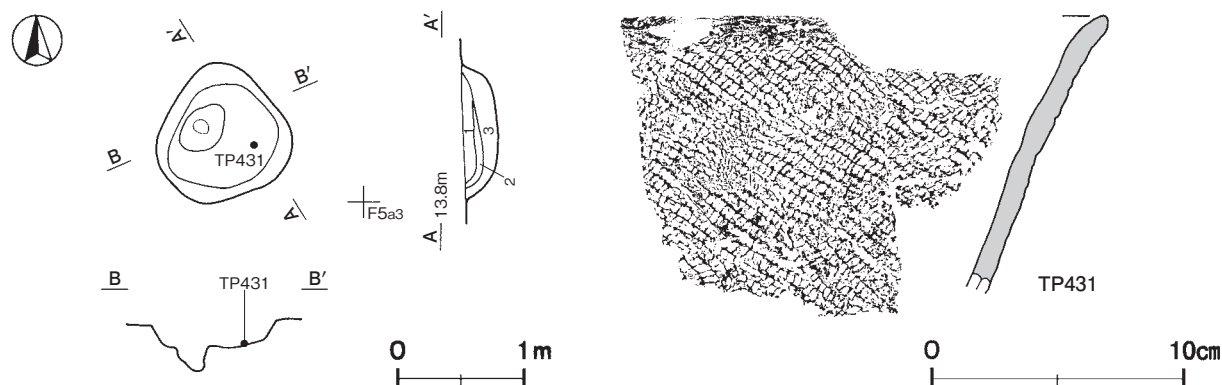
覆土 3 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 21 点 (深鉢), 石器 1 点 (鍬), 剥片 3 点が出土している。TP431 は東寄りの底面から出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期前半と考えられる。



第 109 図 第 178 号土坑・出土遺物実測図

第 178 号土坑出土遺物観察表 (第 109 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP431	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	橙	RLの単節縄文	底面	

第 187 号土坑 (第 110 図)

位置 調査区中央部の E 5 j4 区, 標高 13 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 4 号遺物包含層の掘削後に確認した。第 45 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.12 m, 短径 0.98 m の楕円形で, 長径方向は N - 33° - E である。深さは 30cm で, 底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

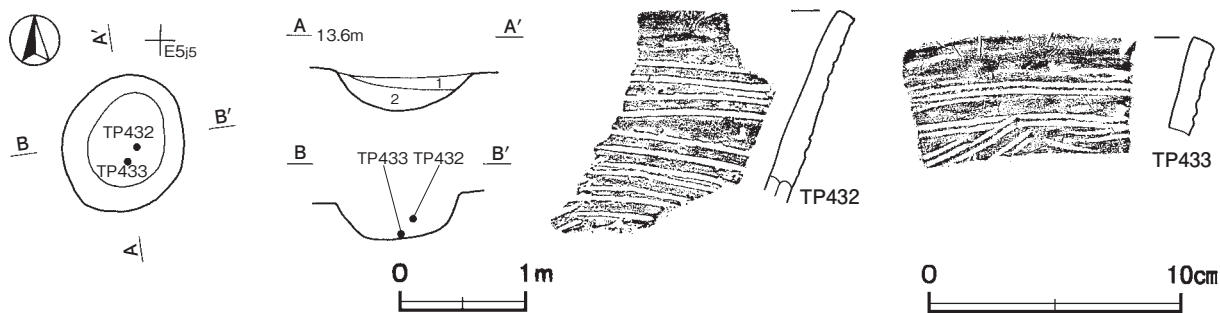
覆土 2層に分層できる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子・砂粒 2 極暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・砂粒微量

遺物出土状況 縄文土器片 9 点 (深鉢) が出土している。TP433 は中央部の覆土下層から, TP432 は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期後半の浮島式期と考えられる。



第 110 図 第 187 号土坑・出土遺物実測図

第 187 号土坑出土遺物観察表 (第 110 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP432	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	半截竹管による沈線	覆土中層	
TP433	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	半截竹管による沈線	覆土下層	

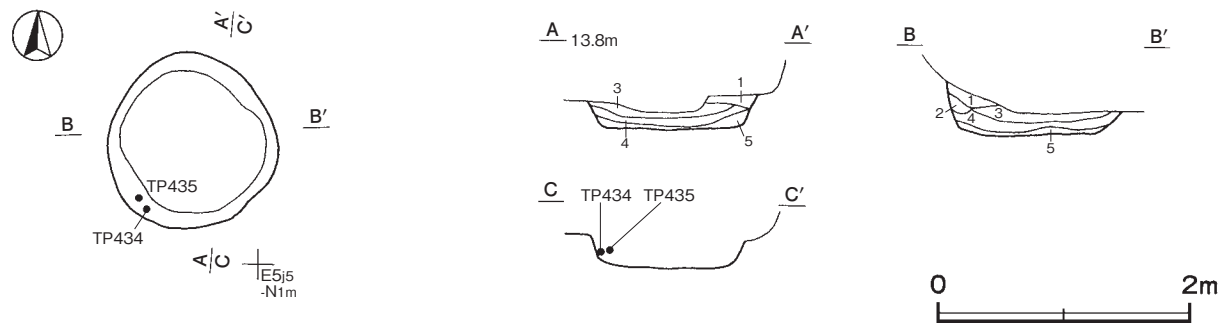
第 188 号土坑 (第 111・112 図)

位置 調査区中央部の E 5i4 区, 標高 13 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 4 号遺物包含層の掘削後に確認した。第 45 号住居に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.40 m ほどの円形である。深さは 35cm で, 底面はやや凹凸がある。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。



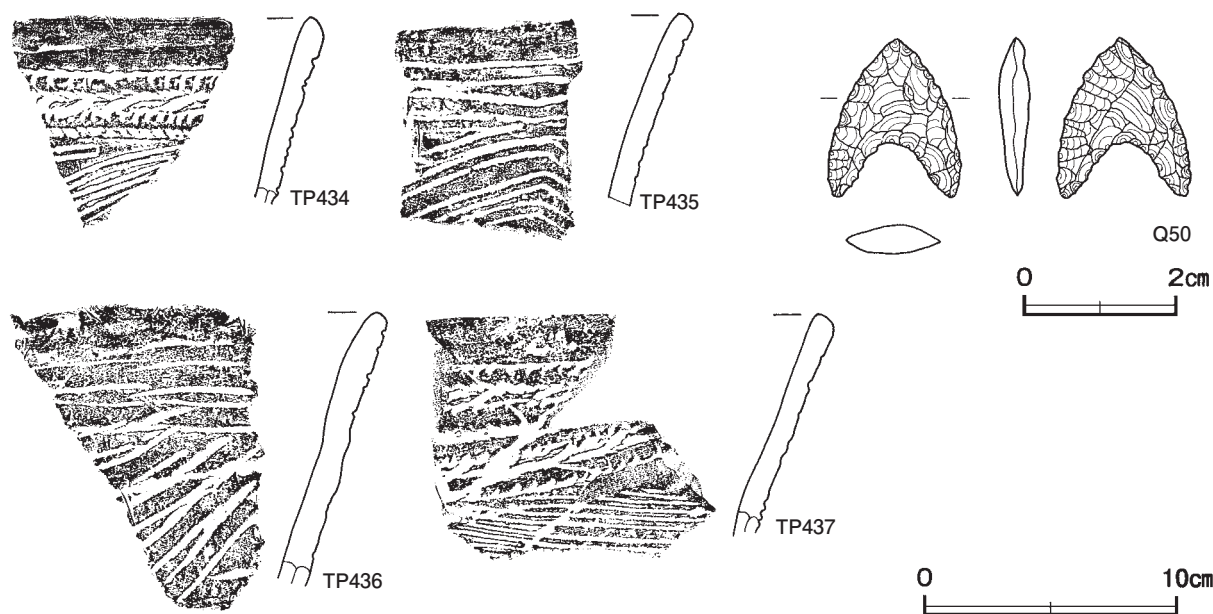
第 111 図 第 188 号土坑実測図

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量, 粘土粒子・砂粒微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量, 粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 黒褐色 | 粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 5 極暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片 22 点 (深鉢), 石器 1 点 (鏃), 剥片 4 点が出土している。TP434・TP435 は, 南西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期後半の浮島式期と考えられる。



第 112 図 第 188 号土坑出土遺物実測図

第 188 号土坑出土遺物観察表 (第 112 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP434	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	黄橙	変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 半截竹管による沈線	覆土中層	
TP435	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	変形爪形文 半截竹管による沈線	覆土中層	
TP436	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	半截竹管による沈線	覆土中	PL39
TP437	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 半截竹管による沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 50	鏃	2.1	1.8	0.4	1.1	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	覆土中	PL42

第 189 号土坑 (第 113 図)

位置 調査区中央部の E 5 i4 区, 標高 13 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 4 号遺物包含層の掘削後に確認した。第 45 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.43 m, 短径 1.28 m の楕円形で, 長径方向は N - 39° - E である。深さは 23cm で, 底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

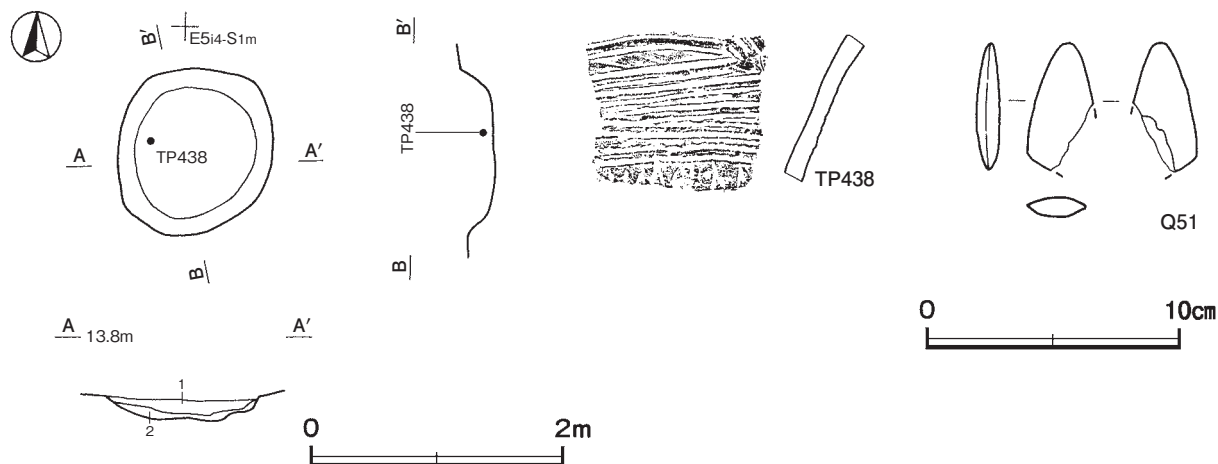
覆土 2 層に分層できる。焼土ブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 砂粒少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 2 極暗褐色 粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 13 点 (深鉢), 石器 1 点 (磨製石斧) が出土している。TP438 は西部の覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期後半の浮島式期と考えられる。



第 113 図 第 189 号土坑・出土遺物実測図

第 189 号土坑出土遺物観察表 (第 113 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP438	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	半截竹管による沈線 変形爪形文 貝殻波状文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 51	磨製石斧	(5.1)	(2.6)	0.9	(13.4)	緑色岩	両面研磨	覆土中	

第 190 号土坑 (第 114 図)

位置 調査区中央部の E 5h4 区, 標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 4 号遺物包含層の掘削後に確認した。第 46 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.34 m, 短径 1.16 m の楕円形で, 長径方向は N - 45° - E である。深さは 47cm で, 底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

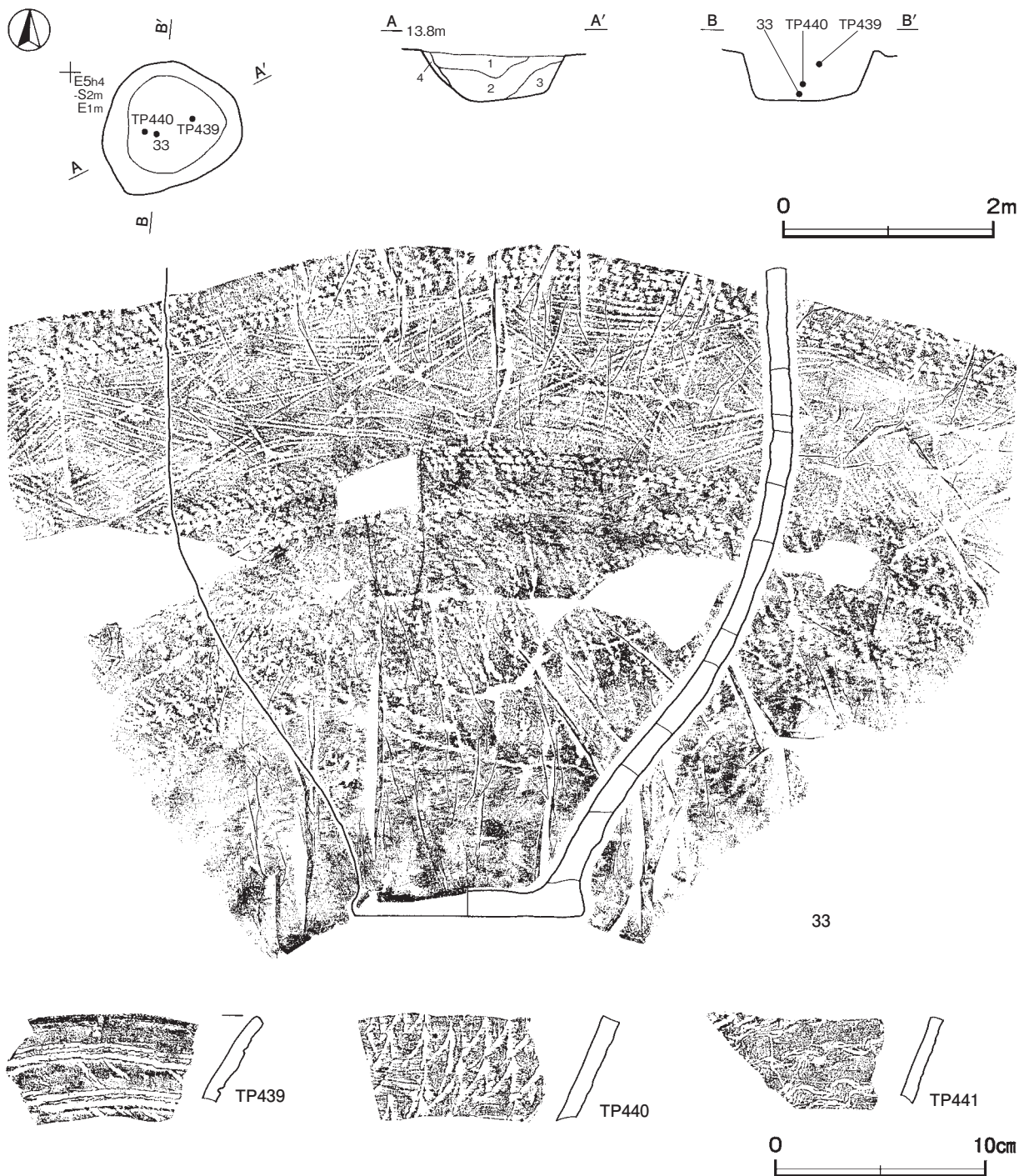
覆土 4 層に分層できる。多くの層にロームブロックと焼土ブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 砂粒少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子・砂粒微量
 2 極暗褐色 ロームブロック・砂粒少量, 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 4 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 41 点 (深鉢), 剥片 2 点が出土している。33 は西寄りの覆土下層から横位の状態で, TP440 は西寄りの覆土中層から, TP439 は北東寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期後半の浮島Ⅱ～Ⅲ式期と考えられる。



第 114 図 第 190 号土坑・出土遺物実測図

第 190 号土坑出土遺物観察表 (第 114 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
33	縄文土器	深鉢	-	(30.8)	10.8	長石・石英	橙	普通	アナダラ属による波状貝殻文 菱形文 半截竹管による沈線	覆土下層	70% PL.30
TP439	縄文土器	深鉢				長石・石英	明赤褐		有節平行線文カ	覆土上層	
TP440	縄文土器	深鉢				長石・石英	橙		アナダラ属による貝殻波状文	覆土中層	
TP441	縄文土器	深鉢				長石・石英	橙		Lの無節縄文の結節カ	覆土中	

第 191 号土坑 (第 115 図)

位置 調査区中央部の E 5 h5 区, 標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 4 号遺物包含層の掘削後に確認した。第 46 号住居・第 30 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 径 1.00 m ほどの円形である。深さは 38cm で, 底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

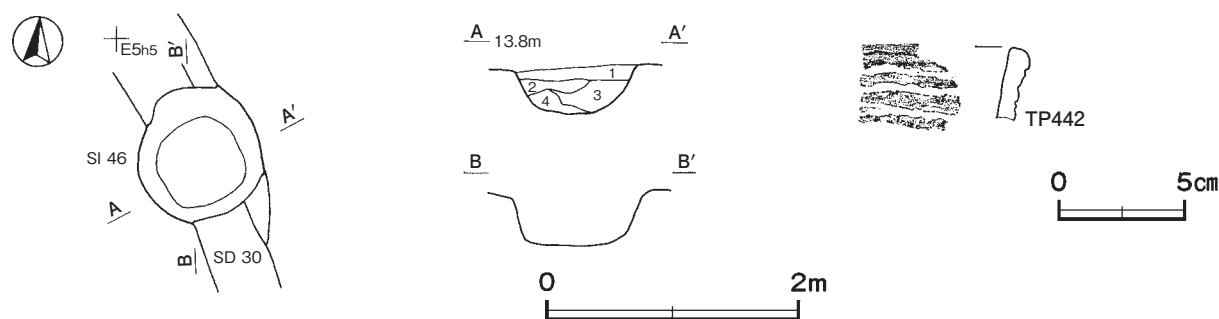
覆土 4 層に分層できる。ブロック状に堆積していることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------------|-------|-------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・粘土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子中量, 粘土粒子・砂粒少量 |

遺物出土状況 縄文土器片 5 点 (深鉢) が, 覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から前期後半の浮島式期と考えられる。



第 115 図 第 191 号土坑・出土遺物実測図

第 191 号土坑出土遺物観察表 (第 115 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP442	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文	覆土中	

第 192 号土坑 (第 116 図)

位置 調査区中央部の E 5 j4 区, 標高 13 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 4 号遺物包含層の掘削後に確認した。第 45 号住居に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 1.79 m, 短軸 1.30 m の隅丸長方形で, 長軸方向は N - 62° - E である。深さは 48cm で, 底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

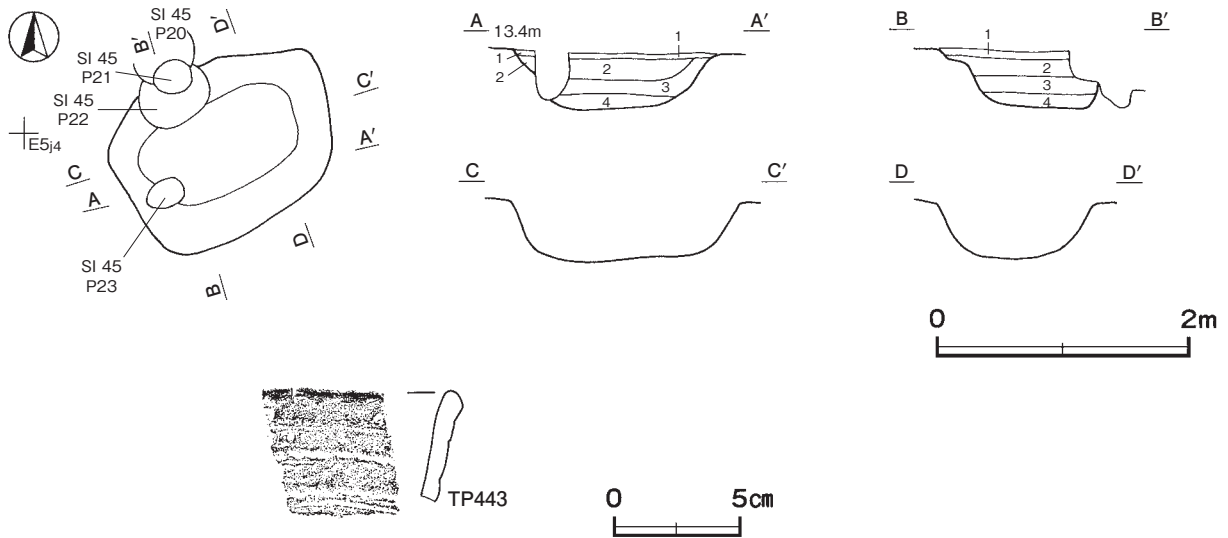
覆土 4 層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|----------|---------------------------|----------|-------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量 | 3 にぶい黄褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | ローム粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・粘土粒子微量 | 4 灰黄褐色 | ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 17 点 (深鉢), 剥片 1 点が出土している。遺物はいずれも覆土中からの出土である。

所見 時期は, 出土土器から前期後半の浮島式期と考えられる。



第 116 図 第 192 号土坑・出土遺物実測図

第 192 号土坑出土遺物観察表 (第 116 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP443	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐色	変形爪形文	覆土中	

表 7 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
24	D 4 f2	N - 57° - E	楕円形	1.53 × 1.30	80	皿状	外傾	人為	縄文土器	HG 1 → 本跡
26	D 4 e3	-	円形	1.04 × 0.95	35	平坦	外傾	人為	縄文土器	HG 1 → 本跡
101	I 7 c0	N - 17° - E	楕円形	1.48 × 1.02	34	平坦	外傾	人為	縄文土器, 剥片	SI23・26 → 本跡 → HG 3 → SI20
102	I 7 e0	[N - 39° - W]	[楕円形]	(1.05) × 1.02	34	平坦	外傾	人為	縄文土器	HG 3 → 本跡 → SI15
119	H 7 c3	-	円形	1.50 × 1.50	53	平坦	外傾	人為	縄文土器	
130	H 6 b0	-	円形	0.71 × 0.67	18	平坦	外傾	自然	縄文土器, 凹石	SI30 → 本跡
145	E 4 j0	-	円形	2.10 × 2.10	51	皿状	外傾	人為	縄文土器, 剥片	SI43 → 本跡 → HG 4
172	E 5 j3	N - 40° - W	楕円形	1.34 × 1.08	31	平坦	外傾	人為	縄文土器, 鏃, 剥片, 礫	本跡 → HG 4
178	E 5 j2	-	円形	1.08 × 1.07	43	平坦	外傾	自然	縄文土器, 鏃, 剥片	本跡 → HG 4
187	E 5 j4	N - 33° - E	楕円形	1.12 × 0.98	30	皿状	外傾	自然	縄文土器	SI45 → 本跡 → HG 4
188	E 5 i4	-	円形	1.40 × 1.40	35	凹凸	外傾	人為	縄文土器, 鏃, 剥片	本跡 → SI45 → HG 4
189	E 5 i4	N - 39° - E	楕円形	1.43 × 1.28	23	皿状	外傾	人為	縄文土器, 磨製石斧	SI45 → 本跡 → HG 4
190	E 5 h4	N - 45° - E	楕円形	1.34 × 1.16	47	平坦	外傾	人為	縄文土器, 剥片	SI46 → 本跡 → HG 4
191	E 5 h5	-	円形	1.00 × 1.00	38	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡 → SI46 → HG 4 → SD30
192	E 5 j4	N - 62° - E	隅丸長方形	1.79 × 1.30	48	平坦	外傾	人為	縄文土器, 剥片	本跡 → SI45 → HG 4

(6) 遺物包含層

第1号遺物包含層 (第117～121図)

位置 調査区北西部のC3区から中央部のE5区にかけての標高12～14mの緩斜面部に位置し、調査区域外南西側の低地から北東方向に延びる垂支谷の谷頭にあたる。

重複関係 第7～9・11号住居跡の上部に形成されており、第4A・4B・6・10・12～14号住居、第1号鍛冶工房、第1号竪穴遺構、第1・2号土器埋設遺構、第3号炉、第1・9・10・12・13・15～20・22～26・29・31～35・37～43・207号土坑、第1号道路、第18～20号溝、第2・4号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているため、南北77mで、東西57mしか確認できなかった。

土層 12層に分層できる。暗褐色や黒褐色土を主体とした自然堆積土で、層厚は12～60cmである。第13層以下は谷部への堆積土で、無遺物層である。

土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|---------|----------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 明褐色 | 砂粒多量、ローム粒子中量 |
| 2 極暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 10 黒色 | ローム粒子・砂粒微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 | 11 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 12 極暗褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 13 褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ローム粒子多量、炭化粒子微量 | 14 極暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子微量 |
| 7 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 15 黒褐色 | 炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

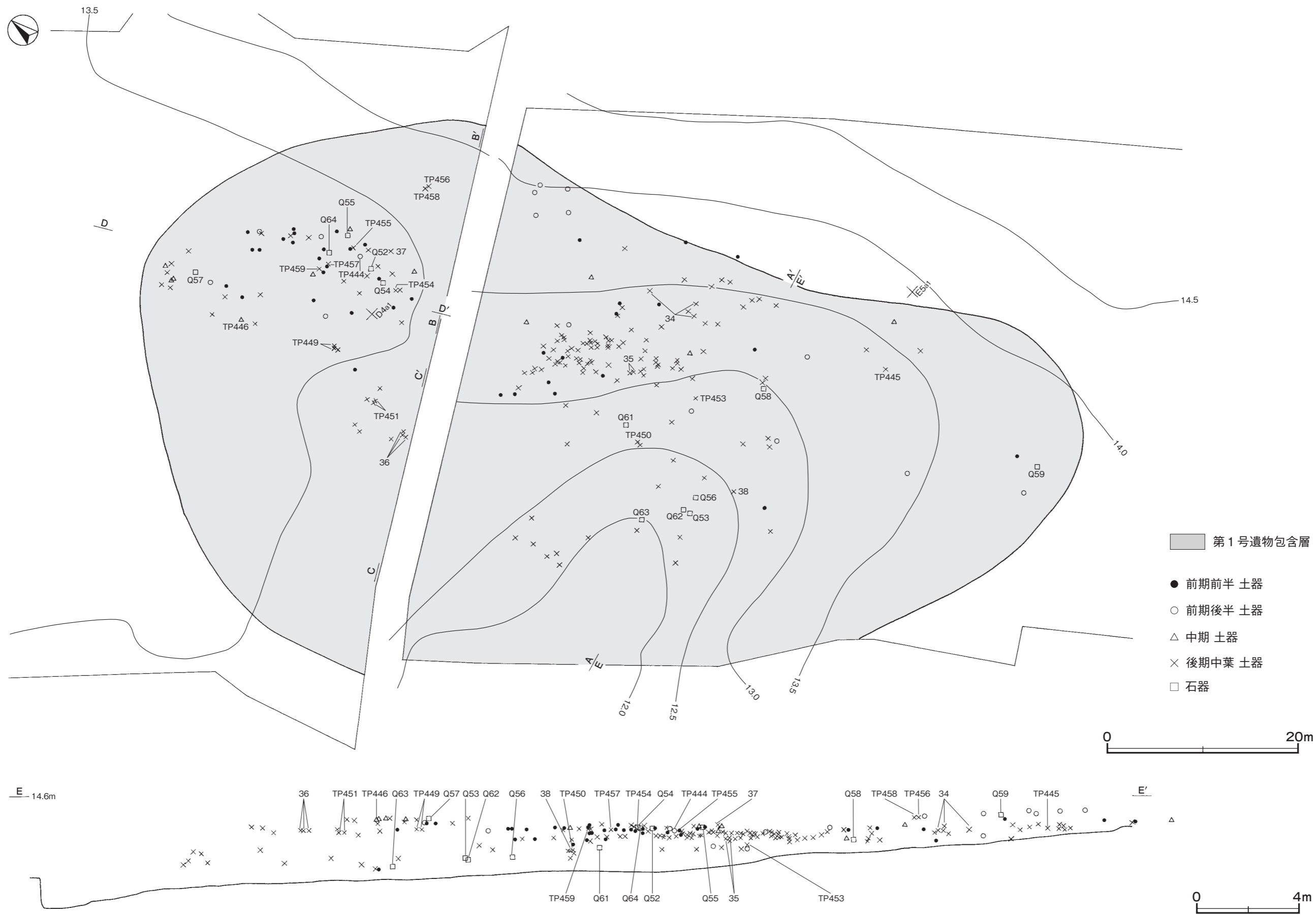
遺物出土状況 縄文土器片 3,997点、石器 25点 (鏃 10、石錐 1、磨製石斧 3、石皿 1、磨石 4、石錘 1、凹石 4、有溝砥石 1)、剥片 57点 (チャート 50、黒曜石 5、頁岩 2)、礫 12点 (内、被熱した礫 3) が出土している。土器片は大部分が細片で、縄文時代後期中葉のものが主体である。谷頭の北部にあたるC4区からD4区にかけての出土量が多い。

所見 出土土器から、縄文時代前期前半から遺物が流入し、後期中葉に谷部はほぼ埋没したものと考えられる。また、チャートを主体とした剥片が57点出土しており、周辺で石器製作を行っていた可能性が考えられるが、製作場所や時期についての詳細は不明である。

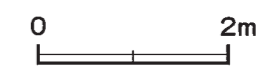
表8 第1号遺物包含層出土土器組成表

	前期前半	前期後半	中期	後期中葉
数 (点)	50	35	24	208
割合 (%)	16	11	7	66

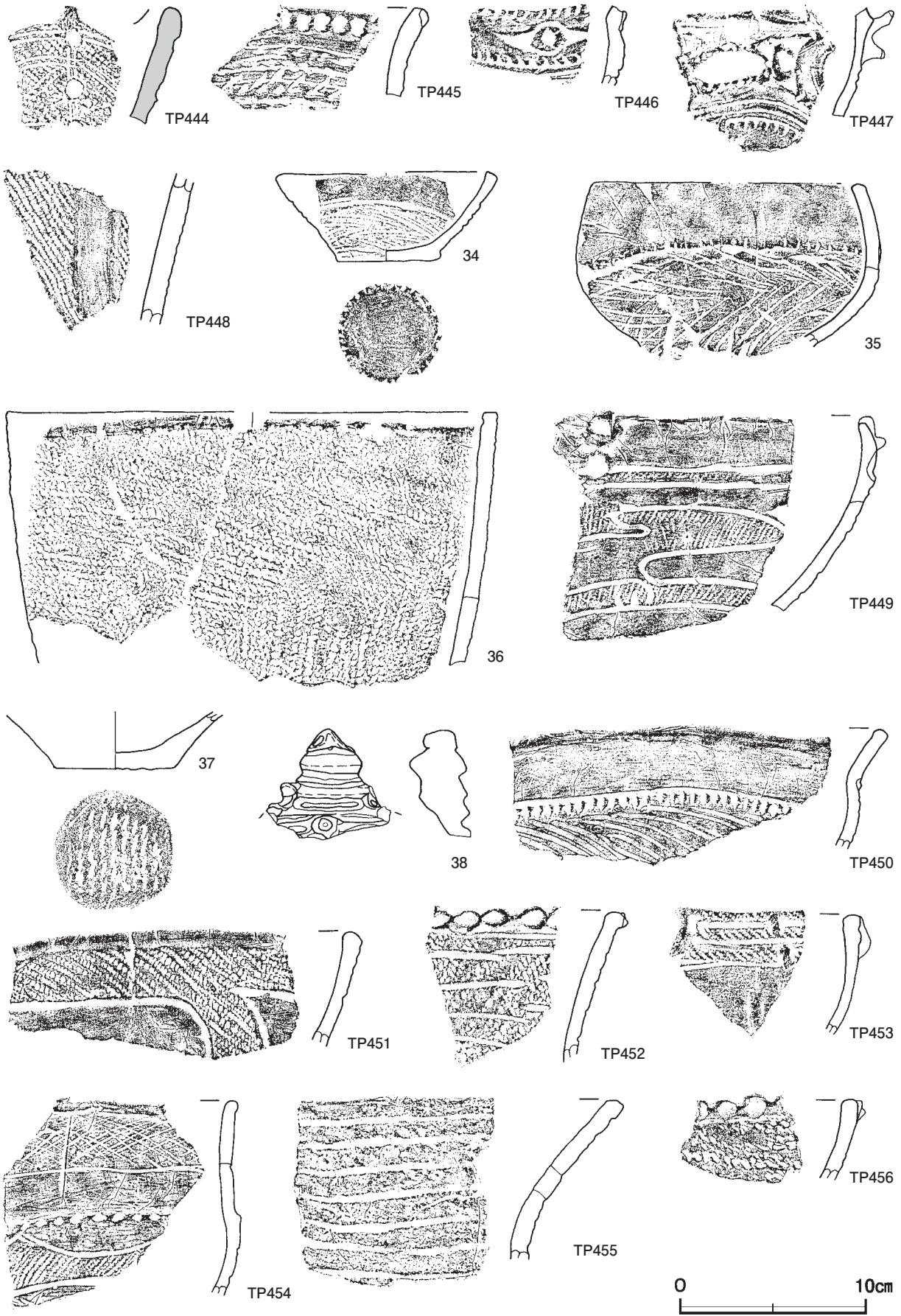
※型式が判別できる口縁部片を抽出



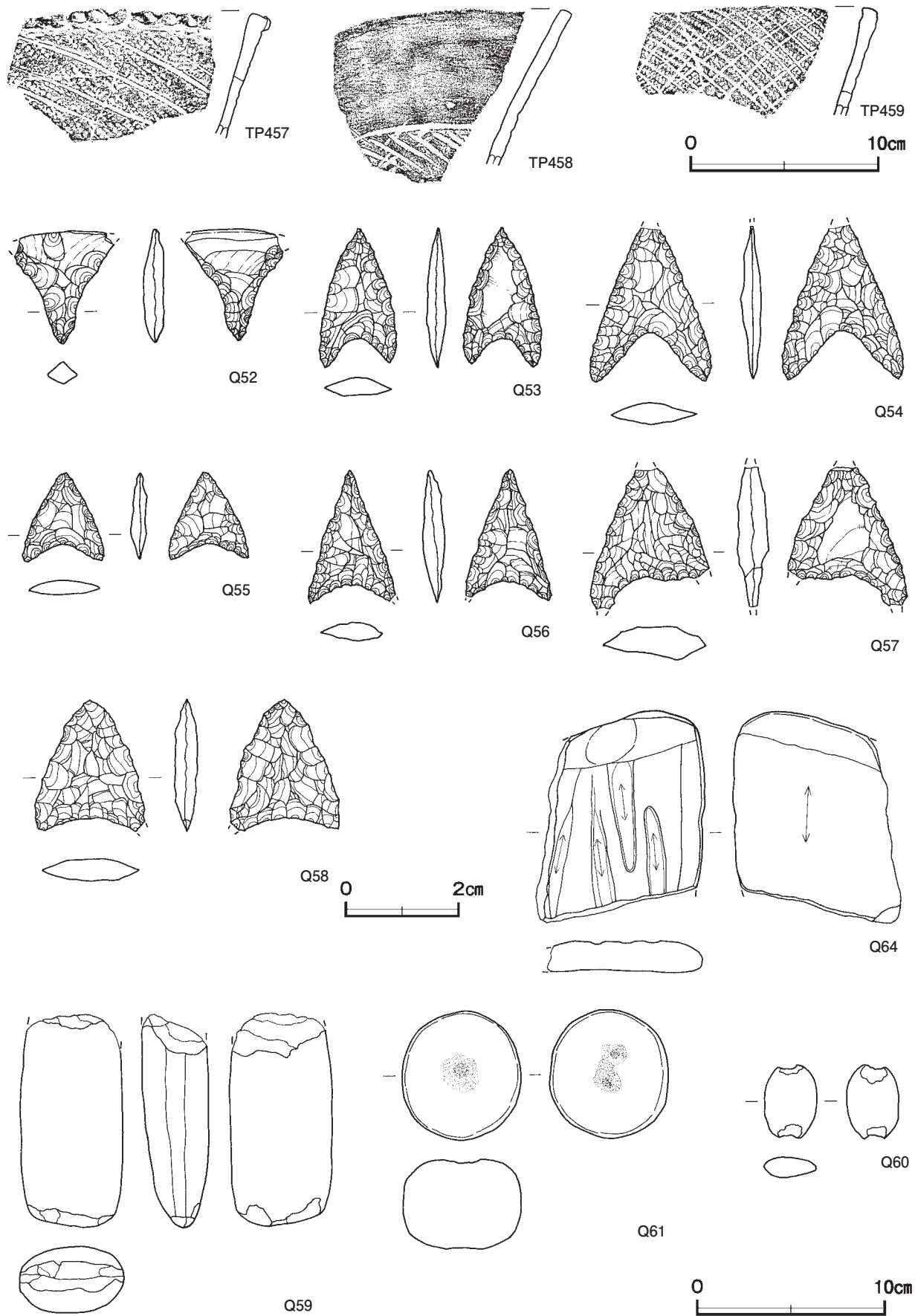
第117図 第1号遺物包含層実測図(1)



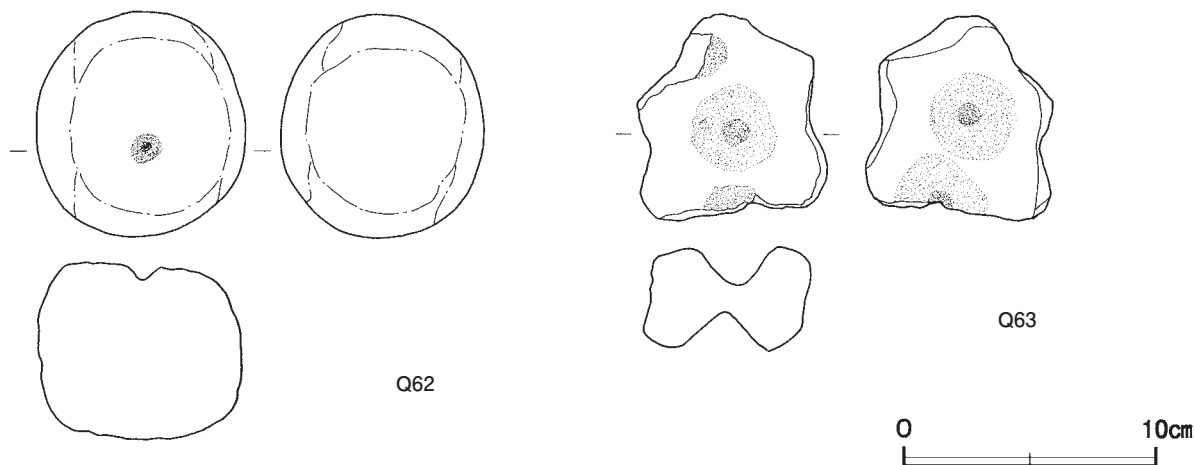
第 118 图 第 1 号遺物包含層実測图 (2)



第 119 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図 (1)



第 120 图 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図 (2)



第 121 図 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図 (3)

第 1 号遺物包含層出土遺物観察表 (第 119 ~ 121 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
34	縄文土器	深鉢	[11.0]	4.8	5.2	長石・石英	黄灰	普通	ヘラ状工具による連続の刺突 半截竹管による沈線	D 4 g6	40% PL31
35	縄文土器	深鉢	[14.2]	(8.8)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	ヘラ状工具による連続の刺突 半截竹管による沈線	D 4 g4	40% PL31
36	縄文土器	深鉢	[26.4]	(13.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	RLの単節縄文	D 3 c9	20%
37	縄文土器	深鉢	-	(3.1)	6.6	長石・石英	橙	普通	底部網代痕	C 4 j2	10%
38	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	沈線が沿う隆帯で加飾した突起	E 4 a3	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP444	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文 半截竹管による沈線 棒状工具による円形の刺突	C 4 i1	
TP445	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	口唇部に縦位の条線帯 変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 半截竹管による沈線	E 4 a9	
TP446	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	半截竹管による沈線 半截竹管による刺突	C 3 h8	PL39
TP447	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	瘤貼付 半截竹管による連続に刺突 半截竹管による沈線	覆土中	PL39
TP448	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	LRの単節縄文 微隆帯	覆土中	
TP449	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	LRの単節縄文 沈線文 無文部磨き 工具による刺突 瘤貼付	C 3 j9	PL39
TP450	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	沈線文 ヘラ状工具による連続の刺突	D 4 h3	PL39
TP451	縄文土器	深鉢	長石・石英	黄橙	RLの単節縄文 沈線文	D 3 b9	
TP452	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	黄橙	紐線文 LRの単節縄文 条線文	覆土中	
TP453	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	RLの単節縄文 沈線文 粘土紐貼付	D 4 h5	
TP454	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	格子目文 無文部磨き 棒状工具による連続の刺突 LRの単節縄文 沈線文	D 4 a1	PL39
TP455	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	条線文 工具による圧痕	C 4 i1	
TP456	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	紐線文 RLの単節縄文	C 4 i4	
TP457	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	紐線文 RLの単節縄文 条線文	C 4 i1	
TP458	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	半截竹管による沈線	C 4 i4	
TP459	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	RLの単節縄文 格子目文	C 3 i0	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 52	石錐	2.0	(1.8)	0.4	(1.0)	チャート	両面押圧剥離	C 4 j2	
Q 53	鏃	2.5	1.4	0.3	0.8	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	D 4 j2	
Q 54	鏃	(2.7)	2.1	0.4	(1.5)	頁岩	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	C 4 j2	PL43
Q 55	鏃	1.6	1.4	0.3	0.5	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	C 4 i2	PL42
Q 56	鏃	2.4	1.6	0.4	(0.9)	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	D 4 j3	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 57	鎌	(2.5)	(2.2)	0.6	(2.5)	チャート	凹基無茎鎌 両面押圧剥離	C 3 f8	PL43
Q 58	鎌	2.4	(2.0)	0.4	(1.4)	黒曜石	凹基無茎鎌 両面押圧剥離	D 4 i6	PL43
Q 59	磨製石斧	(11.4)	5.5	3.6	(394.9)	緑色凝灰岩	先端部に使用痕カ	E 4 f9	PL44
Q 60	石錘	4.1	2.9	1.1	17.5	砂岩	両端部打ち欠き	覆土中	PL41
Q 61	凹石	6.9	6.4	4.8	304.1	安山岩	凹部 4 箇所	D 4 g3	PL45
Q 62	凹石	9.0	8.1	7.1	655.0	安山岩	凹部 1 箇所	D 4 j2	PL45
Q 63	凹石	(8.2)	(7.5)	4.2	(295.8)	安山岩	凹部 8 箇所	D 4 i1	PL45
Q 64	有溝砥石	(11.3)	(9.0)	1.7	(266.8)	砂岩	砥面 2 面	C 4 i1	PL45

第3号遺物包含層（第122～123図）

位置 調査区南東部のI7区からJ7区にかけての標高13～14mの緩斜面部に位置し、調査区域外東側の支谷から北西方向に延びる垂支谷の谷頭にあたる。

重複関係 第23・26号住居跡、第101号土坑の上部に形成されており、第15・16・20・22号住居、第50～54・56～60・62～71・73・75～77・79・81～83・85～89・92・95・97・100・102・109・193～197・199・200・202号土坑、第23号溝、第6号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 東部が削平されているため、南北47mで、東西22mしか確認できなかった。

土層 2層に分層できる。暗褐色土を主体とした自然堆積土で、層厚は10～33cmである。第3層以下は谷部への堆積土で、無遺物層である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 褐色 | ロームブロック少量 | | |

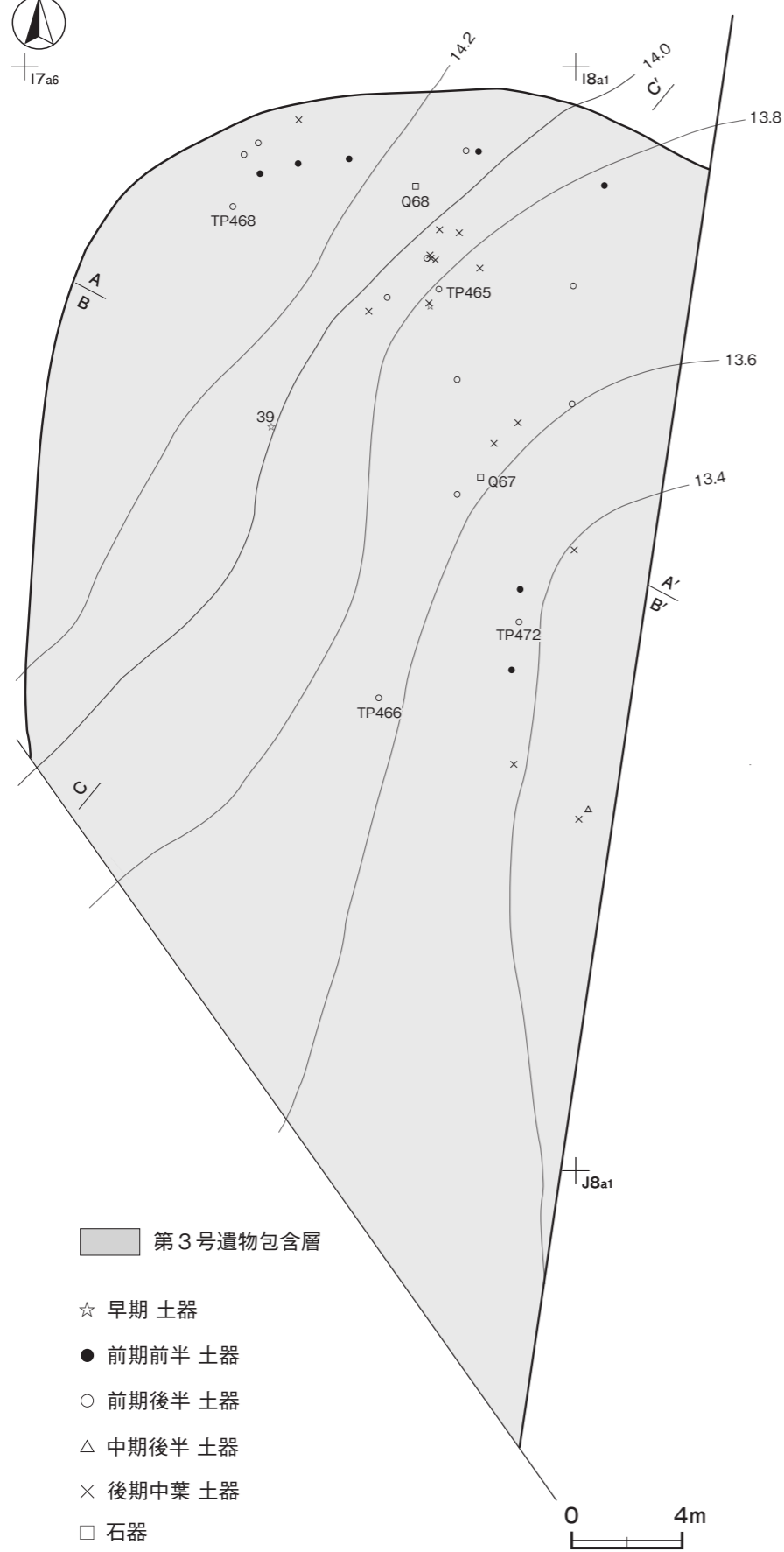
遺物出土状況 縄文土器片1,943点、石器7点（鎌2、磨製石斧1、石皿1、磨石1、石錘1、凹石1）、剥片14点（チャート12、黒曜石1、頁岩1）、礫51点（内、被熱した礫29）が出土している。土器片は大部分が細片で、縄文時代前期前半のものが主体である。谷頭の北部にあたるI7区からI8区にかけて最も多く出土し、南西部での出土量は少ない。

所見 出土土器から、縄文時代早期から遺物が流入し、後期中葉に谷部はほぼ埋没したものと考えられる。

表9 第3号遺物包含層出土土器組成表

	早期	前期前半	前期後半	中期後半	後期中葉
数（点）	3	136	76	8	61
割合（％）	1	48	27	3	21

※型式が判別できる口縁部片を抽出



■ 第3号遺物包含層

☆ 早期 土器

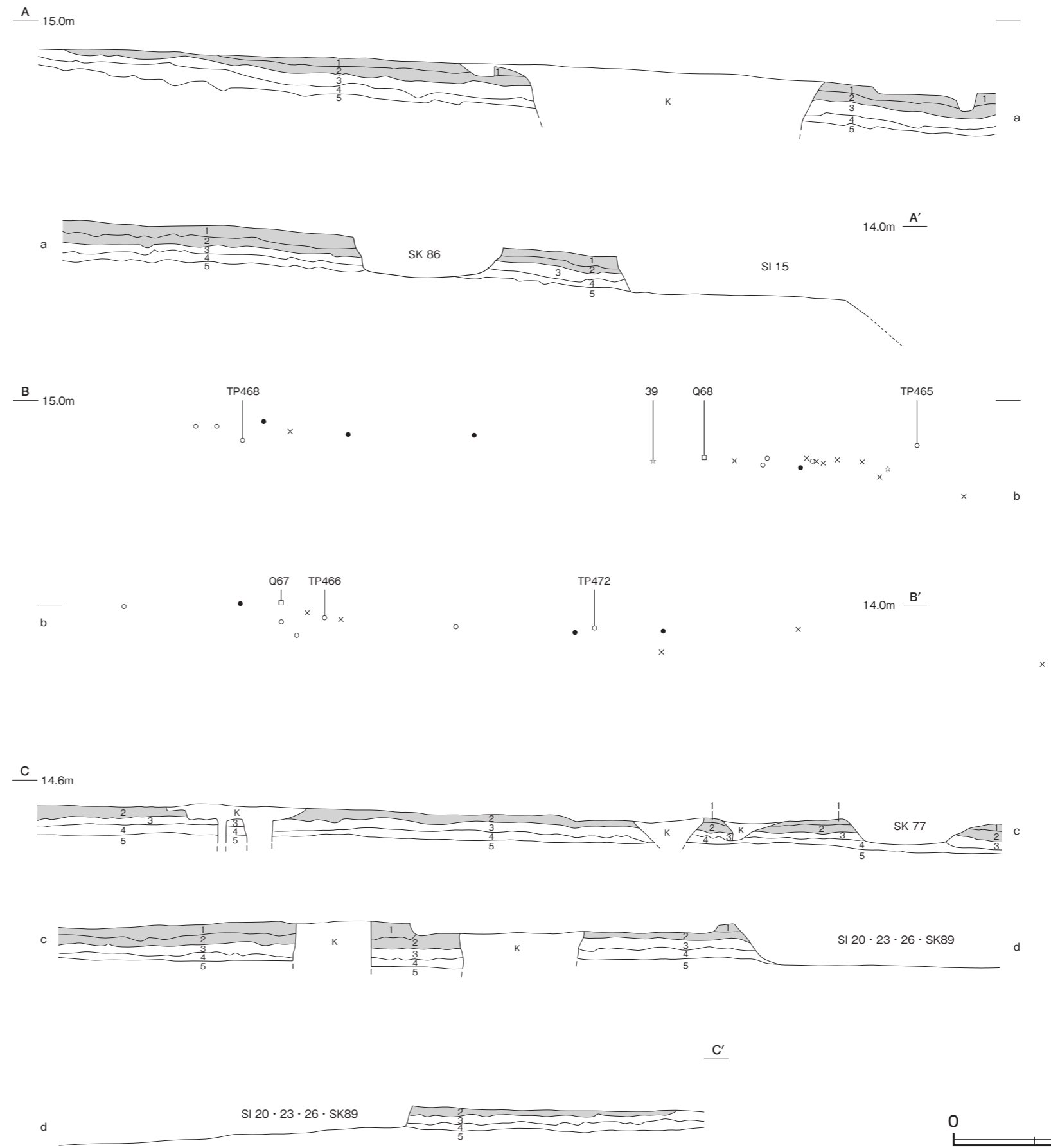
● 前期前半 土器

○ 前期後半 土器

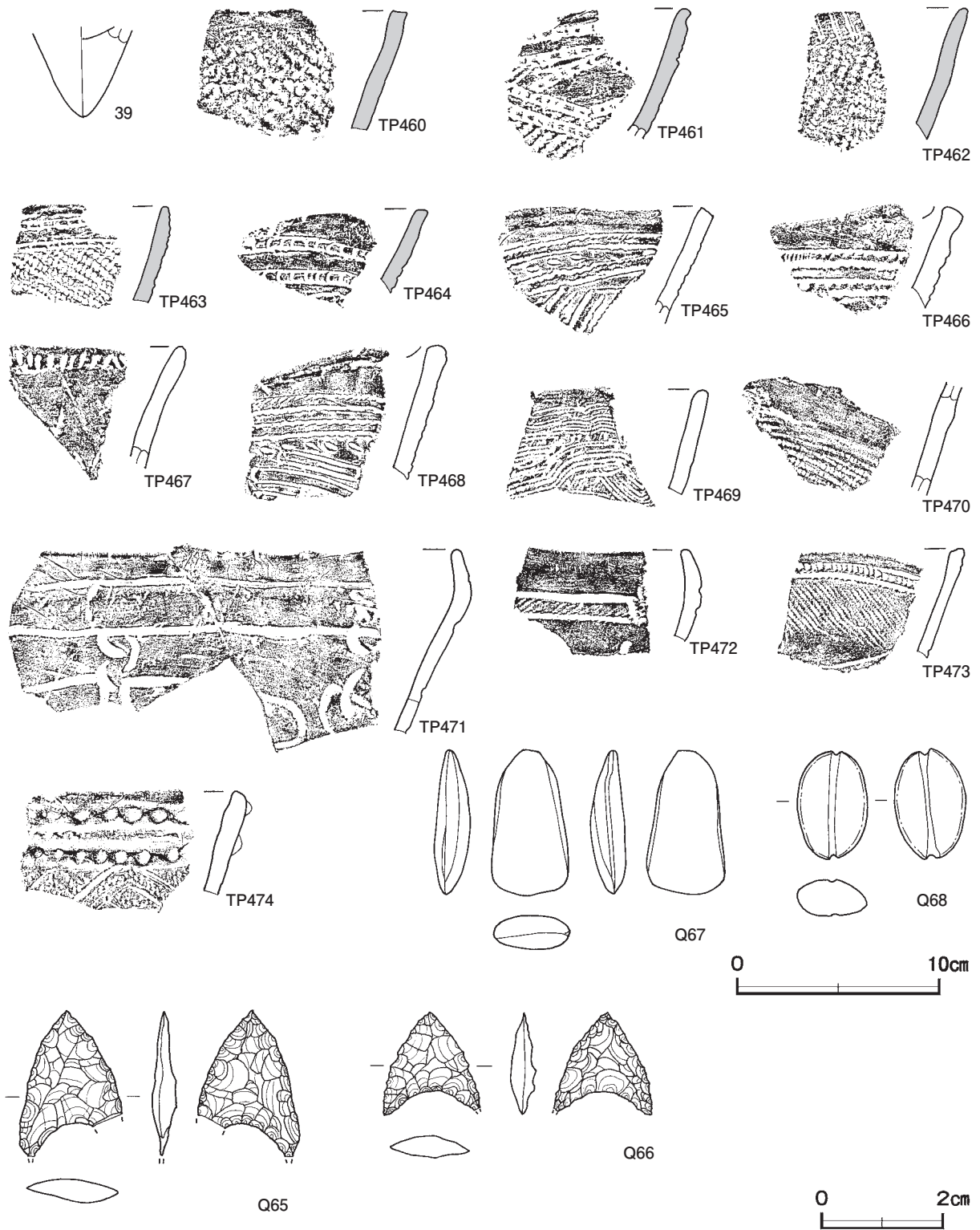
△ 中期後半 土器

× 後期中葉 土器

□ 石器



第 122 図 第 3 号遺物包含層実測図



第 123 図 第 3 号遺物包含層出土遺物実測図

第 3 号遺物包含層出土遺物観察表 (第 123 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
39	縄文土器	深鉢	-	(4.4)	-	長石・石英	黄橙	普通	尖底	I 7 c8	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP460	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文	覆土中	
TP461	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	LRの単節縄文 爪形文	覆土中	
TP462	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	口唇部に工具による斜位の沈線 LRの単節縄文	覆土中	
TP463	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	RLの単節縄文 爪形文	覆土中	
TP464	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	爪形文	覆土中	
TP465	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 半截竹管による沈線	I 7 b9	
TP466	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文	I 7 f9	
TP467	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	口唇部に斜位の条線帯 貝殻波状文	覆土中	
TP468	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	変形爪形文 半截竹管による沈線 ヘラ状工具による斜位の刺突	I 7 b7	
TP469	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	歯状工具による波状文	覆土中	
TP470	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	RLの単節縄文 微隆帯	覆土中	
TP471	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	沈線文 区切り文	覆土中	PL39
TP472	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	LRの単節縄文 沈線文	I 7 f0	
TP473	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	RLの単節縄文 工具による連続の刺突 沈線文	覆土中	
TP474	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	紐線文 RLの単節縄文 半截竹管による沈線	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 65	鏃	(2.4)	(1.7)	0.4	(1.2)	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	覆土中	
Q 66	鏃	1.7	1.6	0.4	(0.7)	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	覆土中	PL42
Q 67	磨製石斧	7.2	3.7	1.8	73.8	緑色凝灰岩	両面研磨	I 7 d0	
Q 68	石錘	5.3	3.4	1.8	42.6	砂岩	両端部に切れ目	I 7 b9	PL41

第4号遺物包含層（第124～127図）

位置 調査区中央部のE4区からF5区にかけての標高13～14mの緩斜面部に位置し、調査区域外南西側の低地から北東方向に延びる垂支谷の谷頭にあたる。

規模と形状 南西部が調査区域外に延びているため、南北48mで、東西55mしか確認できなかった。

重複関係 第40・42～48号住居跡、第145・172・178・187～192号土坑の上部に形成され、第41号住居、第142～144・146～155・157・160・161・164・165・170・171・173～177・179～186・201号土坑、第30号溝に掘り込まれている。

土層 2層に分層できる。極暗褐色土及び暗褐色土を主体とした自然堆積土で、層厚は6～47cmである。第1層及び第4層以下は谷部への堆積土で、無遺物層である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------|-------|----------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・砂粒微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量、砂粒微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量 | 6 褐色 | ロームブロック少量 |

遺物出土状況 縄文土器片2,880点、石器37点（鏃19、石錘1、磨製石斧1、石皿1、磨石3、石錘1、凹石10、鏃未製品1）、石核2点、剥片181点（チャート170、黒曜石3、頁岩8）、礫10点（内、被熱した礫4）が出土している。土器片は大部分が細片で、縄文時代前期後半のものが主体である。谷頭の北部にあたるE5区からF5区にかけて最も多く出土し、南東部での出土量は少ない。

所見 出土土器から、縄文時代前期前半から遺物が流入し、後期中葉に谷部はほぼ埋没したものと考えられる。また、チャートを主体とした剥片が181点が出土しており、周辺で石器製作を行っていた可能性が考えられるが、製作場所や時期についての詳細は不明である。

表10 第4号遺物包含層出土土器組成表

	前期前半	前期後半	中期後半	後期中葉
数 (点)	137	384	7	28
割合 (%)	25	69	1	5

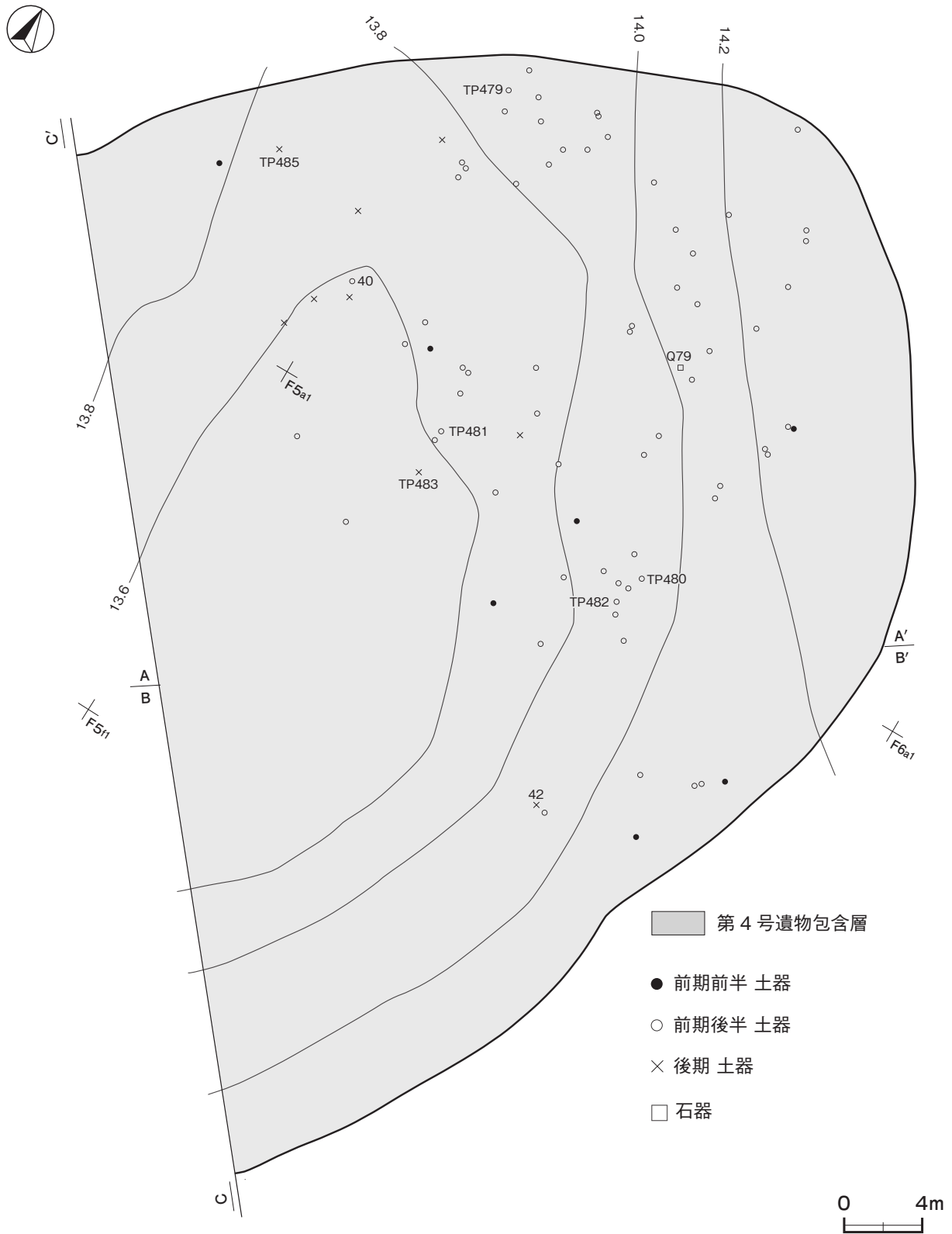
※型式が判別できる口縁部片を抽出

第4号遺物包含層出土遺物観察表(第126・127図)

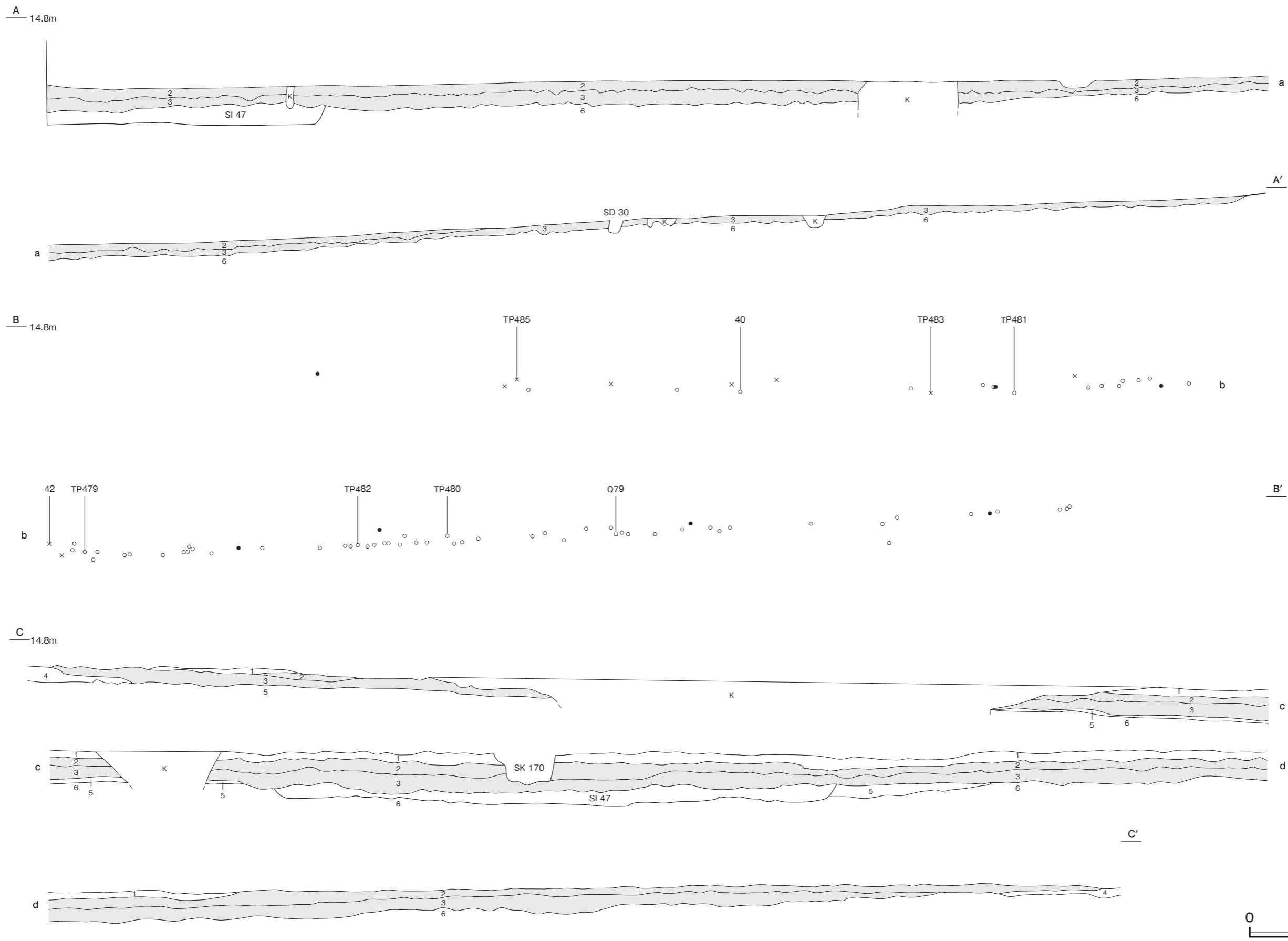
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
40	縄文土器	深鉢	-	(7.2)	[7.8]	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	貝殻波状文	F 4 i1	5%
41	縄文土器	深鉢	-	(6.4)	-	長石・石英・赤色粒子	黄橙	普通	獣面把手 隆帯と沈線で目・鼻を表現	覆土中	5%
42	縄文土器	深鉢	-	(13.1)	9.6	長石・石英・赤色粒子	黄橙	普通	RLの単節縄文 底部網代痕	F 5 d6	30%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徵ほか	出土位置	備考
TP475	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	Rの無節縄文	覆土中	
TP476	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成 粘土紐貼付工具による円形の刺突	覆土中	PL38
TP477	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	櫛歯状工具による波状文 穿孔	覆土中	PL38
TP478	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	口唇部に斜位の条線帯 変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突	覆土中	
TP479	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐	変形爪形文 半截竹管による沈線	E 5 f1	
TP480	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	変形爪形文 ヘラ状工具による斜位の刺突 半截竹管による沈線	E 5 j6	PL38
TP481	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	口唇部に工具による連続の刺突 浮線文上にRLの単節縄文	E 5 j3	
TP482	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐	RLの単節縄文 浮線文	F 5 a6	PL38
TP483	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	LRの単節縄文 工具による沈線	F 5 a3	
TP484	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	LRの単節縄文 隆帯	覆土中	
TP485	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	紐線文 工具による沈線	E 4 h9	

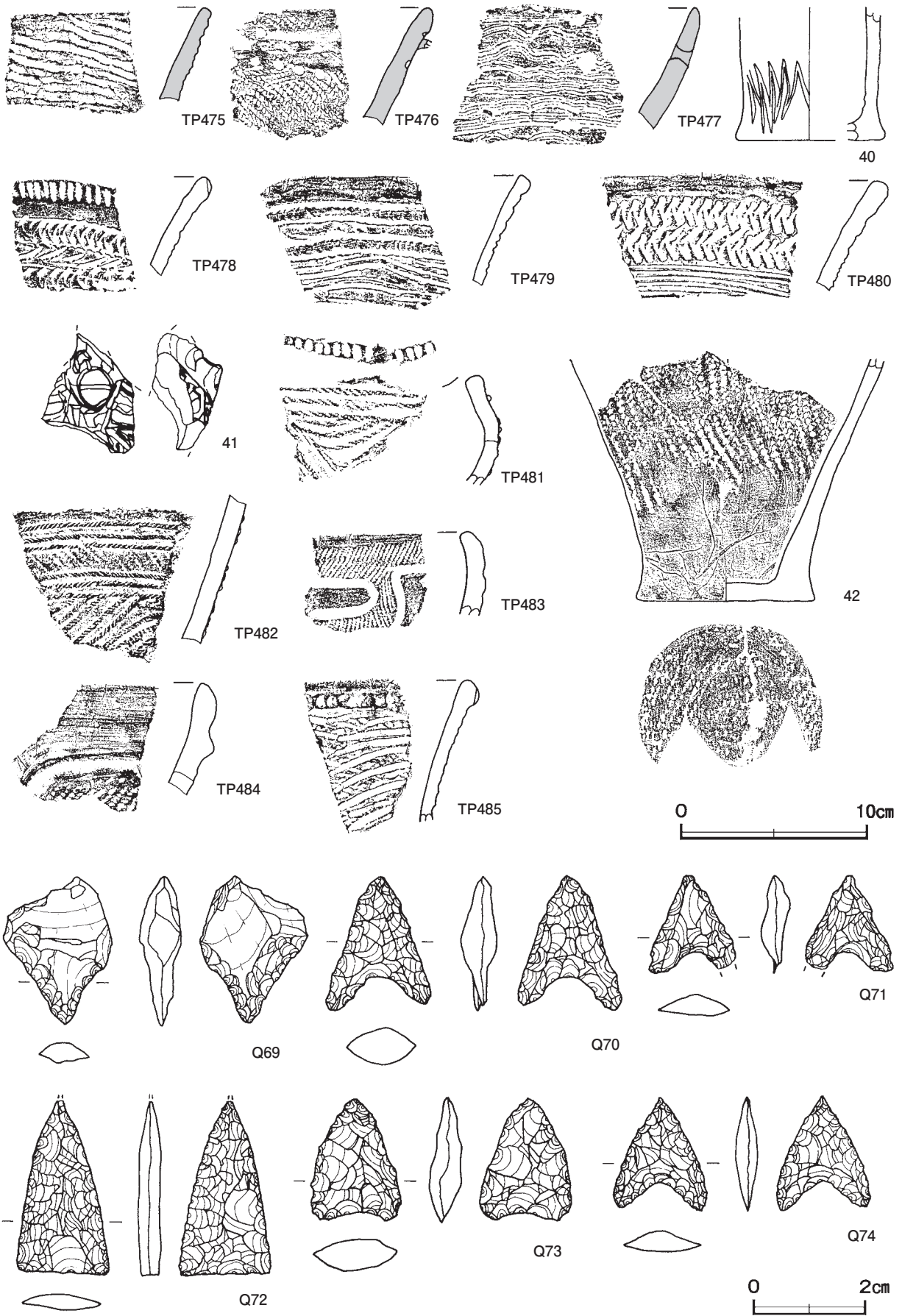
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 69	石錐	2.7	2.1	0.7	3.0	チャート	両面押圧剥離	覆土中	PL43
Q 70	鎌	2.4	2.0	0.7	1.7	チャート	凹基無茎鎌 両面押圧剥離	覆土中	PL42
Q 71	鎌	1.8	1.5	0.5	(0.8)	チャート	凹基無茎鎌 両面押圧剥離	覆土中	PL42
Q 72	鎌	(3.2)	1.7	0.4	(1.8)	チャート	平基無茎式 両面押圧剥離	覆土中	PL43
Q 73	鎌	2.2	1.6	0.6	1.9	チャート	凹基無茎鎌 両面押圧剥離	覆土中	
Q 74	鎌	2.1	1.7	0.4	0.8	チャート	凹基無茎鎌 両面押圧剥離	覆土中	PL42
Q 75	鎌	3.2	2.4	0.4	(1.5)	頁岩	凹基無茎鎌 両面押圧剥離	覆土中	
Q 76	鎌	2.0	1.7	3.0	0.8	黒曜石	凹基無茎鎌 両面押圧剥離	覆土中	PL42
Q 77	鎌	2.3	1.7	0.4	1.3	チャート	凹基無茎鎌 両面押圧剥離	覆土中	PL42
Q 78	磨製石斧	(13.6)	(5.2)	(2.6)	(266.9)	緑色凝灰岩	両面研磨	覆土中	PL44
Q 79	石皿	(11.2)	(16.6)	3.5	(1050.0)	安山岩	2面に局所的な磨り痕	E 5 h5	
Q 80	石錘	(4.7)	4.1	1.5	(45.8)	安山岩	端部打ち欠き	覆土中	



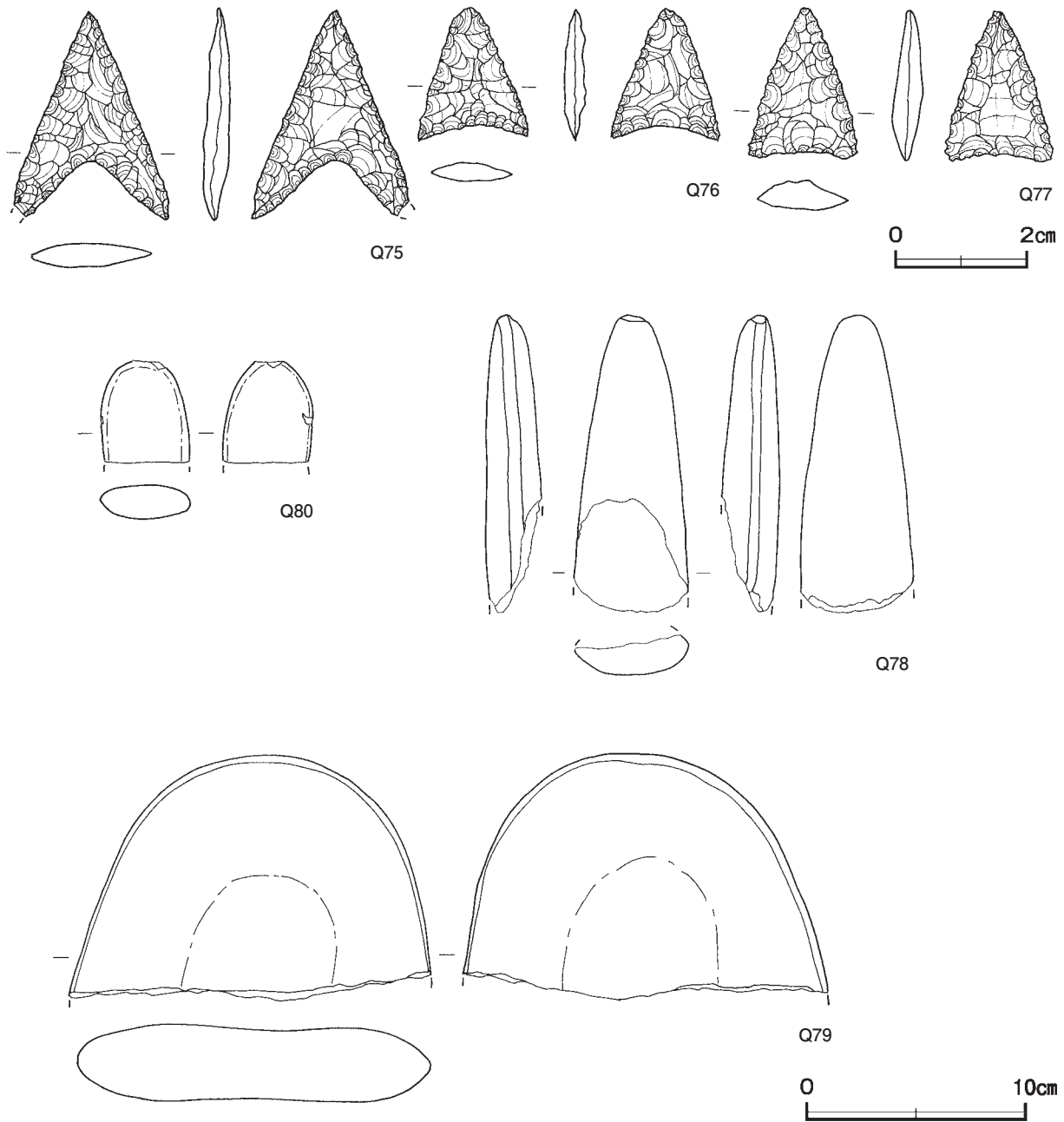
第124図 第4号遺物包含層実測図(1)



第 125 图 第 4 号遺物包含層実測图 (2)



第 126 图 第 4 号遺物包含層出土遺物実測図 (1)



第127図 第4号遺物包含層出土遺物実測図(2)

表11 縄文時代遺物包含層一覽表

番号	位置	規模		覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
		範囲(m)	深さ(cm)			
1	C3~E5	(77) × (57)	60	自然	縄文土器, 鎌, 石錘, 磨製石斧, 石皿, 磨石, 石錘, 凹石, 有溝砥石, 剥片	SI 7~9・11 → 本跡 → SI 4A・4B・6・10・12~14, 第1号鍛冶工房, 第1号竪穴遺構, 第1・2号土器埋設遺構, FP 3, SK 1・9・10・12・13・15~20・22~26・29・31~35・37~43・207・208, SF 1, SD18~20, PG 2・4
3	I7~J7	(47) × (22)	33	自然	縄文土器, 鎌, 磨製石斧, 石皿, 磨石, 石錘, 凹石, 剥片, 礫	SI23・26, SK101 → 本跡 → SI15・16・20・22, SK50~54・56~60・62~71・73・75~77・79・81~83・85~89・92・95・97・100・102・109・193~197・199・200・202, SD23, PG 6
4	E4~F5	(48) × (55)	47	自然	縄文土器, 鎌, 石錘, 磨製石斧, 石皿, 磨石, 石錘, 凹石, 鎌未製品, 石核, 剥片, 礫	SI40・42~48, SK145・172・178・187~192 → 本跡 → SI41, SK142~144・146~155・157・160・161・164・165・170・171・173~177・179~186・201, SD30

2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡2軒、鍛冶工房跡1軒を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第16号住居跡（第128～132図）

位置 調査区南東部のI7d6区、標高15mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第3号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸5.70m、短軸5.10mの長方形で、南壁中央部が長さ60cm、最大幅152cmの逆三角形に突出している。主軸方向はN-14°-Wである。壁高は32～44cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦な貼床で、東西の壁際を除いて中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。貼床は、四隅を土坑状に掘りくぼめ、ロームブロックを含んだ第6～8層を埋土して構築されている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで154cmで、燃烧部幅は72cmである。袖部は、床面を12cm掘りくぼめた部分にロームブロックや焼土ブロックを含んだ第9～14層を埋土し、その上に粘土粒子や砂粒を含んだ第5～8層を積み上げて構築されている。火床部は床面から5cmくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に31cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。奥壁にはロームブロックや粘土粒子を含んだ第15～17層を貼り付けて補強している。

竈土層解説

1 黒褐色	焼土粒子中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量	9 赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
2 褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック中量、粘土ブロック少量	10 赤褐色	焼土ブロック中量、ローム粒子微量
3 赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック少量	11 灰褐色	粘土粒子・砂粒少量、ロームブロック・焼土粒子微量
4 赤褐色	焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック微量
5 灰褐色	粘土粒子・砂粒中量、焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	13 赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量
6 赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量、ローム粒子微量	14 褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量
7 暗褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	15 褐色	ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量
8 極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量	16 灰褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量
		17 暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量

ピット 5か所。P1～P4は深さ74～78cmで、配置から支柱穴である。底面には、柱のあたりが認められる。P5は深さ40cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南壁際中央部に位置している。長軸68cm、短軸62cmの不整形で、深さは69cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

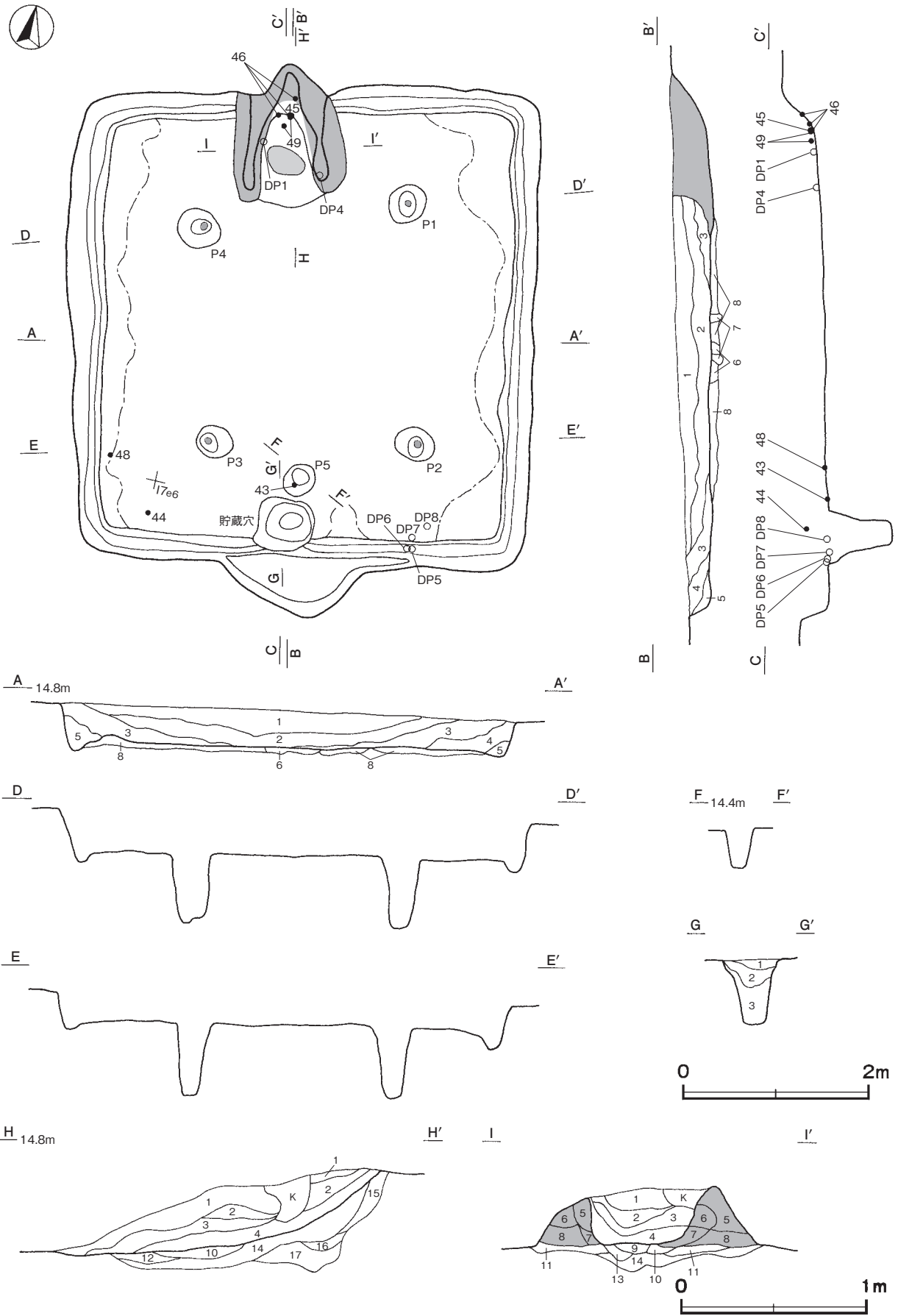
1 黒褐色	ロームブロック多量	3 暗褐色	焼土粒子多量、ロームブロック・炭化粒子少量
2 黒褐色	焼土粒子多量、炭化粒子中量、ロームブロック少量		

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第6～8層は、貼床の構築土である。

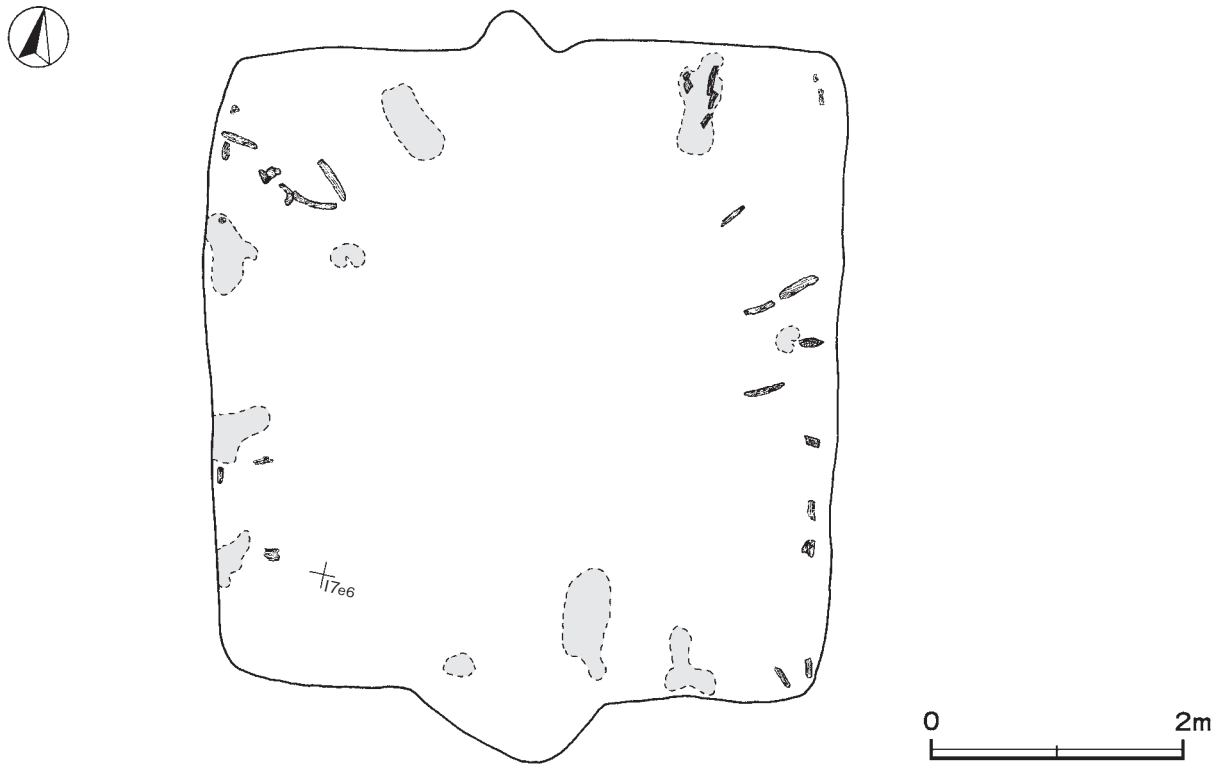
土層解説

1 暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	5 明褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック少量
2 暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	6 黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	7 灰褐色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ロームブロック多量	8 暗褐色	ロームブロック少量

遺物出土状況 土師器片59点（坏5、甕類51、甌3）、土製品9点（土玉）が出土している。また、混入した縄文土器片284点、剥片8点も出土している。そのほか、壁際の覆土下層から床面にかけて炭化材と焼土塊が出土している。48は南西壁際の床面から逆位の状態で出土しており、ほぼ完形であることから廃絶時に



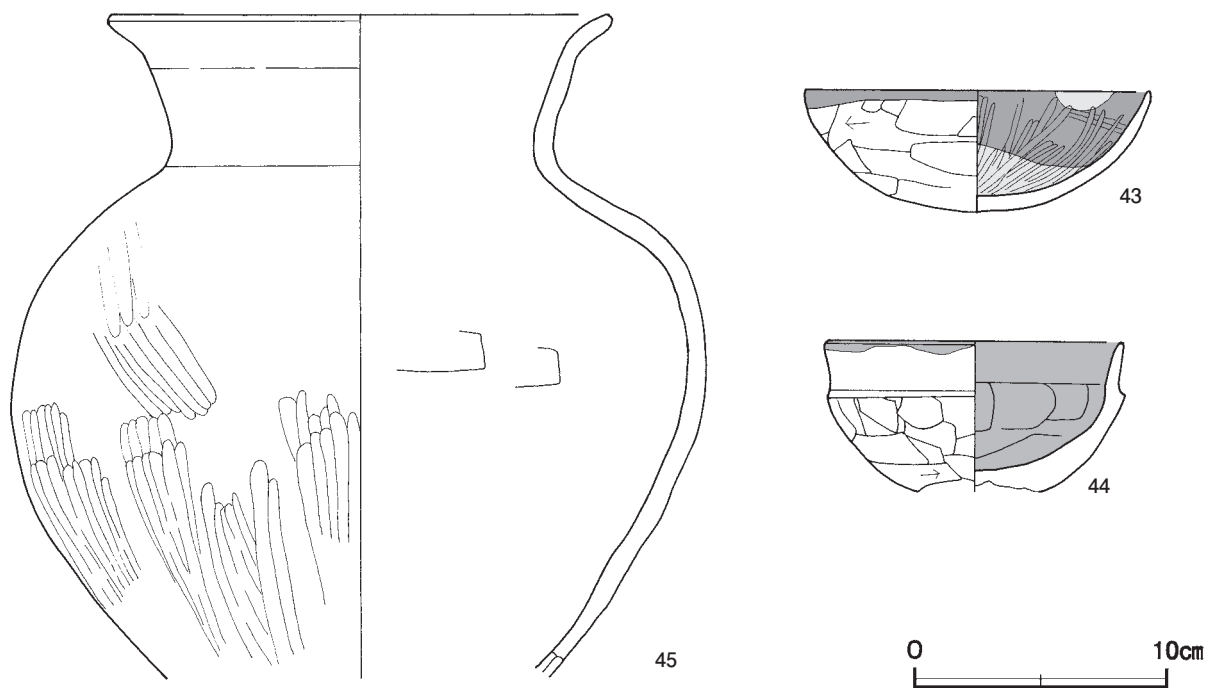
第 128 图 第 16 号住居跡実測图 (1)



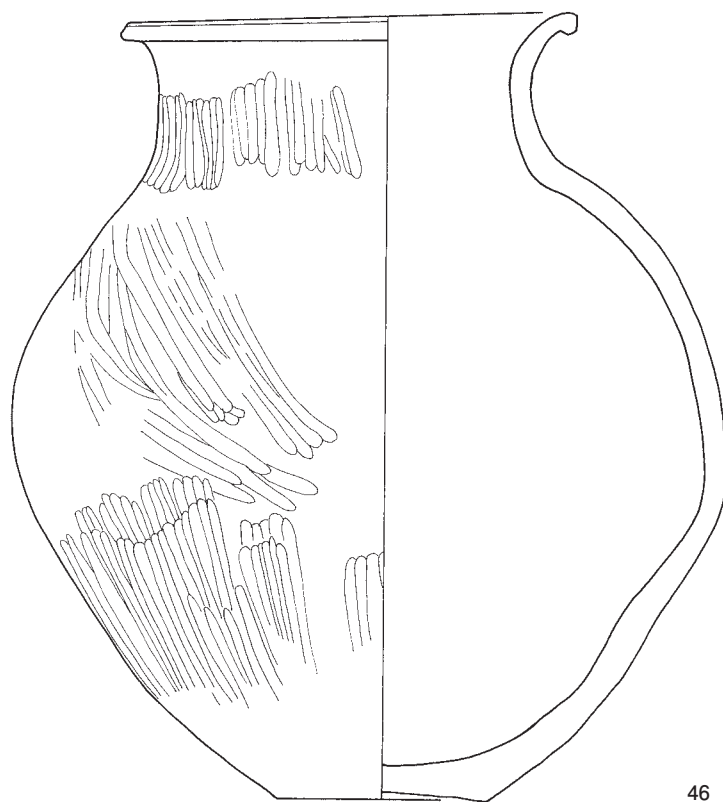
第129図 第16号住居跡実測図(2)

遺棄されたものと考えられる。45・46・49・DP 1・DP 4は竈の覆土下層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。DP 5～DP 8は南壁際、43は南部の覆土下層からそれぞれ出土しており、いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

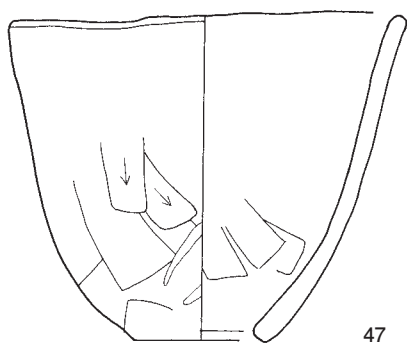
所見 床面から焼土や炭化材が確認され、覆土中に焼土ブロックや炭化粒子が含まれていることから焼失住居の可能性はある。時期は、出土土器から6世紀前葉と考えられる。



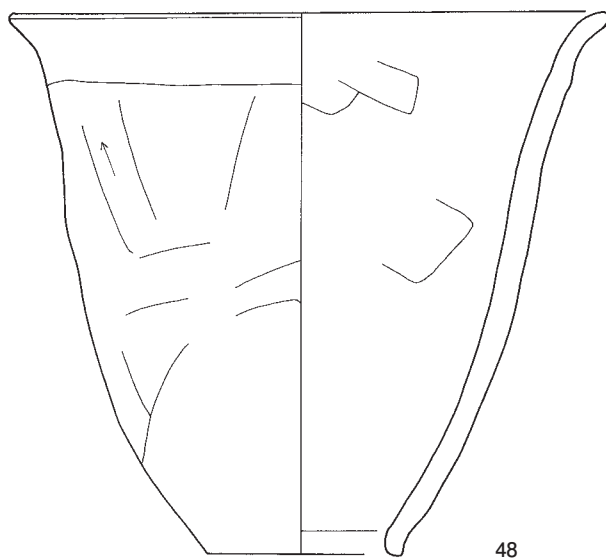
第130図 第16号住居跡出土遺物実測図(1)



46



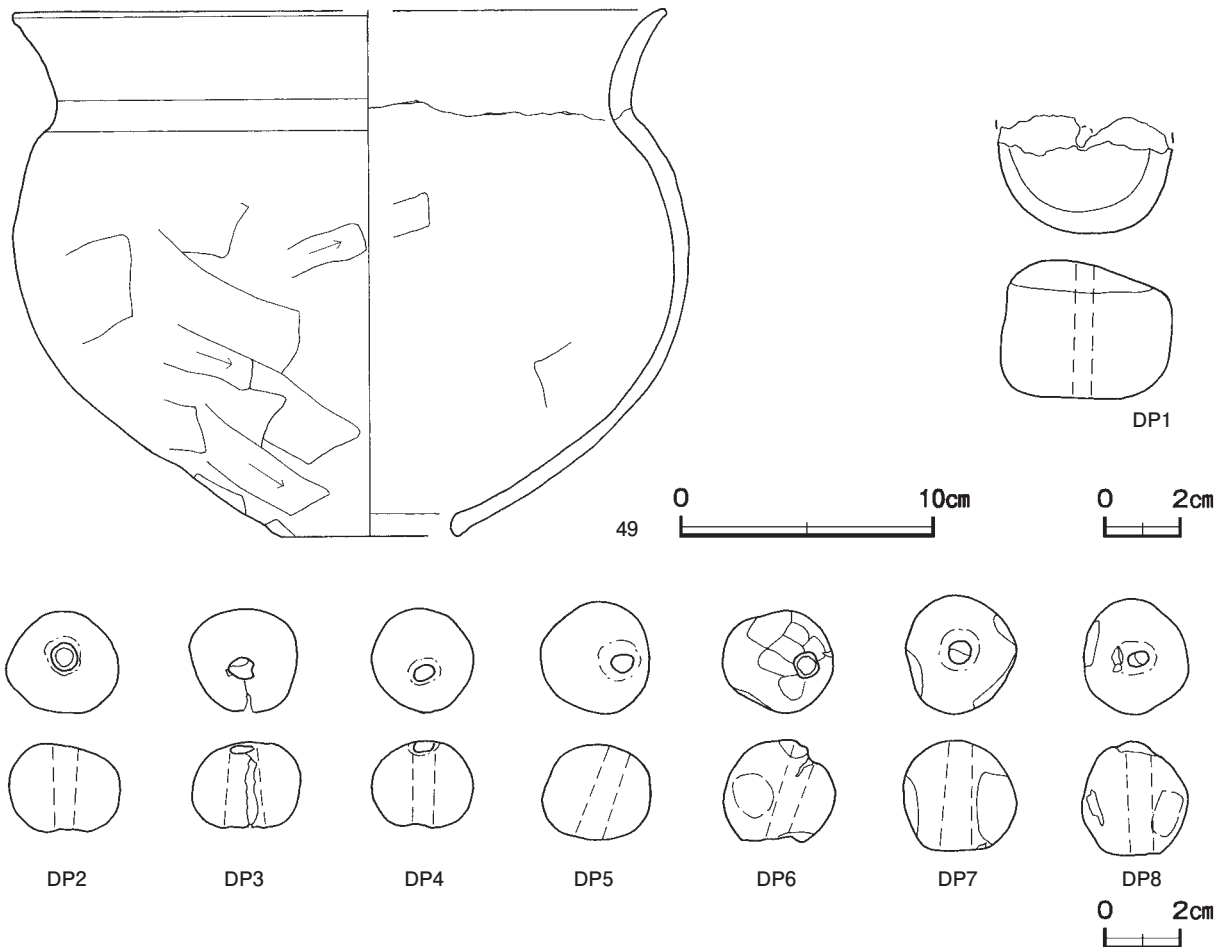
47



48



第 131 図 第 16 号住居跡出土遺物実測図 (2)



第 132 図 第 16 号住居跡出土遺物実測図 (3)

第 16 号住居跡出土遺物観察表 (第 130 ~ 132 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
43	土師器	坏	13.6	4.9	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	普通	口縁部外面横ナデ 体部外面横位のヘラ削り 内面ヘラ磨き	覆土下層	95% PL31
44	土師器	坏	11.6	(5.9)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ナデ	覆土上層	95% PL31
45	土師器	甕	19.6	(26.4)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 内面横位のナデ 体部外面斜位のヘラ磨き	竈覆土下層	60% PL34
46	土師器	甕	17.5	31.8	8.2	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 頸部外面縦位のヘラ磨き 体部外面斜位のヘラ磨き	竈覆土下層	80% PL34
47	土師器	甌	15.3	18.0	5.4	長石・石英	にぶい橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のヘラ削り 後ヘラ磨き 内面斜位のヘラナデ	覆土中	70% PL34
48	土師器	甌	23.5	21.6	7.6	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面	95% PL34
49	土師器	甌	[25.8]	20.9	6.9	長石・石英・雲母	浅黄橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	竈覆土下層	40%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 1	土玉	(4.7)	3.7	(0.5)	(43.2)	長石	ナデ 二方向からの穿孔	竈覆土下層	
DP 2	土玉	3.0	2.4	0.7	15.8	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL40
DP 3	土玉	2.9	2.3	1.1	14.7	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中	PL40
DP 4	土玉	2.8	2.3	0.6	14.9	長石	ナデ 二方向からの穿孔	竈覆土下層	PL40
DP 5	土玉	3.0	2.6	0.6	17.5	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL40
DP 6	土玉	3.0	2.7	0.5	15.1	長石	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土下層	PL40
DP 7	土玉	3.1	3.0	0.9	21.0	長石	ナデ後ヘラ削り 一方向からの穿孔	覆土下層	PL40
DP 8	土玉	3.1	3.0	0.6	19.8	長石	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土下層	PL40

第 35 号住居跡 (第 133 ~ 135 図)

位置 調査区南東部の F 6h9 区, 標高 16 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺 6.50 m ほどの方形で, 主軸方向は N - 4° - W である。壁高は 48 ~ 62cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 102cm で, 燃焼部幅は 52cm である。袖部は, 地山の上に粘土粒子や砂粒を含んだ第 17・18 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 18cm 掘りくぼめた部分に, ロームや焼土のブロックを含んだ第 14 ~ 16 層が埋土されており, 火床面は赤変, 硬化ともに認められない。煙道部は壁外に 20cm 掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

1	にぶい橙色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量	11	暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
2	にぶい赤褐色	焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量	12	灰赤色	焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
3	灰褐色	粘土粒子・砂粒中量, ローム粒子・焼土粒子微量	13	極赤褐色	粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
4	灰褐色	砂粒中量, 粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量	14	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
5	灰赤色	焼土ブロック・砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	15	灰褐色	焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, ローム粒子・砂粒微量
6	灰褐色	焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量	16	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
7	極赤褐色	ローム粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	17	極赤褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
8	赤褐色	焼土ブロック少量, ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量	18	灰褐色	粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
9	灰褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量			
10	赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量			

ピット 6 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 56 ~ 68cm で, 配置から支柱穴である。底面には, 柱のあたりが認められる。P 5・P 6 は, 深さ 34cm・14cm で, 配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北東コーナー部に位置し, 長軸 140cm, 短軸 81cm の不整長方形で, 深さは 55cm である。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。貯蔵穴を囲むようにしてローム土を積み上げた, 幅 11 ~ 48cm で, 高さ 6cm の土手状の高まりを確認した。

貯蔵穴土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	3	褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量			

覆土 15 層に分層できる。第 1・2 層は, 周囲から流入している堆積状況から, 自然堆積である。第 3 ~ 14 層は, 多くの層にロームブロックや焼土粒子が含まれていることから, 埋め戻されている。

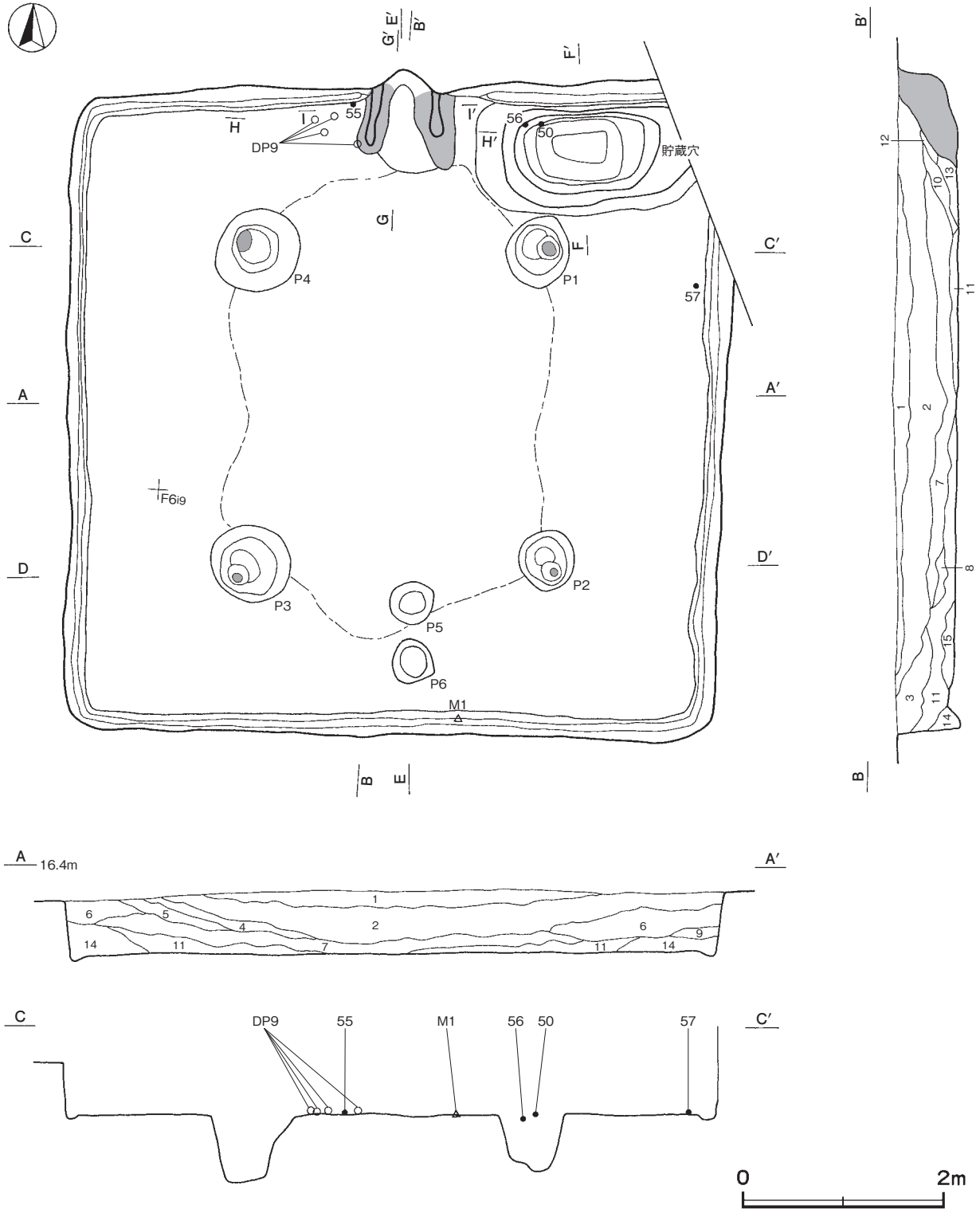
土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	10	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
2	極暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	11	褐色	ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子微量	12	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
4	暗褐色	ロームブロック少量	13	灰褐色	粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
5	褐色	ロームブロック少量	14	褐色	ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	15	暗褐色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量
7	黒色	ローム粒子・焼土粒子微量			
8	極暗褐色	ローム粒子少量			
9	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量			

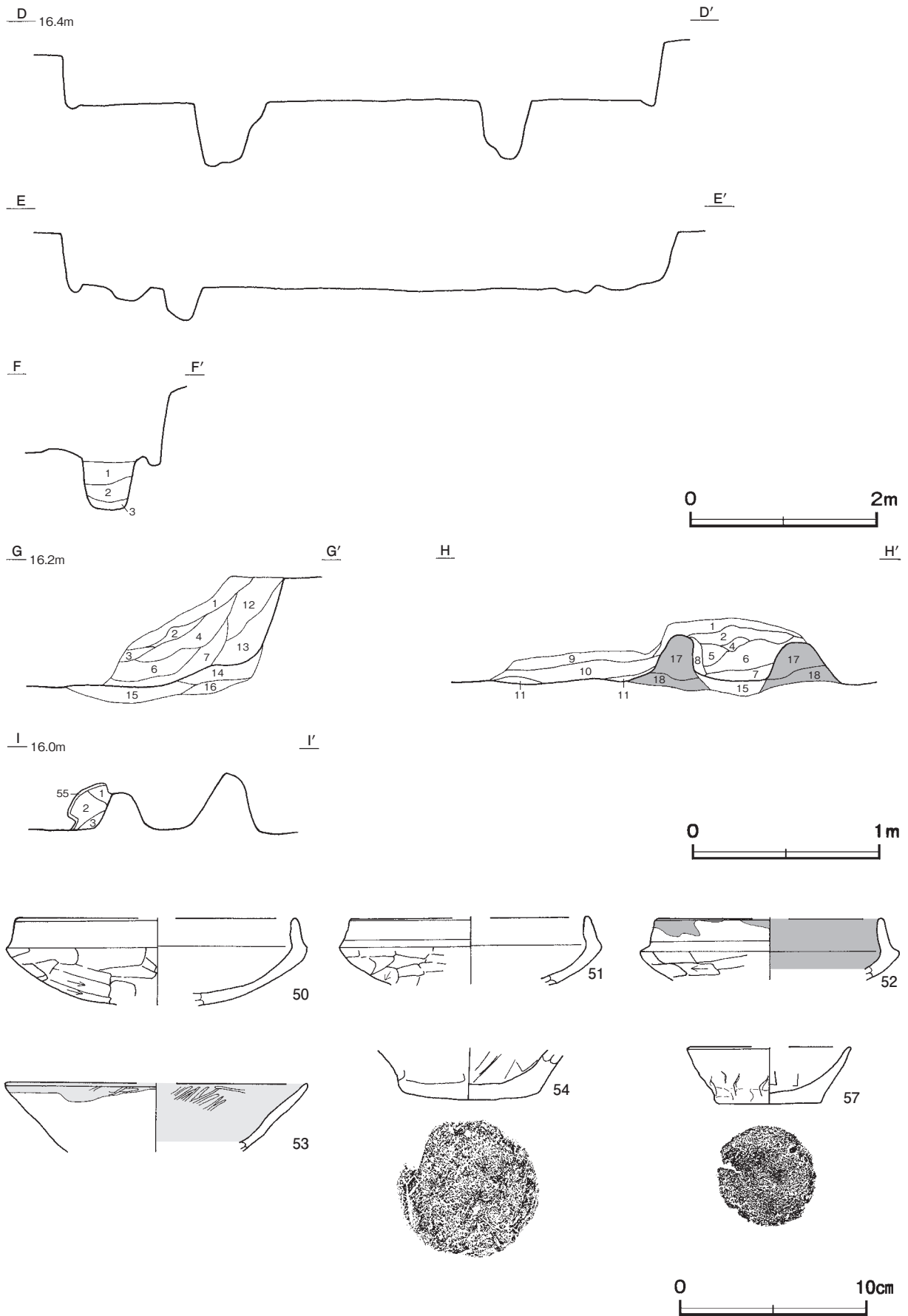
遺物出土状況 土師器片 66 点 (坏 5, 高坏 1, 甕類 57, 手捏土器 3), 土製品 1 点 (支脚), 鉄製品 1 点 (鎌) が出土している。そのほか, 混入した縄文土器片 27 点, 剥片 2 点も出土している。57 は北東部, 55 は竈の左側の床面から, 50・56 は北東コーナー部, M 1 は南壁際の覆土下層からそれぞれ出土しており, いずれも

廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。DP 9は竈の左側の覆土下層からそれぞれ出土した破片が接合したもので、廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

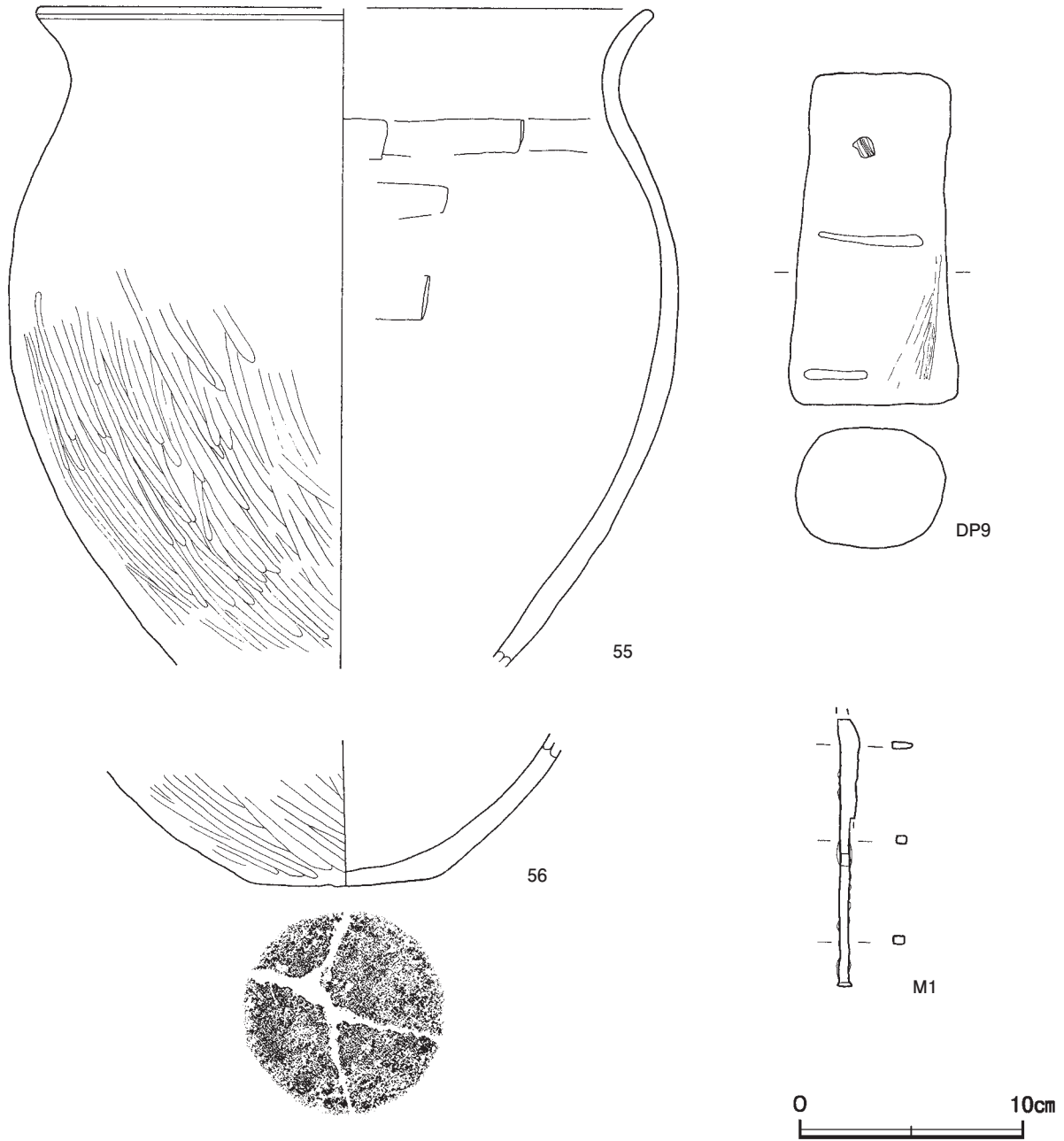
所見 時期は、出土土器から6世紀中葉と考えられる。



第133図 第35号住居跡実測図



第 134 图 第 35 号住居跡・出土遺物実測図



第 135 図 第 35 号住居跡出土遺物実測図

第 35 号住居跡出土遺物観察表 (第 134・135 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徵ほか	出土位置	備考
50	土師器	坏	[14.9]	(4.7)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土下層	15%
51	土師器	坏	[12.6]	(3.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土中	15%
52	土師器	坏	[12.0]	(3.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面へら削り 内面ナデ	覆土中	5%
53	土師器	高坏	[16.2]	(3.7)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	坏部外・内面へら磨き	覆土中	5%
54	土師器	甕	-	(2.7)	7.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外面へら削り 内面へらナデ	覆土中	15%
55	土師器	甕	[27.4]	(29.6)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜位のへら磨き 内面横位のへらナデ	床面	30%
56	土師器	甕	-	(6.6)	8.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面斜位のへら磨き 内面へらナデ	覆土下層	30%
57	土師器	手捏土器	[8.8]	3.1	5.5	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面へらナデ	床面	60% PL32

番号	器種	高さ	最少径	最大径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 9	支脚	14.9	6.5	7.6	770.0	長石・石英	外面ヘラナデ	覆土下層	PL41

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	鎌	(12.1)	1.0	0.5	(5.5)	鉄	片刃箭 刃部先端欠損 刃部断面三角形 茎部断面長方形	覆土下層	PL46

表 12 古墳時代竪穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)				支柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
16	I 7 d6	長方形	N-14°-W	5.70×5.10	32~44	平坦 貼床	全周	4	1	-	竈1	1	人為	土師器片, 土玉	6世紀前葉	HG 3→本跡
35	F 6 h9	方形	N-4°-W	6.50×6.50	48~62	平坦	全周	4	2	-	竈1	1	自然 人為	土師器片, 支脚, 鎌	6世紀中葉	

(2) 鍛冶工房跡

第 1 号鍛冶工房跡 (第 136 ~ 141 区)

位置 調査区北西部の D 3 b4 区, 標高 14 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 5.88 m, 短軸 5.70 m の方形で, 主軸方向は N-31°-W である。壁高は 14 ~ 26cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。東部と南部, 西部には, 幅 14 ~ 22 cm, 長さ 74 ~ 104cm, 深さ 8 ~ 16cm で, 断面形が逆台形状の間仕切り溝 5 条を確認した。南東コーナー部には幅 20 ~ 22cm, 長さ 64cm の性格不明の溝 1 条を確認した。

炉 3 か所。炉 1・炉 3 は中央部, 炉 2 は北西寄りにそれぞれ付設されている。炉 1 は径 73cm ほどの円形, 炉 2 は長径 67cm, 短径 55cm の楕円形を呈する地床炉である。炉 3 は南東部が攪乱を受けているため, 短径 30 cm で, 長径 28cm しか確認できなかった。炉床は, 炉 1 が深さ 4 cm, 炉 2 が深さ 9 cm で, それぞれ火を受けて赤変硬化している。炉 3 の炉床は深さ 7 cm で, 赤変硬化は認められなかった。

炉 1 土層解説

1 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

炉 2 土層解説

1 にぶい赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子微量

2 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

炉 3 土層解説

1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化物・焼土粒子微量

ピット 7 か所。P 1 ~ P 4 は深さ 35 ~ 62cm で, 配置から支柱穴である。P 5 は深さ 31cm で, 配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7 は掘方調査によって確認したもので, 性格不明である。

貯蔵穴 南西コーナー部に位置し, 長径 63cm, 短径 55cm の楕円形で, 深さは 58cm である。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量

2 暗 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化物微量

3 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化物微量

4 暗 赤 褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量

5 暗 赤 褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化物微量

覆土 5 層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

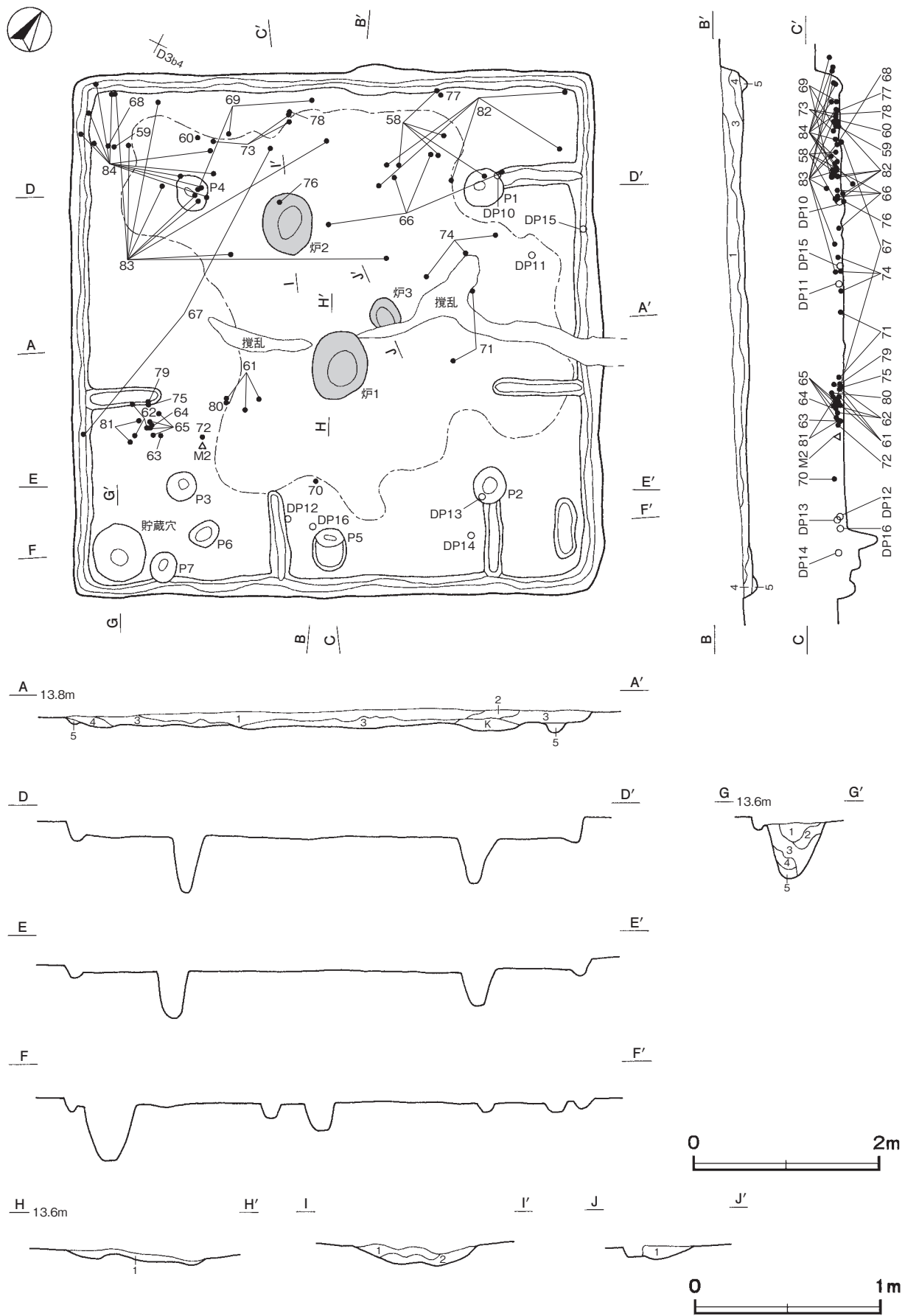
1 黒 褐 色 焼土ブロック・炭化粒子少量, ロームブロック微量

2 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子微量

3 暗 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化材微量

4 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量

5 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量



第 136 図 第 1 号鍛冶工房跡実測図 (1)



D364

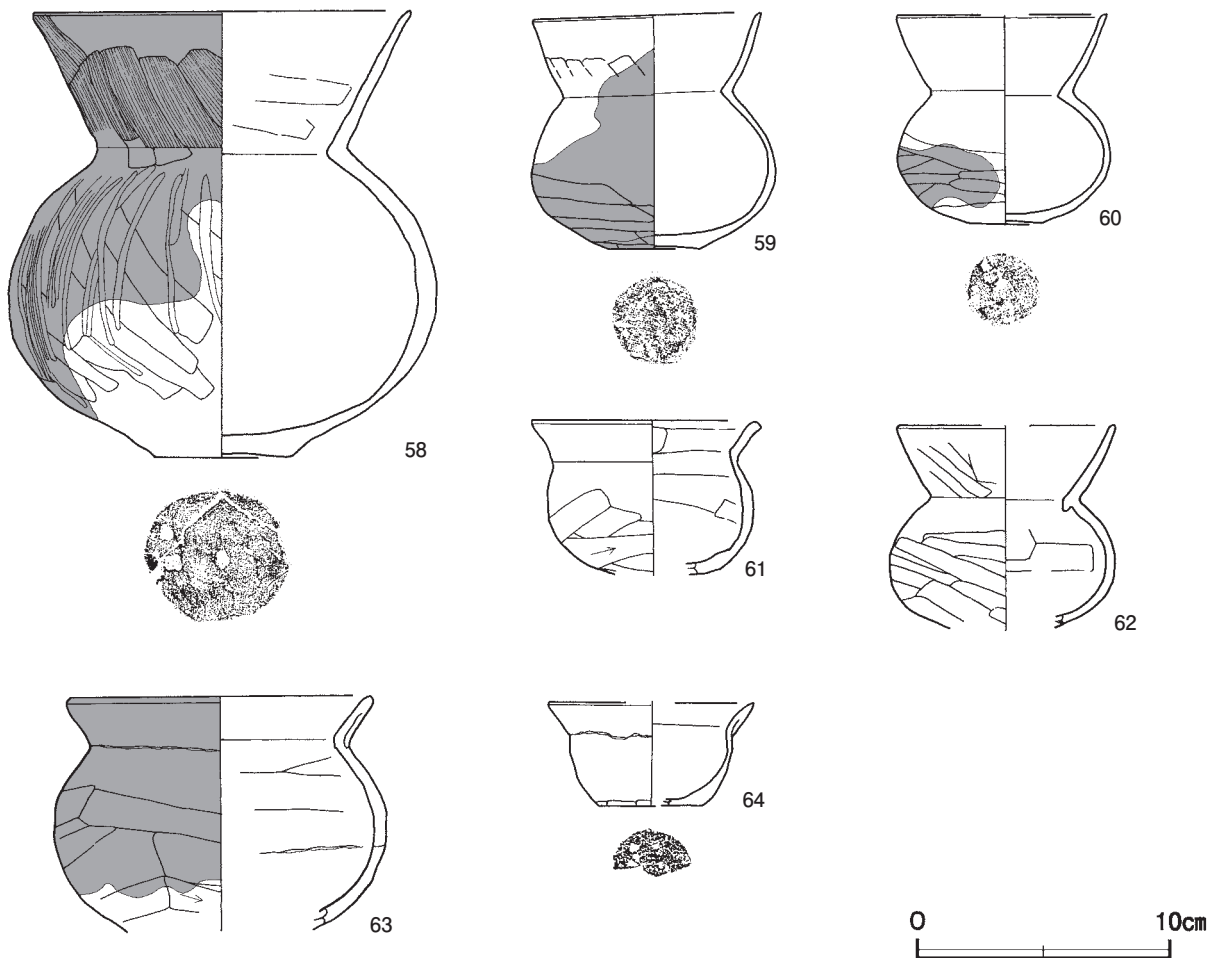
鍛造剥片	74.8g	鍛造剥片	108.0g
鉄滓	7.7g	鉄滓	96.3g
鍛造剥片	23.4g	鍛造剥片	139.9g
鉄滓	17.1g	粒状滓	0.8g



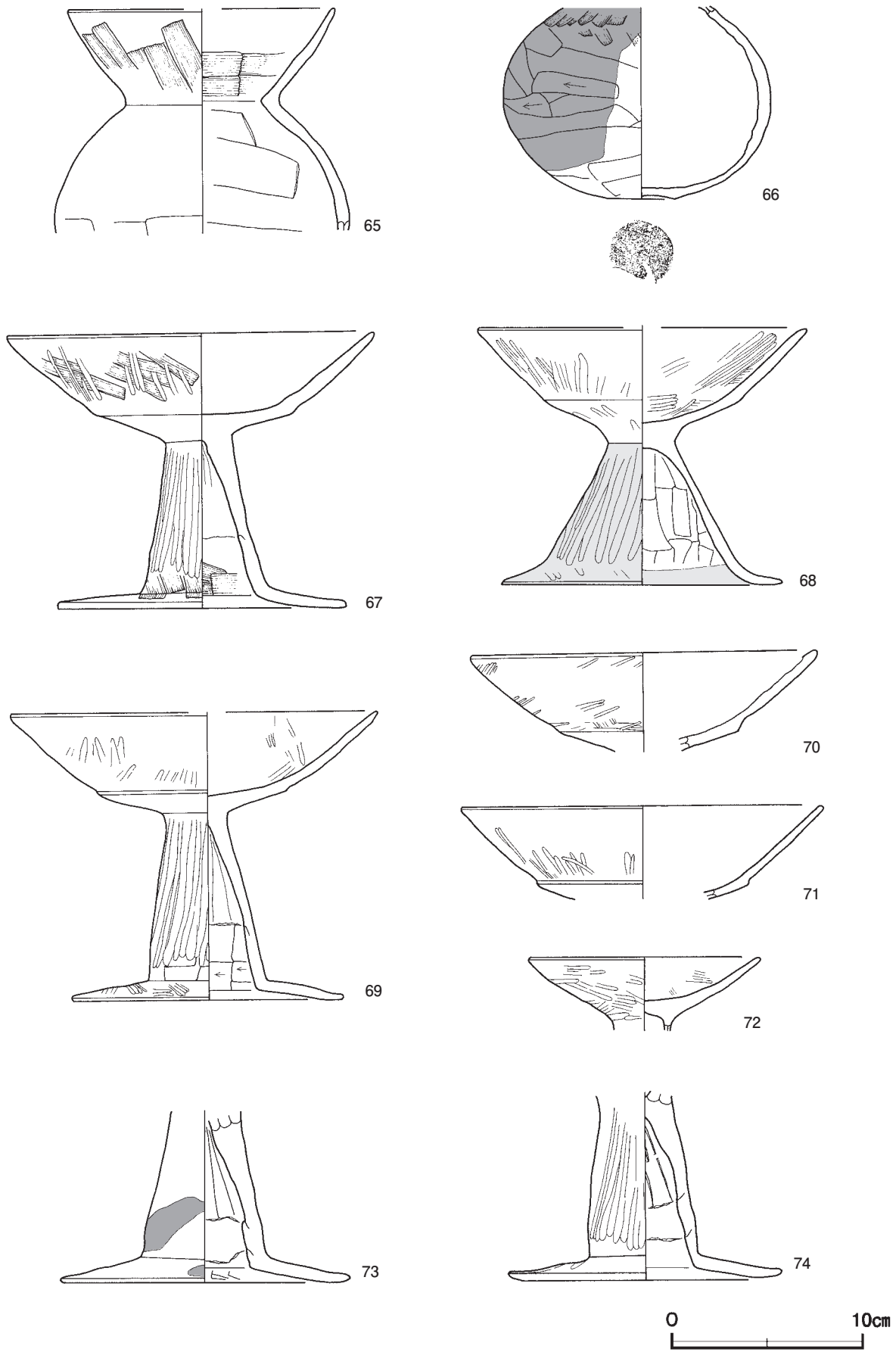
第 137 図 第 1 号鍛冶工房跡実測図 (2)

遺物出土状況 土師器片 181 点 (埴 57, 高坏 29, 鉢 1, 甕類 94), 土製品 7 点 (土玉), 粘土塊 1 点が全体の覆土下層から出土している。また, 羽口に転用された高坏 1 点, 椀形鍛冶滓 1 点, 粒状滓 1.9 g, 鍛造剥片 541.8 g の鍛冶関連遺物が全体の覆土上層から下層にかけて出土している。ほかに, 混入した縄文土器片 33 点も出土している。そのほか, 全体の覆土下層から床面にかけて炭化材と焼土塊が出土している。58・66・71・74・82 は北東部, 61・62・65・81 は南西部, 69・73・83・84 は北西部の覆土下層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。77 は北部, 70 は南部, 63・64・72・75・79・80 は南西部, 59・60・68・76・78 は北西部の覆土下層からそれぞれ出土している。67 は北西部の覆土下層と南西壁際の覆土下層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。DP10・DP11 は北東部, DP15 は北東壁際, DP13・DP14 は南東部, DP12・DP16 は南部, M 2 は南西部の覆土下層からそれぞれ出土している。また, 北東部から鍛造剥片 108 g, 南東部から鍛造剥片 139.9 g および粒状滓 0.8 g, 南西部から鍛造剥片 23.4 g, 北西部から鍛造剥片 74.8 g がそれぞれ覆土の上層から下層にかけて出土し, 炉 1 の覆土中から鍛造剥片 69.6 g および粒状滓 0.7 g, 炉 2 の覆土中から鍛造剥片 46.1 g, 炉 3 の覆土中から鍛造剥片 80.0 g および粒状滓 0.4 g がそれぞれ出土している。

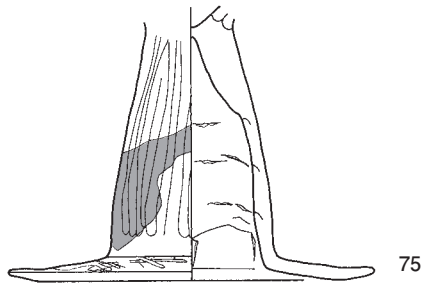
所見 覆土や炉から羽口に転用された高坏や椀形鍛冶滓, 鍛造剥片などの鍛冶関連遺物が出土していることから, 精錬・鍛錬段階の鍛冶工房跡と考えられる。時期は, 出土土器から 5 世紀中葉と考えられる。また, 床面から焼土や炭化材が確認され, 覆土中に焼土ブロックや炭化物が含まれていることから焼失住居の可能性はある。



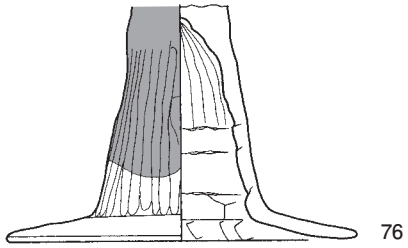
第 138 図 第 1 号鍛冶工房跡出土遺物実測図 (1)



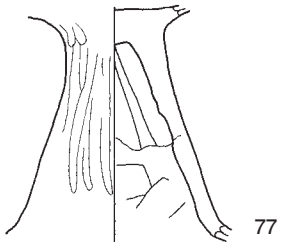
第 139 图 第 1 号鍛冶工房跡出土遺物実測图 (2)



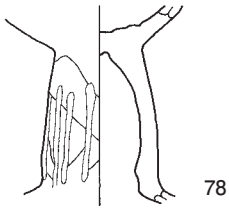
75



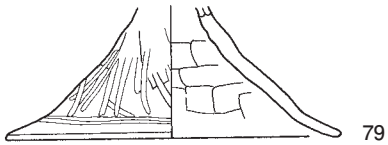
76



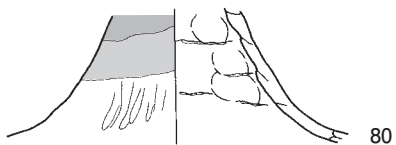
77



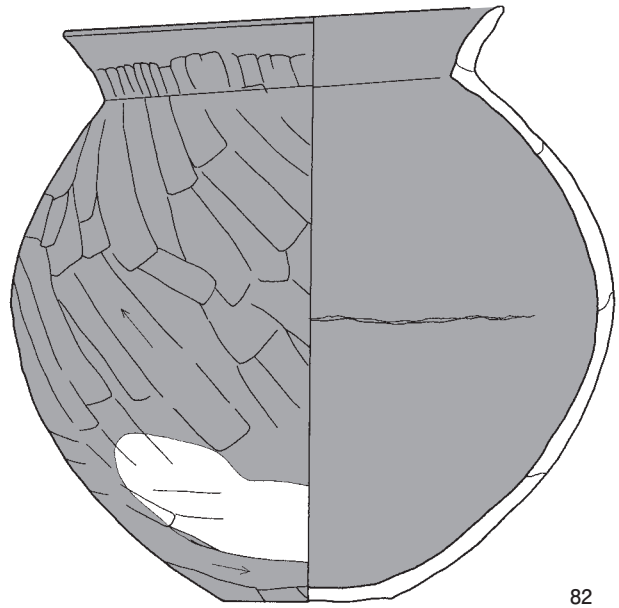
78



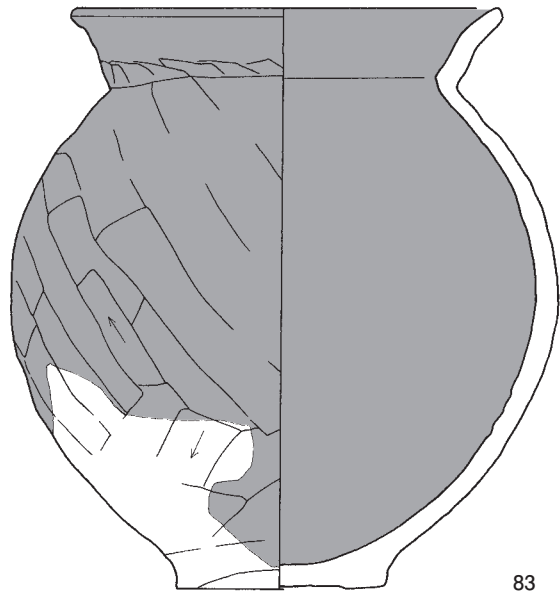
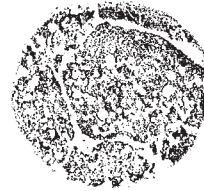
79



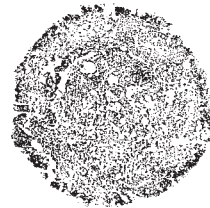
80



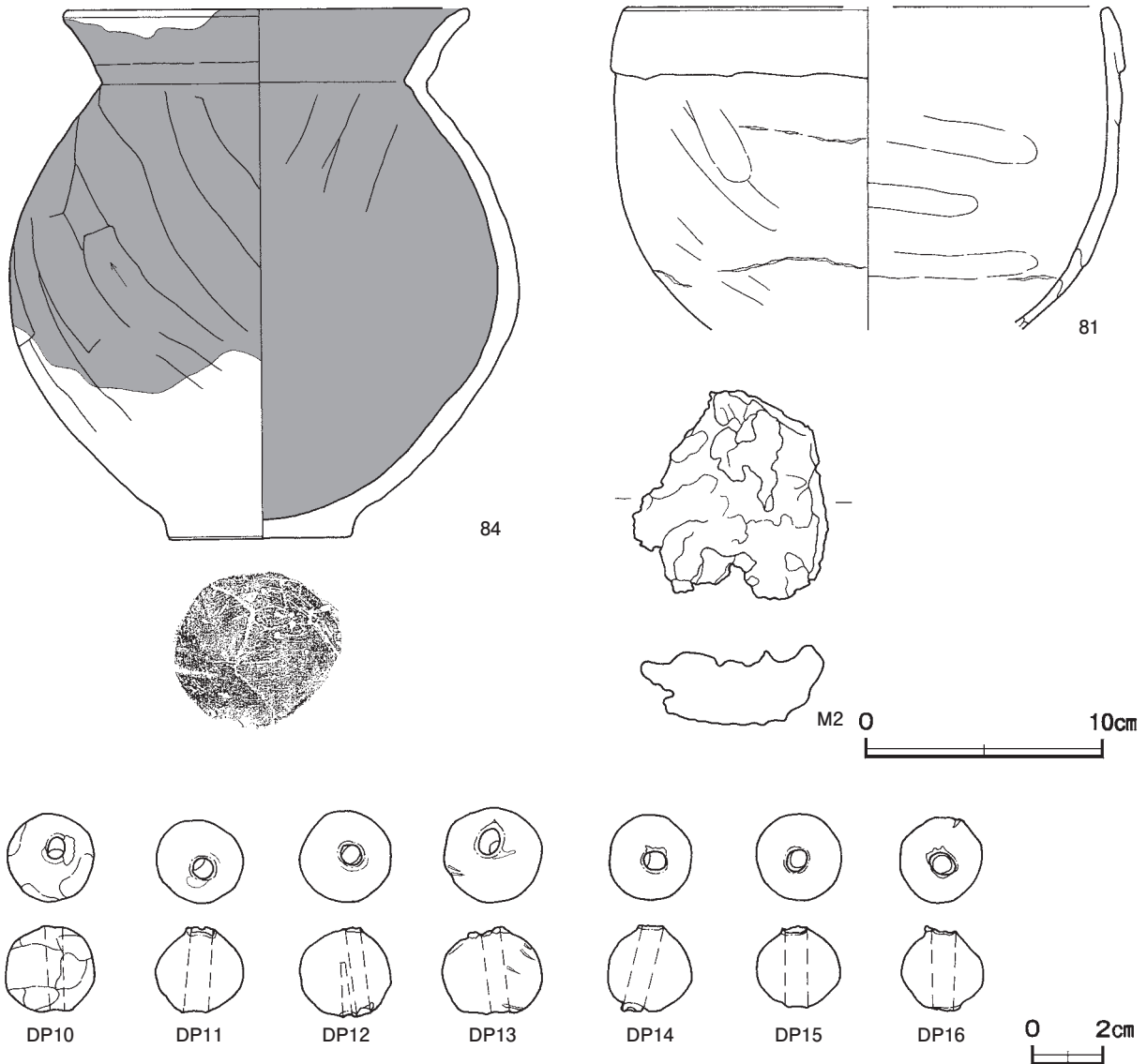
82



83



第 140 図 第 1 号鍛冶工房跡出土遺物実測図 (3)



第 141 図 第 1 号鍛冶工房跡出土遺物実測図 (4)

第 1 号鍛冶工房跡出土遺物観察表 (第 138 ~ 141 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
58	土師器	埴	15.0	17.8	5.4	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	口縁部外面斜位のハケ目 内面横位のヘラナデ 体部外面斜位のヘラナデ 後縦位のヘラ磨き	覆土下層	90% PL32
59	土師器	埴	9.0	9.4	3.5	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部外面斜位のヘラナデ 体部外面横位のヘラナデ	覆土下層	100% PL32
60	土師器	埴	[8.3]	8.3	2.8	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラナデ	覆土下層	95% PL33
61	土師器	埴	8.8	6.2	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	口縁部内面ヘラナデ 体部外面ヘラ削り	覆土下層	80% PL33
62	土師器	埴	[8.6]	(8.1)	-	長石・石英・雲母	明褐	普通	口縁部外面斜位のヘラナデ 体部外面斜位のヘラナデ 内面横位のヘラナデ	覆土下層	60%
63	土師器	埴	11.8	(9.2)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	体部外面斜位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	覆土下層	40%
64	土師器	埴	[8.0]	4.2	[4.0]	長石・石英	橙	普通	体部外面下端横位のヘラナデ	覆土下層	25%
65	土師器	埴	[14.0]	(11.7)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	口縁部外面斜位のハケ目 体部外・内面横位のヘラナデ	覆土下層	30%
66	土師器	埴	-	(10.1)	3.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部外面上端斜位のハケ目 体部外面ヘラ削り	覆土下層	40%
67	土師器	高坏	19.1	14.5	15.1	長石・石英・雲母	橙	普通	坏部外面斜位のハケ目 後斜位のヘラ磨き 脚部外面ハケ目 後縦位のヘラ磨き 裾部ハケ目	覆土下層	95% PL33
68	土師器	高坏	[17.2]	13.6	14.8	長石・石英・雲母	橙	普通	坏部外・内面ヘラ磨き 脚部外面縦位のヘラ磨き 内面縦位のヘラナデ 裾部外面ヘラ磨き	覆土下層	70% PL33
69	土師器	高坏	[19.0]	15.2	14.3	長石・赤色粒子	橙	普通	坏部外・内面ヘラ磨き 脚部外面ヘラ削り 後縦位のヘラ磨き 裾部外面ヘラ磨き	覆土下層	60% PL32

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
70	土師器	高坏	17.8	(5.3)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	坏部外面ヘラ磨き	覆土下層	40%
71	土師器	高坏	18.7	(4.9)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	坏部外面ヘラ磨き	覆土下層	30%
72	土師器	高坏	11.9	(3.8)	-	長石・石英	にぶい橙	普通	坏部外・内面ヘラ磨き	覆土下層	30%
73	土師器	高坏	-	(9.0)	15.2	長石・石英	にぶい橙	普通	脚部内面ヘラナデ 裾部内面横位のヘラナデ	覆土下層	40%
74	土師器	高坏	-	(9.9)	14.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ 裾部外面ヘラ磨き	覆土下層	40%
75	土師器	高坏	-	(10.8)	[14.6]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き 裾部外面ヘラ磨き	覆土下層	30%
76	土師器	高坏	-	(9.3)	[13.7]	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ 裾部内面ヘラナデ	覆土下層	40%
77	土師器	高坏	-	(9.4)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部外面縦位のヘラ磨き 内面ヘラナデ	覆土下層	20%
78	土師器	高坏	-	(8.0)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	脚部外面ヘラ削り後縦位のヘラ磨き	覆土下層	20%
79	土師器	高坏	-	(5.3)	13.3	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	脚部外面ヘラ削り後ヘラ磨き 内面横位のヘラナデ	覆土下層	40%
80	土師器	高坏	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	脚部外面ヘラ磨き 内面指頭圧痕 滓付着	覆土下層	15% 羽口に転用
81	土師器	鉢	[20.3]	(13.7)	-	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ヘラナデ	覆土下層	40%
82	土師器	甕	17.2	23.7	6.6	長石・石英・赤色粒子	にぶい褐	普通	口縁部外面縦位のヘラナデ 体部外面斜位のヘラ削り	覆土下層	90% PL33
83	土師器	甕	16.5	23.2	8.1	長石・石英	にぶい黄橙	普通	口縁部外面斜位のヘラナデ 体部外面斜位のヘラ削り	覆土下層	90% PL33
84	土師器	甕	16.8	22.5	7.5	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部外面斜位のヘラ削り 内面ヘラナデ	覆土下層	90% PL33

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP10	土玉	2.5	2.4	0.6	13.5	長石	ナデ 指頭圧痕 一方向からの穿孔	覆土下層	PL40
DP11	土玉	2.5	2.4	0.7	12.0	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL40
DP12	土玉	2.6	2.5	0.7	15.0	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL40
DP13	土玉	2.8	2.4	0.8	17.0	長石	ナデ 工具痕 一方向からの穿孔	覆土下層	PL40
DP14	土玉	2.5	2.4	0.6	13.0	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL40
DP15	土玉	2.5	2.3	0.6	11.6	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL40
DP16	土玉	2.4	2.3	0.7	10.7	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土下層	PL40

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M2	碗形鍛冶滓	8.3	8.9	3.5	281.9	鉄	側部破面 上面は浅く窪み、わずかに発泡 下面は浅い碗形	覆土下層	PL46

3 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡9軒、竪穴遺構2基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第4A号住居跡(第142～146図)

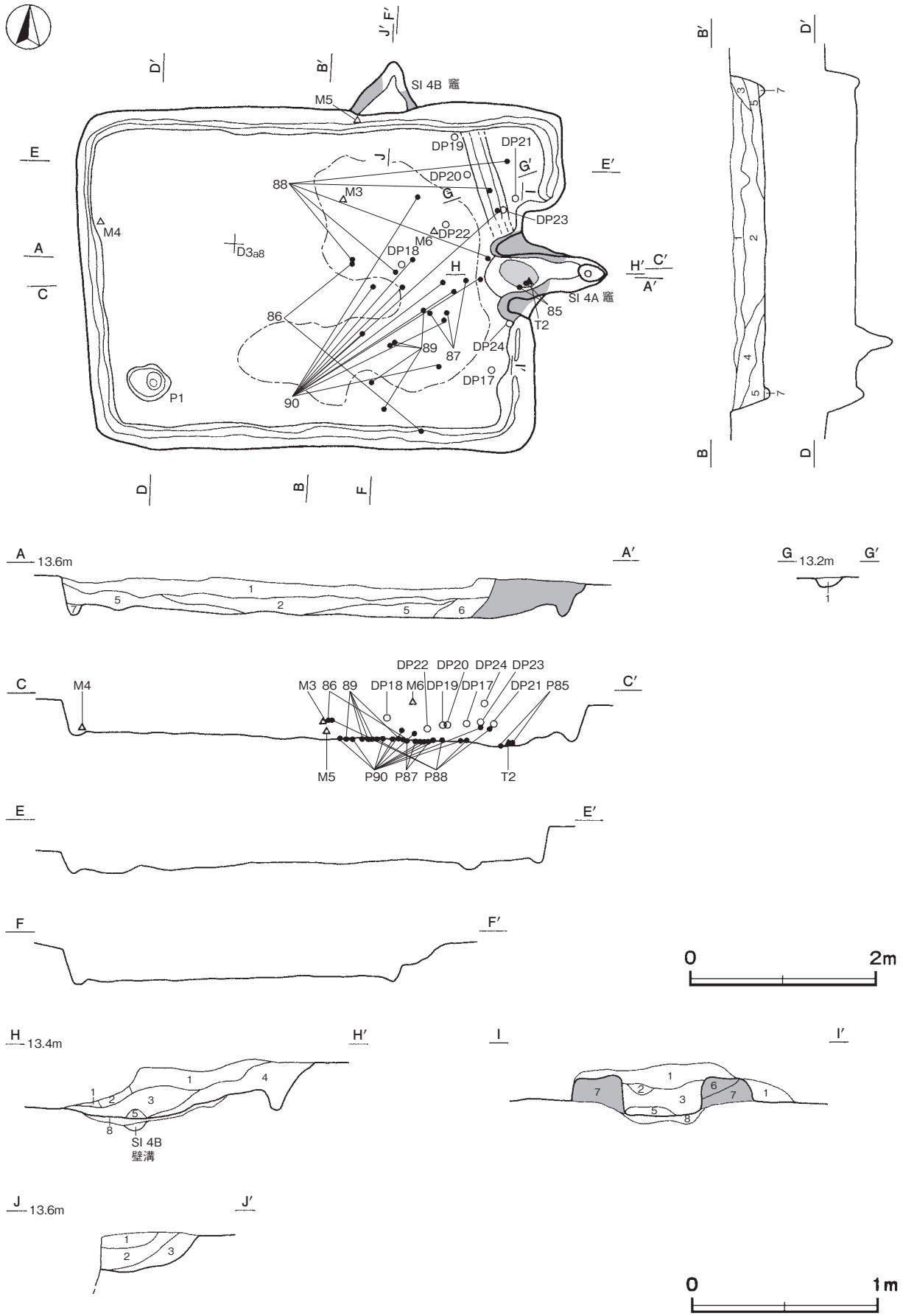
位置 調査区北西部のD3a8区、標高14mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4B号住居跡、第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

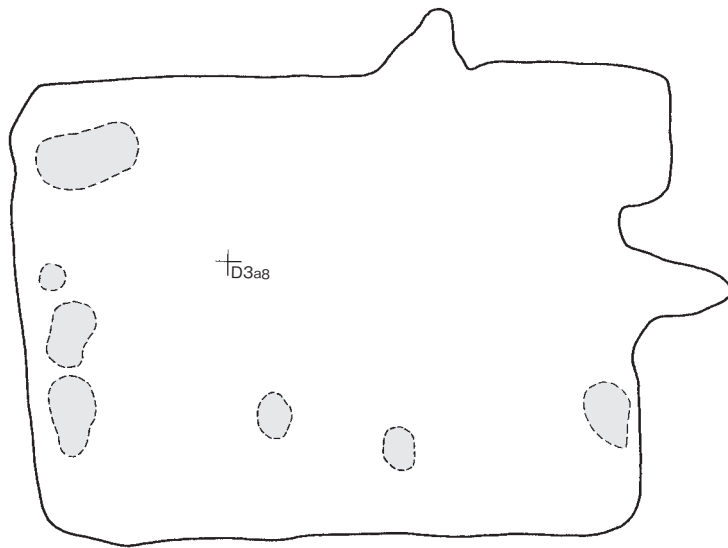
規模と形状 長軸5.19m、短軸3.80mの長方形で、主軸方向はN-89°-Eである。壁高は9～36cmで、外傾して立ち上がっている。北東コーナー部は、幅110cm、奥行き50cmで、隅丸形状に東側へ突出しており、深さは床面と同じ高さである。

床 やや凹凸があり、北東部から南部にかけての竈の焚口部周辺が踏み固められている。壁下には壁溝が巡っている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで127cmで、燃焼部幅は39cmである。袖部は、地山の上に粘土ブロックやローム粒子を含んだ第6・7層を積み上げて構築されている。火床部は床面を10



第 142 図 第 4 A・B 号住居跡実測図 (1)



第 143 図 第 4 A・B 号住居跡実測図 (2)

cm掘りくぼめた部分に、ローム粒子や焼土粒子を含んだ第 8 層が埋土されており、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 76cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。煙道部の奥部には深さ 11cmで、平面が楕円形の掘り込みを確認した。竈内と同じ覆土が堆積していることから、竈に付属するものと考えられる。第 2・3 層は袖部及び天井部の崩落土である。

竈土層解説

- | | | | |
|----------|----------------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 5 褐灰色 | 灰多量 |
| 2 暗黄褐色 | 粘土ブロック多量 | 6 褐色 | 粘土ブロック中量, 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 3 にぶい赤褐色 | 粘土粒子・灰中量, 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 4 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 | 8 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量 |

ピット 1 か所。P 1 は深さ 40cmで、性格不明である。

覆土 7 層に分層できる。第 1・2 層は、周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。第 3～7 層は、ロームブロックや焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

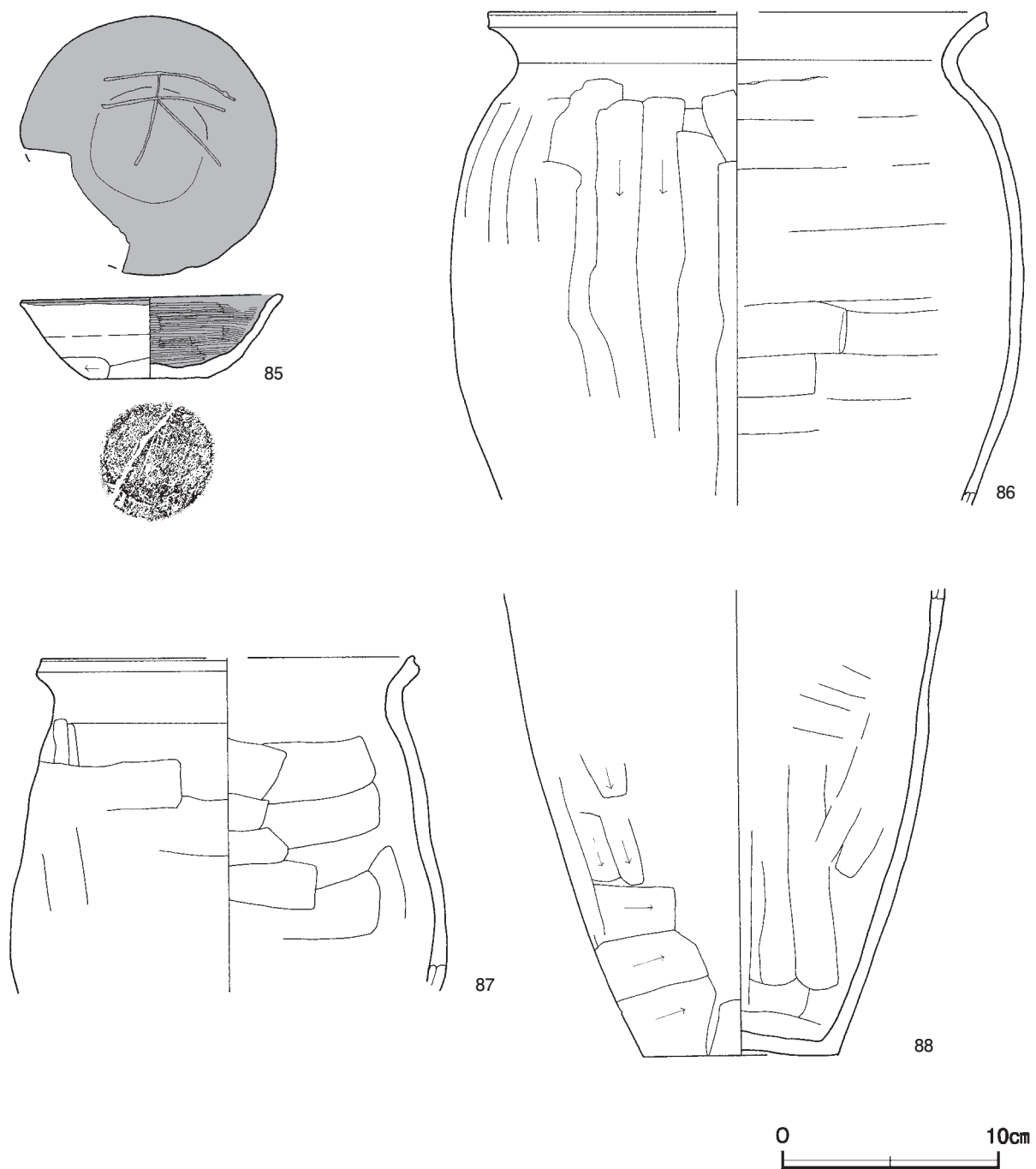
土層解説

- | | | | |
|--------|-------------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック・粘土粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | 焼土ブロック・粘土粒子少量, ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色 | ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

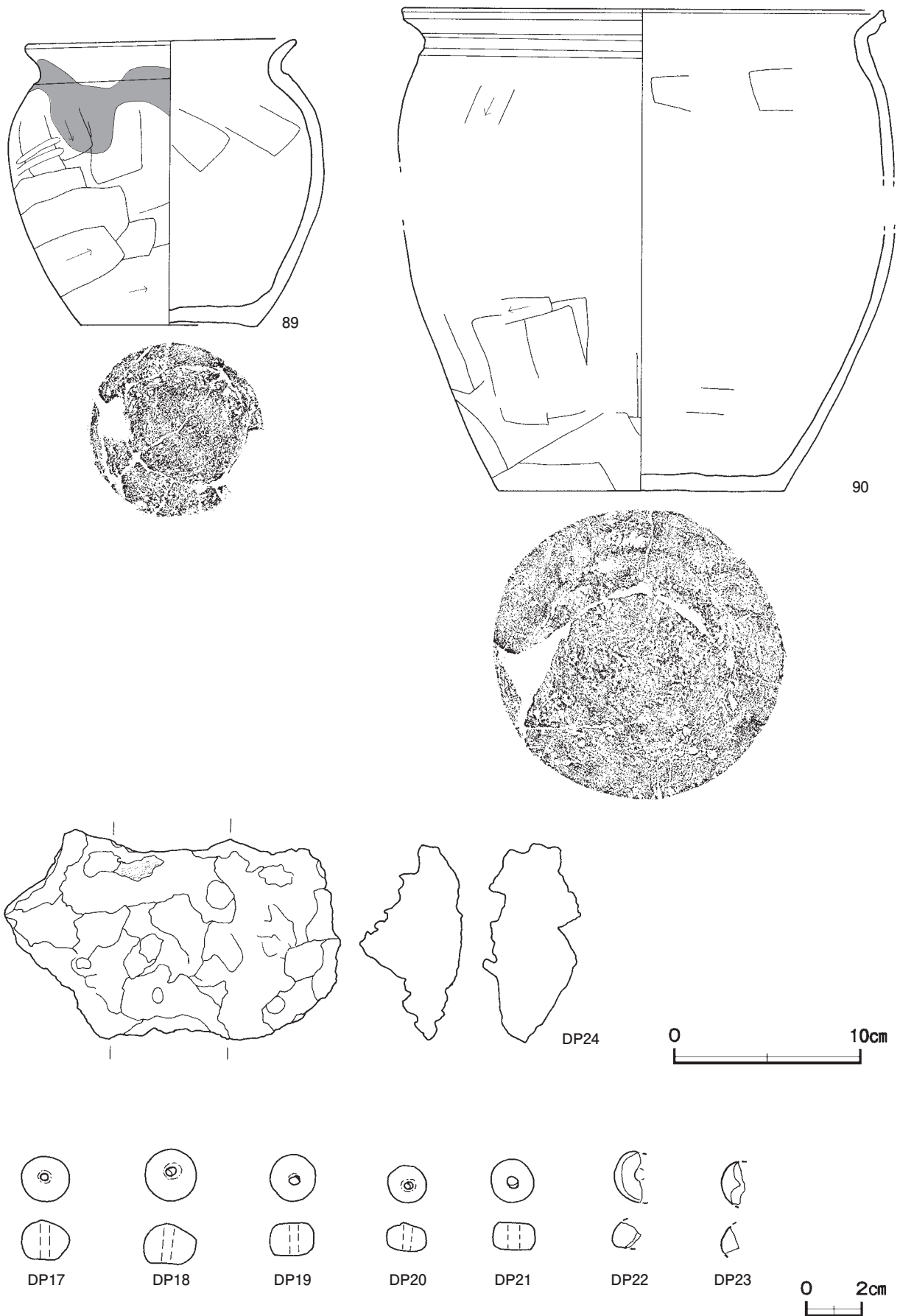
遺物出土状況 土師器片 81 点 (坏 2, 甕 76, 甗 3), 土製品 8 点 (土玉 7, 炉壁カ 1), 鉄製品 4 点 (鎌 2, 鎌 1, 不明鉄製品 1), 粘土塊 1 点, 混入した縄文土器片 43 点が出土している。また, 第 14 号住居跡出土の T 2 と接合する瓦片 1 点 (平瓦) が竈の覆土下層から出土している。そのほか, 鍛造剥片が床面から 18.0 g, 竈 1 から 7.7 g, 竈 2 から 42.2 g, P 1 から 19.4 g 出土しており, 埋没過程で流れ込んだものと考えられる。89 は南東部の床面から, 85 は竈の覆土下層から, 87 は東部の覆土下層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。86 は中央部の覆土下層と南東壁際の覆土下層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。90 は中央部から東部にかけての床面から覆土中層にかけて, 88 は東部の床面から覆土下層にかけてそれぞれ

出土した破片が接合したものである。DP19～P21・DP23は北東コーナー部，DP18・DP22は東部，DP17は東壁際，M3は北寄り，M5は北壁際，M4は西壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

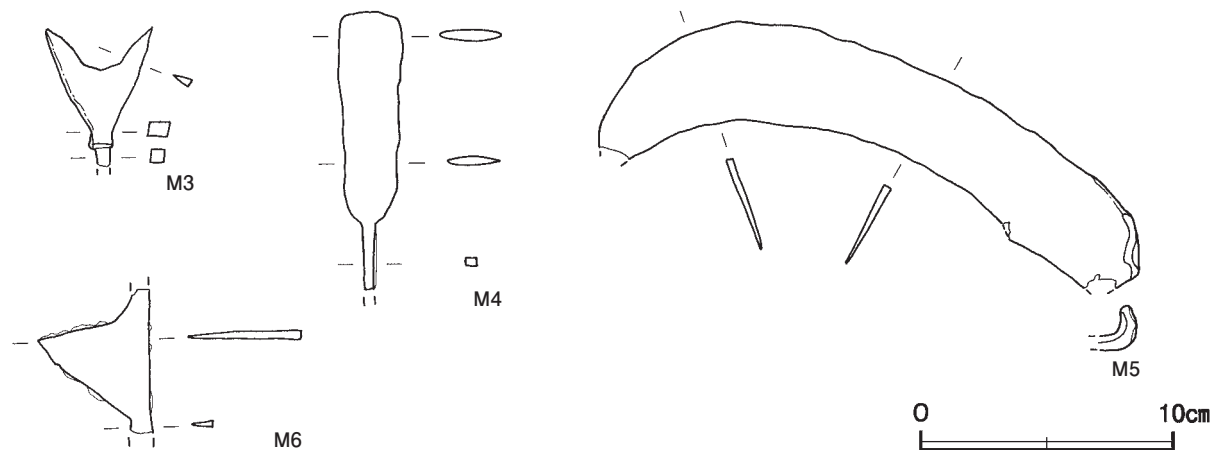
所見 本跡は，竈左側が突出していることから，竈右側は棚状遺構の可能性もある。また，鍛冶関連の遺構は確認されていないが，床面から鍛造剥片が出土し，鉄製品も多く出土していることから，鍛冶工場の可能性もある。時期は，出土土器から9世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。第14号住居跡の竈の構築材に使われていたT2と接合する瓦片が，竈の覆土下層から出土しているため，第14号住居跡とほぼ同時期か，ごく近い時期と考えられる。さらに，第1号竪穴遺構と隣接し，軸線が一致することから，対の可能性もある。



第144図 第4A号住居跡出土遺物実測図(1)



第 145 図 第 4 A 号住居跡出土遺物実測図 (2)



第 146 図 第 4 A 号住居跡出土遺物実測図 (3)

第 4 A 号住居跡出土遺物観察表 (第 144 ~ 146 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
85	土師器	坏	11.8	3.9	5.4	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端外面手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り 内面に刻書「天」 内面ヘラ磨き	竈覆土下層	80% PL30
86	土師器	甕	[23.0]	(22.7)	-	長石・石英	灰褐	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	覆土下層	20%
87	土師器	甕	[17.0]	(15.5)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ヘラナデ	覆土下層	20%
88	土師器	甕	-	(21.5)	8.9	長石・石英	橙	普通	体部下端横位のヘラ削り後縦位のヘラ削り 内面ヘラナデ	床面～覆土下層	40%
89	土師器	甕	14.2	15.5	9.6	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り後横位のヘラ削り 工具痕 内面ヘラナデ	床面	80% PL33
90	土師器	甕	26.0	(15.4)	15.6	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面ヘラナデ	床面～覆土中層	50%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP17	土玉	1.7	1.5	0.4	3.5	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL40
DP18	土玉	1.9	1.4	0.4	4.3	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL40
DP19	土玉	1.7	1.2	0.4	3.2	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL40
DP20	土玉	1.4	1.0	0.4	2.0	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL40
DP21	土玉	1.6	1.0	0.4	2.4	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL40
DP22	土玉	(1.9)	(1.0)	-	(1.2)	長石	ナデ	覆土中層	
DP23	土玉	(1.6)	(1.0)	-	(1.1)	長石	ナデ	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP24	炉壁カ	(11.3)	(18.2)	(5.6)	(918.2)	粘土	側面破面 内面は厚くガラス質に溶化 胎土にスサを含む	覆土上層	PL46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	鎌	(5.6)	4.2	(0.9)	(11.0)	鉄	雁股 茎部欠損 刃部断面三角形 茎部断面長方形	覆土中層	PL46
M4	鎌	(11.1)	2.6	0.4	(21.2)	鉄	方頭斧箭 茎部欠損 刃部断面両丸 茎部断面方形	覆土下層	PL46
M5	鎌	(21.3)	(10.5)	0.35	(86.3)	鉄	刃部断面三角形 柄部L字に屈曲	覆土中層	PL46
M6	不明鉄製品	(5.7)	4.5	0.4	(11.4)	鉄	断面三角形	覆土上層	PL46

第 4 B 号住居跡 (第 142・143 図)

位置 調査区北西部の D 3 a8 区, 標高 13 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込み, 第 4 A 号住居に掘り込まれている。

規模と形状 北壁東端部の竈と, 東壁溝しか確認できなかった。

壁溝土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

竈 北壁東端部に付設されている。焚口部と袖部, 火床部は認められない。燃焼部幅は55cmで, 煙道部までは54cmしか確認できなかった。煙道部は壁外に55cm掘り込まれ, 外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量

所見 時期は, 出土遺物は無いが, 重複関係から9世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。第1号竪穴遺構と隣接し, 軸線が一致することから, 対の可能性がある。

第6号住居跡 (第147・148図)

位置 調査区北西部のD3d4区, 標高13mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込み, 第9号土坑に掘りこまれている。

規模と形状 長軸5.78m, 短軸4.64mの長方形で, 主軸方向はN-10°-Wである。壁高は4～10cmで, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 南部が踏み固められている。南壁と東壁中央部を除いて, 壁下には壁溝が巡っている。

炉 中央部に付設されている。長径54cm, 短径51cmの不整円形を呈する地床炉である。炉床は, 深さ10cmの皿状に掘りくぼめ, 焼土ブロックとローム粒子を含んだ第3・4層を埋め戻して構築されている。炉床面は第3層上面で, 火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 におい赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量

竈 東壁南端部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで112cmで, 燃焼部幅は52cmである。袖部は, 地山の上にローム粒子や粘土粒子を含んだ第9・10層を積み上げて構築されている。火床部は床面から14cmくぼんでおり, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に60cm掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 赤褐色 焼土ブロック中量, ローム粒子微量
- 5 におい橙色 ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土ブロック・粘土ブロック・炭化粒子微量
- 8 赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 9 暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 10 におい赤褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量

ピット 7か所。P1・P2は深さ50cm, 58cmで, 対になる配置から支柱穴と考えられる。P3～P7は深さ11～38cmで, 性格不明である。

貯蔵穴 北西コーナー部に位置し, 長径80cm, 短径50cmの楕円形で, 深さは16cmである。底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がっている。

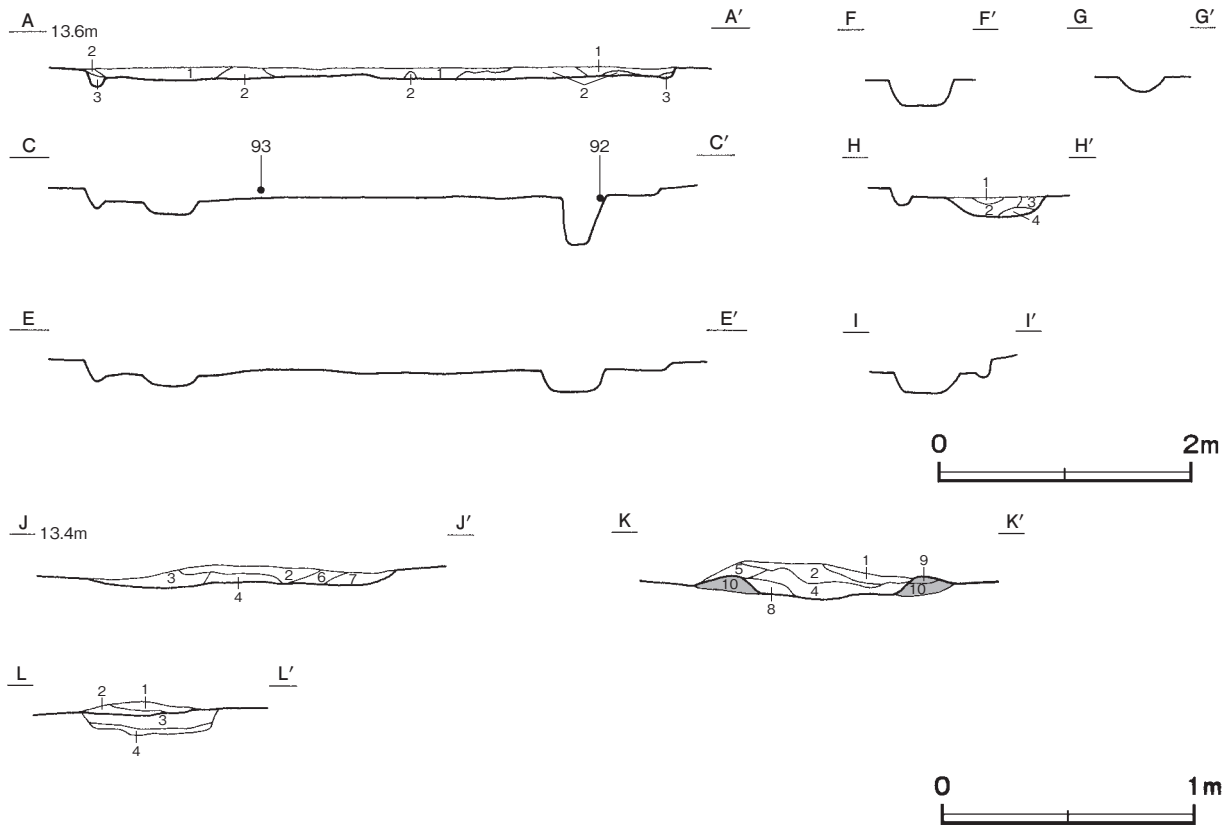
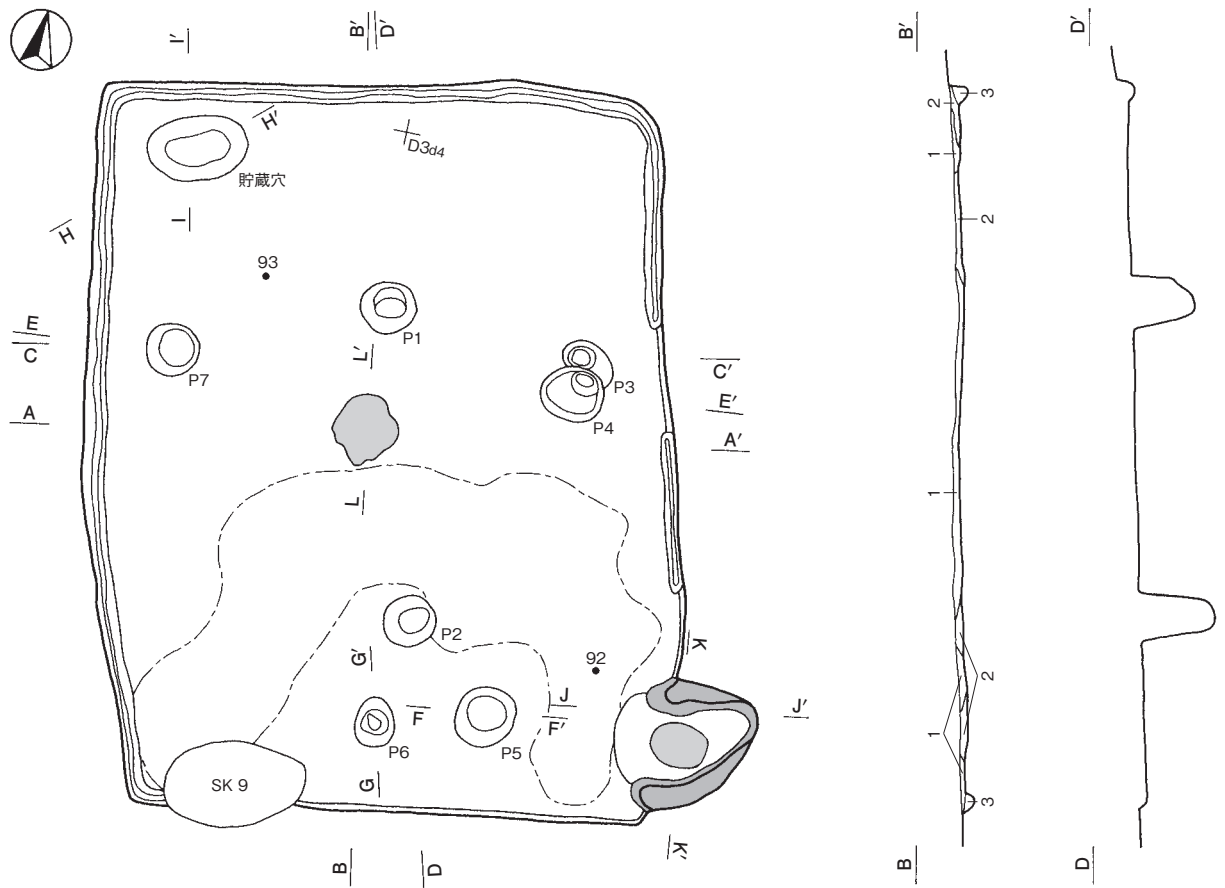
貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

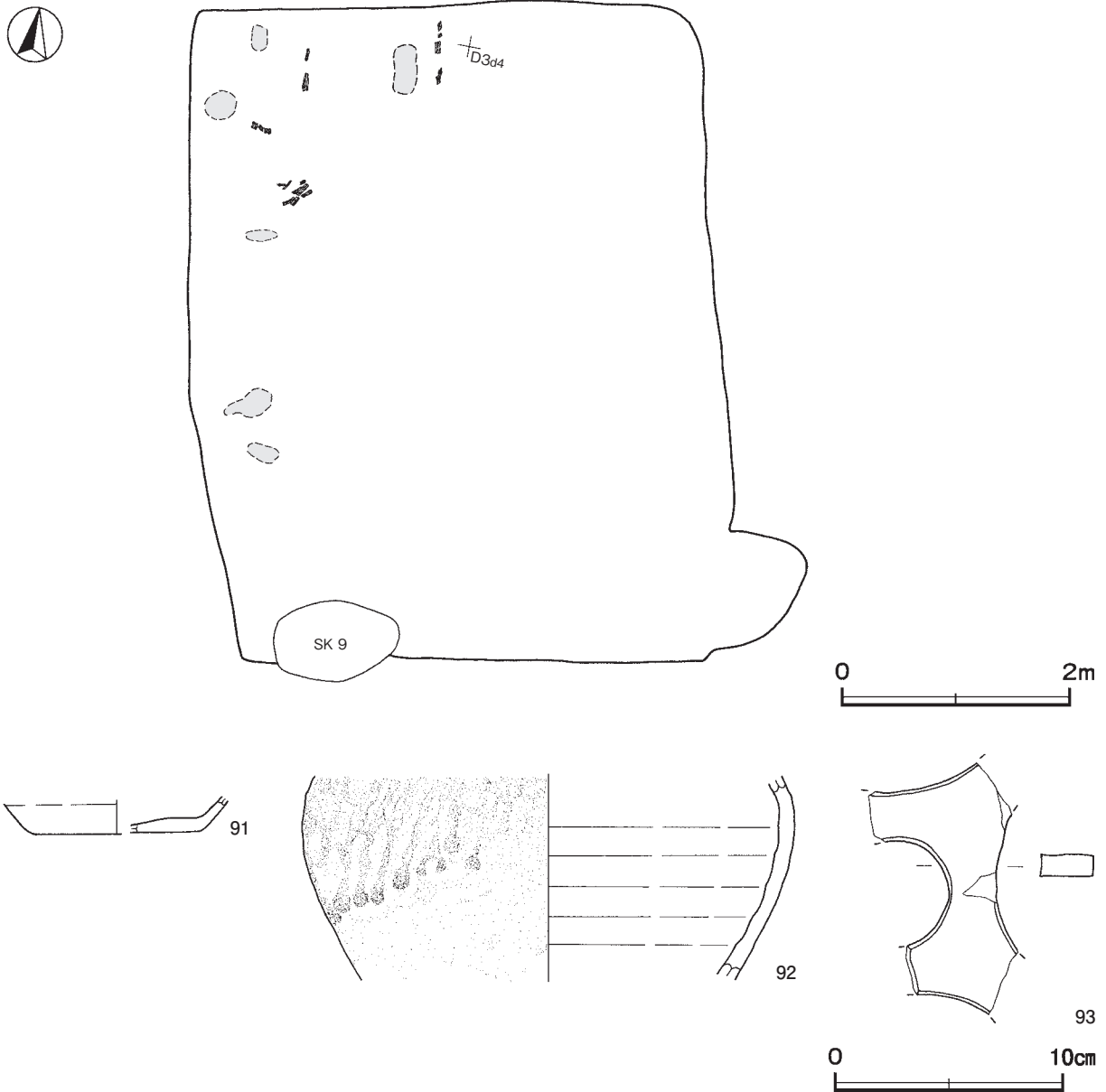
覆土 3層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量



第 147 图 第 6 号住居跡実測图



第 148 図 第 6 号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 土師器片 27 点 (坏 7, 甕 20), 須恵器片 7 点 (坏 5, 瓶 1, 甌 1), が出土している。また, 混入した縄文土器片 5 点も出土している。92 は南東寄りの床面から, 93 は北西寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 9 世紀代と考えられる。

第 6 号住居跡出土遺物観察表 (第 148 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
91	土師器	坏	-	(1.5)	[7.4]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部・内面磨減により調整不明	覆土中	15%
92	須恵器	瓶	-	(9.1)	-	長石・黒色粒子	灰オリーブ	普通	肩部に自然釉降灰	床面	5%
93	須恵器	甌	-	(1.0)	-	長石・石英	灰	普通	底部五孔式カ	覆土下層	5%

第 14 号住居跡 (第 149 ~ 153 図)

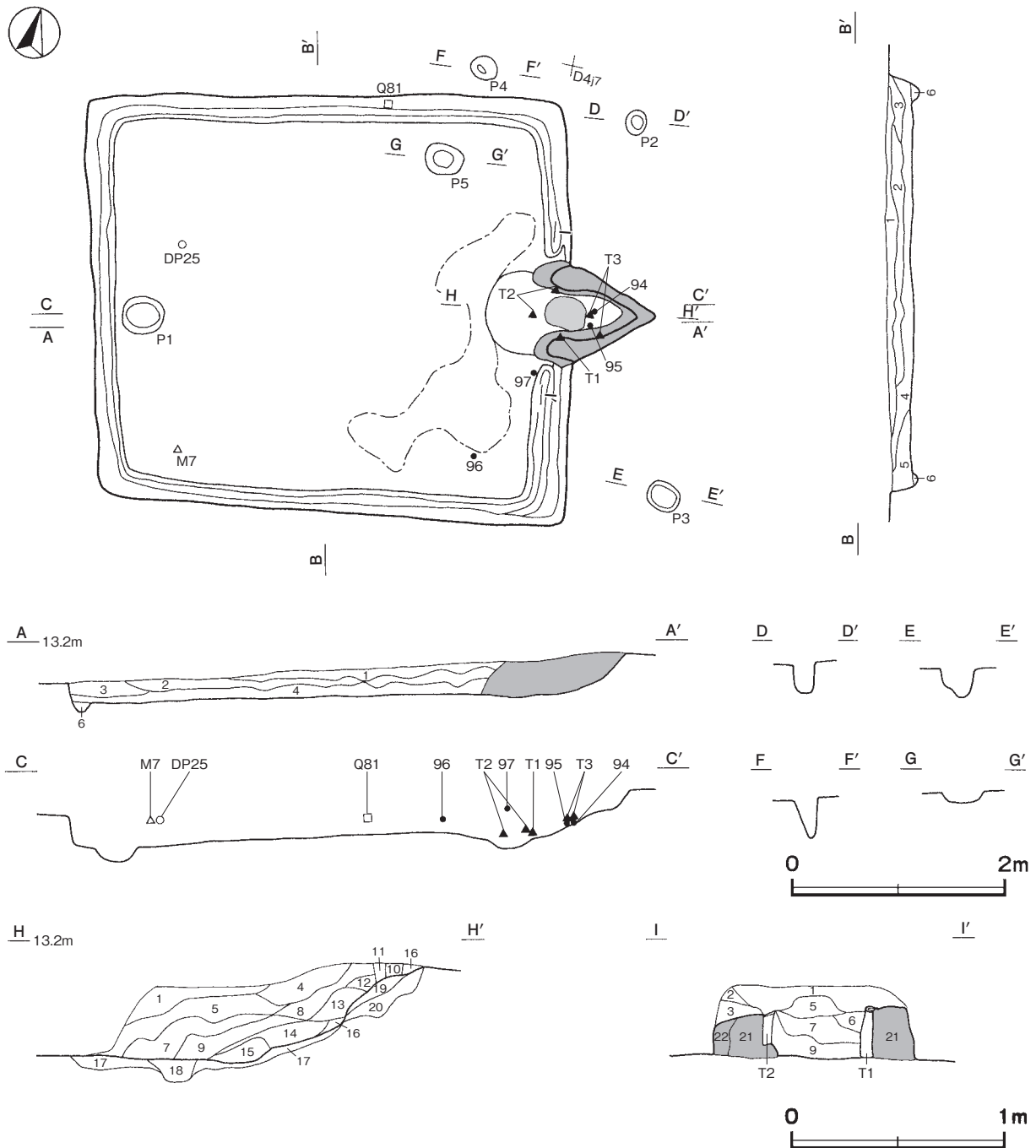
位置 調査区中央部の D 4 j6 区, 標高 13 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 1 号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 4.52 m, 短軸 4.00 m の長方形で, 主軸方向は N - 76° - E である。壁高は 19 ~ 38cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 南東コーナー部から竈の焚口部周辺にかけて, 踏み固められている。

竈 東壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 162cm で, 燃焼部幅は 36cm である。袖部は, 地山の上に粘土ブロックや焼土粒子を含んだ第 21・22 層を積み上げて構築されている。袖部内側には, 軒平



第 149 図 第 14 号住居跡実測図 (1)

瓦と平瓦が立てて据えられており，補強材として使用されている。火床部は床面を 10cm掘りくぼめた部分に，ロームブロックや焼土ブロックを含んだ第 17・18 層が埋土されており，火床面は火を受けて赤変硬化している。火床部の奥には，土師器坏と椀が逆位で重ねて据えられ，さらにその上に平瓦が横位で据えられており，支脚として使用されている。煙道部は壁外に 80cm掘り込まれ，火床部から外傾して立ち上がっている。奥壁には粘土ブロックやローム粒子を含んだ第 19・20 層を貼り付けて補強している。

竈土層解説

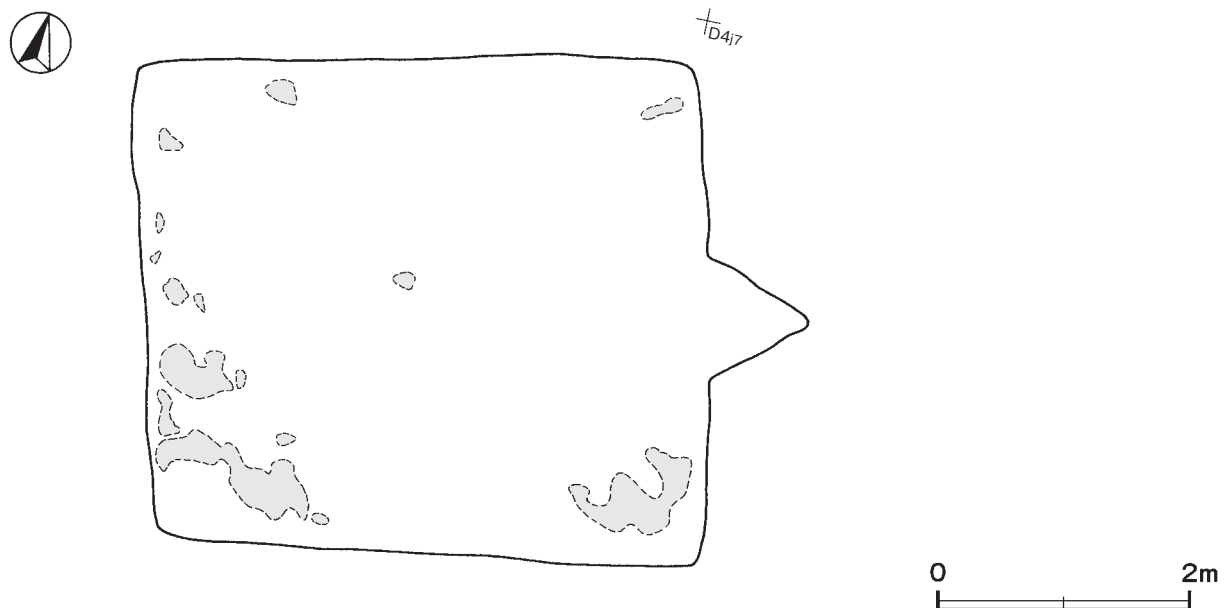
1 黒褐色	焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	13 にぶい赤褐色	炭化物・ローム粒子・粘土粒子少量，焼土ブロック微量
2 黒褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量	14 灰黄褐色	粘土ブロック中量，ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子微量	15 にぶい赤褐色	焼土ブロック中量，粘土粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量	16 黒褐色	炭化物中量，焼土ブロック・粘土粒子少量，ローム粒子微量
5 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量	17 暗褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6 黒色	焼土粒子少量，炭化物・ローム粒子微量	18 赤褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
7 暗褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量	19 にぶい赤褐色	粘土ブロック中量，焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
8 にぶい黄褐色	粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量	20 黒褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
9 暗褐色	焼土ブロック・粘土ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量	21 灰黄褐色	粘土ブロック中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10 暗赤褐色	焼土ブロック・ローム粒子少量，炭化物・粘土粒子微量	22 黒褐色	ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子・粘土粒子微量
11 黒褐色	炭化物・ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量		
12 赤褐色	粘土ブロック少量，焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量		

ピット 5か所。P 1は深さ 12cmで，配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 2・P 3は深さがともに 27cmで，配置から補助的な役割を有する柱穴と考えられる。P 4・P 5は深さ 39cm・11cmで，性格不明である。

覆土 6層に分層できる。多くの層にロームブロックが含まれ，水平に堆積していることから，埋め戻されている。

土層解説

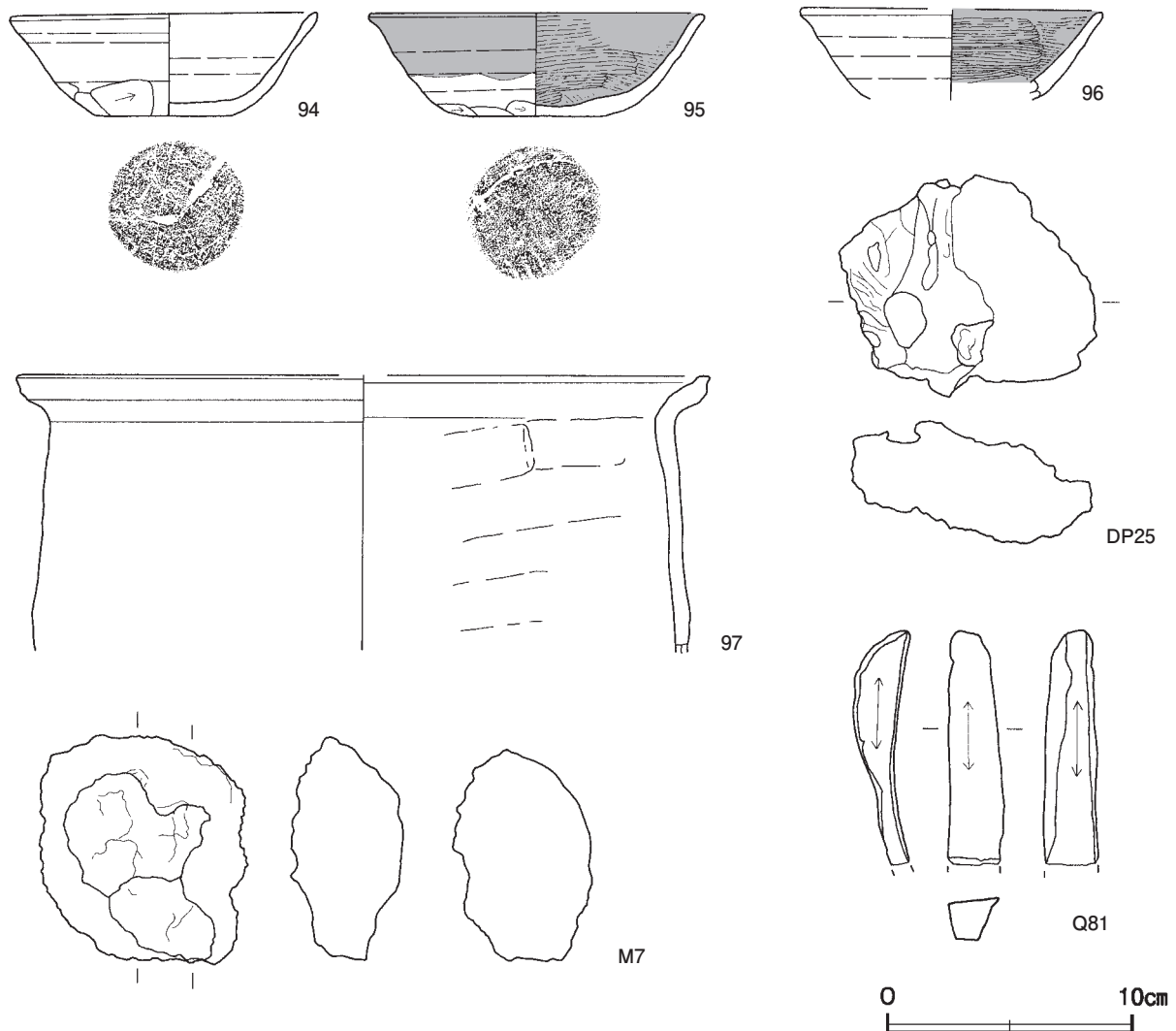
1 黒褐色	ロームブロック微量	4 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒色	ローム粒子・炭化粒子微量	5 極暗褐色	ロームブロック・焼土粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量



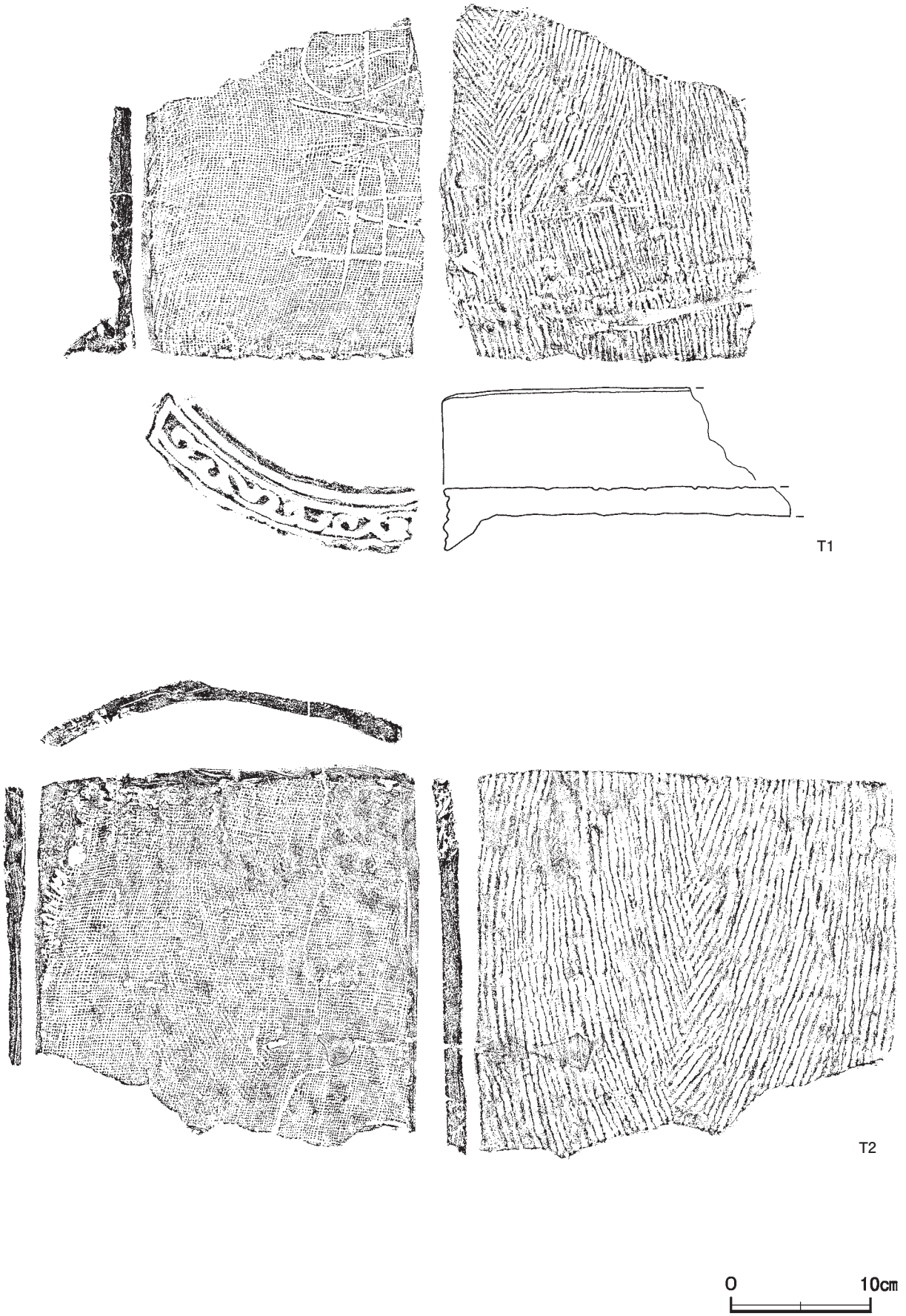
第 150 図 第 14 号住居跡実測図 (2)

遺物出土状況 土師器片 47 点（坏 6，甕 38，甑 3），土製品 7 点（炉壁カ），砥石 1 点，椀形鍛冶滓 1 点，瓦片 3 点（軒平瓦 1，平瓦 2），鉄滓 3 点，粘土塊 7 点が出土している。また，混入した縄文土器片 30 点も出土している。そのほか，壁際の覆土中層から焼土塊が出土している。94・95 は竈の火床面の奥部で，95 の上に 94 がそれぞれ逆位で重ねられた状態で据えられ，さらにその上に T 3 が横位で据えられており，それぞれ支脚として使用されたものである。T 1 は竈の右袖部の内側，T 2 は竈の左袖部の内側に立てて据えられており，補強材として使用されたものである。T 1 の凹面には，「豊田」とヘラ書きされている。Q81 は北壁際，97 は東壁際，96 は南東コーナー部，M 7 は南西コーナー部，DP25 は西部の覆土中層からそれぞれ出土している。

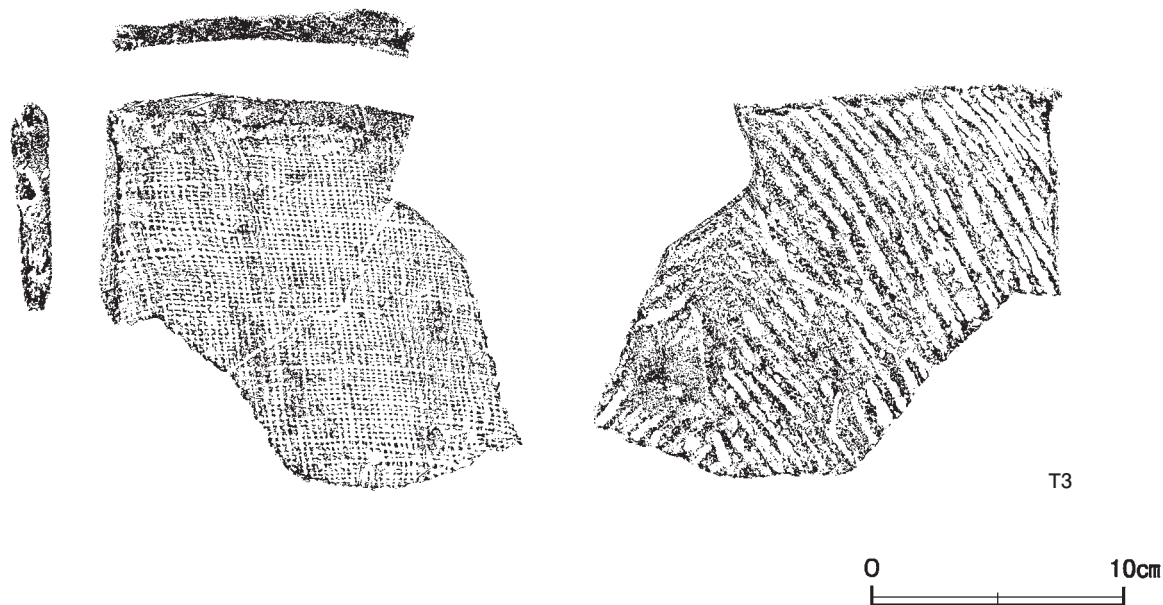
所見 炉壁や椀形鍛冶滓の鍛冶関連遺物が出土しているが，鍛冶炉が無く，埋め戻された覆土中層から出土していることから，周辺で使用されていた鍛冶関連遺物が埋め戻しの際に廃棄されたものと考えられる。時期は，出土土器から 9 世紀後葉～10 世紀初頭と考えられる。第 4 A 号住居跡の竈の覆土下層から出土した瓦片が，本跡の竈構築材に使われていた T 2 と接合しているため，第 4 A 号住居跡とはほぼ同時期か，ごく近い時期と考えられる。また，覆土中層から焼土塊が出土しているが，炭化材が出土していないことから，埋め戻しの際に焼土塊を廃棄したものと考えられる。



第 151 図 第 14 号住居跡出土遺物実測図（1）



第 152 图 第 14 号住居跡出土遺物実測図 (2)



第 153 図 第 14 号住居跡出土遺物実測図 (3)

第 14 号住居跡出土遺物観察表 (第 151 ~ 153 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
94	土師器	坏	12.4	4.4	5.4	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	竈火床部	95% PL31
95	土師器	坏	13.6	4.3	5.4	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部一方向のヘラ削り	竈火床部	95% PL31
96	土師器	坏	[12.2]	(3.7)	-	石英	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中層	10%
97	土師器	甕	[27.8]	(11.3)	-	長石・石英・赤色粒子	橙	普通	体部内面ヘラナデ	覆土中層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP25	炉壁カ	(9.2)	10.6	5.0	(245.3)	粘土	側面と内面一部破面 内面はガラス質に滓化 胎土にスサを含む	覆土中層	PL46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 81	砥石	(9.6)	2.4	2.4	(37.9)	凝灰岩	研面 3 面	覆土中層	PL45

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 7	碗形織治滓	9.5	8.4	4.6	323.0	鉄	側部破面 上面は浅く窪み、厚く滓化 下面は浅い碗形	覆土中層	PL46

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
T 1	瓦	軒平瓦	(21.2)	11.6	(25.0)	長石・石英・赤色粒子	橙	良好	瓦当面均整唐草文 凹面布目痕 凸面縄目叩き 凹面に刻書「豊田」	竈右袖内側	PL47
T 2	瓦	平瓦	26.0	7.8	(28.3)	長石・石英・赤色粒子	橙	良好	凹面布目痕 凸面縄目叩き	竈左袖内側	SI 4 A との接合あり PL47
T 3	瓦	平瓦	(17.0)	(7.0)	(15.4)	長石・石英・赤色粒子	橙	良好	凹面布目痕 凸面縄目叩き	竈覆土中層	

第 15 号住居跡 (第 154 ~ 156 図)

位置 調査区南東部の I 8 e1 区、標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 102 号土坑、第 3 号遺物包含層を掘り込み、第 95 号土坑に掘りこまれている。

規模と形状 東部が削平されているため、南西・北東軸 6.65 m、南東・北西軸 4.24 m しか確認できなかった。主軸方向は N - 38° - E と推定できる。壁高は 22 ~ 28cm で、外傾して立ち上がっている。

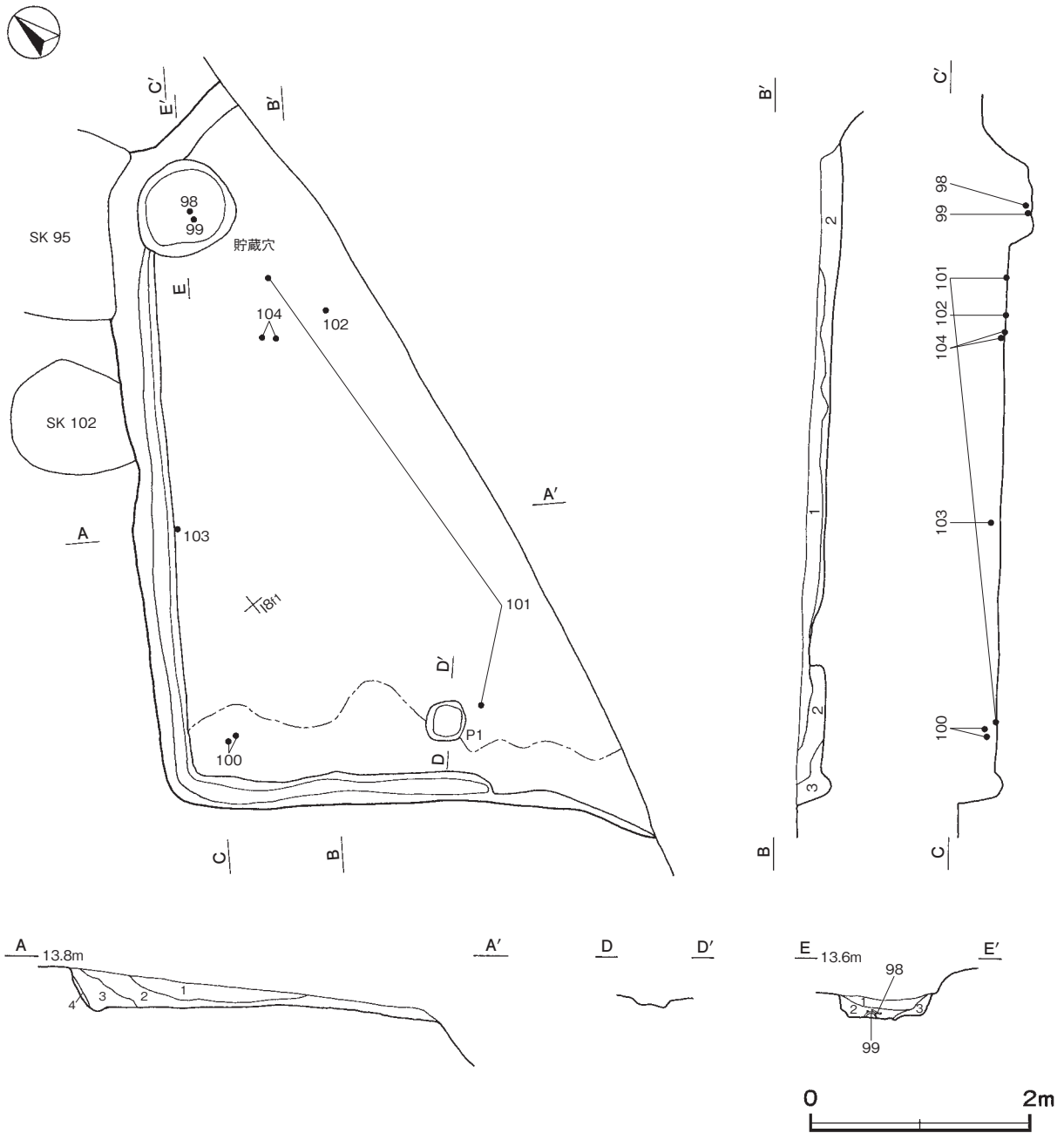
床 北側に傾斜し、南東壁際を除いて踏み固められている。北西壁から南西壁にかけての壁下には、壁溝が巡っている。

ピット P1は深さ6cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 北コーナー部に位置し、長径94cm、短径88cmの円形で、深さは18cmである。底面はやや凹凸があり、壁は外傾して立ち上がっている。

貯蔵穴土層解説

- | | | | |
|------|------------------|-------|------------------|
| 1 黒色 | ロームブロック・炭化物少量 | 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 黒色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |



第154図 第15号住居跡実測図(1)

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

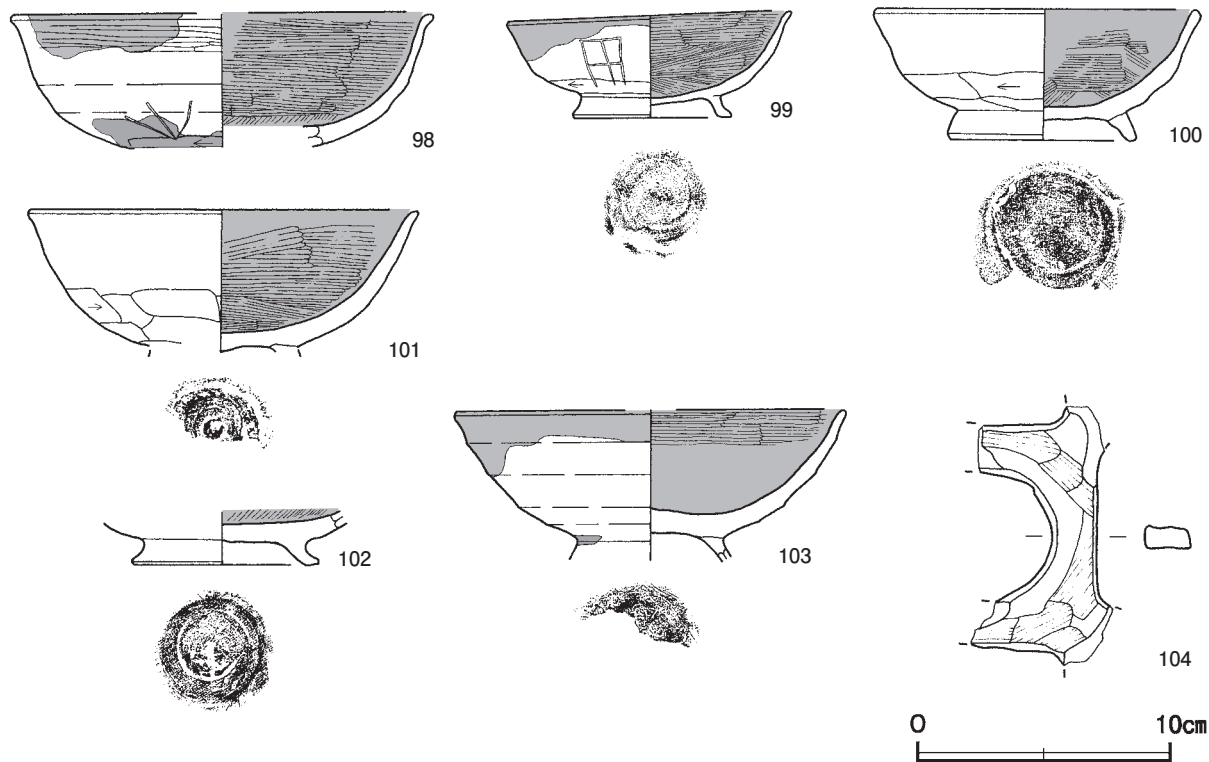
- | | | | |
|-------|-----------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量 | 3 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化材中量、焼土粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量 | 4 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師器片 82 点（椀 6，高台付椀 6，甕 70），須恵器片 1 点（甑）が出土している。また、混入した縄文土器片 51 点も出土している。そのほか、南西部の床面から覆土下層で炭化材と焼土塊が出土している。99 は貯蔵穴中央の底面から逆位で、98 は 99 の上に横位の状態で出土しており、廃絶時に遺棄されたものと考えられる。102 は北寄りの床面から、103 は西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。101 は北寄りの床面と南西部の床面から、104 は北寄りの床面から、100 は南西コーナー部の覆土下層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。

所見 床面から焼土や炭化材が確認され、覆土中に炭化材や焼土粒子が含まれていることから焼失住居の可能性はある。時期は、出土土器から 10 世紀中葉と考えられる。



第 155 図 第 15 号住居跡実測図（2）



第 156 図 第 15 号住居跡出土遺物実測図

第 15 号住居跡出土遺物観察表 (第 156 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
98	土師器	高台付椀	[16.4]	(5.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	口縁部外面へら磨き 体部下端回転へら削り 内面へら磨き 体部外面に3本線による刻書	貯蔵穴底面	20%
99	土師器	高台付椀	11.1	4.3	6.2	長石・石英	橙	普通	体部下端外面回転へら削り 内面へら磨き 底部回転へら切り 外面に5本線による刻書	貯蔵穴底面	95% PL32
100	土師器	高台付椀	12.6	5.3	7.2	長石・石英	灰黄褐	普通	体部下端外面手持ちへら削り 内面へら磨き 底部回転へら切り	覆土下層	70% PL32
101	土師器	高台付椀	15.3	(5.6)	-	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい褐	普通	体部下端外面手持ちへら削り 内面へら磨き 底部回転へら切り	床面	50%
102	土師器	高台付椀	-	(2.2)	7.3	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	普通	体部内面へら磨き 底部回転へら切り	床面	20%
103	土師器	高台付椀	[15.4]	(6.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内面へら磨き 底部回転へら切り	覆土下層	40%
104	須恵器	甌	-	(1.0)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	底部五孔式カ 底部内面工具痕	床面	5%

第 20 号住居跡 (第 157 図)

位置 調査区南東部の I 7c0 区, 標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 23・26 号住居跡, 第 101 号土坑, 第 3 号遺物包含層を掘り込み, 第 87 号土坑に掘りこまれている。

規模と形状 長軸 3.84 m, 短軸 3.50 m の方形で, 主軸方向は N - 35° - W である。壁高は 12 ~ 38cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部から北部にかけて踏み固められている。

炉 中央部に付設されている。長径 45cm, 短径 42cm の円形を呈する地床炉である。炉床は, 深さ 8cm の皿状に掘りくぼめ, 第 1・2 層を埋め戻して構築しており, 炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 明赤褐色 焼土ブロック多量

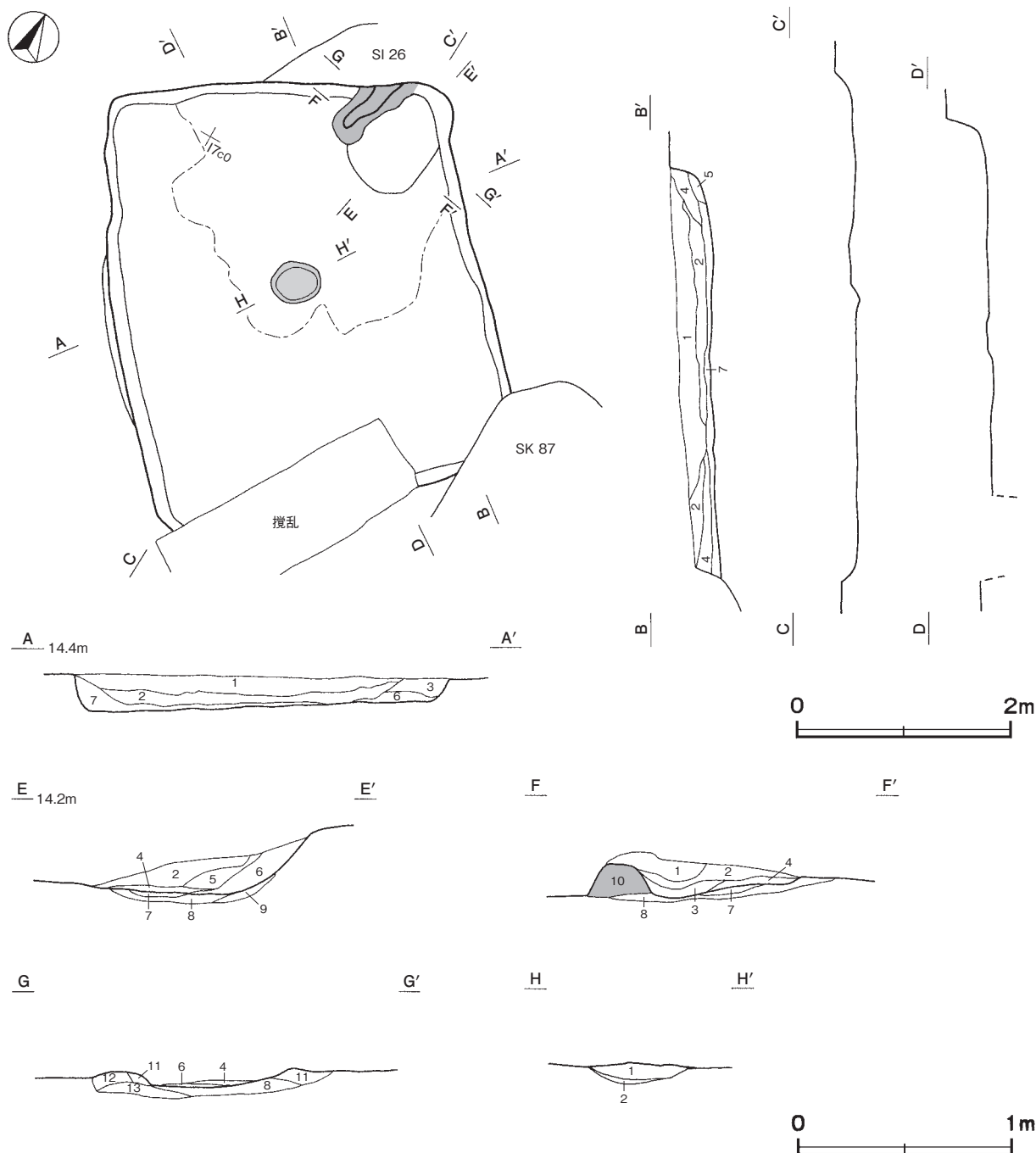
2 暗赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化粒子微量

竈 北コーナー部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 109cm で, 燃烧部幅は 71cm である。袖部

は左袖部のみ遺存しており、床面を 12cm掘りくぼめた部分にロームブロックや焼土ブロックを含んだ第 11～13 層を埋土し、その上に焼土ブロックや砂粒を含んだ第 10 層を積み上げて構築されている。火床部は床面を 6cm掘りくぼめた部分に、ローム粒子や粘土粒子を含んだ第 7～9 層が埋土されており、火床面は赤変、硬化ともに認められない。煙道部は壁外に 8cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 4 赤褐色 | 焼土ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 5 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量 |
| 3 極赤褐色 | 焼土粒子少量, ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 6 赤褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・粘土粒子・砂粒少量, 炭化粒子微量 |



第 157 図 第 20 号住居跡実測図

7 黒色	炭化粒子少量, ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒微量	11 暗褐色	粘土粒子・砂粒少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
8 灰褐色	粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	12 赤褐色	ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
9 赤褐色	ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子・砂粒少量	13 暗赤褐色	ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量
10 赤褐色	焼土ブロック・砂粒少量, ローム粒子・炭化粒子微量		

覆土 7層に分層できる。第1・2層は、周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。第3～7層は、ロームのブロックや粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒色	炭化物少量, ロームブロック・焼土粒子微量	5 褐色	ローム粒子中量
2 黒褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量, 炭化物微量
3 極暗褐色	ローム粒子少量	7 極暗褐色	ロームブロック少量
4 暗褐色	ロームブロック微量		

遺物出土状況 土師器片 22 点 (坏 10 点, 甕 12) が出土している。また、混入した縄文土器片 200 点も出土している。細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から 9 世紀代と考えられる。

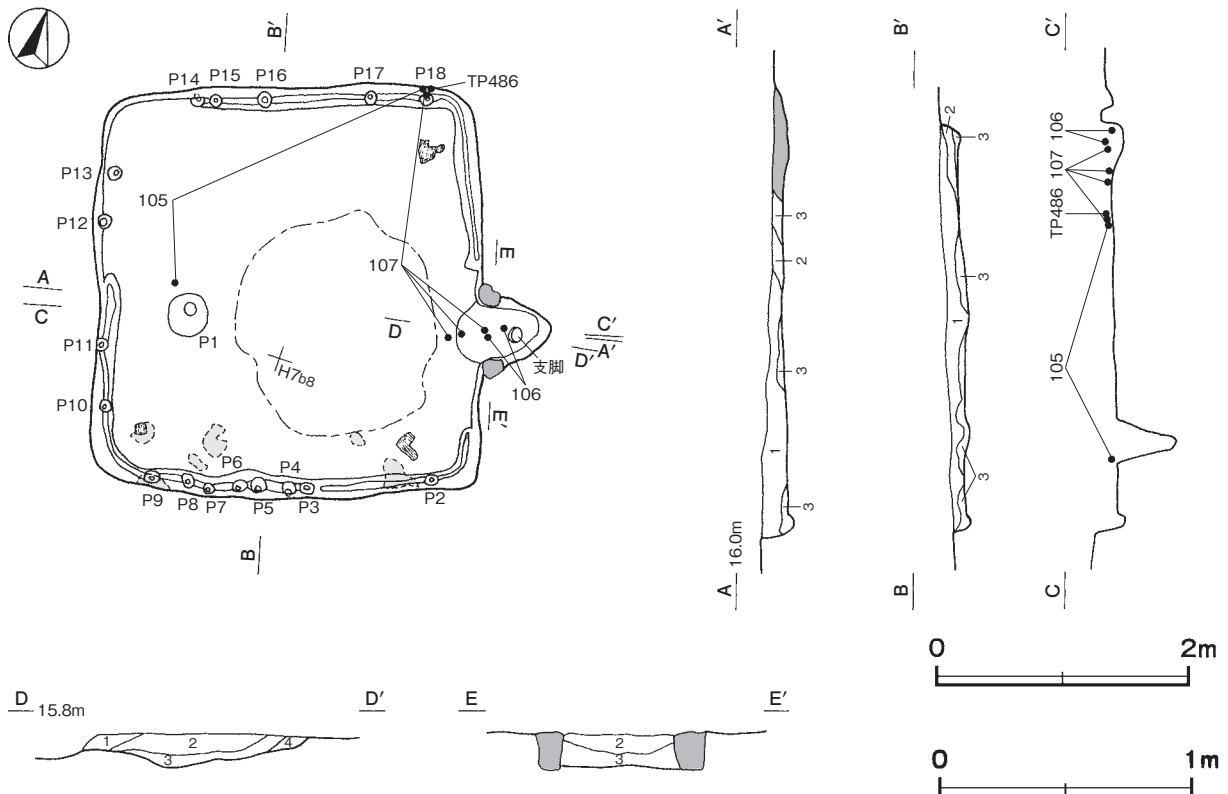
第 24 号住居跡 (第 158・159 図)

位置 調査区南東部の H 7 a7 区, 標高 16 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.26 m, 短軸 3.06 m の方形で, 主軸方向は N - 71° - E である。壁高は 7 ~ 27 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 東寄りが踏み固められている。西コーナー部を除いて, 壁下には壁溝が巡っている。

竈 東壁やや南寄りに付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 74 cm で, 燃烧部幅は 40 cm である。袖部



第 158 図 第 24 号住居跡実測図

は認められないが、両側に凝灰岩の切石が確認された。火床部は床面とはほぼ同じ高さを使用しており、火床面は赤変、硬化ともに認められない。火床部の奥には、凝灰岩が据えられており、支脚として使用されている。煙道部は壁外に52cm掘り込まれ、火床部から緩やかに外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- 1 極暗赤褐色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子微量
- 4 にぶい赤褐色 ローム粒子少量、焼土ブロック微量

ピット 18か所。P1は深さ48cmで、配置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P2～P18は壁溝内で確認されていることから、壁柱穴と考えられる。

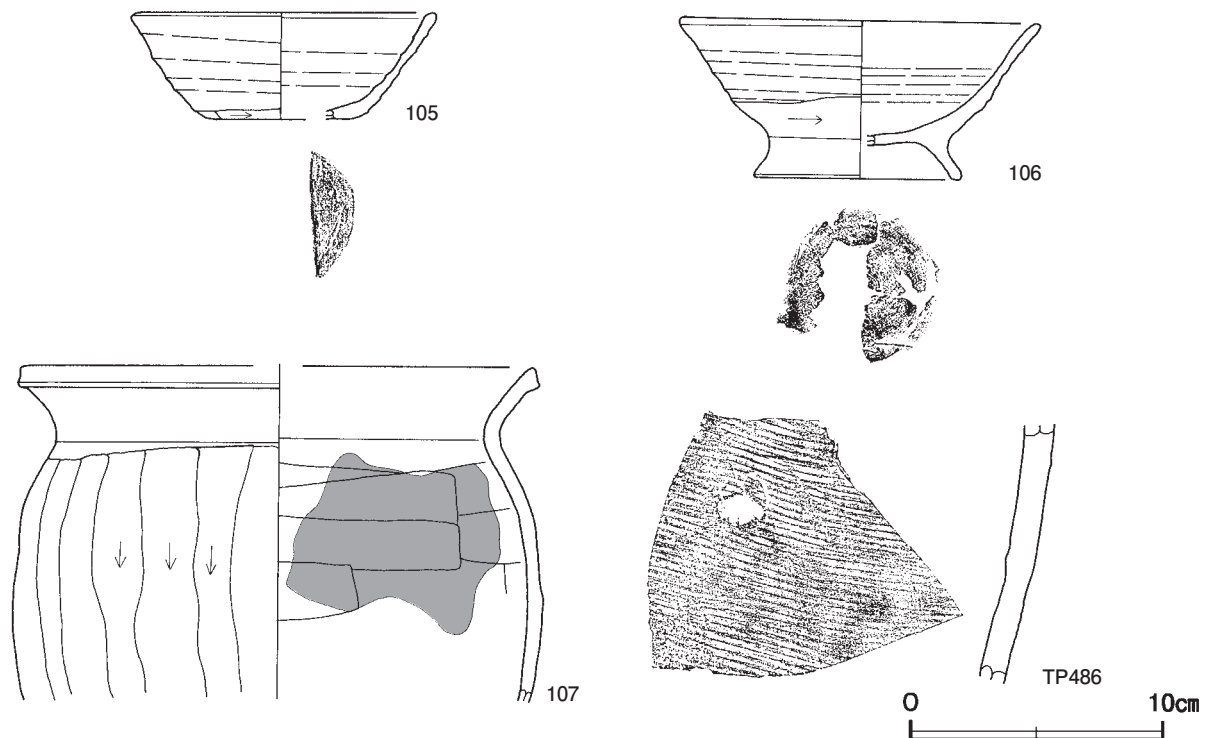
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量、ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片9点(坏7, 甕2), 須恵器片3点(坏1, 高台付坏1, 甕1)が出土している。また、混入した縄文土器片5点も出土している。TP486は北東コーナー部の覆土下層から出土している。105は西部と北東コーナー部の覆土下層から、107は北東コーナー部の覆土下層と竈の覆土下層から、106は竈の覆土下層からそれぞれ出土した破片が接合したもので、いずれも廃絶後間もなく廃棄されたものと考えられる。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。



第159図 第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表(第159図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
105	須恵器	坏	11.8	4.2	[6.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り	覆土下層	50% PL32
106	須恵器	高台付坏	14.0	6.3	[8.0]	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 底部回転ヘラ切り後高台貼付	覆土下層	80% PL32
107	土師器	甕	[20.2]	(13.3)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面縦位のヘラ削り 内面横位のヘラナデ	覆土下層	20%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP486	須恵器	甕	長石・石英	灰オリーブ	体部平行叩き	覆土下層	

第 28 号住居跡 (第 160 図)

位置 調査区南東部の G 7j6 区, 標高 16 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 3.70 m, 短軸 2.12 m の長方形で, 主軸方向は N - 67° - E である。壁高は 6 ~ 8 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 南東コーナー部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 66cm で, 燃焼部幅は 58cm である。袖部は, 認められない。火床部は床面を 12cm 掘りくぼめた部分に, ロームブロックや焼土ブロックを含んだ第 4 ~ 6 層が埋土されており, 火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に 31cm 掘り込まれ, 火床部から外傾して立ち上がっている。

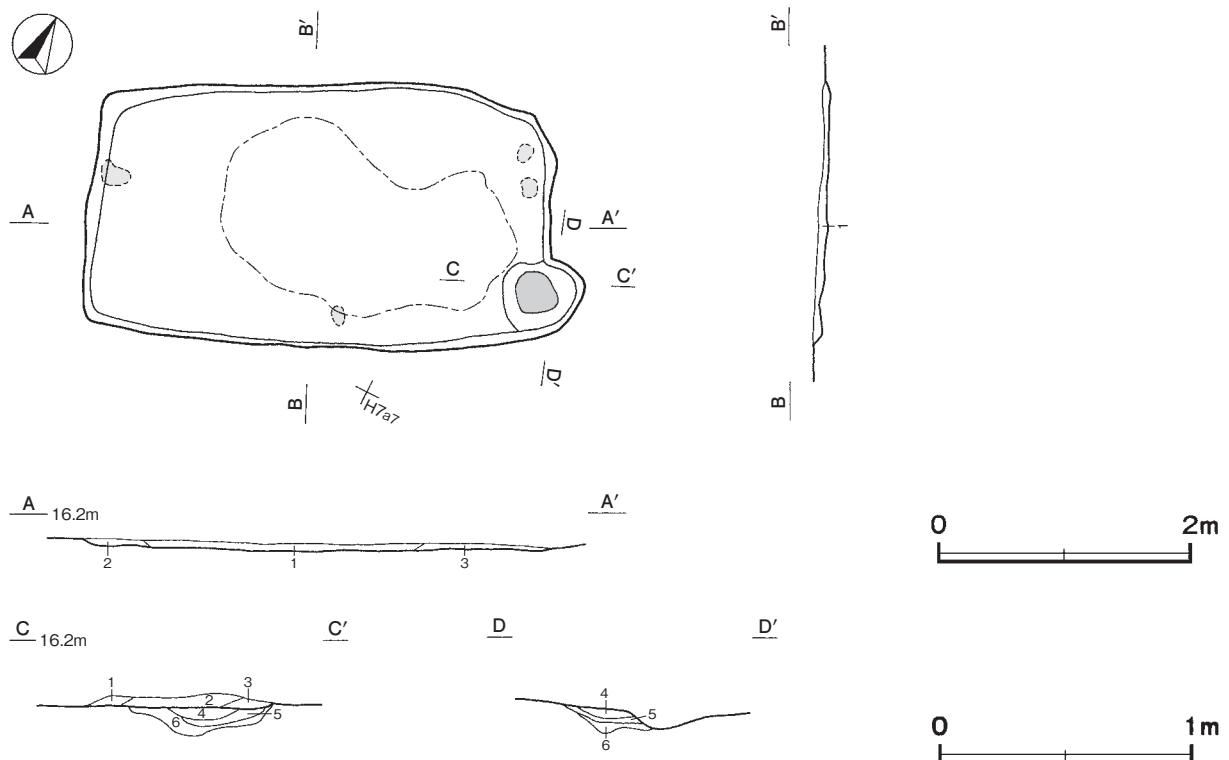
竈土層解説

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------|
| 1 橙 色 粘土粒子少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 5 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量 |
| 2 赤褐色 焼土ブロック・粘土粒子少量, ローム粒子微量 | 6 褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 |
| 3 にぶい赤褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 | |
| 4 赤褐色 焼土ブロック少量, ローム粒子・粘土粒子微量 | |

覆土 3層に分層できる。多くの層にロームブロックや焼土ブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 | 3 褐色 ローム粒子・粘土粒子少量, 焼土ブロック微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量 | |



第 160 図 第 28 号住居跡実測図

遺物出土状況 須恵器片5点（坏）が出土している。また、混入した縄文土器片15点も出土している。細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から9世紀代と考えられる。

第41号住居跡（第161～163図）

位置 調査区中央部のE5h2区、標高14mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第4号遺物包含層を掘り込み、第142号土坑に掘り込まれている。

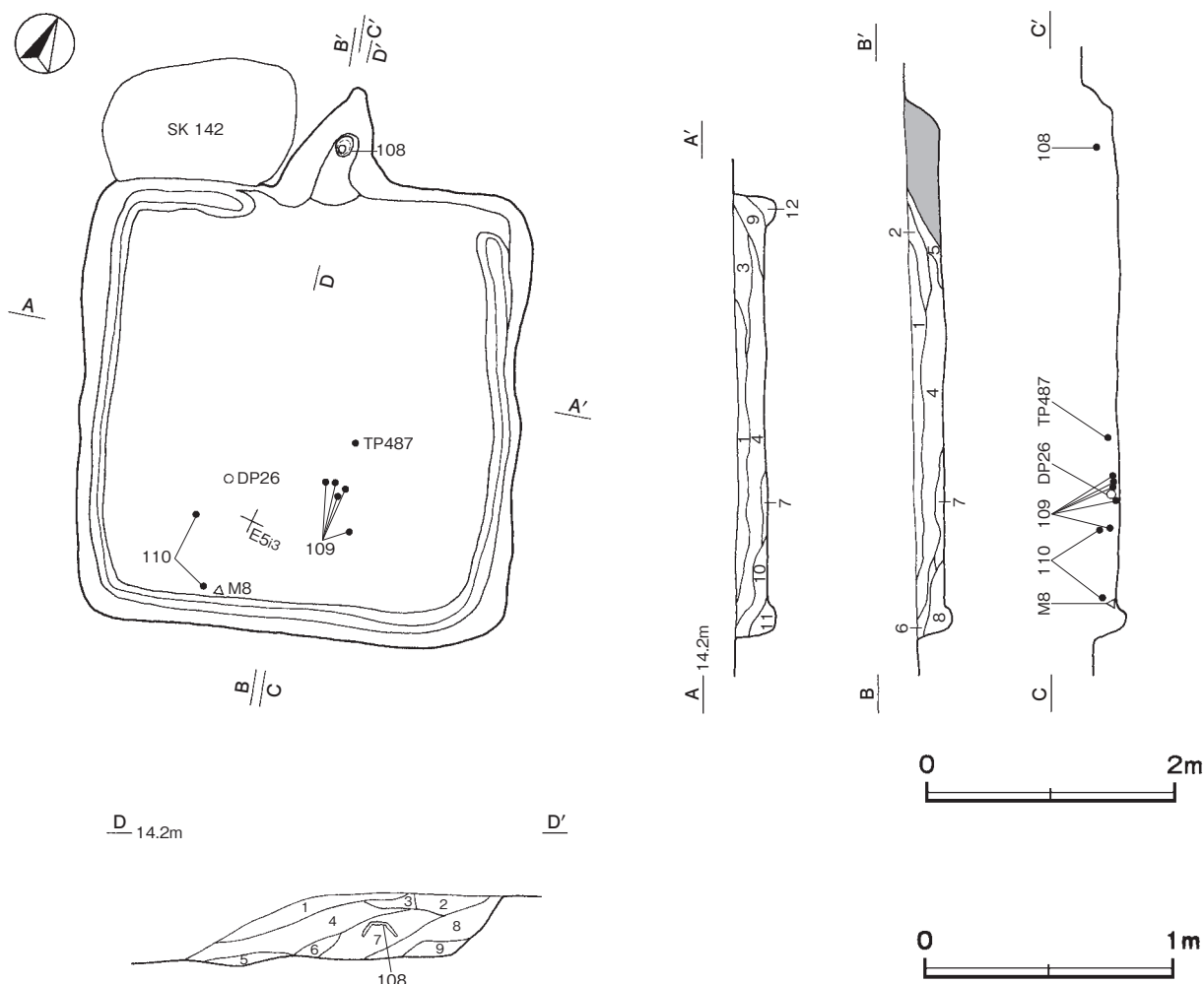
規模と形状 長軸3.72m、短軸3.60mの方形で、主軸方向はN-20°-Wである。壁高は21～26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、硬化した範囲は認められない。北コーナー部を除いて、壁下には壁溝が巡っている。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで98cmで、燃烧部幅は34cmである。袖部は、認められない。火床部は床面とほぼ同じ高さを使用しており、火床面は赤変、硬化ともに弱い。火床部の奥には、須恵器坏が逆位で据えられており、支脚として使用されている。煙道部は壁外に81cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がっている。

竈土層解説

- | | | | |
|---------|-------------------------|--------|---------------------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量 | 4 極暗褐色 | 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 |
| 2 暗褐色 | 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子・粘土粒子微量 | | |
| 3 極暗赤褐色 | 炭化粒子少量、焼土ブロック・粘土粒子・砂粒微量 | | |



第161図 第41号住居跡実測図

- | | | | |
|--------|------------------------------|--------|-------------------------|
| 5 暗赤褐色 | 焼土ブロック・ロームブロック・粘土粒子・砂粒微量 | 7 明赤褐色 | 焼土ブロック少量, 炭化物・粘土粒子・砂粒微量 |
| 6 暗赤褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 8 褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量 |
| | | 9 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子少量 |

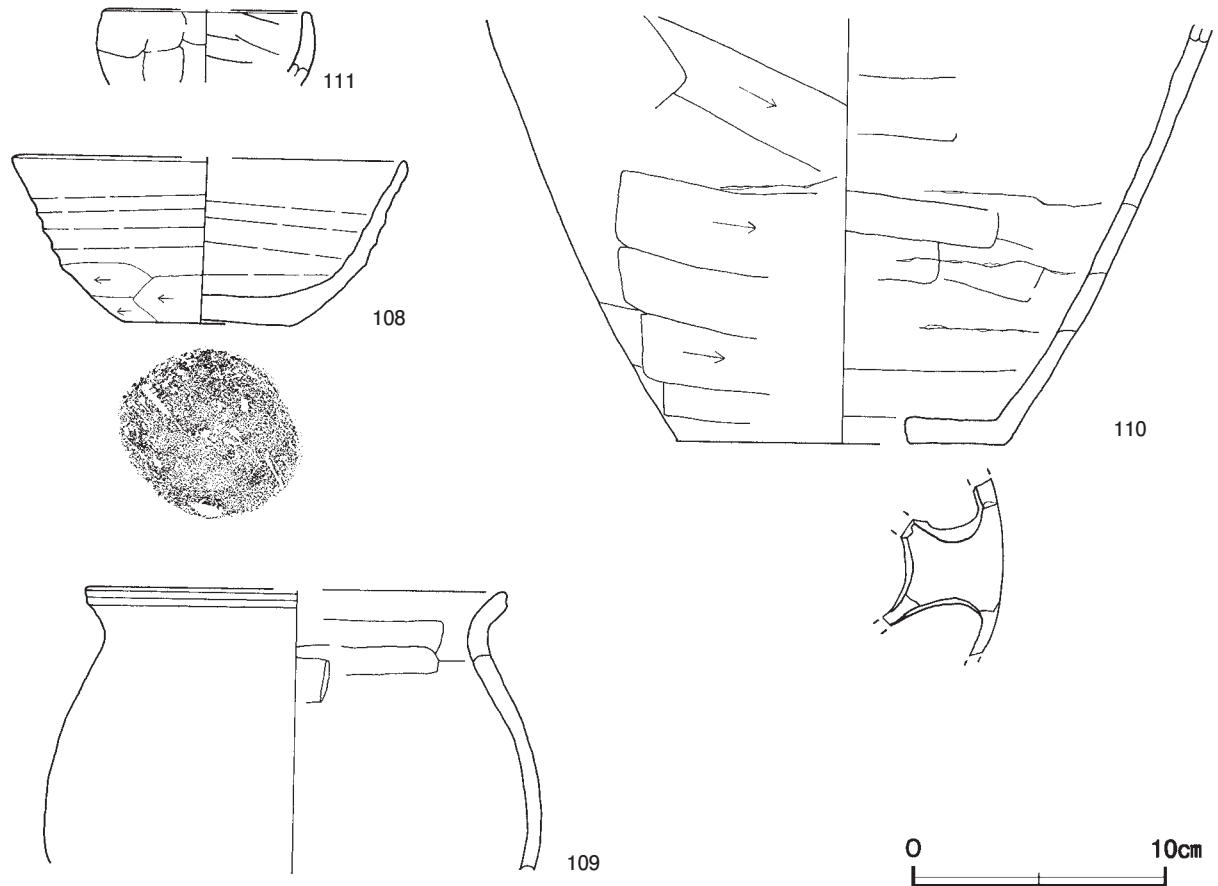
覆土 12層に分層できる。第1層は、周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。第2～12層は、ロームブロックや焼土粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

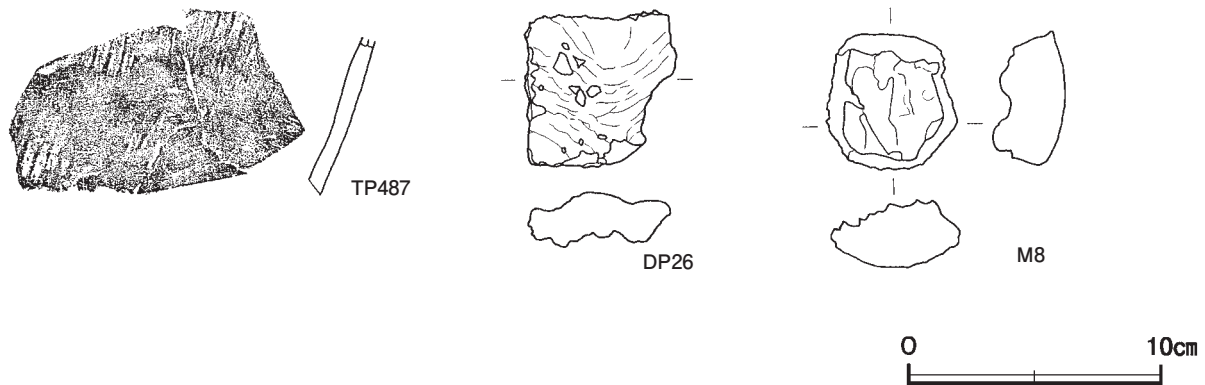
- | | | | |
|--------|-------------------------------|---------|------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック微量 | 8 黒褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ローム粒子微量 | 9 黒褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |
| 4 極暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量 |
| 5 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・粘土粒子・砂粒微量 | 11 暗褐色 | ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量 | 12 極暗褐色 | ロームブロック・焼土ブロック微量 |

遺物出土状況 土師器片 62点（甕 61, 手捏土器 1）、須恵器片 7点（坏 1, 甕 5, 甑 1）、土製品 1点（炉壁カ）、椀形鍛冶滓 1点、鉄滓 18点が出土している。また、混入した縄文土器片 50点も出土している。108は竈火床面の奥部に逆位の状態で据えられており、支脚として使用されたものである。109は南東部の覆土下層から、110は南壁際の覆土中層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。DP26は南寄り、M 8は南壁際の覆土下層から、TP487は南東寄りの覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 炉壁や椀形鍛冶滓、鉄滓の鍛冶関連遺跡が出土しているが、鍛冶炉が無く、埋め戻された覆土下層から出土していることから、周辺で使用されていた鍛冶関連遺物が埋め戻しの際に廃棄されたものと考えられる。時期は、出土土器から9世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。



第 162 図 第 41 号住居跡出土遺物実測図 (1)



第 163 図 第 41 号住居跡出土遺物実測図 (2)

第 41 号住居跡出土遺物観察表 (第 162 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
108	須恵器	坏	[15.5]	6.7	6.6	長石・石英	橙	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部一方向のヘラ削り	竈火床部	70%
109	土師器	甕	[16.4]	(11.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部内面横位のヘラナデ	覆土下層	15% PL31
110	須恵器	甗	-	(16.9)	[13.0]	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部外面ヘラ削り 内面横位のヘラナデ 底部五孔式カ	覆土中層	15%
111	土師器	手捏土器	[8.0]	(3.0)	-	長石・赤色粒子	橙	普通	体部外面ナデ	覆土中	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP487	須恵器	甕	長石・石英・赤色粒子	にぶい黄橙	体部外面平行叩き	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP26	炉壁カ	(6.3)	(6.0)	(2.1)	(72.9)	粘土	側面破面 内面は厚くガラス質に滓化し、発泡 胎土にスサを含む	覆土下層	PL46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M8	碗形鍛冶滓	5.5	5.2	2.6	108.6	鉄	側部破面 上面は浅く窪み、厚く滓化 下面は浅い碗形	覆土下層	PL46

表 13 平安時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)				主柱穴	出入口	ピロ	炉・竈	貯蔵穴				
4A	D 3a8	長方形	N-89°-E	5.19×3.80	9~36	凹凸	ほぼ全周	-	-	1	竈1	-	自然 人為	土師器片、須恵器片、土王、炉壁カ、甕	9世紀後葉~10世紀初頭	HG 1→SI 4B→本跡
4B	D 3a8	-	-	-	-	-	東壁溝のみ	-	-	-	竈1	-	-	-	9世紀後葉~10世紀初頭	HG 1→本跡→SI 4A
6	D 3d4	長方形	N-10°-W	5.78×4.64	4~10	平坦	ほぼ全周	2	-	5	炉1 竈1	1	人為	土師器片、須恵器片、灰釉陶器	9世紀	HG 1→本跡→SK 9
14	D 4j6	長方形	N-76°-E	4.52×4.00	19~38	平坦	-	-	1	4	竈1	-	人為	土師器片、炉壁カ、砥石、碗形鍛冶滓、鉄滓、軒平瓦	9世紀後葉~10世紀初頭	HG 1→本跡
15	I 8e1	-	[N-38°-E]	[6.65]×[4.24]	22~28	傾斜	ほぼ全周	-	1	-	-	1	人為	土師器片	10世紀中葉	SK203・HG 3→本跡→SK95
20	I 7c0	方形	N-35°-W	3.84×3.50	12~38	平坦	-	-	-	-	炉1 竈1	-	自然 人為	土師器片	9世紀	SI23・26・SK101・HG 3→本跡→SK87
24	H 7a7	方形	N-71°-E	3.26×3.06	7~27	平坦	ほぼ全周	-	1	17	竈1	-	人為	土師器片、須恵器片	9世紀後葉~10世紀初頭	
28	G 7j6	長方形	N-67°-E	3.70×2.12	6~8	平坦	-	-	-	-	竈1	-	人為	須恵器片	9世紀	
41	E 5h2	方形	N-20°-W	3.72×3.60	21~26	平坦	ほぼ全周	-	-	-	竈1	-	自然 人為	土師器片、須恵器片、手捏土器、碗形鍛冶滓	9世紀後葉~10世紀初頭	HG 4→本跡→SK142

(2) 竪穴遺構

一辺が3m内外で、平面形が方形または長方形の遺構である。竈や炉を持たないことから、竪穴住居跡と区別して竪穴遺構とした。以下、遺構と遺物の特徴について解説する。

第1号竪穴遺構（第164・165図）

位置 調査区北西部のD3b8区、標高13mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸2.86m、短軸2.64mの方形で、長軸方向はN-85°-Eである。壁高は16~20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 やや凹凸があり、硬化した範囲は認められない。

ピット 2か所。P1・P2は深さ22cm・21cmで、性格不明である。

覆土 4層に分層できる。多くの層にロームブロックや炭化材が含まれることから、埋め戻されている。

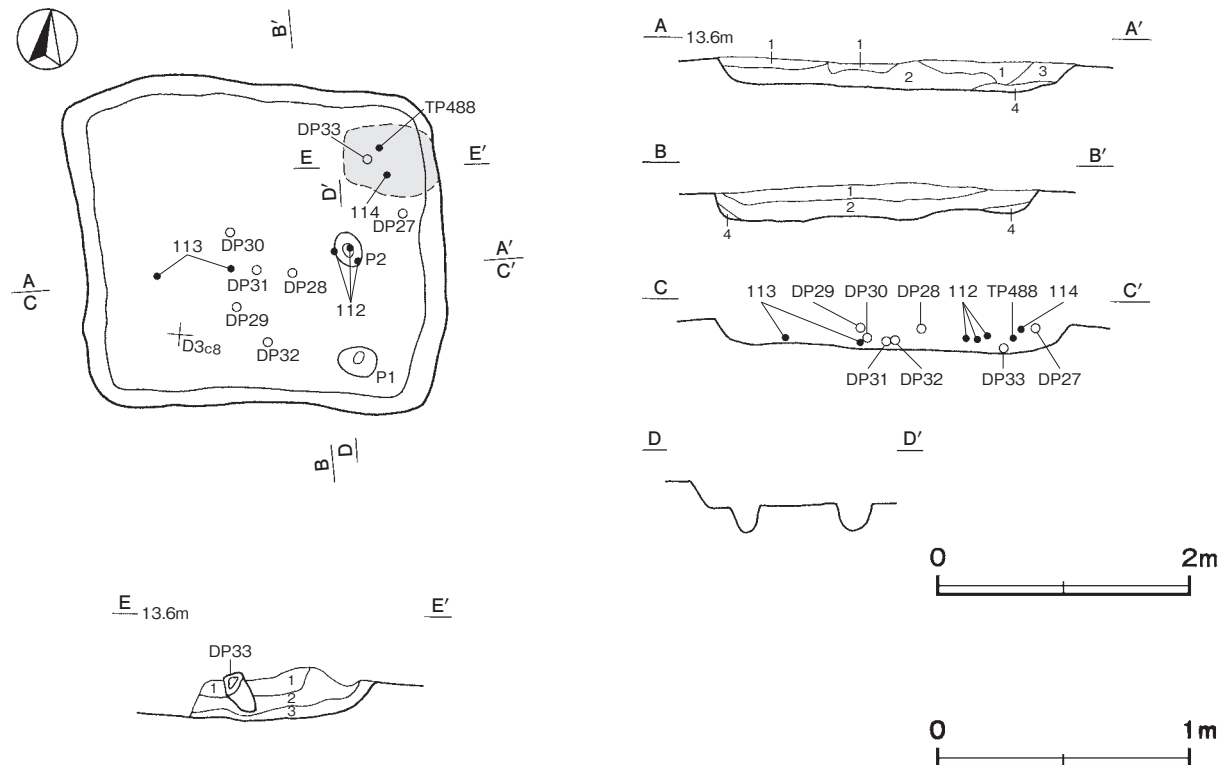
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化材少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・炭化材少量
- 4 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

焼土土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、粘土ブロック・炭化材・ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化材中量、ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

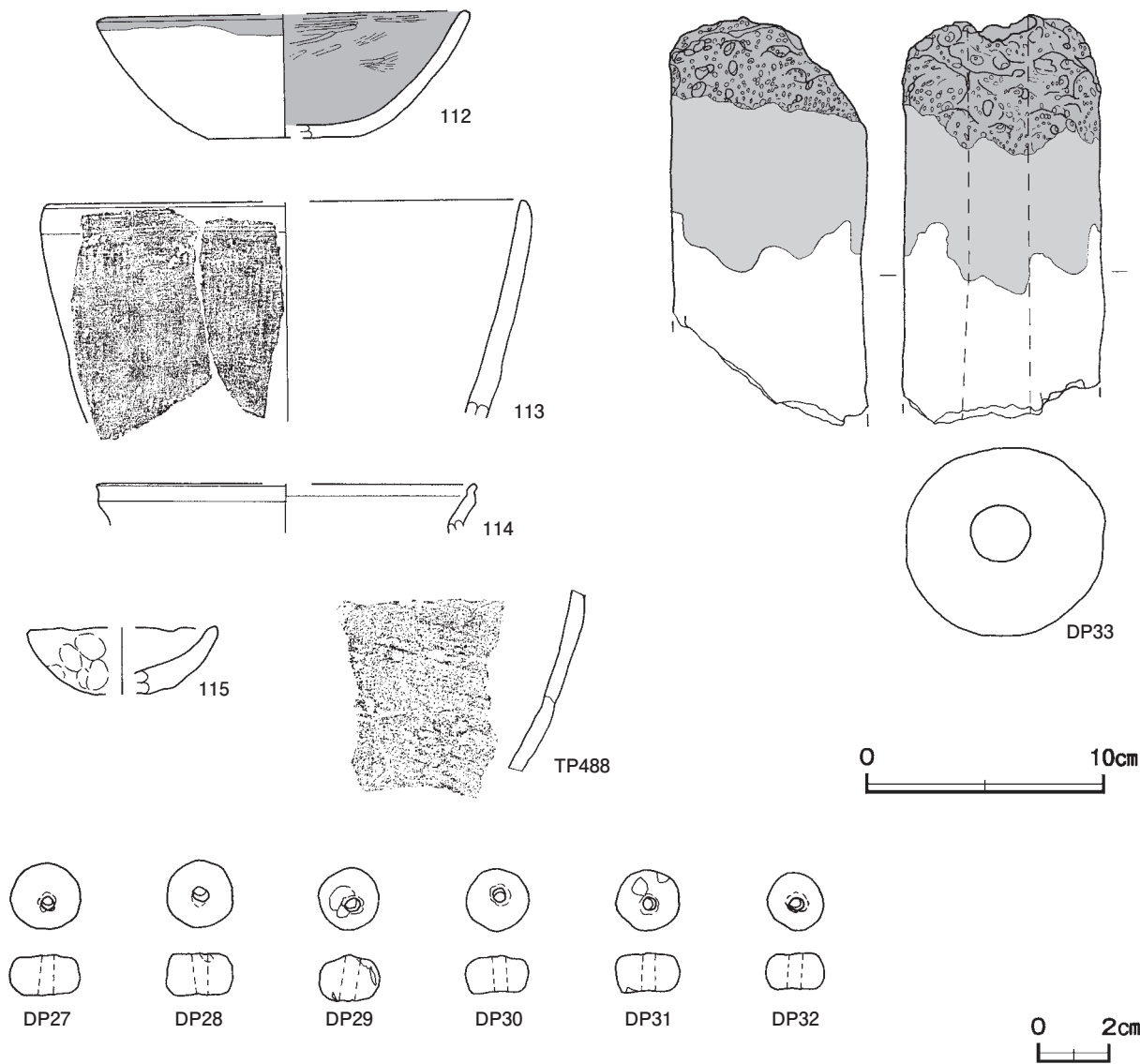
遺物出土状況 土師器片54点（坏5，甕47，甑1，手捏土器1），須恵器片1点（鉢），土製品7点（土玉6，羽口1），鉄滓6点，粘土塊2点が出土している。また、混入した縄文土器片16点も出土している。そのほか、北東コーナー部の覆土中層から焼土塊が出土している。114・TP488・DP33は北東コーナー部の焼土塊中から出土しており、焼土塊とともに廃棄されたものと考えられる。DP28・DP30・DP31は中央部，DP32は南部の覆土中層から，DP27は北東部，DP29は南よりの覆土上層からそれぞれ出土している。113は南西寄り



第164図 第1号竪穴遺構実測図

の覆土下層から、112は東部の覆土中層からそれぞれ出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。また、第4A・B号住居跡と隣接し、軸線が一致することから、対の可能性はある。本跡の詳細な性格は不明であるが、焼土塊と遺物が一括で廃棄されていることから、本来の機能が失われてから廃棄土坑とされている。



第165図 第1号竪穴遺構出土遺物実測図

第1号竪穴遺構出土遺物観察表（第165図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
112	土師器	坏	[15.4]	5.3	[6.6]	長石・石英・雲母	にぶい・黄橙	普通	内面ヘラ磨き 底部一方向のヘラ削り	覆土中層	30%
113	須恵器	鉢	[20.2]	(9.3)	-	長石・石英	橙	普通	体部平行叩き	覆土下層	5%
114	土師器	甕	[15.8]	(2.1)	-	長石・石英	橙	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土中層	5%
115	土師器	手捏土器	[8.0]	2.8	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ナデ	覆土中	10%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP488	須恵器	甕	長石・石英・赤色粒子	明黄褐	体部外面平行叩き	覆土中層	

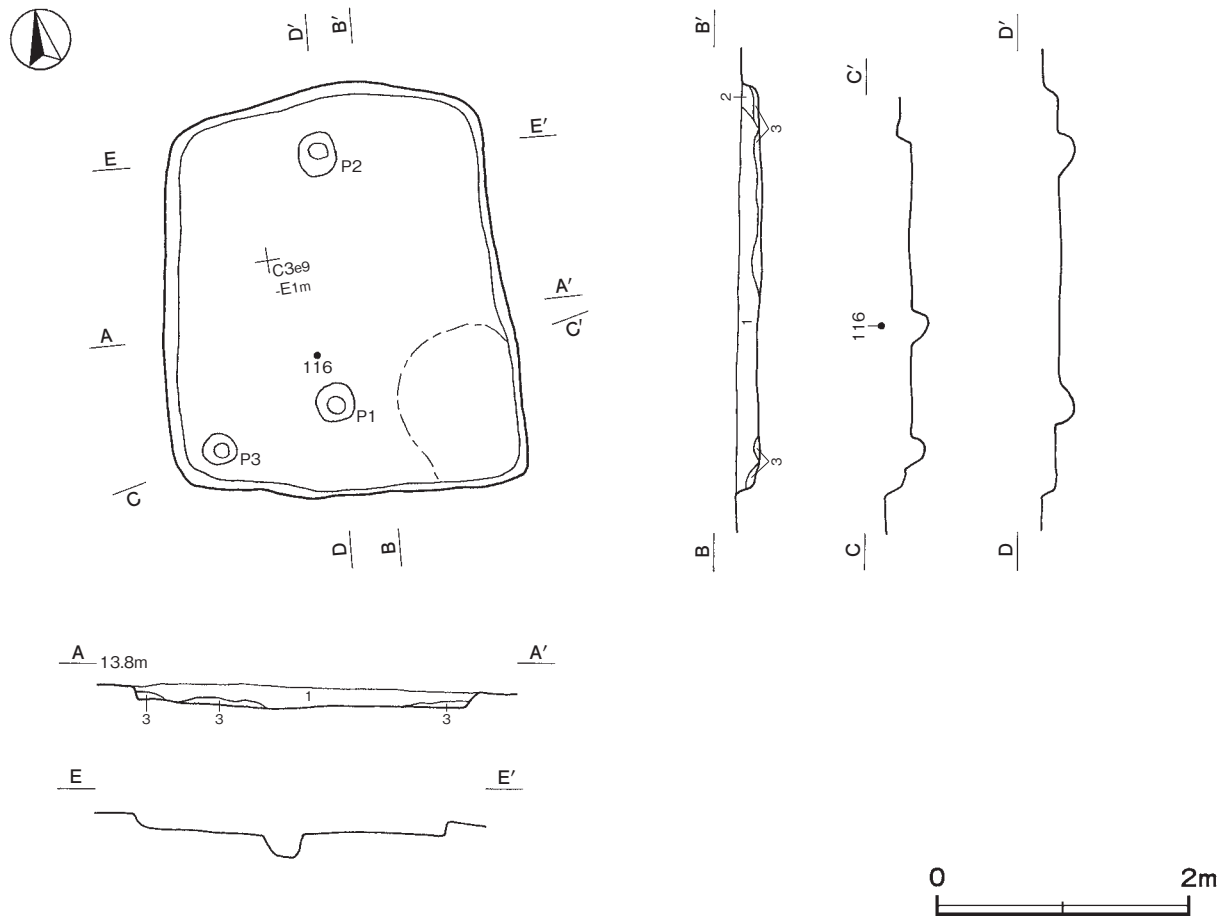
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP27	土玉	1.9	1.2	0.5	4.4	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL40
DP28	土玉	1.9	1.2	0.5	4.5	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL40
DP29	土玉	1.8	1.3	0.4	3.7	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土上層	PL40
DP30	土玉	1.8	1.1	0.4	3.3	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL40
DP31	土玉	1.8	1.1	0.4	3.4	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL40
DP32	土玉	1.6	1.0	0.4	2.5	長石	ナデ 一方向からの穿孔	覆土中層	PL40

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP33	羽口	(17.3)	8.6	6.2	(970.0)	長石	先端部に溶融物付着 ナデ 孔径2.5cm	覆土下層	PL41

第2号竪穴遺構（第166・167図）

位置 調査区北西部のC3e9区、標高14mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸3.24m、短軸2.80mの長方形で、長軸方向はN-8°-Eである。壁高は10～14cmで、外傾して立ち上がっている。



第166図 第2号竪穴遺構実測図

床 ほぼ平坦で、南東コーナー部が踏み固められている。

ピット 3か所。P 1・P 2は深さ14cm・19cmで、対になる配置から支柱穴と考えられる。P 3は深さ11cmで、性格不明である。

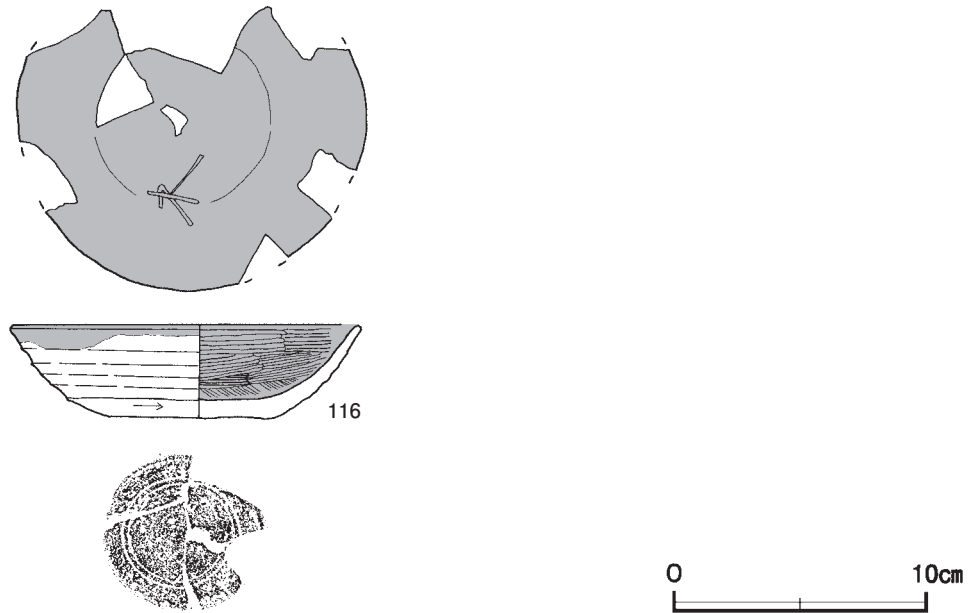
覆土 3層に分層できる。第1層は、周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。第2・3層は、ロームブロックや焼土粒子が含まれることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化材少量、ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 焼土粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片1点(坏)が出土している。また、混入した縄文土器片13点も出土している。116は南寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀後葉～10世紀初頭と考えられる。南東コーナー部が踏み固められていることから、出入り口部の可能性があるが、詳細な性格は不明である。



第167図 第2号竪穴遺構出土遺物実測図

第2号竪穴遺構出土遺物観察表 (第167図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
116	土師器	坏	13.8	3.9	6.5	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部下端回転ヘラ削り 内面ヘラ磨き 底部回転ヘラ切り 内面に刻書「木」または「水」カ	覆土上層	60% PL30

表14 平安時代竪穴遺構一覧表

番号	位置	平面形	主軸方向	規模	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
				長軸×短軸(m)				支柱穴	出入口	ピット	炬・竈	貯蔵穴				
1	D 3b8	方形	N-85°-E	2.86×2.64	16~20	凹凸	-	-	-	2	-	-	人為	土師器片、須恵器片、手捏土器、土玉、羽口、鉄滓	9世紀後葉 ~10世紀初頭	HG 1→本跡
2	C 3e9	長方形	N-8°-E	3.24×2.80	10~14	平坦	-	2	-	1	-	-	自然 人為	土師器片	9世紀後葉 ~10世紀初頭	

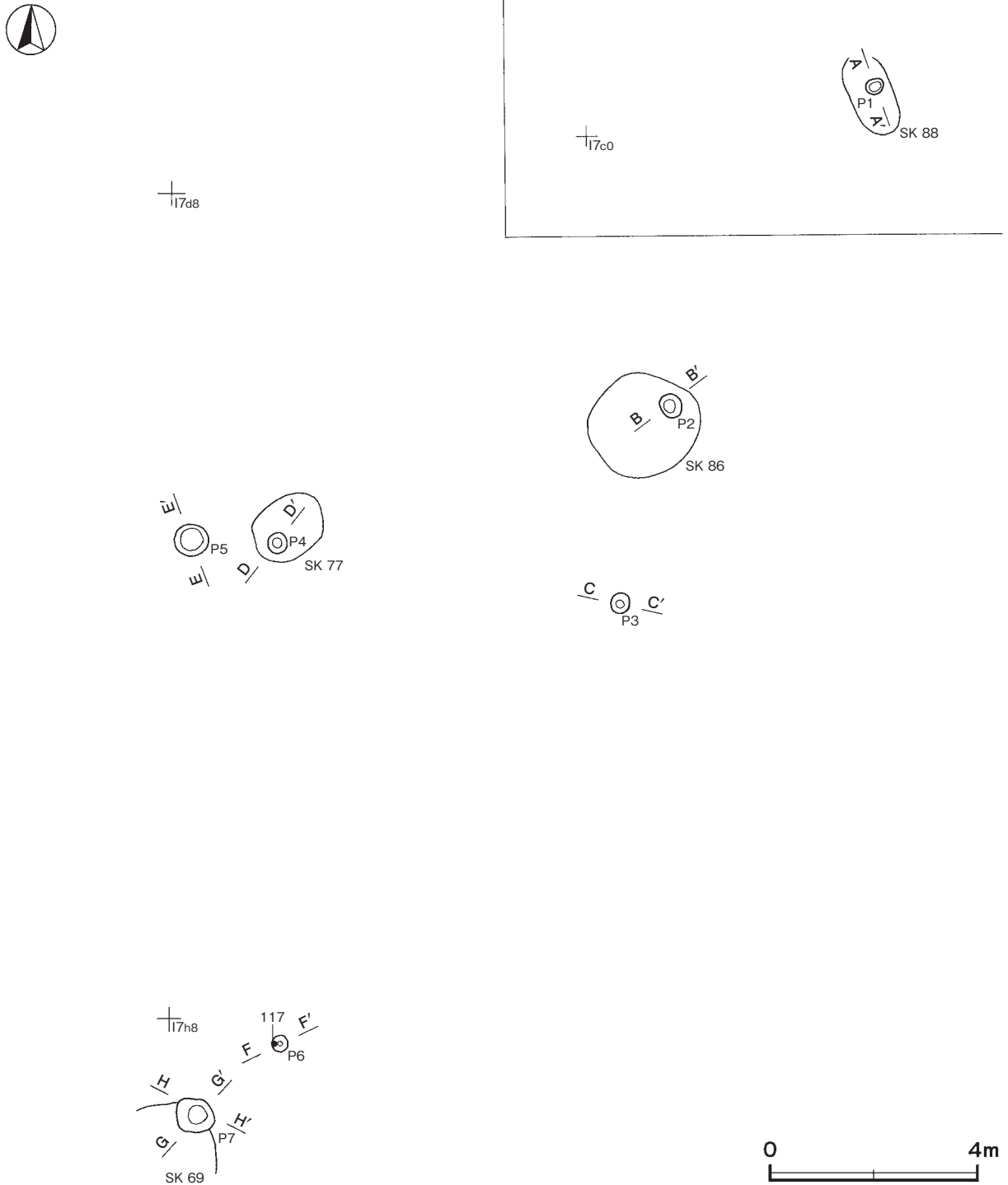
4 室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、ピット群 1 か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

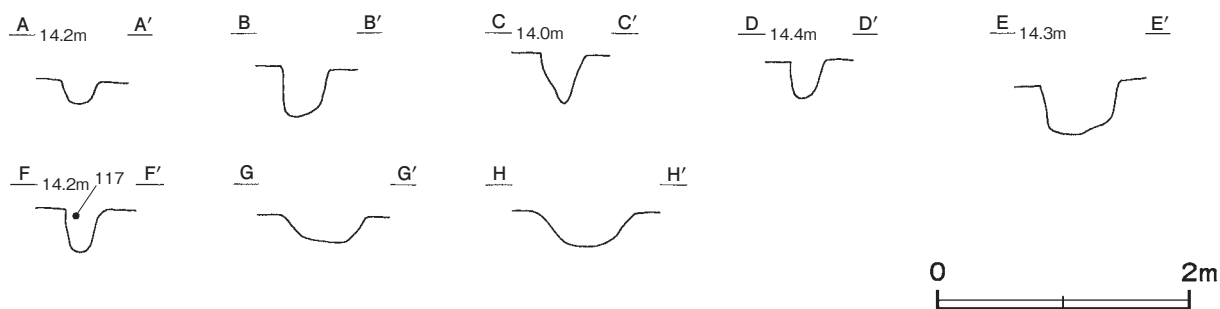
ピット群

第6号ピット群 (第 168 ~ 170 図)

位置 調査区南東部の標高 14 m ほど, I 8 b1 ~ I 7 h8 区にかけての東西 14 m, 南北 24 m の範囲から, 柱穴



第 168 図 第 6 号ピット群実測図 (1)



第 169 図 第 6 号ピット群実測図 (2)

状のピット 7 か所を確認した。

重複関係 第 23 号住居跡, 第 69・77・86・88 号土坑, 第 3 号遺物包含層を掘り込んでいる。

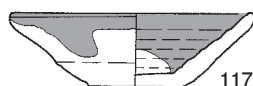
規模 平面形は長径 30～80cm, 短径 30～64cm の円形または楕円形で, 深さが 18～38cm である。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

遺物出土状況 土師質土器 1 点 (小皿) が出土している。117 は P 6 の覆土上層から, 正位の状態出土している。

所見 時期は, 出土土器から 16 世紀中葉～後葉と考えられる。

表 15 第 6 号ピット群ピット一覧表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	I 8 b1	楕円形	36	32	18	5	I 7 e8	円形	64	62	38
2	I 7 e0	楕円形	52	40	38	6	I 7 h8	円形	30	30	33
3	I 7 f0	楕円形	40	34	36	7	I 7 h8	楕円形	80	64	24
4	I 7 e8	楕円形	38	30	29						



第 170 図 第 6 号ピット群出土遺物実測図

第 6 号ピット群遺物観察表 (第 170 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
117	土師質土器	小皿	9.5	3.0	3.5	長石・石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後板状工具による圧痕 被熱痕	P 6 覆土上層	95% PL32

5 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期や性格が明らかでない炉跡4基、地点貝塚1か所、井戸跡1基、土坑169基、道路跡3条、溝跡30条、ピット群4か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 炉跡

第1号炉跡（第171図）

位置 調査区北西部のC4b3区、標高14mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号土坑を掘り込んでいる。

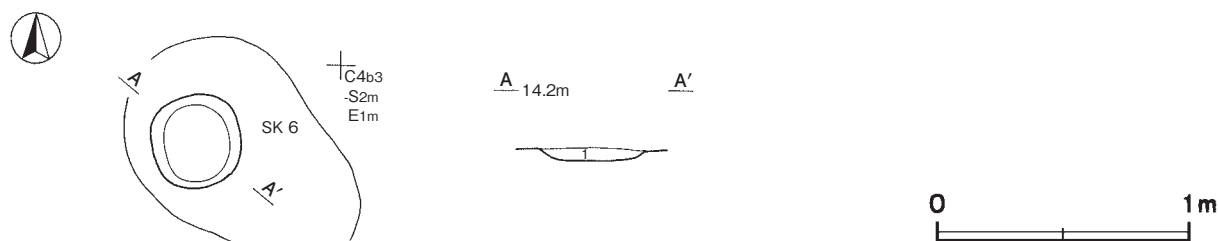
規模と形状 径37cmほどの円形である。炉床は深さ5cmで、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

覆土 単一層で、詳細は不明である。

土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

所見 時期は、土器が出土していないため不明である。



第171図 第1号炉跡実測図

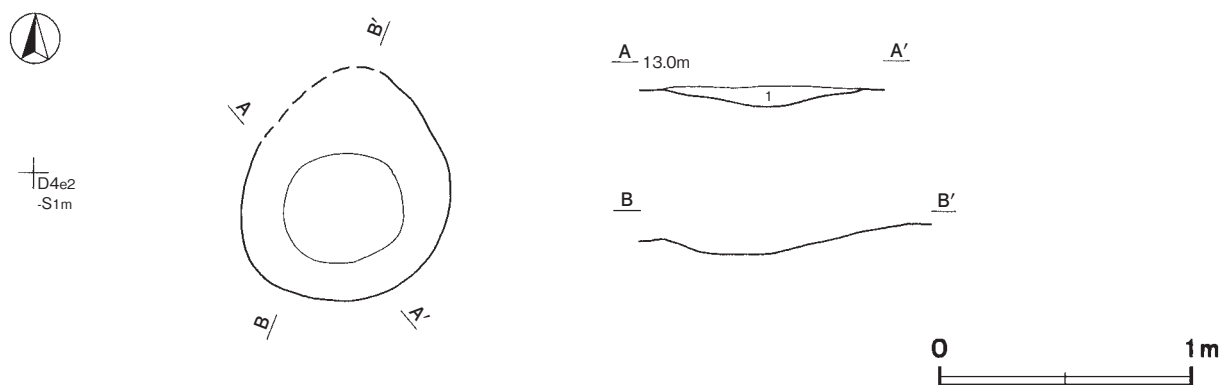
第3号炉跡（第172図）

位置 調査区中央部のD4e2区、標高13mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径94cm、短径80cmの楕円形である。炉床は深さ8cmで、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

覆土 単一層で、詳細は不明である。



第172図 第3号炉跡実測図

土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

所見 時期は、土器が出土していないため不明である。

第4号炉跡（第173図）

位置 調査区南東部のH7h2区、標高15mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径42cmほどの円形である。深さ15cmの鍋底状に掘りくぼめ、第2層を埋め戻して炉床を構築し、火床面は火を受けてわずかに赤変硬化している。

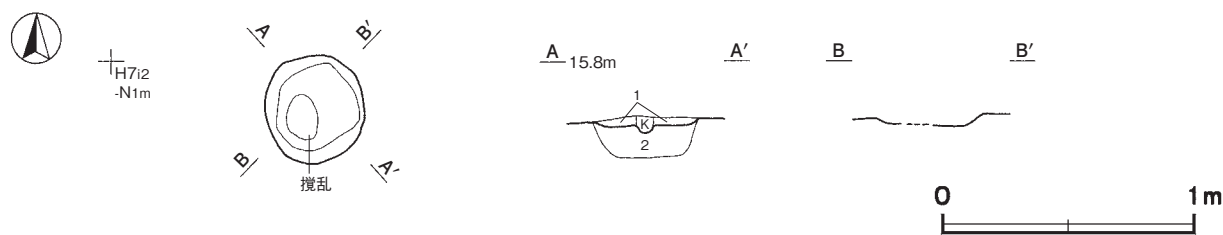
覆土 単一層で、詳細は不明である。

土層解説

1 褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

所見 時期は、土器が出土していないため不明である。



第173図 第4号炉跡実測図

第5号炉跡（第174図）

位置 調査区南東部のG6i9区、標高16mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第29号溝に掘り込まれている。

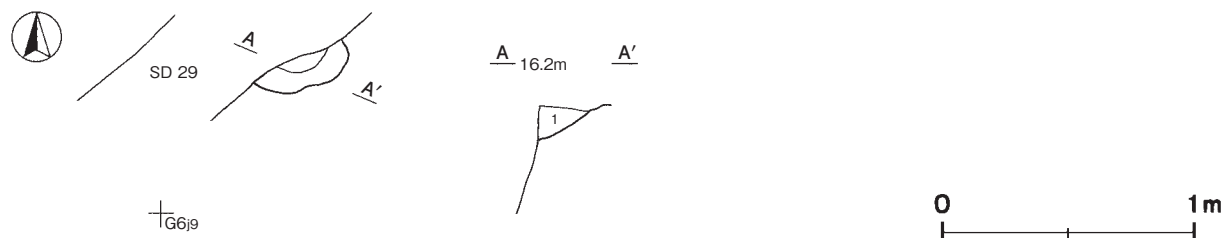
規模と形状 西半部を第29号溝に掘り込まれているため、東西35cm、南北13cmしか確認できなかった。楕円形と推定できる。炉床は深さ13cmで、火床面は火を受けて赤変硬化している。

覆土 単一層で、詳細は不明である。

土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック少量、ローム粒子微量

所見 時期は、土器が出土していないため不明である。



第174図 第5号炉跡実測図

表 16 その他の炉跡一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		炉床面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (cm)	深さ (cm)					
1	C 4 b3	-	円形	37 × 37	5	皿状	外傾	-		SK 6 → 本跡
3	D 4 e2	N - 21° - E	楕円形	94 × 80	8	皿状	外傾	-		HG 1 → 本跡
4	H 7 h2	-	円形	42 × 42	15	鍋底状	外傾	-		
5	G 6 i9	-	-	(35) × (13)	13	-	外傾	-		本跡 → SD29

(2) 地点貝塚

第 1 号地点貝塚 (第 175 図)

位置 調査区南東部の H 8 g2 区, 標高 15 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

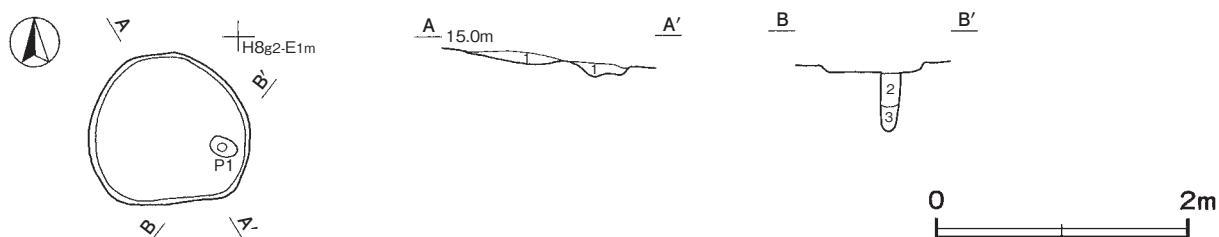
規模と形状 長径 1.29 m, 短径 1.21 m の円形で, 南東部に深さ 48cm のピットを確認した。覆土内に貝の散布を確認した。

貝層 3層に分層できる。第 1～3層は混貝土層で, 廃棄されたものと考えられる。出土した貝は, ヤマトシジミ 1,901 点である。

貝層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 1 褐 色 貝中量, ロームブロック少量, 破砕貝微量 | 3 褐 色 ロームブロック・貝・破砕貝微量 |
| 2 褐 色 貝少量, ロームブロック・破砕貝微量 | |

所見 時期は, 土器が出土していないため不明である。



第 175 図 第 1 号地点貝塚実測図

(3) 井戸跡

第 1 号井戸跡 (第 176 図)

位置 調査区中央部の G 5 a7 区, 標高 14 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 確認面での平面形は径 2.1 m ほどの円形で, 深さ 1.1 m まで漏斗状に掘り込まれ, それ以下は, 径 0.9 m ほどの円筒状に掘り込まれている。201cm まで掘り下げたが, 崩落のおそれがあることから, 以下の調査を断念した。

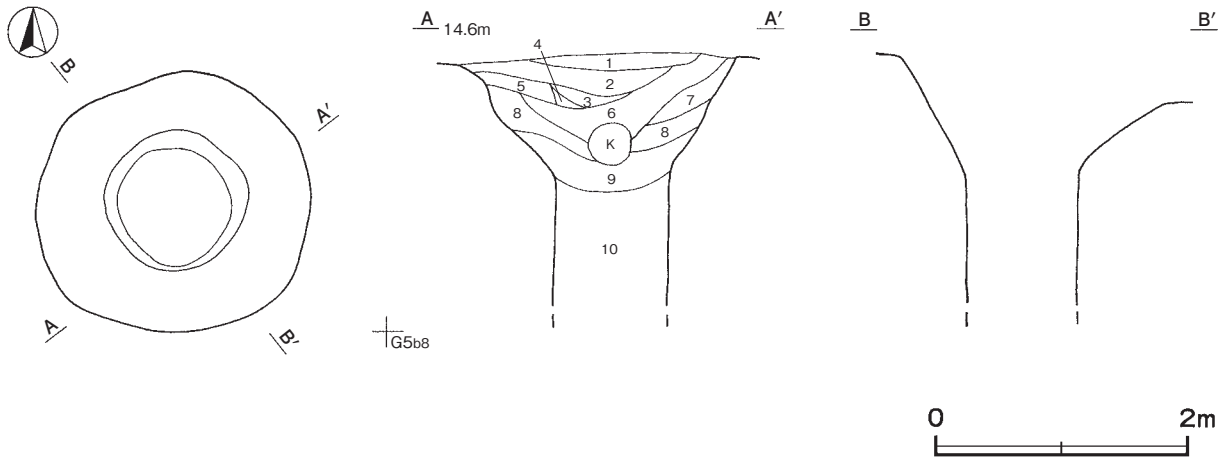
覆土 10層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------------|--------------------------------|
| 1 黒 褐 色 ロームブロック中量, 炭化材少量, 焼土粒子微量 | 6 黒 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子・粘土粒子微量 |
| 2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・粘土粒子微量 | 7 暗 褐 色 ロームブロック少量 |
| 3 黒 褐 色 ロームブロック微量 | 8 暗 褐 色 ロームブロック微量 |
| 4 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子微量 | 9 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 5 極暗褐色 ロームブロック少量 | 10 暗 褐 色 ロームブロック中量, 粘土粒子微量 |

遺物出土状況 混入した縄文土器片 5 点が出土している。

所見 本跡に伴う遺物が出土していないため, 時期は不明である。



第 176 図 第 1 号井戸跡実測図

(4) 土坑

今回の調査で、時期不明の土坑 169 基を確認した。そのうち、第 21・27・148 号土坑の覆土から焼土塊を確認したが、赤変硬化した炉床と考えられる面は検出できなかったため、焼土塊は覆土の一部と判断した。これらの土坑については文章で説明し、その他の土坑については、それぞれ実測図と土層解説及び一覧表のみ掲載する。(第 180～194 図)

第 21 号土坑 (第 177 図)

位置 調査区中央部の D 4j0 区、標高 14 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第 13 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.62 m、短径 1.20 m の楕円形で、長径方向は N - 42° - E である。深さは 23cm で、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

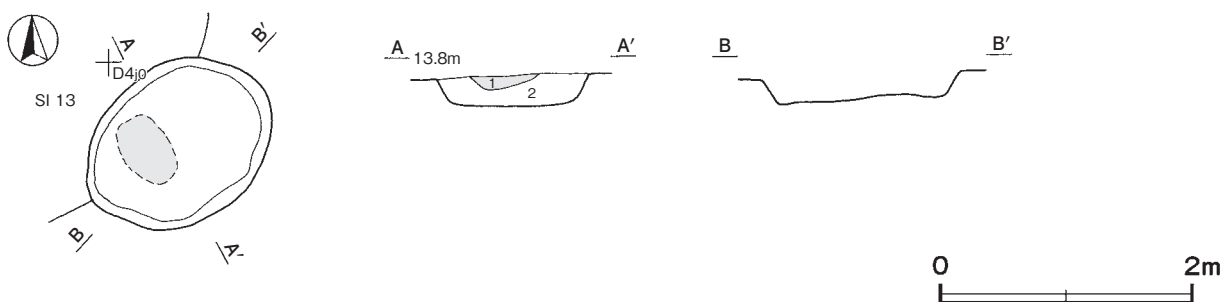
覆土 2 層に分層できる。第 1 層から焼土塊が確認されており、第 2 層にはロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 6 点が、覆土中から出土している。

所見 伴う遺物が出土していないため、時期や性格は不明である。



第 177 図 第 21 号土坑実測図

第 27 号土坑 (第 178 図)

位置 調査区北西部の D 4 b6 区, 標高 14 m ほどの緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 1.34 m, 短径 0.68 m の不整楕円形で, 長径方向は N - 48° - E である。深さは 19cm で, 底面は凹凸がある。壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

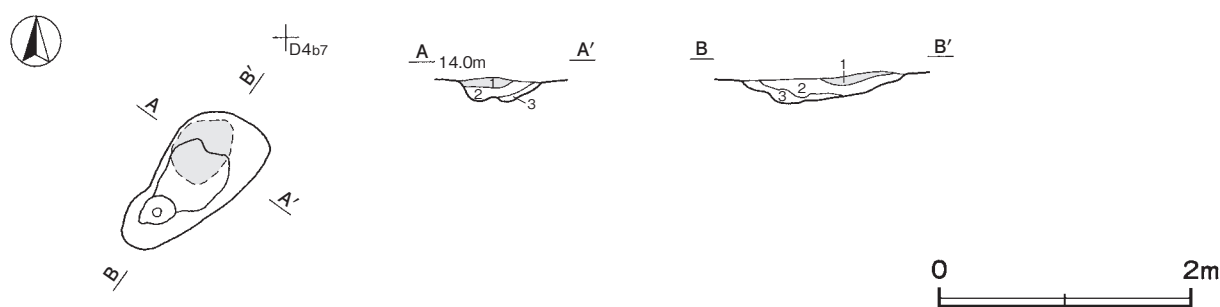
覆土 3層に分層できる。第 1層から焼土塊が確認されている。ブロック状の堆積状況から, 埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| 1 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化物・ローム粒子微量 | 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量 | |

遺物出土状況 縄文土器片 1 点が, 覆土中から出土している。

所見 伴う遺物が出土していないため, 時期や性格は不明である。



第 178 図 第 27 号土坑実測図

第 148 号土坑 (第 179 図)

位置 調査区中央部の E 5 h4 区, 標高 14 m ほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第 4号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.03 m, 短径 0.83 m の楕円形で, 長径方向は N - 8° - W である。深さは 9 cm で, 底面は平坦である。壁は緩やかに傾斜して立ち上がっている。

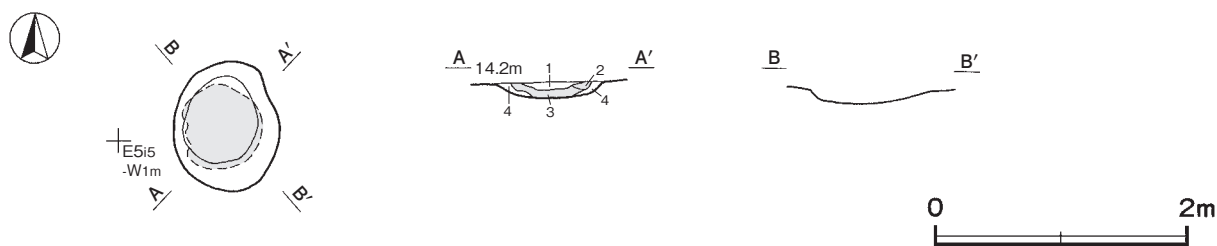
覆土 4層に分層できる。第 2・3層から焼土塊が確認されている。全体として焼土ブロックや炭化粒子などの含有物が多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

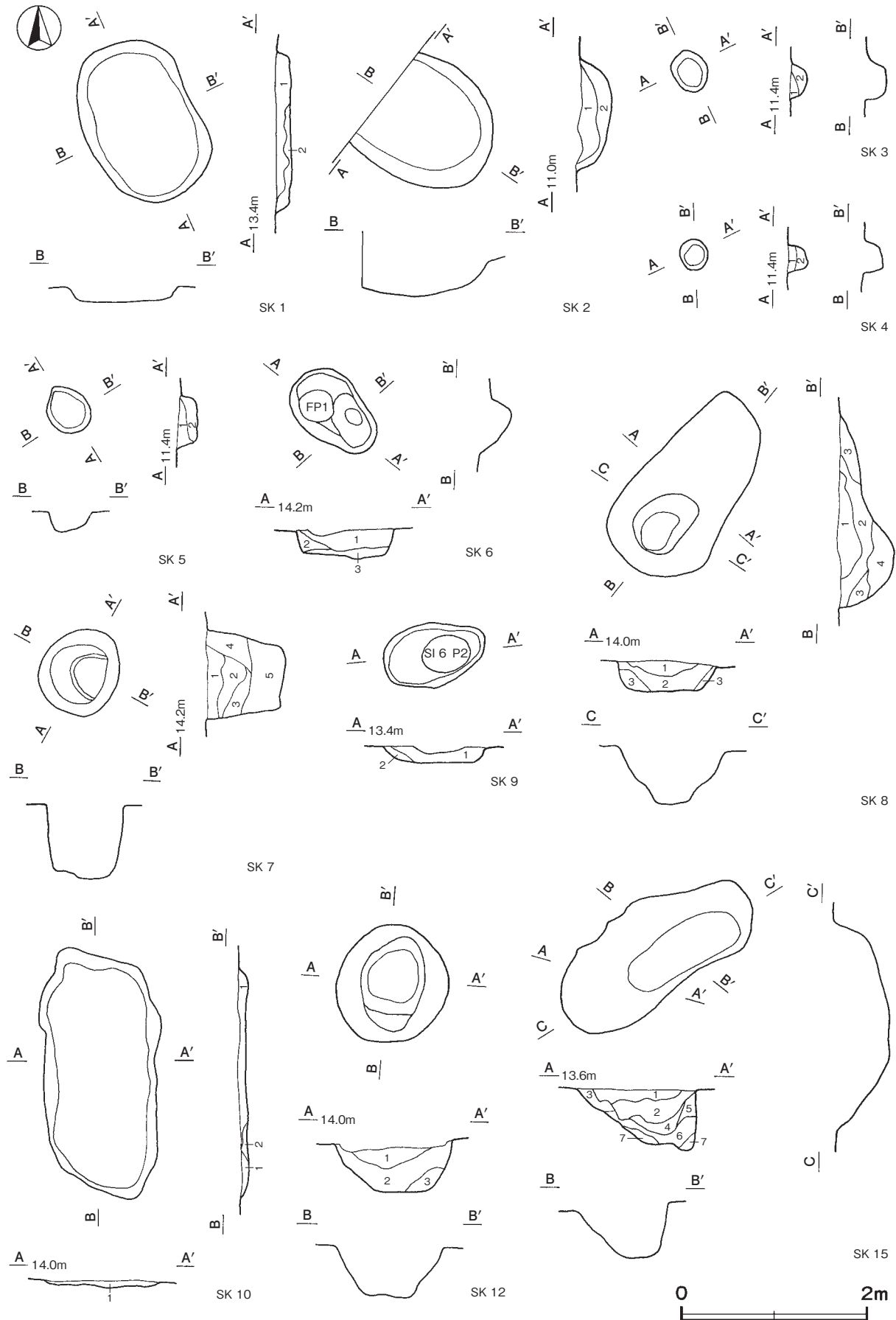
- | | |
|------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土ブロック・ローム粒子微量 | 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量, 炭化物微量 |
| 2 暗赤褐色 焼土ブロック少量, 炭化物微量 | 4 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片 15 点, 鉄滓 1 点が, 覆土中から出土している。

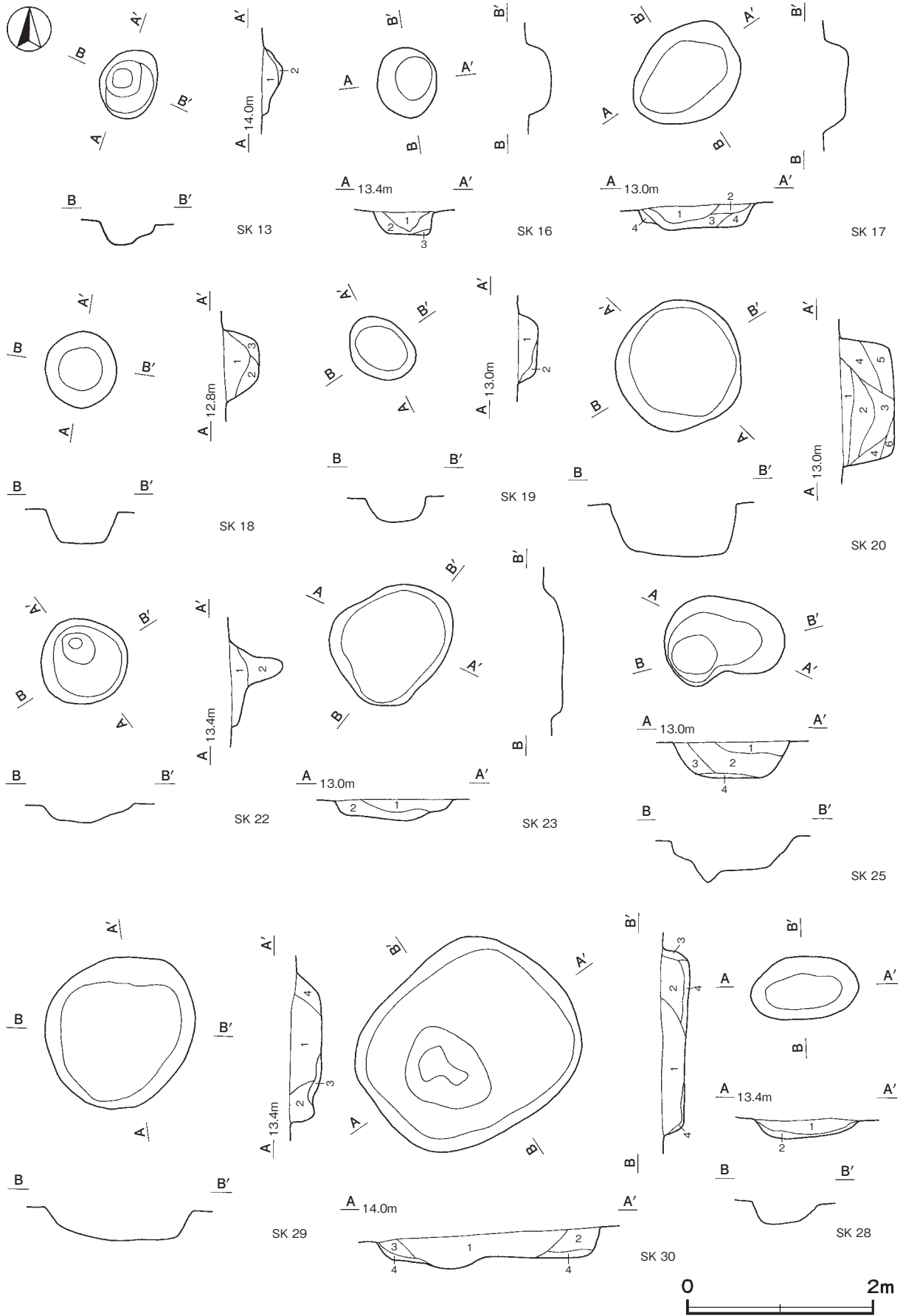
所見 伴う遺物が出土していないため, 時期や性格は不明である。



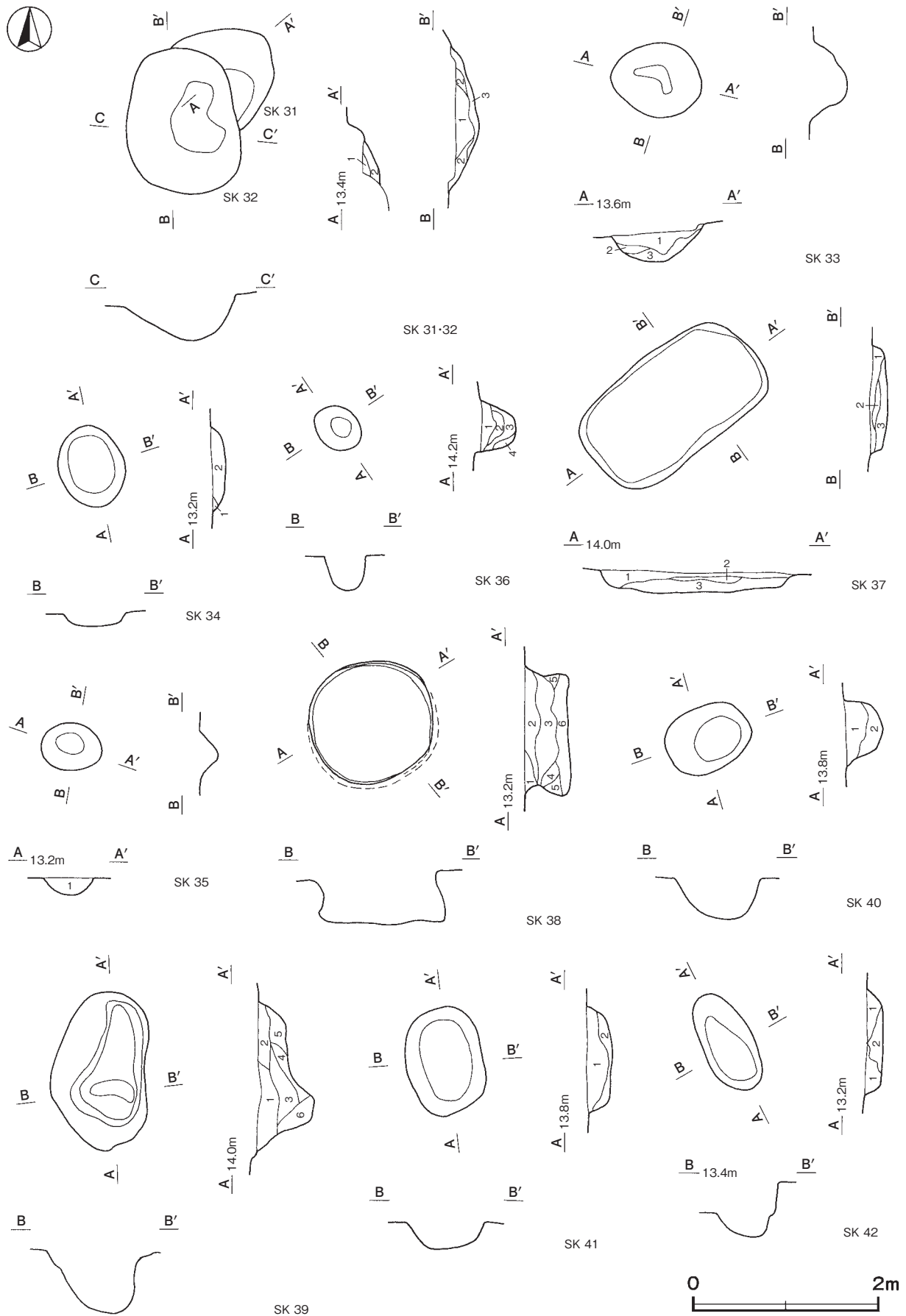
第 179 図 第 148 号土坑実測図



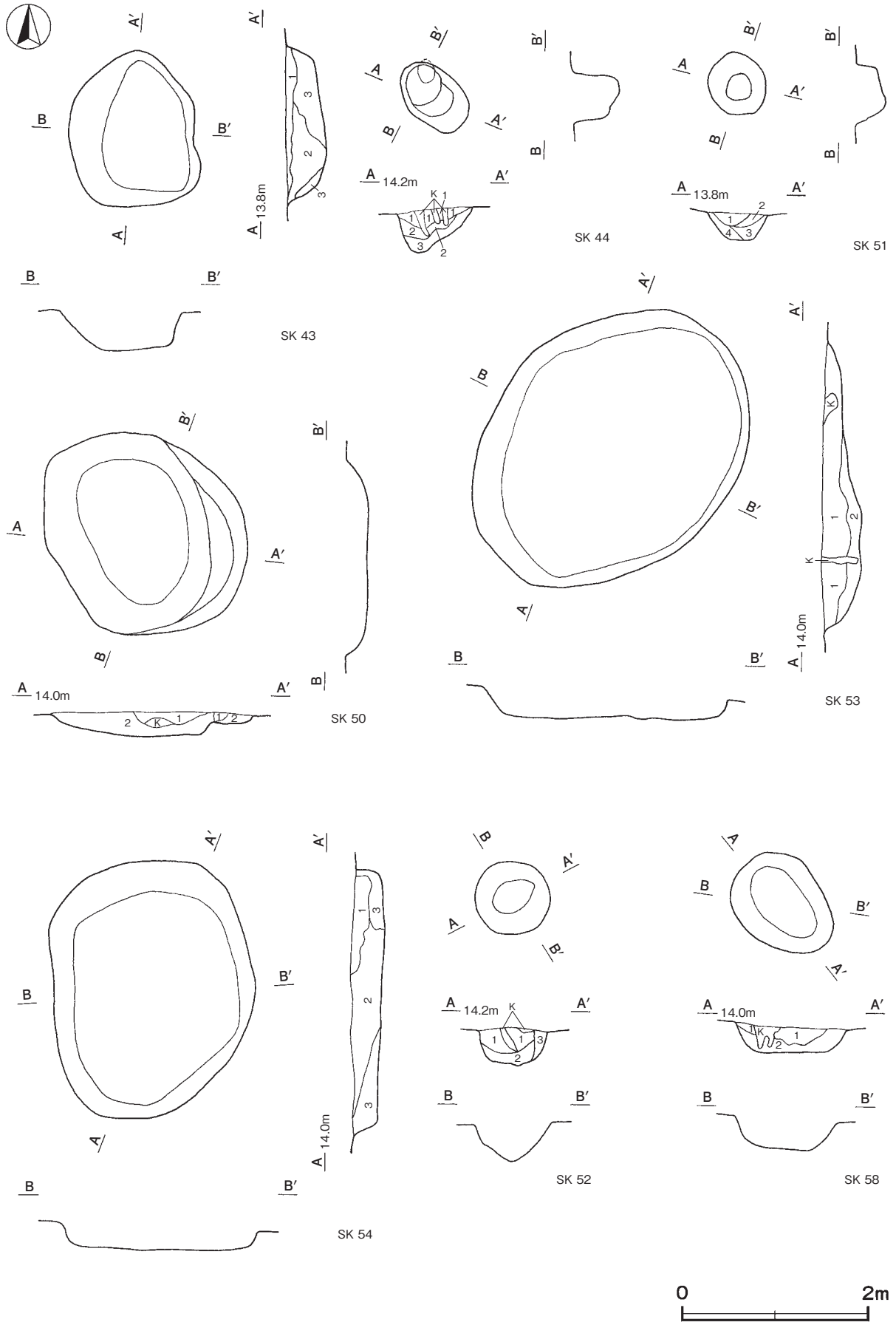
第 180 図 その他の土坑実測図 (1)



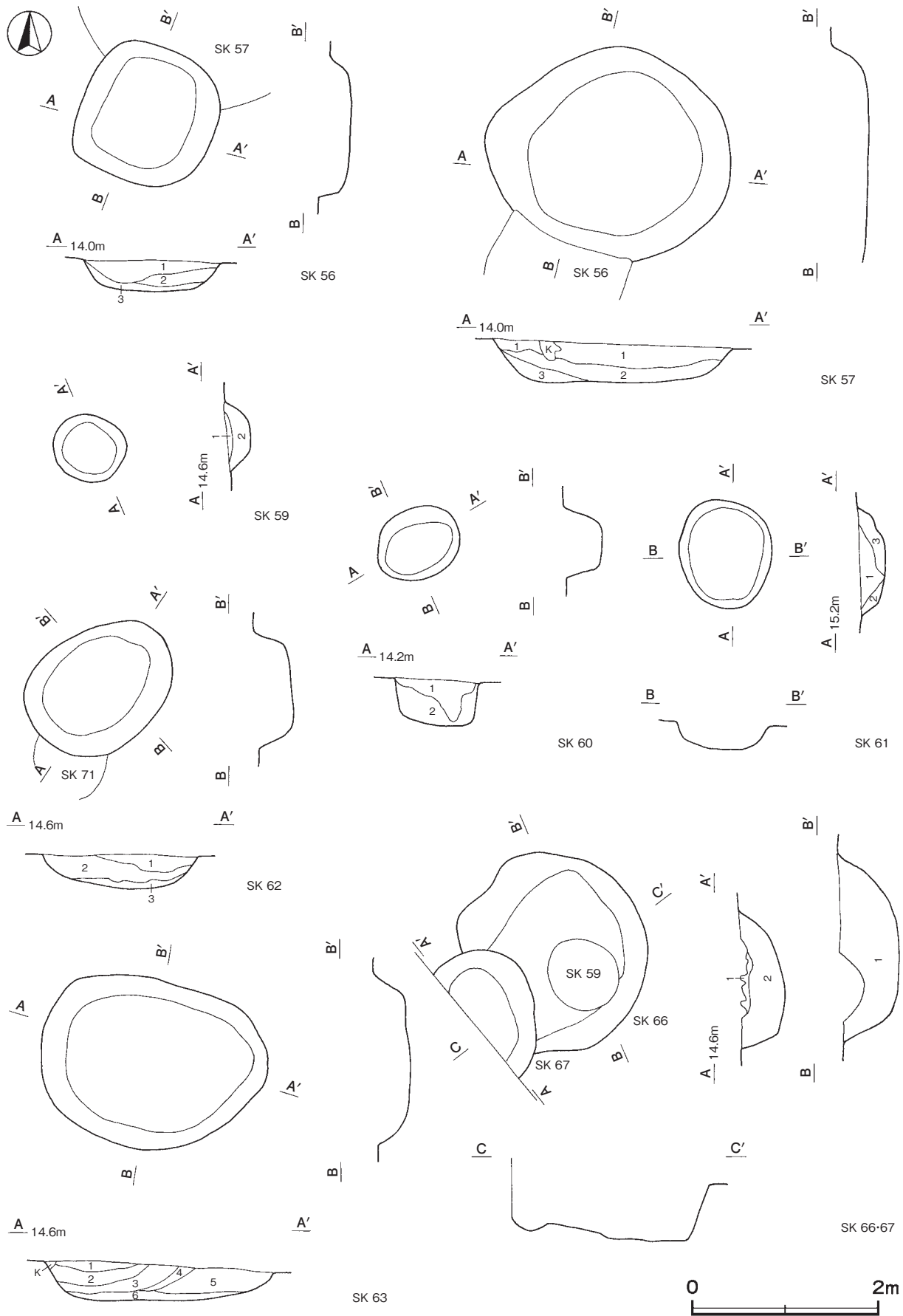
第 181 図 その他の土坑実測図 (2)



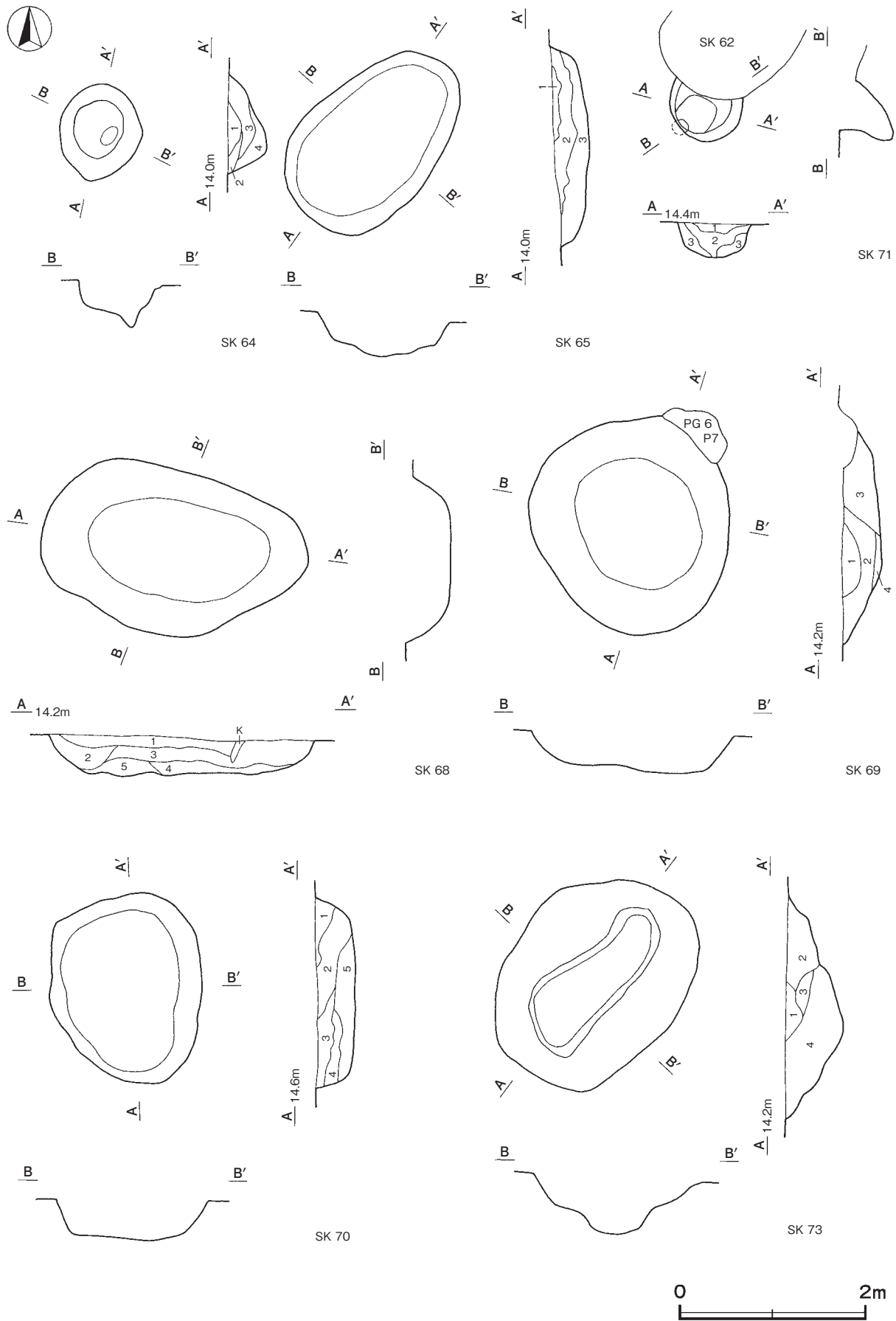
第 182 図 その他の土坑実測図 (3)



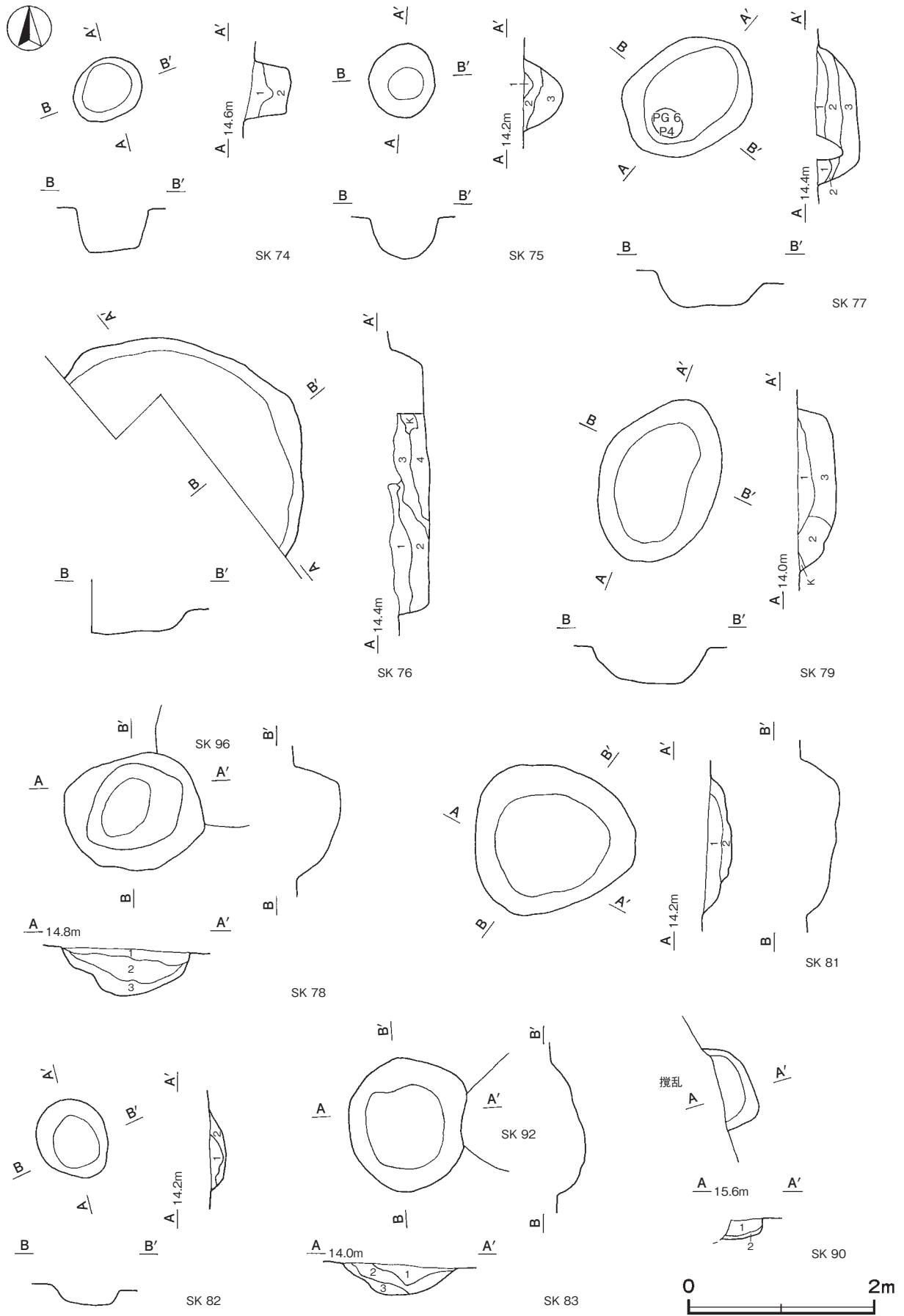
第 183 図 その他の土坑実測図 (4)



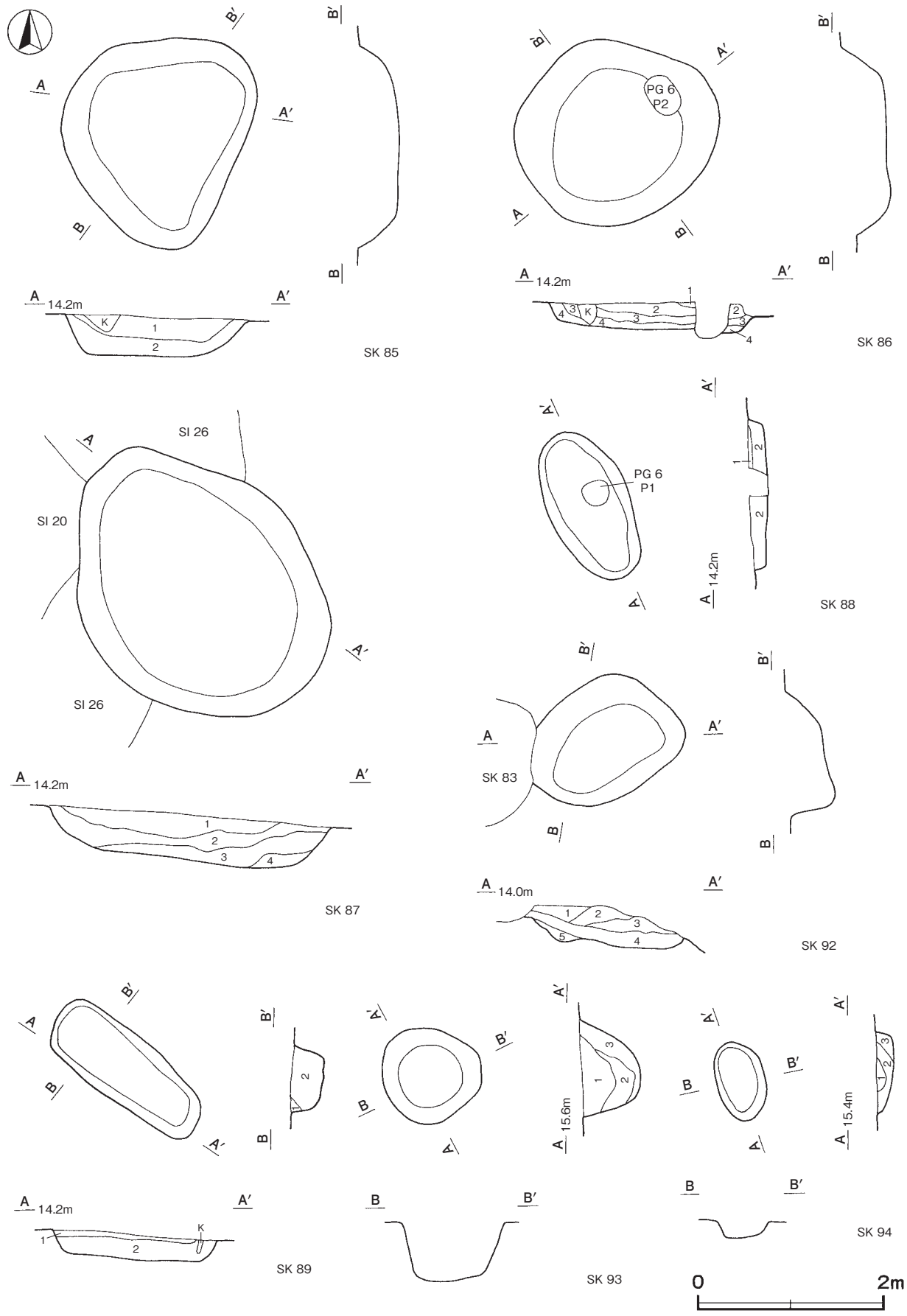
第 184 図 その他の土坑実測図 (5)



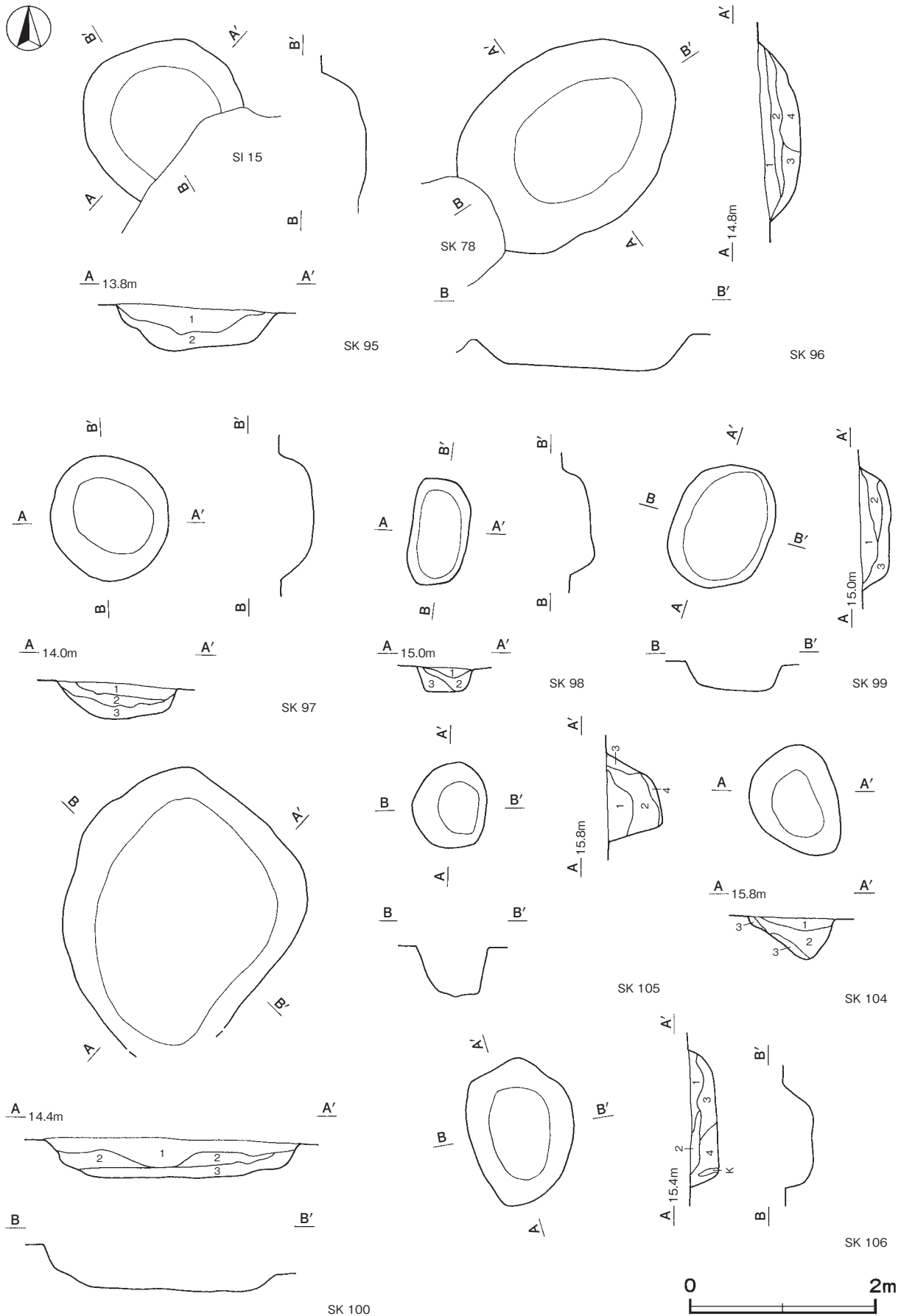
第 185 図 その他の土坑実測図 (6)



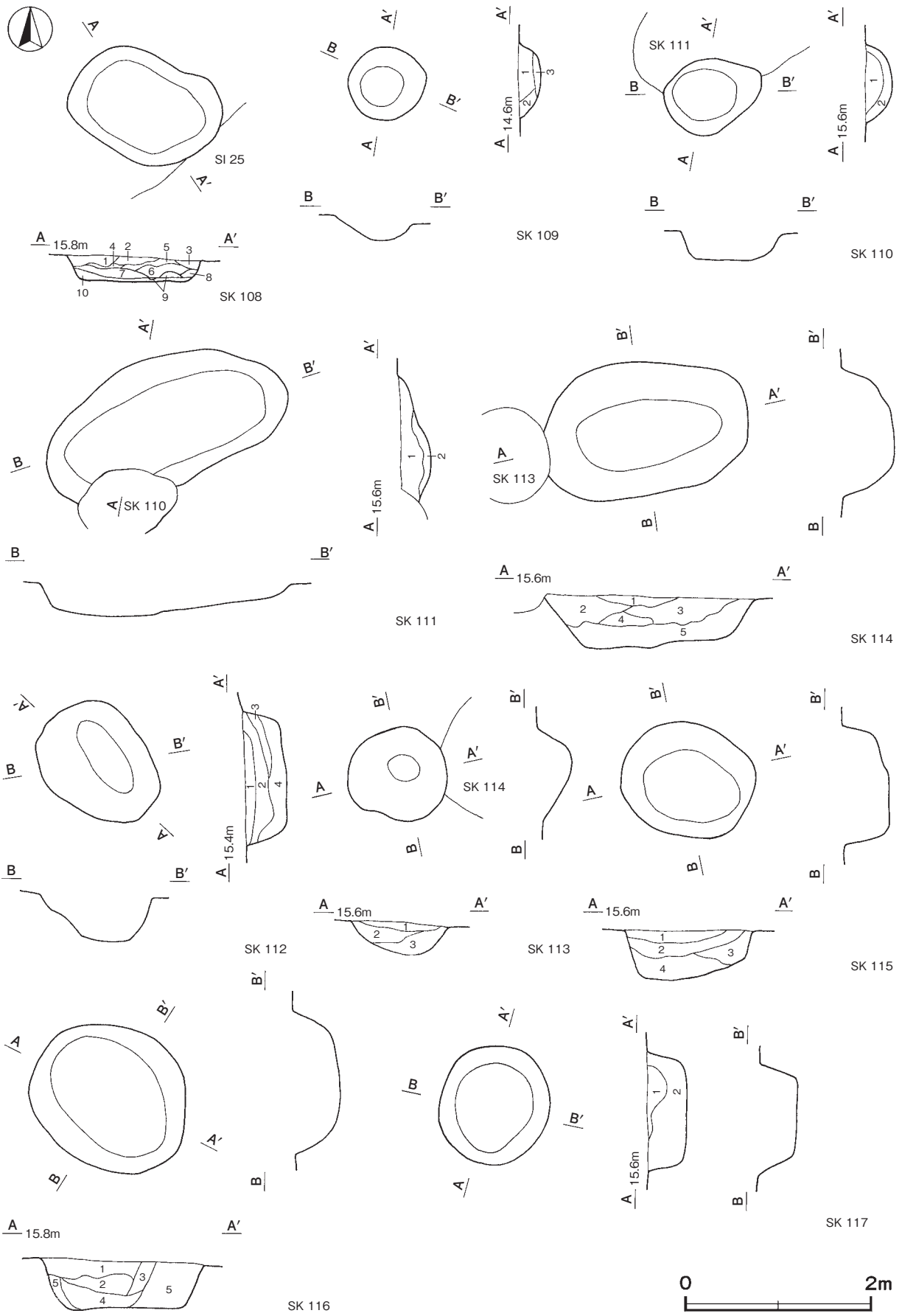
第 186 図 その他の土坑実測図 (7)



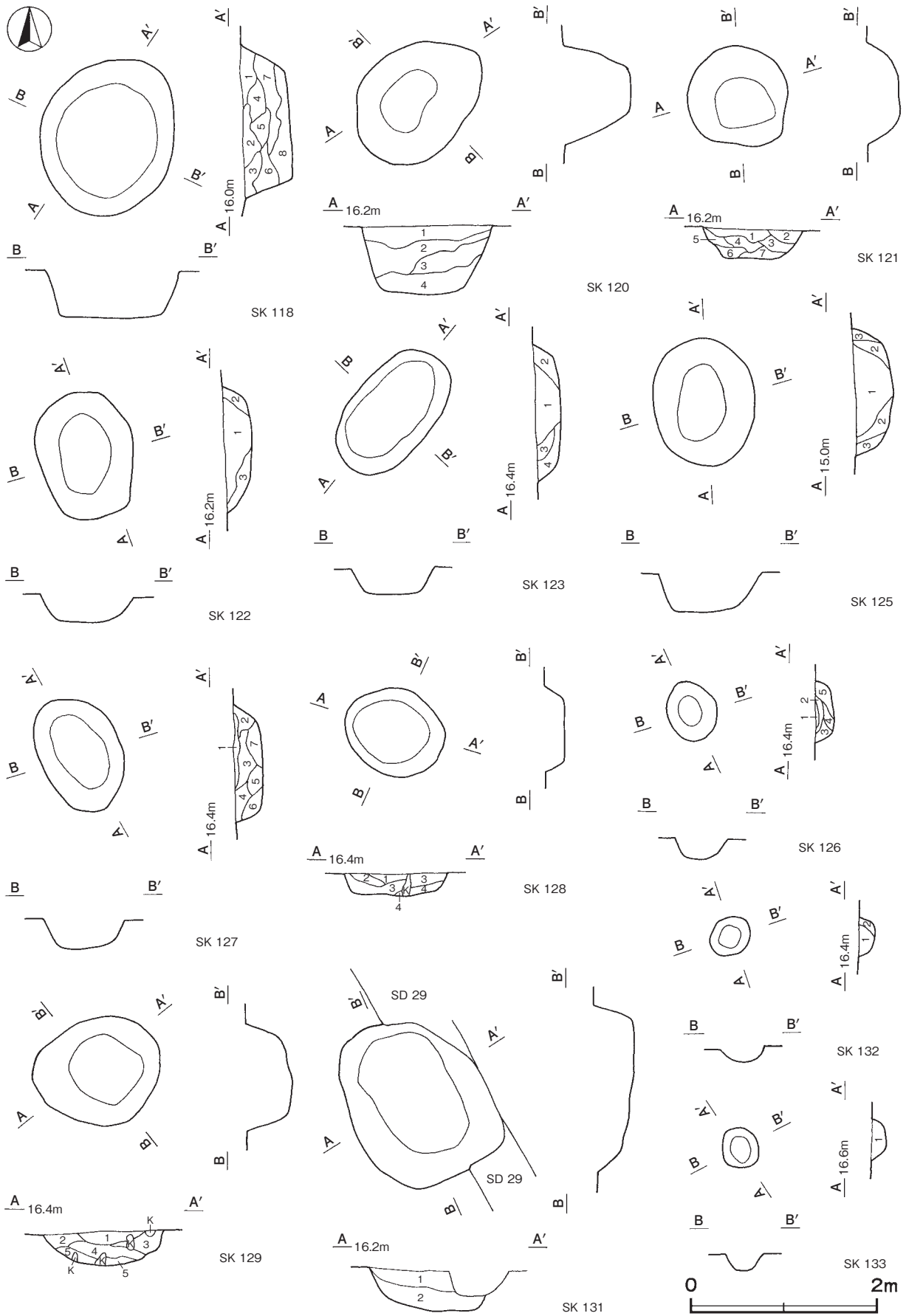
第 187 図 その他の土坑実測図 (8)



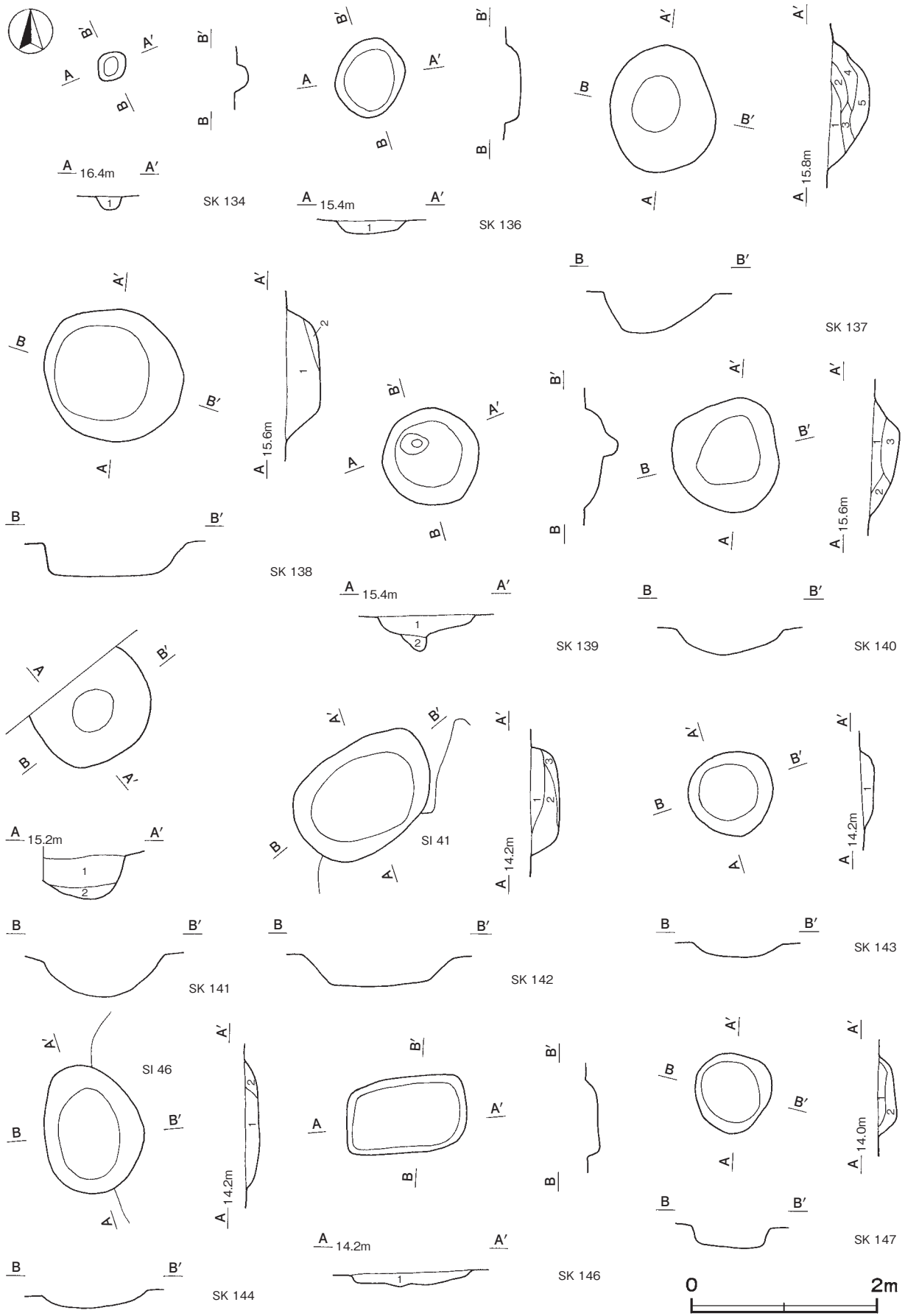
第 188 図 その他の土坑実測図 (9)



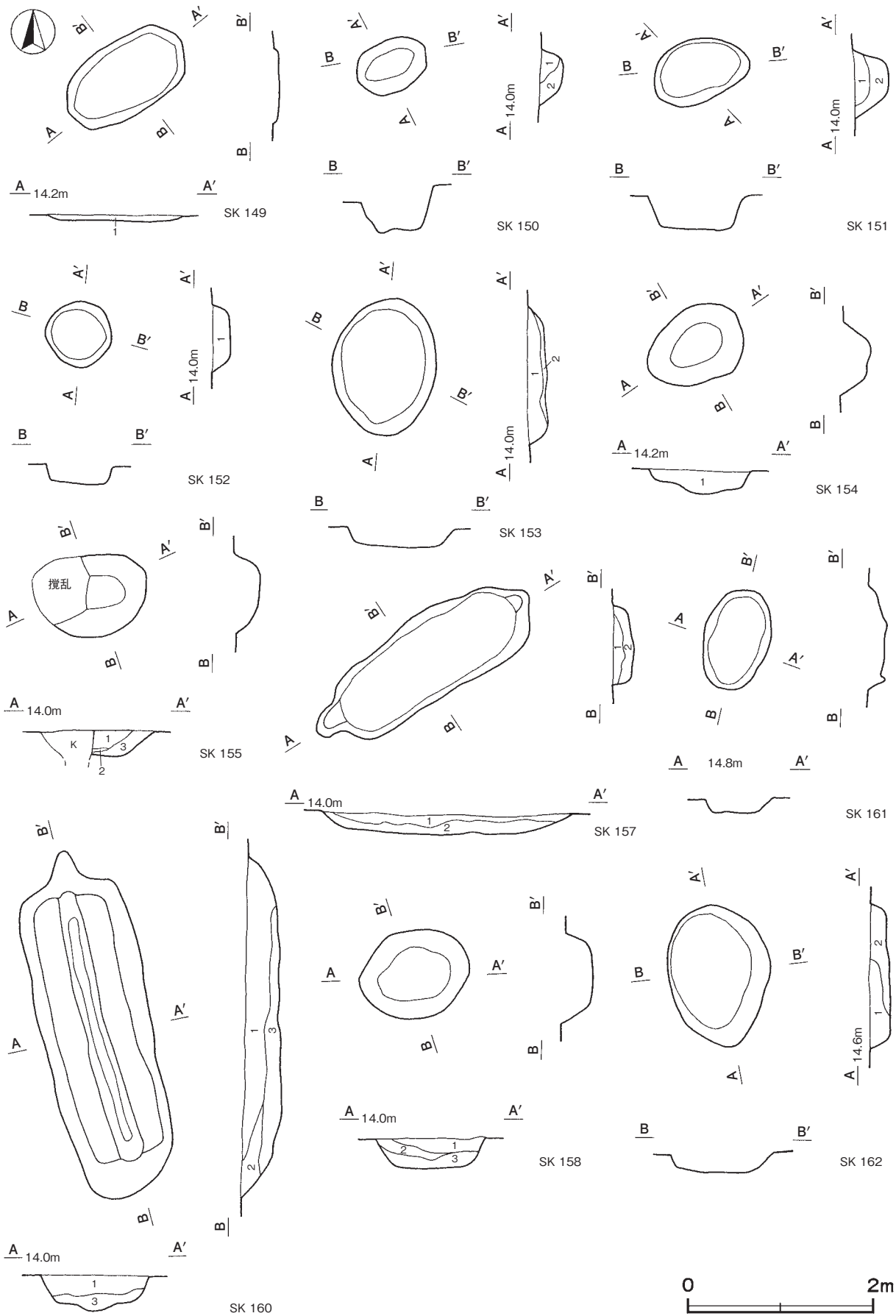
第 189 図 その他の土坑実測図 (10)



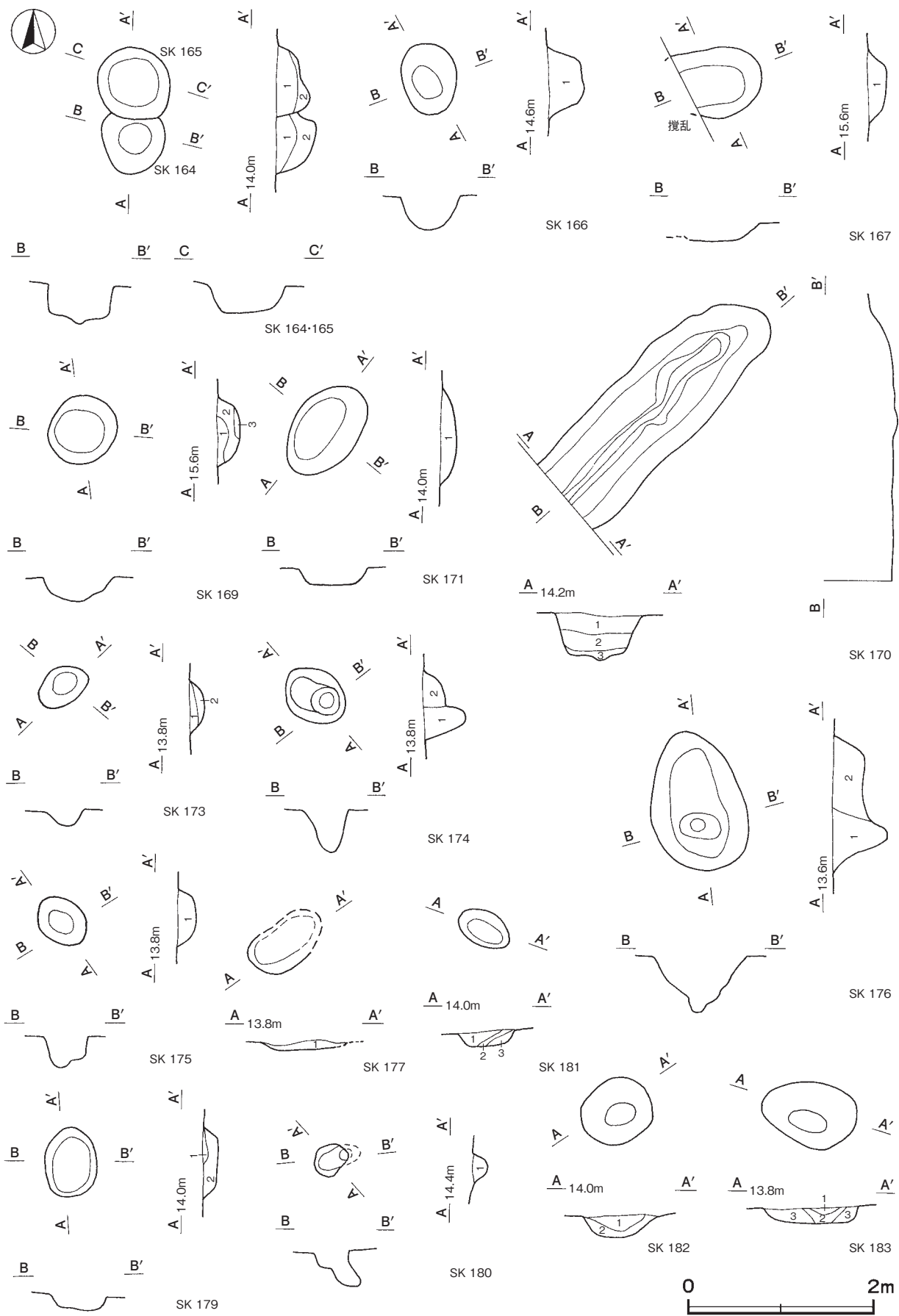
第 190 図 その他の土坑実測図 (11)



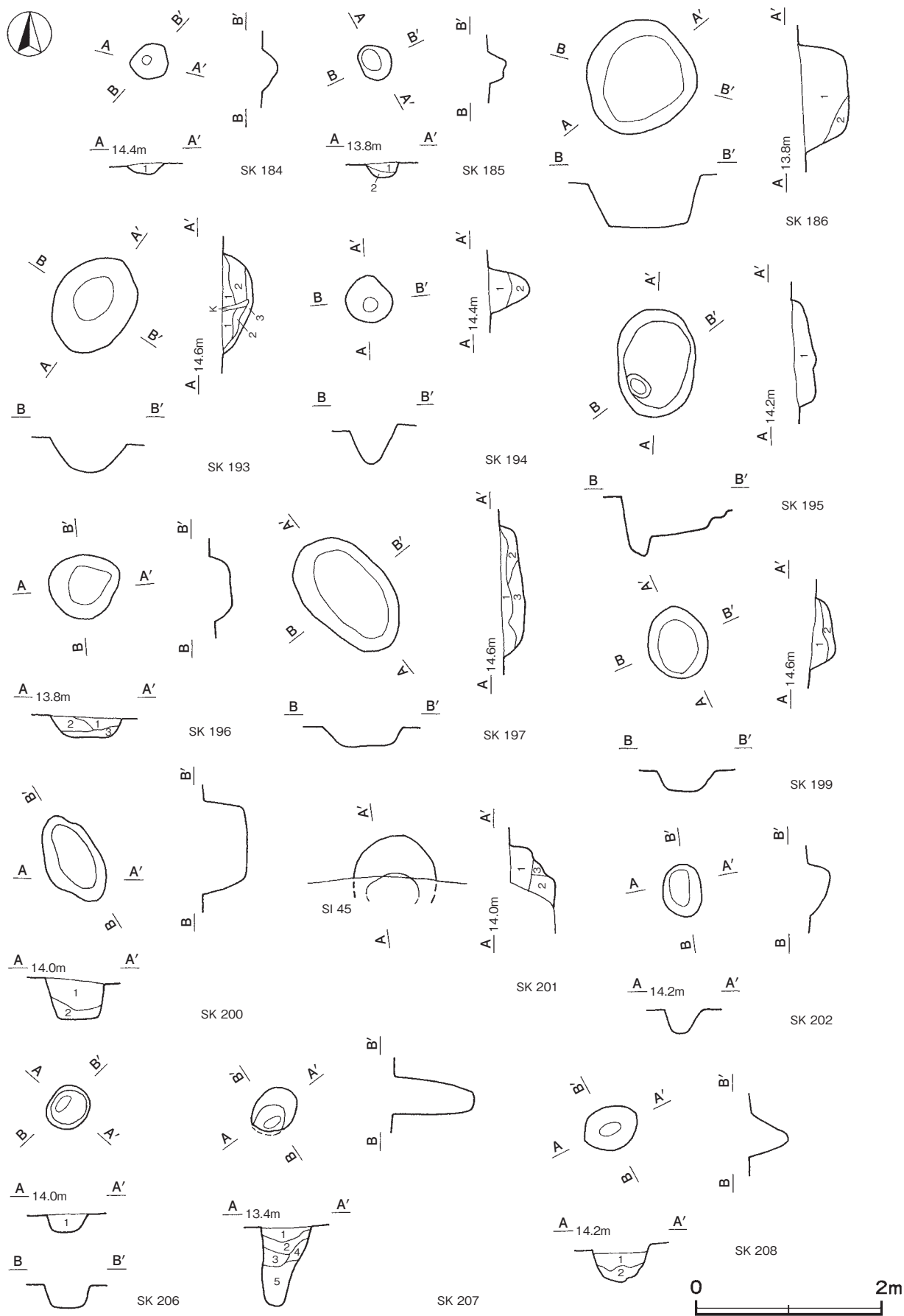
第 191 図 その他の土坑実測図 (12)



第 192 図 その他の土坑実測図 (13)



第 193 図 その他の土坑実測図 (14)



第 194 図 その他の土坑実測図 (15)

第1号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化材中量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第2号土坑土層解説

- 1 褐色 砂粒多量, 粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 砂粒多量, ロームブロック・粘土粒子微量

第3号土坑土層解説

- 1 暗褐色 砂粒多量, ローム粒子少量, 粘土粒子微量
- 2 暗褐色 砂粒多量, ロームブロック・細礫少量, 粘土粒子微量

第4号土坑土層解説

- 1 暗褐色 砂粒多量, ローム粒子少量, 粘土粒子微量
- 2 暗褐色 砂粒多量, ロームブロック・細礫少量, 粘土粒子微量

第5号土坑土層解説

- 1 暗褐色 砂粒多量, ローム粒子少量, 粘土粒子微量
- 2 暗褐色 砂粒多量, ロームブロック・細礫少量, 粘土粒子微量

第6号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第7号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第8号土坑土層解説

- 1 黒色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第9号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第10号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化物中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第12号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第13号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第15号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量 (第1層より明るい色調)
- 5 褐色 ロームブロック中量
- 6 暗褐色 ロームブロック中量
- 7 褐色 ロームブロック中量 (第5層より明るい色調)

第16号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第17号土坑土層解説

- 1 黒色 炭化物少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第18号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第19号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第20号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 粘土ブロック微量
- 6 暗褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量

第22号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第23号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第25号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第28号土坑土層解説

- 1 黒色 焼土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

第29号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第30号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第31号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量

第32号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック微量
- 3 黒褐色 ロームブロック少量

第 33 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第 34 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 極暗褐色 ロームブロック微量

第 35 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック微量

第 36 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第 37 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 砂粒少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 炭化物中量, ロームブロック・焼土粒子・砂粒微量

第 38 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量 (第6層より締まりが強い)
- 3 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 極暗褐色 ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量
- 6 黒褐色 ロームブロック少量

第 39 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量
- 6 褐色 ロームブロック少量

第 40 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量

第 41 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第 42 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 43 号土坑土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化物・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量

第 44 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック中量

第 50 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

第 51 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量

第 52 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量

第 53 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

第 54 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 56 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第 57 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第 58 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 59 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量

第 60 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 黒色ブロック少量

第 61 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 黄褐色 ロームブロック多量

第 62 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第 63 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 5 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 6 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第 64 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第 65 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量

第 66 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量

第 67 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第 68 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第 69 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 4 明褐色 ロームブロック多量

第 70 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 褐色 ロームブロック少量

第 71 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 73 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック微量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第 74 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

第 75 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第 76 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック多量

第 77 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第 78 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子中量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子微量
- 3 明褐色 ロームブロック多量

第 79 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第 81 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

第 82 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

第 83 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第 85 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第 86 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 4 黄褐色 ロームブロック多量

第 87 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子・焼土粒子微量
- 4 明褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

第 88 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量
- 2 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

第 89 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第 90 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第 92 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 5 明褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

第 93 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第 94 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量

第 95 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第 96 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 97 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第 98 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック・焼土粒子多量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

第 99 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 100 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量
- 3 明褐色 ロームブロック多量, 炭化粒子微量

第 104 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 105 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック中量

第 106 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第 108 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック微量
- 2 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量
- 3 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子中量, ローム粒子微量
- 5 黒褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子微量
- 6 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック・焼土粒子少量
- 7 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量
- 8 褐色 焼土ブロック少量, ロームブロック・炭化物微量
- 9 黒褐色 炭化物中量, ロームブロック少量, 焼土ブロック微量
- 10 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量

第 109 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第 110 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 111 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子中量, ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量

第 112 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック少量

第 113 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量

第 114 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量

第 115 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量

第 116 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量

第 117 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗褐色 ロームブロック少量, 焼土ブロック微量

第 118 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 5 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 6 褐色 ロームブロック中量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 8 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 120 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量
- 3 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 121 号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック微量
- 2 灰褐色 ロームブロック少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック少量
- 4 褐色 ロームブロック微量 (第 1 層より明るい色調)
- 5 灰黄褐色 ロームブロック中量
- 6 にぶい褐色 ロームブロック微量
- 7 褐色 ロームブロック少量

第 122 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 にぶい黄褐色 ロームブロック微量

第 123 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 3 灰褐色 ロームブロック微量
- 4 暗褐色 ロームブロック中量

第 125 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック少量
- 3 黄褐色 ロームブロック中量

第 126 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 褐 色 ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第 127 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 灰 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量, 炭化物微量
- 4 におい黄褐色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 5 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 6 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 7 明 褐 色 ロームブロック中量

第 128 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐 色 ロームブロック少量

第 129 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量
- 4 極暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 131 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第 132 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 133 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量

第 134 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 136 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 137 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物微量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量 (第2層より明るい色調)
- 5 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 138 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 139 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 140 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック少量

第 141 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 142 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子微量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 143 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ローム粒子・炭化粒子微量

第 144 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量

第 146 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 147 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 149 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第 150 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 151 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 粘土粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 152 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 153 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 154 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 155 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 157 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 黒 褐 色 炭化物中量, 焼土ブロック少量, ロームブロック微量

第 158 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 160 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 黒 褐 色 炭化物少量, ロームブロック微量
- 3 黒 色 炭化物中量, ロームブロック・焼土ブロック少量

第 162 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 164 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 165 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 166 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 167 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量

第 169 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 170 号土坑土層解説

- 1 黒 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒 褐 色 炭化物・ローム粒子・焼土粒子微量
- 3 黒 色 炭化物少量, 焼土ブロック・ローム粒子微量

第 171 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 173 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 焼土粒子少量, ロームブロック微量
- 2 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量

第 174 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 175 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量

第 176 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 2 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量

第 177 号土坑土層解説

- 1 黒 色 砂粒少量, ロームブロック微量

第 179 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量

第 180 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子中量, ロームブロック微量

第 181 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 3 にい黄褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 182 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 にい黄褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 183 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量
- 2 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 184 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子少量, ロームブロック微量

第 185 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第 186 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 炭化粒子中量, ロームブロック微量
- 2 にい黄褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第 193 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 砂粒微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, 砂粒微量
- 3 にい黄褐色 ロームブロック少量, 砂粒微量

第 194 号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 195 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック少量, 炭化物・砂粒微量

第 196 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土ブロック・砂粒微量
- 3 にい黄褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

第 197 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 砂粒微量
- 2 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ローム粒子中量

第 199 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 褐 色 ロームブロック少量

第 200 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 201 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量, 焼土粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

第 206 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量

第 207 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 5 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

第 208 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 褐 色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量

表 17 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	C 4 i2	N - 26° - W	隅丸長方形	1.78 × 1.28	18	平坦	外傾	人為	縄文土器片	HG 1→本跡
2	B 2 a6	N - 56° - W	[楕円形]	1.36 × (1.24)	39	皿状	緩斜	自然	縄文土器片, 鉄滓	
3	C 2 b2	N - 25° - W	楕円形	0.45 × 0.37	31	皿状	外傾	自然		
4	C 2 b2	-	円形	0.33 × 0.30	32	皿状	外傾	自然		
5	C 2 c2	N - 32° - W	楕円形	0.55 × 0.45	32	皿状	外傾	自然		
6	C 4 b3	N - 45° - W	楕円形	1.05 × 0.72	38	皿状 平坦	外傾 緩斜	人為		本跡→FP 1
7	C 4 d3	N - 37° - E	楕円形	0.97 × 0.73	79	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
8	D 3 a3	N - 37° - E	楕円形	2.08 × 1.17	60	平坦	緩斜	自然	縄文土器片	
9	D 3 e3	N - 68° - E	楕円形	1.14 × 0.68	22	平坦	緩斜	自然		HG 1→ SI 6→本跡
10	C 3 g9	N - 3° - W	隅丸長方形	2.51 × 1.32	8	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 1→本跡
12	C 3 h6	-	円形	1.27 × 1.20	55	平坦	緩斜	人為	縄文土器片, 土師器片	HG 1→本跡
13	C 3 h6	N - 21° - E	楕円形	0.76 × 0.60	23	皿状	外傾	人為	縄文土器片	HG 1→本跡
15	D 3 c5	N - 58° - E	不整楕円形	2.32 × 0.99	66	凹凸	緩斜 外傾	人為	縄文土器片	HG 1→本跡
16	D 3 d5	N - 16° - W	楕円形	0.77 × 0.65	26	皿状	外傾	人為		HG 1→本跡
17	D 3 f9	N - 35° - E	楕円形	1.27 × 0.98	25	平坦	緩斜 外傾	人為	縄文土器片	HG 1→SI10→ 本跡
18	D 3 g9	-	円形	0.82 × 0.75	34	平坦	外傾	自然	縄文土器片	HG 1→本跡
19	D 3 g8	N - 45° - W	楕円形	0.78 × 0.62	27	平坦	外傾	自然	縄文土器片	HG 1→本跡
20	D 3 f7	-	円形	1.43 × 1.35	57	平坦	外傾	自然	縄文土器片	HG 1→本跡
21	D 4 j0	N - 42° - E	楕円形	1.62 × 1.20	23	平坦	外傾	人為	縄文土器片	SI13→本跡
22	D 4 d3	-	円形	0.95 × 0.94	56	平坦	緩斜	自然	縄文土器片	HG 1→本跡
23	D 4 e1	N - 49° - E	楕円形	1.35 × 1.20	23	平坦	緩斜	自然		HG 1→本跡
25	D 4 e1	N - 78° - E	不整楕円形	1.29 × 0.87	44	皿状 平坦	外傾 緩斜	人為		HG 1→本跡
27	D 4 b6	N - 48° - E	不整楕円形	1.34 × 0.68	19	凹凸	緩斜	人為	縄文土器片	
28	C 3 j0	N - 82° - E	楕円形	1.16 × 0.69	24	平坦	緩斜	自然	縄文土器片	HG 1→本跡
29	C 4 j1	N - 48° - E	楕円形	1.70 × 1.54	32	平坦	緩斜 外傾	自然	縄文土器片	HG 1→本跡
30	D 4 h9	N - 48° - E	隅丸長方形	2.35 × 2.00	35	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
31	D 4 j8	N - 61° - E	[楕円形]	1.02 × (0.78)	65	皿状	緩斜 外傾	自然		HG 1→本跡→ SK32
32	D 4 j8	N - 6° - W	楕円形	1.56 × 1.21	50	皿状	緩斜 外傾	自然	縄文土器片	HG 1→SK31→ 本跡
33	E 4 c8	N - 84° - W	楕円形	0.99 × 0.80	32	皿状	緩斜	人為	縄文土器片	HG 1→本跡
34	D 4 j7	N - 18° - W	楕円形	0.90 × 0.69	15	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 1→本跡
35	D 4 j7	N - 71° - W	楕円形	0.67 × 0.53	13	皿状	緩斜	自然		HG 1→本跡
36	E 5 c1	N - 33° - W	楕円形	0.54 × 0.46	37	皿状	外傾	人為		
37	E 4 e5	N - 54° - E	長方形	2.05 × 1.14	25	平坦	外傾	人為		HG 1→本跡
38	E 4 c3	-	円形	1.44 × 1.40	57	平坦	直立	人為	縄文土器片, 石皿	HG 1→本跡
39	E 4 f9	N - 2° - E	不整楕円形	1.72 × 1.02	67	凹凸	外傾	人為	縄文土器片	HG 1→本跡
40	D 3 a6	N - 62° - E	楕円形	0.92 × 0.73	44	皿状	緩斜	自然		HG 1→本跡
41	D 3 a7	N - 14° - W	隅丸長方形	1.14 × 0.74	28	平坦	緩斜	自然		HG 1→本跡
42	C 3 j0	N - 28° - W	楕円形	1.12 × 0.56	23	皿状	緩斜 外傾	人為		HG 1→本跡
43	D 3 a7	N - 4° - W	不整楕円形	1.67 × 1.37	40	皿状	緩斜 外傾	人為	縄文土器片	HG 1→本跡
44	D 5 j1	N - 45° - W	楕円形	0.86 × 0.55	50	皿状	外傾	人為		
50	I 7 j9	N - 57° - W	楕円形	2.45 × 2.04	25	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 3→本跡
51	I 7 h0	N - 22° - W	楕円形	0.72 × 0.62	31	平坦	緩斜	人為		HG 3→本跡
52	I 7 h8	-	円形	0.81 × 0.80	40	皿状	緩斜	人為	縄文土器片	HG 3→本跡
53	I 7 i9	N - 42° - E	楕円形	3.32 × 2.26	30	平坦	外傾 緩斜	自然	縄文土器片, 石錘	HG 3→本跡
54	I 7 j0	N - 18° - E	楕円形	2.87 × 2.24	25	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 3→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
56	I 7 g9	N - 22° - E	隅丸方形	1.49 × 1.46	27	平坦	外傾	自然	縄文土器片	HG 3 → 本跡 → SK57
57	I 7 g9	N - 80° - W	楕円形	2.68 × 2.31	39	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 3 → SK56 → 本跡
58	I 7 e9	N - 42° - W	楕円形	1.21 × 0.94	34	平坦	外傾 緩斜	自然	縄文土器片, 石錘	HG 3 → 本跡
59	I 7 g6	N - 46° - W	楕円形	0.81 × 0.73	23	平坦	外傾	自然	縄文土器片	SK66 → 本跡
60	I 7 e9	N - 59° - E	楕円形	0.94 × 0.76	41	平坦	外傾	人為	縄文土器片	HG 3 → 本跡
61	I 7 b5	N - 25° - W	楕円形	1.18 × 0.98	28	傾斜	外傾	人為	縄文土器片, 石錘	
62	I 7 e7	N - 53° - E	楕円形	1.69 × 1.30	49	平坦	外傾	人為	縄文土器片, 鉄滓	HG 3 → SK71 → 本跡
63	I 7 e8	N - 71° - W	楕円形	2.44 × 1.80	37	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 3 → 本跡
64	I 7 f0	N - 13° - E	楕円形	1.11 × 0.89	49	平坦 皿状	外傾	自然	縄文土器片, 鉄滓	HG 3 → 本跡
65	I 7 f0	N - 38° - E	楕円形	2.17 × 1.46	44	平坦	外傾	人為	縄文土器片	HG 3 → 本跡
66	I 7 g6	N - 46° - W	[不整楕円形]	2.05 × (1.40)	60	平坦	外傾	人為	縄文土器片	HG 3 → 本跡 → SK59・67
67	I 7 g6	N - 35° - W	[楕円形]	1.48 × (0.70)	44	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 3・SK66 → 本跡
68	I 7 h9	N - 76° - W	不整楕円形	2.86 × 1.78	46	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 3 → 本跡
69	I 7 h7	-	円形	2.31 × 2.12	42	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 3 → 本跡 → PG 6 P 7
70	I 7 e6	N - 20° - W	楕円形	2.05 × 1.66	45	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器片	HG 3 → 本跡
71	I 7 e7	N - 69° - W	[楕円形]	0.80 × (0.46)	57	皿状	直立 緩斜	自然	縄文土器片	HG 3 → 本跡 → SK62
73	I 7 e9	N - 39° - E	楕円形	2.43 × 1.88	60	平坦	有段	人為	縄文土器片	HG 3 → 本跡
74	H 8 h3	N - 69° - E	楕円形	0.76 × 0.66	49	傾斜	外傾	人為		
75	I 7 e9	N - 4° - E	楕円形	0.80 × 0.70	41	皿状	外傾	自然	縄文土器片	HG 3 → 本跡
76	I 7 g6	N - 46° - W	[楕円形]	3.05 × (1.31)	34	平坦	外傾	人為		HG 3 → 本跡
77	I 7 e8	N - 41° - E	楕円形	1.51 × 1.17	35	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器片	HG 3 → 本跡 → PG 6 P 4
78	I 7 a8	N - 80° - W	不整楕円形	1.58 × 1.30	47	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器片	HG 3・SK96 → 本跡
79	I 7 i9	N - 22° - E	楕円形	1.85 × 1.28	40	平坦	外傾	人為	縄文土器片	HG 3 → 本跡
81	I 7 d0	N - 54° - W	不整円形	1.74 × 1.70	39	凹凸	緩斜	人為	縄文土器片	HG 3 → 本跡
82	I 7 d0	N - 26° - W	楕円形	0.88 × 0.76	18	平坦	外傾	人為	縄文土器片	HG 3 → 本跡
83	I 8 b1	N - 10° - W	不整楕円形	1.44 × 1.24	43	皿状	緩斜	人為	縄文土器片	SI23・SK92・HG 3 → 本跡
85	I 7 e8	N - 36° - E	不整楕円形	2.20 × 1.94	44	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 3 → 本跡
86	I 7 e0	N - 53° - E	楕円形	2.18 × 1.97	42	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	本跡 → PG 6 P 2
87	I 8 c1	N - 38° - W	楕円形	3.22 × 2.50	54	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	SI20・23・26 → HG 3 → 本跡
88	I 8 b1	N - 26° - W	楕円形	1.68 × 0.85	18	平坦	外傾	人為	縄文土器片	SI23 → HG 3 → 本跡 → PG 6 P 1
89	I 8 b1	N - 52° - W	隅丸長方形	1.87 × 0.72	27	平坦	外傾	人為	縄文土器片, 鏃	SI23 → HG 3 → 本跡
90	H 7 i5	N - 27° - W	[楕円形]	0.88 × (0.38)	21	平坦	外傾	自然	縄文土器片	
92	I 8 b1	N - 62° - E	楕円形	1.64 × 1.24	48	傾斜	外傾 緩斜	人為	縄文土器片	HG 3 → 本跡 → SK83
93	H 7 j3	-	円形	1.04 × 1.04	64	凹凸	外傾	人為	縄文土器片	
94	H 7 j5	N - 20° - W	楕円形	0.87 × 0.54	18	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
95	I 8 e1	-	[円形]	1.72 × (1.25)	50	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 3 → SI15 → 本跡
96	I 7 a8	N - 49° - E	[楕円形]	2.42 × (1.93)	39	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 3 → 本跡 → SK78
97	I 7 e0	-	円形	1.36 × 1.30	46	皿状	緩斜	人為	縄文土器片	HG 3 → 本跡
98	I 7 b6	N - 9° - E	楕円形	1.15 × 0.61	29	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
99	I 7 b5	N - 24° - E	楕円形	1.38 × 1.05	30	平坦	外傾	人為	縄文土器片	
100	I 7 c9	N - 44° - E	[不整楕円形]	(2.98) × 2.65	47	平坦	緩斜	人為	縄文土器片, 陶器片, 敲石	HG 3 → 本跡
104	H 7 g4	N - 29° - W	楕円形	1.23 × 0.93	43	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	SI25 → 本跡
105	H 7 h3	N - 5° - E	楕円形	0.92 × 0.80	52	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器片	
106	H 7 h7	N - 3° - E	楕円形	1.59 × 1.15	30	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器片	
108	H 7 f3	N - 59° - W	隅丸長方形	1.52 × 1.10	29	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	SI25 → 本跡
109	I 7 c8	-	円形	0.82 × 0.80	23	皿状	緩斜	自然	縄文土器片	HG 3 → 本跡

番号	位置	長径方向	平面形	模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
110	H 7 g6	N - 72° - E	不整楕円形	1.07 × 0.80	29	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	SK111 →本跡
111	H 7 g6	N - 69° - E	楕円形	2.67 × 1.42	35	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	本跡 → SK110
112	H 7 h6	N - 41° - W	楕円形	1.44 × 1.12	47	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	
113	H 7 h4	-	円形	1.05 × 1.03	36	皿状	緩斜	人為	縄文土器片	SK114 →本跡
114	H 7 h5	N - 84° - E	楕円形	(2.20) × 1.48	56	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	本跡 → SK113
115	H 7 h5	N - 60° - W	楕円形	1.38 × 1.25	47	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器片	
116	H 7 g4	N - 58° - W	楕円形	1.76 × 1.55	49	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	
117	H 7 c0	N - 17° - E	楕円形	1.28 × 1.16	61	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器片	
118	H 7 e2	N - 22° - E	楕円形	1.84 × 1.46	50	平坦	外傾	人為		
120	H 7 b3	N - 52° - E	楕円形	1.57 × 1.16	70	平坦	外傾	人為	縄文土器片	SI31 →本跡
121	G 7 j6	-	円形	1.14 × 1.10	33	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	
122	G 7 i7	N - 17° - W	楕円形	1.37 × 1.08	29	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器片	
123	H 7 a2	N - 35° - E	楕円形	1.51 × 0.87	23	平坦	緩斜	人為		
125	H 8 g2	N - 3° - W	楕円形	1.39 × 1.10	41	平坦	緩斜	自然	縄文土器片	
126	G 7 h6	N - 14° - W	楕円形	0.65 × 0.54	22	皿状	緩斜	人為	縄文土器片	
127	G 7 i6	N - 32° - W	楕円形	1.29 × 0.87	32	平坦	緩斜	人為		
128	G 7 h2	N - 68° - W	楕円形	1.09 × 0.92	23	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器片	
129	G 7 j2	N - 69° - E	楕円形	1.37 × 1.17	47	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	
131	G 6 e7	N - 20° - W	不整楕円形	1.85 × 1.53	61	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器片	SD29 →本跡
132	G 7 d2	N - 27° - E	楕円形	0.48 × 0.40	15	皿状	緩斜	人為	縄文土器片	
133	G 7 d3	-	円形	0.46 × 0.43	18	皿状	緩斜	自然		
134	G 7 e2	-	円形	0.30 × 0.30	14	皿状	緩斜	人為		
136	G 6 b2	N - 9° - E	不整円形	0.80 × 0.73	17	平坦	緩斜	人為		
137	F 6 j4	N - 20° - E	楕円形	1.32 × 1.11	43	皿状	緩斜	人為	縄文土器片, 瓦質土器片	
138	G 6 a4	-	円形	1.57 × 1.44	33	平坦	緩斜	人為	縄文土器片, 陶器片	
139	G 6 b3	-	円形	1.07 × 1.04	36	皿状	緩斜	人為	縄文土器片	
140	G 6 b3	-	不整円形	1.19 × 1.15	27	皿状	緩斜	人為	縄文土器片, 鉄滓	
141	G 5 b0	N - 40° - E	[楕円形]	1.32 × (0.95)	42	皿状	緩斜	人為		
142	E 5 h2	N - 55° - E	楕円形	1.58 × 1.13	32	平坦	外傾	自然	縄文土器片, 土師器片, 鉄滓	HG 4 → SI41 → 本跡
143	E 5 h4	-	円形	0.95 × 0.90	14	平坦	緩斜	自然	縄文土器片	SI46 → HG 4 → 本跡
144	E 5 h3	N - 12° - W	楕円形	1.40 × 1.07	14	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	SI46 → HG 4 → 本跡
146	E 5 f1	N - 83° - E	長方形	1.29 × 0.81	23	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 4 →本跡
147	E 4 i9	-	円形	0.87 × 0.86	28	平坦	緩斜	人為	縄文土器片, 粘土塊	HG 4 →本跡
148	E 5 h4	N - 8° - W	楕円形	1.03 × 0.83	9	平坦	緩斜	人為	縄文土器片, 鉄滓	HG 4 →本跡
149	E 4 g0	N - 57° - E	楕円形	1.45 × 0.81	7	平坦	外傾	自然	縄文土器片	HG 4 →本跡
150	E 4 i0	N - 59° - E	楕円形	0.80 × 0.57	40	皿状	外傾 緩斜	人為		HG 4 →本跡
151	E 4 i9	N - 71° - E	楕円形	1.03 × 0.68	37	平坦	外傾	人為		HG 4 →本跡
152	E 4 j9	-	円形	0.70 × 0.69	21	平坦	外傾	人為		HG 4 →本跡
153	E 4 i9	N - 9° - E	楕円形	1.49 × 1.14	22	平坦	緩斜 外傾	人為		HG 4 →本跡
154	E 4 i7	N - 54° - E	楕円形	1.12 × 0.84	34	皿状	緩斜	自然	縄文土器片	HG 4 →本跡
155	F 5 b2	N - 82° - W	[楕円形]	[1.23] × 0.91	28	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 4 →本跡
157	F 4 a9	N - 56° - E	不整楕円形	2.74 × 0.91	22	平坦	緩斜 外傾	人為	縄文土器片	HG 4 →本跡
158	F 6 a3	N - 69° - E	楕円形	1.19 × 0.96	35	平坦	外傾	自然	縄文土器片	
160	F 5 e2	N - 13° - W	不整長方形	3.74 × 1.23	38	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 4 →本跡
161	F 5 b8	N - 16° - E	楕円形	1.10 × 0.72	16	凹凸	緩斜 外傾	-		HG 4 →本跡
162	F 5 c9	N - 10° - W	楕円形	1.55 × 1.10	22	平坦	緩斜 外傾	人為	縄文土器片	

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
164	E 4 i0	-	[円形]	0.71 × (0.62)	42	凹凸	外傾	人為		HG 4 →本跡→SK165
165	E 4 i0	-	円形	0.83 × 0.76	31	平坦	緩斜	人為		HG 4 →SK164 →本跡
166	F 5 i8	N - 30° - W	楕円形	0.75 × 0.63	37	皿状	緩斜	自然		
167	E 6 j2	N - 75° - E	[楕円形]	(0.83) × 0.76	19	平坦	緩斜	自然		
169	F 6 a2	-	円形	0.75 × 0.74	25	皿状	緩斜	人為	縄文土器片	
170	F 5 d1	N - 47° - E	[楕円形]	(2.93) × 0.96	35	平坦	緩斜	人為	縄文土器片, 土師器片	HG 4 →本跡
171	E 4 i9	N - 37° - E	楕円形	1.07 × 0.73	18	皿状	緩斜	人為	縄文土器片	HG 4 →本跡
173	F 5 a2	N - 45° - E	楕円形	0.59 × 0.40	18	皿状	緩斜	人為	縄文土器片	HG 4 →本跡
174	E 5 i1	N - 43° - W	楕円形	0.75 × 0.58	47	皿状	外傾	人為		HG 4 →本跡
175	E 5 h1	N - 67° - W	楕円形	0.56 × 0.47	34	皿状	外傾	自然		HG 4 →本跡
176	F 5 a2	N - 11° - W	楕円形	1.51 × 1.05	60	皿状	緩斜	人為	縄文土器片	HG 4 →本跡
177	E 5 i4	N - 53° - E	[楕円形]	(0.90) × 0.48	8	平坦	緩斜	人為		SI45 と新旧不明 HG 4 →本跡
179	F 5 b6	N - 7° - W	楕円形	0.77 × 0.57	18	平坦	外傾	人為		HG 4 →本跡
180	F 5 b8	N - 54° - E	楕円形	0.40 × 0.30	36	皿状	袋状	人為		HG 4 →本跡
181	F 5 f4	N - 60° - W	楕円形	0.57 × 0.37	21	平坦	緩斜	人為		HG 4 →本跡
182	F 5 f4	N - 51° - E	楕円形	0.80 × 0.68	24	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 4 →本跡
183	F 5 f4	N - 77° - W	楕円形	1.01 × 0.71	18	平坦	緩斜	自然		HG 4 →本跡
184	F 5 b8	-	円形	0.42 × 0.39	16	皿状	緩斜	人為		HG 4 →本跡
185	F 5 c5	N - 32° - W	楕円形	0.39 × 0.34	18	皿状	緩斜	人為		HG 4 →本跡
186	F 5 c5	-	円形	1.19 × 1.16	55	平坦	外傾	人為	縄文土器片	HG 4 →本跡
193	I 7 b8	N - 35° - E	楕円形	1.09 × 0.84	38	皿状	緩斜	人為	縄文土器片	HG 3 →本跡
194	I 7 c8	-	円形	0.51 × 0.51	35	皿状	緩斜	自然	縄文土器片	HG 3 →本跡
195	I 7 b9	N - 2° - E	楕円形	1.17 × 0.85	50	平坦	緩斜	人為		HG 3 →本跡
196	I 7 d9	-	円形	0.77 × 0.71	24	平坦	外傾	人為	縄文土器片	HG 3 →本跡
197	I 7 b7	N - 41° - W	楕円形	1.38 × 0.86	25	平坦	緩斜	人為	縄文土器片	HG 3 →本跡
199	I 7 e6	N - 16° - W	楕円形	0.78 × 0.65	22	皿状	緩斜	人為		HG 3 →本跡
200	I 7 f9	N - 32° - W	楕円形	1.01 × 0.60	48	平坦	外傾	自然		HG 3 →本跡
201	E 5 i4	-	不明	0.89 × (0.68)	50	平坦	緩斜	自然		本跡→SI45 → HG 4
202	I 7 c8	N - 10° - W	楕円形	0.57 × 0.41	24	皿状	外傾 緩斜	-	縄文土器片	HG 3 →本跡
206	C 3 d8	-	円形	0.48 × 0.45	26	皿状	外傾	自然		
207	D 4 a2	N - 53° - E	楕円形	0.54 × 0.45	87	皿状	外傾	人為		HG 1 →本跡
208	D 4 a6	N - 64° - E	楕円形	0.63 × 0.49	40	皿状	外傾	人為		

(5) 道路跡

第1号道路跡 (第195図・付図)

位置 調査区中央部の D 3 g6 ~ E 3 b0 区, 標高 13 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

確認状況 硬化面まで削平されているため, 硬化範囲しか確認できなかった。

重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 北西端部が調査区域外へ延びているため, 幅 1.91 m で, 長さは 28.5 m しか確認できなかった。

E 3 b0 区から北西方向 (N - 40° - W) に直線的に延びている。

構築土 斜面部に第1~4層を積み上げて道路を構築しており, 第1層上面が硬化している。

構築土層解説

- | | | | |
|-------|------------------------|-------|---------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化粒子・礫微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量, 炭化材・焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム粒子多量, 炭化粒子微量 |

所見 時期は、土器が出土していないため不明である。



第 195 図 第 1 号道路跡実測図

第 2 号道路跡 (付図)

位置 調査区南東部の I 8 i2 ~ J 8 d1 区, 標高 12 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

確認状況 硬化面まで削平されているため, 硬化範囲しか確認できなかった。

規模と形状 確認した硬化範囲は, 長さ 20.0 m, 幅 0.75 m で, J 8 d1 区から北東方向 (N - 7° - E) に直線的に伸び, 硬化面は凹凸している。

所見 時期は, 土器が出土していないため不明である。

第 3 号道路跡 (第 196 図・付図)

位置 調査区南東部の G 7 e5 ~ G 7 f4 区, 標高 16 m ほどの台地平坦部に位置している。

確認状況 硬化面まで削平されているため, 硬化範囲しか確認できなかった。

重複関係 第 28 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北東端部が調査区域外へ伸びているため, 幅 0.55 m で, 長さは 4.50 m しか確認できなかった。G 7 f4 区から北東方向 (N - 55° - E) に直線的に伸びている。

構築土 第 1・2 層を積み上げて道路を構築しており, 第 1 層上面が硬化している。

構築土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量 2 明褐色 ロームブロック中量

所見 時期は, 土器が出土していないため不明である。



第 196 図 第 3 号道路跡実測図

表 18 その他の道路跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	壁面	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)				
1	D 3g6 ~ E 3b0	N - 40° - W	直線状	[28.50]	-	[1.91]	-	-	-		HG 1 → 本跡
2	I 8 i2 ~ J 8 d1	N - 7° - E	直線状	[20.00]	-	[0.75]	-	-	-		
3	G 7 e5 ~ G 7 f4	N - 55° - E	直線状	[4.50]	-	[0.55]	-	-	-		本跡 → SD28 SD27B との新旧 関係不明

(6) 溝跡

今回の調査で時期不明の溝跡 30 条を確認した。そのうち、第 5・7・16・17・21・25・29 号溝跡からは、遺物が出土した。これらの溝跡については文章で説明し、その他の溝跡については、それぞれ実測図と土層解説及び一覧表のみを掲載する。(第 204・205 図)

第 5 号溝跡 (第 197 図, 付図)

位置 調査区北西部の A 2i7～B 2b9 区, 標高 11 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 6 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北西端部が調査区域外へ延び、第 6 号溝に掘り込まれているため、長さは 12.5 m しか確認できなかった。B 2b9 区から北西方向 (S - 50° - E) に直線的に延び、B 2a8 区で 2 条に分かれている。規模は上幅 1.85～2.14 m, 下幅 1.25～1.39 m, 深さ 25～30cm である。断面形は浅い U 字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

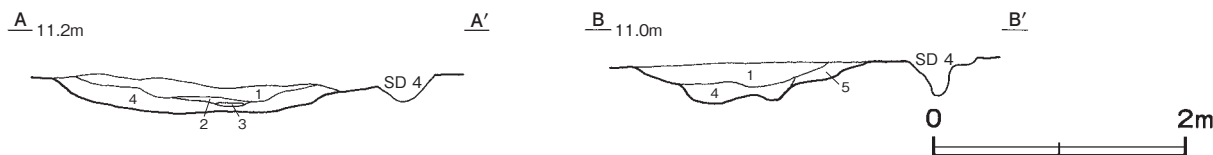
覆土 5 層に分層できる。周囲から流入している堆積状況から、自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|----------|-------------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | 砂粒少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | 砂粒多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 にぶい黄褐色 | 砂粒多量, ロームブロック微量 | 5 暗褐色 | 砂粒多量, ローム粒子・粘土粒子少量 |
| 3 黒褐色 | 砂粒多量, 炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 陶器片 7 点 (碗 1, 挿鉢 2, 鉢 2, 半胴 2), 磁器片 13 点 (碗 11, 瓶 2), 瓦片 1 点 (平瓦) が出土している。いずれも細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から近世以降と考えられるが、明確な時期は不明である。



第 197 図 第 5 号溝跡実測図

第 7 号溝跡 (第 198 図, 付図)

位置 調査区北西部の B 3e6～C 2c1 区, 標高 10 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 4・6・11 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北東端部と南西端部が調査区域外へ延びているため、長さは 66.8 m しか確認できなかった。C 2c1 区から北東方向 (N - 62° - E) に直線的に延びている。規模は上幅 0.41～1.12 m, 下幅 0.08～0.92 m, 深さ 13～15cm である。断面形は浅い U 字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

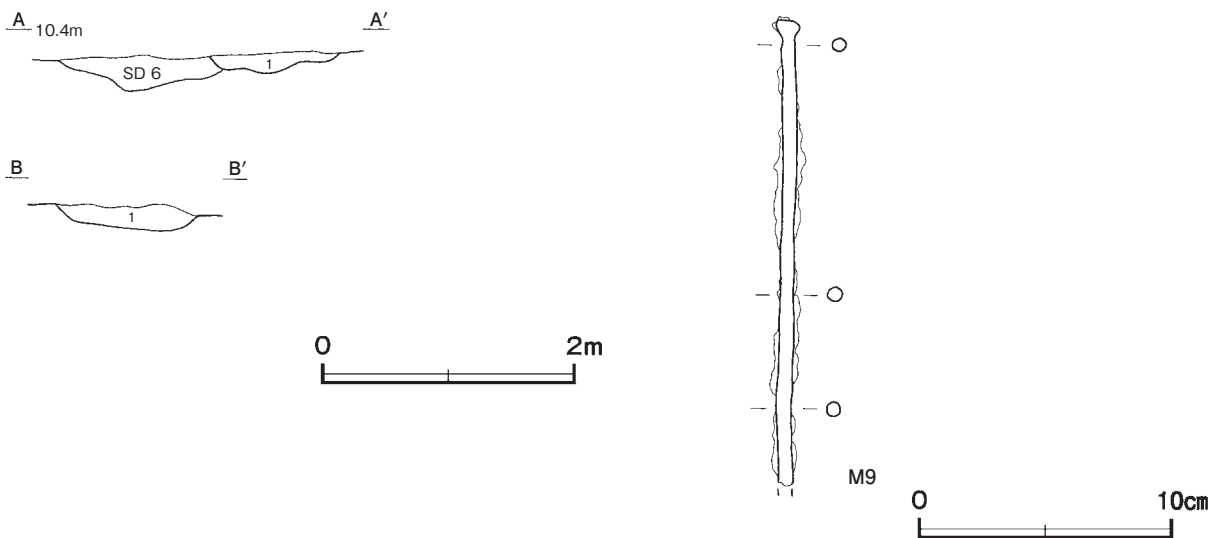
覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|------|-------------------------|
| 1 褐色 | 砂粒多量, 粘土粒子少量, ロームブロック微量 |
|------|-------------------------|

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (焙烙), 磁器片 3 点 (碗), 鉄製品 1 点 (火箸カ) が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から近世以降と考えられるが、明確な時期は不明である。



第 198 図 第 7 号溝跡・出土遺物実測図

第 7 号溝跡出土遺物観察表 (第 198 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M9	火箸カ	(18.5)	1.0	0.6	(31.8)	鉄	先端部わずかに丸みを持つ	覆土中	

第 16 号溝跡 (第 199 図, 付図)

位置 調査区北西部の C 2c0 ~ C 3j1 区, 標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 17 号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北部は C 2c0 区内, 南部は C 3i1 区内で立ち上がり, 耕作による攪乱を受けているため, 長さは 30.9 m しか確認できなかった。C 3j1 区から北西方向 (N - 11° - W) へ直線的に延び, C 2c0 区で L 字状に屈曲し, 東方向 (N - 88° - E) へ延びている。規模は上幅 0.16 ~ 0.74 m, 下幅 0.04 ~ 0.21 m, 深さ 70 ~ 75cm である。不整の U 字形で, 壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

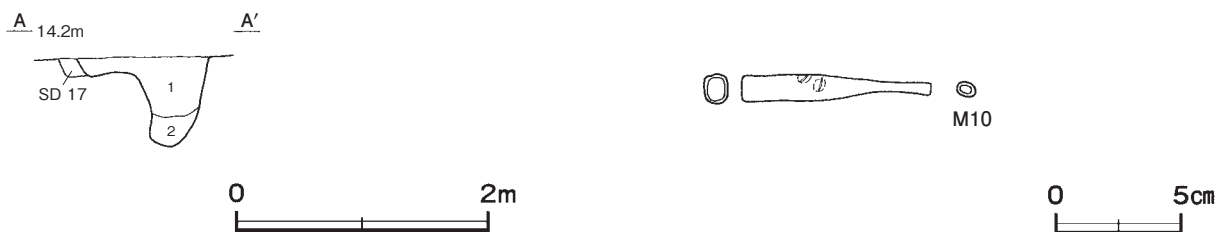
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 陶器片 1 点 (碗), 銅製品 1 点 (煙管) が覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から近世以降と考えられるが, 明確な時期は不明である。



第 199 図 第 16 号溝跡・出土遺物実測図

第 16 号溝跡出土遺物観察表 (第 199 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M10	煙管	7.5	1.1	0.9	8.2	銅	吸口部のみ	覆土中	PL45

第 17 号溝跡 (第 200 図, 付図)

位置 調査区北西部の C 2 f0 ~ C 2 i6 区, 標高 14 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 16 号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南西端部が調査区域外へ延び, 北東端部が第 16 号溝に掘り込まれているため, 長さは 18.1 m しか確認できなかった。C 2 i6 区から北東方向 (N - 47° - E) に直線的に延びている。規模は上幅 0.54 ~ 0.88 m, 下幅 0.29 ~ 0.56 m, 深さ 80cm である。断面形は浅い U 字形から逆台形で, 壁は外傾して立ち上がっている。

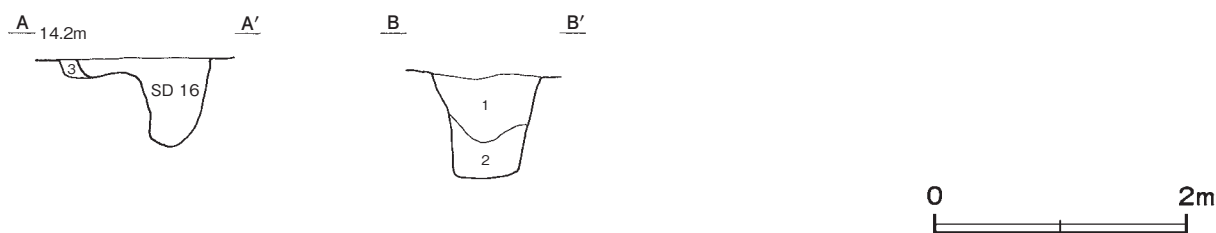
覆土 3 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (内耳鍋), 陶器片 2 点 (碗, 皿), 磁器片 1 点 (碗) のほか, 混入した縄文土器片 3 点が出土している。いずれも細片のため, 図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器から近世以降と考えられるが, 明確な時期は不明である。



第 200 図 第 17 号溝跡実測図

第 21 号溝跡 (第 201 図, 付図)

位置 調査区南東部の H 8 j8 ~ I 8 c9 区, 標高 9 m ほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 北西端部と北東端部, 南東端部が調査区域外へ延びているため, 長さは 15.1 m しか確認できなかった。I 8 c9 区から北西方向 (N - 45° - W) へ直線的に延び, I 8 b0 区で L 字状に屈曲し, 南西方向 (S - 15° - W) へ直線的に延びている。規模は上幅 0.54 ~ 0.84 m, 下幅 0.04 ~ 0.34 m, 深さ 8 ~ 20cm である。断面形は浅い U 字形で, 壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・粘土粒子・砂粒微量

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (土管), 陶器片 4 点 (碗 2, 挿鉢 1, 甕 1) のほか, 混入した縄文土器片 16 点, 土師器片 2 点 (甕) も出土している。いずれも細片のため, 図示できなかった。

所見 時期は, 出土土器から近世以降と考えられるが, 明確な時期は不明である。



第 201 図 第 21 号溝跡実測図

第 25 号溝跡 (第 202 図, 付図)

位置 調査区南東部の H 6j0 ~ H 7g8 区, 標高 15 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北東端部は H 7g8 区内で立ち上がって耕作による攪乱を受け, 南西端部が調査区域外へ延びているため, 長さは 33.8 m しか確認できなかった。H 6j0 区から北東方向 (N - 72° - E) に直線的に延びている。規模は上幅 0.21 ~ 0.67 m, 下幅 0.09 ~ 0.29 m, 深さ 9 ~ 20cm である。断面形は U 字形で, 壁は外傾して立ち上がっている。

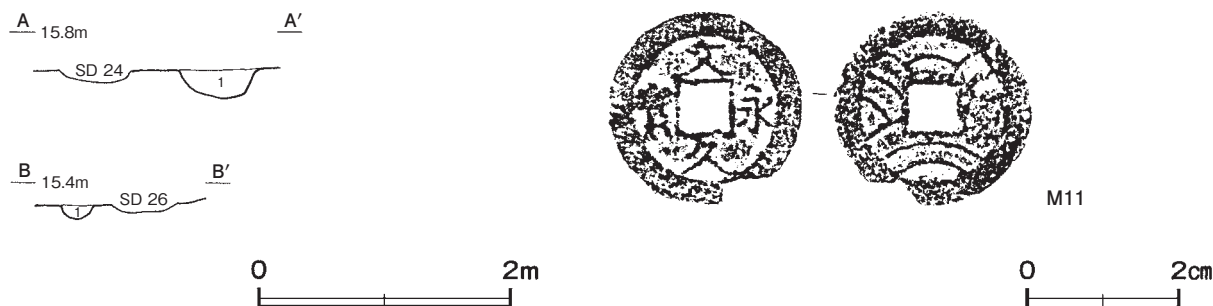
覆土 単一層である。層厚が薄いため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 陶器片 5 点 (碗 3, 皿 1, 鉢 1), 銅製品 1 点 (銭貨) が覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から近世以降と考えられるが, 明確な時期は不明である。



第 202 図 第 25 号溝跡・出土遺物実測図

第 25 号溝跡出土遺物観察表 (第 202 図)

番号	種別	銭名	径	孔幅	重量	材質	初鑄年	特徴	出土位置	備考
M 11	銭貨	文久永寶	2.5	0.6	(2.9)	銅	1863	真文	覆土中	PL45

第 29 号溝跡 (第 203 図, 付図)

位置 調査区南東部の F 6i4 ~ H 6c4 区, 標高 16 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 5 号炉跡を掘り込み, 第 131 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北西端部と南西端部が調査区域外へ延びているため, 長さ 73.8 m しか確認できなかった。H 6c4 区から北東方向 (N - 55° - E) へほぼ直線的に延び, G 6h9 区で L 字状に屈曲し, 北西方向 (N - 27° - W) へ直線的に延びている。規模は上幅 0.32 ~ 0.99 m, 下幅 0.06 ~ 0.39 m, 深さ 28 ~ 55cm である。断面形は北西部の中程に段を有する逆台形で, 壁は外傾して立ち上がっている。

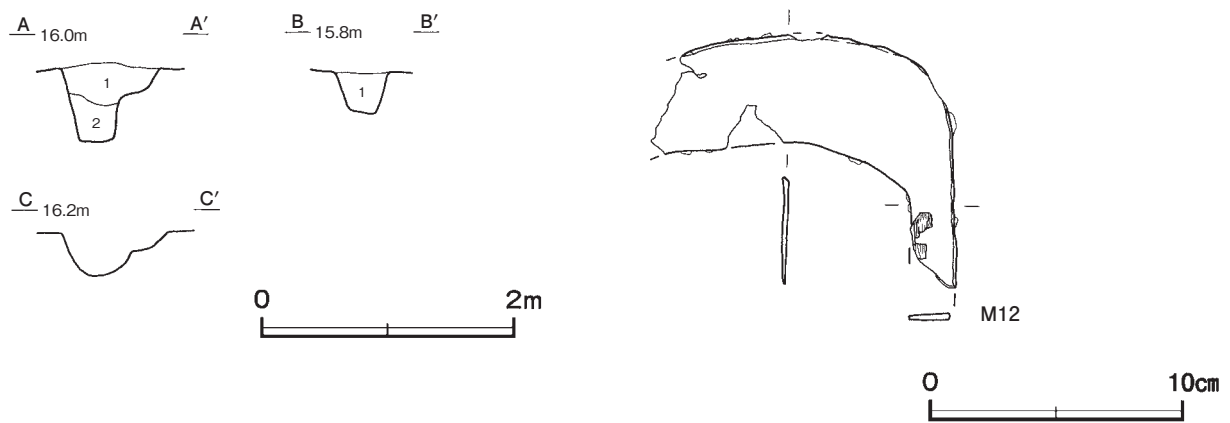
覆土 2層に分層できる。ロームブロックや炭化粒子が含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 瓦質土器片2点(焙烙, 火消壺), 陶器片4点(碗2, 挿鉢2), 磁器片16点(碗15, 大皿1), 鉄製品1点(鎌), 瓦片2点(平瓦), ガラス製品1点(瓶)のほか, 混入した縄文土器片21点, 土師器片1点(坏)も出土している。

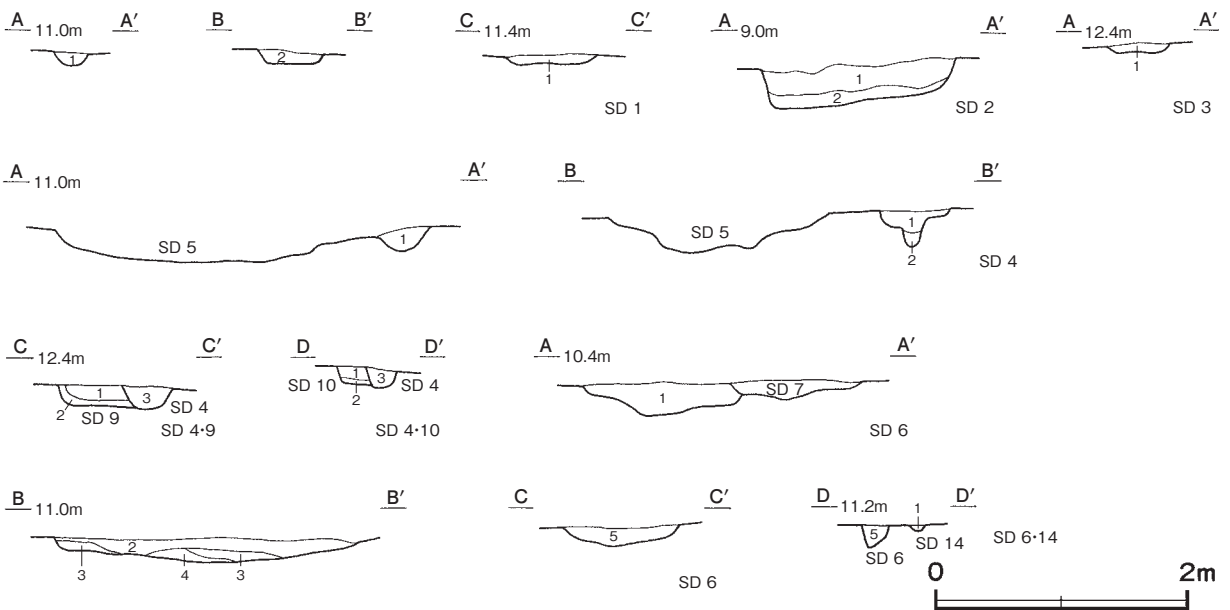
所見 時期は, 出土土器から近世以降と考えられるが, 明確な時期は不明である。



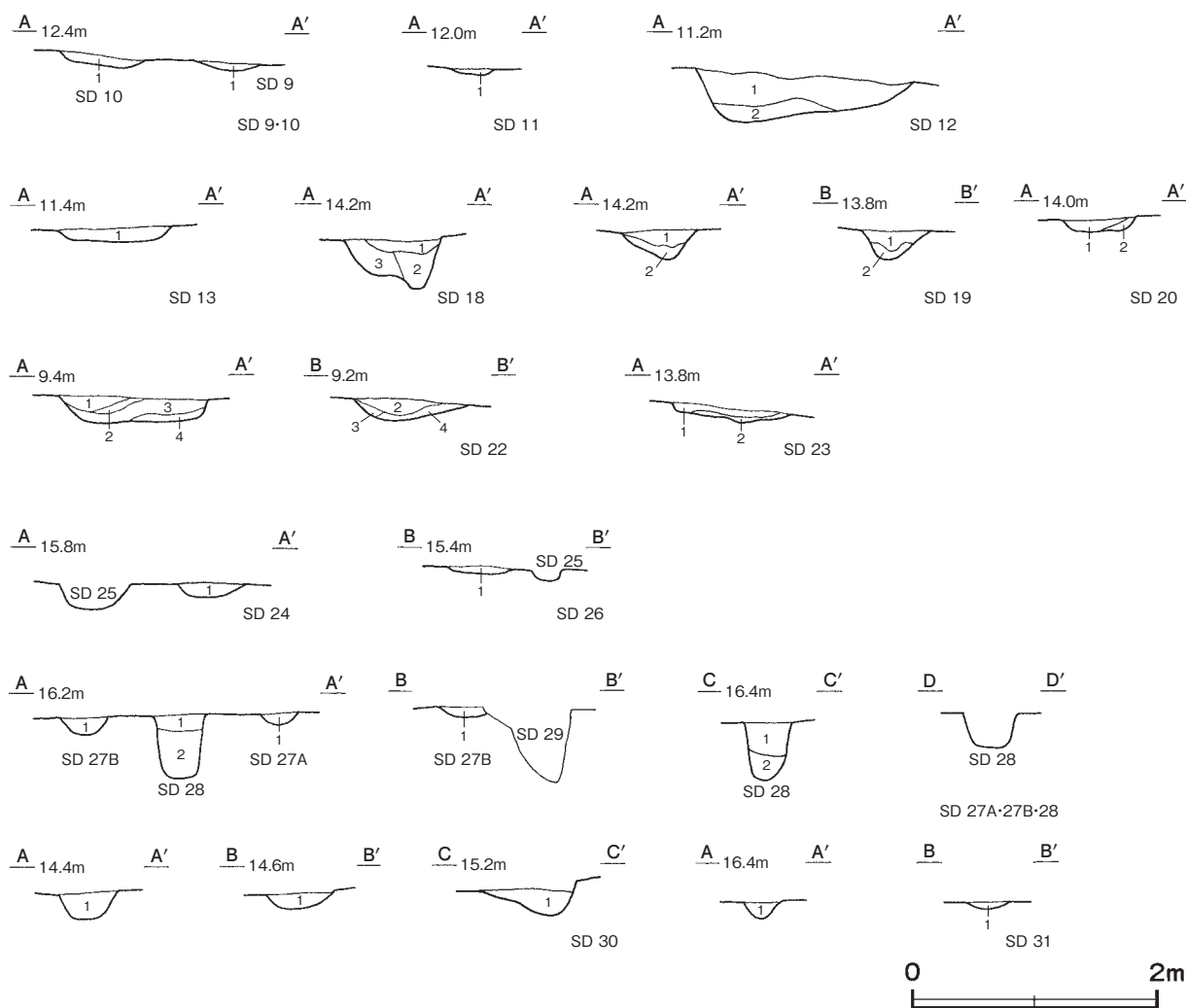
第203図 第29号溝跡・出土遺物実測図

第29号溝跡出土遺物観察表(第203図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 12	鎌	(12.2)	(10.0)	0.3	(65.4)	鉄	刃部断面三角形	覆土中	



第204図 その他の溝跡実測図(1)



第 205 図 その他の溝跡実測図 (2)

第 1 号溝跡土層解説

- 1 褐色 砂粒中量, ロームブロック少量
- 2 褐色 砂粒多量, ローム粒子微量

第 2 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・砂粒少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 砂粒少量

第 3 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 砂粒中量, ロームブロック・炭化粒子微量

第 4 号溝跡土層解説

- 1 におい黄褐色 砂粒多量, ローム粒子少量,
- 2 褐色 砂粒多量, ローム粒子微量
- 3 褐色 砂粒中量, ロームブロック少量

第 6 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・砂粒少量
- 2 暗褐色 砂粒少量, ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 砂粒多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 砂粒多量, ローム粒子・粘土粒子少量
- 5 褐色 砂粒中量, ロームブロック・礫少量

第 9 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・砂粒中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・砂粒少量, 炭化粒子微量

第 10 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量, 砂粒微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量, 砂粒少量, 炭化粒子微量

第 11 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 砂粒少量, ロームブロック微量

第 12 号溝跡土層解説

- 1 褐色 砂粒少量, ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック・砂粒少量

第 13 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 礫中量, ロームブロック少量, 炭化物微量

第 14 号溝跡土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量, 砂粒少量, 礫微量

第 18 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量

第 19 号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック少量

第20号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック微量

第22号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・砂粒微量
- 2 極暗褐色 砂粒少量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 砂粒少量, 粘土ブロック・ローム粒子微量
- 4 灰黄褐色 粘土粒子・砂粒少量, ローム粒子微量

第23号溝跡土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第24号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量

第26号溝跡土層解説

- 1 極暗褐色 ロームブロック微量

第27A号溝跡土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第27B号溝跡土層解説

- 1 褐色 ロームブロック少量, 炭化粒子微量

第28号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量

第30号溝跡土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量, 炭化粒子少量

第31号溝跡土層解説

- 1 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

表19 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
1	A 2i9 ~ B 2g6	N - 19° - E	直線状	[36.2]	0.46 ~ 0.79	0.20 ~ 0.52	10	浅いU字形	外傾	-		本跡→SD 4・5・6
2	B 3i9 ~ B 3j9	N - 79° - E	(直線状)	[1.4]	160	150	33	浅いU字形	外傾	人為		
3	B 3i6 ~ B 3i7	N - 36° - W	直線状	3.3	0.23 ~ 0.48	0.18 ~ 0.42	18	浅いU字形	外傾	-		
4	A 2i7 ~ B 3j6	N - 43° - W	直線状	(56.4)	0.28 ~ 0.78	0.08 ~ 0.34	16 ~ 28	U字形	外傾	人為	陶器片, 磁器片	SD 1・9・10→本跡→SD 6・7
5	A 2i7 ~ B 2b9	N - 50° - W	直線状	(12.6)	1.85 ~ 2.14	1.25 ~ 1.39	25 ~ 30	浅いU字形	自然	自然	陶器片, 磁器片, 瓦片	SD 1との新旧不明 本跡→SD 6
6	B 2f3 ~ B 3e6	N - 50° - E N - 140° - E	L字状	(69.4)	0.40 ~ 1.30	0.30 ~ 0.90	20 ~ 26	不整U字形	緩斜	人為		SD 1・4・5・12→本跡→SD 7
7	B 3e6 ~ C 2c1	N - 62° - E	直線状	(66.8)	0.41 ~ 1.12	0.08 ~ 0.92	13 ~ 15	浅いU字形	緩斜	-	土師質土器片, 磁器片, 火箸カ	SD 4・6・11→本跡
9	B 3j4 ~ B 3i6	N - 70° - E	直線状	8.0	0.30 ~ 0.56	0.06 ~ 0.43	5 ~ 15	浅いU字形	外傾	-		本跡→SD 4
10	B 3j4 ~ B 3j6	N - 88° - E	直線状	8.5	0.30 ~ 0.67	0.18 ~ 0.46	7 ~ 11	浅いU字形	外傾	-		本跡→SD 4
11	B 3f4 ~ B 3h5	N - 35° - W	直線状	5.1	0.24 ~ 0.50	0.16 ~ 0.31	1 ~ 5	浅いU字形	外傾	-	瓦質土器片, 陶器片, 磁器片	本跡→SD 7
12	B 2c4 ~ B 2e5	N - 34° - W	直線状	[7.4]	1.42	0.50 ~ 0.68	15 ~ 40	浅いU字形	外傾	人為		本跡→SD 6
13	B 2f3 ~ B 2i5	N - 32° - W	直線状	13.7	0.51 ~ 1.88	0.29 ~ 1.35	7 ~ 15	浅いU字形	外傾	-		SD14との新旧不明
14	B 2e5 ~ B 2f3	N - 64° - E	直線状	6.8	0.24 ~ 0.30	0.06 ~ 0.11	2 ~ 9	U字形	外傾	人為		SD13との新旧不明
16	C 2c0 ~ C 3j1	N - 11° - W	L字状	(30.9)	0.16 ~ 0.74	0.04 ~ 0.21	70 ~ 75	不整U字形	外傾	人為	陶器片, 煙管	SD17→本跡
17	C 2f0 ~ C 2i6	N - 47° - E	直線状	(18.1)	0.54 ~ 0.88	0.29 ~ 0.56	77	浅いU字形 逆台形	外傾	人為	土師質土器片, 陶器片, 磁器片	本跡→SD16
18	C 4b4 ~ C 4j5	N - 14° - W	直線状	[29.0]	0.16 ~ 0.40	0.05 ~ 0.27	40	不整U字形	外傾	人為		
19	D 4f9 ~ E 4a8	N - 33° - W N - 111° - W	L字状	27.4	0.20 ~ 0.64	0.04 ~ 0.25	22 ~ 26	U字形	外傾	自然		HG 1→本跡
20	E 4c6 ~ E 4g9	N - 24° - W	L字状	(30.8)	0.28 ~ 0.56	0.04 ~ 0.46	7 ~ 20	浅いU字形	外傾	自然		HG 1→本跡
21	H 8j8 ~ I 8c9	N - 45° - W	L字状	(15.1)	0.54 ~ 0.84	0.04 ~ 0.34	8 ~ 20	浅いU字形	緩斜	-	土師質土器片, 陶器片	
22	J 8h2 ~ J 8g4	N - 76° - E	直線状	[8.8]	1.16 ~ 2.12	0.64 ~ 1.42	16 ~ 20	浅いU字形	外傾	自然		
23	I 7g0 ~ I 7j0	N - 6° - E	直線状	[12.5]	0.26 ~ 0.98	0.16 ~ 0.69	20	浅いU字形	緩斜	自然		HG 3→本跡
24	H 7j2 ~ H 7i4	N - 73° - E	直線状	[7.8]	0.31 ~ 0.60	0.12 ~ 0.34	11	浅いU字形	外傾	-	陶器片	
25	H 6j0 ~ H 7g8	N - 72° - E	直線状	(33.8)	0.21 ~ 0.67	0.09 ~ 0.29	9 ~ 20	U字形	外傾	-	陶器片, 文久永寶	
26	H 7h7 ~ H 7g8	N - 68° - E	直線状	[5.5]	0.40 ~ 0.50	0.14 ~ 0.30	5 ~ 7	浅いU字形	外傾	自然		
27A	G 6i9 ~ G 7g3	N - 55° - E	直線状	(19.4)	0.32 ~ 0.50	0.15 ~ 0.28	10	U字形	外傾	-	瓦質土器片, 陶器片, 磁器片	SI36→本跡
27B	G 6j7 ~ G 7e4	N - 55° - E	直線状	[35.0]	0.32 ~ 0.54	0.06 ~ 0.28	13	U字形	外傾	-	陶器片, 磁器片	SI36→本跡→SD29・SF 3
28	F 6h7 ~ G 7e5	N - 26° - W N - 56° - E	L字状	[56.8]	0.43 ~ 0.52	0.18 ~ 0.30	28 ~ 38	U字形	外傾	人為	陶器片, 磁器片	SI37→SD27 B・SF 3→本跡
29	F 6i4 ~ H 6c4	N - 55° - E	L字状	(73.8)	0.32 ~ 0.99	0.06 ~ 0.39	28 ~ 55	逆台形	外傾	人為	瓦質土器片, 陶器片, 磁器片, 鎌, 瓦片, ガラス製品	FP 5→本跡→SK131
30	E 5d4 ~ F 6i1	N - 53° - E N - 28° - W	L字状	[71.0]	0.40 ~ 1.30	0.12 ~ 0.92	15 ~ 22	浅いU字形	外傾	-	磁器片	SI46・SK191・HG 4→本跡
31	G 6j8 ~ G 6j9	N - 55° - E	直線状	[5.2]	0.34 ~ 0.38	0.06 ~ 0.20	5 ~ 14	浅いU字形	外傾	-		

(7) ピット群

第1号ピット群 (第206図)

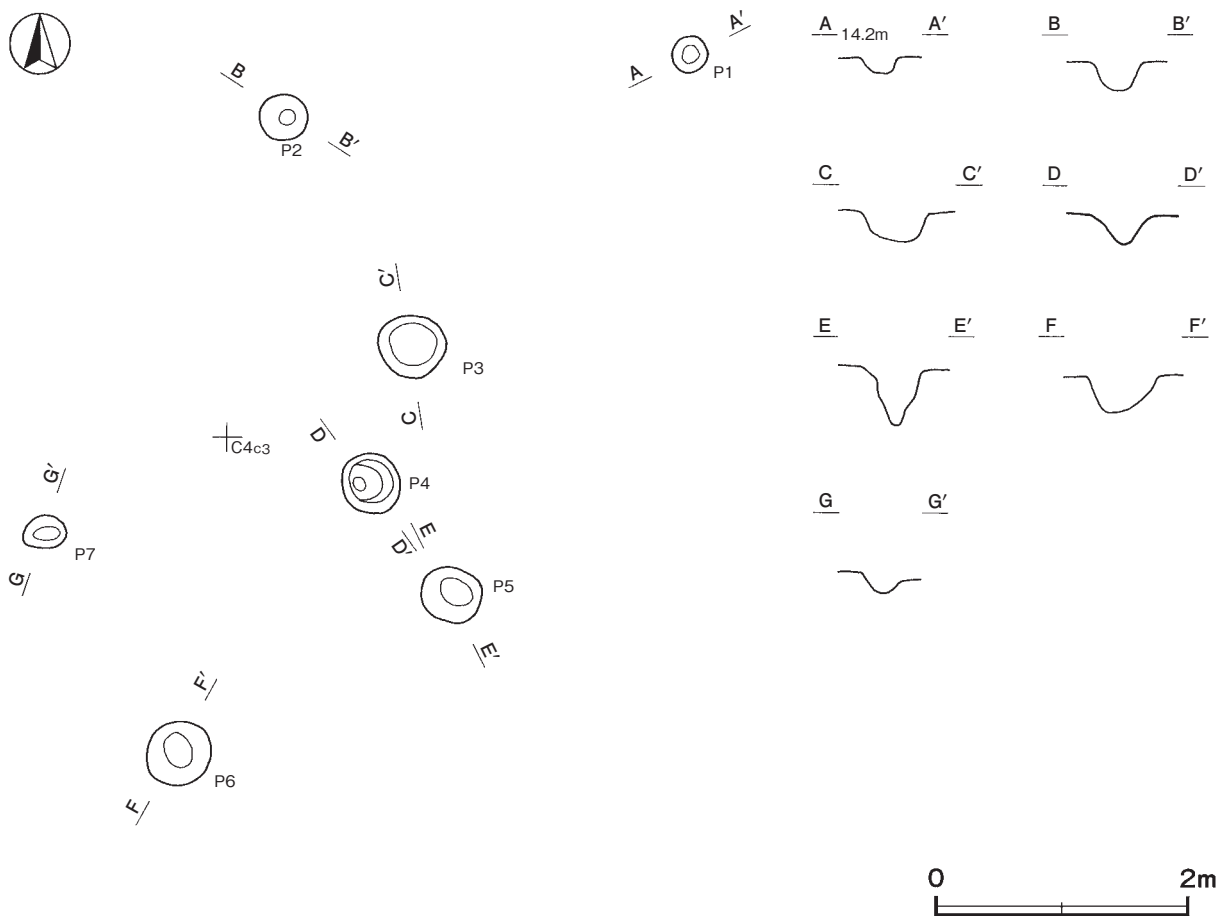
位置 調査区北西部の標高14mほど、C4b3～C4c2区にかけての東西6m、南北7mの範囲から、柱穴状のピット7か所を確認した。

規模 平面形は長径28～53cm、短径27～52cmの円形または楕円形で、深さが12～46cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

所見 時期・性格ともに不明である。

表20 第1号ピット群ピット一覧表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	C4b3	円形	28	27	12	5	C4c3	円形	48	45	46
2	C4b3	円形	39	38	22	6	C4c2	楕円形	53	48	28
3	C4b3	円形	52	52	25	7	C4c2	楕円形	36	27	14
4	C4c3	楕円形	49	44	23						



第206図 第1号ピット群実測図

第2号ピット群 (第207図)

位置 調査区北西部の標高14mほど、D 3a7～D 3a8区にかけての東西3m、南北2mの範囲から、柱穴状のピット4か所を確認した。

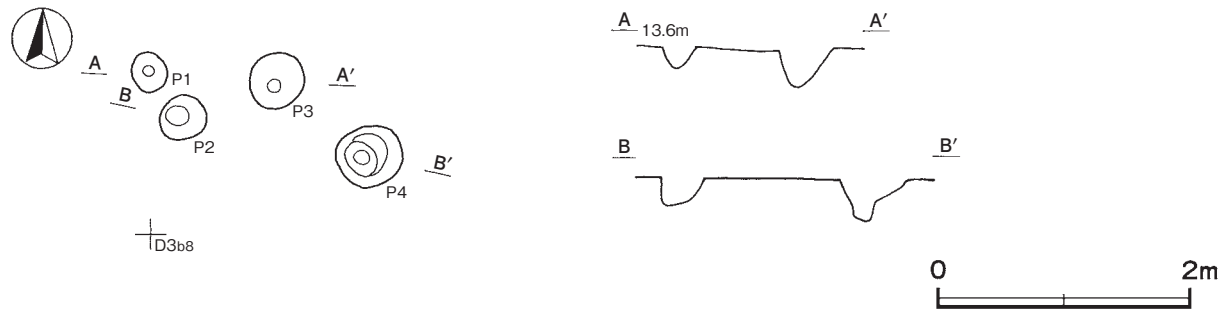
重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模 平面形は長径29～53cm、短径26～51cmの円形または楕円形で、深さが17～32cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

所見 時期・性格ともに不明である。

表21 第2号ピット群ピット一覧表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	D 3a7	楕円形	29	26	17	3	D 3a8	楕円形	46	42	29
2	D 3a8	円形	37	34	21	4	D 3a8	円形	53	51	32



第207図 第2号ピット群実測図

第4号ピット群 (第208図)

位置 調査区中央部の標高13mほど、D 4e1～D 4e4区にかけての東西9m、南北6mの範囲から、柱穴状のピット5か所を確認した。

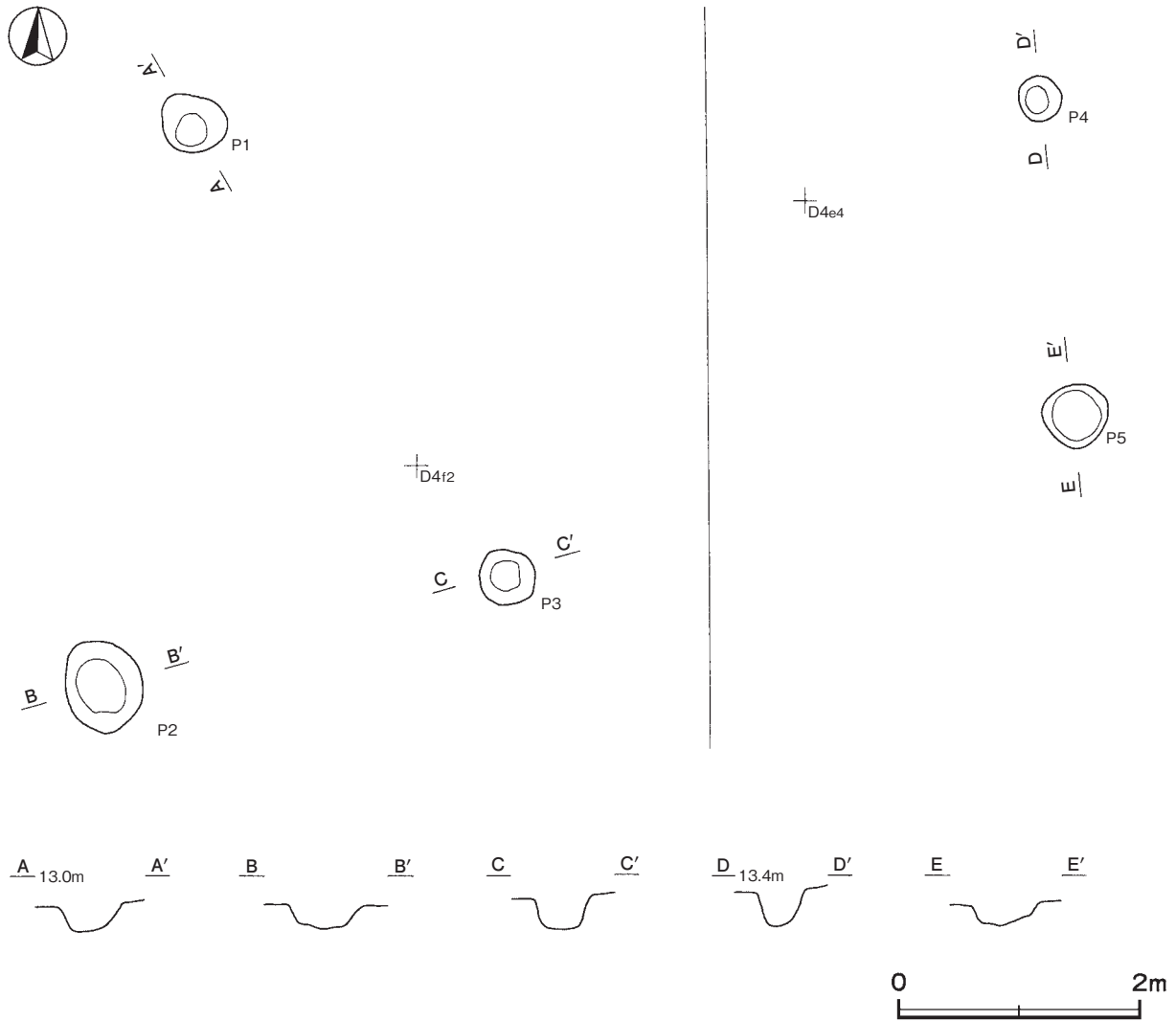
重複関係 第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模 平面形は長径37～76cm、短径37～63cmの円形または楕円形で、深さが17～29cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

所見 時期・性格ともに不明である。

表22 第4号ピット群ピット一覧表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	D 4e1	円形	54	51	22	4	D 4d4	円形	37	37	29
2	D 4f1	楕円形	76	63	21	5	D 4e4	円形	53	51	17
3	D 4f2	円形	49	47	29						



第 208 図 第 4 号ピット群実測図

第 7 号ピット群 (第 209 図)

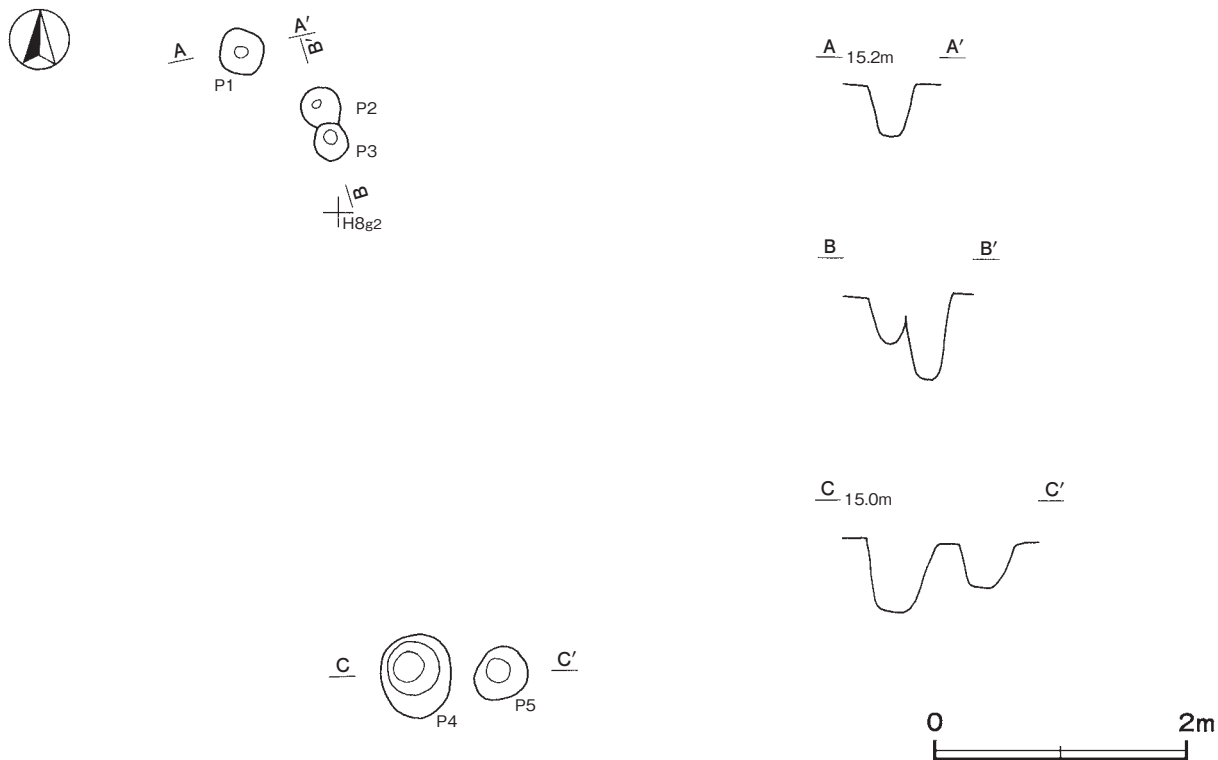
位置 調査区南東部の標高 15 m ほど、H 8 f1 ~ H 8 g2 区にかけての東西 3 m、南北 6 m の範囲から、柱穴状のピット 5 か所を確認した。

規模 平面形は長径 30 ~ 66cm、短径 29 ~ 56cm の円形または楕円形で、深さが 36 ~ 68cm である。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。

所見 時期・性格ともに不明である。

表 23 第 7 号ピット群ピット一覧表

番号	位置	形状	規模 (cm)			番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	H 8 f1	円形	35	34	40	4	H 8 g2	楕円形	66	56	59
2	H 8 f1	円形	34	32	68	5	H 8 g2	楕円形	47	40	35
3	H 8 f1	円形	30	29	36						



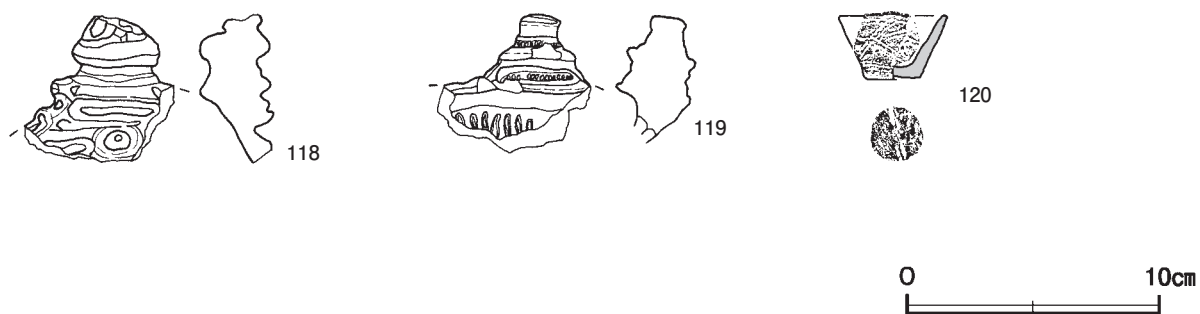
第 209 図 第 7 号ピット群実測図

表 24 その他のピット群一覧表

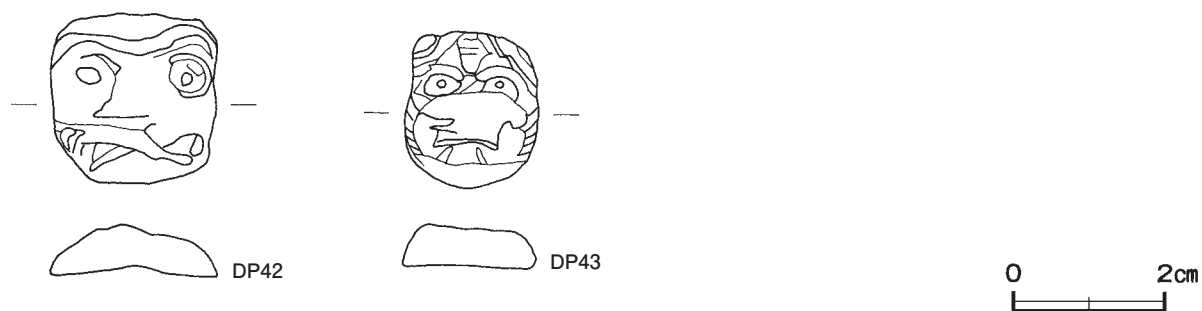
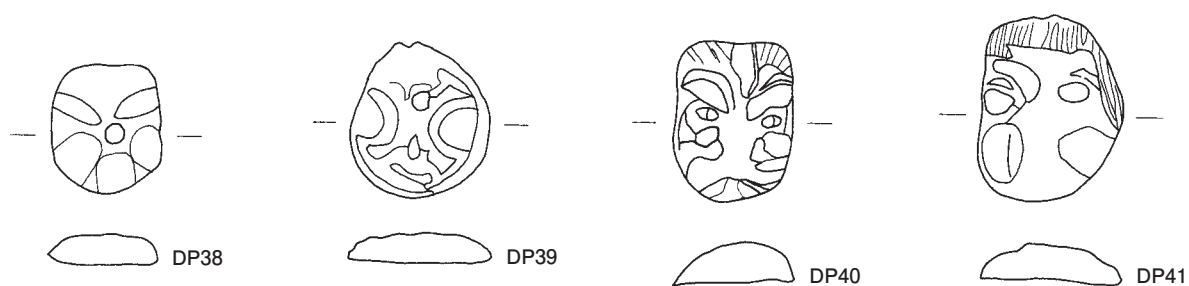
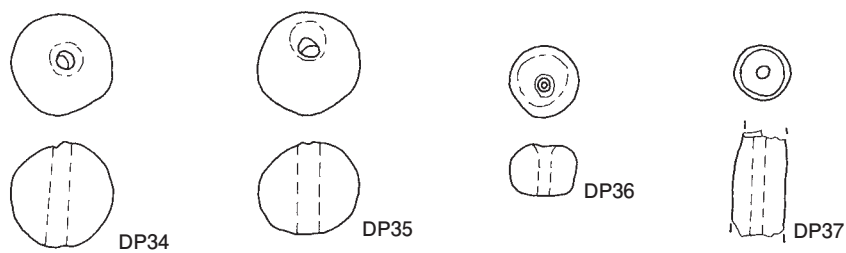
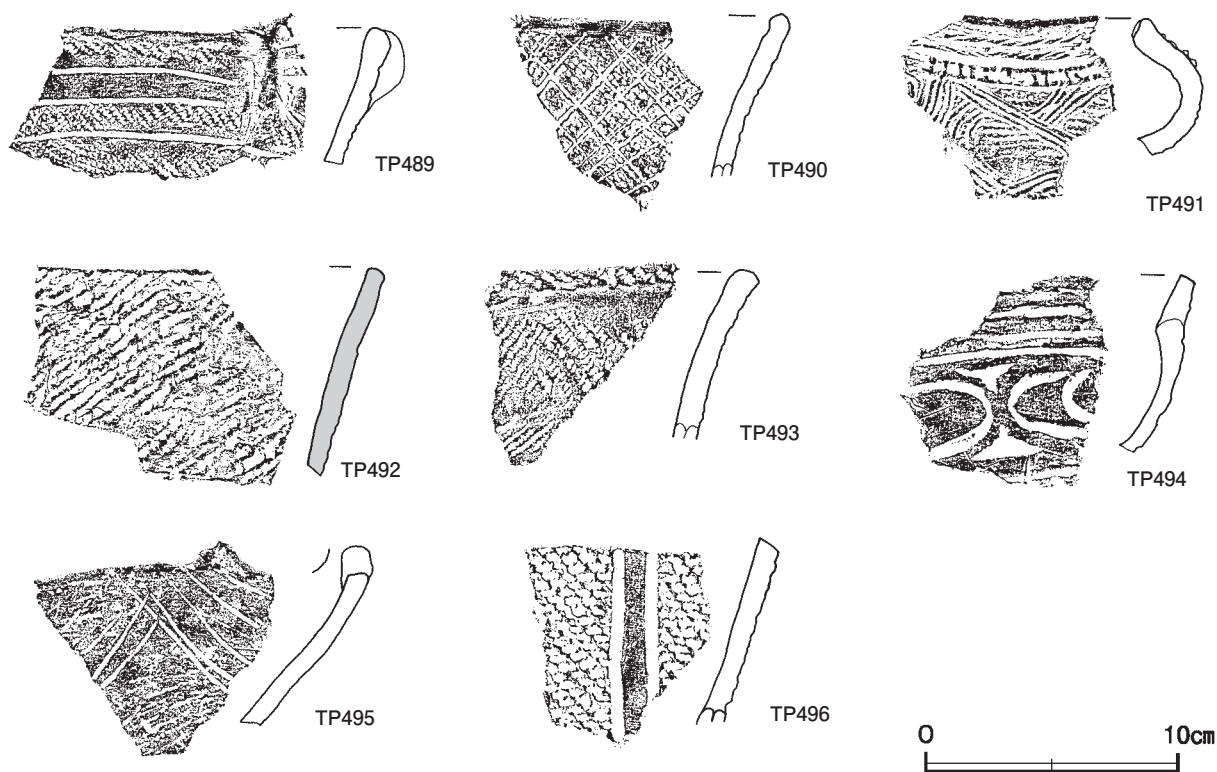
番号	位置	範囲	規 模				主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
			柱穴数	平面形	長径(cm)	短径(cm)		
1	C 4b3 ~ C 4c2	東西 6m, 南北 7m	7	円形・楕円形	28 ~ 53	27 ~ 52	12 ~ 46	
2	D 3a7 ~ D 3a8	東西 3m, 南北 2m	4	円形・楕円形	29 ~ 53	26 ~ 51	17 ~ 32	HG 1 → 本跡
4	D 4e1 ~ D 4f4	東西 9m, 南北 6m	5	円形・楕円形	37 ~ 76	37 ~ 63	17 ~ 29	HG 1 → 本跡
7	H 8f1 ~ H 8g2	東西 3m, 南北 6m	5	円形・楕円形	30 ~ 66	29 ~ 56	36 ~ 68	

(8) 遺構外出土遺物(第 210 ~ 214 図)

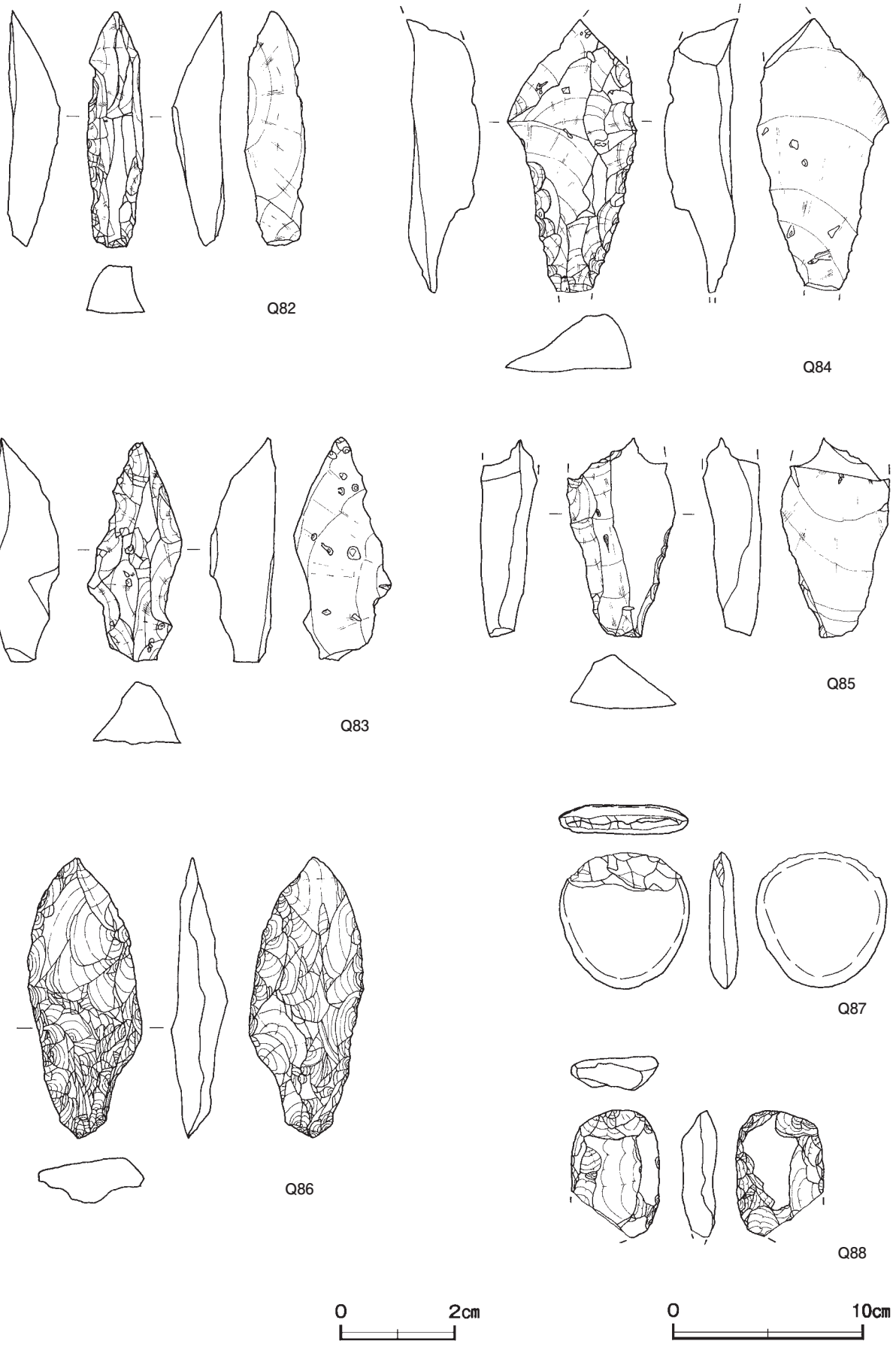
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



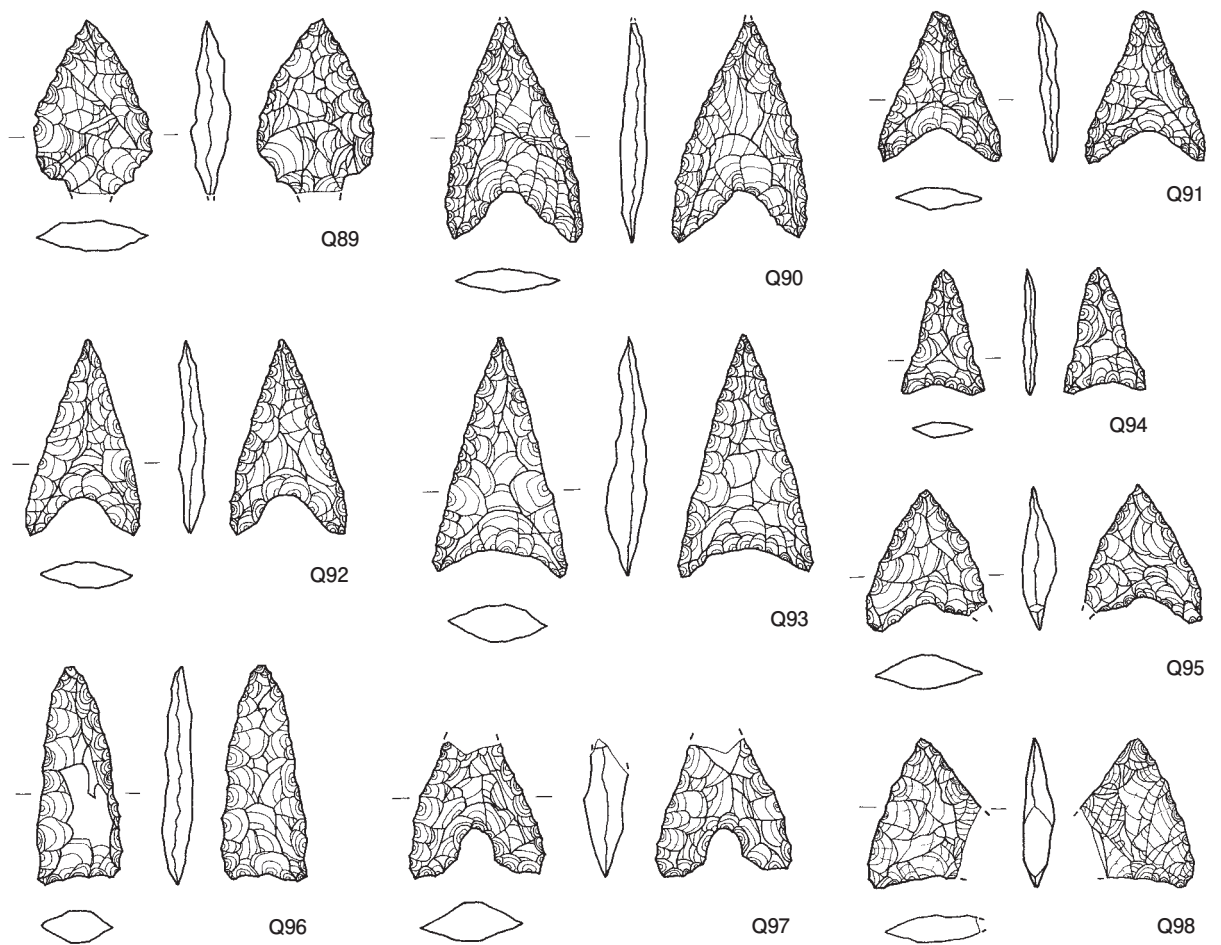
第 210 図 遺構外出土遺物実測図 (1)



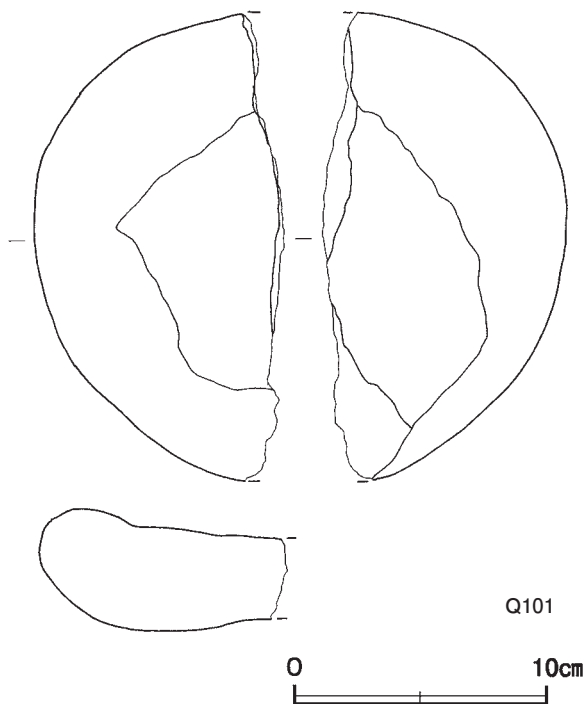
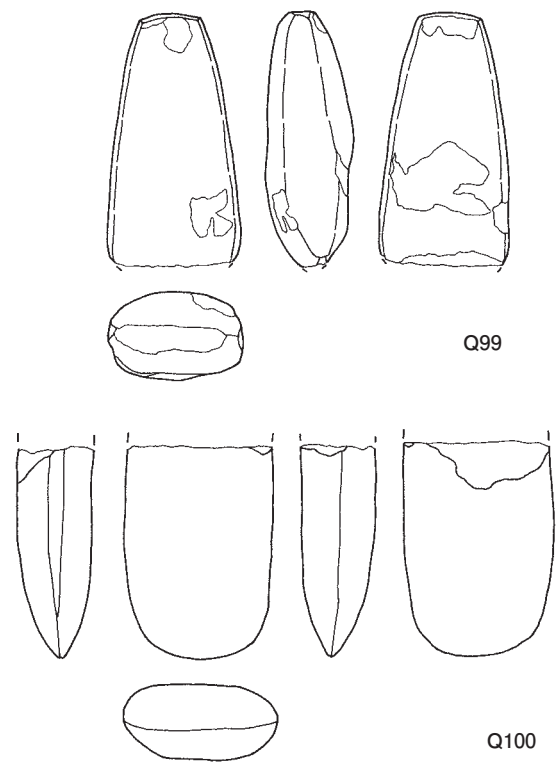
第 211 図 遺構外出土遺物実測図 (2)



第 212 図 遺構外出土遺物実測図 (3)

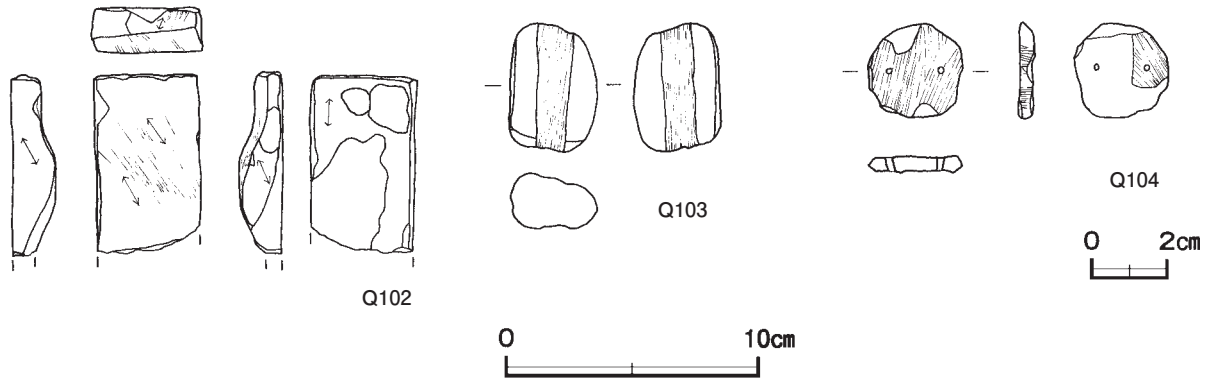


0 2cm



0 10cm

第 213 図 遺構外出土遺物実測図 (4)



第214図 遺構外出土遺物実測図(5)

遺構外出土遺物観察表(第210~214図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
118	縄文土器	深鉢	-	(6.0)	-	長石・石英	橙	普通	沈線に沿う隆帯で加飾した突起	表土	5%
119	縄文土器	深鉢	-	(5.4)	-	長石・石英	明赤褐	普通	沈線に沿う隆帯で加飾した突起	表土	5%
120	縄文土器	ミニチュア土器	[4.4]	2.5	2.2	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	半截竹管による沈線	表土	30% PL31

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP489	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	工具による沈線 RLの単節縄文	表土	PL39
TP490	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	RLの単節縄文 格子目文	表土	
TP491	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	半截竹管による沈線 浮線文 粘土紐を格子状に貼り付け	表土	
TP492	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黄橙	Lの無節縄文	表土	
TP493	縄文土器	深鉢	長石・石英	黄橙	口唇部にRLの単節縄文 RLの単節縄文とLRの単節縄文による羽状構成	表土	
TP494	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	工具による沈線	表土	PL39
TP495	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐灰	Lの無節縄文カ 格子目文	表土	
TP496	縄文土器	深鉢	長石・石英	黄橙	LRLの複節縄文 沈線間磨り消し	表土	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP34	土玉	2.8	2.8	0.5	15.8	長石	ナデ 一方向からの穿孔	HG 3	PL40
DP35	土玉	2.7	2.5	0.6	16.7	長石・石英	ナデ 一方向からの穿孔	SI 22	PL40
DP36	土玉	1.9	1.4	0.4	4.7	長石	ナデ 一方向からの穿孔	表土	PL40
DP37	管状土錘	1.4	(2.9)	0.3	(3.6)	長石	ナデ 一方向からの穿孔	表土	PL40

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP38	泥面子	1.8	1.5	0.4	1.2	長石	裏面ナデ 不明	表土	PL41
DP39	泥面子	2.1	1.9	0.4	2.0	長石	裏面ナデ 不明	表土	PL41
DP40	泥面子	2.2	1.6	0.6	2.2	長石	裏面ナデ 天狗カ	表土	PL41
DP41	泥面子	2.5	1.9	0.6	2.7	長石	裏面ナデ 不明	表土	PL41
DP42	泥面子	2.3	2.2	0.7	3.4	長石	裏面ナデ 鬼カ	表土	PL41
DP43	泥面子	2.1	1.9	0.6	2.4	長石	裏面ナデ 狛犬カ	表土	PL41

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 82	角錐状石器	4.2	1.1	0.8	3.8	頁岩	両側縁から腹面への急角度の押圧剥離調整 断面台形	HG 1	PL41
Q 83	角錐状石器	4.0	2.0	1.1	5.1	黒曜石	両側縁から腹面への急角度の押圧剥離調整 断面三角形	表土	PL41
Q 84	ナイフ形石器	(4.9)	2.4	1.3	(9.1)	黒曜石	先端部欠損 基部及び片側縁を押圧剥離調整	HG 4	PL41

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 85	ナイフ形 石器カ	(3.5)	1.9	1.0	(5.1)	黒曜石	先端部欠損 基部及び片側縁を押圧剥離調整	HG 1	
Q 86	尖頭器カ	5.0	2.1	1.0	8.6	チャート	両面押圧剥離	SI 34	PL41
Q 87	磔器カ	7.2	6.9	1.5	112.0	粘板カ	敲打痕	HG 4	
Q 88	磔器カ	(6.7)	4.6	1.8	(65.0)	頁岩	多方向からの打痕	SI 31	
Q 89	鏃	(2.3)	1.6	0.6	(1.6)	頁岩	凸基有茎鏃 両面押圧剥離	表土	PL43
Q 90	鏃	(3.0)	1.6	0.6	(1.4)	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	表土	PL43
Q 91	鏃	2.0	0.3	1.6	0.6	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	表土	PL42
Q 92	鏃	2.6	1.6	0.4	1.1	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	表土	PL42
Q 93	鏃	3.2	1.8	0.6	1.7	頁岩	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	表土	PL43
Q 94	鏃	1.7	1.1	0.2	0.3	頁岩	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	表土	PL42
Q 95	鏃	(1.9)	(1.6)	0.5	(0.8)	黒曜石	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	表土	PL42
Q 96	鏃	2.9	1.2	0.4	1.3	頁岩	平基無茎鏃 両面押圧剥離	表土	PL43
Q 97	鏃	(1.8)	1.8	0.6	(1.3)	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	表土	PL43
Q 98	鏃	(1.6)	(2.0)	0.5	(0.8)	頁岩	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	表土	
Q 99	磨製石斧	(10.1)	5.1	3.5	(301.1)	緑色凝灰岩	両面研磨 刃部欠損	表土	
Q 100	磨製石斧	(8.6)	6.0	3.0	(290.0)	緑色凝灰岩	両面研磨	SK111	PL44
Q 101	石皿	(18.5)	(10.0)	4.9	(1170.0)	安山岩	全面に磨り痕	表土	
Q 102	砥石	(7.1)	4.4	1.7	(60.6)	砂岩	研面5面	表土	PL45
Q 103	不明 石製品	5.15	3.5	2.2	62.7	ホルンフェルスカ	有溝 溝内に磨り痕カ	HG 4	
Q 104	双孔門板	2.5	2.5	0.4	4.3	滑石	全面研磨 一方向からの穿孔	表土	PL43

第4節 ま と め

1 はじめに

今回の調査で、竪穴住居跡 48 軒、鍛冶工房跡 1 基、竪穴遺構 2 基、炉跡 4 基、地点貝塚 3 か所、陥し穴 1 基、土器埋設遺構 2 基、井戸跡 1 基、土坑 184 基、道路跡 3 条、溝跡 30 条、ピット群 5 か所、遺物包含層 3 か所を確認した。それらの遺構は出土土器から縄文時代、古墳時代、平安時代、室町時代に位置づけられることがわかり、断続的ではあるが長期間にわたる土地利用の状況が明らかになった。

ここでは、時代順に特徴ある遺物や遺構について概観する。縄文時代では、前期における出土土器や住居跡形態の変遷、古墳時代では第 1 号鍛冶工房跡、平安時代では出土土器の様相や第 14 号住居跡出土の軒平瓦について若干の考察を行い、それらを踏まえた上でそれぞれの時代の集落の様相について検討し、まとめとしたい。

2 縄文時代

(1) 縄文時代前期の出土土器について

当時代の住居跡からは、羽状縄文系の繊維土器や竹管文・貝殻文系土器が多量に出土している。ここでは、前期前半と前期後半に出土した縄文土器の形状や文様の特徴について、述べることとする。

前期前半

当期に位置づけられる住居跡は、出土土器から、第 7・9・19・25・29・30・31・32・33・34・36・38・39・43・44・47・48・49・50 号住居跡の計 19 軒である。第 33・36 号住居跡には貝塚が形成されており、出土土器から前期前半に位置づけられる。

出土した土器の大半は黒浜式と考えられ¹⁾、胎土に繊維を多く含み、器面全体に縄文を施している。縄目は単節縄文が主体で、RL、LR ともに確認できるが、多くが RL の単節縄文である。横位の縄文原体による施文を基本とし、羽状構成（4・5・TP97・TP127・TP132・TP135・TP150・TP160・TP162・TP163・TP165・TP166・TP185・TP187・TP192・TP209・TP210・TP214・TP215・TP229・TP232・TP233・TP314・TP320・TP327・TP328・TP382・TP383・T399）を施しているものが多く確認でき、菱状構成（TP86・TP136・TP316・TP373）についても確認することができる。縄目は他に、多条縄文（TP47・TP85・TP88・TP89・TP92・TP100・TP101・TP119・TP145・TP195・TP212・TP316）や無節縄文（5・TP75・TP81・TP120・TP121・TP326）などが確認でき、その文様構成は様々である。また、ヘラ状の工具や半截竹管により、鋸歯状文（TP 4・TP79・TP80）や櫛歯文（TP131・TP157・TP183・TP190・TP317・TP318・TP375）、格子目文（6・27・TP143・TP164・TP177・TP179・TP189・TP193・P394）などの文様を施し、縦位の沈線を強調した肋骨文（TP10・TP134・TP139・TP141・TP159）も散見され、黒浜式から浮島式への移行期の要素が認められる。

器形は、バケツ形をした深鉢（2・6・8・11）で、煮炊きに使用されたものと考えられる。第 32 号住居跡からは器高が浅く、鉢に近い縄文土器（7）が出土しており、用途の違いによるものと推測される。

黒浜式以外の文様も確認でき、第 43 号住居跡では植房式と考えられる縄文土器（14）が出土している²⁾。波状文を器面全体に施しており、繊維を含んだ大形の深鉢である。第 36 号住居跡からは、有尾式と考えられる土器片（TP211）も出土している³⁾。半截竹管を用いて、器面に対して斜め方向からの連続刺突を行っ

ている爪形文で、下平博行氏の編年観による神ノ木式・有尾式の第3段階にあたるものと考えられる。また、繊維を多く含み、内面にミガキを施しており、群馬県で出土する有尾式の特徴に類似している³⁾。

他にも混入ではあるが、縄文原体を還付末端にしてループ文を施している関山式と考えられるもの(TP172・TP212・TP216・TP310・TP312)や、花積下層式と考えられる繊維を含む尖底土器(9)が出土しており、遺構は確認できなかったものの、当遺跡には前期の早い段階から人の往来があったものと考えられる。

前期後半

当期に位置づけられる住居跡は、出土土器から、第17・21・23・26・27・37・40・42・45・46・51号住居跡の、計11軒である。

前期後半に位置づけられる土器は、変形爪形文や貝殻波状文を施しており、その特徴から浮島式と考えられる。特に口唇部外面に工具で斜位や縦位で刺突した条線帯を施し、胴部外面には幅広の変形爪形文が顕著であるため、松田光太郎氏の編年観による浮島Ⅱ～Ⅲ式に位置づけられるものと考えられる⁴⁾。変形爪形文を施している土器片の多くは、横位に施文した爪形文間にヘラ状工具による斜位の刺突が一定の間隔を空けて連続して刻まれており(23・TP237・TP239・TP241・TP247・TP253・TP255・TP271・TP272・TP279・TP280・TP282・TP289・TP291・TP303・TP335・TP348・TP350・TP356・TP360・TP361・TP370)、浮島式の文様構成に無い特徴的なものとなっている。松田光太郎氏によると、これは、浮島式が西関東を文化圏とする諸磯式の属性を取り込んだもので、浮島式と諸磯式との折衷土器とされている⁵⁾。伴に出土した浮島式土器と同じく、粒子の細かい粘土を用いており、口縁部内面には丁寧な横位のミガキを施している。

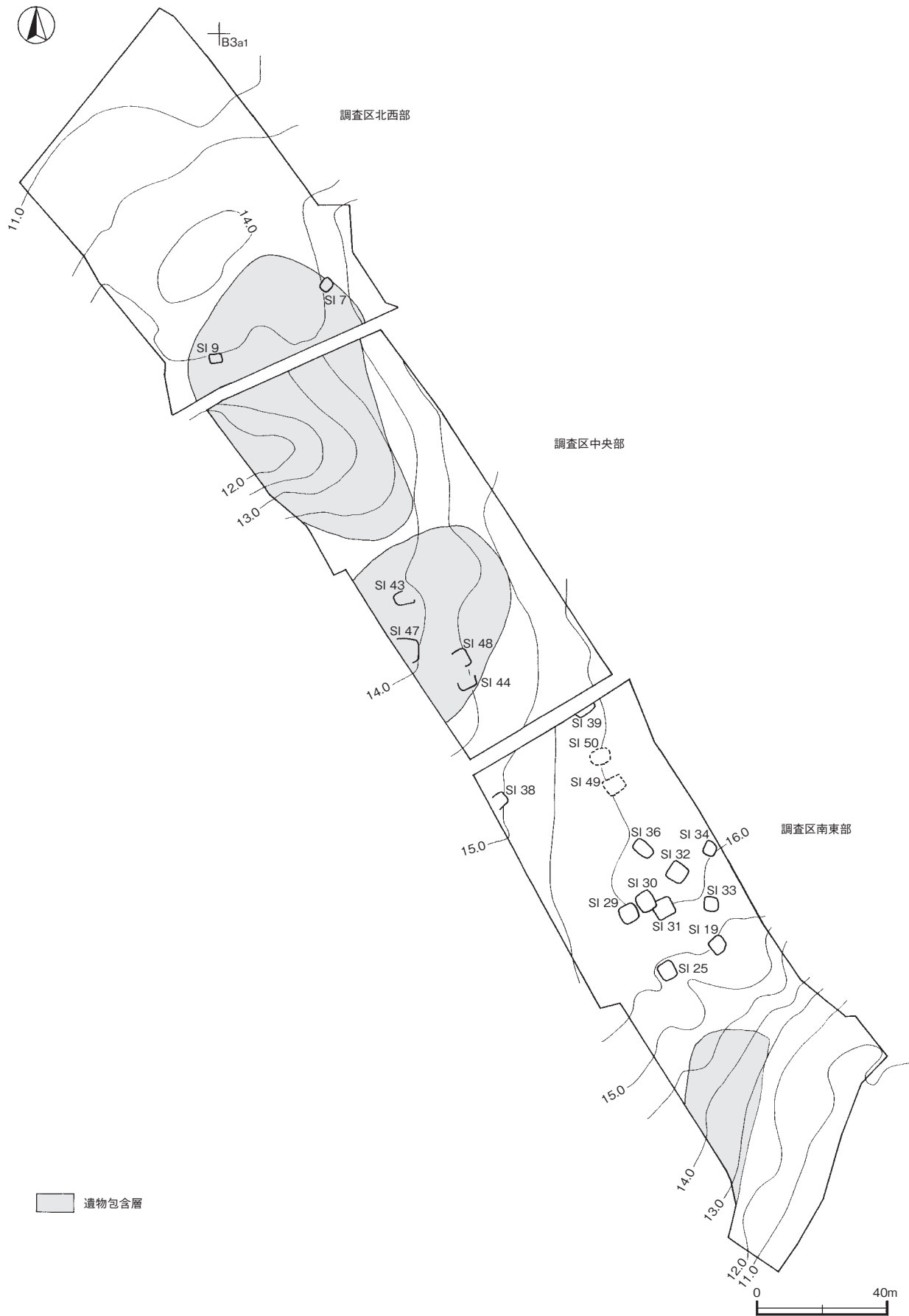
また、粘土紐に斜位の刺突を施している浮線文も少量ながら出土しており、特徴から諸磯式と考えられる。形状はキャリパー形で、縄文を地文とし、その上に浮線文を貼付している。諸磯式の土器片は、浮島式の粒子の細かい胎土と異なり、やや大きめの長石や石英が混じる粘土を用いており、特徴的である。第45・46号住居跡からは、浅鉢と考えられる強く屈曲した口縁部が出土し、第40号住居跡では対弧文を施している土器片が出土しており、それらは関根愼二氏の編年観による諸磯b中1～b中2式段階に帰属するものと考えられる⁶⁾。また、第40・42・45号住居跡からは、猪をかたどったと考えられる諸磯b式の獣面把手(12・20・TP249・TP354)が出土している。第40号住居跡出土の獣面把手は、口縁部外面に目と鼻を表現した粘土塊を分けて貼付している。それに対し、第42号住居跡出土のものは口縁部外面に目と鼻を一つの粘土塊で表現したものを貼付しており、獣面の製作技法に違いがみられる。関根愼二氏によると、これは細かな時期の違いによるもので、提示された分類によれば、第45号住居跡のTP345も最終段階の獣面把手として言える⁷⁾。

(2) 集落の様相

当時代は、住居跡37軒、地点貝塚2か所、陥し穴1基、土器埋設遺構2基、土坑15基、遺物包含層3か所と、遺構数が多く確認できた時期である。出土土器から前期前半、前期後半、中期及び後期の3時期に区分して集落の様相を述べる。

前期前半(第215図)

縄文時代において、確認できた住居跡数が最も多い時期で、計19軒である。桃ノ木谷津に続く調査区南東部の斜面部では、標高15m以上に第19・25・29・30・31・32・33・34・36・39・49・50号住居跡の計12軒が確認できた。また、調査区中央部の第4号遺物包含層が堆積する斜面部では、第38・43・44・47・



第 215 図 然山西遺跡縄文時代前期前半集落変遷図



第 216 図 然山西遺跡縄文時代前期後半集落変遷図



第 217 図 然山西遺跡縄文時代中期・後期集落変遷図

48号住居跡の計5軒が確認でき、調査区北西部で第7・9号住居跡の計2軒が確認できた。今回の調査区は台地縁辺部にあたるため、調査区域外北東方面の台地上に集落はさらに延びているものと考えられる。

第33・36号住居跡の2軒で地点貝塚が確認でき、出土した貝の99%が汽水域に生息するヤマトシジミで占められていることがわかった。当時は縄文海進により霞ヶ浦と太平洋が繋がっており、当遺跡周辺まで汽水域の内海が広がっていたものと考えられる⁸⁾。

前期後半（第216図）

前期前半に続いて集落は営まれ、確認できた住居跡は調査区南東部で7軒、調査区中央部で4軒の計11軒である。住居跡は、調査区中央部の南西側と調査区南東部の中央での2か所でまとまっている。調査区南東部で確認できたのは、第17・21・23・26・27・37・51号住居跡で、標高14mから15mの範囲に位置し、前代の集落より低い位置に住居を建てていることがわかる。

調査区中央部の第4号遺物包含層範囲内で確認できた第40・42・45・46号住居跡の覆土からは、チャートで作られた石鏃10点が出土している。同じ遺構内からは、平均で75点もの石器剥片が出土し、それらの9割以上がチャートの石器剥片であり、住居内または周辺で石器製作が行われていた可能性がある。同じ第4号遺物包含層範囲内に位置する前期前半の住居跡からは3点の石器剥片しか確認できないことから、石器製作は前期後半に行われたものと想定することができる。

中期後半・後期中葉（第217図）

当時期の遺構は、6軒の住居跡が確認でき、そのうち中期が2軒、後期が4軒である。第22号住居跡を除いて、調査区北半部に集中している。

第8・11号住居跡で、中期後半に位置づけられる加曾利E式の縄文土器片が出土している。特に第11号住居跡からは加曾利EIV式と考えられる土器片（TP13・TP14・TP15）が出土している⁹⁾。中期の住居跡は調査区北西部で確認し、中央部や南東部での確認はできなかった。

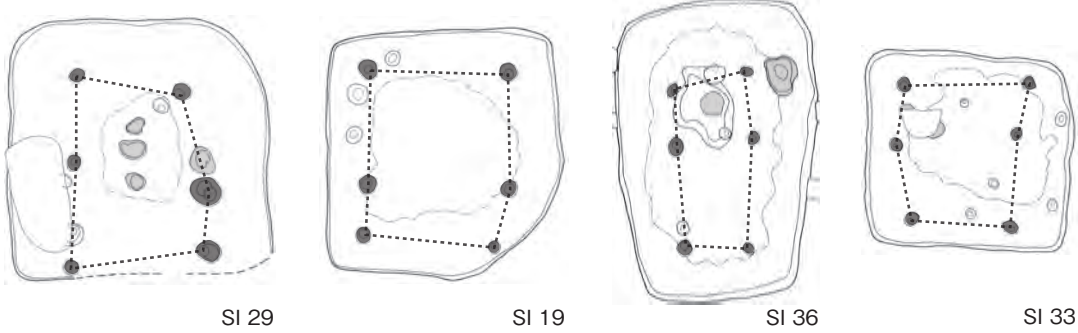
後期は、第1号遺物包含層範囲内の第10・12・13号住居跡と、調査区南東部に第22号住居跡の計4軒が確認できた。特に、第10・12・13号住居跡は、土器の特徴から中葉の加曾利B式期に位置づけられるものである。同じ第1号遺物包含層範囲内では、他に第1・2号土器埋設遺構を確認している。両者とも土器の大きさより若干大きめに掘り込み、正位に土器を据えたもので、特に第1号土器埋設遺構から出土した縄文土器は、口径32cm、高さ40cmと大形のものである。両者の土器埋設遺構から出土した土器は、形状や文様構成から、曾谷式と考えられる。土器埋設遺構から出土した縄文土器は、正位で出土したために墓坑の可能性もあるが、土器内の覆土からは骨片や骨粉は検出されなかった。

(3) 縄文時代前期の住居跡の変遷について（第218・219図）

当時代の住居跡は37軒が確認でき、当遺跡に占める割合は高い。そこで、本項では前期前半と後半の住居跡を分類し、前半から後半への住居跡の形態の変遷を捉えるものとする。分類については、主柱穴の数や配置、住居跡の平面形に着目し、大きくA群～F群と分けた。なお、分類には残存状況の良好なものを抽出した。

繩文時代前期前半住居跡模式圖

A 群



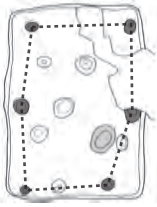
SI 29

SI 19

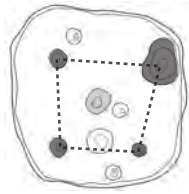
SI 36

SI 33

B 群

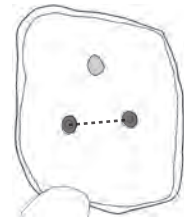


SI 9



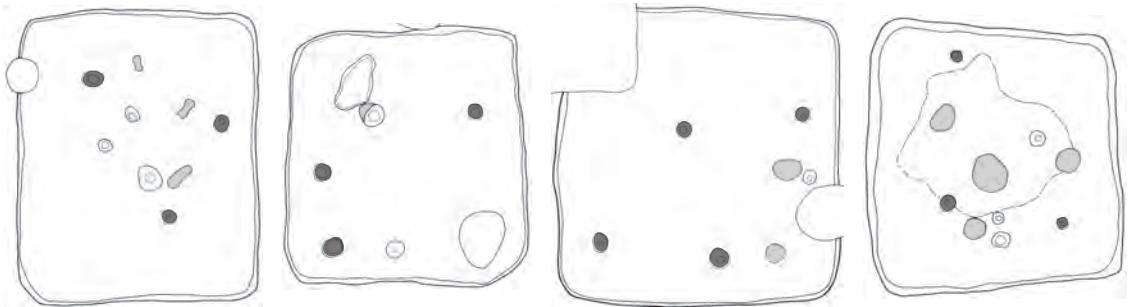
SI 7

D 群



SI 34

F 群



SI 30

SI 25

SI 31

SI 32

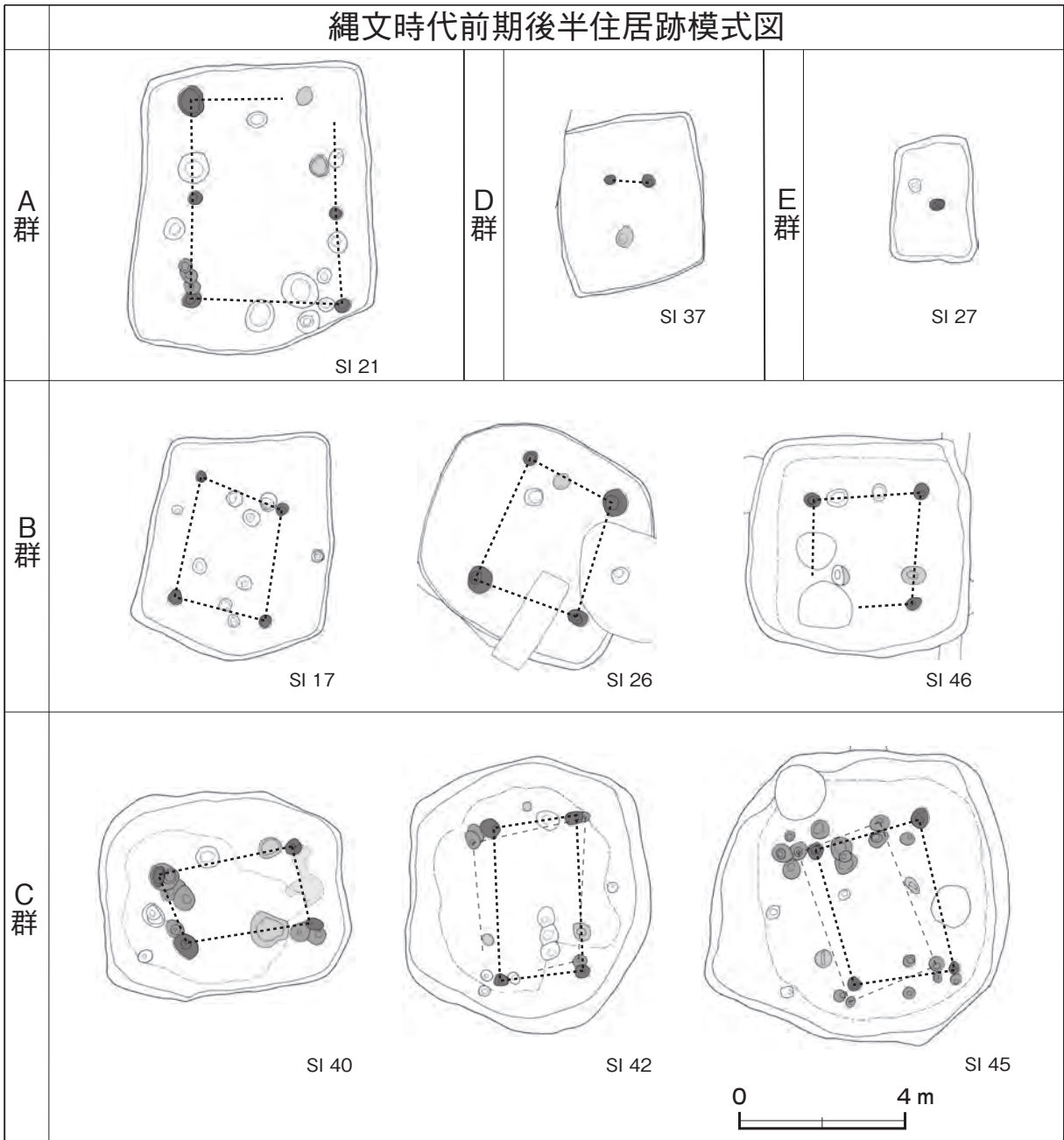


凡例

■ 支柱穴

■ 炉

第 218 図 然山西遺跡繩文時代前期前半住居跡形態図



凡例

- 支柱穴
- 古い支柱穴
- 炉

第 219 図 然山西遺跡縄文時代前期後半住居跡形態図

A群……支柱穴が6か所で、長形状に並ぶもの。平面形は隅丸方形か、それに近い隅丸長方形。炉は2か所または3か所。

B群……支柱穴が4か所で、方形状に並ぶもの。平面形は隅丸方形か、隅丸五角形。炉は1か所または2か所。

C群……4か所の支柱穴が方形状に並ぶもので、建て替えが行われているもの。平面形は隅丸多角形。炉は2か所または3か所。

D群……支柱穴が2か所で、中央部で対となるもの。平面形は隅丸長方形。炉は1か所で、支柱穴と一定の距離を保つ。

E群……支柱穴が中央部に1か所。平面形は隅丸長方形。炉は確認できない。

F群……支柱穴と考えられる柱穴が不規則に配置するもの。平面形は隅丸方形か、隅丸長方形。炉は1か所のものから4か所のものまで様々。

前期前半の住居跡は19軒で、そのうち残存状況の良好なものは第7・9・19・25・29・30・31・32・33・34・36号住居跡の計11軒である。また、前期後半の住居跡は11軒で、そのうち残存状況の良好なものは第17・21・26・27・37・40・42・45・46号住居跡の計9軒である。

前期前半と後半を比較すると、前期前半で5軒と多かったA群が、後半になると1軒のみに減少している。それに対し、B群は前半で1軒のみであったものが、後半には3軒と増加している。また、C群は前半での確認例はなかったが、後半になると3軒が存在している。支柱穴は、前半で多く確認できたA群は6本柱で、後半で多く確認できたB群とC群は4本柱であり、違いが明瞭である。このことから、前期前半では6本柱の住居が主流であったが、後半になり、4本柱の住居へと移り変わっていったものと考えられる。

表 25 縄文時代前期前半・後半竪穴住居跡各形態確認数

	A群	B群	C群	D群	E群	F群
前期前半	5	1	0	1	0	4
前期後半	1	3	3	1	1	0

3 古墳時代

(1) 集落の様相 (第220図)

当時代の遺構は、住居跡2軒、鍛冶工房跡1基が確認できた。時期はそれぞれで異なるため、台地縁辺部に単発的に建てられたものと考えられ、集落の本体は調査区域外の台地上にあるものと想定される。

第16・35号住居跡は、調査区南東部で確認できた。第16号住居跡からは、坏や甕類の他に炭化材や焼土塊が出土しているため、焼失住居の可能性もある。また、南壁中央部が三角状に突出する特徴を持ち、突出部と出入口施設に伴うピット間に貯蔵穴が付設されている。住居跡の年代は、出土土器から6世紀前葉と考えられる。

第35号住居跡は、北東部に土手状の高まりを巡らせた貯蔵穴を持つ住居跡である。4か所の支柱穴間の幅は均一であり、規格性の高い住居跡である。床面や覆土からは坏や甕が出土し、その特徴から6世紀

中葉と考えられる。

また、第1号鍛冶工房跡は調査区北西部で確認でき、覆土から鍛造剥片などの鍛冶関連遺物が出土している。

(2) 第1号鍛冶工房跡について

調査区北西部で確認できた第1号鍛冶工房跡は、出土土器から5世紀中葉と考えられる。平面形は方形で、支柱穴4か所、出入り口施設に伴うピット1か所と当該期の住居跡と変わらない構造をしている。確認できた3か所の炉の覆土からは、それぞれ鍛造剥片が出土している。また、覆土からは、椀形鍛冶滓(M2)や羽口に転用された高坏脚部(80)の鍛冶関連遺物が出土している。これらの出土遺物から、精錬・鍛練段階の鍛冶工房跡と考えることができる。茨城県域内での5世紀中葉における鍛冶工房跡の確認例は、水戸市の十万原遺跡が挙げられ、5世紀中葉～後葉ではひたちなか市の三反田下高井遺跡が挙げられる。両遺跡とも鍛冶工房跡の平面形は方形で、4か所の支柱穴、1か所の出入り口施設に伴うピットを確認している。当遺跡の鍛冶工房跡と同じく、十万原遺跡、三反田下高井遺跡の鍛冶工房跡からは、3か所の炉が確認され、また、土浦市八幡脇遺跡で4世紀代の鍛冶工房跡¹⁰⁾が、つくば市平北田遺跡で6世紀中葉の鍛冶工房跡¹¹⁾がそれぞれ確認されている。八幡脇遺跡の鍛冶工房跡では1か所の炉が、平北田遺跡では3か所の炉がそれぞれ確認されており、古墳時代の鍛冶工房跡は、中期以降に複数の炉を持つことがわかる。三反田下高井遺跡の報告によると、第1号鍛冶工房跡は、遺跡内で確認した他の鍛冶工房跡の形態などの比較から、住居を工房として機能転用したものとしている¹²⁾。また、同じように十万原遺跡の報告においても、確認された鍛冶工房跡は住居を工房に転用したものと捉えており¹³⁾、当遺跡の鍛冶工房跡も、支柱穴の配置や平面形が住居跡との相異が無いことから、住居として使用したものを、鍛冶工房として機能転用したものと考えられる。

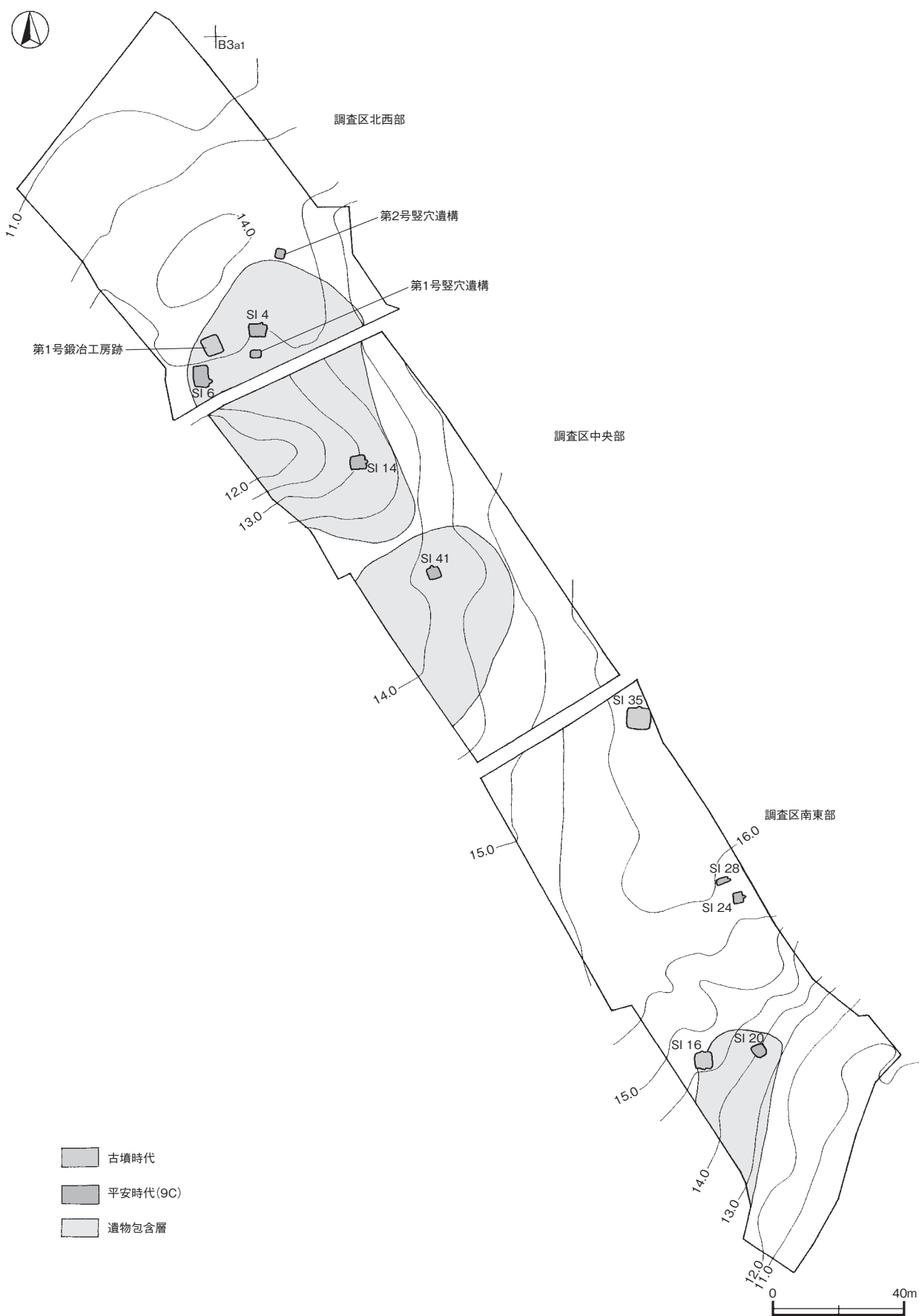
第1号鍛冶工房跡からの出土遺物は、図示できるもので埴9点(58・59・60・61・62・63・64・65・66)、高坏14点(67・68・69・70・71・72・73・74・75・76・77・78・79・80)、甕3点(81・82・83)、鉢1点(84)、土玉7点(DP10・DP11・DP12・DP13・DP14・DP15・DP16)、椀形鍛冶滓1点(M2)で、その中でも高坏は14点と出土量が多く、特筆される。14点中の8点が脚部のみで、共に出土している坏部との接合関係は確認できなかった。同様な遺物の出土状況として三反田下高井遺跡が挙げられ、確認された5世紀後半の鍛冶工房跡からは、42点もの高坏の脚部が出土していると報告されている。田所則夫氏は、これを羽口に転用するためのストックとしての性格付けを行っている¹⁴⁾。出土した高坏脚部が、共に出土した坏部や裾部との接合関係が見られないことに着目されたもので、当遺跡出土の高坏にも同じことが言える。また、当遺跡の鍛冶工房跡から出土した羽口は、高坏の脚部を転用したものであるため、田所氏の述べるように、高坏の坏部や裾部を取り払い、羽口のストックとして鍛冶工房内に保管されていた可能性がある。

4 平安時代

(1) 平安時代の出土土器について

当時代の住居跡や竪穴遺構からは、坏や椀、甕などの土器が出土している。ここでは、その中でも特徴のある土器について述べることにする。

出土土器のうち最も多く出土しているのは坏で、85・98・99・116には刻書が確認できた。それぞれの刻書は先端の尖った工具を使用しており、細く浅い線である。第4A号住居跡から出土した85は内面の



第 220 図 然山西遺跡古墳・平安時代集落変遷図

見込みに「天」の字を、第2号竪穴遺構から出土した116は内面の見込みに「木または水」の字をそれぞれ刻書している。また、第15号住居跡から出土した98・99の体部外面にはそれぞれ判読できない文字或いは記号が刻書され、98は3本線を放射状に、99は5本線を組み合わせて記している。

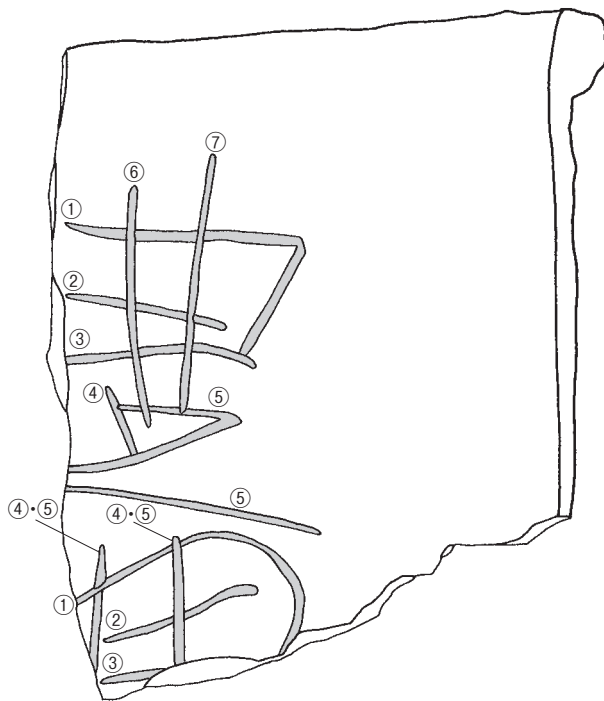
出土した甕には、口唇部をつまみ上げ、体部外面を縦位にヘラ削りするもの(86・90・107)が確認でき、浅井哲也氏の編年観によると常総型甕の末期に位置するものとされる¹⁵⁾。それらは9世紀後葉～10世紀中葉に位置づけられており、86・90・107は、共供した土器を踏まえて9世紀後葉～10世紀初頭と考えることができる。

(2) 第14号住居跡出土の軒平瓦について(第221図)

調査区中央部の第14号住居跡からは、竈の補強材に転用した軒平瓦が出土している。この軒平瓦は、竈袖の内側に据えられていたもので、瓦当面を上に向けて立てられていた。瓦当面には均整唐草文が施され、凹面には「豊田」とヘラ書きされている。胎土には赤色粒子が混じり、色調は橙色である。山路直充氏によると胎土や焼成、叩きの技法、範のキズなどから、下総国分寺出土の瓦¹⁶⁾の同範で、下総国分寺周辺で焼かれた可能性があるものをご教授を頂いている。

この均整唐草文を施している瓦は、下総国分寺の補修期に使われた瓦であるとされている¹⁷⁾。この瓦は下総国北西部での出土例が多く、当遺跡周辺では常総市郷の上遺跡で均整唐草文を施している軒平瓦が出土している¹⁸⁾。また、補修期に帰属する蓮華文軒丸瓦が、結城市結城廃寺で出土している¹⁹⁾。これら二つの遺跡は旧飯沼周辺に位置しており、当遺跡の軒平瓦を含め、旧飯沼などの水運を利用して下総国分寺から当方面へ運搬されたものと考えられる。

また、ヘラ書きされた「豊田」は、古代の郡名の一つで、延喜四年(904年)に岡田郡から改名されたものである。この豊田郡は、現在の常総市を中心に比定されており²⁰⁾、軒平瓦の「豊田」は、豊田郡または在地有力者の名前を指しているものと考えられる。



第221図 「豊田」文字実測図

当遺跡周辺には、瓦の出土や採集されるような遺跡は確認されておらず、官衙や寺院などの瓦葺きの建物があったものとは考えにくい。そのため、さらに広域の旧飯沼周辺の瓦葺きの建物に下総国分寺から供給されていた瓦が、建物の廃絶後に当遺跡に持ち込まれたものとするのが妥当である。また、山路直充氏によると、当遺跡出土の瓦の製作年代は8世紀末～9世紀前半とされている。瓦が出土した第14号住居跡の年代は9世紀後葉～10世紀初頭で、瓦の製作年代との時期差が生じているおり、これも、瓦葺き建物で使用していたものが、後になって当

遺跡に運ばれたと考える根拠である。当遺跡の位置する台地の飯沼を挟んだ北東の対岸には、官称である「介」の字を墨書した土器が出土するなど、官衙に関連していると考えられる国生本屋敷遺跡があり¹⁸⁾、「豊田」の軒平瓦はそこへ供給されていたものと考えられることができる。

また、同じ北東の対岸には、当遺跡と同じく均整唐草文を施した軒平瓦が出土しており、下総国分寺や国生本屋敷遺跡、当遺跡との関連が着目される。

「豊田」のヘラ書きは、「豊」が①～⑦の順、「田」は①～⑤の順で書かれたものと考えられ、現在の書き方と異なっている。特に「豊」の字は、⑥・⑦の縦2本を一番最後に書いており、その違いが顕著である。「田」の字の④・⑤の新旧関係は不明である。なお、左側の④・⑤の線は、弱く撫でるように書いており、①との交点で①は完全に消えていない。

(3) 集落の様相 (第220図)

当時代の遺構は、住居跡9軒、竪穴遺構2基が確認できた。調査区北西部から中央部の第1号遺物包含層範囲内で第4・6・14号住居跡、第1・2号竪穴遺構が確認でき、調査区中央部の第4号遺物包含層範囲内で第41号住居跡が確認できた。また、調査区南東部の第3号遺物包含層範囲内で第20号住居跡、標高16m程の台地上に第24・28号住居跡が確認でき、平安時代の遺構は一か所に集中することなく、散在している。

調査区北西部で確認できた第4A・B号住居跡と第1号竪穴遺構は、軸線が同じで隣接しているため、対となっているものと考えられる。第4A・B号住居跡は、第4B号住居跡から第4A号住居跡に竈の付け替えを行ったもので、第4A号住居跡の竈の右側は棚状遺構である可能性がある。また、鍛冶関連の遺構が確認できなかったため住居跡としたが、覆土からは鍛造剥片や炉壁(DP24)、多くの鉄製品(M3・M4・M5・M6)が出土しており、鍛冶工房の可能性もある。第4A・B号住居跡と対になっていると考えられる第1号竪穴遺構では、焼土塊とともに羽口(DP33)が出土しており、第4A・B号住居跡で使用されたものが、第1号竪穴遺構に廃棄土坑として一括で捨てられた可能性がある。さらに、第4A号住居跡の竈内からは、第14号住居跡の竈に転用されている平瓦(T2)と接合関係のある平瓦が出土しているため、第4A号住居跡は第14号住居跡とほぼ同時期か、ごく近い時期に機能していたものと考えられる。

調査区中央部で確認した第14号住居跡の覆土中からは、廃棄された炉壁(DP25)や椀形鍛冶滓(M1)の鍛冶関連遺物が出土している。炉が確認できず、第4A号住居跡や第1号竪穴遺構とごく近い時期の可能性のあることから、第1号竪穴遺構と同じく、第4A号住居跡で使用したものを廃棄した可能性がある。

他に対の関係があるものとして、調査区南東部で確認できた第24号住居跡と第28号住居跡が挙げられる。軸線は異なるものの、周辺に該当期の遺構が無い場合、対であった可能性がある。

調査区北西部の第6号住居跡、調査区南東部の第20号住居跡では、竈の他に住居跡の中央部に炉が付設されている。調査区内で鍛冶工房跡の可能性のある住居跡が確認できているため、鍛冶工房跡の可能性も考えられるが、鍛造剥片や粒状滓などの鍛冶関連遺物の確認はできなかった。そのため、煮炊きなどに使用する炉であるものと考えられる。

当時代の遺構の時期については出土土器から、第15号住居跡が10世紀中葉で、それ以外は9世紀後葉～10世紀初頭と考えることができる。そのため、9世紀後葉から10世紀中葉まで継続して集落が営まれていたとみることができる。

5 おわりに

今回の調査から、当遺跡では縄文時代、古墳時代、平安時代、室町時代にかけての集落跡であることが判明した。縄文時代前期前半の集落は、竪穴住居跡内に形成された地点貝塚2基を確認しており、縄文海進による海の恵みを受けていたことが明らかとなった。縄文時代前期後半の集落は、東関東を分布圏とする浮島式と西関東を分布圏とする諸磯式の双方の文化が重なり合うところに位置しており、双方の文様要素を取り入れた折衷土器を使用していたことが判明した。また、古墳時代中期には、精錬・鍛練段階の鍛冶を行っている工房跡が見つかり、茨城県西地域における貴重な歴史資料となった。平安時代の集落には、下総国分寺の軒平瓦が集落内に持ち込まれており、遠く離れた下総国分寺と当地域とを一步近づけさせることができた。特に、この軒平瓦には「豊田」と郡名の可能性がある文字が刻まれており、当地域の古代史を解明する上で、重要で希少な資料と言えよう。古代に関わらず、今回の調査が当地域の歴史を紐解くのに重要な成果と考え、歴史研究の質がより一層高まれば幸いである。

註

- 1) 田中和之「羽状縄文系土器」『総覧 縄文土器』 2008年6月
- 2) 越川欣和「茨城県における縄文時代前期中葉の土器について - 植房式土器からの視点-」『土曜考古』第32号 2008年5月
- 3) 下平博行「神ノ木式・有尾式土器」『総覧 縄文土器』 2008年6月
- 4) 松田光太郎「浮島式・興津式」『総覧 縄文土器』 2008年6月
- 5) 松田光太郎「諸磯・浮島式土器の変遷と型式間の影響関係 - 折衷土器成立の意味について考える-」『神奈川考古』第44号 2008年5月
- 6) 関根慎二「諸磯式土器」『総覧 縄文土器』 2008年6月
- 7) 関根慎二「黒曜石交易のトレードマーク - イノシシの付いた土器-」『ストーンロード - 縄文時代の黒曜石交易-』 2003年10月
- 8) 茨城県立歴史館『特別展 霞ヶ浦と太平洋のめぐみ - 塩づくり-』 2012年10月
- 9) 細田勝「加曾利E式土器」『総覧 縄文土器』 2008年6月
- 10) 塩谷修 小松葉子 黒澤春彦 吉澤悟 吉田匠 関口満 「八幡脇遺跡」『田村・沖宿土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第8集 2009年3月
- 11) 船橋理「平北田遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第336集 2011年3月
- 12) 田所則夫 川又清明「一般国道6号東水戸道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 三反田下高井遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第128集 1998年3月
- 13) 皆川修「十万原地区市街地開発事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 十万原遺跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第179集 2001年3月
- 14) 田所則夫「5世紀の鍛冶工房跡について」『研究ノート』7号 1997年6月
- 15) 浅井哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器(Ⅰ)」『研究ノート』創刊号 1991年7月
- 16) 市川市考古博物館『市川市考古博物館図録16』 1988年10月
- 17) 市立市川考古博物館「下総国分寺跡 平成元～5年度発掘調査報告書」『市立市川考古博物館研究調査報告』第6冊 1994年3月
- 18) 石下町史編さん委員会『石下町史』 1988年3月
- 19) 春日部市編さん委員会『春日部市史 庄和地域 原始・古代・中世・近世』 2012年4月
- 20) 市川市史編纂委員会『市川市史』第2巻 1974年3月

参考文献

- ・西村正衛 『石器時代における利根川下流域の研究 - 貝塚を中心として -』 1984年12月
- ・鈴木道之助 『図録・石器入門事典〈縄文〉』 1991年2月
- ・加藤晋平 鶴丸俊明 『図録・石器入門事典〈先土器〉』 1991年3月
- ・浅井哲也 「茨城県内における奈良・平安時代の土器(Ⅱ)」『研究ノート』2号 1992年7月
- ・檜村宣行 「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2号 1992年7月
- ・縄文時代研究班「茨城県における縄文時代前期前半の住居跡形態について」『研究ノート』2号 1993年7月
- ・縄文時代研究班「茨城県における縄文時代前期の住居跡の形態について」『研究ノート』3号 1994年6月
- ・檜村宣行 「和泉式土器編年考-茨城県を中心として-」『研究ノート』5号 1995年6月
- ・縄文時代研究班 「茨城県内における浮島式土器の検討(2)」『研究ノート』7号 1997年6月
- ・埼玉地区文化財担当会 「埼玉の縄文前期 - 埼玉地区縄文時代前期調査報告書 -」『埼玉地区文化財担当者会報告書』第3集 1999年1月
- ・江戸遺跡研究会 『図説江戸考古学研究事典』 2001年4月
- ・茨城県考古学協会 『茨城県における旧石器時代研究の到達点 - その現状と課題 -』 2002年12月
- ・東海大学校地内遺跡調査団 「撚りと結びの考古学」『第12回 足もとに眠る歴史 展示解説書』 2003年1月
- ・山形県長井市教育委員会 『右撚り・左撚り - 縄文の土器文様と紐の撚り -』 2003年9月
- ・藤沢良祐 「瀬戸窯跡群」『日本の遺跡5』 2005年12月
- ・小澤重雄 「山ノ入古墳群 大日下遺跡 北関東自動車道(協和~友部)建設事業地内埋蔵文化財調査報告書XⅢ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第255集 2006年3月
- ・春日部市教育委員会 「花積台耕地遺跡7次地点 慈恩寺原南遺跡4・5次地点 貝の内遺跡11・19次地点 小測山下北遺跡 浜川戸遺跡29次地点」『春日部市埋蔵文化財発掘調査報告書』第1集 2006年3月
- ・富士見市立水子貝塚資料館 「縄文多種彩々 - 土器を飾るパターン -」『平成19年度企画展図録』 2008年1月
- ・茨城県考古学協会中世シンポジウム実行委員会 『茨城中世考古学の最前線: 編年と基準資料』 2011年1月
- ・千葉県立房総のむら 『ムラの鍛冶屋の考古学 - 房総鉄器文化の源流 -』 2011年10月
- ・斎藤貴史 小林和彦 「下平塚蕪木台遺跡2 葛城一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第363集 2012年3月
- ・小林和彦 宮崎剛 「宮内遺跡 国道354号岩井バイパス事業地内埋蔵文化財調査報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第359集 2012年3月

写 真 图 版



縄文時代前期出土土器

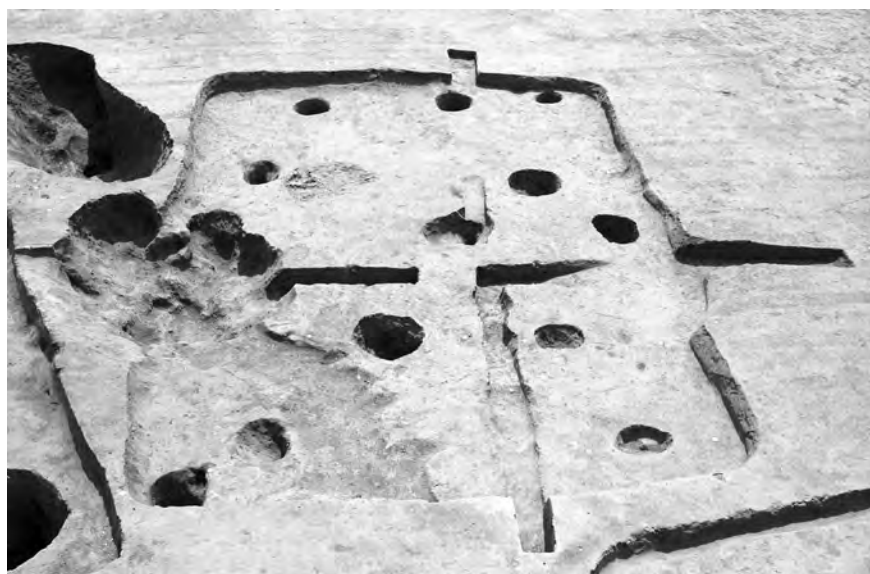
第 7 号住居跡
完 掘 状 況



第 8 号住居跡
完 掘 状 況



第 9 号住居跡
完 掘 状 況



PL2



第10号住居跡
完掘状況

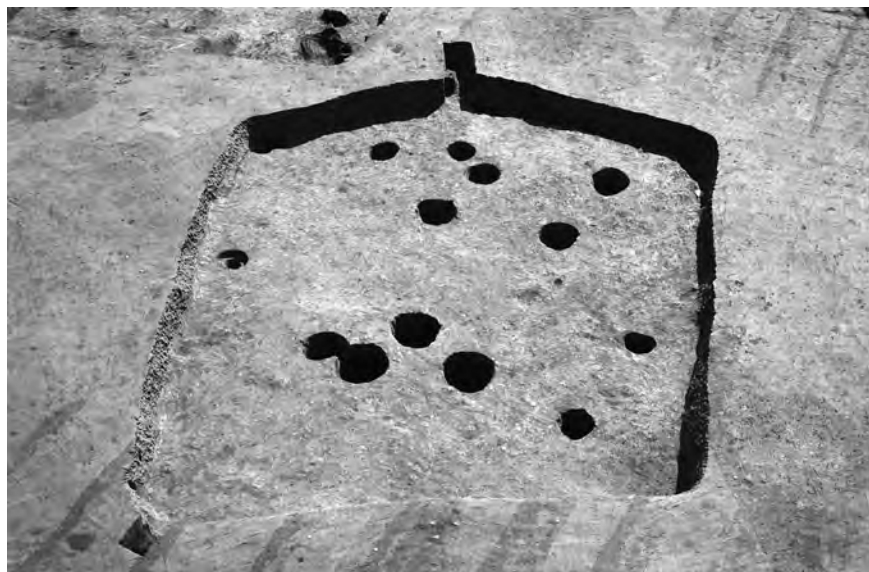


第11号住居跡
完掘状況

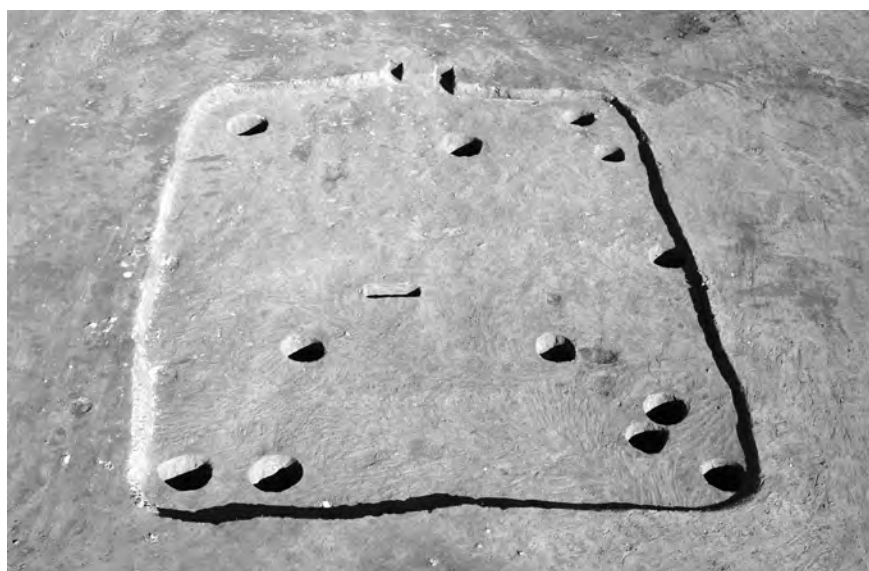


第12号住居跡
完掘状況

第17号住居跡
完掘狀況



第18号住居跡
完掘狀況



第19号住居跡
完掘狀況



PL4



第21号住居跡
完掘状況



第22号住居跡
完掘状況



第23・26号住居跡
完掘状況



第25号住居跡
遺物出土狀況



第25号住居跡
完掘狀況



第27号住居跡
完掘狀況

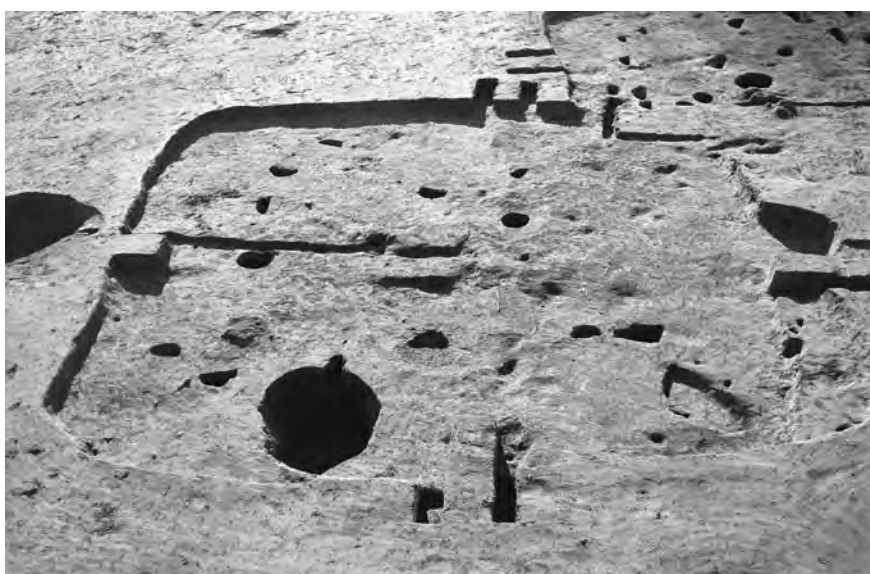
PL6



第29号住居跡
完掘状況



第30号住居跡
完掘状況



第31号住居跡
完掘状況

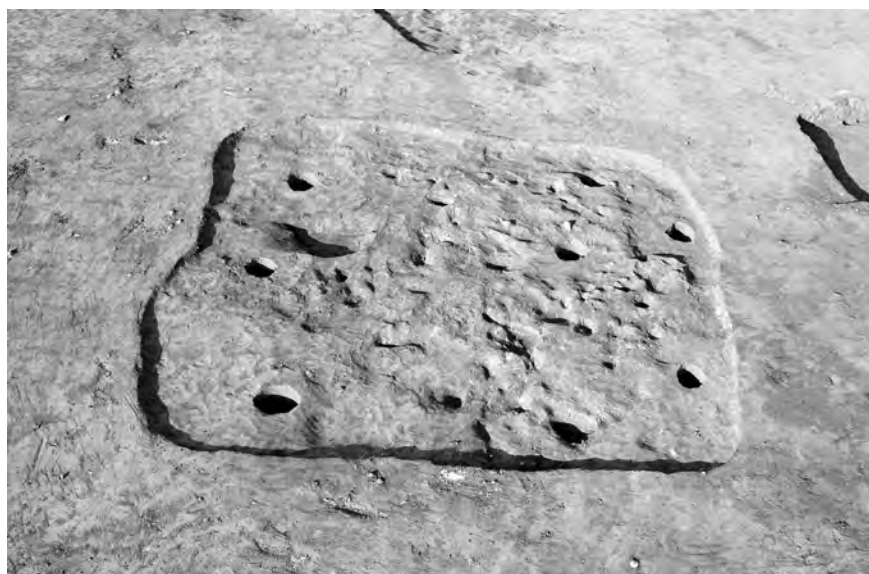
第32号住居跡
完掘状況



第2号地点貝塚
確認状況



第33号住居跡
完掘状況



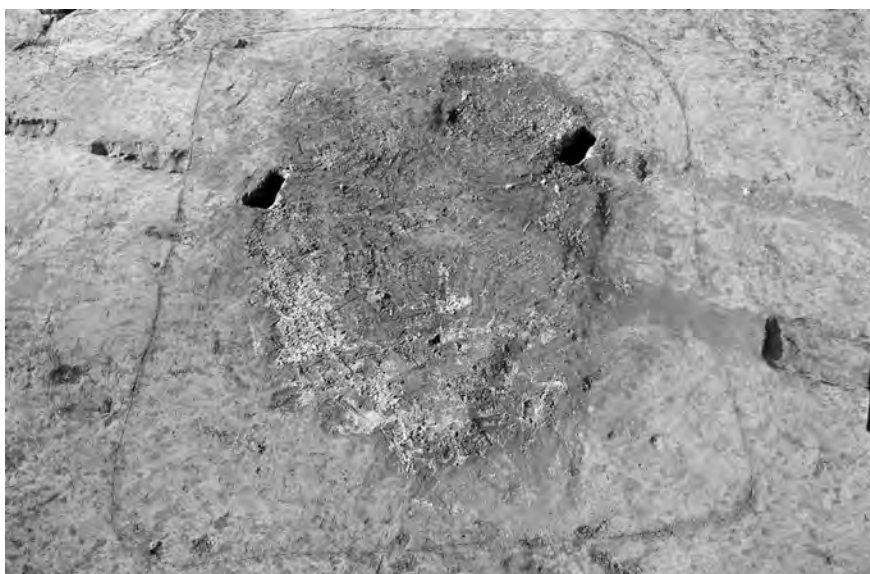
PL8



第34号住居跡
遺物出土状況

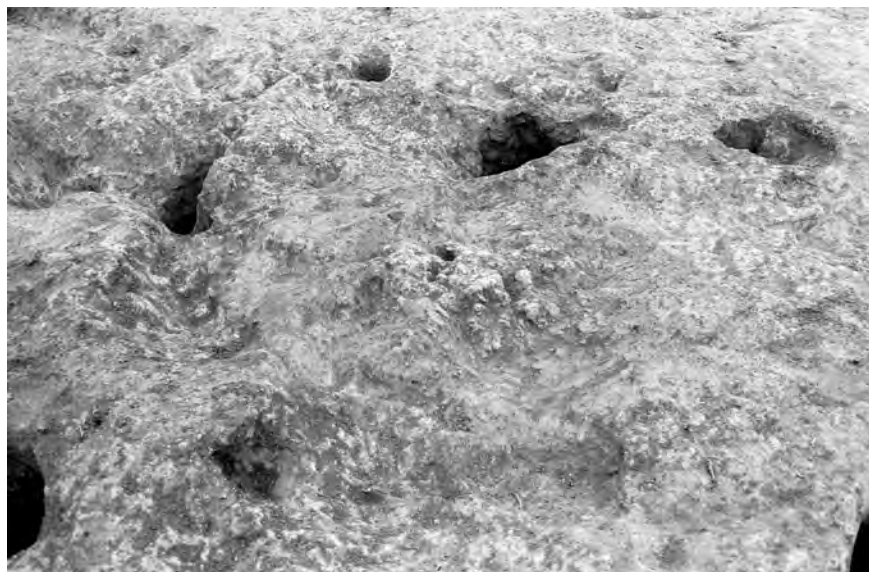


第34号住居跡
完掘状況



第3号地点貝塚
確認状況

第36号住居跡 炉1
完掘状況



第36号住居跡
完掘状況



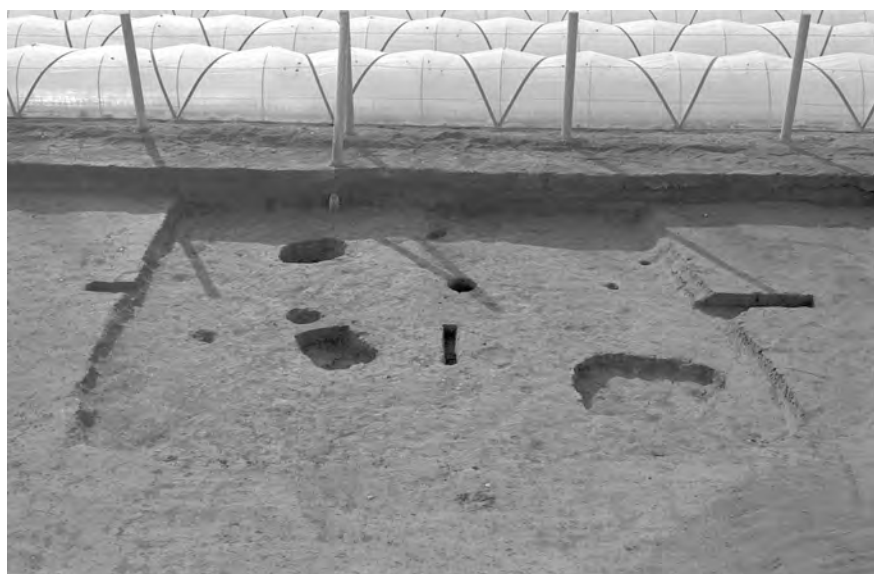
第37号住居跡
完掘状況



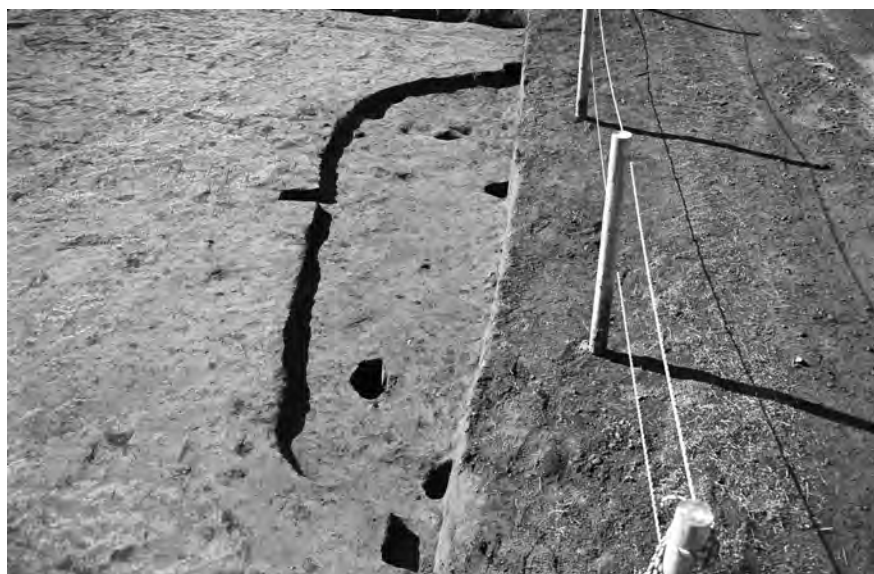
PL10



第38号住居跡 ピット1
遺物出土状況

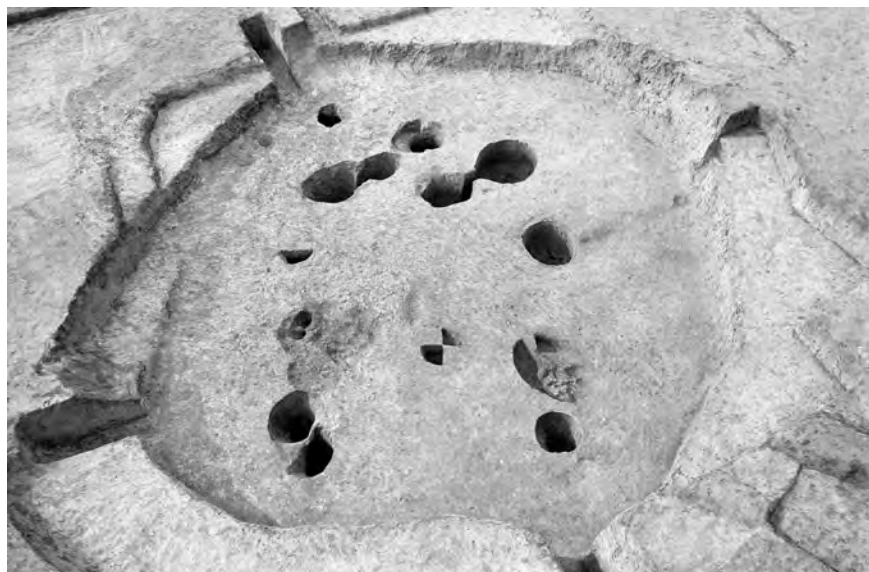


第38号住居跡
完掘状況



第39号住居跡
完掘状況

第40号住居跡
完掘狀況



第42号住居跡
完掘狀況



第43号住居跡
遺物出土狀況





第43号住居跡
遺物出土状況



第43号住居跡
完掘状況



第44号住居跡
完掘状況

第45号住居跡
遺物出土狀況



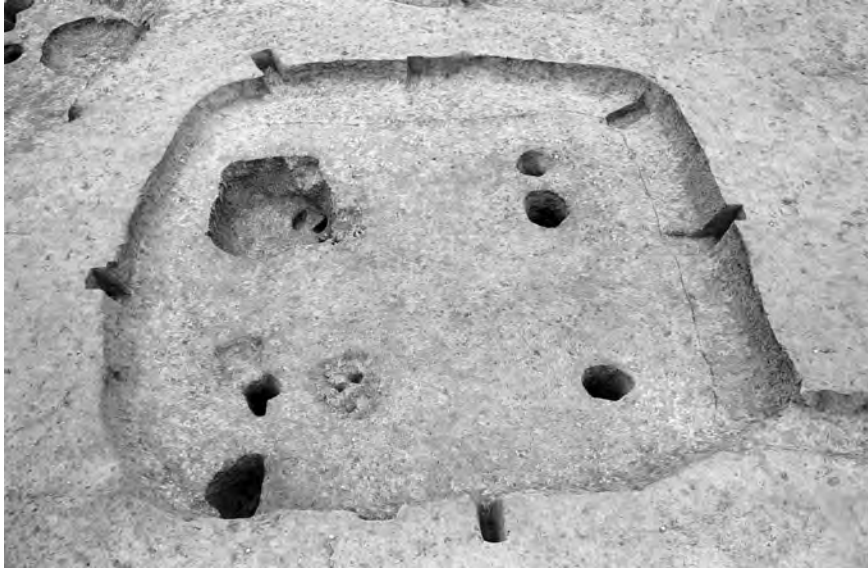
第45号住居跡
完掘狀況



第46号住居跡
遺物出土狀況



PL14



第46号住居跡
完掘状況



第47号住居跡
完掘状況



第48号住居跡
遺物出土状況

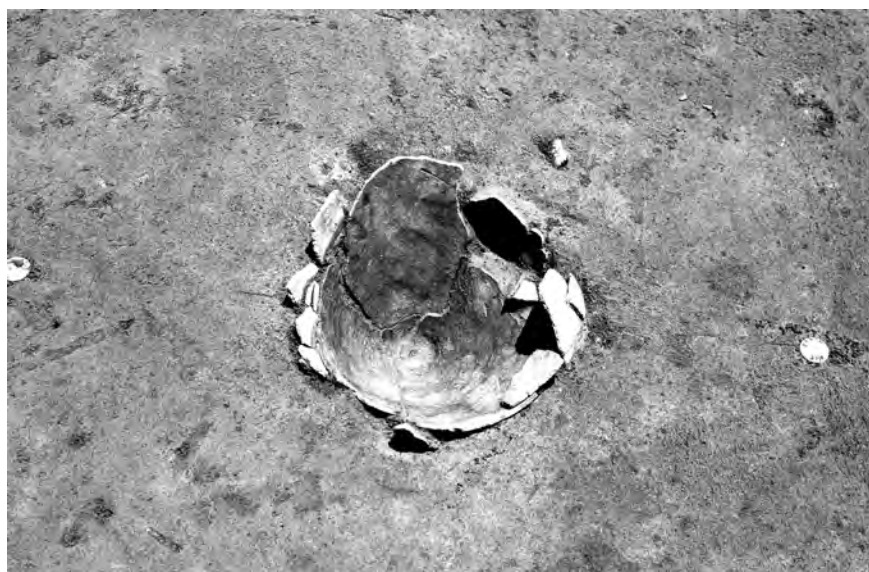
第48号住居跡
完掘狀況

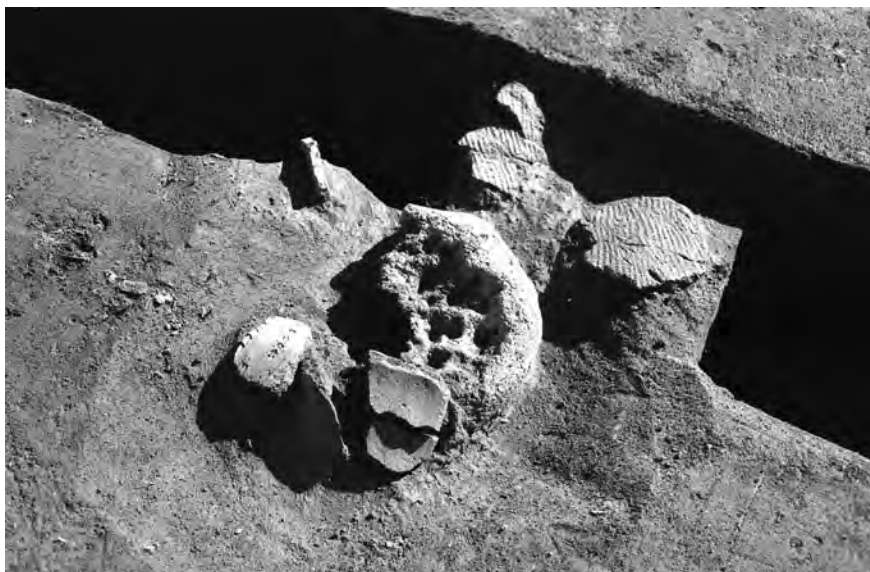


第1号土器埋設遺構
遺物出土狀況



第2号土器埋設遺構
遺物出土狀況





第 130 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 178 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 178 号 土 坑
完 掘 状 况

第 190 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况



第 1 号 遺 物 包 含 層
遺 物 出 土 状 况



第 16 号 住 居 跡 竈
遺 物 出 土 状 况



PL18



第16号住居跡 竈
完 掘 状 況



第16号住居跡
完 掘 状 況



第35号住居跡
遺物出土狀況



第35号住居跡貯蔵穴・竈
完掘状況



第35号住居跡
完掘状況

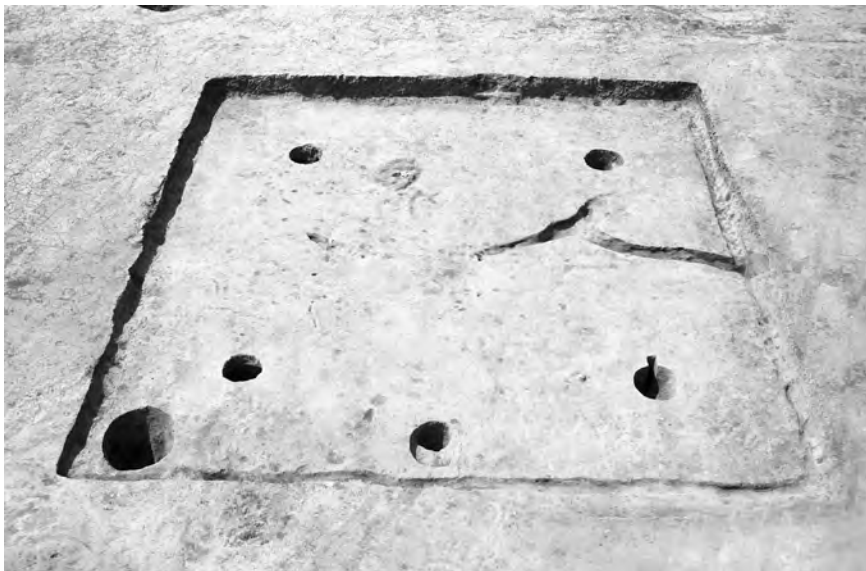


第1号鍛冶工房跡
遺物出土状況

PL20



第1号鍛冶工房跡
遺物出土状況



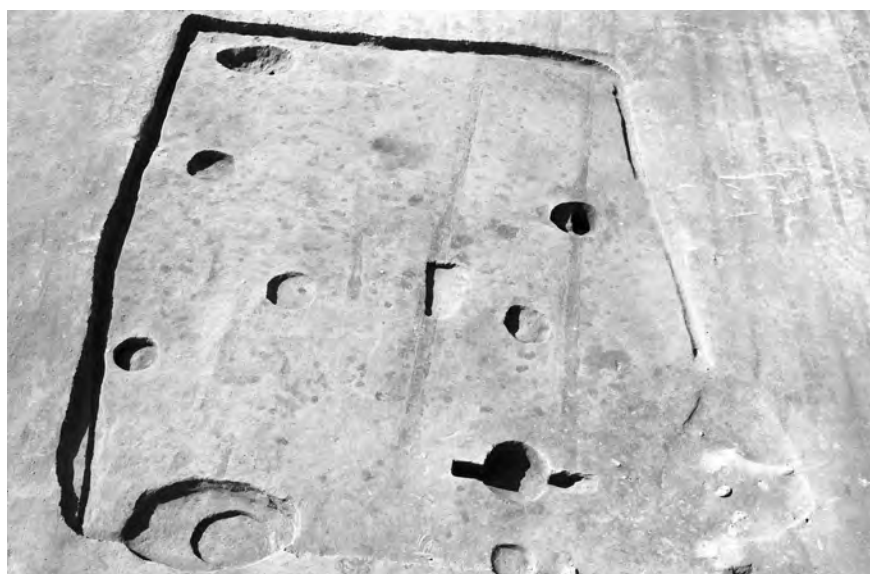
第1号鍛冶工房跡
完掘状況



第4A・B号住居跡
遺物出土状況



第4A・B号住居跡
完掘状況

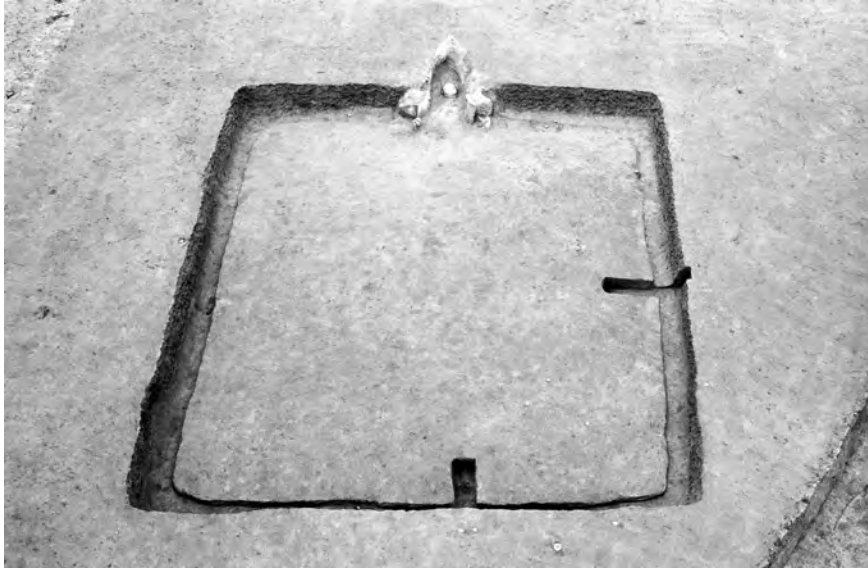


第6号住居跡
完掘状況



第14号住居跡 竈
完掘状況

PL22



第14号住居跡
完掘状況



第15号住居跡 貯蔵穴
完掘状況



第15号住居跡
完掘状況

第20号住居跡
完掘狀況



第24号住居跡 竈
遺物出土狀況



第24号住居跡
完掘狀況



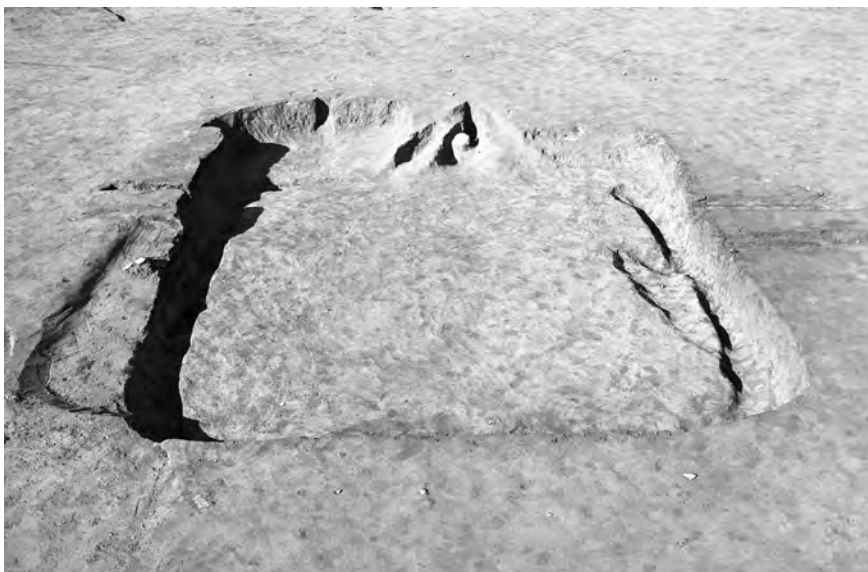
PL24



第28号住居跡
完掘状況



第41号住居跡 竈
完掘状況



第41号住居跡
完掘状況

第1号竖穴遺構
完掘状況



第2号竖穴遺構
完掘状況



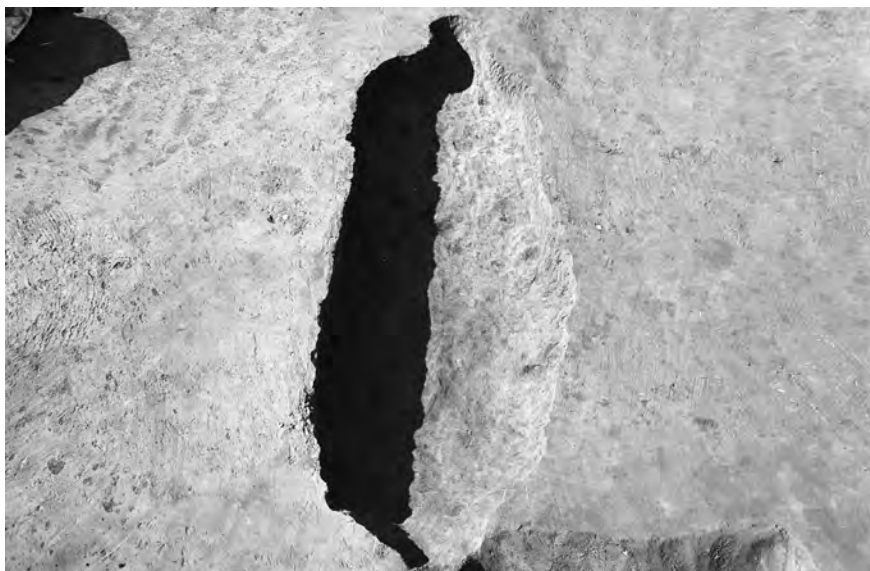
第6号ピット群 ピット6
遺物出土状況



PL26



第 54 号 土 坑
完 掘 状 况



第 157 号 土 坑
完 掘 状 况



第 160 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况

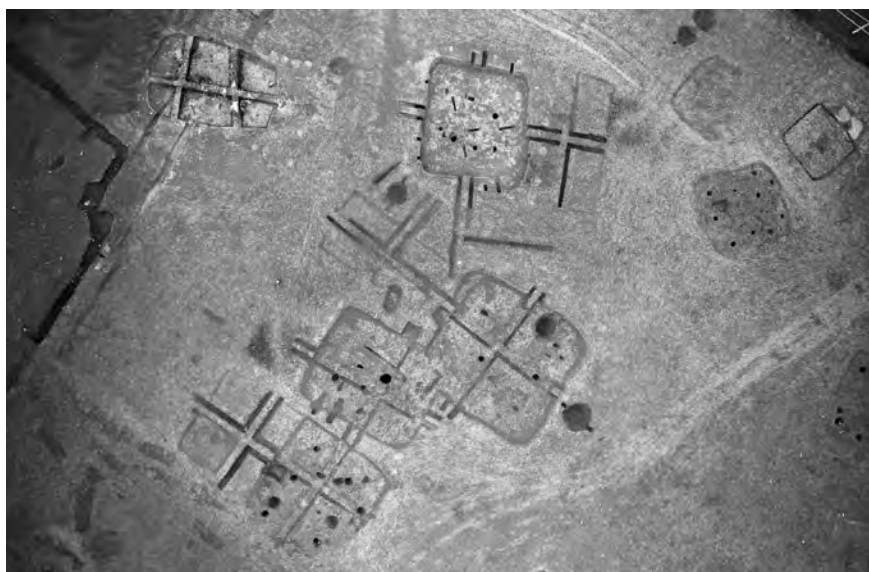
第 170 号 土 坑
完 掘 状 况



第 1 号 井 戸 跡
完 掘 状 况



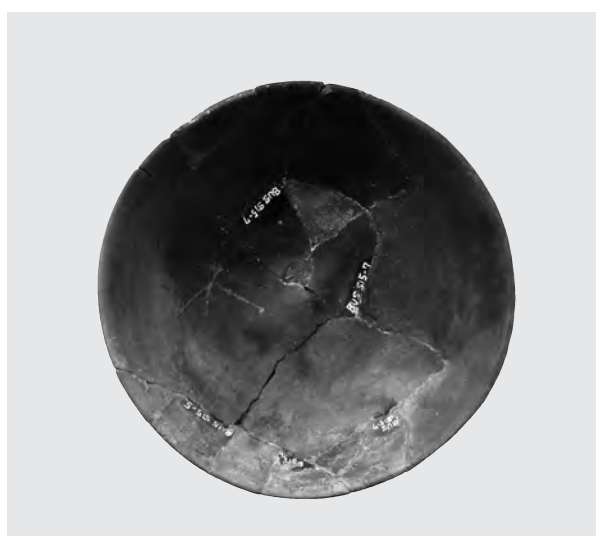
調 査 区 南 東 部
住 居 跡 集 中 地 点







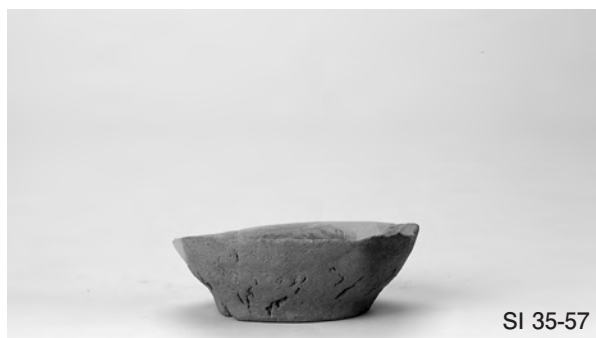
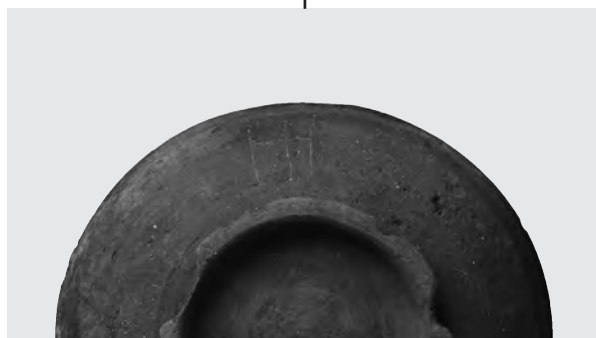
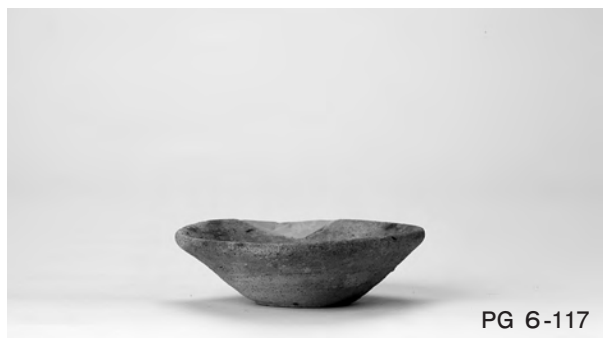
第30・32・45号住居跡，第2号地点貝塚，第1・2号土器埋設遺構出土土器



第4A・45・46号住居跡，第2号竖穴遺構，第190号土坑出土土器



第14・16・30・41・46号住居跡，第1号遺物包含層，遺構外出土土器



第15・24・35号住居跡，第1号鍛冶工房跡，第6号ピット群出土土器

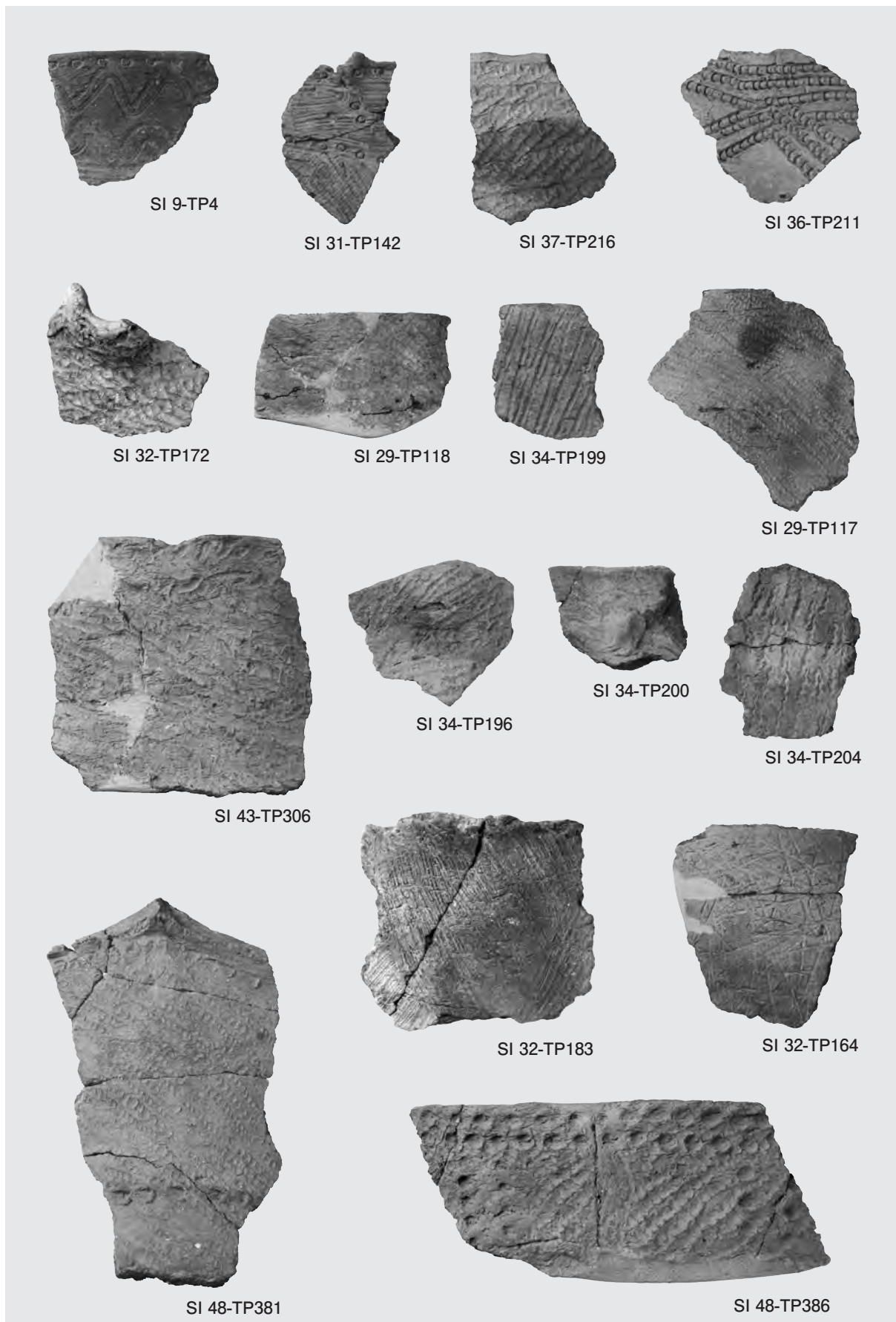


第4 A号住居跡，第1号鍛冶工房跡出土土器

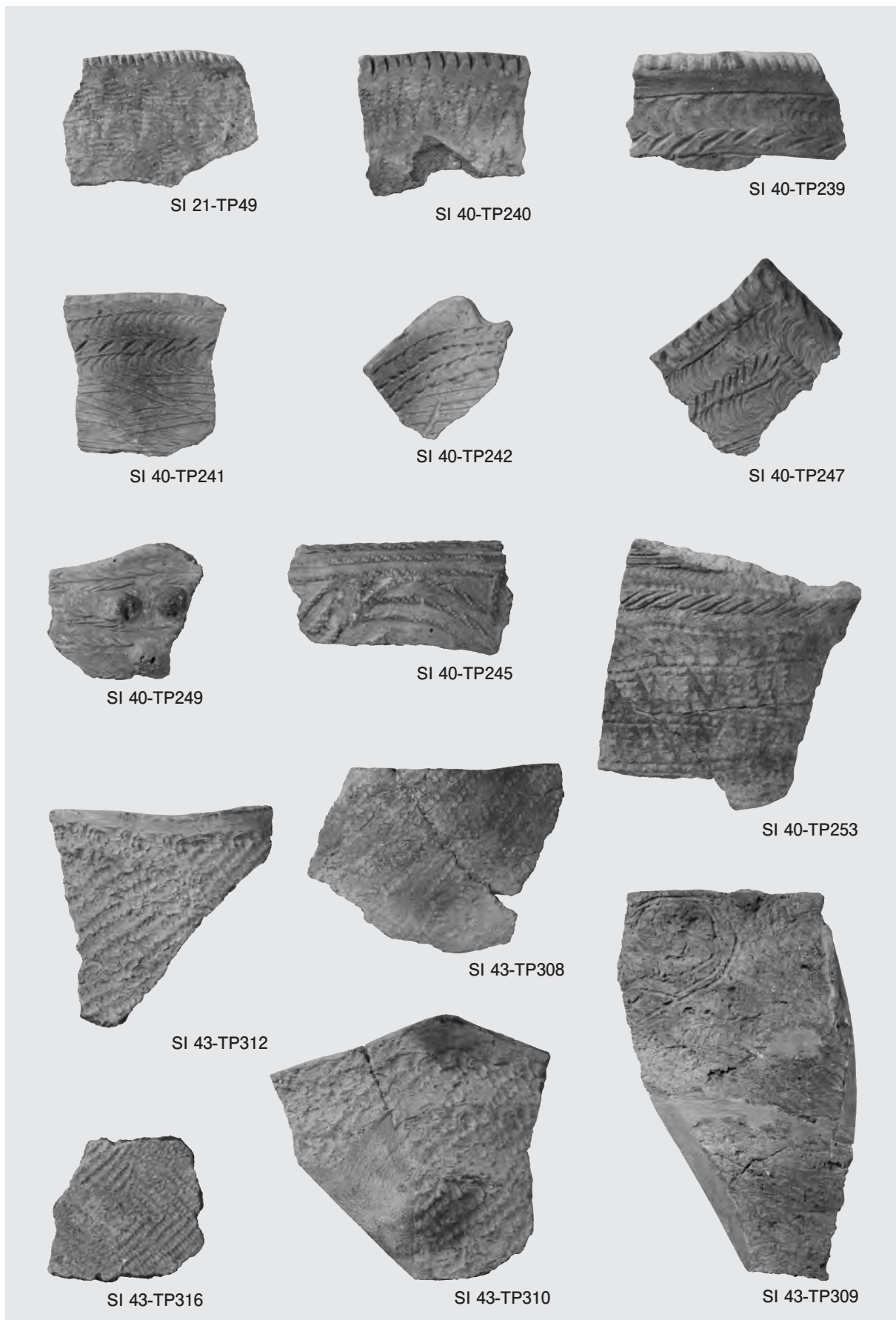
PL34

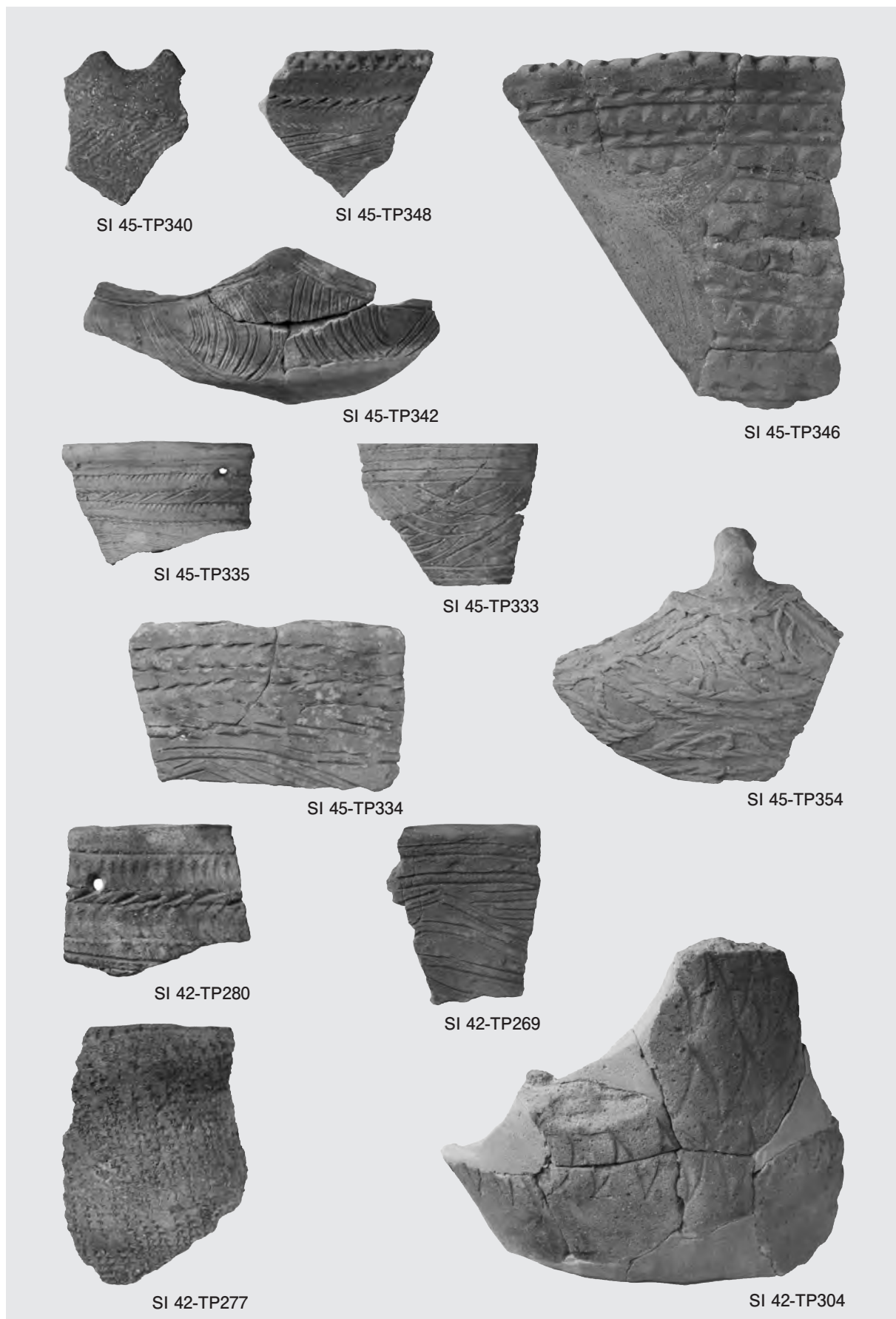


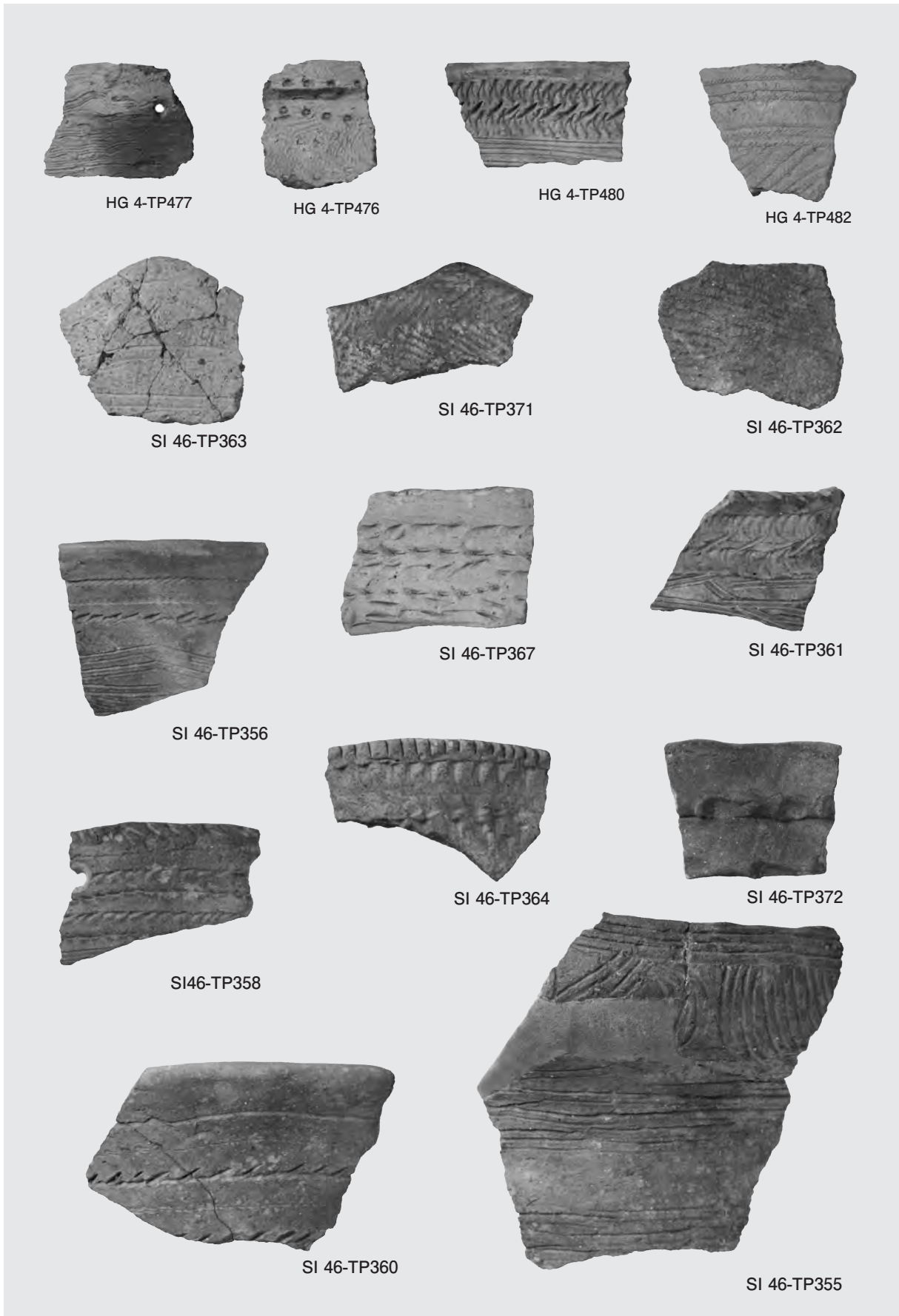
第16号住居跡出土土器



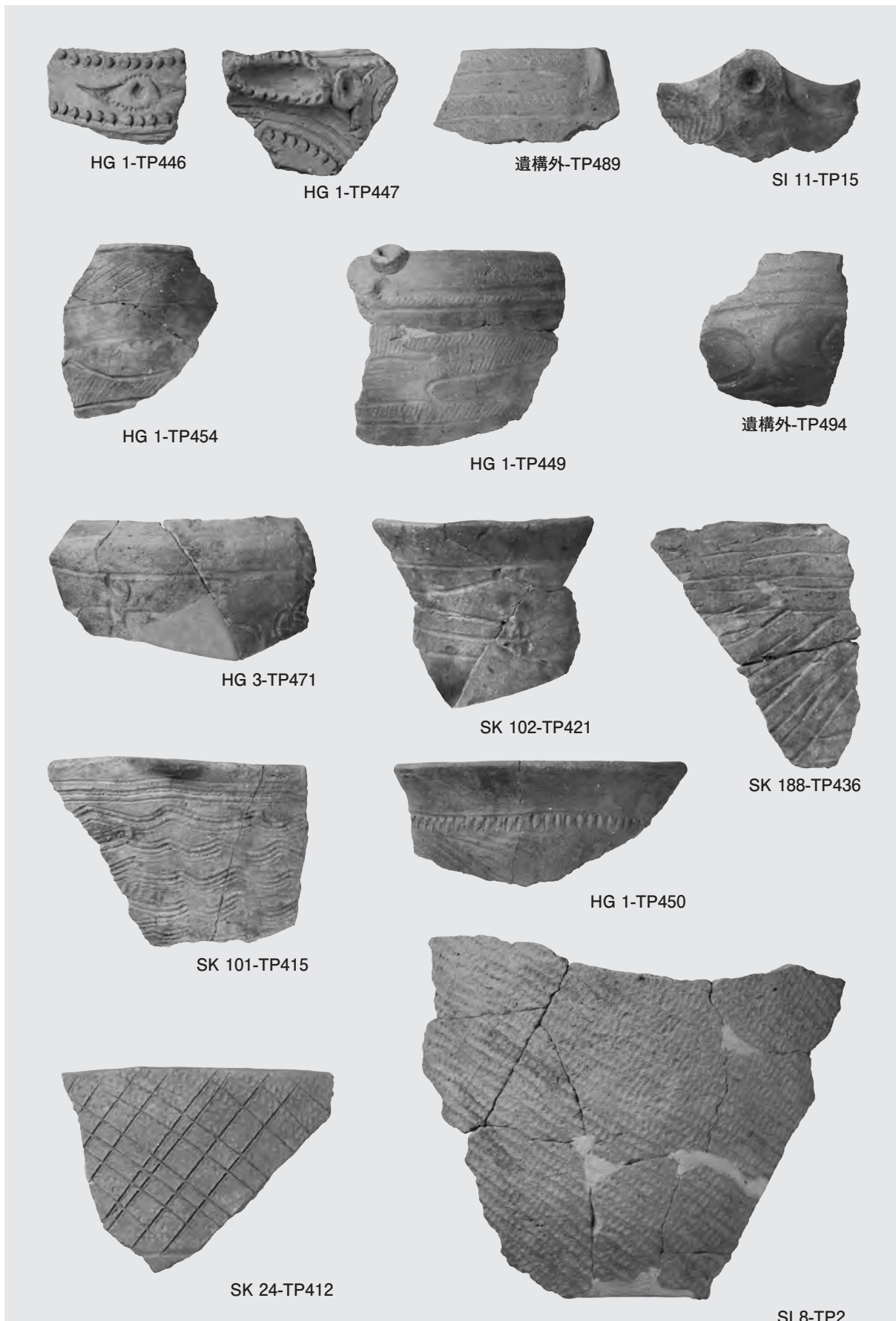
第9・29・31・32・34・36・37・43・48号住居跡出土土器





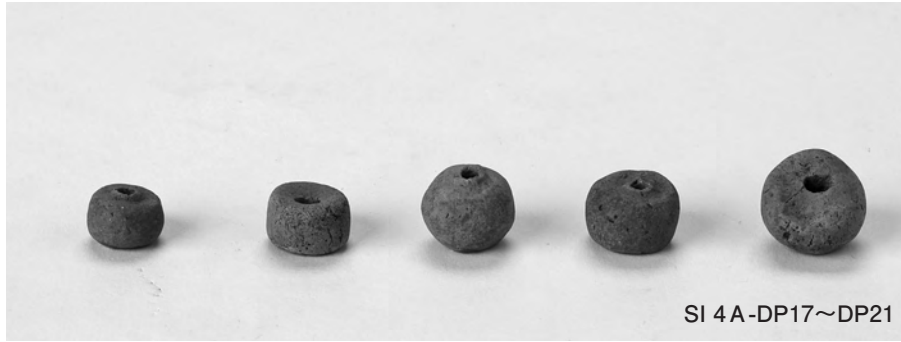


第46号住居跡，第4号遺物包含層出土土器

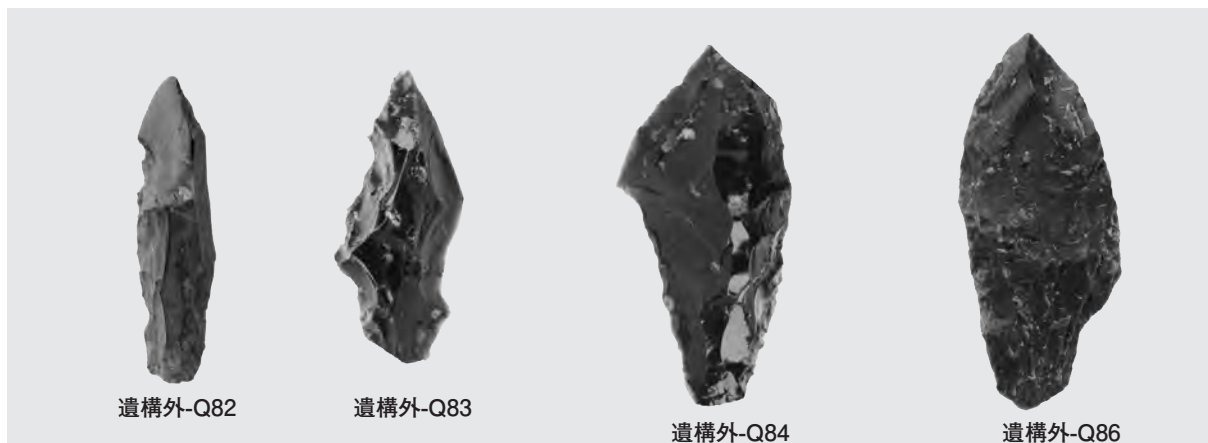


第8・11号住居跡，第24・101・102・188号土坑，第1・3号遺物包含層，遺構外出土土器

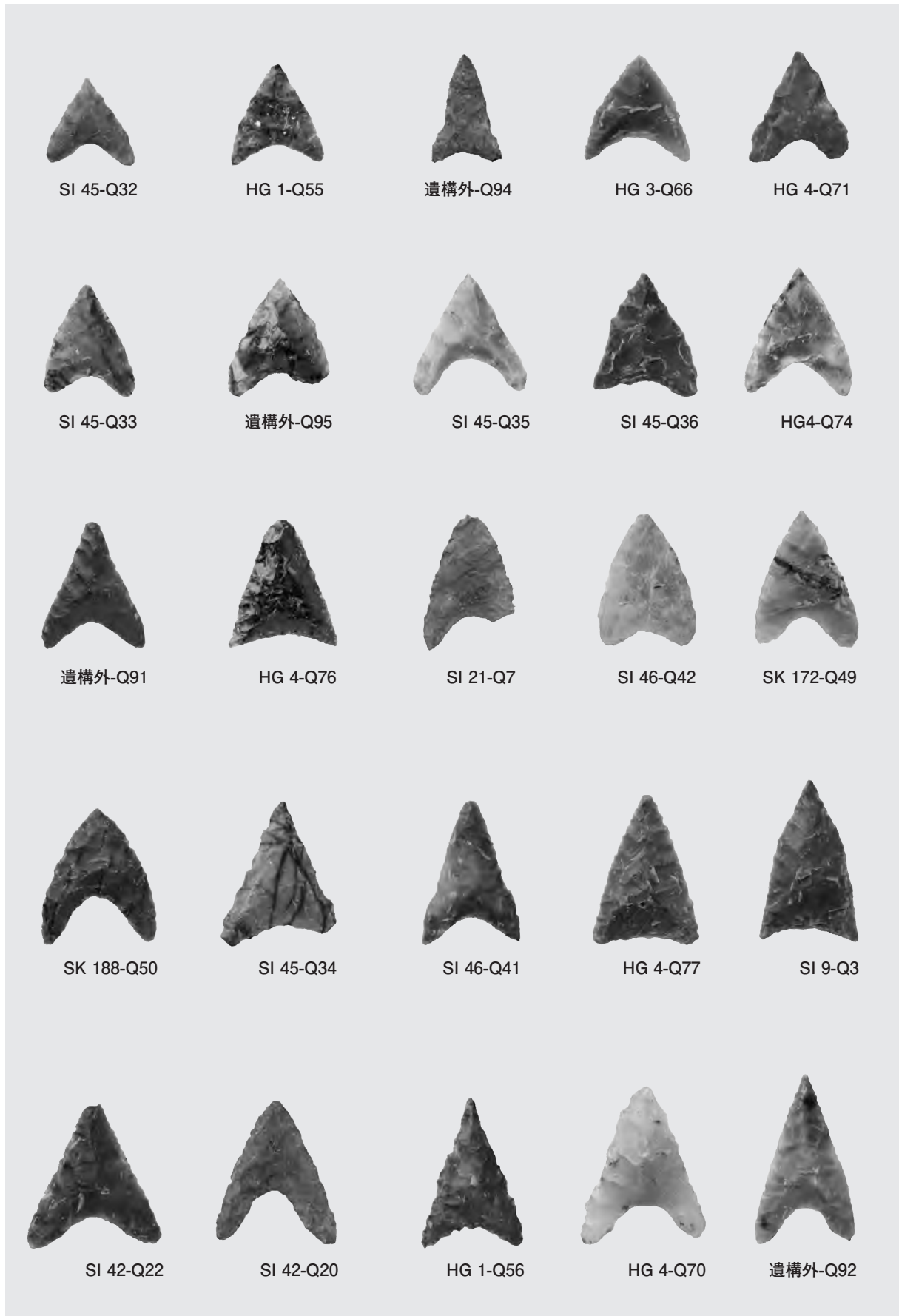
PL40



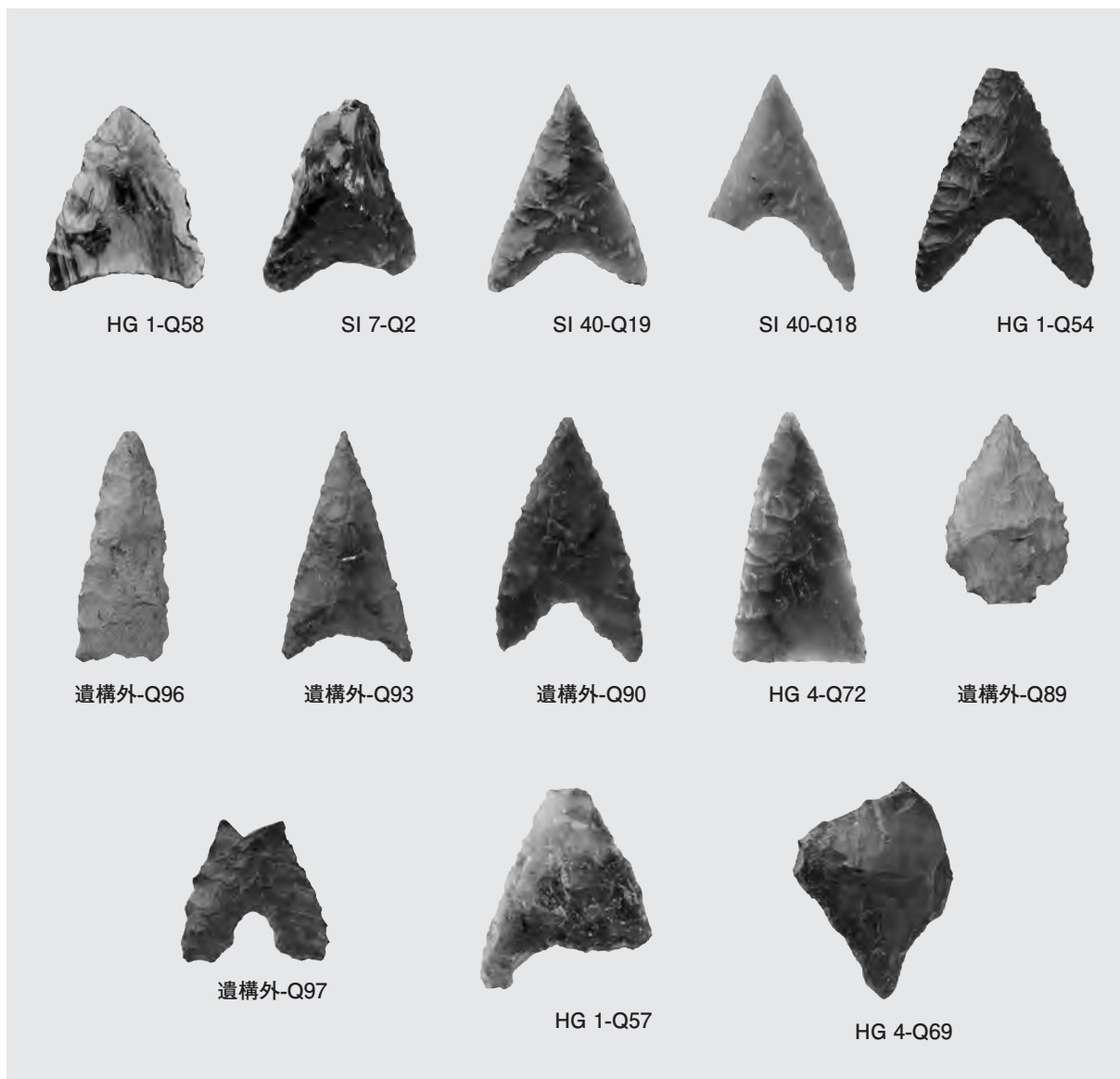
第4A・16号住居跡，第1号鍛冶工房跡，第1号竖穴遺構，遺構外出土土製品



第9・35号住居跡，第1号竖穴遺構，第1・3号遺物包含層，遺構外出土石器，出土土製品



第9・21・42・45・46号住居跡, 第172・188号土坑, 第1・3・4号遺物包含層, 遺構外出土石器



第7・40・42・45号住居跡，第1・4号遺物包含層，遺構外出土石器，出土石製品

PL44



SI 31-Q12



遺構外-Q100



SI 7-Q1



HG 1-Q59



HG 4-Q78



SI 45-Q38



SI 42-Q28



SI 45-Q39



SI 37-Q17



SI 11-Q5



SI 34-Q16



SI 42-Q26



SK 130-Q48

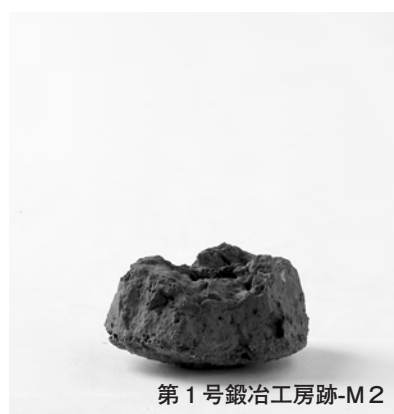
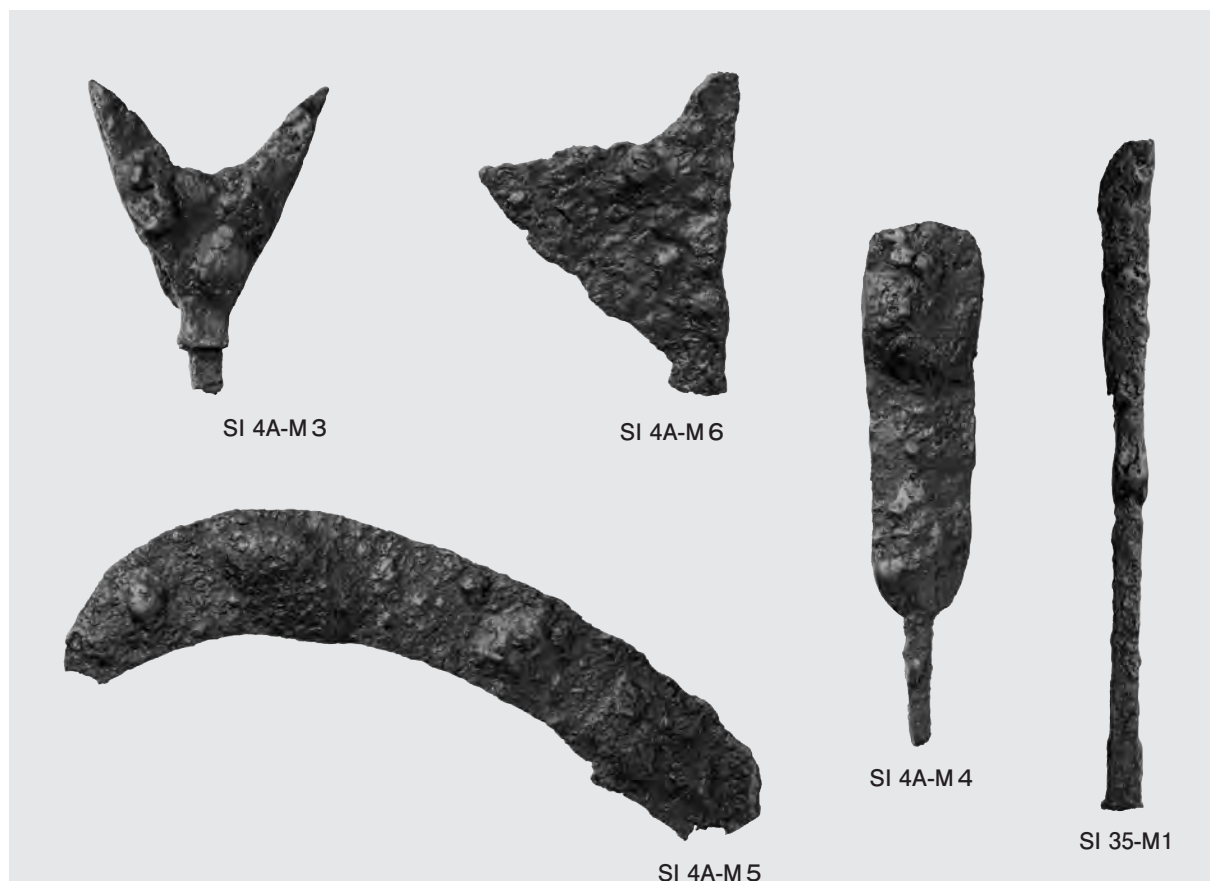


SI 46-Q44

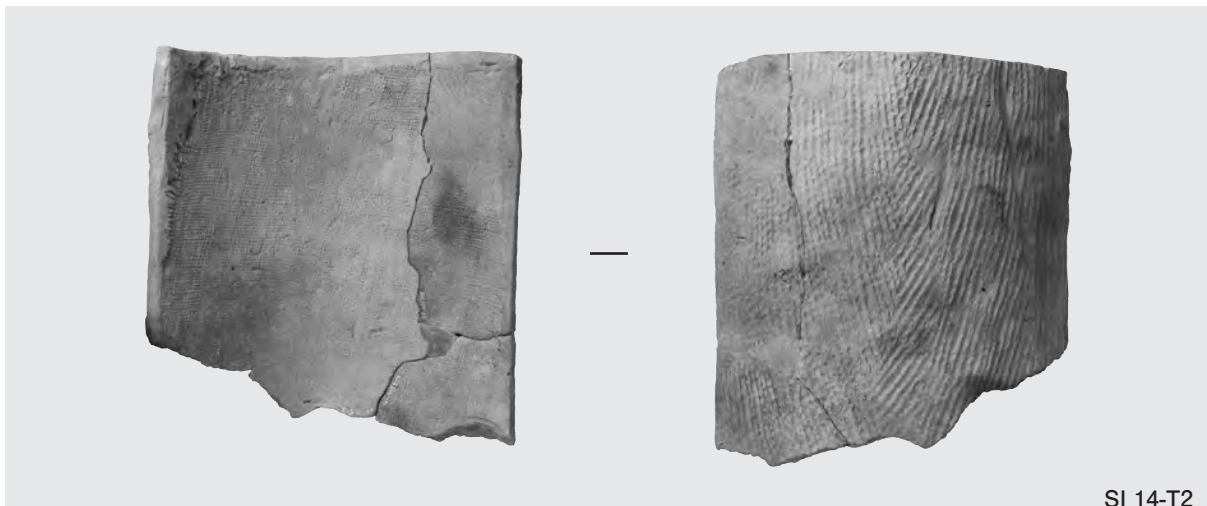
第7・11・31・34・37・42・45・46号住居跡，第130号土坑，第1・4号遺物包含層，遺構外出土石器



第14・26・30・31・32・46号住居跡，第16・25号溝跡，第1号遺物包含層，遺構外出土石器，出土金属製品



第4A・14・35・41号住居跡，第1号鍛冶工房跡出土金属製品，出土土製品



SI 14-T2



SI 14-T1



第14号住居跡出土瓦

抄 録

ふりがな	しがれやまにしいせき							
書名	然山西遺跡							
副書名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第379集							
著者名	小川貴行 田村雅樹 佐藤一也							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2013(平成25)年3月15日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査積 面	調査原因
然山西遺跡	茨城県坂東市大字 内野山字然り山下 68番地の1ほか	08218 - 544057	36度 4分 40秒	139度 55分 15秒	9 ~ 16m	20100401 ~ 20100831 20111001 ~ 20120331	10,520㎡ 12,616㎡	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物			特記事項
然山西遺跡	集落跡	縄文	堅穴住居跡	37軒	縄文土器(深鉢・浅鉢・ミニチュア土器), 石器(搔器・石錐・鏃・磨製石斧・石皿・磨石・敲石・凹石・砥石・剥片・鏃未製品), 石製品(管玉カ), 自然遺物(貝)			
			地点貝塚	2か所				
			陥し穴	1基				
		土器埋設遺構	2基					
		土坑	15基					
	遺物包含層	3か所						
	古墳	堅穴住居跡	2軒	土師器(坏・埴・高坏・甕・甑・手捏土器), 土製品(土玉・支脚), 鉄製品(鏃), 鍛冶関連遺物(椀形鍛冶滓・粒状滓・鍛造剥片)				
		鍛冶工房跡	1基					
	平安	堅穴住居跡	9軒	土師器(坏・椀・高台付椀・甕・手捏土器), 須恵器(坏・高台付坏・瓶・甕・甑), 土製品(土玉・羽口), 石器(砥石), 鉄製品(鏃・鏃・不明鉄製品), 瓦(軒平瓦・平瓦), 鍛冶関連遺物(炉壁カ・椀形鍛冶滓・鉄滓・鍛造剥片)				
		堅穴遺構	2基					
	室町	ピット群	1か所	土師質土器(小皿)				
その他	時期不明	炉跡	4基	瓦質土器, 陶器, 磁器, 石製品(双孔円板), 鉄製品(鏃・火箸カ), 銅製品(煙管・銭貨), 瓦, 自然遺物(貝)				
		地点貝塚	1か所					
		井戸跡	1基					
		土坑	169基					
		道路跡	3条					
		溝跡	30条					
		ピット群	4か所					
要約	縄文時代から室町時代にかけての断続的に営まれた集落跡である。縄文時代では、37軒の堅穴住居跡を確認し、縄文土器のほか、様々な石器が出土した。地点貝塚からは、ヤマトシジミが多量に出土しており、遺跡周辺まで縄文海進による内海が広がっていたものと推測できる。古墳時代においては鍛冶工房跡が確認でき、鍛造剥片や羽口に転用した高坏などが出土した。また、平安時代の堅穴住居跡の竈から、補強材として転用された下総国分寺の軒平瓦が出土した。瓦には『豊田』とヘラ書きされており、古代豊田郡との関連が推測される。							

仕 様

編 集 O S Microsoft Windows 7
Home Premium
レイアウト Adobe InDesign CS5
図版作成 Adobe Illustrator CS4
写真調整 Adobe Photoshop 7
Scanning 6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000ED
組 版 OpenType13級リュウミンPro・L 基本
Adobe InDesign CS5
印 刷 オフセット印刷
写真製版 スクリーン線数 モノクロ175線 口絵カラー210線
・印刷所へは、Adobe InDesign CS5でレイアウトしたものを入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第379集

然 山 西 遺 跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
新設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成25（2013）年 3月12日 印刷

平成25（2013）年 3月15日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団

〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2

茨城県水戸生涯学習センター分館内

TEL 029-225-6587

H P <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 株式会社高野高速印刷

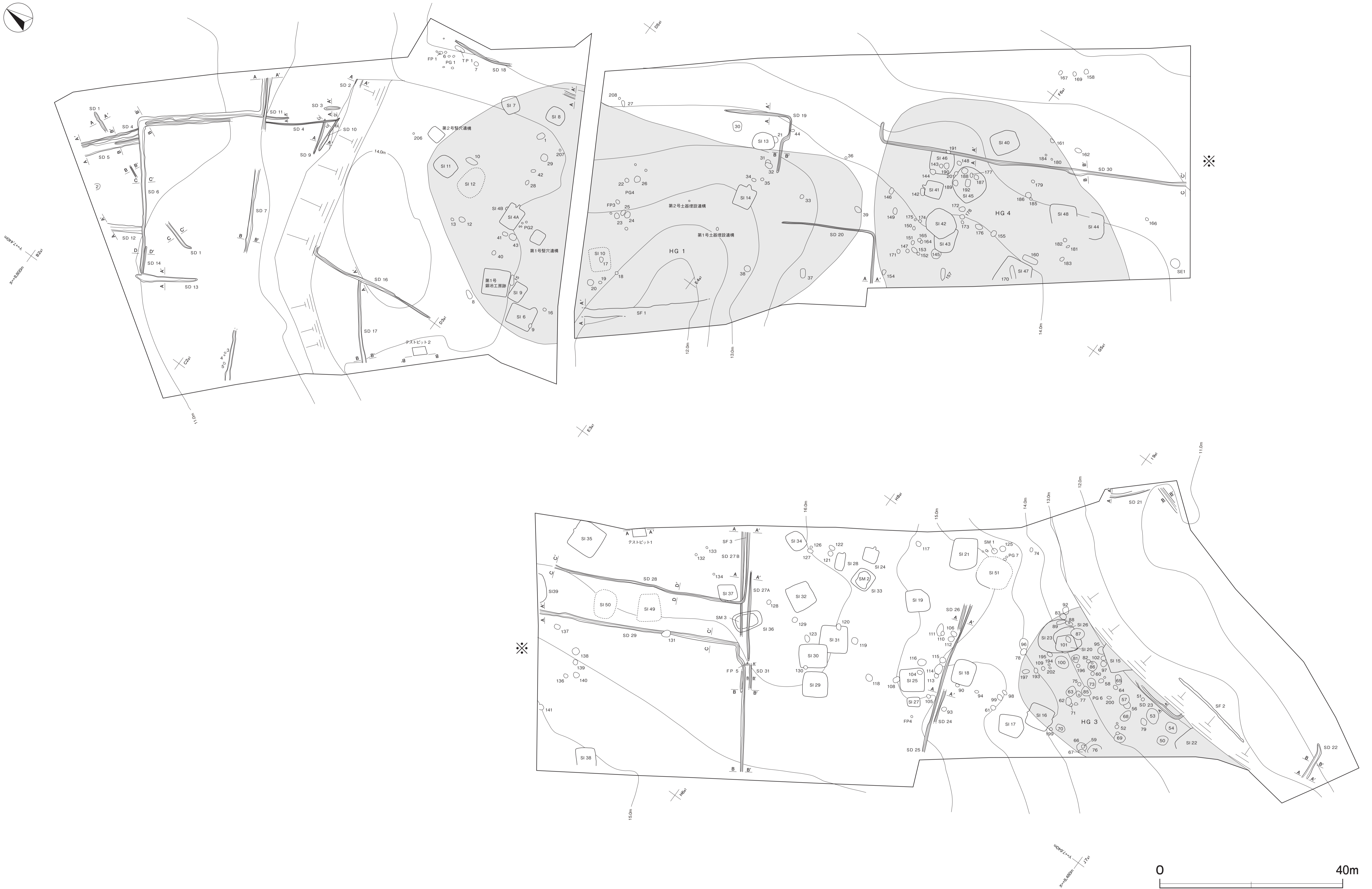
〒310-0853 水戸市平須町1822-122

TEL 029-305-5588

付 図

茨城県教育財団文化財調査報告第 379 集

然山西遺跡遺構全体図



付図 然山西遺跡遺構全体図 (『茨城県教育財団文化財調査報告』第379集)